

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成19年6月

大島商船高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	11
	基準3 教員及び教育支援者	66
	基準4 学生の受入	147
	基準5 教育内容及び方法	196
	基準6 教育の成果	301
	基準7 学生支援等	349
	基準8 施設・設備	397
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	423
	基準10 財務	481
	基準11 管理運営	499

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

- (1) 高等専門学校名
大島商船高等専門学校
- (2) 所在地
山口県大島郡周防大島町大字小松 1091-1
- (3) 学科等構成
- 準学士課程
商船学科 電子機械工学科 情報工学科
 - 専攻科課程
海洋交通システム学専攻
電子・情報システム工学専攻
- (4) 学生数及び教員数(平成 19 年 5 月 1 日現在)

① 学生数

準学士課程

学年	1	2	3	4	5	異性	合計
商船学科	46	38	37	38	40	32	231
電子機械工学科	41	44	42	43	41		211
情報工学科	40	50	37	35	42		204
計	127	132	116	116	123	32	670

専攻科課程

学年	1	2	合計
海洋交通システム学専攻	2	6	8
電子・情報システム工学専攻	7	9	16
計	9	15	24

② 教員数

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
一般科目	6	6	2	0	0	14
商船学科	7	5	1	6	0	19
電子機械工学科	5	4	1	1	0	11
情報工学科	4	3	2	1	1	11
計	22	18	6	8	1	55

2 特徴

・ 沿革

本校は、明治 30 年 10 月 1 日、山口県大島郡立大島海員学校として創立され、明治 34 年に山口県立となり、その後の時代の進展とともに、昭和 14 年 8 月に国立大島商船学校、昭和 26 年 4 月に国立大島商船高等学校と改称、昭和 42 年 6 月 1 日、法律第 18 号「国立学校設置法の一部改正」により、大島商船高等専門学校となった。平成 19 年、学校創立 110 周年、高等専門学校として 40 周年を迎えるに至る。

高等専門学校発足時(昭和 42 年)には、航海学科及び機関学科(2 学科 1 学年 2 クラス、1 クラス定員 40 名、1 学年定員 80 名)でスタート、翌年(昭和 43 年)機関学科を 1 学年 2 クラス(1 学年 3 クラス、1 クラス定員 40 名、1 学年定員 120

名)となる。メカトロニクス分野の発展により昭和 60 年に機関学科の 1 クラスを電子機械工学科に改組し、航海学科、機関学科、電子機械工学科(3 学科 1 学年 3 クラス、1 学年定員 120 名)となる。さらに船員制度近代化と合理化、情報技術の発展に伴い昭和 63 年に航海学科と機関学科を統合して商船学科とし、新たに情報工学科を設立して、商船学科、電子機械工学科、情報工学科(3 学科 1 学年 3 クラス、1 学年定員 120 名)に改組した。平成 16 年 4 月独立行政法人国立高等専門学校機構法により独立行政法人へ移行し、現在に至る。さらに本学における更なる高度な教育の充実を目指して平成 17 年度には商船学科を母体とした海洋交通システム学専攻及び電子機械工学科と情報工学科を母体とした電子・情報システム工学専攻の 2 専攻で構成される専攻科が発足し、平成 19 年 3 月には電子・情報システム工学専攻の第一期生全員が学位(学士)を取得して課程を修了した。

・ 準学士課程教育の特徴

準学士課程 5 年間の教育課程において、低学年では「豊かな教養と広い視野を身に付けるため」の初段階として一般科目を低学年に多く配置、学年が上がるに従って各学科に必要な専門科目を徐々に増やす「深く専門の学芸を教授する」カリキュラム構成にしている。また各学科とも 1 年生より実験実習を実施しており、その内容は専門科目のみならず現代社会において必須である情報教育も含まれ、「職業に必要な能力の育成」の観点に沿ったものとなっている。またインターンシップへの取り組みを重視し、平成 18 年度では多くの学生が参加している。

準学士課程では、課程を卒業する学生の約 20%が進学、80%が就職であり、就職企業先では大半が学科の教育課程に合致した企業であり、進学先では商船学、理工学分野の大学および専攻科であり準学士の教育課程が十分機能していることがわかる。

・ 専攻科課程教育の特徴

専攻科課程では、高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かで技術革新と社会情勢に対応できる高度な海運管理者・研究開発技術者を育成するために設置され、海洋交通システム学専攻(海洋系)では、すでに乗船実習を修了した学生が、海上のみならず陸上の国際物流の管理業務を担うことができる管理技術者の育成を目指したカリキュラム構成としている。また、電子・情報システム工学専攻(工業系)では、メカトロニクス分野および情報分野における研究開発技術者の育成を目指したカリキュラム構成としている。またボランティア活動をカリキュラムに組み入れ、学生のボランティアに対する意識の向上を図っている。さらに座学とは別に校内での専攻科の行事や研究発表会等においては学生自身での企画運営を基本としており、学生には自ら行動することにより自身の社会人としての自覚を持たせる試みを行っている。平成 19 年 3 月には工業系第 1 期生の修了生を輩出し、修了生全員が学位(学士)を取得していることから教育課程が十分機能していることがわかる。

II 目的

「我が国のものづくりの技術基盤を支え、質の高い専門性を有し、創造性に富み、国際感覚を身につけた視野の広い実践的技術者を育成する」ことを養成すべき人材像として、本校では以下に示す教育理念、目標を掲げている。

1. 教育理念

本科5年間（商船学科は5年6ヶ月）における一貫教育によって海洋に育まれる心豊かでたくましい海運技術者並びに創造性豊かな工業技術者の育成を目指す。さらに専攻科では高等専門学校の基礎の上に、更なる高度な専門知識と技術を教授し、技術革新と社会情勢に対応できる海運管理者及び工業技術者を育成することを目指す。

2. 教育目標

2. 1 本校の教育目標

準学士課程及び専攻科課程の学生に対して以下に示す教育目標を掲げ、教育を行っている。

- (1) 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。
- (2) 協同の精神と責任感を培い、集中力・忍耐力を養い、指導者として必要な能力を育成する。
- (3) 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。

2. 2 準学士課程各科の教育目標

(1) 一般教育課程

一般教育課程では「広く社会的視野に立って物事を理解できる教養豊かな国際人となること、また専門的知識や技術を身につけるために必要な基礎知識を修得すること」を教育目標としている。この教育目標を実践するため教養教育に関する目標は、「基礎科目における学力の底上げとその向上」「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の二つを掲げている。前者については、一般理数系科目を特に低学年を重視して配置するとともに、社会に出るための準備段階として、技術者としての倫理を身に着けるための社会系の科目も高学年で開講している。後者については、全学科とも特に英語に重点を置き、オーラルコミュニケーションを含んだ基礎から工業英語に至るまでの教育を行っている。さらに、近年のアジアの発展に着目し、高学年に第二外国語として「中国語」「ハンガル」も取り入れている。

(2) 専門教育課程

専門教育では、基礎知識の習得や実験・実習の重視に加え「創造性豊かで高度な幅広い、ものづくり基盤を支える技術者の養成」を目標としている。各学科とも創造力をつける訓練としての科目として、「創造演習」（商船学科・情報工学科）、「創造設計」（電子機械工学科）を取り入れている。また平成18年度からのカリキュラム改定により高学年に「自学自習」として、その教科の課題のみでなく、時間を有効利用するように自分で工夫して勉強する時間を設置している。本科の集大成として、5学年で行う「卒業研究」において、研究の進め方、論文の書き方及び発表方法など、技術者として社会に出るための準備が体系的に実施されている。

(2-1) 商船学科

商船学科は航海及び機関コースの両コースが設置されており学科の目標として「広い視野と実践的な能力をもつ海技士を育成すること」を掲げている。そのために、船舶の安全運行に必要な専門知識を習得し、実践の場として、練習船で海外や国内各地を訪問しながら、自然や人と触れあい、楽しく充実した航海実習が行われている。

(2-2) 電子機械工学科

電子機械工学科では、学科の目標である「電子電気と機械の2分野を中心とし、これに情報処理・計測制御を

含めた幅広い学習を基礎理論と実験実習との両面から実施する」に沿い、電子・機械分野だけでなく、情報系や制御系の講義科目と実験実習が積極的に開講されている。

(2-3) 情報工学科

情報工学科では、コンピュータや情報処理に関心を持っている者に情報処理と情報通信の原理と応用について系統的に学べる環境を提供している。学科の目標では「豊富な IT 技術をもとにした視野の広い応用能力の養成、グループリーダとしてのコミュニケーションとプレゼンテーション能力の養成、柔軟で創造的なシステムデザイン能力の養成」を掲げ、高度情報通信技術社会に対応できるエンジニアを育成するための対応が取られている。

以上のように、本校の準学士課程3学科は、学科ごとにそれぞれの特色を出しつつ、本校の教育に関する目的を達成するための目標を掲げ、教育を行っている。

2. 3 専攻科の教育目標（専攻別、共通を含む。）

専攻科では本校教育目標を基礎として以下の教育目標を掲げ、優れた専門性と豊かな人間性を有する海運管理者と工業技術者の育成を目指している。

(1) 海洋交通システム学専攻

- 海洋を中心とした国際物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成

(2) 電子・情報システム工学専攻

- 電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成

(3) 一般教養課程及び専門共通科目

- IT 教育により、高度なコンピュータ援用能力を持つ技術者の育成
- 国際化教育により、語学力や文化的教養を持つ技術者の育成
- 福祉や環境に常に関心を持つ技術者の育成

以上のように、本校の専攻科課程2専攻は、専攻ごとにそれぞれの特色を出しつつ、本校の教育に関する目的を達成するための目標を掲げ、教育を行っている。

2. 4 卒業・修了時に達成される基本的な成果

本校の教育課程は、準学士課程および専攻科課程の教育目標に沿って系統的に配置されており、準学士課程入学より、5年生を卒業するまでの5年間（商船学科は5年6ヶ月）の学修と専攻科2年間の学修によって以下の基本的な成果を身につけることができる。

(1) 準学士課程

一般教育課程では、広く社会的視野に立って物事を理解できる能力、コミュニケーション能力、専門的知識や技術を身につけるために必要な基礎知識、専門教育課程では一般教育課程を基礎として、安全に関する意識（商船学科）、実験・実習の重視及びものづくり基盤を支える創造性、プレゼンテーション能力、IT を活用する能力（電子機械工学科、情報工学科）などを身につけることができる。

(2) 専攻科課程

準学士課程を基礎として、専門科目の履修より発展的な専門知識・技術を身につけることができる。特別研究、特別実験および演習の履修や研究成果の校外での発表により創造的研究開発能力を身につけることができる。またボランティア体験を通して地域への社会貢献や活動の意義を体得できる。

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①: 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

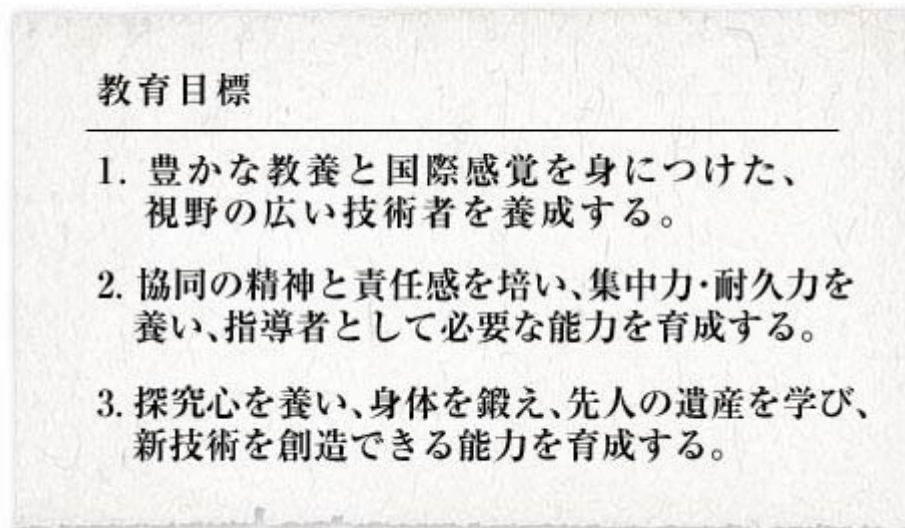
(観点に係る状況)

本校は、1897年大島郡立海員学校として設立されて以来110年の歴史の中で、「海洋に育まれる心豊かでたくましい海運技術者並びに創造性豊かな工業技術者の育成をめざす」という教育理念のもと、三カ条の教育目的(目標)

1. 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。
2. 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。
3. 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。

を教育目標として掲げている。これら三カ条の教育目標は全ての教室・実験室・会議室等の学校内の施設に掲示するとともに(資料1-1-①-1)、教職員の名札の裏に印刷し常に参照出来るようにしている。

資料 1-1-①-1



出典：本校ホームページ

この教育目標は、本校の教育理念として平成16年4月から5カ年間の中期計画に明確に定めている(資料1-1-①-2)。また、この教育目標に基づく養成すべき人物像「我が国のものづくりの技術基盤を支え、質の高い専門能力を有し、創造性に富み、国際感覚を身につけた視野の広い実践的技術者を養成する。」も中期計画の中に明示している。更に、準学士課程における一般科目、商船学科、電子機械工学科、情報工学科の教育目標を資料1-1-①-3～資料1-1-①-6にそれぞれ示す。また、専攻科課程の教育目標を資料1-1-①-7に示す。これらは、学校概要やシラバスに明記している。

資料1-1-①-2

学校全体

○教育理念

海洋に育まれる心豊かでたくましい海運技術者並びに創造性豊かな工業技術者の育成をめざす。

○教育目標

1. 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。
2. 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。
3. 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。

○養成すべき人材像

我が国のものづくりの技術基盤を支え、質の高い専門能力を有し、創造性に富み、国際感覚を身につけた視野の広い実践的技術者を養成する。

出典：大島商船高専第1期5カ年中期計画

資料 1 - 1 - ① - 3

準学士課程 一般科目教育目標

○教育目標

- 広く社会的視野に立って物事を理解できる教養豊かな国際人となること。
- 専門的知識や技術を身につけるために必要な基礎知識を修得すること。

出典 本校学校概要

資料 1 - 1 - ① - 4

準学士課程 商船学科

○教育目標

- 広い視野と実践的な能力をもつ海技士を育成すること。

出典 本校学校概要

資料 1 - 1 - ① - 5

準学士課程 電子機械工学科

○教育目標

- 電子電気と機械の2分野を中心とし、これに情報処理・計測制御を含めた幅広い学習を基礎理論と実験実習の両面から実施する。

出典 本校学校概要

資料 1 - 1 - ① - 6

準学士課程 情報工学科

○教育目標

- 豊富な情報技術をもとにした視野の広い応用能力の養成
- グループリーダーとしてのコミュニケーションとプレゼンテーション能力の養成
- 柔軟で創造的なシステムデザイン能力の養成

出典 本校学校概要

出典 本校シラバス

資料 1 - 1 - ① - 7

専攻科課程

○教育目標(主目標)

- 優れた専門性と豊かな人間性を有する高度な海事技術者と実践的開発技術者の育成

○海洋交通システム学専攻の教育目標(副目標)

- 海洋を中心とした国際物流管理分野および海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成

○電子・情報システム工学専攻の教育目標(副目標)

- 電子情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成

○一般科目及び専門共通科目の教育目標(副目標)

- IT教育により、高度なコンピュータ援用能力を持つ技術者の育成
- 国際化教育により、語学力や文化的教養を持つ技術者の育成
- 福祉や環境に常に興味を持つ技術者の育成

出典 本校シラバス

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育目的を教育理念として中期計画の中に明確に定めている。また、養成すべき人材像も明示している。

以上のことから、本校は高等専門学校としての目的を明確に定めている。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の教育目的は、(1)「豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。」(2)「協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。」(3)「探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。」からなる三カ条である。

これらの教育目的は、学校教育法第 70 条の 2 に掲げる「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養成する。」という目的に沿うものである。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育目的を明確に定めており、これらは学校教育法第 70 条の 2 に掲げる「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養成する。」という目的に外れるものではない。

以上のことから、本校の教育目的は学校教育法の定めにはずれるものではない。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

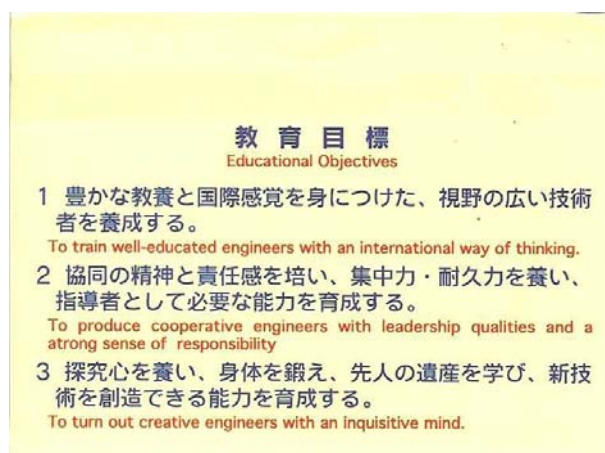
本校では、教育目的を、学生便覧、シラバス、学校概要等に明記しており、教職員及び学生に配布している（資料 1-2-①-1）。また、教育目的は、各教室・事務室・会議室等に掲示し、周知を図っている。

（分析結果とその根拠理由）

教育目的を、学生便覧等の冊子を教職員及び学生に配布し、また、教育目的は、各教室・事務室・会議室等に掲示し、周知を図っている。

以上のことから、本校では、教育目的が、学校の構成員に周知されている。

資料 1-2-①-1



（出典：教職員用名札裏面）

観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校では、教育目的を、学校概要及びホームページに明記している。また、中学校訪問（平成16年度253校，平成17年度179校，平成18年度197校），オープンキャンパス（平成16年度参加校延べ87校393人，平成17年度参加校延べ76校359人，平成18年度参加校延べ83校487人），企業訪問等で学校概要を配布し教育目的を説明している。

(分析結果とその根拠理由)

教育目的を、ホームページにより社会に公表している。また、中学校訪問，オープンキャンパス等で学校概要を配布・説明することにより，教育目的の周知を図っている。

以上のことから，本校では教育目的が社会に広く公表されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育目的を，各教室・ゼミ室・事務室等に掲示し，学生及び教職員に周知を図っている。特筆すべき点は，教職員の名札の裏に教育目的を印刷し，常に参照出来るようにしている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 1 の自己評価の概要

教育目的が記載された学生便覧などの冊子を教職員及び学生に配布している。また，教育目的は，各教室などに掲示しており，教育目的が，本校の構成員に周知されている。

ホームページにより，教育目的を社会に公表している。また，中学校訪問，オープンキャンパスなどで学校概要を配布・説明することにより，それらの周知を図っており，本校の教育目的が，社会に対して広く公表されている。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動等を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか

(観点到係る状況)

本校における教育・研究活動を遂行するために必要な資産は、基準8-1-①施設・設備に記載のとおり有しており、平成19年3月末現在におけるその資産現在高は、(資料10-1-①-1)のとおりである。

教育活動等を遂行するための資産は有している。一部の実験設備で旧式のため高い工作加工精度が望めないものがある(資料10-1-①-2)。時代に対応した先端技術の性能を持つ実験設備を導入する必要がある。

資料10-1-①-3に示すとおり、施設及び設備等の更新、整備、改修工事の要求をしている。一部の施設設備は予算措置されたが、要望どおりに措置されないのが現状である。

次に、本校における教育・研究を支える運営・事業費等の収入予算及び支出予算の推移は、資料10-1-①-4のとおりである。

地域社会への貢献や自己収入の増収を図るため、共同研究、受託研究等の産学連携等収入及び奨学寄附金の受け入れによる増収について工夫する必要がある。

なお、平成16年度から独立行政法人に移行したため、それまでの国立学校特別会計による予算配分から、収支差の補填の考え方を基本とした運営費交付金による予算措置となった。

学校内における配分や執行については、基本的に弾力的な執行が可能となったが、平成17年度運営費交付金から特定の人件費等を除き1%(効率化係数)のコスト節減を工夫する必要がある。本校自らの判断と責任により今後、運営の合理化、効率化を更に進める必要がある。

本校においては、(資料10-1-①-5)のとおり、業務の効率化、経費の節減・節約に努めている。

債務については、国立高等専門学校機構本部からの年度当初運営費交付金、予算要求による運営費交付金及び授業料等の自己収入による財源の範囲内での支出執行計画を行っており、債務過大となっていない。

資料 10-1-①-1

資産現在高(物品)

区 分	16年度末	17年度末	18年度末	備 考
個 数	74	80	95	
金 額 (千円)	159, 688	114, 952	151, 809	

(出典 資産台帳)

資産現在高(土地, 建物外) 資料 10-1-①-1 (続き)

	16年度末	17年度末	18年度末
(校舎)			
土地	112,540.00	112,540.00	112,540.00
延 [㎡] 千円	1,688,100	1,688,100	1,688,100
立木竹	972	972	1,012
本 千円	631	509	472
建物	28,681.54	28,681.54	28,681.54
延 [㎡] 千円	1,266,530	1,170,784	1,075,039
建物付属設備	368,591	263,736	142,319
構築物	218,549	152,265	124,694
千円 (立木竹を除く)			
汽船	2	2	2
隻 トン数	242	242	242
千円	355,777	234,175	112,573
雑船	24	26	26
隻 千円	4,355	4,969	3,287
校舎計	3,902,533	3,514,538	3,146,484
千円			

(出典 資産台帳)

実験実習棟に設置されている老朽化設備

資料 10-1-①-2

設備名称	メーカー他	購入年度	支障内容	使用時間
旋盤	般若鉄工所 HMA-20KA型	昭和36年度	老朽により高い工作加工精度が望めない	96H/年
旋盤	ワシノ機械 RS-55型	昭和41年度	老朽により高い工作加工精度が望めない	96H/年

(出典 実習工場設備状況調査抜粋)

基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校には商船に関する学科として、商船学科を置き、工業に関する学科として、電子機械工学科、情報工学科を設置している（資料2-1-①-1～2）。商船学科には航海コースと機関コースの両コースが設置されており、1級～3級海技士として必要な資格を取得するための教育課程がある（資料2-1-①-3～4）。4年6月の席上課程を修了すると、独立行政法人航海訓練所の練習船に1年間乗船して、国内外の各地を訪問しながら楽しく充実した実習が体験できる。電子機械工学科は、電子電気と機械の2分野を中心として、これに情報処理・計測制御を含めた幅広い学習を基礎理論と実験実習との両面から実施している（資料2-1-①-5）。また、情報工学科は、高度情報通信技術社会に対応すべく、情報基礎からシステムデザインに至る範囲を取り入れた学習内容となっている（資料2-1-①-6）。教育課程は、授業科目及び特別活動により編成し、専門科目を学ぶ上での十分な基礎学力を養うことを目的としている。一般科目では人文・社会系科目、自然科目系科目、保健・体育、芸術、外国語の広い分野を、高等学校、大学教養課程のレベルまで、専門科目との有機的な関連を保ちながら5年間の一貫教育で履修する（資料2-1-①-7～8）。特に、専門科目の基礎となる数学と外国語に多くの時間を割り当てている。そのうち、国際共通語としての英語は語学演習室（LL）の活用、外国人講師による英会話の実施などにより充実した教育を行っている。

本校では「1.豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。2.協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。3.探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。」という教育目標の基に、学科ごとに教育目標を定めている（資料2-1-①-9）。

（分析結果とその根拠理由）

商船学科は実験実習を多く取り入れて理解を深め、基礎的及び応用的な専門科目を広い分野にわたって履修し、かつ卒業研究を通じて課題に挑戦し解決していくことにより、実践的な能力が備わるよう開講されている。電子機械工学科は、応用能力の高い、実践的な次代のメカトロ技術者の育成を目指している。情報工学科は、高度ICT社会に対応できるエンジニアの育成を目標としており、計算機を利用すべき各分野の仕事内容を理解する能力を身につけさせている。また教育課程では、豊かな創造力、高い教養を身につけた、協調性に富む情操豊かな技術者としての資質を身につけるよう組み立てられていることから、豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する教育となっている。以上のことから、各学科は、学校及び学科の教育目標に沿って教育を実施しており、学科の構成は、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

本校は、豊かな人間性を持ち、工学の基礎を十分理解させ、優れた海技技術者や工業技術者を育成するための高等教育機関です。

学科・入学定員・修業年限は、下表のとおりで、卒業すると準学士の称号が授与されます。

本科学科名		入学定員		修業年限
商船学科	航海コース	40名	20名程度	席上課程（4年6月） 実習課程（1年） （航海訓練所大型練習船） } 5年6月
	機関コース		20名程度	
電子機械工学科		40名		5年
情報工学科		40名		5年

（出典：平成19年度学校案内Q&A）

 学 科 / DEPARTMENTS

●一般科目 GENERAL EDUCATION DIVISION

高専の使命は、高度な知識と幅広い実践力を持った技術者を育成することである。これからの技術者に望まれるものは、専門分野に関する技術とともに、豊かな創造力、高い教養を身につけた、協調性に富む情操豊かな人間性である。

一般科目はこのような技術者としての資質を身につけるとともに、専門科目を学ぶ上での十分な基礎学力を養うことを目的としている。そのため、人文・社会系科目、自然科学系科目、保健・体育、芸術、外国語の広い分野を、高等学校、大学教養課程のレベルまで、専門科目との有機的な関連を保ちながら5年間の一貫教育で履修する。

特に、専門科目の基礎となる数学と外国語に多くの時間を割り当てている。そのうち、国際共通語としての英語は語学演習室（LL）の活用、外国人講師による英会話の実施などにより充実した教育を行っている。

Producing practical engineers is the primary object of the colleges of (maritime) technology. Today in the age of internationalization, they are expected so much to develop, besides a profound knowledge of their major field, refined and well-rounded personalities.

General Education Division gives the students fundamental knowledge of specialized subjects and helps them cultivate some other qualities for excellent engineers.

In the subjects of general education, more time is allotted to the learning of mathematics, a basis for further studies of technical subjects, and English, the most popular language in the world.

●商船学科 SHIPPING TECHNOLOGY DEPARTMENT

最近の船舶は、技術革新の進展で超自動化設備が搭載され、安全な運航を行なうには高度な知識や技能の修得が必要とされるようになってきた。このため、商船学科は実験実習を多く取り入れて理解を深め、基礎的及び応用的な専門科目を広い分野にわたって履修し、かつ卒業研究等を通じて課題に挑戦し解決していくことにより、実践的な能力が備わるよう開講されている。

本学科には、航海及び機関の両コースが設置され、高学年に進むと各コースの分野をより深く学習することになる。航海コースは、船長、航海士として必要とされる1級～3級海技士（航海）として必要な資格を得るための教育課程を持っている。また、機関コースは、機関長、機関士として必要とされる1級～3級海技士（機関）として必要な資格を取得するための教育課程を持っている。

4年6月の席上課程を修了すると、独立行政法人航海訓練所の練習船に1年間乗船して、国内外の各地を訪問しながら楽しく充実した実習が体験できる。

Technological innovation has brought about rapid modernization in the shipping world. Shipping Technology Department makes it the ultimate aim to give its students enough knowledge and technical skills for highly-automated vessels.

The Department is composed of two courses: Nautical Science Course and Marine Engineering Course. Both courses have their own teaching programs for the students to obtain the certificate of qualification for Maritime Officer or Maritime Engineer.

After four and a half years of study at college, the students take one year of practice cruises on the ocean-going training ships of National Institute for Sea Training.

The graduates of this department, when they try for the qualification for 3rd Grade Maritime Officer or Maritime Engineer, have the privilege of exemption from the written examination. Oral test alone is required of them.

(出典：平成18年度学校概要)

●電子機械工学科 ELECTRONIC-MECHANICAL ENGINEERING DEPARTMENT

最近における電子技術・コンピュータ技術の進歩は著しいものがあり、これが機械技術や計測制御技術と結びつき、複合化されることによって機械装置の機能が大幅に向上している。ロボットはその代表的な存在である。

さらに通信伝送技術と組み合わせられることにより、各種の機械装置がネットワーク化され、有機的・組織的な生産活動が展開されつつある。

本学科は、このような時代に対応するため電子電気と機械の2分野を中心として、これに情報処理・計測制御を含めた幅広い学習を基礎理論と実験実習との両面から実施することにより、応用能力の高い、実践的な次代のメカトロ技術者の育成を目指している。

The development of electronics and computer technology in recent years is quite remarkable. With the combination and unification of such high technology and mechanical engineering, various machines have surprisingly improved in function. The robot is one of the typical products.

Another combination with telecommunication technology, which has formed a network of machinery, is developing organic and systematic production activities.

The curriculum is thus prepared for the students to make a chief study of the two fields: "electricity and electronics" and "mechanism and mechanics". Information processing and other related subjects are also taught, from both theoretical and practical sides, as basic essentials to the electronic-mechanical engineers in the new era.

●情報工学科 INFORMATION SCIENCE & TECHNOLOGY DEPARTMENT

わが国の産業構造は、労働集約型重工業から知識集約型産業への変革が必要とされている。このためには、個人や企業が持っている知識・情報を正確かつ迅速に交換する「情報通信システム」と情報を種々の目的に沿って分析評価する「情報処理システム」の一層の充実が不可欠であるが、これらのシステムを設計、製作あるいは運用する情報技術者が求められているのが現状である。

本校の情報工学科は、以上の観点から、電子計算機工学のみならず計算応用技術を修得させ、計算機製造部門と計算機利用者との間の良きインターフェイスの役割を担い得る情報技術者の養成を目標としており、計算機を利用すべき各分野の仕事内容を理解する能力を身につけさせるために、工学基礎科目あるいは企業経営に関連する経営工学を取り入れた学習内容となっている。

The Japanese industrial structure is becoming increasingly knowledge-intensive. In a highly informationalized society, "communication systems" for exchanging information and "data processing systems" for analyzing it are among the first requirements of many fields of industry. At present, however, there is a great demand of systems engineers with technical knowledge of systems design and analysis.

This department, introducing computer science as well as computer engineering, aims at training efficient computer engineers who take the role of "interface" between hardware and software. The students are thus required to gain theoretical knowledge and master applied techniques of computer technology.

(出典：平成18年度学校概要)

専門科目 Specialized Subjects (商船学科航海コース Nautical Science Course)								
	授業科目 Subjects	単位数 Number of Credits	学 年 別 配 当 Credits of Grades					
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
必修科目 Required Subjects	共通 E l e c t i v e	応用数学 Applied Mathematics	2				2	
		情報処理 Information Processing	4	2	2			
		工業力学 Engineering Mechanics	2			2		
		電気・電子基礎 Electromagnetics	4		2	2		
		制御工学 Control Engineering	2				2	
		船舶工学 Marine Architecture	1				1	
		設計製図 Design and Drawing	2		2			
		航海学概論 Basic Seamanship	2	1	1			
		船用機関学概論 Basic Marine Engineering	1		1			
		操艇実習 Practice of Boat Handling	3	3				
		実験実習 Experiments and Practice	8		2	3	3	
		校内練習船実習 Oshima-maru Practice	4	1	1	1	1	
		創造演習 Exercises for Graduation Research	1				1	
	卒業研究 Graduation Studies	4					4	
	コース別 C o u r s e	測位論 Position Fixing System	4			2		2
		航路論 Coasting and Ocean Route	3				2	1
		航海計測学 Nautical Instrument	5			1	2	2
		海洋気象学 Marine Meteorology	2			2		
		船舶整備論 Shipboard maintenance	3			1	2	
船舶載貨論 Cargo Management		3				2	1	
船舶運動論 Ship Maneuvering		4				4		
船舶安全学 Marine Safety		3				2	1	
航海法規 Navigational Laws	2			2				
海事法規 Maritime Laws	3				2	1		
必修科目計 Total of Required Subjects		72	7	11	16	26	12	
選択科目 Elective Subjects	共通 E l e c t i v e	物流システム Logistics System	2				2	
		船舶衛生学 Ship Medical Practice	2.5				2	0.5
		電気・電子工学特論 Electric and Electronic Engineering (Advanced)	1					1
	コース別 C o u r s e	計算機科学 Computer Science	1					1
		システム制御工学 System Control Engineering	1					1
		信頼性工学概論 Reliability Engineering	1					1
		海運論 Merchant Shipping	1					1
		オーラルコミュニケーション Oral Communication	1					1
		国際物流論 International Logistics	1					1
		インターンシップ Internship	2				1	1
		無線法規 Radio regulations	1.5				1	0.5
		交通工学 Transport Engineering	2				2	
		気象特論 Meteorology (Advanced)	2				2	
	流体力学 Hydrodynamics	2				2		
	航路計画論 Marine Traffic Planning	1					1	
	通信工学 Communication Engineering	1					1	
	海事法規特論 Maritime Laws (Advanced)	1					1	
開設科目計 Total of Elective Subjects		24				12	12	
履修科目計 Total of Elective Subjects to be Completed		8				4	4	
専門科目計 Total of Technical Subjects		80	7	11	16	30	16	
一般科目計 Total of Liberal Arts		79	26	22	17	10	4	
合 計 Grand-Total of Credit Hours		159	33	33	33	40	20	
大型練習船実習 Shipboard Training under the Institute for Sea Training			上記単位数以外で12月実施する。					

(出典：平成18年度学校概要)

専門科目 Specialized Subjects (商船学科機関コース Marine Engineering Course)									
	授業科目 Subjects	単位数 Number of Credits	学 年 別 配 当 Credits of Grades						
			1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th		
必修科目 Required Subjects	共通 E l e c t i v e	応用数学	Applied Mathematics	2			2		
		情報処理	Information Processing	4	2	2			
		工業力学	Engineering Mechanics	2		2			
		電気・電子基礎	Electromagnetics	4		2	2		
		制御工学	Control Engineering	2				2	
		船舶工学	Marine Architecture	1				1	
		設計製図	Design and Drawing	2		2			
		航海学概論	Basic Seamanship	2	1	1			
		船用機関学概論	Basic Marine Engineering	1		1			
		操艇実習	Practice of Boat Handling	3	3				
		実験実習	Experiments and Practice	8		2	3	3	
		校内練習船実習	Oshima-maru Practice	4	1	1	1	1	
		創造演習	Exercises for Graduation Research	1				1	
		卒業研究	Graduation Studies	4				4	
		コース別 Courses	材料力学	Strength of Materials	4				4
			流体力学	Hydrodynamics	2				2
			工業材料	Materials of Machines	1				1
	熱力学		Thermodynamics	2			2		
	燃焼工学		Combustion Engineering	1				1	
	電気・電子工学		Electric and Electronic Engineering	4				4	
	機械設計		Mechanical Design	4			1	1	2
	計測工学		Instrumentation Engineering	1				1	
	内燃機関学		Internal-Combustion Engine	4			2	2	
蒸気機関学Ⅰ	Steam Engine I		2			2			
蒸気機関学Ⅱ	Steam Engine II		3				1	2	
補助機械工学	Auxiliary Machinery		2			1	1		
冷凍・空調工学	Refrigeration and Air Conditioning		1					1	
燃料・潤滑工学	Fuel Lubricant Engineering		1					1	
海事法規	Maritime Laws		1					1	
必修科目計			Total of Required Subjects	73	7	11	16	26	13
選択科目 Elective Subjects	共通 E l e c t i v e	物流システム	Logistics System	2			2		
		船舶衛生学	Ship Medical Practice	2.5			2	0.5	
		電気・電子工学特論	Electric and Electronic Engineering (Advanced)	1				1	
		計算機科学	Computer Science	1				1	
		システム制御工学	System Control Engineering	1				1	
		信頼性工学概論	Reliability Engineering	1				1	
		海運論	Merchant Shipping	1				1	
		オーラルコミュニケーション	Oral Communication	1				1	
		国際物流論	International Logistics	1				1	
		インターンシップ	Internship	2				1	1
	コース別 Courses	計測工学特論	Instrumentation Engineering (Advanced)	2				2	
		冷凍空調工学特論	Refrigeration & Air Conditioning (Ad.)	2				2	
		電気機器	Electrical Machinery and Apparatus	2				2	
		補助機械工学特論	Auxiliary Machinery (Advanced)	1				1	
		蒸気機関学特論	Steam Engine (Advanced)	1				1	
		内燃機関学特論	Internal Combustion Engine (Advanced)	1				1	
		エネルギー管理工学	Energy Management	1				1	
開設科目計		Total of Elective Subjects	23.5				11	12.5	
履修科目計		Total of Elective Subjects to be Completed	7				4	3	
専門科目計		Total of Technical Subjects	80	7	11	16	30	16	
一般科目計		Total of Liberal Arts	79	26	22	17	10	4	
合 計		Grand-Total of Credit Hours	159	33	33	33	40	20	
大型練習船実習 Shipboard Training under the Institute for Sea Training				上記単位数以外で12月実施する。					

(出典：平成18年度学校概要)

専門科目 Specialized Subjects (電子機械工学科 Electronic-Mechanical Engineering Department)							備考	
授業科目 Subjects	単位数 Number of Credits	学 年 別 配 当 Credits of Grades						
		1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th		
デザイン基礎	Basic Design	2	2					
創造設計	Introduction to Creative Design	2		2				
機械工作	Mechanical Technology	2		2				
材料学	Engineering Materials	2			2			
機械設計	Mechanical Design	1			1			
工業力学	Engineering Mechanics	2			2			
材料力学	Strength of Materials	2				2		
機構学	Theory of Mechanism	2				2		
熱流体力学	Thermo-Fluid Dynamics	2				2		
制御工学	Control Engineering	2				2		
産業電子機械	Industrial Electronic-Machines	1				1		
計測工学	Instrumentation Engineering	2				2		
機械力学	Dynamics of Machinery	1					1	
知能情報工学	Intelligent Informatic System Engineering	2					2	
電気基礎	Fundamentals of Electromagnetics	2		2				
電磁気学Ⅰ	Electromagnetics I	2			2			
電磁気学Ⅱ	Electromagnetics II	2				2		
電気回路	Electric Circuit	2			2			
電子回路	Electronic Circuit	2			2			
デジタル回路	Digital Circuit	2				2		
デジタル信号処理	Digital Signal Processing	2				2		
マイコン基礎	Standard Microcomputer	2				2		
マイコン応用	Computer Organization	2					2	
計算機システム	Computer Systems	2					2	
センサ画像工学	Sensor Engineering	2					2	
情報リテラシ	Information Literacy	2	2					
プログラミング基礎	Basic Programming	2		2				
プログラミング応用	Applied Programming	2			2			
応用物理	Applied Physics	2					2	
応用数学	Applied Mathematics	2				2		
工業英語	Technical English	2					2	
電子機械演習	Mechatronic-electronic Practice	2					2	
工学セミナー	Engineering Seminar	1				1		
実験実習	Engineering Experiments	8	2	2	2	2		
卒業研究	Graduation Studies	8					8	
必修科目計	Total of Required Subjects	78	6	10	15	24	23	
選 択 科 目	工業材料	Materials of Machines	1				1	5年間の 修得単位 数が167単位 以上となる ように選択 科目を選択 履修する こと。
	機械設計演習	Exercises of Machine Design	1				1	
	数値解析	Numerical Analysis	1				1	
	情報処理演習	Practice in Information Processing	1				1	
	電気機器	Electrical Machinery and Apparatus	1				1	
	システム制御工学	System Control Engineering	1				1	
	熱機関	Heat Engines	1				1	
	電子機械特論Ⅰ	Advanced Course I Mechatronic-electronic	1				1	
	電子機械特論Ⅱ	Advanced Course II Mechatronic-electronic	1				1	
	電子機械特論Ⅲ	Advanced Course III Mechatronic-electronic	1				1	
	超電導工学	Superconducting Engineering	1				1	
	電子応用	Applied Electronics	1				1	
	デザイン応用	Advanced Design	1				1	
	熱流体工学	Thermo-Fluid Engineering	1				1	
	ロボット工学Ⅰ	Robot Engineering I	1				1	
	ロボット工学Ⅱ	Robot Engineering II	1				1	
	通信システム	Communication Systems	1				1	
	デジタル画像処理	Digital Image Processing	1				1	
	インターンシップ	Internship	2				1	
	開設科目計	Total of Elective Subjects	20				5	
履修科目計	Total of Elective Subjects to be Completed	10				2	8	
専門科目計	Total of Technical Subjects	88	6	10	15	26	31	
一般科目計	Total of Liberal Arts	79	26	22	17	10	4	
合 計	Grand-Total of Credit Hours	167	32	32	32	36	35	

(出典：平成18年度学校概要)

専門科目 Specialized Subjects (情報工学科 Information Science & Technology Department)		備考					
授業科目 Subjects	単位数 Number of Credits	学 年 別 配 当 Credits of Grades					
		1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
コンピュータリテラシ	Information Literacy	2					
情報工学概論	Intoroduction to Information Technology	2		2			
情報数学	Information Mathematics	2			2		
情報理論	Information Theory	2			2		
データ構造とアルゴリズム	Date Structure and Algorithm	2			2		
数理計画法	Mathematical Planning	2			2		
オペレーションズリサーチ	Operations Research	2				2	
プログラミングⅠ	Programming Language I	2	2				
プログラミングⅡ	Programming Language II	2		2			
プログラミングⅢ	Programming Language III	2			2		
システムプログラム	System Program	2				2	
計算機アーキテクチャⅠ	Computer Architecture I	2			2		
計算機アーキテクチャⅡ	Computer Architecture II	2			2		
オペレーティングシステム	Operating System	2			2		
データベース	Data Base	2			2		
ネットワークアーキテクチャ	Network Architecture	2				2	
ソフトウェア工学	Software Engineering	2				2	
信号処理	Signal Processing	2				2	
画像工学	Image Processing Technology	2		2			
コンピュータグラフィックス	Computer Graphics	2			2		
電気基礎・電気回路	Electric Circuits Technology	2		2			
アナログ電子回路	Analog Electronics circuits technology	2			2		
デジタル電子回路	Digital Electronics circuits technology	2			2		
通信工学	Communication Technology	2			2		
制御工学	Control Technology	2			2		
統計学	Statistics	2			2		
応用数学Ⅰ	Applied Mathematics I	2			2		
応用物理学Ⅰ	Applied Physics I	2			2		
技術英語	Technical English	2				2	
情報工学演習	Information Engineering Practice	4		2		2	
創造演習	Creation and Research Practice	1				1	
実験実習	Engineering Experiments	8	2	2	2	2	
卒業研究	Graduation Studies	8				8	
必修科目計	Total of Required Subjects	79	6	10	16	25	22
選択科目 Subj elect ive	応用物理学Ⅱ	Applied Physics II	2			2	
	生産管理	Production Control	2			2	
	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics II	2				2
	数値計算	Numerical Computation	2				2
	情報ネットワーク	Information Network	2				2
	コンピュータ解析法	Computer Analysis Method	2				2
	パターン認識	Pattern Recognition	2				2
	デジタル・アナログ集積回路	Digital & Analog Integrated circuits technology	2				2
	制御システム工学	System Control Engineering	2				2
	CAD/CAM	Computer Aided Design/Computer Aided Manufacture	2				2
	弾性体力学	Physics of Elasticity	2				2
	信頼性工学	Reliability Engineering	2				2
	情報工学特論Ⅰ	Advanced Course of Information Science I	1				1
	情報工学特論Ⅱ	Advanced Course of Information Science II	1				1
情報工学特論Ⅲ	Advanced Course of Information Science III	1				1	
インターンシップ	Internship	2				1	1
開設科目計	Total of Elective Subjects	29				5	24
履修科目計	Total of Elective Subjects to be Completed	9				2	7
専門科目計	Total of Technical Subjects	88	6	10	16	27	29
一般科目計	Total of Liberal Arts	79	26	22	17	10	4
合 計	Grand-Total of Credit Hours	167	32	32	33	37	33

(出典：平成18年度学校概要)

教育課程/Curriculum

一般科目 General Education Division (商船学科 Shipping Technology Department)							備考
授業科目 Subjects	単位数 Number of Credits	学年別配当 Credits of Grades					
		1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
必修科目 Required Subjects	国語 Japanese	8	4	2	2		
	地歴 Geography and History	世界史 World History	2	2			
		地歴Ⅰ Geography and History I	1		1		
		地歴Ⅱ Geography and History II	1		1		
	公民 Civics	2			2		
	現代社会 Contemporary Society	2					
	数学 Mathematics	18	6	6	6		
	物理 Physics	4	2	2			
	化学 Chemistry	4	2	2			
	理科総合 Integrated Science	1	1				
	英語 English	英語講読 English Reading	9	3	3	3	
		英語演習 English Seminar	4	2	2		
		EC English Conversation	2	1	1		
		英語表現 English Expression	2			2	
		現代英語 Advanced English	2				2
	保健体育 Health & Physical Education	9	2	2	2	2	1
	芸術 Art	1	1				
法学 Law	1				1		
哲学 Philosophy	1				1		
外国語演習 Navigation English	3				2	1	
必修科目計 Subtotal of Required Subjects	75	26	22	17	8	2	
選択科目 Elective Subjects	日本文学 History of Japanese Literature	2				2	4.5年生選択科目の 修得単位数は、最低2 単位、各年度2単位ま でとする
	日本史概論 Outline of Japanese History	2				2	
	数学概論 Elements of Mathematics	2				2	
	英語特論Ⅰ English Seminar I	2				2	
	英語特論Ⅱ English Seminar II	2				2	
	日本語学 Japanese Linguistics	2				2	
	化学特論 Advance Course of Chemistry	2				2	
	企業と法 Corporate Legal Affairs	2				2	
	アメリカ文学概論 American Literature	2				2	
	開設科目計 Total of Credits Offered	18				10	
履修科目計 Total of Elective Subjects to be Completed	4				2	2	
一般科目計 Total of Liberal Arts	79	26	22	17	10	4	

音楽又は美術を選択

航海・機関英語

特別活動 Special Curricular Activity	単位時間 Credit Hours	学年別配当 Credit Hours by Grades				
		1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th
	90単位時間以上	90単位時間以上				

(出典：平成18年度学校概要)

資料2-1-①-8

一般科目 General Education Division (電子機械工学科・情報工学科共通 Electronic-Mechanical Engineering Department, Information Science & Technology Department)							備考
授業科目 Subjects	単位数 Number of Credits	学年別配当 Credits of Grades					
		1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	
必修科目 Required Subjects	国語 Japanese	8	4	2	2		
	地歴 Geography and History	世界史 World History	2	2			
		地歴Ⅰ Geography and History I	1		1		
	地歴Ⅱ Geography and History II	1		1			
	公民 Civics	2			2		
	数学 Mathematics	18	6	6	6		
	物理 Physics	4	2	2			
	化学 Chemistry	4	2	2			
	理科総合 Integrated Science	1	1				
	英語 English	英語読読 English Reading	9	3	3	3	
		英語演習 English Seminar	4	2	2		
		EC English Conversation	2	1	1		
		英語表現 English Expression	2			2	
	現代英語 Advanced English	2				2	
	保健体育 Health & Physical Education	10	2	2	2	2	2
芸術 Art	1	1					
法学 Law	1				1		
哲学 Philosophy	1				1		
第二外国語 Second Foreign Language	4				2	2	
必修科目計 Subtotal of Required Subjects	77	26	22	17	8	4	
選択科目 Elective Subjects	日本文学 History of Japanese Literature	2				2	
	日本史概論 Outline of Japanese History	2				2	
	数学概論 Elements of Mathematics	2				2	
	英語特論Ⅰ English Seminar I	2				2	
	英語特論Ⅱ English Seminar II	2				2	
	日本語学 Japanese Linguistics	2				2	
	化学特論 Advance Course of Chemistry	2				2	
	企業と法 Corporate Legal Affairs	2				2	
	アメリカ文学概論 American Literature	2				2	
	開設科目計 Total of Credits Offered	18				18	
	履修科目計 Total of Elective Subjects to be Completed	2				2	
一般科目計 Total of Liberal Arts	79	26	22	17	10	4	

音楽又は美術を選択
ハンブル、ドイツ語、中国語いずれかを選択
4年生選択科目の修得単位数は、最低2単位、4単位までとする

特別活動 Special Curricular Activity	単位時間 Credit Hours	学年別配当 Credit Hours by Grades				
		1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th
	90単位時間以上	90単位時間以上				

(出典：平成18年度学校概要)

大島商船高等専門学校の教育目標と各学科の教育目標

[大島商船高等専門学校]

1. 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。
2. 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。
3. 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。

[商船学科]

本学科は、航海及び機関コースの両コースが設置されており、広い視野と実践的な能力をもつ海技士を育成することを目標としている。そのために、船舶の安全運行に必要な専門知識を習得する。実践の場として、練習船で海外や国内各地を訪問しながら、自然や人と触れあい、楽しく充実した航海実習を体験する。

[電子機械工学科]

電子電気と機械の2分野を中心とし、これに情報処理・計測制御を含めた幅広い学習を基礎理論と実験実習との両面から実施することにより、応用能力の高い、実践的な技術者の育成を目指すこと。

[情報工学科]

本学科は、コンピュータや情報処理に関心を持った中学生に、情報処理と情報通信の原理と応用について系統的に学べる環境を提供します。この環境の中で、具体的な三つの教育目標を掲げます。

1. 豊富な情報技術をもとにした視野の広い応用能力の養成
2. グループリーダーとしてのコミュニケーションとプレゼンテーション能力の養成
3. 柔軟で創造的なシステムデザイン能力の養成

これらを実現することにより、高度 ICT (Information and Communications Technology-情報通信技術) 社会に対応できるエンジニアを育成します。

[一般科目]

広く社会的視野に立って物事を理解できる教養豊かな国際人となること、また専門的知識や技術を身につけるために必要な基礎知識を修得すること。(平成19年度学校案内Q&Aの8ページに公表されている。)

(出典 学校概要・学校案内)

観点2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程は、高等専門学校の準学士課程を卒業した学生を主たる対象として2年間の教育を実施することにより、技術革新と社会情勢に対応できる海運管理者及び工業技術者の育成を目的として、海洋交通システム学専攻及び電子・情報システム工学専攻の2専攻で構成している。

(資料2-1-②-1, 2-1-②-2)

専攻科の教育目標(主目標)は「優れた専門性と豊かな人間性を有する高度な海事技術者と実践的開発技術者の育成」(資料2-1-②-3)と定めている。

海洋交通システム学専攻の教育目標(副目標)は「海洋を中心とした国際物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成」、電子・情報システム工学専攻の教育目標(副目標)は「電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成」、さらに2専攻共通の教育目標(副目標)は「IT教育により、高度なコンピュータ支援能力の育成」、「国際化教育により、語学力や文化的教養の育成」及び「福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成」としている。(資料2-1-②-3)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の教育目標(主目標)のキーワードである「優れた専門性」及び「豊かな人間性」は、本学の教育目標(資料2-1-②-4)である「1 豊かな教養と国際的感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。」、「2 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。」及び「3 探究心を養い、心身を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。」が育成を目指す人材が持つべき資質と合致しており、専攻科の教育目標(主目標)が本学の教育目標に従って定められていることがわかる。専攻科の教育目標(副目標)は、本学の教育目標及び専攻科の教育目標(主目標)を具体化するために定められている。専攻科の構成については、海洋交通システム学専攻は準学士課程の商船学科を母体とし、電子・情報システム工学専攻は準学士課程の本科電子機械工学科及び情報工学科を母体としていることから、2専攻の構成は妥当であるといえる。

以上の分析結果より、専攻科の構成は本科及び専攻科の教育目標を達成する上で適切なものとなっている。

資料2-1-②-1

第6章 専攻科

(設置)

第29条 本校に、専攻科を置く。

(目的)

第30条 専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、更に高度な専門知識と技術を教授し、技術革新と社会情勢に対応できる海運管理者及び工業技術者を育成することを目的とする。

(専攻及び入学定員)

第31条 専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

海洋交通システム学専攻 4人

電子・情報システム工学専攻 8人

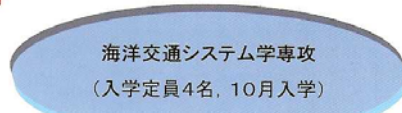
(修業年限及び在学期間)

第32条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を越えて在学することはできない。

出典：大島商船高等専門学校 学則 抜粋

大島商船高等専門学校専攻科の教育体系

専攻科



本科



海洋交通システム学専攻

電子・情報システム工学専攻

商船学科本科卒業生は航海士、機関士としての免許も取得することができます。しかし、近年海運会社では船舶運航のコスト削減のために、日本人船員からアジア人船員への移行を終え、日本人は船舶運航管理や物流管理を陸上で担っています。海上で動いている船舶をスペースシャトルに例えると、これら管理部門はNASAに似ています。

また、船舶運航管理は、運航管理と機関管理からなっています。本専攻では商船学、物流管理を必修専門として学び、運航管理および機関管理を選択専門とします。そうすることで、運航技術を持ち、さらに管理ノウハウをも学んで陸上から船舶運航を管理、支援する人材を育成します。

メカトロニクス分野とIT分野をシステム化した電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成を目的としています。

そのため、電子・制御システム系、情報・通信ネットワーク系の高度な専門知識と技術を教育し、これらの複合領域に関する素養と国際化にも対応できる語学能力を備えた、実践的な研究開発能力を育成します。

さらに、高齢化社会が到来している地元地域に密着し、福祉と環境を考慮した社会システムの構築に貢献できる総合力も育成します。

出典：大島商船高専 専攻科パンフレット 抜粋

専攻科の趣旨、沿革等を記載した書類

1 専攻科の趣旨等 (1) 専攻科の趣旨

近年のIT化に伴う産業の急激な高度化に伴い、産業構造の変化、経営効率による生産拠点の海外への移転が起こり、また、外国人船員の我が国商船（経済的支配船）への急激な増加が生じている。さらに、我が国企業の9割以上を占める中小企業のさらなる高度化による地域の活性化のため、産官学連携が進もうとしている。これら産業界に卒業生を送り込んできた本校は船舶職員としての海運技術者、ものづくりのできる実践的技術者を育成してきた。しかし、産業界からも、高度な研究開発能力を持つが、学問的な大学学部と一線を画した実践的な技術者育成を本校に求めるようになってきた。また、海運界においても、海運界存続のため、陸上においてこれら経済的支配船の船舶運航管理を行える、高度で幅広い管理能力を有する海事技術者育成を本校に求めるようになってきた。また、地域に根ざす高度な実践的開発技術者の育成は、最近の少子化傾向や経済的事情に伴う地元への就職希望と高学歴志向の増加にも応え得るものである。

本校はこれら産業界からの要請、また、学生・保護者、地域からの要請に対応すべく、現在の本科の上に、海洋交通システム学専攻と電子・情報システム工学専攻の2専攻科の設立を希望している。本校専攻科は以下に示す教育目標を掲げている。

優れた専門性と豊かな人間性を有する

高度な海事技術者と実践的開発技術者の育成

- ◎海洋を中心とした国際物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成
- ◎電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成
- ◎IT教育により、高度なコンピュータ援用能力の育成
- ◎国際化教育により、語学力や文化的教養の育成
- ◎福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成

故に、本校専攻科を修了した学生が、大学評価・学位授与機構が行う学士の学位授与制度へ申請し、学位授与への途が開けるようにするため、本校専攻科の認定を申し出る。

(2) 専攻科の沿革

本校は、平成17年4月の専攻科設置に向けて設置予定のため、沿革について該当事項なし。

2 専攻科の教育方針等 (1) 専攻科の教育方針

【海洋交通システム学専攻】

我が国の海運は黎明の時代から常に国際競争の中でもまれ、現在もまた生き残りをかけた厳しいバトルの中にある。グローバル化の観点に立てば、天井知らずとは言わないまでも、まだまだ世界的な荷動き量の増加は見込まれ、地球規模での最適な輸送計画と運行管理、さらにこれらの基盤となる安全管理の技術は、これからも一層活発に開発され、充実されなければならないことが山積していると言える。

フェリー等に代表される内航海運の船舶も大型化・高度化してきた。また、海技士免状を有する船員であり、陸上において経済的支配船の船舶運航管理に従事するスタッフは、将来的にも我が国内外物流分野において必要不可欠な人材となる。そのため、3級海技士免状を取得する海技従事者の育成を目的とする本科教育だけでは不十分である。

本専攻は商船学科航海コースと機関コースの教育内容の上に立っている。本科修了時には航海士、機関士としての免許も取得している。しかし、海運会社では船舶運航のコスト削減のために、日本人船員

資料2-1-②-4

教育目標

Educational Objectives

1 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。

To train well-educated engineers with an international way of thinking.

2 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。

To produce cooperative engineers with leadership qualities and a strong sense of responsibility

3 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。

To turn out creative engineers with an inquisitive mind.

出典：職員用名札裏面

観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校はセンター等として、(1) 情報教育センター、(2) 地域協力センター（資料2-1-③-1）がある。

(1) <情報教育センター>

これまでの情報処理室を「情報教育センター」として発足した。当センターは情報教育、メディアを活用した教育の場として、今後の教育及び研究の活性化に必要な事項全般を業務としている（資料2-1-③-2）。センターが管理する2つの演習室では、情報に関するよりよい教育を受けられるよう基礎情報教育の実施、さらに情報化社会で活躍するために必要な情報処理能力を育成するプログラミング教育や実践的技能習得のCADの実習授業及びメディアを活用した授業を行っている（資料2-1-③-3）。また、本校eラーニング教育の拠点として計画している。

(2) <地域協力センター>

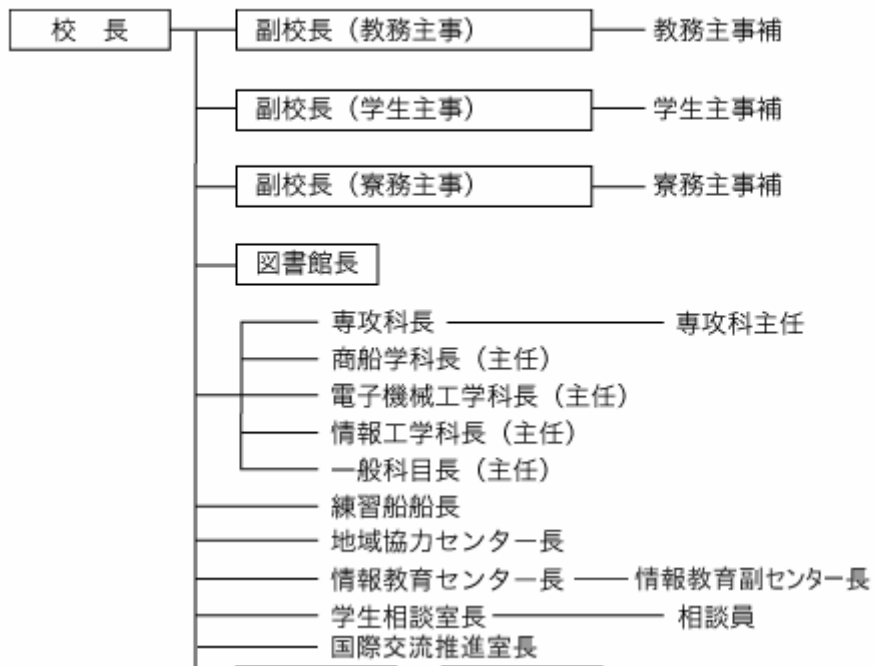
平成元年10月にこれまでの科学技術相談室と生涯学習相談室を統合して地域協力委員会を設置し、その目的達成のために「地域協力センター」を置いた。地域協力委員会及び当センターは、本校の教育・研究成果の情報提供、地域社会における学術研究交流の場として、民間との連携を図り共同研究及び受託研究の受け入れ、また本校の教育・研究の充実、発展に寄与する（資料2-1-③-4）。

当センターでは企業からの技術相談、技術指導、研究協力及び地域の小・中学校への出前授業、公開講座など業務を広げて活動している。公開講座においてはアシスタントとして学生を活用し、授業の成果を発揮する場ともなっている（資料2-1-③-5）。

資料2-1-③-1

—組織図—

■組織図



(出典：学校概要)

資料2-1-③-2

大島商船高等専門学校情報教育センター運営規則（抜粋）

第1条 この規則は、大島商船高等専門学校情報教育センター（以下「センター」という。）の管理運営について、必要な事項を定めることを目的とする。

（業務）

第2条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 電子計算機の管理及び運用に関すること。
- (2) 情報処理に関する教育及び研究に関すること。
- (3) 校内LANの管理及び運用に関すること。
- (4) その他センターの業務の関すること。

（運営委員会）

第4条 センターの円滑な運営を図るため、大島商船高等専門学校情報教育センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの運営に関すること。
- (2) 電子計算機の利用計画に関すること。
- (3) 校内LANシステムの管理・運用・教育に関すること。
- (4) センターの経費に関すること。
- (5) その他必要な事項

（出典：大島商船高等専門学校規則集）

資料2-1-③-3

平成18年度前期情報教育センター演習室における利用時間

	1・2	3・4	5・6	7・8
月	S2:情報処理	I2:情報概論	I4:実験実習	英語特論
	M4:デジタル	M3:実験実習	S2:実験実習	
火	I1:リテラシ	S5:航海計器	I1:実験実習	
	I2:プログラム	M1:実験実習	I1:実験実習	
水	I1:プログラム	I3:実験実習	S4:現代英語	
	S4:船載	S1:情報処理		S4:物流
木	I3:プログラム	I2:情報演習		
	S5:国語			
金	I2: ; 実験実習	I2:プログラム	M4:実験実習	
	M1:リテラシ	M2:実験実習		

（出典：平成18年度前期情報教育センター演習室における利用時間）

資料2-1-③-4

大島商船高等専門学校地域協力委員会規則（抜粋）

制 定 平成元年10月1日

（目的）

第1条 大島商船高等専門学校（以下「本校」という。）の教育・研究分野や共同研究

・受託研究の成果などの情報を広く提供し、地域社会との連携を図り、もって本校の充実、発展に資することを目的として大島商船高等専門学校地域協力委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（地域協力センター）

第2条 前条の目的を達成するため、地域協力センターを設置し、次の業務を行う。

- (1) 科学技術相談
- (2) 生涯学習相談
- (3) その他地域協力センターの目的を達成するために必要な業務

2 地域協力センター長は、校長が任命する。

（審議事項）

第3条 委員会は、前条の業務を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 地域の企業、団体、機関その他からの技術相談、技術指導、研究協力並びに生涯学習に役立つ企画協力等（以下「地域からの要請等」という。）に関する事
- (2) 地域協力の方策の立案に関する事
- (3) 公開講座及び出前授業の企画及び立案に関する事
- (4) その他必要な事項

（出典：大島商船高等専門学校規則集）

資料2-1-③-5		
平成18年度 公開講座		
	テーマ	対象
	天体観測会 ー満月に近い月と木星が並んで見えますー	小中学生
	〈幕末講座〉郷土の偉人青木周弼 ー歴史を多角的にみようー	一般
	ソーラーボートを作ろう！	小学生
	クルーザーで行く朝鮮通信使の航海の足跡	一般
	針穴写真入門 ーピンホールカメラの製作から撮影・現像までー	一般
	ことばの世界 1 いろは歌と五十音図	一般
	映画で学ぶアメリカ文学～「カサブランカ」と「スカーレット・レター」～	一般
	パソコンで自分の家を設計してみよう ー住宅の間取りや外観もー	一般
	親子サバイバルキャンプ	親子
	デジカメ写真を加工しようー画像を使った4コマ・ストーリーの作成ー	一般
	ヨット教室：ヨットに乗ろう！！	一般
	少年・少女サッカー教室	小中学生
	数学者 ～ 真理の探求者達 ～	一般
	もの作り体験講座ー身近な材料で作る環境にやさしいエンジン・ジャンピングローラ製作！ー	小中学生
	もの作り体験講座ー電池とモータで動くー	小中学生
	設計製図とCAD	一般
	〈幕末講座〉幕長戦争(四境の役)大島口を巡るー海と陸から見る戦闘地ー	一般
	ことばの世界 2 平家物語「富士川合戦」を読む	一般
	パソコン環境設定講座	一般
	《おもしろ雑学講座》第3弾「大阪学」はどうでっか?! ～吉本漫才から曾根崎心中まで～	一般
	TOEIC 対策基礎講座	一般
	ことばの世界 3 古代日本人と外国語	一般
○印はアシスタントとして学生の補助がある。		

(出典：平成18年度公開講座)

資料2-1-③-5 (続き)	
平成18年度	
出前授業	
テーマ	対象
音声で3Dアニメーションを動かそう	中学生
ネットワーク社会のマナーとモラルを考える	小・中学生
ロボット技術とものづくりの心	小・中学生
おもしろロボット	小・中学生
ものの流れ・お金の流れ-激安ショップの謎-	中学生
流れのマジック	中学生
船はどのように浮いているの？ どうして走るの？	中学生
雲から探る天気予報	中学生
サバイバル・レッスン ー地震や気象災害に備えてー	小・中学生
豪華客船「タイタニック号」の沈没から考える	小・中学生
海と環境について	小・中学生

(出典：平成18年度出前授業)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、全学的なセンター等として情報教育センター及び地域協力センターを設置している。情報教育センターでは、本校の情報処理教育活動を支援するセンターとなっており、教育施設として、情報リテラシーやプログラムの演習・実験実習に利用されている。演習室の利用状況は、授業の他に、自学自習にも開放されており、100%の使用状況である。また、英語・国語等でも利用し、これからのeラーニングでの利用も考えている。地域協力センターは、研究成果を外部に示し、企業等との交流の窓口となり、研究発表会を行い、共同研究・受託研究を受け入れる活動を主としているが、生涯学習の援助及び地域との交流としての公開講座・出前授業も実施している。この補助者として学生を適宜用いており、日頃の教育・研究成果を十分発揮している。

以上のことから、両センターが教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

教育課程全体を企画調整し、教育課程を有効に展開するために、教務委員会が設置され、本校の教育課程や教務に関する全ての事項について審議している(資料2-2-①-1)。この委員会の構成は、教務主事を委員長とし、各学科主任及び一般科目主任と4名の教務主事補で構成され、また、学生課長、学務専門員と教務係長をもって幹事とし、学校全体の意見調整を行える体制になっている。さらに、根本的な問題解決のためには、教務主事の指導の下にワーキンググループや準備委員会を設ける場合もある。なお、教務に関する最終的な決定は、教務委員会での審議・決裁を経て、教官会議での承認が行われた後となる。平成17年度に教務委員会は17回開催された。例えば、平成18年度に「大学単位を導入した新カリキュラム」へ移行した際、前年度において、教務委員会委員の他に各学科から新カリキュラムを検討するために1名の委員(計4名)を選出した。これらの委員は拡大教務委員会に属し、その中で大学単位化する専門科目及び単位数の換算、一般科目の大学単位化科目の創設、自学自習時間の創設と役割、卒業単位数の見直し、時間割編成の可否などを審議、決裁し、新カリキュラム導入が実現した(資料2-2-①-2)。

専攻科の設立に関しては、平成12年度に将来構想検討専門委員会(資料2-2-①-3)を、平成13年度には専攻科設立準備検討WG会合(資料2-2-①-4)を立ち上げ、平成16年度の専攻科設立へ向けて各学科から2名の委員(計8名)を選び、「専攻科設立準備委員会」を設けた(資料2-2-①-5)。そこでは、専攻科の名称・教育理念の原案作成、運営体制・教育課程の立案検討を行い(資料2-2-①-6)、平成13年度に専攻科設立準備検討WG委員会がこれらの原案を審議・決裁し、専攻科の設立へ向けて専攻科設立準備検討WG報告書(資料2-2-①-7)を作成した。その報告書を受けて立ち上げられた専攻科設立準備委員会では、文部科学省への概算要求書の提出(平成16年度、17年度)、当時専攻科の無かった沖縄を除く5商船高专(鳥羽、富山、弓削、広島、大島)との足並みを揃えるための調整(資料2-2-①-8)、及び平成16年度に専攻科設置に関する国立高等専門学校機構本部と5商船高专とのヒヤリングの対応を行った(資料2-2-①-9)。同年、大島商船高等専門学校専攻科設置計画等を国立高等専門学校機構本部を通して文部科学省に提出し(資料2-2-①-10～12)、平成17年度に設置認定された(資料2-2-①-13)。また同時に、独立行政法人大学評価・学位授与機構へ大島商船高等専門学校専攻科認定申出書を提出し(資料2-2-①-14)、平成17年度に設置認定された(資料2-2-①-15)。

(分析結果とその根拠理由) 本校の学内規則に基づいて、教務主事以下の委員が教務委員会を構成し、さらにカリキュラム改定や専攻科設立など教育課程や教務に関する大幅な検討が必要な場合においては、教務委員会委員及び各学科から選出された委員によりワーキング(WG)や拡大教務委員会及び各委員会を組織し、教務に関する事項について審議が行われ、全学的な議論によって決定がなされており、最終的に教官会議で承認を得ている。以上から、教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、必要な活動が行われていると判断する。

大島商船高等専門学校教務委員会規則

制定 昭和60年12月19日

(設置)

第1条 大島商船高等専門学校の教務に関する事項を審議するため、大島商船高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割の編成に関すること。
- (2) 学生の教科履修に関すること。
- (3) 入学、退学、卒業等に関すること。
- (4) 教務計画に関すること。
- (3) その他教務に関し必要と認められること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科主任及び一般科目主任
- (3) 教務主事補

2 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

(会議)

第4条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、会務を処理する。

2 幹事は、学生課長、学務専門員及び教務係長をもって充てる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この規則は、昭和60年12月19日から施行し、昭和60年4月1日から適用する。

2 教務委員会に関する内規（昭和43年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成4年4月18日から施行し、平成4年4月1日から適用する。





附 則


この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年5月10日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

学生課長	専門職員	教務係長	教務係
			

17.5.16 

拡大教務委員会議事概要

日時 平成17年5月13日(金) 15:45~17:15

場所 図書館会議室

出席者 委員長(田中) S主任(福谷) I主任(松井) M主任(岡本) C主任(吉富)
 教務主事補(古藤, 石田, 増山) 各学科委員(S角田 M増田 I比嘉 C野本)
 学生課長(出川) 専門員(金元) 奥野

欠席者 教務係長(吉村 出張のため)

議事

1. カリキュラムの改正について

教務主事から別紙、「国際大学単位制を取り入れたカリキュラム検討メモ」(4月26日高専機構が開催した説明会の要旨), カリキュラム案(情報-2), カリキュラム案(工業系)により説明がされた。

(1) 資料以外の補足説明等

- ・カリキュラムの改正に伴う高専設置基準の改正は, 中教審での審議は終了, 7月に改正される。
- ・ポイントは, 授業にゆとりをもたせ, インターンシップ必修等カリキュラムの改正, 有効な自学・自習による高専のレベルアップ
- ・7月初めに検定教科書の予約の関係もあり早く決めたい。(特に一般科目)
- ・機関検証では, 3年間の答案, レポートの保管が必要となる, 次回教官会議で周知する。学生にも各先生から説明する必要がある。答案をコピー機からをCDに保管するテストを増山先生に依頼した。
- ・実験実習が現行1・2年各3単位となっているが時間割が苦しくなる。各学科で2単位にならないか又, 一般科目と専門科目の配分をどうするのかを検討してほしい。
- ・カリキュラムの改正について, 今後2週間に1回程度委員会を開催し, 作業を進めたいとの発言があった。

(2) その他

松田委員から別紙資料, 「JABEEの視点からのカリキュラム改定への留意点」により説明があった。

2. その他

(1) 大島商船高専「アドミッション・ポリシー」(案) について

教務主事から, 高専機構から「学校案内」に統一的に教育理念を入れるよう要請があったので, 別紙とおりに(案)を作成したので意見を伺いたいとの発言があり, 審議の結果一部修正のうえ別紙のとおりとし, 入試委員会で検討してもらうことにした。

(出典 拡大教務委員会議事概要)

平成12年4月6日

「将来構想検討専門委員会（専攻科）」第2回メモ

日時：4月4日 15:10～17:00

場所：会議室

出席者：櫛田，兼重，佐々井，石光，田中，比嘉，小池，杉村，3課長

●専攻科名称（形態について）

- (1) S科中心の専攻科とMI科中心の専攻科の2専攻の案1とM科中心の専攻科とI科中心の専攻科の2専攻の案2の2つの案が提案された。
- (2) 提案者により各案の概要をまとめる。
- (3) 各案の概要をもとに将来構想委員会において審議，いずれかの案に決定する。

案1ではS科の学生の受け入れ時期，修業年限等の問題が有り実現は難しいと考えられる。また案2では専攻科設置要件（講師以上の教官の半数が博士）満たしていない。

学校としてどの形態にするのかはっきりしてもらわないと作業ができないとの意見から将来構想委員会（運営委員会）で各案を審議していただくことになった。

（出典 将来構想検討委員会（専攻科）メモ）

平成13年9月26日

専攻科設立準備検討WG会合（第2回）

1. ワーキングの目的

昨年5月以降休止状態にある、大島商船高専の専攻科設立に関し、具体的かつ着実に準備を進めるための諸問題について検討することを目的とする。

- (1) これまでに進められた作業とその達成度の整理
- (2) これから進めるべき作業とその優先度の検討
- (3) その他専攻科設立に関わる問題

2. これまでに進められた作業

昨年の将来構想検討専門委員会についてのまとめ

3. 専攻科の名称と形態

4. 今後の進め方

(出典 専攻科設立準備検討WG資料)

専攻科設立準備委員会委員名簿

		現 在	新 規	備 考
教 務 主 事	委 員 長	中村 次男 (教 授)		
商 船 学 科	副委員長	岩崎 寛希 (助教授)		
	委 員	川原 秀夫 (講 師)		一般科目
電子機械工学科	〃	石光 俊介 (助教授)		
	〃	藤井 雅之 (講 師)		
情 報 工 学 科	〃	石原 良晃 (助教授)		
	〃	比嘉 勝也 (助教授)		
一 般 科 目	副委員長	佐々井 祐二 (助教授)		電子機械工学科
	委 員	野本 敏生 (助教授)		
	〃	幸田 三広 (助教授)		
事 務 部	〃	岩井 洋二 (事務部長)		
	〃	藤原 楠生 (庶務課長)		
	〃	小山 房男 (会計課長)	塩崎 英司 (会計課長)	
	〃	辻本 功 (学生課長)		

(事務担当)

② [庶務課 企画調査担当 専門職員 村岡 誠]
 [庶務課 主 任 金元 久美子]

(出典 専攻科設立準備委員会委員名簿)

2003.1.17

第8回専攻科設立準備委員会

1. 専攻科カリキュラムについて（岩崎，佐々井，川原，比嘉）

2. 各種調査について（野本，幸田）

3. 各種アンケートについて

石原教官が書式を統一

企業（石原）

在校生（藤井）

卒業生（野本）

保護者（幸田）

中学校（比嘉）

4. 大島商船高等専門学校学則・専攻科の授業科目の履修等に関する規定について（岩崎）

5. 概算要求書・認定申出書・本省向け2月の資料について（佐々井）

6. その他

他校の動向について

平成15年2月5日(水) 16:10～ 第9回専攻科設立準備委員会
カリキュラム，概算要求書・認定申出書・本省向け2月の資料等について作業状況報告

(出典 専攻科設立準備委員会資料)

専攻科設立準備検討WG報告書

平成13年10月19日

古本啓二 SubGL 兼重明宏 GL 佐々井祐二 藤井雅之
石原良晃 比嘉勝也 野本敏生 幸田三広

(出典 専攻科設立準備検討WG報告書)

2003.10.8

スケジュール他について (参考)

佐々井

1. スケジュール

平成 15 年

10月中旬～

中学校訪問時に本校専攻科 PR

11月～

① 教育理念、カリキュラム等の見直し、就職進学率等のデータ更新の作業開始

② 商船系専攻科の必要理由 (海運管理者、内航海運) の練り直し

③ 工業系専攻科の必要理由 (地域性) の練り直し

④ リーフレットの作り直し (中学校訪問で必要かもしれない)

12月

就職懇談会において本校専攻科 PR、また、それまでに「専攻科に関する 5 年生ガイダンス」の実施

平成 16 年

1月

在校生アンケート

3月

平成 17 年度概算要求書添付資料(案)の完成

平成 17 年度専攻科認定申出書(案)の完成

4月

独立行政法人高等専門学校機構の設立

6月

本省へ概算要求書提出 (従来通りであれば)

9月初旬

本省から財務省へ本校の専攻科を要求しているか否かの判明

9月

大学評価・学位授与機構へ専攻科認定申出書の提出

11月

機構で1回目の教員審査

平成 17 年

1月

機構で2回目の教員審査

2月

機構の学位審査会にて、専攻科認定可否の判定

4月

大島商船高専専攻科設立、入試、入学式、授業開始

(出典 専攻科設立準備委員会資料)

平成16年5月17日

国立高等専門学校機構本部での専攻科設置に関するヒアリング議事録

ヒアリング日時：平成16年5月12日 10:00～12:00

場所：千葉市美浜区青葉2-12（メディア教育開発センター研修棟2F会議室）

出席者：

機構本部側

財務課長 植田 敏也

財務課課長補佐 八田 弘

財務課予算係長 仲野竜也

5商船高専側

富山商船高専 宮林 穎夫 設置準備委員会委員長、教務主事

遠藤 真 設置準備委員会副委員長

松田 幹夫 事務部長

山田 裕司 総務係長

鳥羽商船高専 佐藤 宗男 設置検討委員会委員長

林 敬三郎 事務部長

広島商船高専 水井 真治 設置委員会委員長

岡山 正人 設置委員会副委員長

東 善和 庶務課長

大島商船高専 岩崎 寛希 設立準備委員会主査

比嘉 勝也 設立準備委員会主査

岩井 洋二 事務部長

弓削商船高専 友田 進 設立委員会委員長、教務主事

塚本 秀史 情報工学科長

白石 健二 事務部長

管波 悦朗 会計課長

配布資料

1. 5商船高専の「専攻科」設置計画（富山商船高専）
2. ヒアリング出席者一覧（富山商船高専）
3. 5商船高専の過去5年間の入学志願者状況（富山商船高専）

(出典 高専機構本部での専攻科設置に関するヒアリング議事録)

大島商船高等専門学校 専攻科設置計画

平成16年5月

(出典 専攻科設置計画資料)

目次	
1 大島商船高等専門学校	1
2 専攻科設置計画	2
3 参考資料	3
4 大島商船高等専門学校	4
5 専攻科設置計画	5
6 参考資料	6
7 大島商船高等専門学校	7
8 専攻科設置計画	8
9 参考資料	9
10 大島商船高等専門学校	10
11 専攻科設置計画	11
12 参考資料	12
13 大島商船高等専門学校	13
14 専攻科設置計画	14
15 参考資料	15
16 大島商船高等専門学校	16
17 専攻科設置計画	17
18 参考資料	18
19 大島商船高等専門学校	19
20 専攻科設置計画	20
21 参考資料	21
22 大島商船高等専門学校	22
23 専攻科設置計画	23
24 参考資料	24
25 大島商船高等専門学校	25
26 専攻科設置計画	26
27 参考資料	27
28 大島商船高等専門学校	28
29 専攻科設置計画	29
30 参考資料	30
31 大島商船高等専門学校	31
32 専攻科設置計画	32
33 参考資料	33
34 大島商船高等専門学校	34
35 専攻科設置計画	35
36 参考資料	36
37 大島商船高等専門学校	37
38 専攻科設置計画	38
39 参考資料	39
40 大島商船高等専門学校	40
41 専攻科設置計画	41
42 参考資料	42
43 大島商船高等専門学校	43
44 専攻科設置計画	44
45 参考資料	45
46 大島商船高等専門学校	46
47 専攻科設置計画	47
48 参考資料	48
49 大島商船高等専門学校	49
50 専攻科設置計画	50
51 参考資料	51
52 大島商船高等専門学校	52
53 専攻科設置計画	53
54 参考資料	54
55 大島商船高等専門学校	55
56 専攻科設置計画	56
57 参考資料	57
58 大島商船高等専門学校	58
59 専攻科設置計画	59
60 参考資料	60
61 大島商船高等専門学校	61
62 専攻科設置計画	62
63 参考資料	63
64 大島商船高等専門学校	64
65 専攻科設置計画	65
66 参考資料	66
67 大島商船高等専門学校	67
68 専攻科設置計画	68
69 参考資料	69
70 大島商船高等専門学校	70
71 専攻科設置計画	71
72 参考資料	72
73 大島商船高等専門学校	73
74 専攻科設置計画	74
75 参考資料	75
76 大島商船高等専門学校	76
77 専攻科設置計画	77
78 参考資料	78
79 大島商船高等専門学校	79
80 専攻科設置計画	80
81 参考資料	81
82 大島商船高等専門学校	82
83 専攻科設置計画	83
84 参考資料	84
85 大島商船高等専門学校	85
86 専攻科設置計画	86
87 参考資料	87
88 大島商船高等専門学校	88
89 専攻科設置計画	89
90 参考資料	90
91 大島商船高等専門学校	91
92 専攻科設置計画	92
93 参考資料	93
94 大島商船高等専門学校	94
95 専攻科設置計画	95
96 参考資料	96
97 大島商船高等専門学校	97
98 専攻科設置計画	98
99 参考資料	99
100 大島商船高等専門学校	100
101 専攻科設置計画	101
102 参考資料	102
103 大島商船高等専門学校	103
104 専攻科設置計画	104
105 参考資料	105
106 大島商船高等専門学校	106
107 専攻科設置計画	107
108 参考資料	108
109 大島商船高等専門学校	109
110 専攻科設置計画	110
111 参考資料	111
112 大島商船高等専門学校	112
113 専攻科設置計画	113
114 参考資料	114
115 大島商船高等専門学校	115
116 専攻科設置計画	116
117 参考資料	117
118 大島商船高等専門学校	118
119 専攻科設置計画	119
120 参考資料	120
121 大島商船高等専門学校	121
122 専攻科設置計画	122
123 参考資料	123
124 大島商船高等専門学校	124
125 専攻科設置計画	125
126 参考資料	126
127 大島商船高等専門学校	127
128 専攻科設置計画	128
129 参考資料	129
130 大島商船高等専門学校	130
131 専攻科設置計画	131
132 参考資料	132
133 大島商船高等専門学校	133
134 専攻科設置計画	134
135 参考資料	135
136 大島商船高等専門学校	136
137 専攻科設置計画	137
138 参考資料	138
139 大島商船高等専門学校	139
140 専攻科設置計画	140
141 参考資料	141
142 大島商船高等専門学校	142
143 専攻科設置計画	143
144 参考資料	144
145 大島商船高等専門学校	145
146 専攻科設置計画	146
147 参考資料	147
148 大島商船高等専門学校	148
149 専攻科設置計画	149
150 参考資料	150

(出典 専攻科設置計画参考資料)

商船学科を基礎とする専攻科の 必要性等について

(説明資料)

平成16年5月

富山商船高等専門学校
鳥羽商船高等専門学校
広島商船高等専門学校
大島商船高等専門学校
弓削商船高等専門学校

(出典 専攻科の必要性等について説明資料)

第6700号

(第三種郵便物認可)

報 速 教 文

平成17年 1月31日 (月曜日)

-2-

文部科学省、創造的な大学院教育の展開支援

「魅力ある大学院教育」イニシアチブ 二年連続で交付、新年度予算に30億円計上

文部科学省は、新年度から、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独自の教育の取組を重点的に支援する。

「魅力ある大学院教育」イニシアチブと名付けられたこの事業は、若手研究者に新たに求められる資質、自立して研究活動を行うための能力を組織的かつ体系的に修得させるための教育プログラムを重点的に支援し、研究者養成機能の強化を推進するもの。このため時代の要請に応じた大学院教育の進展という観点から、教育の課程の組織的展開の強化、新たな教育・研究指導法の開拓を促進させる。

対象となるのは、研究者養成を目的とした修士課程及び博士課程の各専攻で、学内における組織的な検討体制の下、研究科長が学長を通じて申請を行う。

申請を受けた文科省では、専門家を有識者からなる審査・評価委員会を独立行政法人など外部の機関と協力して立ち上げ、公平、公正な第三者評価を実施する。審査に当たっては、①現代社会の新たなニーズに応えられる体系的な教育課程の編成 ②教育研究活動の活性化

③教員による研究指導方法などの実績を重視しつつ、実績を基にした今後の研究者養成に関する取組計画の表現性・将来性を審査する。

一件当たり年間千万円～五千万円程度を原則として二年間継続的に交付し、期間終了後に事後評価を実施する。十七年度予算額は三十億円を予定している。

研究者養成に関する具体的な取組例として文科省は、学生が、自立して研究活動を行うための知識・能力を修得するための「海外企業など多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むプログラム」「学生が自ら研究課題を設定し研究活動を実施するなど学生の創造力・自立的研究遂行能力を高めるプログラム」「研究プロジェクトをリードできる資質・能力を培うプログラム」「新分野・異分野にも対応できる柔軟な発想力を養うプログラム」を上げている。

産学連携で高度専門人材養成機能を強化

文部科学省は、大学と産業界がパートナーシップを形成し、産学連携による高度専門人材の育成を行うことにより、大学の人材養成機能の充実、強化を図ることとし、新年度予算案に「派遣型高度人材育成協同プラン」(二

億三千万円)を盛り込んだ。一定の専門性を有する学生を対象として、産業界の実践的な環境の下で、将来、研究分野や企業活動の中核的な役割を果たす人材を育成するプログラム開発、実践事業を公費とするもの。

5商船高専に専攻科10専攻を新設

文部科学省は、富山、島根、広島、大分、鳥取の国立5商船高専に、新年度から専攻科を新設する。

間もない沖縄高専を除く全高専に専攻科が整備されることになった。

※年度の予算案に盛り込んだもので、開学

また、宇都高専には専攻科の専攻を一専攻増やすこととしている。

5商船高専に設置される専攻科の専攻、入学定員は―

- ▽富山商船高専⇨海事システム工学専攻(四人)、制御情報システム工学専攻(八人)
 - ▽島根商船高専⇨海事システム学専攻(四人)、生産システム工学専攻(八人)
 - ▽広島商船高専⇨海事システム工学専攻(四人)、産業システム工学専攻(八人)
 - ▽大島商船高専⇨海洋交通システム学専攻(四人)、電子・情報システム工学専攻(八人)
 - ▽鳥取商船高専⇨海上輸送システム工学専攻(四人)、生産システム工学専攻(八人)
- 宇都高専の専攻設置は―
- ▽宇都高専⇨経営情報工学専攻(四人)

(注典 文教速報)

様式第1号

大島商船高等専門学校専攻科認定申出書

大船専庶第184号
平成16年9月1日

独立行政法人
大学評価・学位授与機構長
木村 孟 殿

独立行政法人
国立高等専門学校機構
大島商船高等専門学校長
和 氣 博 殿



このたび、大島商船高等専門学校専攻科海洋交通システム学専攻及び電子・情報システム工学専攻について、学位規則第6条第1項に規定する専攻科の認定を受けたいので、短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則第3条の規定により、別添書類を添えて申し出ます。

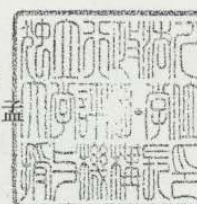
(出典 大島商船高等専門学校専攻科認定申出書)

比嘉勝也

評学機構学第206号
平成17年2月14日

大島商船高等専門学校長 殿

独立行政法人大学評価・学位授与機構長
木村 孟



専攻科の認定について（通知）

平成16年9月1日付け大船専庶第184号で申出のあった専攻科について、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1項に規定する本機構が定める要件を満たす専攻科として下記のとおり認定したので通知します。

記

1 名称、専攻及び修業年限

名 称	専 攻	修業年限
大島商船高等専門学校	海洋交通システム学専攻	2年
	電子・情報システム工学専攻	2年

2 適用時期

平成17年4月1日

（出典 専攻科の認定について）

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

本校では、平成18年度から新カリキュラムがスタートし、新しく大学単位の科目が取り入れられ、一般科目と専門科目の教員がそれぞれの立場からカリキュラム編成のための会議を持ち、高専教育の授業内容を検討した(資料2-2-②-1~2)。また、選択の幅を広げ中国語、ハンデル、ドイツ語が第二外国語として開講されている。大学単位に関しては、一般科目と専門科目の整合性を維持するために教師間の取り組み方が統一され、さらに、英語ではTOEIC対策のための「英語特論」、数学では「数学特論」という選択科目が資格試験等に対応できるように導入されている(資料2-2-②-3~9)。

また、低学年においては、一般科目と専門科目の内容や進度について学年ごとの担当教員で情報交換が学年会議で開催されている。この会議では授業を担当している一般科目、専門科目のすべての教員が出席し、意見交換をおこない、より良い授業の実現を目指している(資料2-2-②-10~13)。このように学年会議を通して、統一した学生の教育・指導が実施できるような体制となっている。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、一般科目と専門科目の授業の内容や進度、学年ごとの問題について、担当教員での情報交換が行われている。特に、低学年では、月に1回の割合で「学年会議」が開催されている。高学年においては、第二外国語の講座や資格試験に対する講義などの一般科目の教員と専門科目教員の連携が密接かつ機能的に実施されている。

学生課長		専門職員		教務係長		教務係	
川出		元金		青村		李松	

教務主事

専

拡大教務委員会議事概要

平成17年6月22日(水) 於会議室 15:45~17:15


出席者	田中(委員長)、古藤、増山、石田、福谷、岡本、松井、吉富、角田、野本、比嘉 松田 幹事 専門員、教務係長
欠席者	奥野 学生課長

議 事

















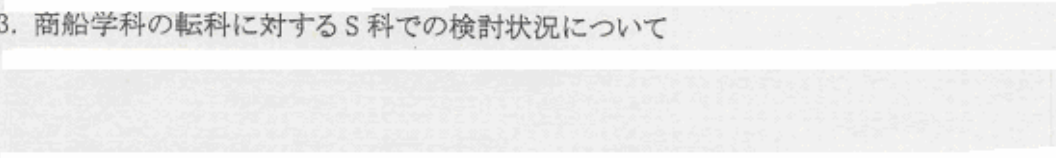
議 事

- 練習船実習によるS5学生のパスポート及び査証(ビザ)取得のための取り扱いについて
「出席扱い願」に学級担任の承認をうけて教務係へ提出して出席扱いの処理をする。
教務主事名で全教官に以上のような取り扱いにした旨メールで通知する。
- カリキュラム(案)について
S科古藤教官、M科岡本主任、I科比嘉教官、一般科目野本教官から配布した資料により説明があり、主事より目標としていた1年生32単位はクリアできた。情報工学科は2年生で2単位加えて32単位にする。
内容的なものは検討する。
一般科目(案)1年生~3年生まではこの案で実施することを仮決定した。
- 教務主事から下記について要望が出された
 - 応用物理の時間数等を次回の委員会までに関係者で話しあって欲しい。
 - 応用数学は学科主任で検討して欲しい。
 - 応数、応物はバランス上専門科目としたい。
 - 目標として9月中に正案を作りたい。
 - 次回の委員会を(工業系)7月12日(火)15:45~開催したい。
商船系の方も出席可能な方は出席して下さい。

(出典 拡大教務委員会議事概要)

	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="font-size: small;">学生課</td> <td style="font-size: small;">専門職員</td> <td style="font-size: small;">教務係長</td> <td style="font-size: small;">教務係</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">川出</td> <td style="text-align: center;">元金</td> <td style="text-align: center;">壽</td> <td style="text-align: center;">(印)</td> </tr> </table>	学生課	専門職員	教務係長	教務係	川出	元金	壽	(印)
学生課	専門職員	教務係長	教務係						
川出	元金	壽	(印)						
拡大教務委員会議事概要									
平成17年7月28日(木) 於会議室 13:30~15:15									
出席者	田中(委員長)、古藤、増山、石田、福谷、岡本、松井、吉富、角田、野本、比嘉 松田 幹事 専門員、教務係長								
欠席者	松井、奥野、野本 学生課長								
議 事									
<p>議 事</p> <p>カリキュラムの改正について</p> <p>各学科より提出された資料により一般科目石田教官、S科古藤教官、M科岡本主任、I科比嘉教官が説明された。</p> <p>主事より下記について各学科に持ち帰り再検討の要望がされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 一般科目は選択科目の第二外国語を新単位としているが必修科目で出来ないか * 電子、情報は単位不足なるのでは * 必修科目を新単位にできないか * 単位合計を記入し新単位は()で内数で記入して欲しい。 * 新単位は基本的に2単位か4単位で考えて欲しい。 * 進級に関する内規(今後の成績処理について)について検討する必要がある ので各学科の意見を聞いて欲しい <p>次回の委員会を8月10日か13:30から開催したい。</p>									

(出典 拡大教務委員会議事概要)

<p>教務主任 </p>		<table border="1"> <tr> <td>学生課長</td> <td>専門職員</td> <td>教務係長</td> <td>教務係</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	学生課長	専門職員	教務係長	教務係					
学生課長	専門職員	教務係長	教務係								
											
<h3>拡大教務委員会議事概要</h3>											
<p>平成17年 11月 7日(月) 於会議室 15:45～17:15</p>											
出席者	田中(委員長)、福谷、岡本、松井、比嘉、古藤、野本、角田、石田、増山 幹事 学生課長、専門員、教務係長										
欠席者	吉富										
<h4>議 事</h4>											
議 事	報告事項 1. ・主事より  2.新カリキュラムについて  3. 商船学科の転科に対するS科での検討状況について  4.今後議事概要を学科主任にも配布する。										

(出典 拡大教務委員会議事概要)

平成18年度新カリキュラムによる授業編成について(案) 平成17年11月7日

1. 本校における大学単位の定義

大学単位1単位={ 教室での授業1時間(50分)+校内での自学自習1時間
+校外(家庭,寮)での自学自習1時間 }×半期15週=45時間

2. 大学単位の配置

大学単位科目(半期2単位)の配置および科目数は、週5~6科目程度。

(1日に大学単位1科目(平均)であれば家庭での自習時間が2時間程度となる。)

3. 進級における未修得科目数について

3.1 進級科目数(進級については以下のことを満たす。)

◎1~3年生までの進級累積不認定科目は10単位以下

3.2 単位数試算(10月26日現在の最新カリキュラムによる時間表より計算)

標準的な学生の場合

	1~3年生までの 修得単位	4,5年での 標準履修単位	5年間の 標準履修単位	単位の余裕	4,5年での 最大履修単位	5年間の 最大履修単位
S科	96	69-63.5	165-159.5	12-6.5	74-68.5	170-164.5
M科	96	71	167	16	87	183
I科	97	70	167	23	93	190

未修得単位10単位を所持している3年生が4,5年生に進級する場合

3年間で10単位の未修得 単位保持学生	4,5年での 履修単位	5年間の 履修単位	単位の余裕	◎校外演習, 集中講義を含む
S科	86	67	153	7-1.5
M科	86	81	167	6
I科	87	80	167	13

◎資格認定単
位は含まず
S科:153単位以上
MI科:167単位以上

未修得単位10単位を所持している4年生が5年生に進級する場合

4年間で10単位の未修得 単位保持学生	5年での 履修単位	5年間の 履修単位	単位の余裕	◎校外演習, 集中講義を含む
S科	131-126	22-27	153	2-X
M科	122	45	167	1

◎資格認定単
位は含まず
Eコースは余裕無し

◎ 3年生までに累積不認定10単位を持つ学生は、4-5年生の過程において以下の要件を考慮し修得単位合計を167単位以上(商船は153単位以上)とする指導が必要となる。

要件

- (1) 追認試験, 補講による未修得科目単位の修得。(自学自習時間を利用)
- (2) 4-5年生での選択科目の履修数の増。(MI4年では2単位以上取得が要件)
- (3) 校外演習, 集中講義の履修
- (4) 資格試験による単位認定
- (5) 4年一般科目選択: 1年間1科目(標準)選択=>前後期で合計3~4科目(6~8単位)履修(注: 受講人数の増加の懸念あり)

(注) 4年生での一般科目選択(半期4科目開講)については、指導教員の負担均等配分の観点および使用教室の制限から4年生全体を均等に1/4(または1/3)ずつ分けることが必要。

以上

一般科目(電子・情報工学科)													
授業科目	単位数	学年配当								大学単位*	担当教員	備考	
		1年	2年	3年	4年		5年						
					高専	大学	高専	大学					
国語	8	4	2	2						通年	吉田・中澤		
地歴	世界史	2	2							通年	田口		
	地歴Ⅰ	1		1						前期	田口	新規	
	地歴Ⅱ	1		1						後期	田口(仮)	新規	
公民	現代社会	2			2					通年	野本	新規	
必修	数学	18	6	6	6					通年	吉富他		
	物理	4	2	2						通年	佐々井		
	化学	4	2	2						通年	杉村		
	理科総合	1	1							通年	非常勤	生物の代替	
	英語	英語講読	9	3	3	3					通年	石田他	
		英語演習	4	2	2						通年	石田他	
		EC	2	1	1						通年	石田他	
		英語表現	2			2					通年	石田他	
		現代英語	2				2				通年	石田他	
	保健体育	10	2	2	2	2		2		通年	平畑他		
	芸術	1	1							通年	非常勤	音楽・美術	
	法学	1				1				前期	野本		
	哲学	1				1				後期	非常勤		
	第二外国語	4				2		2		通年	非常勤	ハンゲル・独・中国	
	必修単位総合計		77	26	22	17	8		4				
選択	日本語学	2					2			*(半期)	中澤	新規	
	日本史概論	2					2			*(半期)	田口	新規	
	英語特論	2					2			*(半期)	吉留	新規	
	数学概論	2					2			*(半期)	高田他	新規	
	日本文学	2					2			*(半期)	吉田	新規	
	社会言語学	2					2			*(半期)	宮奥	新規	
	化学特論	2					2			*(半期)	杉村	新規	
	企業と法	2					2			*(半期)	野本	新規	
	アメリカ文学概論	2					2			*(半期)	石田	新規	
	開設単位数	18					18						
取得単位数	4					4							
必修科目		77	26	22	17	8	0	4	0	◎4年生選択科目の取得単位数は1科目2単位以上、各年2科目4単位以下とする。 (一般科目75単位以上、専門科目82単位以上、合計167単位以上を必ず修得すること。)			
選択科目	開設単位	18	0	0	0	0	18	0	0				
	取得単位	4	0	0	0	0	4	0	0				
一般科目合計		81	26	22	17	12		4					
現在の一般科目単位		82	27	25	17	8		5					
新カリでの増減		-1	-1	-3	0	4		-1					

(出典 シラバス)

一 般 科 目 (商 船 学 科)									
授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当					備 考		
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年			
必 修 科 目	国語	8	4	2	2			*は第14条4項に定める授業科目による単位を示す。	
	地歴	世界史	2	2					
		地歴Ⅰ	1		1				
		地歴Ⅱ	1		1				
	公民	現代社会	2			2			
	数学	18	6	6	6				
	物理	4	2	2					
	化学	4	2	2					
	理科総合	1	1						
	英語	英語講読	9	3	3	3			
		英語演習	4	2	2				
		EC	2	1	1				
		英語表現	2			2			
		現代英語	2				2		
	保健体育	9	2	2	2	2	1		
	芸術	1	1						音楽又は美術を選択
	法学	1				1			
哲学	1				1				
外国語演習	3				2	1	航海・機関英語		
必修科目計		75	26	22	17	8	2		
選 択 科 目	日本文学	2					2*	4, 5年生選択科目の修得単位数は最低2単位, 各年度2単位までとする。	
	日本史概論	2					2*		
	英語特論Ⅰ	2					2*		
	数学概論	2					2*		
	日本語学	2				2*			
	英語特論Ⅱ	2				2*			
	化学特論	2				2*			
	企業と法	2				2*			
	アメリカ文学概論	2				2*			
	開設科目計		18				10		8
	履修科目計		4				2		2
一般科目計		79単位	26単位	22単位	17単位	10単位	4単位		
特別活動									
特別活動	単位時間	学 年 別 配 当					備 考		
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年			
	90単位時間以上	90単位時間以上							

(出典 シラバス)

大島商船高等専門学校における自学自習時間の対応についての指針（案）平成18年12月9日

文責：比嘉

趣旨

平成18年より、本校の授業時間表内に大学単位科目が導入され、それに伴い自学自習時間を授業時間内に組み込むことになりました。自学自習時間とは、授業以外の学生が自立して学習する時間です。よって本校教員は、学生の自学自習の意思意欲を補助する責務を負っており、教室での授業と教室外での自学自習により学生の学力向上を目指す必要があります。

また今後、本校が取り組むJABEEおよび機関認証制度においては、この自学自習時間がどのように用いられて、学生の学力向上に役立っているかを示す必要があると思われます。

よって平成18年度は自学自習時間導入初年度として、

- (1) 自学自習時間における学生の心得（案）
- (2) 自学自習時間における教員の心得（案）
- (3) 教務関係における自学自習時間の扱いについて等（案）

以上のことに定め、内容を学生および教員に周知して学生の自学自習時間をスムーズにスタートできるようにしたいと思います。

◎ 学生向け心得の概要

自学自習時間は、基本的に担当教員の指定する場所で行い、

- (1) 担当教員の指定した課題、レポート等
- (2) 担当教員の科目以外の課題およびレポート等
- (3) 5年生においては講義と卒業研究を関連づけた調査研究、以上のことを行う。

◎ 教員向け心得の概要（担当の自学自習時間はオフィスアワーとする。）

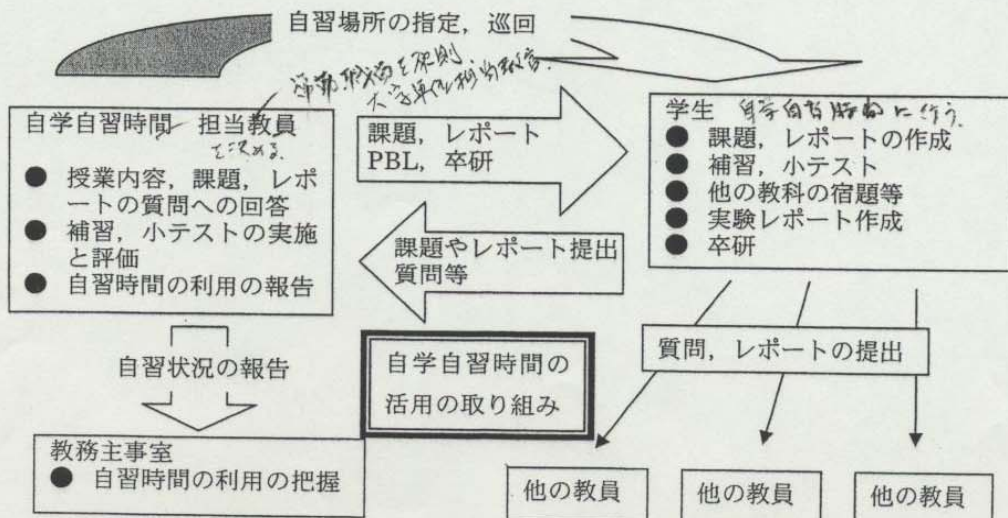
- (1) 自学自習の方法の手助けとなる課題、レポートの作成
- (2) 学生の質問への対応
- (3) 補講や小テストの実施等

本校における自学自習時間の定着、学生の学力向上に努める。

◎ 教務関係の扱い

自学自習時間で実施した事例を必ず記録し、JABEEや機関認証の際の基礎的資料とする。

以上



(出典 自学自習時間の対応についての指針（案）)

自学自習時間における教員の心得（案）

大島商船高等専門学校（以下、本校）における4、5年生の大学単位科目では1単位あたり45時間の学修する構成となっています。例えば、講義および演習では
 半期1単位（15週）
 教室内での授業の15時間
 校内での自学自習時間の15時間
 校外での家庭学習時間での15時間 合計45時間
 となっています。1単位を取得するためには授業後、自学自習を行う必要が有ります。よって教員は、授業および自学自習時間の内容を考慮した質の高い授業を構成する必要があります。
この制度を理解して学生の学力の向上に努めてください。

◎ 教員の皆さんへ（校内での自学自習時間の活用について）

教員の皆さんは、教室内での授業だけではなく、自学自習時間を効果的に活用することで学生の学力の向上および科目内容の向上を図ることが求められています。

教員の責務として学生が自立して自学自習する意思意欲を持てるような環境を整えるように努力しなければなりません。 以下に自学自習時間の対応例を示します。

- (1) 学生が自学自習時間を効果的に活用できるように、校内での自学自習時間内で行えるような、例えば授業の予習や復習や授業範囲以外の重要な事柄に関する課題やレポート等を適宜、課すようにして学生に自学自習を行う習慣をつけさせるような工夫に努めてください。
- (2) 全教員は自学自習時間（担当時間を問わず、授業中は除く）をオフィスアワーとして、授業内容に関する質問に対応するように努めてください。
- (3) 担当以外の自学自習時間での学生の質問にも必ず対応し、その質問者の氏名、質問の内容等を担当者に連絡（電話、メール等）してください。
- (4) 必要に応じて、担当する自学自習時間内で補講、小テスト等を行い、学修の達成度の確認を行うことも良いでしょう。また学生から補講の要求については必ず応じてください。
- (5) 自学自習時間で行った課題レポート、補習の内容および小テストの解答用紙などは学生の学力達成度を見極める資料として必ず保存してください。
- (6) 学習意欲を高める目的で(1)～(4)以外の事例、例えば卒業研究、PBL、グループ学習などを実践することも可能と思われます。
- (7) 各教員の判断で、各学生の自学自習での課題を定期試験の範囲に、または自学自習の様子を成績に組み入れる、などを行っても結構です。
- (8) 学期末には、自学自習時間の利用方法および効果をまとめた報告書（様式2）を学校長（または教務主事）宛に提出してください。

以上

（出典 自学自習時間における教員の心得（案））

自学自習時間の利用に関する報告書

平成 年 月 日

大島商船高等専門学校長 殿

所属 _____

氏名 _____ 印

下記のとおり自学自習時間の利用および実績に関して報告いたします。

授業科目名	
期間	平成 年度 前期 後期
内容 (自学自習時間の利用について、実施内容と学力向上の有無について具体的かつ明確に記入してください。また各内容毎に点線で区別してください。)	実施時間 (各内容毎に点線で区別し、最後に総時間数を記入する。)

(出典 自学自習時間の利用に関する報告書)

教務主事	学生課長	教務係長	教務係	記録(専門員)

拡大教務委員会議事要旨

1. 日時 平成18年10月27日(月) 15:55~17:15
2. 場所 会議室
3. 出席者 教務主事・教務主事補(4名)・商船学科主任・一般科目主任
杉村・北風・神田・中澤・田口・上月・藤井(雅)・浦上・宮奥・岡野内
岡村・吉留・野本・古本・堤 以上22名
(陪席) 出川学生課長・濱崎専門職員 (欠席) 吉村教務係長
欠席者 学生主事・電子機械工学科主任・情報工学科主任
藤井(英)・清水・三原・久保田・岡崎・石原・新谷

4. 議事

【学年会議の開催について】

低学年の授業における指導方針について意見交換できる場として「クラス会議」又は「学年会議」を開催することについて教務主事室で検討し結果、開催することで意見が一致した。

趣旨説明の後、各出席者から次のような意見が多数出された。

- 行動評定等を決定する上で有意である。
- 高校では行っており、クラス又は学年ごとに授業及び生活態度等を情報共有できる。
- 担任が行っている特別教育活動の実施方法等を相談できる。
- 教科担当教員としてはクラス単位で行うとすべての会議に出席することとなり、できれば学年単位で開催してほしい。
- 非常勤講師には報告書を提出いただくようにしたい。
- 会議として定期的に行い、型にはまった形で行わなくても、気楽に意見交換をするスタンスで行ってほしい。
- FD委員会で担任を対象に、スキルアップのための研修を開催してほしい。

上記意見を踏まえ、次のとおり「学年会議」を開催することが決まった。

なお、運営委員会及び教官会議で報告した後、11月後半の後期中間試験期間中に第1回目を実施する。

- 学級担任及び教科担当教員を対象とした「学年会議」(1年~3年)を開催する。
- 開催は原則月1回とする。し、学年主任が召集する。
- 非常勤講師には報告書を提出していただく。
- 教務係で議事をとり残す。

(出典 拡大教務委員会議事要旨)

1年生学年会議議事録			
日 時	平成18年12月5日(火) 13:30~15:05	場 所	本館会議室
出席者	商船学科(S) 1年副担任:北風 電子機械工学科(M) 1年担任:中澤(国語担当) 情報工学科(I) 1年担任:浦上 副担任:杉野 数学担当:神田, 堤 英語担当:石田 世界史担当:田口 化学担当:杉村 物理担当:上月 専門科目:藤井英(S科), 藤井雅(M科) 教務係 越智		
欠席者	電子機械工学科1年副担任:尾形 専門科目:辻(S科)		
別紙資料に基づき, 浦上学年主任の進行で報告, 意見交換がなされた。 1. 1各クラス担任からの報告			

(出典 1年生学年会議議事録)

1. 2 教科担当教員からの報告

各教科担当教員から各クラスの授業態度、気になる学生、提出物の提出が悪い学生の名前を挙げて報告があった。

1. 3 今後の予定

行事では、マラソン大会が12月19日（火）に開催される。

1年生向け資格試験は、1月28日（日）に実用英語技能検定試験が実施される。

最後に、毎月1回1年生学年会議を実施することが了承され、閉会した。

(出典 1年生学年会議議事録)

3年生学年会議議事概要	
平成18年12月4日(月) 於視聴覚教室 11:00~12:15	
出席者	吉留、岡野内、浦上、石原、古本、橘、尾形、野本、比嘉、吉富、北風、吉田
	教務係 吉村
議 事	
議 事	配布した資料により、吉留学年主任より会議の進行が行われた。 各クラス担任からの報告
学生支援のあり方について	
今後の予定	

(出典 3年生学年会議議事概要)

観点2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程では、クラス正副担任が配置されており、正担任はクラス運営、学習指導、生活指導を行い、副担任はその補佐を努める(資料2-2-③-1)。また、クラス担任をサポートするための担任会は主に学年会議の中で行われ、ホームルームの有効な使い方等について、担任間での情報交換が行われる。また、教務主事室では、主に授業関係、すなわち教員の教育活動、担任業務等が円滑に実施できるように支援を行い、学生の生活指導に関しては学生主事室が担任の支援を行っている。また、クラブ活動については、学生主事室が中心となって、全教員を体育系・文化系クラブの顧問に配置し、3～6名といった複数で指導に当たる(資料2-2-③-2)。これにより、指導の継続性が維持されている。

専攻科では、専攻科委員会において、教育活動全般にわたって審議され、準学士課程における担任と同様の任務を担うのは、専攻科生の研究を指導する指導教員がこれに当たる。

(分析結果とその根拠理由)

クラス担任を支援するための学年会議が実施され、かつ教務主事室・学生主事室も担任の支援に当たっている。クラブ活動では、学生主事室の管理のもとで、全教員が顧問として指導を行う。専攻科では、専攻科委員会が教育活動支援を実施し、各学生に対しては、指導教員が担任としての任務を果たしている。

以上のことから教育活動を円滑に実施するための支援体制は機能している。

平成18年度 副校長、館長等一覧表(敬称略)

副校長(主事)

副校長(教務主事(併))	平畑 幸作
副校長(学生主事(併))	吉田 郁雄
副校長(寮務主事(併))	伊藤 正一

館長・学科長(主任)等

図書館長	岡宅 泰邦
商船学科長(主任)	辻 啓介
電子機械工学科長(主任)	奥野 澄生
情報工学科長(主任)	松井 利幸
一般科目長(主任)	吉富 知行
地域協力センター長	松田 充夫
情報教育センター長	川原 秀夫
学生相談室長	宮奥 正道
専攻科長	藤井 英信

主事補等

教務主事補	古藤 泰美
〃	石田 依子
〃	比嘉 勝也
〃	増山 新二
学生主事補	藤井 敬治
〃	岡野内 悟
〃	田口 由香
〃	北風 裕教
寮務主事補	神田 全啓
〃	清水 聖治
〃	杉野 直規
〃	尾形 公一郎
学生相談室相談員	塩田 宏明
〃	野本 敏生
〃	杉村 佳昭
〃	久保田 崇
専攻科主任	辻 啓介
〃	奥野 澄生
〃	松井 利幸
情報教育副センター長	岡崎 秀俊

学級担任・副学級担任

クラス	学級担任	副学級担任
S実	藤井 英信	三原 伊文
S5	岩崎 寛希	久保田 崇
※S4	角田 哲也	清水 聖治
S3	古本 啓二	杉村 佳昭
S2	新谷 浩一	宮奥 正道
※S1	幸田 三広	北風 裕教
M5	松田 充夫	岡本 正典
M4	一番ヶ瀬 剛	櫛田 直規
※M3	吉留 文男	増山 新二
※M2	藤井 雅之	岡崎 秀俊
M1	中澤 信幸	尾形 公一郎
※I5	岡村 健史郎	塩田 宏明
I4	岡宅 泰邦	海田 健
I3	石原 良晃	野本 敏生
I2	中井 洋史	神田 全啓
I1	浦上 美佐子	杉野 直規

※は学年主任を示す。

(出典 平成18年度副校長、館長等一覧表)

平成18年度クラブ顧問一覧

注：*印同士の重複入部は出来ない

区分	クラブ名	顧問教員	顧問教員	顧問教員	顧問教員	顧問教員	顧問教員
体育部	*カッター	○古藤 泰美	岩崎 寛希	吉留 文男			
	*ヨット	○安尾 英昭	久保田 崇	上月 陽一	杉本 昌弘	朴 鍾 徳	中村 翼
	*ラグビー	○藤井 敬治	北風 裕教	杉野 直規			
	*サッカー	○岡村健史郎	野本 敏生	橋 理恵			
	*バスケット	○辻 啓介	○尾形公一郎	石原 良晃	海田 健		
	*バレー	○藤井 雅之	○清水 聖治	石田 依子	岡野内 悟		
	*硬式野球	○平畑 幸作	幸田 三広	川原 秀夫	吉田 郁雄	田口 由香	
	*ソフトテニス	○浦上美佐子	新谷 浩一	宮奥 正道	森脇 千春		
	*卓球	○神田 全啓	岡本 正典	塩田 宏明			
	*陸上競技	○伊藤 正一	増山 新二	岡崎 秀俊			
	*柔道	○古賀 英司	藤井 英信	岡宅 泰邦			
	*剣道	○三原 伊文	奥野 澄生	中澤 信幸	一番ヶ瀬剛		
	*空手道	○松井 利幸	吉富 知行	田中 一雅			
	*水泳	○中井 洋史	松田 充夫	櫛田 直規			
	*バドミントン	○古本 啓二	杉村 佳昭	角田 哲也			
文化部	*吹奏楽	○吉富 知行	中澤 信幸	岡宅 泰邦			
	園芸	○宮奥 正道	吉田 郁雄	櫛田 直規			
	ES	○吉留 文男	石田 依子	宮奥 正道			
	詩吟	○三原 伊文	安尾 英昭	中村 翼			
	コンピュータ	○神田 全啓	岡野内 悟	北風 裕教	田中 一雅		
	アマチュア無線	○岡野内 悟	塩田 宏明	比嘉 勝也			
	軽音楽	○幸田 三広	中井 洋史	橋 理恵			
	新聞	○中澤 信幸	吉田 郁雄				
	写真	○新谷 浩一	奥野 澄生	北風 裕教			
同好会	文	○辻 啓介	安尾 英昭	上月 陽一			
	茶道	○古藤 泰美	川原 秀夫	田口 由香			
	ロボット	○岡野内 悟	増山 新二	藤井 雅之	清水 聖治		
	少林寺拳法	○野本 敏生	朴 鍾 徳				
	ラジコン	○増山 新二	森脇 千春				
	和太鼓	○吉田 郁雄	吉富 知行				

(出典 平成18年度クラブ顧問一覧)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点) 本校は準学士課程である商船学科，電子機械工学科，情報工学科の3学科と専攻科課程である海洋交通システム学専攻，電子・情報システム工学専攻の2専攻で構成されており，規模が比較的小さいが故に各種委員会や学年会議等を通じての教員間の交流が多く，ワーキンググループや準備委員会によって教育課程や教務関係の取り組みや，定期的な会議による学校内や学科間の諸問題の共有，解決を図っている。また副担任制やクラブへの複数の顧問を配置させることにより，教員一人あたりの負担軽減や，教育指導への継続性，充実性の向上を図っている。

(改善を要する点) 該当なし

(3) 基準2の自己評価の概要

本校は準学士課程として商船学科，電子機械工学科，情報工学科，専攻科として海洋交通システム学専攻及び電子・情報システム工学専攻が設置され，それぞれの学科・専攻科が本校の教育目標に沿った教育を実施している。教育課程では各学科の教育目標を達成し，豊かな創造力，高い教養を身につけた協調性に富む情操豊かな技術者としての資質を身につけるように組み立てられていることから，本校の教育目標の一つである豊かな教養と国際感覚を身につけた，視野の広い技術者を養成することができる適切な教育組織を有している。さらに，情報教育センター，地域協力センターを設置し本校の教育目標を達成する上で適切なものとなっている。

教育活動を展開する上で，教育課程全体を企画調整するため教務委員会が設置されているが，さらに根本的な問題解決の手段として，教務主事の指導の下にワーキンググループや準備委員会を設置し，有効に機能し活動している。また，一般科目と専門科目の担当教員の提携については，平成18年度からの新カリキュラムの開設に伴う学修単位（大学単位）科目の導入に関して，一般科目と専門科目の整合性を維持するために教員間の取り組みが統一された。また低学年においては，月に1回の割合で開催される「学年会議」で，一般科目と専門科目の内容や進捗について学年ごとの担当教員で情報交換を行い，諸問題の共有を図り，統一した学生の教育・指導が実現できるような体制をとり，一般科目と専門科目の提携を強めている。

教育活動の支援体制については，全学年で学級担任を支援する副担任制度を設け，正担任がクラス運営を行い，副担任はその補佐を務めている。またクラス運営をサポートするため，教務主事室が教員の教育活動や担任業務の支援，学生主事室が学生の生活指導の支援を行っている。さらにクラス担任を支援するための学年会議が実施されている。クラブ活動については，全教員を体育系・文化系クラブに顧問を配置し，複数で指導に当たり，指導の継続性が維持されている。専攻科では，専攻科生の研究を指導する指導教員が担任と同様の任務を担っている。以上により本校では学生に対するきめ細かな対応と指導の継続性を向上させた指導体制が機能している。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

一般科目は、高専教育における「くさび型教育」を実現するためにも専門科目と連携して基礎教育を担当する重要な役割を担っているが、そのためにも単に高校レベルの教育を施すに留まらず、専門にも通じるような広い教養が教員には求められる。

そのためにも、本校においては資料3-1- 1に示す一般科目の専任教員を配置しており、博士号取得者を含む国語2名、社会2名、数学3名、英語3名、理科2名、体育2名の計14名を配置して、専門の学科と連携して高専らしい教育の実現に取り組んでいる。

また、低学年における基礎教育の充実と、きめ細やかな教育の実現を目的として、数学4名、外国語(英語、ドイツ語、中国語、ハングル)7名、理科・体育・哲学・国語・音楽・美術・社会に9名、計20名の非常勤講師(外国人教員を含む)を配置している(資料3-1- 2)。

職名 Rank	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects
教授 Professor	吉富 知行 YOSHIDOMI Tomoyuki	数学5 Mathematics 数学概論 Elements of Mathematics
	平畑 幸作 HIRAHATA Kousaku	保健体育 Health&Physical Education
	神田 全啓 KANDA Masahiro	数学3 Mathematics 応用数学特論Ⅱ Applied Mathematics
	吉田 郁雄 YOSHIDA Ikuo	国語 Japanese 日本語 Japanese Language
	宮奥 正道 MIYAOKU Masamichi	英語講読 English Reading 英語特論Ⅰ Advanced course of English I 英語特論Ⅱ Advanced course of English II
	吉留 文男 YOSHIDOME Fumio	英語講読 English Reading 現代英語 Advanced English 実践英語Ⅱ Practical English II 実用技術英語 Practical English
准教授 Associate Professor	野本 敏生 NOMOTO Toshio	現代社会 Contemporary society 法 学 Law 企業と法 Corporate legal affairs 日本事情 Japanese Affairs 技術者倫理 Engineering Ethics
	石田 依子 ISHIDA Yoriko	英語講読 English Reading 現代英語 Advanced English アメリカ文学概論 American Literature 異文化論 Inter-Cultural Studies 実践英語Ⅰ Practical English I

	幸田 三広 KOTA Mitsuhiro	保健体育 Health&Physical Education ボランティア Volunteer
	上月 陽一 KOHZUKI Yoichi	物理 Physics 応用物理学 Applied Physical Science
	杉村 佳昭 SUGIMURA Yoshiaki	化学 Chemistry 化学特論 Advanced course of Chemistry 環境科学 Environmental science
	中澤 信幸 NAKAZAWA Nobuyuki	国語(古典) Japanese 国語 Japanese 日本語学 Japanese linguistics 日本文学概論 Introduction to Japanese Literature
講師 Lecturer	田口 由香 TAGUCHI Yuka	世界史 World History 地歴Ⅱ Geography and HistoryⅡ 日本史概論 Introduction to Japanese History 日本事情 Japanese Affairs
	堤 康嘉 TSUTSUMI Yasuyoshi	数学1 Mathematics 数学4 Mathematics 応用数学特論Ⅰ Advanced course of Applied MathematicsⅠ

(出典 平成19年度本校ホームページ)

－非常勤講師－

資料3－1－ 2

氏名 name		担当科目
磯村 奈美	ISOMURA Nami	英語（英語表現）English
于 泳	YU Yong	中国語 Chinese
大濱 茂生	OHAMA Shigeo	数学 Mathematics
郭 順伊	KAKU Suni	日本文学 Japanese Literature
片桐 信彦	KATAGIRI Nobuhiko	応用物理 Applied Physical
鴨瀬 昌幸	KAMOSE Masayuki	ドイツ語 German
金 信助	KIM Shin Jo	ハンゲル Hangeul
竹崎 嘉彦	TAKESAKI Yoshihiko	地歴Ⅰ Geography and History
ブレイン トニー ルドウィグ	Blayne Tony Ludwig	英語（英会話）English(English Conversation)
中谷 秀明	NAKATANI Hideaki	保健体育 Health & Physical Education
福本 忠男	FUKUMOTO Tadao	保健体育 Health & Physical Education
古川 昭夫	FURUKAWA Akio	音楽 Art
松島 亜香里	MATSUSHIMA Akari	英語（英語演習）English
宮田 憲治	MIYATA Kenji	哲学 Philosophy
森脇 政泰	MORIWAKI Masayasu	数学 Mathematics
山中 順吉	YAMANAKA Jyunkichi	応用数学 Applied Mathematics
山本 興道	YAMAMOTO Kodo	理科総合 Integrated Science
山本 辰昭	YAMAMOTO Tatsuaki	美術 Art
吉永 斉	YOSHINAGA Hitoshi	数学 Mathematics
吉本 満子	YOSHIMOTO Mitsuko	英語（英語演習）English

(出典 平成19年度学校概要)

(分析結果とその根拠理由)

本校の一般科目の教員数（専任14名・非常勤20名）は、各科目の授業実施に過不足のない教員数であり、本校の教育目標達成のために適切に配置されている。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校は、商船系として商船学科、工業系として電子機械工学科と情報工学科の3学科からなり、各科とも設置基準で規定された人数を満足するように教員を適切に配置して教育を実施している。

商船学科では、船舶職員法に基づく三級海技士が取得できる第一種養成施設の指定校の要件を満たす必要があり、また各種の海技免許講習を行う要件を満たす必要があるため、国家資格取得者を含め15名の教員と2名の非常勤講師を配置している(資料3-1-②-1, 2, 3)。また練習船「大島丸」を所有し、船長、機関長、一等航海士、一等機関士である専任教員を適切に配置し対応している(資料3-1-②-4)。本校の教育目標1「豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する」のもと、航海学概論や航海英語、国際物流論などの授業を担当できる教員を配置している。本校の教育目標2「協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する」のもと、航海法規や消火救命、船舶安全学などの授業を担当できる教員を配置している。また本校の教育目標3「探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する」のもと、創造演習や操艇実習、海洋ロボット工学などの授業を担当できる教員を配置しているのが特徴である。これらの教員がそれぞれ偏りなく専門科目の授業を担当している(資料3-1-②-5 a, 5 b)。

電子機械工学科では、専門科目教員11名を配置している。さらに選択科目を中心に、4名の非常勤講師を配置している(資料3-1-②-6)。本校の教育目標1「豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する」のもと、工学セミナーや工業英語、産業電子機械などの授業を担当できる教員を配置している。本校の教育目標2「協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する」のもと、機械設計演習や電子機械演習、実験実習などの授業を担当できる教員を配置している。また本校の教育目標3「探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する」のもと、創造設計や卒業研究、ロボット工学などの授業を担当できる教員を配置しているのが特徴である。これらの教員がそれぞれ偏りなく専門科目の授業を担当している(資料3-1-②-7 a, 7 b)。


また、情報工学科では、専門科目教員11名を配置している。さらに3名の非常勤講師を配置し対応している(資料3-1-②-8)。本校の教育目標1「豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する」のもと、統計学や技術英語、通信システムなどの授業を担当できる教員を配置している。本校の教育目標2「協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する」のもと、生産管理特論や情報工学演習、実験実習などの授業を担当できる教員を配置している。また本校の教育目標3「探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する」のもと、創造演習や卒業研究、プログラミングなどの授業を担当できる教員を配置しているのが特徴である。これらの教員がそれぞれ偏りなく専門科目の授業を担当している(資料3-1-②-9 a, 9 b)。


資料 3 - 1 - ② - 1 商船学科教員一覧

職名 Rank	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	個人ページ Personal Web site
教授 Professor	辻 啓介 TSUJI Keisuke	航海学概論 Basic Seamanship 測位論 Position Fixed System 航路論 Coasting and Ship's Route 外国語演習(航海英語) Navigation English 航路計画論 Marine Traffic planning 交通工学 Transportation planning 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 操艇実習 Practice of Boat Handling 実験実習 Experiments and Practice 交通システム工学 Traffic system Engineering 海洋交通システム学特別研究 Particular Wowks 海洋交通システム学特別実験 Particular Experiments 海洋交通システム学特別演習 Particular Laboratory	
	藤井英信 FUJII Hidenobu	情報処理 Information Processing 航海計測学 Navigational Instrumentation 無線法規 計算機科学 Computer Science 通信工学 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studies 実験実習 Experiments and Practice 海事統計学 Statistics for Maritime Affairs	
	三原伊文 MIHARA Yoshinori	船用機関学概論 Basic Marine Engineering 内燃機関学 Internal-Combustion Engine 内燃機関学特論 Advanced Internal-Combustion Engine	

	<p>エネルギー管理工学 Energy Management 熱機関 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice エネルギー変換工学 Energy Conversion Engineering 海洋交通システム学特別研究 Particular Wowks 海洋交通システム学特別実験 Particular Experiments 海洋交通システム学特別演習 Particular Laboratory</p>	
<p>伊藤正一 ITO Masakazu</p>	<p>電気・電子基礎 Electromagnetics 電気・電子工学 電気機器 電気・電子工学特論 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice 機関システム工学</p>	
<p>古本啓二 FURUMOTO Keiji</p>	<p>計測工学 計測工学特論 燃料・潤滑工学 工業材料 Materials of Machines 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice 消火救命 反応工学 Reaction Engineering</p>	
<p>古藤泰美 KOTOH Yasumi</p>	<p>航海法規 Navigational Laws 海事法規 Maritime Laws 船舶安全学 Maritime Safety 外国語演習(航海英語) Navigation English 海事法規特論 Maritime Laws Advanced 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie</p>	

		<p>実験実習 Experiments and Practice 船舶安全学特論 Maritime Safety Advanced 海洋交通システム学特別研究 Particular Wowks 海洋交通システム学特別実験 Particular Experiments 海洋交通システム学特別演習 Particular Laboratory</p>	
	<p>岩崎寛希 IWASAKI Hiroki</p>	<p>工業力学 Engineering Mechanics 船舶工学 Marine Architecture 船体運動論 Ship Maneuvering 航路論 Coasting and Ship's Route 卒業研究 Graduation Studie 操艇実習 Practice of Boat Handling 創造演習 Creation and Research Practice 実験実習 Experiments and Practice コンピュータシミュレーション Computer Simulation 船舶ヒューマンマシンインターフェース論 Human Interface of Shipping 海洋交通システム学特別研究 Particular Wowks 海洋交通システム学特別実験 Particular Experiments 海洋交通システム学特別演習 Particular Laboratory</p>	
<p>准教授 Associate Professor</p>	<p>角田哲也 SUMIDA Tetsuya</p>	<p>蒸気機関学 I Steam Engine I 蒸気機関学 II Steam Engine II 流体力学 蒸気機関学特論 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice 伝熱工学 Heat Transfer 海洋交通システム学特別研究 Particular Wowks 海洋交通システム学特別実験 Particular Experiments</p>	

		海洋交通システム学特別演習 Particular Laboratory	
	清水聖治 SHIMIZU Seiji	設計製図 Design and Drawing 機械設計 Mechanical Design 制御工学 Control Engineering システム制御工学 System Control Engineering 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice 実験実習(消火救命) Experiments and Practice 海洋ロボット工学	
	川原秀夫 KAWAHARA Hideo	熱力学 Thermodynamics 材料力学 Mechanics of Materials 燃焼工学 Combustion Engineering 熱流体力学 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice 燃焼工学特論 Combustion Engineering Advanced 海洋交通システム学特別研究 Particular Works 海洋交通システム学特別実験 Particular Experiments 海洋交通システム学特別演習 Particular Laboratory	
講師 Lecturer	新谷浩一 SHINTANI Koichi	物流システム 船舶載貨論 海運論 国際物流論 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice 流通ターミナル論 Terminal Planning	
助教	北風裕教	情報処理 Information Processing	

Assistant Professor	KITAKAZE Hironori	電気・電子基礎 Electromagnetics 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice 電子・情報システム工学特別研究 Advanced Course of Electronics and Information Systems	
	久保田崇 KUBOTA Takashi	航海学概論 Basic Seamanship 測位論 Position Fixed System 外国語演習(航海英語) Navigation English 卒業研究 Graduation Studie 創造演習 Creation and Research Practice 操艇実習 Practice of Boat Handling 実験実習 Experiments and Practice	
	朴 鍾徳 PARK Jongdoc	補助機械工学 Auxiliary Machinery 冷凍空調工学特論 Refrigeration&Air Conditioning Advanced 冷凍・空調工学 Refrigeration&Air Conditioning 補助機械工学特論 Auxiliary Machinery Advanced 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice	
	森脇千春 MORIWAKI Chiharu	海洋気象学 気象特論 Advanced Course of Meteorology 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice	

(出典 平成19年度本校ホームページ)

－非常勤講師－

氏名 name	担当科目
嶋 元 徹 SHIMAMOTO Toru	船舶衛生学 Ship Medical Practice
山 中 達 彦 YAMANAKA Tatsuhiko	船舶衛生学 Ship Medical Practice

(出典 平成19年度学校概要)

資料3-1-②-2 船舶職員養成施設対応部分

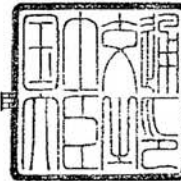


船舶職員養成施設登録証

国海資第137号の16
平成16年8月31日

独立行政法人 国立高等専門学校機構
理事長 内藤 喜之 殿

国土交通大臣



平成16年8月10日付け高機総第57-4号をもって登録申請のあった船舶職員養成施設について、船舶職員及び小型船舶操縦者法第13条の2第1項に規定する船舶職員養成施設として、下記のとおり登録する。

記

1. 登録年月日	平成16年8月31日
2. 登録番号	第38号
3. 登録船舶職員養成実施機関の氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、代表者の氏名	独立行政法人国立高等専門学校機構 大島商船高等専門学校 山口県大島郡大島町大字小松1091-1 校長 和氣 博嗣
4. 登録船舶職員養成を行う事務所の名称及び所在地	独立行政法人国立高等専門学校機構 大島商船高等専門学校商船学科 山口県大島郡大島町大字小松1091-1
5. 登録船舶職員養成施設の種類	三級海技士（航海）第一種養成施設 （商船学科航海コース） 三級海技士（機関）第一種養成施設 （商船学科機関コース）
6. 登録の期間	登録年月日から3ヵ年
7. 登録船舶職員養成の開始日	平成16年8月27日



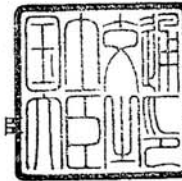
(出典 船舶職員養成施設登録証)



海技免許講習登録証

国海資第137号の15
平成16年8月31日

独立行政法人 国立高等専門学校機構
理事長 内藤 喜之 殿



国土交通大臣

平成16年8月10日付け高機総第58-4号をもって登録申請のあった海技免許講習について、船舶職員及び小型船舶操縦者法第4条第2項の規定に基づく海技免許講習として、下記のとおり登録する。

記

1. 登録年月日	平成16年8月31日
2. 登録番号	第41号
3. 登録海技免許講習実施機関の氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、代表者の氏名	独立行政法人国立高等専門学校機構 大島商船高等専門学校 山口県大島郡大島町大字小松1091-1 校長 和氣 博嗣
4. 登録海技免許講習の種類	レーダー観測者講習 レーダー・自動衝突予防援助装置シミュレータ講習 救命講習、消火講習 上級航海英語講習、上級機関英語講習
5. 登録海技免許講習を行う事務所の名称及び所在地	独立行政法人国立高等専門学校機構 大島商船高等専門学校 商船学科航海コース及び機関コース 山口県大島郡大島町大字小松1091-1
6. 登録の期間	登録年月日から3ヵ年
7. 登録海技免許講習の開始日	平成16年8月27日



(出典 海技免許講習登録証)

資料3-1-②-4 大島丸教員一覧

練習船「大島丸」/Training Ship "Oshima-Maru"		
准教授 Associate Professor	船長 Captain 藤井敬治 FUJII Keiji	船舶整備論 Shipboard maintenance 外国語演習(航海英語) Navigation English 卒業研究 Graduation Studie 操艇実習 Practice of Boat Handling 創造演習 Creation and Research Practice 実験実習 Experiments and Practice
	機関長 Chief Engineer 古賀英司 KOGA Eishi	外国語演習(機関英語) 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice
助教 Assistant Professor	一等航海士 Chief officer 本木 久也 MOTOGI Hisaya	船舶整備論 Shipboard maintenance 外国語演習(航海英語) Navigation English 卒業研究 Graduation Studie 操艇実習 Practice of Boat Handling 創造演習 Creation and Research Practice 実験実習 Experiments and Practice
	一等機関士 First Engineer 杉本昌弘 SUGIMOTO Masahiro	外国語演習(機関英語) 海事法規 Maritime Laws オーラルコミュニケーション Oral Communication 創造演習 Creation and Research Practice 卒業研究 Graduation Studie 実験実習 Experiments and Practice

(出典 平成19年度本校ホームページ)

商船学科平成18年度前期授業時間表

商船学科平成18年度後期授業時間表

Table with columns for course name, month, and days 1-8. Rows include courses like 伊藤, 岩崎, 川原, 北風, 久保田, 古賀, 古藤, 清水, 新谷, 杉本, 角田, 辻, 藤井英, 藤井敏, 古本, 三原, 森脇, 安尾, 嶋元, 松本, 岩田.

Table with columns for course name, month, and days 1-8. Rows include courses like 伊藤, 岩崎, 川原, 北風, 久保田, 古賀, 古藤, 清水, 新谷, 杉本, 角田, 辻, 藤井英, 藤井敏, 古本, 三原, 森脇, 安尾, 嶋元.

(出典 商船学科平成18年度前期・後期授業時間表)

資料 3 - 1 - ② - 6 電子機械工学科教員一覧

職名 Rank	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects
教授 Professor	奥野 澄生 OKUNO Sumio	機構学 Theory of Mechanism 材料力学 Strength of Materials 電子機械特論 I Advanced Course I of Electronic-Mechanical Engineering 機械力学 Dynamics of Machinery 創造設計 Introduction to Creative Design 工学セミナー Engineering Seminar 電子機械演習 Mechatronic-electronic Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies 構造強度設計 Strength design of structures
	岡本 正典 OKAMOTO Masanori	材料学 Engineering Materials 機械設計 Mechanical Design 機械設計演習 Exercises of Machine Design 工業材料 工学セミナー Engineering Seminar 電子機械演習 Mechatronic-electronic Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies 工業材料学 Engineering Materials 電子・情報工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems 電子・情報工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems
	榎田 直規 KUSHIDA Naoki	制御工学 知能情報工学 システム制御工学 制御システム工学

		<p>創造設計 Introduction to Creative Design</p> <p>工学セミナー Engineering Seminar</p> <p>電子機械演習 Mechatronic-electronic Practice</p> <p>実験実習 Engineering Experiments</p> <p>卒業研究 Graduation Studies</p> <p>人間感性システム特論</p> <p>電子・情報工学特別研究 Thesis Works</p> <p>電子・情報工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems</p> <p>電子・情報工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems</p>
	<p>一番ヶ瀬 剛</p> <p>ICHIBAKASE</p> <p>Tsuyoshi</p>	<p>電子回路 Electronic Circuit</p> <p>センサ画像工学</p> <p>電子応用 Applied Electronics</p> <p>創造設計 Introduction to Creative Design</p> <p>工学セミナー Engineering Seminar</p> <p>電子機械演習 Mechatronic-electronic Practice</p> <p>実験実習 Engineering Experiments</p> <p>卒業研究 Graduation Studies</p> <p>電気機器特論 Electric equipment Engineering</p>
	<p>松田充夫</p> <p>MATSUDA</p> <p>Nobuo</p>	<p>プログラミング応用 Applied Programming</p> <p>マイコン基礎</p> <p>数値解析</p> <p>計算機システム</p> <p>デジタル画像処理</p> <p>創造設計 Introduction to Creative Design</p> <p>工学セミナー Engineering Seminar</p> <p>電子機械演習 Mechatronic-electronic Practice</p> <p>実験実習 Engineering Experiments</p> <p>卒業研究 Graduation Studies</p>

		<p>メディア情報ネットワーク論 Media information and network</p> <p>電子・情報工学特別演習 Advanced Experiments of Electronics and Information Systems</p>
<p>准教授 Associate Professor</p>	<p>岡野内 悟 OAKANOUCHI Satoru</p>	<p>機械工作 Mechanical Technology</p> <p>創造設計 Introduction to Creative Design</p> <p>ロボット工学 I Robot Engineering I</p> <p>プログラミング応用 Applied Programming</p> <p>工学セミナー Engineering Seminar</p> <p>電子機械演習 Mechatronic-electronic Practice</p> <p>実験実習 Engineering Experiments</p> <p>卒業研究 Graduation Studies</p> <p>電子制御工学 Electric Control Engineering</p> <p>電子・情報工学特別研究 Thesis Works</p> <p>電子・情報工学特別演習 Advanced Experiments of Electronics and Information Systems</p>
	<p>増山 新二 MASUYAMA Shinji</p>	<p>電気回路 Electric Circuit</p> <p>デジタル回路 Digital Circuit</p> <p>超電導工学 Superconducting Engineering</p> <p>創造設計 Introduction to Creative Design</p> <p>工学セミナー Engineering Seminar</p> <p>電子機械演習 Mechatronic-electronic Practice</p> <p>実験実習 Engineering Experiments 電子物性工学 Electronic Physical Properties Engineering</p> <p>電子・情報工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems</p> <p>電子・情報工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems</p>

	<p>岡崎 秀俊 OKAZAKI Hidetoshi</p>	<p>プログラミング基礎 Basic Programming デジタル信号処理 Digital Signal Processing マイコン応用 Computer Organization 創造設計 Introduction to Creative Design 工学セミナー Engineering Seminar 電子機械演習 Mechatronic-electronic Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies デジタルシステム Digital System 電子・情報工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems 電子・情報工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems</p>
	<p>藤井 雅之 FUJII Masayuki</p>	<p>デザイン基礎 Basic Design 電気基礎 Fundamentals of Electromagnetics デザイン応用 Advanced Design 創造設計 Introduction to Creative Design 工学セミナー Engineering Seminar 電子機械演習 Mechatronic-electronic Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies 高電圧工学特論 Advanced High Voltage Engineering 電子・情報工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems 電子・情報工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems</p>
<p>講師 Lecturer</p>	<p>尾形 公一郎 OGATA Kouichiro</p>	<p>熱流体力学 熱流体工学 工業力学 創造設計 Introduction to Creative Design</p>

		工学セミナー Engineering Seminar 電子機械演習 Mechatronic-electronic Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies
助教 Assistant Professor	中村 翼 NAKAMURA Tsubasa	情報リテラシー 情報処理演習

(出典 平成19年度本校ホームページ)

—非常勤講師—

氏名 name	担当科目
奥本 剛直 OKUMOTO Yoshinao	工業英語 Technical English
掛樋 豊 KAKEHI Yutaka	電子機械特論Ⅱ Advanced Course Mechatronic-electronic
佐藤 和雅 SATO Kazumasa	電子機械特論Ⅲ Advanced Course Mechatronic-electronic
八木 喬 YAGI Takashi	ロボット工学Ⅱ Robot Engineering

(出典 平成19年度学校概要)

資料3-1-②-7a

資料3-1-②-7b

電子機械工学科平成18年度前期授業時間表


電子機械工学科平成18年度後期授業時間表


教員名	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
一番井																																								
同崎																																								
同野内																																								
同本																																								
尾形																																								
奥野																																								
柳田																																								
中村真																																								
藤井雅																																								
柳山																																								
奥本																																								
岩崎文																																								
片桐																																								
金谷																																								
佐藤																																								

教員名	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
一番井																																								
同崎																																								
同野内																																								
同本																																								
尾形																																								
奥野																																								
柳田																																								
中村真																																								
藤井雅																																								
柳山																																								
奥本																																								
岩崎文																																								
片桐																																								
金谷																																								
佐藤																																								


(出典 電子機械工学科平成18年度前期・後期授業時間表)

資料 3 - 1 - ② - 8 情報工学科教員一覧

職名 Rank	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	個人ページ Personal Web site
教授 Professor	松井 利幸 MATSUI Toshiyuki	データベース Data Base 技術英語 Technical English 信頼性工学 Reliability Engineering 情報工学演習 Information Engineering Practice 信頼性工学概論 創造演習 Creation and Research Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies エキスパートシステム 電子・情報システム工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems 電子・情報システム工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems	
	塩田 宏明 SHIOTA Hiroaki	通信工学 計算機アーキテクチャーⅡ ネットワークアーキテクチャ 情報ネットワーク 情報工学演習 Information Engineering Practice 通信システム 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies 通信ネットワーク工学 Network Technology 電子・情報システム工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems	
	岡宅 泰邦 OKATAKU Yasukuni	情報数学 計算機アーキテクチャーⅠ 情報理論	

		<p>応用数学Ⅱ・パターン認識 ソフトウェア工学 創造演習 Creation and Research Practice 情報工学演習 Information Engineering Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies 言語理論とオートマトン automaton 電子・情報システム工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems 電子・情報システム工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems</p>	
	<p>松田 俊 MATUDA Takashi</p>	<p>統計学 Statistics 数値計算 Numerical Computation 弾性体力学 Physics of Elasticity 情報工学演習 Information Engineering Practice 創造演習 Creation and Research Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies 数値解析特論 Advanced Course of Numerical Analysis 電子・情報システム工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems 電子・情報システム工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems</p>	
<p>准教授 Associate Professor</p>	<p>岡村 健史郎 OKAMURA Kenshiro</p>	<p>プログラミングⅡ Programming LanguageⅡ 情報工学演習 Information Engineering Practice オペレーティングシステム Operating System データ構造とアルゴリズム Data Structure and Algorithm システムプログラム System Program 情報工学演習 Information Engineering</p>	

		<p>Practice 創造演習 Creation and Research Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies 認識工学 Pattern Recognition 電子・情報システム工学特別研究 Thesis Works 電子・情報システム工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems 電子・情報システム工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems</p>	
	<p>石原 良晃 ISHIHARA Yoshiaki</p>	<p>情報工学演習 Information Engineering Practice 数理計画法 Mathematical Programming 生産管理 Production Control オペレーションズリサーチ Operations Research 情報工学演習 Information Engineering Practice 創造演習 Creation and Research Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies 生産管理特論 電子・情報システム工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems 電子・情報システム工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems</p>	
	<p>比嘉 勝也 HIGA Katsuya</p>	<p>電気基礎・電気回路 Electric circuits technology アナログ電子回路 Analog electronics circuits technology デジタル電子回路 Digital electronics circuits technology デジタル・アナログ集積回路 Analog&Digital</p>	

		<p>integrated Circuits technology 情報工学演習 Information Engineering Practice 創造演習 Creation and Research Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies 集積回路工学特論 Integrated circuits physics and technology 電子・情報システム工学特別演習 Advanced Experiments of Electronics and Information Systems 電子・情報システム工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems</p>	
講師 Lecturer	<p>杉野 直規 SUGINO Tadanori</p>	<p>プログラミング I Programming Language I コンピュータグラフィックス Computer Graphics 制御工学 Control Technology 信号処理 Signal Processing CAD/CAM 情報工学演習 Information Engineering Practice 創造演習 Creation and Research Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies 画像処理 Image Processing 電子・情報システム工学特別演習 Advanced Experiments of Electronics and Information Systems</p>	
	<p>浦上 美佐子 URAKAMI Misako</p>	<p>コンピュータリテラシー 情報工学概論 画像工学 情報処理演習 Information Engineering Practice 創造演習 Creation and Research Practice 情報工学演習 Information Engineering Practice 実験実習 Engineering Experiments</p>	

		卒業研究 Graduation Studies 電子・情報システム工学特別研究 Thesis Works	
助教 Assistant Professor	橘 理恵 TACHIBANA Rie	情報工学演習 Information Engineering Practice プログラミングⅢ Programming LanguageⅢ コンピュータ解析法 Computer Analysis Method 情報工学演習 Information Engineering Practice 創造演習 Creation and Research Practice プログラミング Programming Language 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies	
助手 Assistant	海田 健 KAITA Takeshi	情報工学演習 Information Engineering Practice 創造演習 Creation and Research Practice 実験実習 Engineering Experiments 卒業研究 Graduation Studies	

—非常勤講師—

氏名 name	担当科目
伊藤 暁 ITO Akira	情報工学特論Ⅲ Advanced Course of Information Science
山中 逸郎 YAMANAKA Itsuro	情報工学特論Ⅱ Advanced Course of Information Science
渡邊 大輔 WATANABE Daisuke	情報工学特論Ⅰ Advanced Course of Information Science

(出典 平成19年度学校概要)

資料3-1-②-9a

資料3-1-②-9b

情報工学科平成18年度前期授業時間表

情報工学科平成18年度後期授業時間表

教員名	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
石原					[実14] 5	HR3	[特D1] 8																																	
浦上					[実14] 4	HR1	[特D1] 8																																	
岡本					[実14] 5	HR4	[特D1] 8																																	
岡村					[実14] 5	HR5	[特D1] 8																																	
海田					[実14] 5	HR4	[特D1] 8																																	
堀田					[実14] 5	HR5	[特D1] 8																																	
杉野					[実14] 5	HR1	[特D1] 8																																	
磯																																								
田中					[実14] 3																																			
比嘉					[実14] 2																																			
松井					[実14] 5		[特D1] 8																																	

教員名	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
石原					[実14] 5	HR3	[特D1] 8																																	
浦上					[実14] 5	HR1	[特D1] 8																																	
岡本					[実14] 5	HR4	[特D1] 8																																	
岡村					[実14] 5	HR5	[特D1] 8																																	
海田					[実14] 5	HR4	[特D1] 8																																	
堀田					[実14] 5	HR5	[特D1] 8																																	
杉野					[実14] 5	HR1	[特D1] 8																																	
磯																																								
田中					[実14] 3																																			
比嘉					[実14] 2																																			
松井					[実14] 5		[特D1] 8																																	

(出典 情報工学科平成18年度前期・後期授業時間表)

(分析結果とその根拠理由)

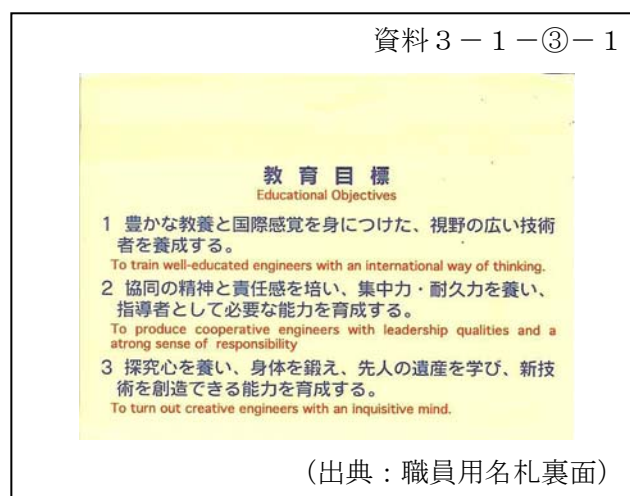
本校の商船学科は、船員教育を実施するための教育科目を有する。一方、電子機械工学科と情報工学科は工業技術者を養成する教育科目を有する。したがって幅広く、かつ先端的な分野を取り扱う必要があり、それに対応するため専門科目の教員及び非常勤講師を配置している。本校の教育目標を達成させるために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されている。

観点 3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校では、商船学科を母体とした「海洋交通システム学専攻」と電子機械工学科及び情報工学科を母体とした「電子・情報システム工学専攻」の2専攻で専攻科が構成されており、本学教育目標(資料3-1-③-1)、専攻科における教育目標(主目標)である「優れた専門性と豊かな人間性を有する高度な海事技術者と実践的開発技術者の育成」及び2専攻共通の教育目標(副目標)である「国際化教育により、語学力や文化的教養の育成」及び「福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成」(資料3-1-③-2)を達成するために、専攻科における一般科目教育課程及び専門科目教育課程には博士、修士及びそれに順ずる能力を有する教員を配置している。(資料3-1-③-3～-12)

資料 3-1-③-1



(出典：職員用名札裏面)

資料 3-1-③-2

1 専攻科の趣旨等

(1) 専攻科の趣旨

近年のIT化に伴う産業の急激な高度化に伴い、産業構造の変化、経営効率による生産拠点の海外への移転が起り、また、外国人船員の我が国商船(経済的支配船)への急激な増加が生じている。さらに、我が国企業の9割以上を占める中小企業のさらなる高度化による地域の活性化のため、産官学連携が進もうとしている。これら産業界に卒業生を送り込んだ本校は船舶職員としての海運技術者、ものづくりのできる実践的技術者を育成してきた。しかし、産業界からも、高度な研究開発能力を持つが、学問的な大学学部と一線を画した実践的な技術者育成を本校に求めるようになってきた。また、海運界においても、海運界存続のため、陸上においてこれら経済的支配船の船舶運航管理を行える、高度で幅広い管理能力を有する海事技術者育成を本校に求めるようになってきた。また、地域に根ざす高度な実践的開発技術者の育成は、最近の少子化傾向や経済的事情に伴う地元への就職希望と高学歴志向の増加にも応え得るものである。

本校はこれら産業界からの要請、また、学生・保護者、地域からの要請に対応すべく、現在の本科の上に、海洋交通システム学専攻と電子・情報システム工学専攻の2専攻科の設立を希望している。本校専攻科は以下に示す教育目標を掲げている。

優れた専門性と豊かな人間性を有する

高度な海事技術者と実践的開発技術者の育成

- ◎海洋を中心とした国際物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成
- ◎電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成
- ◎IT教育により、高度なコンピュータ援用能力の育成
- ◎国際化教育により、語学力や文化的教養の育成
- ◎福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成

故に、本校専攻科を修了した学生が、大学評価・学位授与機構が行う学士の学位授与制度へ申請し、学位授与への途が開けるようにするため、本校専攻科の認定を申し出る。

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書 抜粋)

一般科目教育課程では、本科の教育目標（資料3-1-③-1）、専攻科の教育目標の主目標のキーワードである「豊かな人間性」及び副目標の「国際化教育により、語学力や文化的教養の育成」を達成するため、語学系科目（実践英語Ⅰ,Ⅱ）に准教授2名、文化的素養理解のための科目（異文化論、日本文学論）に准教授2名を配置している。また「福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成」（資料3-1-③-2）を達成するための科目（技術者倫理、ボランティア）では企業出身の教員（教授1名）及び准教授2名を配置している（平成19年度現在）（資料3-1-③-3, -4, -7, -8, -11, -12）。

専門科目教育課程では、本学の教育目標（資料3-1-③-1）、専攻科の教育目標の主目標のキーワードである「優れた専門性」及び副目標である海洋交通システム学専攻の教育目標（副目標）の「海洋を中心とした国際物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成」、電子・情報システム工学専攻の教育目標（副目標）の「電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成」、さらに2専攻共通の教育目標（副目標）の「IT教育により、高度なコンピュータ支援能力の育成」（資料3-1-③-2）を達成するため、商船学科、電子機械工学科、情報工学科及び一般科に属する博士、修士及びそれに順ずる能力を有する教員を配置している（資料3-1-③-3～-12）。

専門共通科目群には本科3学科（商船学科より教授1名、准教授2名、電子機械工学科より教授2名、情報工学科より教授1名）の教員及び一般科目担当の教員（教授1名、准教授5名）のすべての学科で分担している。特に専攻科2専攻の共通の教育目標である「高度なコンピュータ支援能力」を達成するため必修科目にはコンピュータシミュレーション技術の業績のある教員を配置し、さらに技術者の素養となる専門英語教育の教員及び数学の応用力強化を担う教員を配置している。また選択科目には、本科3学科において準学士課程における教育経験の豊富な教員（教授5名、准教授4名）を配置している（資料3-1-③-3～-12）。

専門専攻科目には本科3学科（商船学科、電子機械工学科および情報工学科）よりその専門分野及びこれまでの業績を考慮して教員を配置している。海運管理者および工業技術者育成の中心となる特別研究においては、学位取得者（博士）を中心に、それに準ずる指導能力を有する教員を配置している（資料3-1-③-3～-12）。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科における、基礎教育を担う一般科目及び専門共通科目は本学一般科の教員のみならず3学科から教員を配置しており、学生は出身学科以外の教員の講義を受講し、指導を受けることで、本学教育目標にもある「技術者としての視野を広げること」を達成できると考えられる。またボランティアを担当する教員を配置しており、本学教育目標の「協同の精神と責任感」及び専攻科の教育目標である「豊かな人間性」を達成することができると考えられる。さらに専攻科の教育目標また、専門専攻科目は、教員の研究業績を参考として科目を設定し、学生はより専門性を深めた講義を受講することで本学及び専攻科の教育目標である「探究心」、「優れた専門性」を達成できると考えられる。また特別研究への教員の配置については、研究業績審査（資料3-1-③-5～-12）により審査を受けた教員を配置しており、学生は十分な研究業績を持つ教員のもとで特別研究を行うことができる。よって専攻科における教員の配置は、本学及び専攻科の教育目標を達成するにおいて適切である。

資料3-1-③-3

5. 教育課程表および授業科目関連表

海洋交通システム学専攻

区分	必修 選択 の別	授業科目	単位数	学年所配当				講義 実 験 演習 の区別	担当者
				1年		2年			
				秋学期	春学期	秋学期	春学期		
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	2	2				講義 石田	
		履修単位数	2単位(必修)						
	選択	ボランティア	1	1				実験 幸田	
		実践英語Ⅱ	2		2			講義 吉留	
		異文化論	2		2			講義 石田	
		技術者倫理	2	2				講義 野本、奥野	
		日本文学概論	2		2			講義 中野	
	開設単位数	9							
	履修単位数	4単位以上(ボランティアを含むと5単位以上)							
専門共通科目	必修	実用技術英語	2	2				講義 吉留	
		応用数学特論Ⅰ	2	2				講義 塚	
		コンピュータシミュレーション	2	2				講義 岩崎	
		履修単位数	6単位(必修)						
	選択	応用数学特論Ⅱ	2		2			講義 神田	
		応用物理科学	2		2			講義 上月	
		環境科学	2	2				講義 杉村	
		工業材料科学	2		2			講義 岡本	
		数値解析特論	2		2			講義 松田	
		構造強度設計	2			2		講義 奥野	
		電気機器特論	2		2			講義 一番砂瀬	
		伝熱工学	2			2		講義 角田	
		開設単位数	16						
	履修単位数	10単位以上							
必修	海洋交通システム学特別研究	16	2	2	6	6	実験	担当教員	
	海洋交通システム学特別実験	4	2	2			実験	担当教員	
	海洋交通システム学特別演習	4		2	2		演習	担当教員	
	履修単位数	24単位(必修)							
専門専攻科目	選択	インターンシップ	2		2			専攻科長	
	交通システム工学	2	2				講義 辻		
	海事統計学	2	2				講義 藤井(英)		
	海洋ロボット工学	2			2		講義 清水		
	機関システム工学	2	2				講義 伊藤		
	船舶安全学特論	2	2				講義 古藤		
	流過ターミナル論	2			2		講義 新谷		
	船体運動学特論	2				2	講義 岩崎		
	船舶ヒューマンマシンインタフェース論	2	2				講義 岩崎		
	エネルギー変換工学	2		2			講義 三原		
	反応工学	2			2		講義 古本		
	冷凍空調システム工学	2				2	講義 塚山		
	燃焼工学特論	2				2	講義 川原		
		開設単位数	26						
	履修単位数	16単位以上(インターンシップを含めると18単位以上)							
一般・専門科目 開設単位数合計			83						
修得単位数合計			82単位以上(ボランティア・インターンシップを含まない。)						

(出典：専攻科シラバス(平成19年度版))

資料3-1-③-4

電子・情報システム工学専攻

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当				講義・実 験・演習 の区別	担 当 者	
				1 年		2 年				
				前 期	後 期	前 期	後 期			
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	2	2				講義	石田	
		履修単位数	2単位 (必修)							
	選択	ボランティア	1		1			実験	幸田	
		実践英語Ⅱ	2			2		講義	吉留	
		異文化論	2	2				講義	石田	
		技術者倫理	2		2			講義	野本	
		日本文学概論	2	2				講義	中野	
		開設単位数	9							
		履修単位数	4単位以上 (ボランティアを含めると5単位以上)							
専門共通科目	必修	実用技術英語	2		2			講義	吉留	
		応用数学特論Ⅰ	2		2			講義	堤	
		コンピュータシミュレーション	2		2			講義	岩崎	
		履修単位数	6単位 (必修)							
	選択	応用数学特論Ⅱ	2	2				講義	神田	
		応用物理学	2	2				講義	上月	
		環境科学	2				2	講義	杉村	
		工業材料学	2			2		講義	阪本	
		数値解析特論	2	2				講義	松田	
		構造強度設計	2		2			講義	奥野	
		電気機器特論	2			2		講義	一番ヶ通	
		伝熱工学	2				2	講義	角田	
		開設単位数	16							
		履修単位数	10単位以上							
		専門専攻科目	必修	電子・情報システム工学特別研究	18	2	2	6	6	実験
電子・情報システム工学特別実験	4			2	2			実験	担当教員	
電子・情報システム工学特別演習	2				2			演習	担当教員	
電子・情報システム工学特論	2				2			講義	専攻科長	
履修単位数	24単位 (必修)									
選択	インターンシップ		2	2				実験	専攻科長	
	画像処理		2			2		講義	杉野	
	電子物性工学		2	2				講義	増山	
	集積回路工学特論		2	2				講義	比嘉	
	高電圧工学特論		2			2		講義	藤井	
	電子制御工学		2	2				講義	岡野内	
	デジタルシステム		2		2			講義	面崎	
	メディア情報ネットワーク論		2	2				講義	松田	
	エキスパートシステム		2		2			講義	松井	
	通信ネットワーク工学		2	2				講義	塩田	
	認識工学		2			2		講義	岡村	
	言語理論とオートマトン		2		2			講義	岡宅	
	生産管理特論		2		2			講義	石原	
	人間感性システム特論		2			2		講義	柳田	
	開設単位数		28							
	履修単位数		16単位以上 (インターンシップを含めると18単位以上)							
	一般・専門科目開設単位数合計			85						
修得単位数合計			62単位以上 (ボランティア・インターンシップを含まない。)							

(出典：専攻科シラバス (平成19年度版))

様式第3号

学長又は校長及び専攻科の授業科目を担当する
教員の氏名、経歴の概要等を記載した書類

(専攻科 海洋交通システム学専攻)

個人 調査 書の 番号	専任・兼担・兼任の別	職名	ふりがな 氏名(性別) 生年月日(年齢) (就任(予定)年月)	担当授業 科目名	毎週担当 授業時数			学 歴 等		教 歴	著書・学 術論文等 の数	現 職 (就任年月日)	
					講 義	演 習	実 験・ 実習	計	卒業大学(学 校)学部学科 名及び卒業 年月				学位の種類 並びに修了 大学院研究 科名及び修 了年月
		校長	わけ ひろつぐ 和氣 博嗣 (男) (平17.4)										
1	専任	教授	みはら よしのり 三原 伊文 (男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 インターンシップ エネルギー変換工学	春2	0.4	春2	24 0.5 24.9	春4				
2	専任	教授	ふくだに つねお 福谷 恒男 (男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 船体運動学特論	春2	0.4	春2	24 0.5 24.9	春2				
3	専任	教授	なかむら たかや 中村 隆哉 (男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 冷凍空調システム工学	春2	0.4	春2	24 0.5 24.9	春2				
4	専任	教授	いとう まさかず 伊藤 正一 (男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 電気機器特論 機関システム工学	春2 秋2		春2 秋2	24 0.5 24.5	春2 秋2				
5	専任	教授	つじ けいすけ 辻 啓介 (男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 交通システム工学 流通ターミナル論	秋2 秋2	0.8	秋2 秋2	48 0.5 49.3	秋4				
6	専任	助教授	ふるもと けいじ 古本 啓二 (男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 反応工学論	秋2	0.4	秋2	24 0.5 24.9	秋2				

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書 抜粋)

(専攻科 海洋交通システム学専攻)

個人調査の番号	専任・兼任・兼任の別	職名	ふりがな氏名(性別) 生年月日(年齢) (就任(予定)年月)	担当授業 科目名	毎週担当			計	学歴等		教歴	著書・学術論文等の数	現職 (就任年月日)
					講義	演習	実験・実習		卒業大学(学校)学部学科名及び卒業年月	学位の種類並びに修了大学院研究科名及び修了年月			
7	専任	助教授	ことり やすみ 古藤 泰美(男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 船舶安全学特論	秋2	0.4	24 0.5	24.9 秋2					
8	専任	助教授	いwasaki ひろき 岩崎 寛希(男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 コンピュータシミュレーション 船舶ヒューマンマシンインターフェース論	秋2 秋2	0.4	24 0.5	24.9 秋4					
9	専任	助教授	たかた いさお 高田 功(男) (平17.4)	応用数学特論 I	秋2			秋2					
10	専任	助教授	しみず せいじ 清水 聖治(男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 海洋ロボット工学	秋2	0.4	24 0.5	24.9 秋2					
11	専任	講師	なかい ひろみ 中井 洋史(男) (平17.4)	応用数学特論 II	春1			春1					
12	専任	講師	すぎむら よしあき 杉村 佳昭(男) (平17.4)	環境科学	秋2			秋2					

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書 抜粋)

(専攻科 海洋交通システム学専攻)

個人調査の番号	専任・兼任・別担・兼任の職名	ふりがな氏名(性別) 生年月日(年齢) (就任(予定)年月)	担当授業 科目名	毎週担当			学歴等 卒業大学(学校)学部学科名及び卒業年月	学位の種類並びに修了大学院研究科名及び修了年月	教歴	著書・学術論文等の数	現職 (就任年月日)
				講義	演習	実験・実習					
13	兼担 教授	おかもと まさのり 岡本 正典 (男) (平17.4)	工炭材科学	春2							
旧 14	兼担 教授	おくの すみお 奥野 澄生 (男) (平17.4)	構造強度設計	秋2							
新 14	兼担 教授	おくの すみお 奥野 澄生 (男) (平17.4)	構造強度設計 技術者倫理	秋2 秋0.3							
15	兼担 教授	たなか かずまさ 田中 一雅 (男) (平17.4)	数値解析特論	春2							
16	兼担 教授	ふじい ひでのぶ 藤井 英信 (男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 海事統計学	秋2	0.4	24 0.5	24.9 秋2				
17	兼担 教授	かんだ まさひろ 神田 全啓 (男) (平17.4)	応用数学特論 II	春1							
18	兼担 教授	よしだ いくお 吉田 郁雄 (男) (平17.4)	日本文学概論	春2							
19	兼担 助教授	ささい ゆうじ 佐々井 祐二 (男) (平17.4)	応用物理学	春2							

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書 抜粋)

(専攻科 海洋交通システム学専攻)

個人 調書 の 番号	専任・ 兼任 別担 兼任 の 職名	ふりがな 氏名(性別) 生年月日(年齢) (就任(予定)年月)	担当授業 科目名	毎 週 授 業		担 当 時 数		学 歴 等		教 歴	著 書・学 術論文等 の 数	現 職 (就任年月日)
				講 義	演 習	実 験・ 実 習	計	卒業大学(学 校)学部学科 名及び卒業 年月	学位の種類 並びに修了 大学院研究 科名及び修 了年月			
旧 新	20	兼担 助教授	すみだ てつや 角田 哲也 (男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 伝熱工学	秋2	0.4	24 0.5	24.9 秋2				
	21	兼担 助教授	よしどめ ふみお 吉留 文男 (男) (平17.4)	実践英語II 実用技術英語	春2 秋2		春2 秋2					
	22	兼担 助教授	のもと としお 野本 敏生 (男) (平17.4)	技術者倫理	秋2			秋2				
	22	兼担 助教授	のもと としお 野本 敏生 (男) (平17.4)	技術者倫理	秋1.7			秋1.7				
	23	兼担 助教授	いしだ よりこ 石田 依子 (女) (平17.4)	実践英語I 異文化論	秋2 春2			秋2 春2				
	24	兼担 助教授	こうた みつひろ 幸田 三広 (男) (平17.4)	ボランティア			秋1	秋1				
	25	兼担 講師	かわはら ひでお 川原 秀夫 (男) (平17.4)	海洋交通システム学特別研究 海洋交通システム学特別実験 海洋交通システム学特別演習 燃焼工学特論	春2	0.4	24 0.5	24.9 春2				

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書 抜粋)

様式第3号

学長又は校長及び専攻科の授業科目を担当する
教員の氏名、経歴の概要等を記載した書類

(専攻科 電子・情報システム工学専攻)

個人 調書 の 番号	専任・ 兼担・ 兼別任	職名	ふりがな 氏名(性別) 生年月日(年齢) (就任(予定)年月)	担当 授業 科目名	毎 週 担 当 数			学 歴 等		著書・学 術論文等 の数	現 職 (就任年月日)
					講 義	演 習	実 験・ 実 習	計	卒業大学(学 校)学部学科 名及び卒業 年月		
旧	13	専任 教授	おかもと まさのり 岡本 正典 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 工業材料科学	0.1 前2		24 0.8	24.9 前2			
新	13	専任 教授	おかもと まさのり 岡本 正典 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 工業材料科学	0.1 前2		0.8 前2	0.9 前2			
旧	14	専任 教授	おくの すみお 奥野 澄生 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 構造強度設計 インターンシップ	0.1 後2		24 0.8	24.9 前2 後2			
新	14	専任 教授	おくの すみお 奥野 澄生 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 構造強度設計 インターンシップ 技術者倫理	0.1 後2 後0.3		24 0.8	24.9 前2 後2.3			
	15	専任 教授	たなか かずまさ 田中 一雅 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 数値解析特論	0.1 前2		24 0.8	24.9 前2			
	26	専任 教授	しおた ひろあき 塩田 宏明 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 通信ネットワーク工学	0.1 前2		24 0.8	24.9 前2			
	27	専任 教授	やまなか じゅんきち 山中 順吉 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 言語理論とオートマトン	後2		24 0.8	24.8 後2			
	28	専任 教授	まつい としゆき 松井 利幸 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 エキスパートシステム	0.1 後2		24 0.8	24.9 後2			
	29	専任 教授	くしだ なおき 柳田 直規 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 人間感性システム特論	0.1 前2		24 0.8	24.9 前2			
	30	専任 教授	まつだ のぶお 松田 亮夫 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 メディア情報ネットワーク論	0.1 前2	後1	24 0.8	24.9 前2 後1			

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書 抜粋)

(専攻科 電子・情報システム工学専攻)

個人 調書 の 番 号	専 任 ・ 兼 担 ・ 兼 任 の 別	職 名	ふ り が な 氏 名 (性別) 生 年 月 日 (年 齢) (就 任 (予 定) 年 月)	担 当 授 業 科 目 名	毎 週 担 当 授 業 時 数			計	学 歴 等		教 歴	著 書 ・ 学 術 論 文 等 の 数	現 職 (就 任 年 月 日)
					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習		卒業大学(学 校)学部学科 名及び卒業 年月	学位の種類 並びに修了 大学院研究 科名及び修 了年月			
19	専任	助教	さい ゆうじ 佐々井 祐二 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 応用物理学	0.1 前2		0.8	24 前2					
31	専任	助教	おかのうち さとる 岡野内 悟 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特別演習 電子・情報システム工学特論 電子制御工学	0.1 前2		0.8 後1	24 前2 後1					
32	専任	助教	いしみつ しゅんすけ 石光 俊介 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 デジタルシステム	0.1 後2		0.8	24 後2					
33	専任	助教	おかわら けんしろう 岡村 健史郎 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 認識工学	0.1 前2		0.8	24 前2					
34	専任	助教	いしはら よしあき 石原 良晃 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 生産管理特論	0.1 後2		0.8	24 後2					
35	専任	助教	ひが かつや 比嘉 勝也 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特別演習 電子・情報システム工学特論 集積回路工学特論	0.1 前2		0.8 後1	24 前2 後1					
36	専任	講師	ますやま しんじ 増山 新二 (男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 電子物性工学	0.1 前2		0.8	24 前2					

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書 抜粋)

(専攻科 電子・情報システム工学専攻)

個人 調書 の 番号	専任・ 兼任・ 兼任 の 別	職名	ふりがな 氏名(性別) 生年月日(年齢) (就任(予定)年月)	担当授業 科目名	毎週担当 授業時数			学歴等		教歴	著書・学 術論文等 の数	現職 (就任年月日)
					講義	演習	実験・ 実習	計	卒業大学(学 校)学部学科 名及び卒業 年月			
37	専任	講師	ふじい まさゆき 藤井 雅之(男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特論 高電圧工学特論	0.1 前2		24 0.8	24.9 前2				
38	専任	講師	すぎの ただのり 杉野 直規(男) (平17.4)	電子・情報システム工学特別研究 電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特別演習 画像処理		後1 2	16 0.8	18.8 後1				
4	兼任	教授	いとう まさかず 伊藤 正一(男) (平17.4)	電気機器特論	前2			前2				
17	兼任	教授	かんだ まさひろ 神田 全啓(男) (平17.4)	応用数学特論Ⅱ	前1			前1				
18	兼任	教授	よしだ いくお 吉田 郁雄(男) (平17.4)	日本文学概論	前2			前2				
8	兼任	助教授	いわさき ひろき 岩崎 寛希(男) (平17.4)	コンピュータシミュレーション		後2		後2				
9	兼任	助教授	たかた いさお 高田 功(男) (平17.4)	応用数学特論Ⅰ		秋2		秋2				
20	兼任	助教授	すみだ てつや 角田 哲也(男) (平17.4)	伝熱工学		後2		後2				

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書 抜粋)

資料3-1-③-12

(専攻科 電子・情報システム工学専攻)

個人 調書 の 番号	専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	ふりがな 氏名(性別) 生年月日(年齢) (就任(予定)年月)	担当授業 科目名	毎週担当 授業時数			学 歴 等		著書・学 術論文等 の数	現 職 (就任年月日)
					講 義	演 習	実 験・ 実習	計	卒業大学(学 校)学部学科 名及び卒業 年月		
旧	21	兼任 助教授	よしどめ ふみお 吉留文男(男) (平17.4)	実践英語II 実用技術英語	前2 後2			前2 後2			
	22	兼任 助教授	のもと としお 野本敏生(男) (平17.4)	技術者倫理	後2			後2			
	22	新 兼任 助教授	のもと としお 野本敏生(男) (平17.4)	技術者倫理	後1.7			後1.7			
	23	兼任 助教授	いしだ よりこ 石田依子(女) (平17.4)	実践英語1 異文化論	後2 前2			後2 前2			
	24	兼任 助教授	こうた みつひろ 幸田三広(男) (平17.4)	ポランディア			後1	後1			
	11	兼任 講師	なかい ひろふみ 中井洋史(男) (平17.4)	応用数学特論II	前1			前1			
	12	専任 講師	すぎむら よしあき 杉村佳昭(男) (平17.4)	環境科学	秋2			秋2			

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書 抜粋)

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置

(例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。)が講じられているか。

(観点に係る状況)

まず、本校の年齢構成の状況は次のとおりである。各学科の教員数は、商船学科15名、電子機械工学科11名、情報工学科11名、一般科目14名、練習船大島丸4名の合計55名である。全体の年齢構成は、平成18年10月1日現在で60歳代が10.0%、50歳代が36.4%、40歳代が21.8%、30歳代が25.5%、20歳代が7.3%となっている(資料3-1-④-1)。本校では、公募の応募資格に年齢基準を提示することで年齢調整を行っている(資料3-1-④-2, 3, 4)。そのため、全学科において概ね均等に分布している。また、教員全体の平均年齢は46歳であり、乗船履歴などが必要な大島丸所属教員を除き、各学科ともに平均的である。男女別教員数は、女性教員が商船学科1名、電子機械工学科0名、情報工学科2名、一般科目2名の合計5名である。女性教員の割合は全体の10%と高くはないが、近年増えつつある。

次に、教育経歴や実務経歴についての状況は次のとおりである。本校着任以前に教育経歴や実務経歴をもつ教員は、商船学科が40%、練習船大島丸が100%、電子機械工学科が45.5%、情報工学科が63.6%、一般科目が64.3%と、全体の56.4%を占めている(資料3-1-④-1)。特に、練習船大島丸の教員については、公募の提出書類として船会社等の乗船履歴を求め、実務経歴者を募集している(資料3-1-④-2)。専門学科においては一般企業などの実務経歴者が多く、一般科目においては公立高校などの教育経歴をもつ教員が多い。

また、博士の学位取得者は、商船学科が60%、練習船大島丸が0%、電子機械工学科が72.7%、情報工学科が54.5%、一般科目が35.7%、全体の50.9%である。専門学科全体では56.1%の教員が学位を取得している(資料3-1-④-1)。専攻科の設置とともに、教員の専門性が必要となる。よって、現職教員には内地研究などによって学位を取得する機会を設けている。新採用教員に対しては、公募の応募資格に「博士の学位を有する者が望ましい」または「博士の学位を取得する意欲のあること」を明記している(資料3-1-④-3, 4)。このように、教員の専門性を高める配慮を講じている。

(分析結果とその根拠理由)

教員の構成については、公募の際に適切な措置を講じており、全体的に均衡がとれているといえる。また、男女別教員数についても、女性教員の増加により均衡がとられつつある。

教員の教育経歴や実務経歴については、専門学科では一般企業などの実務経歴者が多く、一般科目では公立高校などの教育経歴をもつ教員が多い。これは、専門学科での実践的な技術教育や、生活面での学生指導などに活かされている。また、本校は、専攻科を設置し、学校の教育目標として「豊かな教育と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する」ことを掲げている。すでに半数以上の教員が博士の学位を取得しているが、さらに多くの教員が専門性と視野の広い技術を身に付け、豊かな教育を行うため、学位取得者の割合を高める努力を講じている。

以上のことから本校では、学校の目的に応じた、教員組織の活動をより活発化する配慮を講じているといえる。

平成18年10月1日現在

学科名	年齢層別教員数 (最下行は各年齢層別教員数の全教員数に対する割合(%))						男女別教員数		博士号取得者						経験別教員数			
	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	平均年齢(歳)	男	女	全教員			講師以上			教育経験有り	実務経験有り	教育or実務経験有りの割合(%)	教育or実務経験有りの割合(%)
									教員数	博士号取得者数	取得率(%)	教員数	博士号取得者数	取得率(%)				
商船学科	1	6	2	5	1	45	14	1	15	9	60.0	11	8	72.7	2	5	6	40.0
練習船大島丸	1	2	1	0	0	54	4	0	4	0	0.0	2	0	0.0	1	4	4	100.0
電子機械工学科	1	4	2	3	1	46	11	0	11	8	72.7	10	8	80.0	1	4	5	45.5
情報工学科	1	3	4	2	1	45	9	2	11	6	54.5	9	5	55.6	4	4	7	63.6
(専門科目全体)	4	15	9	10	3	46	38	3	41	23	56.1	32	21	65.6	8	17	22	53.7
一般科目	1	5	3	4	1	45	12	2	14	5	35.7	14	5	35.7	9	0	9	64.3
全体	5	20	12	14	4	46	50	5	55	28	50.9	46	26	56.5	17	17	31	56.4
	10.0%	36.4%	21.8%	25.5%	7.3%													

(出典 教員年齢構成等状況一覧表)

大船専庶第 112 号

平成17年 6月16日

関係大学長・関係高等専門学校長 殿

関係機関の長 殿

大島商船高等専門学校長

和 氣 博 嗣 (公印省略)

教員(船員)の公募について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび本校では下記のとおり教員(船員)を公募することになりました。

つきましては、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦について、よろしくお取り計らいいただきますようお願いいたします。 敬具

記

1. 職名・人員 助手(一等機関士) 1名
2. 所属学科 練習船大島丸
3. 担当科目 校内練習船実習, 機関英語, 実験実習
4. 応募資格 (1)高等専門学校(準学士)卒業以上の学歴取得者
(2)二級海技士(機関)以上の免許取得者
(3)おおむね 45 歳以下(採用日現在)
(4)高等専門学校の教育・研究及び学生指導に意欲のある者
5. 採用予定日 平成18年 4 月 1 日
6. 提出書類 (1)履歴書(市販の用紙又は同等の形式に本人自筆, 写真貼付)
(2)海技士(機関)免許のコピー
(3)乗船履歴証明書(船会社等の発行したもの)
(4)著書, 論文等一覧(著書, 論文, その他の別に分類のこと)
(5)主要な著書, 論文の概要
(6)(5)の別刷り又はコピー
(7)本人について照会可能な方1名以上の氏名と連絡先
(8)着任後の教育及び研究に関する抱負(それぞれについて, A4・1枚程度)
7. 応募締切日 平成17年9月30日(必着)
8. 選考方法 (1)一次選考 書類審査
(2)二次選考 一次選考合格者に対してのみ面接審査(実施日時は後日一次選考合格者に直接お知らせします。)
9. 書類提出先 〒742-2193
山口県大島郡周防大島町大字小松1091-1
大島商船高等専門学校 庶務課人事係
(郵送は「教員(船員)公募書類」と朱書のうえ, 「簡易書留」で送付のこと)
10. 問い合わせ先 大島商船高等専門学校 練習船大島丸船長 安尾 英 昭
TEL:(0820)74-5498 FAX:(0820)74-5552

(出典 教員(船員)の公募について)

資料 3 - 1 - ④ - 3

大船専庶第216号

平成17年9月8日

関係大学長・関係高等専門学校長 殿
関係機関の長 殿

大島商船高等専門学校長
和 氣 博 嗣 (公印省略)

教員の公募について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび本校では下記のとおり教員を公募することになりました。

つきましては、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦について、よろしくお取り計らいくださいますようお願いいたします。 敬具

記

1. 職名・人員 助手 1名
2. 所属学科 情報工学科
3. 担当科目 プログラミング言語，コンピュータ解析法，創造演習，実験実習，卒業研究 (平成18年度カリキュラム改訂予定)
4. 応募資格 (1) C言語，Java等によるプログラミングが堪能であること
(2) 採用日に28歳以下であること
(3) 修士の学位を有し，将来，博士の学位を取得する意欲のあること
(4) 高等専門学校の教育・研究及び学生指導に意欲のあること
5. 採用予定日 平成18年4月1日
6. 提出書類 (1) 履歴書(市販の用紙又は同等の形式に本人自筆，写真貼付)
(2) 著書，論文等一覧(著書，論文，特許，その他の別に分類のこと)
(3) 主要な著書，論文の概要
(4) (3)の別刷り又はコピー
(5) 本人について照会可能な方1名以上の氏名と連絡先
(6) 着任後の教育及び研究に関する抱負(A4 1枚程度)
7. 応募締切日 平成17年10月31日(必着)
8. 選考方法 (1) 一次選考 書類審査
(2) 二次選考 一次選考合格者に対してのみ面接審査
(実施日時は後日一次選考合格者に直接お知らせします。)
9. 書類提出先 〒742-2193
山口県大島郡周防大島町大字小松1091-1
大島商船高等専門学校 庶務課人事係
(郵送は「教員公募書類」と朱書のうえ，「簡易書留」で送付のこと)
10. 問い合わせ先 大島商船高等専門学校 情報工学科長 松井

(出典 教員の公募について)

資料3-1-④-4

大船専庶第 112 号

平成 18 年 7 月 20 日

関係大学(学部)長・関係高等専門学校長 殿

関係機関の長 殿

大島商船高等専門学校長

和 氣 博 嗣 (公印省略)

教員の公募について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび本校では下記のとおり教員を公募することになりました。

つきましては、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦について、よろしくお取り計らいくださいますようお願いいたします。

敬具

記

1. 職名・人員 助教授又は講師 1名
2. 所属学科 一般科目
3. 担当科目 数学・応用数学(高専1～5年生及び専攻科の授業)
4. 応募資格 (1)高専1～5年生及び専攻科の授業を担当できる者
(2)修士以上の学位を有する者(博士の学位を有する者が望ましい)
(3)年齢 35 歳前後の者
(4)高等専門学校の教育・研究及び学生指導に意欲のある者
5. 採用予定日 平成 18 年 10 月 1 日
6. 提出書類 (1)履歴書(市販の用紙又は同等の形式に本人自筆, 写真貼付)
(2)著書, 論文等一覧(著書, 論文, その他の別に分類のこと)
(3)著書, 論文の概要(主要なもの5編程度)
(4)(3)の別刷り又はコピー
(5)本人について照会可能な方1名以上の氏名と連絡先
(6)着任後の教育及び研究に関する抱負 (1,500 字程度)
7. 応募締切日 平成 18 年 8 月 21 日(必着)
8. 選考方法 (1)一次選考 書類審査
(2)二次選考 一次選考合格者に対してのみ面接審査(実施日時は後日一次選考合格者に直接お知らせします。)
9. 書類提出先 〒742-2193
山口県大島郡周防大島町大字小松1091-1
大島商船高等専門学校 庶務課人事係
(郵送は「教員公募書類」と朱書のうえ, 「簡易書留」で送付のこと)
10. 問い合わせ先 大島商船高等専門学校 一般科目長 吉 富 知行
TEL(0820)74-5645 FAX(0820)74-5552

(出典 教員の公募について)

観点 3-2-①: 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ, 適切に運用

がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の採用や昇格等に関しては「大島商船高等専門学校教員人事委員会規則」(資料3-2-①-1)により運営されている。平成15年、従来の高専設置基準・教員の資格に加えて、「大島商船高等専門学校教員選考基準」(資料3-2-①-2)及び「大島商船高等専門学校教員選考内規」(資料3-2-①-3)を制定し、採用、昇任等を実施している。採用及び昇任対象者については書類を作成し、教員人事委員会において選考作業を実施する。そのうち新規採用は、教員選考内規に沿って設置される候補者選考委員会で候補者を審査し、その結果を踏まえて教員人事委員会の議を経て最終決定は校長が行っている。

新規採用については、広く有用な人材を求めるために公募とし、公募に関する記事(資料3-2-①-4)を西日本地区の主たる機関に掲示依頼するとともに、インターネットによる求職者の目にも留まるよう、研究者公募データベースに登録している。公募データベースに掲載された例を示す(資料3-2-①-5)。また、本校ホームページ上でも教員公募を掲載している(資料3-2-①-6)。選考時には、書類及び面接による能力の把握を行うが、教育能力を試すため、教育に対する抱負を書面で提出させるとともにプレゼンテーション能力、授業の構成力・指導力をみるために模擬授業を実施し、その結果を選考の資料としている。なお、非常勤講師の新規採用についても履歴書等を添付した申出書(資料3-2-①-7)を提出させ、教員人事委員会で審議を行って決定している。

(分析結果とその根拠理由)

本校は既述のように平成15年に教員選考基準・教員選考内規を制定し、昇任についても規定している。また、非常勤講師の採用についても規定に基づいて審査が行われている。以上のことから教員の採用や昇格等に関して明確かつ適切に規定し運用している。

大島商船高等専門学校教員人事委員会規則

(設置)

第1条 大島商船高等専門学校に、大島商船高等専門学校教員人事委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教員人事の基本方針及び基準に関する事項
- (2) 教員の選考に関する事項（非常勤講師を含む。）
- (3) その他教員の人事に関する重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事
- (3) 各学科主任及び一般科目主任

(会議)

第4条 校長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 校長に事故があるときは、校長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 校長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成13年12月10日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年6月2日から施行する。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

大島商船高等専門学校教員選考基準

制 定 平成 15 年 6 月 2 日

(趣旨)

第 1 条 独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第 7 条及び第 12 条並びに独立行政法人国立高等専門学校機構船員就業規則第 7 条及び第 12 条の規定に基づき、大島商船高等専門学校の教授、准教授、講師、助教及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任の選考は、この基準の定めるところにより行う。

(教授の資格)

第 2 条 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められた者とする。

- (1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- (2) 学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者
- (3) 大学（短期大学を含む。以下同じ。）又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）がある者
- (4) 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者
- (5) 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者
- (6) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(准教授の資格)

第 3 条 准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められた者とする。

- (1) 前条各号のいずれかに該当する者
- (2) 大学又は高等専門学校において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）のある者
- (3) 修士の学位又は学位規則第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- (4) 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者
- (5) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(講師の資格)

第 4 条 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 第 2 条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者

(2) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

(3) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(助教の資格)

第4条の2 助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

(1) 第2条各号又は第3条各号のいずれかに該当する者

(2) 修士の学位（医学を履修する課程，歯学を履修する課程，薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については，学士の学位）又は学位規則第5条の2に規定する専門職又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者

(3) 特定の分野について，知識及び経験を有すると認められる者

(助手の資格)

第5条 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学士若しくは短期大学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者

(2) 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(雑則)

第6条 この基準に定めるもののほか，教員の選考に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この基準は平成15年6月2日から施行する。

2 この基準施行の際，現に在職する教員は，この基準により選考されたものとみなす。

附 則

この基準は平成16年4月1日から施行する。

附 則

1 この基準は平成19年4月1日から施行する。

2 この基準の規定による改正後の第2条第3号の規定の適用については，この基準の施行前における助教授の在職は，准教授としての在職とみなす。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

大島商船高等専門学校教員選考内規

制 定 平成 15 年 6 月 2 日

(趣旨)

第 1 条 大島商船高等専門学校における教授、准教授、講師、助教及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任の選考は、大島商船高等専門学校教員選考基準（以下「選考基準」という。）によるほか、この内規の定めるところによる。

(選考の時期)

第 2 条 教員の選考は、次の各号の一に該当する場合に行う。

- (1) 定年、辞職、転任等に伴い、教員が欠員となる場合
- (2) 教員定員が増員となる場合
- (3) 教員の昇任を必要とする場合

2 前項により欠員となる場合は、速やかに選考を開始するものとする。

(公募)

第 3 条 教員の選考は、原則として公募によるものとする。ただし、当分の間、校内に候補適任者がいる場合は、この限りではない。

(公募による選考)

第 4 条 校長は、候補者の選考を行うため、その都度、候補者選考委員会（以下「選考委員会」という。）を置く。

2 選考委員会委員はその都度、校長が指名する。

3 候補者が 3 名に達しない場合は、再募集を行うことができる。

4 選考委員会は、書類選考及び面接等（以下「書類選考等」という。）を行い、候補者 1 名を校長に推薦するものとする。

5 校長は、前項により推薦された候補者について、大島商船高等専門学校教員人事委員会（以下「人事委員会」という。）の議を経て採用等の可否を決定するものとする。

(校内昇任による選考)

第 5 条 教員の校内昇任を必要とするときは、当該学科等の主任は、候補者の履歴、業績等に関する書類、その他選考に必要な資料を添えて、校長に推薦するものとする。

2 校長は、選考委員会に前項により推薦のあった候補者の昇任の可否について付議するものとする。

3 選考委員会は、書類選考等を行い、選考結果を校長に報告するものとする。

4 校長は、前項により報告を受けた選考結果を、人事委員会に諮り、候補者の昇任の可否を決定するものとする。

(非常勤講師の選考)

第 6 条 新規の非常勤講師候補者の選考にあつては、当該選考に係る学科等主任からの履歴書等を添付した申出書（様式 1）により、人事委員会で審議を行い、校長が採用の可否を決定するものとする。

(評価方法)

第 7 条 候補者の選考については、公募等の条件、教育研究の環境、選考ポストを踏まえ、候補者

の人物、年齢、各種業績等を総合的に評価して行うものとする。

2 教授となることのできる者は、選考基準第2条及び次の各号の一に該当するものとする。

(1) 理学，工学分野（以下「理工学分野」という。）の教授となることのできる者は、次に掲げる各項目のすべてに適合するものとする。

ア 博士の学位を有すること。ただし、当分の間、有審査論文を5編以上執筆した者は、博士の学位を有するものとみなす。

イ 別表1に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が80点以上の業績評価を有すること。

(2) 社会科学，人文科学，複合領域(体育)分野（以下「社会科学分野」という。）の教授となることのできる者は、次に掲げる各項目のすべてに適合するものとする。

ア 博士の学位を有すること。ただし、当分の間、有審査論文を3編以上執筆した者あるいは評価の高い学術図書を執筆した者は、博士の学位を有するものとみなす。

イ 別表1に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が70点以上の業績評価を有すること。

3 准教授となることのできる者は、選考基準第3条及び次の各号の一に該当するものとする。

(1) 理工学分野の准教授となることのできる者は、次に掲げる各項目のすべてに適合するものとする。

ア 博士の学位を有すること。ただし、当分の間、有審査論文を5編以上執筆した者は、博士の学位を有するものとみなす。

イ 別表1に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が60点以上の業績評価を有すること。

(2) 社会科学分野の准教授となることのできる者は、次に掲げる各項目のすべてに適合するものとする。

ア 博士の学位を有すること。ただし、当分の間、有審査論文を3編以上執筆した者あるいは評価の高い学術図書を執筆した者は、博士の学位を有するものとみなす。

イ 別表1に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が50点以上の業績評価を有すること。

4 講師となることのできる者は、選考基準第4条及び次の各号の一に該当するものとする。

(1) 理工学分野の講師となることのできる者は、次に掲げる各項目のすべてに適合するものとする。

ア 博士の学位を有すること。ただし、当分の間、有審査論文を5編以上執筆した者は、博士の学位を有するものとみなす。

イ 別表1に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が50点以上の業績評価を有すること。

(2) 社会科学分野の講師となることのできる者は、次に掲げる各項目のすべてに適合するものとする。

ア 博士の学位を有すること。ただし、当分の間、有審査論文を3編以上執筆した者あるいは評価の高い学術図書を執筆した者は、博士の学位を有するものとみなす。

イ 別表1に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が40点以上の業績評価を有する

こと。

5 助教となることのできる者は、選考基準第4条の2に該当するとともに、別表1に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が20点以上の業績評価を有すること。

6 助手となることのできる者は、選考基準第5条に該当するとともに、別表1に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が10点以上の業績評価を有すること。

(船員の評価方法)

第8条 教員である船員の選考については、公募等の条件、教育研究の環境、選考ポストを踏まえ、候補者の人物、年齢、各種業績等を総合的に評価して行うものとする。

2 准教授となることのできる者は、選考基準第3条及び次に掲げる各項目のすべてに適合するものとする。

ア 二級海技士以上の資格を有すること。

イ 別表2に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が50点以上の業績評価を有すること。

3. 助教となることのできる者は、選考基準第4条の2及び次に掲げる各項目のすべてに適合するものとする。

ア 三級海技士の資格を有すること。

イ 別表2に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が20点以上の業績評価を有すること。

4. 助手となることのできる者は、選考基準第5条及び次に掲げる各項目のすべてに適合するものとする。

ア 三級海技士の資格を有すること。

イ 別表2に掲げる各評価項目に関して評点を計算し、合計が10点以上の業績評価を有すること。

附 則

この内規は平成15年6月2日から施行する。

附 則

この内規は平成17年8月1日から施行する。

附 則

1 この内規は平成19年2月6日から施行し、平成19年4月1日付け以降の選考に対して適用する。

2 この内規の規定による改正後の別表1（第7条関係）及び改正後の別表2（第8条関係）の規定の適用については、平成19年3月31日以前における助教授の在職は、准教授としての在職とみなす。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

料3-2-①-3(続き)

別表 1 (第7条関係)

1. 経歴について (上限30点)

評価項目	評価点数の基準
教育・研究歴 ・教授, 所長, 部長級相当 ・准教授, 講師, 主任研究員等(課長級)相当 ・助教, 主任研究員等(主査級)相当 ・助手, 研究員等相当 ・ポスドクター, TA, RA等	1.0×年数 0.8×年数 0.6×年数 0.5×年数 0.5×年数
取得資格 技術士等	②③④項の有無並びにグレードにより上限5点までを加算する。
表彰関係	
留学(国内外)経験等	

2. 研究業績について (上限30点)

評価項目	評価点数の基準
論文 ・有審査学術論文 ・Proceeding, 紀要等	3.0×件数 1.0×件数
著書等	3.0×件数
特許	3.0×件数
学会発表	1.0×件数

3. 教育業績等について (上限20点)

評価項目	評価点数の基準
授業実績	上限10点
研究指導, 卒業研究指導実績	上限5点
学生評価	上限5点
自己点検	上限5点
課外活動 (通常)	上限5点
(成果)	上限5点

又は,

評価項目	評価点数の基準
事業業績	上限10点
企業内研究業績	上限5点
企業内教育業績	上限5点
自己点検	上限5点
体育文化活動 (通常)	上限5点
(成果)	上限5点

4. 学校運営等について（上限10点）

評 価 項 目	評価点数の基準
主事，主任，委員長，センター(室)長	2.0×年数
役職等における特認評価	1.5×年数
担任，主事補等	1.0×年数

5. 地域協力，国際協力等（上限10点）

評 価 項 目	評価点数の基準
公開講座，出前授業	1.0×回数
技術指導，教育指導	1.0×回数
ボランティア活動	1.0×回数
外部研究費	上限 5点
社会活動，学会役員等	上限 5点

6. 上記に該当しない業績の点数に対しては，その都度，選考委員会が決定する。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

別表2(第8条関係)

1. 経歴について(上限40点)

評価項目	評価点数の基準
海事職歴 ・船機長相当 ・一航機相当 ・二航機相当 ・三航機相当	1.5×年数 1.2×年数 0.8×年数 0.5×年数
取得資格 海技士免許等	②③④項の有無並びにグレードにより上限10点までを加算する。
表彰関係	
留学(国内外)経験等	

2. 研究業績について(上限20点)

評価項目	評価点数の基準
論文 ・有審査学術論文 ・Proceeding, 紀要等	3.0×件数 1.0×件数
著書等	3.0×件数
特許	3.0×件数
学会発表	1.0×件数

3. 教育業績等について(上限20点)

評価項目	評価点数の基準
授業実績	上限10点
研究指導, 卒業研究指導実績	上限5点
学生評価	上限5点
自己点検	上限5点
課外活動 (通常)	上限5点
(成果)	上限5点

又は

評価項目	評価点数の基準
事業業績	上限10点
企業内研究業績	上限5点
企業内教育業績	上限5点
自己点検	上限5点
体育文化活動 (通常)	上限5点
(成果)	上限5点

4. 学校運営等について(上限10点)

評価項目	評価点数の基準
主事, 主任, 委員長, センター(室)長	2.0 × 年数
役職等における特認評価	1.5 × 年数
担任, 主事補等	1.0 × 年数

5. 地域協力, 国際協力等(上限10点)

評価項目	評価点数の基準
公開講座, 出前授業	1.0 × 回数
技術指導, 教育指導	1.0 × 回数
ボランティア活動	1.0 × 回数
外部研究費	上限 5点
社会活動, 学会役員等	上限 5点

6. 上記に該当しない業績の点数に対しては, その都度, 選考委員会が決定する。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

大船専庶第 280 号
平成19年1月26日

関係大学(学部)長 殿
関係高等専門学校長 殿
関係機関の長 殿

大島商船高等専門学校長
和 氣 博 嗣 (公印省略)

教員の公募について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび本校では下記のとおり教員を公募することになりました。

つきましては、貴機関関係者への周知並びに適任者のご推薦について、よろしくお取り計らいくださいますようお願いいたします。

敬具

記

1. 職名・人員 准教授又は講師 1名
※「准教授」とは、学校教育法の一部改正により平成19年4月1日から置く職で、「専攻分野について、教育上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授する者」をいう。
2. 所属学科 商船学科
3. 担当科目 運用関係科目(操船・船舶工学および力学に関する科目)
実験実習(漕艇通信・船舶実習)
4. 応募資格 (1) 修士以上の学位または同等の教育研究能力を有すること。
三級海技士(航海)以上の免状を有することが望ましい。
(2) 採用日に35～45歳であること
(3) 将来、博士の学位を取得する意欲のあること
(4) 高等専門学校の教育・研究及び学生指導に意欲のあること
5. 採用予定日 平成19年4月1日
6. 提出書類 (1) 履歴書(市販の用紙又は同等の形式に本人自筆、写真貼付)
(2) 著書、論文等一覧(著書、論文、その他の別に分類のこと)
(3) 主要な著書、論文の概要
(4) (3)の別刷り又はコピー
(5) 本人について照会可能な方1名以上の氏名と連絡先
(6) 着任後の教育及び研究に関する抱負(それぞれについて、A4・1枚程度)
7. 応募締切日 平成19年2月19日(必着)
8. 選考方法 (1) 一次選考 書類審査
(2) 二次選考 一次選考合格者に対してのみ面接審査
(実施日時は後日一次選考合格者に直接お知らせします。)
9. 書類提出先 〒742-2193
山口県大島郡周防大島町大字小松1091-1
大島商船高等専門学校 庶務課人事係
(郵送は「教員公募書類」と朱書のうえ、「簡易書留」で送付のこと)
10. 問い合わせ先 大島商船高等専門学校 商船学科長 辻 啓 介
TEL (0820)74-5491 (E-mail :tsuji@oshima-k.ac.jp)

(出典 教員の公募について)

JREC-IN(大島商船高等専門学校/商船学科教員の公募)



Job Information



詳細DATA / Detailed Data

データ番号 Data item number	D107011115
公開開始日 Date of publication	2007年01月29日
タイトル Title	商船学科教員の公募
機関名 Institution	大島商船高等専門学校
部署名・研究科・学部・学科・研究室名 Department	庶務課人事係
機関種別 Type of institution	高等専門学校
所在地 Location	742-2193 山口県 大島郡周防大島町大字小松1091-1
地域(勤務地など) District	中国・四国
職種 Job title	助教授 講師
勤務形態 Rank	常勤
人員 Number of positions	1
研究分野 Research field	その他 商船・運用関係
応募資格 Qualifications	(1)修士以上の学位または同等の教育研究能力を有すること 三級海技士(航海)以上の免状を有することが望ましい (2)採用日に35～45歳であること (3)将来、博士の学位を取得する意欲のあること (4)高等専門学校の教育・研究及び学生指導に意欲のあること
募集期間 Deadline for applications	2007年01月29日 - 2007年02月19日
着任(採用)時期 Starting date	2007年04月01日
応募書類(送付先含む) Application materials	【提出書類】 (1)履歴書(市販の用紙又は同等の形式に本人自筆、写真貼付) (2)著書、論文等一覧(著書、論文、その他の別に分類のこと) (3)主要な著書、論文の概要 (4)(3)の別刷り又はコピー (5)本人について照会可能な方1名以上の氏名と連絡先 (6)着任後の教育及び研究に関する抱負(それぞれについて、A4・1枚程度) 【書類提出先】 〒742-2193 山口県大島郡周防大島町大字小松1091-1 大島商船高等専門学校 庶務課人事係 (郵送は「教員公募書類」と朱書の上、「簡易書留」で送付のこと)
選考方法 Selection process	(1)一次選考 書類審査 (2)二次選考 一次選考合格者に対してのみ面接審査 (実施日時は後日一次選考合格者に直接お知らせします。)
連絡先住所 Contact address	742-2193 山口県 大島郡周防大島町大字小松1091-1
担当者役職名 Position of contact person	商船学科長
担当者氏名 Contact person	辻 啓介
E-mail	tsuji@oshima-k.ac.jp
TEL	0820-74-5491
FAX	0820-74-5552
書式・提供手段等 Attached files	

<http://jrecin.jst.go.jp/html/kyujin/main/D107011115.html>

2007/02/08

(出典 科学技術振興機構 研究者公募データベース)

大島商船高等専門学校
OSHIMA NATIONAL COLLEGE OF MARITIME TECHNOLOGY

Japanese English
お問い合わせ 学内ネットワーク

HOME 学科・専攻科 紹介 キャンパスライフ 入試案内 書類ダウンロード

学校紹介 | 就職・進学情報 | 教育研究施設 | 地域との連携・交流 | 国際交流

INDEX

- 中学生・高校生の皆様へ
- 在校生の皆様へ
- 保護者の皆様へ
- 卒業生の皆様へ
- 企業・地域の皆様へ
- 働きたい皆様へ

働きたい皆様へ

概要

本校には、教職員(教授、助教授、講師、助手)と事務系職員(事務職員、技術職員等)が在職しており、上記職員に欠員を生じた場合の採用に関しては、教育職員と事務系職員とは、採用方法が異なります。

■教育職員として働きたい方へ

本校には、商船学科、電子機械工学科、情報工学科と平成17年度に設置された専攻科があり、これらの学生に授業を教える教員として、商船学科、電子機械工学科、情報工学科、一般科目、練習船大島丸にそれぞれ、次のとおり教員(教授、助教授、講師、助手)が配置されております。


平成18年4月1日現在

	教授	助教授	講師	助手	計
商船学科	7	3	1	4	15
電子機械工学科	5	4	1	1	11
情報工学科	4	3	2	2	11
一般科目	6	5	3	-	14
練習船大島丸	-	2	-	2	4
計	22	17	7	9	55

上記教員に欠員を生じることとなった場合、教員公募等を行い、適任者を決定することとなります。

なお、本校で現在、教員公募を行っているものは次のとおりです。

(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)

学 科	職 種	専 門 分 野 (又は授業科目)	応募期限	募集要項 (PDF)
商船学科	准教授※1 又は講師	運用関係科目 (操船・船舶工学及び力学に関する科目) 実験実習(潜艇通信・船舶実習)	H19.4.10	

※1「准教授」とは、学校教育法の一部改正により平成19年4月1日から置く職で、「専攻分野について 教育上又は実務上の優れた知識能力及び実績を有する者であって、学生を教授する者」をいう。

■事務系職員として働きたい方へ

従来、本校の事務系職員として採用されるためには、人事院が行う国家公務員採用試験(Ⅱ種又はⅢ種)に合格し、本校で行う面接の結果、採用が決定されることになっておりました。

しかし、平成16年4月1日から、国立大学、国立高等専門学校、国立少年自然の家、国立青年の家等は、国の機関から独立行政法人となり、教職員の身分も国家公務員ではなくなりました。

それに伴い、人事院の行う国家公務員採用試験の合格者の中から職員を採用することができなくなり、国立大学、国立高等専門学校、国立少年自然の家、国立青年の家が共同で、国立大学法人等職員採用試験制度を設け、その職員採用試験合格者の中から面接を行い、採用するということになりました。

この採用試験は、各地区(例えば北海道地区 九州地区等)で行われており、本校に採用されるためには、まず、中国・四国地区で行われる中国・四国地区国立大学等職員採用試験に合格しなければなりません。その後、本校において面接を行い、採用者を決定することとなります。

あなたの若い力を待っています。挑戦してみてください。

*

なお、上記試験を総括する中国・四国地区国立大学法人等職員採用試験実施委員会採用試験事務室のURLは下記のとおりですので、アクセスしてみてください。

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/jinji/shiken/index.html>

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/jinji/shiken/infomation/annai.pdf>

(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)

様式1 (選考内規第6条関係)

非常勤講師選考申出書

学科等名		職名	非常勤講師
採用予定年月日	平成 年 月 日	担当科目名	
候補者の所属(職名)・氏名			
<p>候補者の概要</p> <p>1. 高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる点</p> <p>2. 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる点</p>			
平成 年 月 日			
校長 殿			
(学科等主任)			印

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の教育活動に関する評価としては、独立行政法人国立高等専門学校機構による教員顕彰制度に基づいて、教員の自己評価、学生による教員評価、教員の相互評価を行う体制が整備され、毎年実施されている。また、平成16年度から学生による授業評価も定期的実施されており、授業に関わる12項目の質問と、学生の勉強意欲を問う3項目の質問により、改善すべき点を明確に把握できるようになっている(資料3-2-②-1)。その評価結果を年度別、学科別、講義(資料3-2-②-2)、年度別、学科別、実験実習(資料3-2-②-3)をグラフ化し結果を把握した。

平成17年度には、評価の高かった教員5名及び低い評価を受けた教員5名について校長が個別に面接と授業視察を行い、それぞれの授業実態を具体的に把握することによって学校全体として授業の改善を図るための資料とする試みが行われた。こうした試みを経て、平成18年度からは、より包括的な資料を得るために全教員が授業評価に基づいて「授業評価に対する改善報告書」(資料3-2-②-4)を提出する体制が整えられ、さらに、提出された「改善報告書」は校長によって検討、整理されたうえで「平成17年度授業評価に対する改善および実践方法(講義・実験実習)」(資料3-2-②-5)として全教員に配布された。他の教員の授業改善についての具体的な取組を参照することができるようになったことは、各自の授業の改善策をさぐるうえで有益であるばかりでなく、授業についての情報交換を活性化し、優れた実践に学んでノウハウを共有するうえでも役立っている。評価数値の確認にとどまりがちな授業評価は、「改善報告書」の併用によってより有効に活用されることとなった。

(分析結果とその根拠理由)

授業評価の結果は個人集計表として各教員に配布されており、各教員が授業の改善点をさぐる上で役立っている。「授業評価に対する改善報告書」「授業評価に対する改善及び実践方法」は、評価によって把握された事項に対して適切かつ具体的な取組を促すものとなっている。

以上のことから、教育活動の評価を実施するための体制が整備されている。また、その結果把握された事項に対して適切な取組をおこなっている。

学生による授業評価アンケート

[講 義]

質 問 項 目		良い	普通	悪い		
1	先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	5	4	3	2	1
2	先生の説明は分かりやすく、理解しやすかったですか。	5	4	3	2	1
3	学生の理解度を確認しながら、適切な進度で進められていましたか。	5	4	3	2	1
4	プリントや補助教材は授業の役に立ちましたか。	5	4	3	2	1
5	授業に準備や工夫がなされていると思いませんか。	5	4	3	2	1
6	黒板(OHPを含む)の使い方や書き方は分かりやすかったですか。	5	4	3	2	1
7	授業の内容はシラバスと一致していましたか。	5	4	3	2	1
8	授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。	5	4	3	2	1
9	定期試験の難易度は適当だと思いませんか。	5	4	3	2	1
10	先生、授業は意欲的で、熱意が感じられましたか。	5	4	3	2	1
11	この教科に興味を持って、将来あなたにとって役に立つと思いませんか。	5	4	3	2	1
12	総合的に考えてこの授業に満足していますか。(高く評価していますか。)	5	4	3	2	1
13	あなたはこの授業の予習・復習をしていますか。	5	4	3	2	1
14	あなたはこの授業に熱心に取り組みましたか。	5	4	3	2	1
15	この授業の内容をどの程度理解しましたか。	5	4	3	2	1

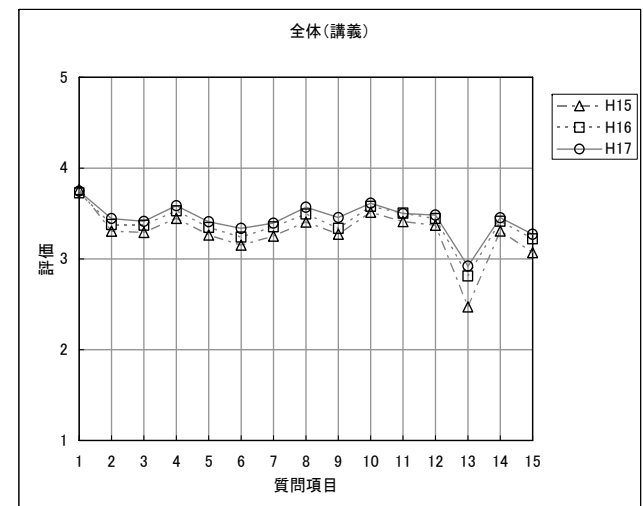
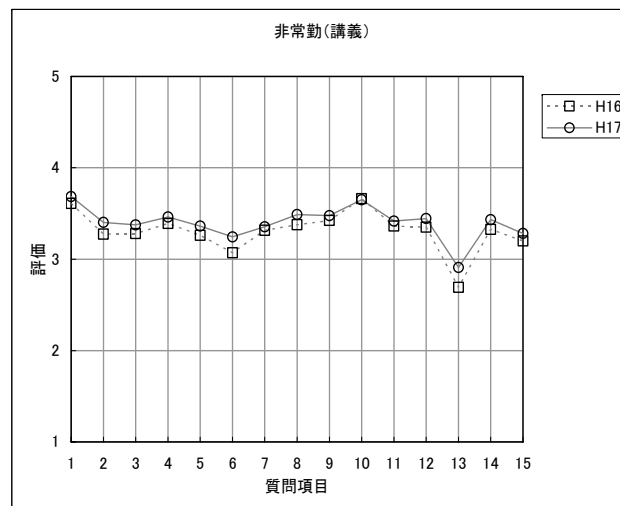
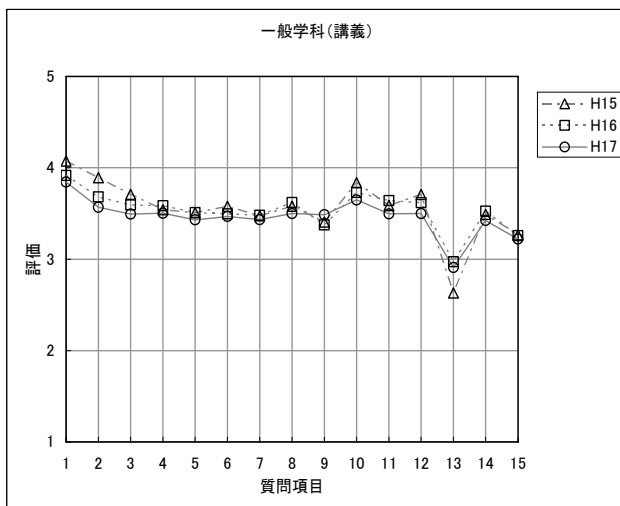
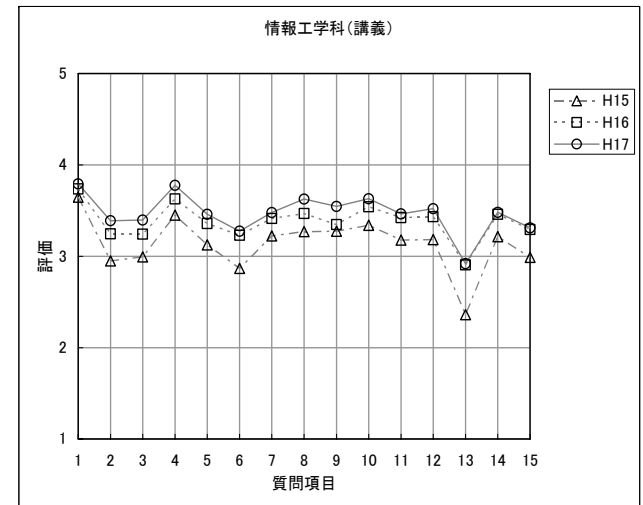
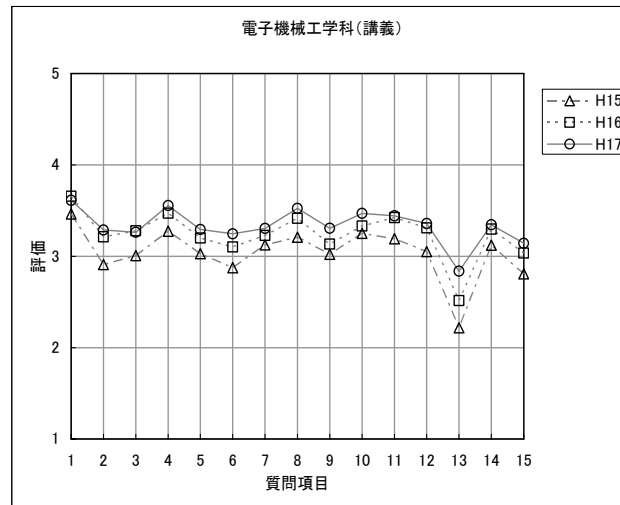
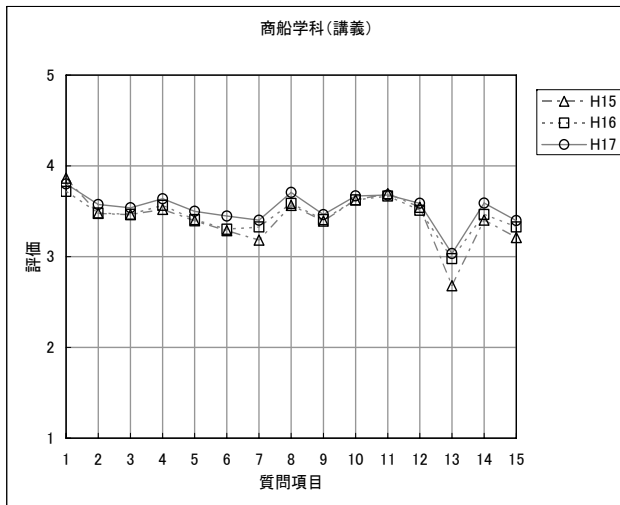
学生による授業評価アンケート

[実験・実習]

質 問 項 目		良い	普通	悪い		
1	先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	5	4	3	2	1
2	先生の説明は分かりやすく、理解しやすかったですか。	5	4	3	2	1
3	学生の理解度を確認しながら、適切な進度で進められていましたか。	5	4	3	2	1
4	実験・実習の内容には、準備や工夫がなされていると思いませんか。	5	4	3	2	1
5	指導書は実験内容を理解するのに役立ちましたか。	5	4	3	2	1
6	実験・実習の内容はシラバスと一致していましたか。	5	4	3	2	1
7	授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。	5	4	3	2	1
8	実験内容のレベルは適当でしたか。	5	4	3	2	1
9	先生は実験・実習に対して意欲的で、熱意が感じられましたか。	5	4	3	2	1
10	この実験内容に興味を持って、将来あなたの役に立つと思いませんか。	5	4	3	2	1
11	この実験や実習は講義の理解に役立つと思いませんか。	5	4	3	2	1
12	総合的に見てこの実験・実習を高く評価していますか。	5	4	3	2	1
13	あなたはこの実験・実習に熱心に取り組みましたか。	5	4	3	2	1

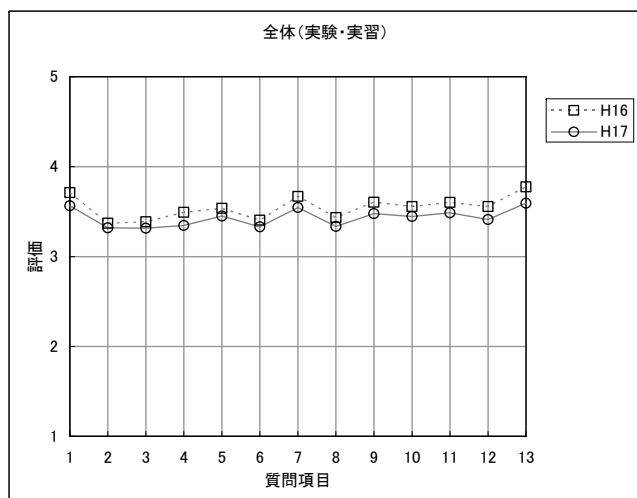
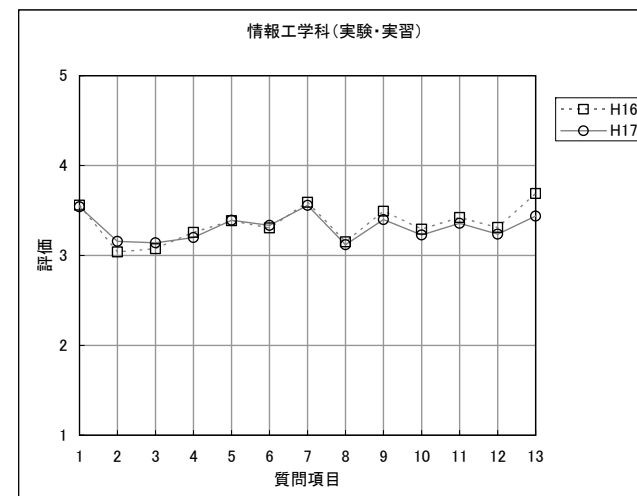
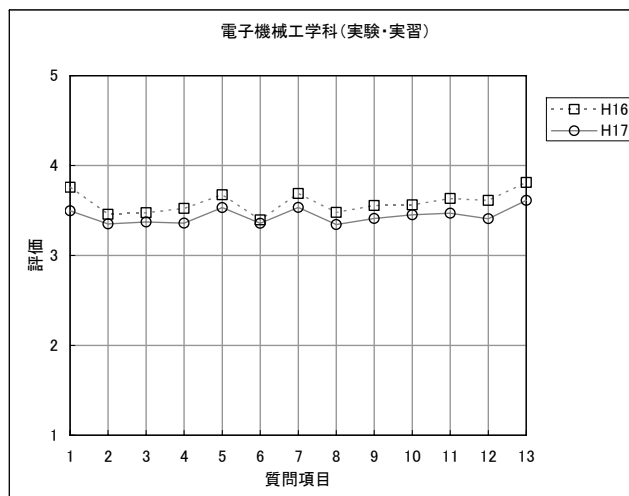
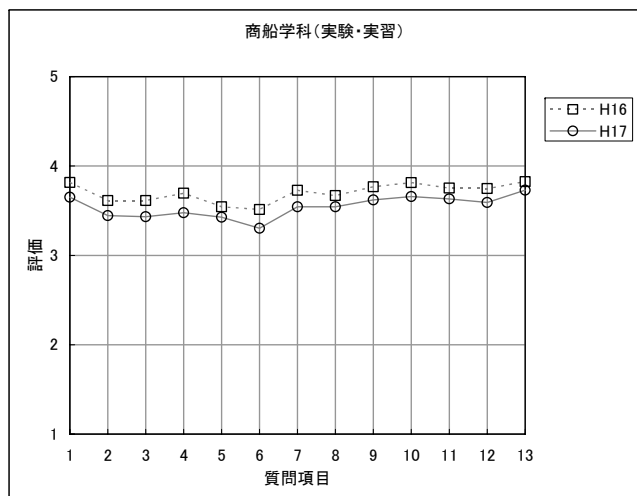
資料3-2-②-1 (出典 学生による授業評価アンケート)

H15年度～H17年度 授業評価アンケート(講義)の学科別評価の年度推移
ただし、非常勤講師は平成15年度なし



資料3-2-②-2 (出典 講義に対する年度別、学科別の評価年度推移)

H16年度～H17年度 授業評価アンケート(実験・実習)の学科別評価の年度推移



資料3-2-②-3 (出典 実験実習に対する年度別, 学科別の評価年度推移)

大島商船高等専門学校 授業評価に対する改善報告書

平成 17 年度に行われた授業評価（講義および実験実習）に対する改善および実践の方法について具体的に記入してください。

授業評価（講義および実験実習）の評価項目 1～12 の内から **3 項目以上** を選択してください。

本年度、既に改善等に取り組んでいる例等が有りましたら、記入してください。

ワープロまたは手書き、どちらでも結構です。ワープロであればプリント出力してください。

授業評価アンケートに関してご意見等が有りましたら記入をお願いします。

報告書を封筒に入れ、氏名および「授業評価に対する改善報告書在中」と明記の上、厳封して教室事務室まで提出してください。

提出期限は 9 月末まで。

講義の改善について（3 項目以上）

講義で重要と思われる、説明（声や進行）・板書や授業の工夫・補助教材（プリント）の 3 点についてアンケートの結果を踏まえて報告する。

◎説明（声や進行）について

項目 1：先生の話し方や声の大きさは聞きとりやすかったですか。

項目 2：先生の説明は分かりやすく、理解しやすかったですか。

項目 8：授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。

項目 10：先生、授業は意欲的で、熱意が感じられましたか。

講義を行う上で一番気を付けていることは、声の大きさおよび“はり”である。これらは講義の雰囲気を決定的要素であると考えており、実際の講義では意識的に且つメリハリもつけながら説明をするように心掛けている。学生の評価においても平均値より高い評価を得ていることから、この取り組みが支持されていることがわかる。今後ともはりのある声での説明を実践して行きたいと思う。

板書や授業の工夫について

項目 5：授業の準備や工夫がなされていると思いませんか。

項目 6：黒板（OHP を含む）の使い方や書き方は分かりやすかったですか。

授業の準備に関しては、講義に使用する講義ノートは、学生の理解度（小テストの結果等）を考慮しつつ、講義の 1～2 日前に作成することを実践している。単なるシラバス項目の進行のみの講義とならないように、1 回 1 回の講義の雰囲気および小テストからわかる学生の理解度より、次の講義での私自身の取り組み方の確認という形で講義ノートを作成している。こうすることで、自身の講義内容の理解度が再確認でき、それが自信となって講義での説明に反映できると考えている。学生の評価も平均値以上である。ただ、板書に関しては、生来の悪筆であることから、読めない字は書かないようにして行きたいと思う。

補助教材（プリント）について

項目 3：学生の理解度を確認しながら、適切な進捗で進められていますか。

項目 4：プリントや補助教材は授業の役に立ちましたか。

講義の最後に小テストを毎回実施している。その結果の良し悪しは学生の授業の理解度のチェックと私の授業の評価を反映していると考えおり、つぎの講義の内容および進捗を決定する重要な資料となっている。学生にとっては講義の主要な項目の再確認ができるため評価も高い。今後とも理解度のチェックおよび授業の評価としての小テストは積極的に進めて行きたい。

以上

（出典 授業評価に対する改善報告書）

平成 17 年度授業評価に対する改善及び実践方法

(講義に関するもの)

1. 話し方や声の大きさについて (9 件) (提出された全ての件数)

- 声は大きいはずであるが、どのクラスにも何人か寝る者がいるので、大事なところは逆に小さな声でしゃべる等、話し方を工夫したい。
- 「大きく」「丁寧に」「繰り返し」学生の目を見て確認して、授業を進めている。学生が不明な点等は、授業中に即座に対応し、納得するまで説明を行うことを実践している。
- 少人数クラスで、黒板を使い、狭い教室や演習室のほうが高い評価を得た。一方、パワーポイントを使い、広い視聴覚教室や情報教育センターのほうが低い評価結果であった。パワーポイントを使用したほうが視覚的に伝えることができるが、手を動かさずに、資料を見ながら耳で聞くだけで、聞き取れなかったときには理解できないままになっていたのかもしれない。改善方法として、黒板も同時に使い、広い教室での声のカバーはマイクを使用して対処している。

2. 理解しやすい説明について (17 件)

- 授業には機械部品など種々の小道具を持って行って、講義をするようにしているが、さらに徹底したい。
- 昨年度から他高専で取り入れられている「学習シート」を作成し、授業に取り入れている。学習シートは、授業終了 10 分前に行うミニテストのようになっており、その日に授業で説明した内容についての問題が数問記入されている。よく理解できた学生は問題が解け、理解できなかった学生は問題が解けないので、そのプリントを毎回回収することで理解度をチェックすることができる。また、学習シートの最後に授業の評価をしてもらうようにした。これにより、理解できない学生が多い場合には、授業の復習を行うようにしている。
- 自学自習時間を有効活用して、講義での理解度向上につなげる。

3. 学生の理解に沿った進度について (20 件)

- 授業の節目に質問及び疑問を必ず受け付けるようにした。(その結果進行は少し遅れがちになった。) そのため現在は、自分の授業の蛇足部分はどこか考えている。
- レポート形式で細かく項目に分け、その項目ごとにチェックしていった。つまり、チェックを抜けて学生は及第点となる。それが学生にとってわかり易い評価であったためか、学生の評価はどれもまあまあであった。
- 事前に一人ひとりに課題を与えて、発表させている。さらに、その時間に行った内容の試験を、次の時間に「小テスト」として行っている。
他の科目は、定期試験及びレポートで評価しているので、授業中に質問をすることや、「小テスト」や「レポート」を提出させて、学生の理解度を把握したい。
- 小テストなどにより理解度を確認しながら進度を調整するようにした。(結果としてシラバスより大幅に遅れつつある。)

4. プリントや補助教材について (19 件)

- 課題を与えるだけのプリントとであったが、授業のはじめに正解と答え合わせをする。またプリントをノート代わりとして使えるようにする。
- (大学単位の授業において、) 自学自習の具体的な目標を持たせるために、毎回 B4 サイズのプリントを配布し、この中に具体的な課題を載せて、勉強しやすいようにした。このプリントを採点し、成績にも反映(学生には事前に通知済み)することで、自習時間を充実したものにした。

- 問題集の問題の解答例を一部の優秀な学生に作成させるようにした。その結果、メンバーに選ばれることを目指してよい意味で競争心が出てきている。

5. 授業の準備や工夫（17件）

- 板書だけでなく、図や表が多いのでパソコンのソフト（パワーポイント）を利用して、わかりやすく説明したい。ただし問題点は、パソコンを使用してプロジェクタを使える教室が少ないのが現状である。2005年度前期後半は、LL 教室でパソコンを使って授業を行った。今年度もパソコンを利用した講義の準備をしている。
- 授業の準備については前回の授業の内容と流れを導入として説明し、今回の授業に入っていく形で進める。章節のつながりを理解させるとともに要所要所で授業を止めて質問の時間を設け、質問しやすい雰囲気を作る。
- 講義ではまず基礎用語の説明を行ってから、現実の社会状況や課題について話を進めるようにしている。その際、できる限り学生の興味を引く事例を挙げるように努めている。また、各クラスの特徴を考慮して、同じ事例でも異なった説明の仕方、たとえば、学生への問いかけをしたり、賛成・反対の意思表示を学生にさせるなどして、学生たちの理解度を測るようにしている。

6. 黒板やOHP等の使い方について（11件）

- 黒板の字をもう少しきれいに書きたい。板書については誤字が多かったと反省している。また、授業進度を気にするあまり、丁寧に書いていないことが学生の評点を辛くしているのであろう。気をつけたい。
- 黒板へ書くスピードが少し遅いため、学生は写すことに一生懸命で理解までいっていない学生もいる。→出来るものについてはプリントを配布して説明をプリントに書き込むようにさせる。
- 基本的にできるだけ盛りたくさんの内容をこなしたいので板書が乱雑になる傾向にある。ただし、黒板の使い方については講義ノートをきちんと（パワーポイントで）ビジュアル的作成しているので適切であると考えている。

今後はもう少し教える内容を絞り込んでゆっくり板書できるように検討する。

7. 授業内容とシラバスの整合性（8件）

- 今年度からは、シラバスはあくまでも目標であると考え、理解度を確認することに力を注いでいる。シラバスを変更すべきかもしれないが、養成施設の授業内容を書類的に満足させたものではない。シラバス通りの授業をしていたのでは理解度を満足できないジレンマが以前からあったが、ここまでやらなければならないという気持ちが強すぎたと感じた。
- 実際にシラバスを読んだ学生の数がどれだけいるのかわからないので、学生は授業内容とシラバスとの整合性について認識できていないのかも知れない。
- どうしても授業の進度が早くなったり遅くなったりすることがあってシラバスと一致しない。学生にもシラバスの内容をコピーさせてノートに張るなどして、シラバスを周知させ、毎回の授業ごとにその日の授業はシラバス通りであったかを確認しながら授業を進めたい。

8. 疑問点に対する質問のしやすさ（10件）

- 誰でも気軽に質問できる機会を作るために、授業終了15分前に必ず小テストを実施している。その間クラスの中を歩き、学生の理解度を自分の目で確かめている。その時に質問があれば個人的に受け、1対1で対応し解るまで優しく丁寧に接するように心掛けている。また、大半の学生が同じ間違いをしている場合には、全体的にもう一度その部分について説明し、納得するまで繰り返し説明を行っている。
- 章節のつながりを理解させるとともに要所要所で授業を止めて質問の時間を設け、質問しやすい雰囲気を作る。
- 授業後教室に可能な限り残り、個別に質問を受けるように心がけている。しかし、これも勉強のできる学生、授業中にしっかり聞いている学生、つまり問題意識を持ったものが多く来るのみで、たとえば寝たりしたよう

な学生はすぐ教室から居なくなるようである。

9. 定期試験の難易度について（17件）

- 学科による理解力の差が大きく、学力の低い学生にある程度の得点が取れるようにクラス別の試験を考える。
- 定期試験はシラバスを中心に国家試験の内容を加えてさらにグレードアップしたい。
- 易しい問題を1/3、普通の問題を1/3、理解力を要する問題を1/3になるように心がけている。それでも得点できない学生には、興味ある事項についての報告書を提出させている。例えば、ファラディの電磁誘導がわからなくとも、ファラディの自伝や前後の歴史。
- 定期試験の内容が、少し難しかったようである。しかしながら、授業中の演習問題を基本とした内容の試験である。したがって、授業を受ける学生諸君がもう少し努力をして欲しいと感じる面もあった。今後は演習時間を少し長くするつもりである。

10. 授業への意欲と熱意について（3件）

- 特定のクラスにおいて学生との対立関係（校務や役職との関連で）がある場合に、クラス全体の授業態度や意欲の面で顕著に現れる。
- 更なる意欲をアップすべき、興味ある授業としたい。
- 意欲的に見られていない、熱意を感じてくれないということをしっかり受け止め、コミュニケーションをしっかり取れる授業にしたい。言葉がけを学生にしっかりしてやりたい。

11. 教科についての興味と将来の役立ちについて（11件）

- 授業の“マンネリ化”を防止するためと、”何のためにこの授業をしているのか“ということを納得してもらうために、授業の間に簡単な実験を披露して学生の反応を見たり、さらには、将来の就職・進学を意識させるために、機械系企業が出題した過去の就職試験の問題を見せたり、省エネルギー、環境問題に強く密接した授業であるということを強調した資料を配布したりしている。
- 「興味を持てること」「将来、役に立つ内容であること」は授業への満足度を高める根本的な要素であると考えるので、評価の改善を図るよう努力したい。
- 今年度は、年間を通じて行っている漢字書き取りの小テストをシステム化し、各段階をクリアしていけば、年度末ごろに実施している漢字能力検定準2級・2級の内容がひととおりマスターできるように工夫した。これによって、漢字習得、漢字検定受験への意欲が高まるのではないかと期待している。

12. 総合的な満足度（5件）

- 同様の授業をおこなっているにもかかわらず、M科の評価が低かったことについてその原因を考える必要がある。他の学科に比べて女子学生が少ないことなども考えられるが、歴史の必要性を見出せない、興味を持ってない可能性がある。今後技術史なども取り入れながら、授業を進めてみたい。
- 自分自身のポイントが総じて教員全体の平均よりも低くなっており、1年目で勝手がわからなかったとはいえ自分の未熟さに恐縮する次第である。今年度は少しは学生のニーズに合わせた授業を行っている積りであるが、この結果を踏まえてさらに改善できるところは改善していきたい。
- 総合的に考えて、「声の大きさ」や「説明のやり方」などは比較的高評価を得ているので、これからも今の状態を保っていきたい。ただ「補助教材の使用」や「授業の進度の安定」等が苦手なようなので、今後改善が出来るように心がけたい。

13. 授業の予習・復習について（8件）

- 担当授業においては市販の教科書を使用せず、独自の資料を作成して学生に配布している。また、その資料は毎年、マイナーチェンジしている。したがって、授業のたびにその資料を配布していることから、学生は予習しにくい状況にあるといえる。逆に、学生に授業の感想を毎回書いてもらっている（電子メール）ので、ある

一定の水準において復習は行われていると考える。今後は、復習は日常的に感想文として形に残るようになっていくことを授業評価時に学生に伝える必要がある。また今後は、学生が予習できるよう事前に資料を準備するよう心掛けたい。

- e-learning を利用して自学自習ができるコンテンツを作成中。
- 宿題を出し、小テストを頻繁に行う科目は高い評価であった。したがって、定期的に小テストを行い、宿題を出すように改善した。

14. 授業取り組みの熱意について（5件）

- 授業の始めと終わりの礼は大切であると思う。このところをいい加減にしてはいけないと思う。「礼で始まり、礼で終わる。」まずはこれをきっちりさせことに努めてきた。起立と号令がかかっても立っていない者がいたりしたままで済ませてはいけない。ここから、先ず勉強する姿勢を体で表すことです。
- 学習意欲が高い学生であれば、ノートのとりの指導はほとんどいらぬと思う。残念ながらこの学校の学生は先ずノートのとりの指導が必要である。1年生では先ず始めにノートのとりの指導を始めた。そしてノートがきちんと取れているかどうかを確認するために、定期的にノートの点検をした。

15. 授業の理解度（2件）

- 理解の程度に関わらずシラバスをこなすように授業を進めてきたが、本年からは進度よりもむしろ「わかる」ことを心がけるようにしている。基礎事項を確認しながら「わかる」と「練習を十分に」の方針に切り替えた。

16. その他アンケートに対する意見など（7件）

- 講義に関しては、その講義の内容や完成度よりも学生の好き嫌いで項目を読むまでもなく付けているように感じる。これでは教官にとっても、学生にとっても教訓にできる部分は少ないと感じる。やはり一言でもいいので、改善点や評価点に関して自由に記入してもらえたらと思う。（集計は大変だが・・・）
- 本校を良くするためには、校長の教育方針が教員をはじめ事務職員にいたるまで、徹底させるべきだと思う。校長が会議などで、教育方針を述べ、それを隅々まで徹底していくべきだと思う。
また、優れた企業では「改善」を徹底している。このことも取り入れて、校長が自ら信じる教育方針にのっとり指導力をさらに発揮されんことを、希望してやみません。

平成17年度授業評価に対する改善および実践方法

（実験・実習に関するもの）

1. 話し方や声の大きさについて（全6件、提出された全ての件数）

- 「聞こえますか」とこれまで以上に確認しながら説明する。先ず、平均程度の話し方や声の大きさを目指す。学生に聞きながら何が悪いのかを把握し、できればその場で修正する。
- 学年によって評価に極端な差がある。これは説明に対する評価より学生の興味自体で評価値もかなり左右されることを意味している。説明も興味を持たせるように心がけて進めたい。
- 話す速さが早いのであろう。ゆっくり話す努力を続ける。

2. 理解しやすい説明について（全16件）

- 実験実習についての説明は、自分で作成した補助テキストを利用して行っている。補助テキストは、未完成であるため、学生にとって良く理解できなかつたと考えられる。
テキストに図を多く用いていなかったことが理解に苦しんだ点であると考えられるため、図を取り入れた内容に現在は作成し直している。

- ・私の授業方針として、実験内容が“実社会で役に立つものであること”を念頭においている。内容は、若干授業に先行した形で、理論よりも実験を主体に取り込むことにしている。この点で、理論に関する理解が少し十分でないかもしれない。今後、これらの事項を改善する。
- ・教員生活1年目での評価であり、会社員生活中での部下、上司への“説明能力=プレゼン能力”と同じはず、これまでの経験では、説明途中で相手に理解されていないと感じると、すぐに別の切り口で説明し直す傾向がある。それが適切なタイミングと切り口であれば申し分ない。自分で腑に落ちた言葉で説明していると思っているが、切り替えのタイミングが早過ぎたり、説明がくどくなるのが若干あると自戒している。その点は、大いに改善の余地がありと思われるので、適宜、注意している。

3. 学生の理解に沿った進捗について（全13件）

- ・実験中こまめに回り、進捗を意識して進める改善を考える。
- ・準備した資料に記している通りの操作をすることが難しいとの苦情を生徒から聞くことがあった。今回は、5にも関連するが、操作を覚えさせるという目的から逸脱せず、かつ作業量を減らした資料を作成して用いた。今後もさらに資料の作成に工夫をする。
であるが、取り組みの遅れる者もいる。
- ・各実験内容の取捨選択を行い、時間が特に必要であるにも拘わらず学習効果が余り期待できない部分を削除するなどした。これにより、その他の大切な部分をじっくり取り組めるようになった。

4. 実験・実習の内容に準備や工夫があったか（全10件）

- ・実験・実習の準備は、前日に最低限の準備をしている。実験が簡単に成功してしまうと、学生は結果以外何も考えようとしないので、できるだけハプニングが起きるように設定している。何が問題でこのようなハプニングが発生したのかということを生徒自身で答えを出す時間を作っている。また、毎年同じ実験をするのではなく、少しずつ変化をもたせるようにして、私自身のマンネリ化を防止している。
- ・①平成18年度の4月から大島丸実習ノートを改訂した。カリキュラムの変更に伴い航機両用教育から、航機別の内容に変更した。②今までのプリント、資料を盛り込み分かりやすくした。③実習内容の予習、復習ができるよう実習毎に纏め整理した。④シラバスには全般的なことを書いており、大島丸実習ノートとは一致しない。その点学生の評価が低かったのも理解できる。実習ノートと実験実習の内容は一致するが、シラバスには個々の実習内容は書かれていない。以上から平成18年度以降は改善が見られると思われる。
- ・評価が低いのは、コピー&ペーストを多用して図面を完成させる内容であったためであると思われる。実験実習に使っていたソフトがトライアル版で、図面や部品の保存ができなかったためやむを得なかった。今年度から情報教育センター第1演習室には、Winstar CAD ver. 8が入っているのので、部品の作製・登録などの基礎的なところからやれば改善されると思われる。
- ・友達のレポートを写さないように工夫したい。そのための方策として、実験の直後すぐその場で極力レポートを書かせるようにしたい。せめて、イントロだけでもやっておけば自宅や寮で取っ掛かりやすいのではないかと思う。そのために、実験内容もあれこれ欲張らず、簡潔なものにするべく検討したい。

5. 指導書は実験内容の理解に役立ったか（全7件）

- ・指導書を作成していないことから、この項目の数値が低くなっていると考えられる。今後は、指導書を作成し、学生が実験・実習を行いやすいようにする必要がある。
- ・実験では指導書の良し悪しが実験の成功の鍵であると考えている。指導書の作成では、実験の目的を明確に示し、原理及び実験方法を分かりやすくなるように心掛けた。またレポート作成の参考になる部分においても最低限の項目を示して、これらを参考にして実験結果及び考察をまとめることで、自然とレポートとして仕上がる構成としている。また指導書に関する学生からの質問及びレポートの内容を参考に、年度ごとに常に実験内容の見直しを行っ

ている。この点についても学生の評価は高く、今後ともこの姿勢で実験を指導して行きたい。

- カリキュラムの内容（カッター、通信、ロープワーク）に対して割り当て時間数が多すぎると感じている。現在は、乗船実習に役に立つような新しい内容を取り入れられないか検討している。そうすると指導書についても検討しなければならないと考える。（現在 S1 実習指導書はない（必要ない）。）

6. 実験・実習の内容はシラバスと一致していたか（全 8 件）

- 従来の電気・電子基礎実験は、実験装置が大掛かりであった。したがって 1 つの装置に対して複数人が協力して実験を行っており、優秀な学生が作業を進めて、そうでない学生は何もしないで見るだけに過ぎなかった。これは優秀な学生の進行について行くことができない学生が、自分のペースで実験ができず、諦めてしまったからである。この問題を解決するために、「学研マイキット 150」と「EX-150」という個人用学習キットを導入することで、自分のペースで段階に応じて学習を進めることができるようにした。そのため、シラバスに記載された実験内容と変更点があった。この問題点は、今年度からは解決されている。
- 実験は、ほぼシラバスとおりに行われているはずであることからするとこの評価カウントについて不満というか学生の意識に疑問を持つ。
- 現在行っている内容（S2 チャート S3 通信）が、現代商船のニーズと合っていない内容であると考えているので、本年度は引き継いだ内容から変更している。また、実習指導書の文面もおそらく十数年変更されていないと思うので、来年度以降に改善を希望する。

7. 疑問点に対する質問のしやすさ（全 5 件）

- 実験を実施する前に、必ず、指導書を学生といっしょに一文一句読み返し、なぜこのような実験をしなければならないのかを 1 人ずつ質問して、実験の意義を理解させている。座学の授業と実験は共に対応しているので、授業内容を思い出させるように、必ず 1 人ずつ実験の原理について発表させるように心掛けている。
- 実験では、電気電子工学の実験が主であるため、感電などの事故が無いように常に学生の行動をチェックしている。学生の行動（実験進行について不明な学生が有るか無いか）を把握することで学生に対して適切なアドバイスや質問への受け答えができると考えている。また実験では単調になることが事故やミスにつながるようになるので、休憩等を入れて気分転換をさせている。学生のこれらの項目に対する評価も高く、今後とも適切なアドバイスができるようにして行きたい。
- 操船シミュレータを使用した実験なので、1 人では対応できないので、3 人以上で担当している。2 隻の船とインストラクターに教員が 1 人ずつ担当して行っている。疑問点があれば、その都度、質問できるようにしているが、船を操船しながら、航海士、RADAR、電子海図、船位測定等を行っているので、1 人が質問すると、他の学生が質問できないこともその要因と考えられるので、事前に質問ができるように、演習内容を吟味して、質問ができるように改善したい。

8. 実験内容のレベルは適当であったか（全 8 件）

- 実験中の状況や評価から判断すると、4 年生は内容が高度すぎると感じたようである。したがって他の評価項目（例えば、3,4,9）にも、その影響が現れているようである。今後は実験内容の説明を工夫し、技術者として必要な知識であることを認識させたい。
- 前年度の 4 年生のデジタル信号処理実験は MATLAB や DSP エミュレータなどプロツールを体験させる内容であったが、これらの利便性を理解するには学生の基礎知識が不十分であると思われた。そこで今年度は内容を基礎的な実験に改め、全ての学生が内容を十分理解して実験を進められるようにしている。
- 易しくても高い評価になる危険性があるので、学生の理解度を見ながら、実験内容の改良を行う必要がある。次年度の実験内容の改編にあたっては、最も留意すべき点と考える。

9. 実験・実習に対する先生の意欲と熱意（全 4 件）

- ・実験・実習が始まる5分前には作業服・安全靴に履き替え実験室に行くようにして、学生を待ち受けるように心掛けています。マニュアル（指導書）をただ読むのではなく、関連する資料を配布して、タイムリーな話題を提供して少しでもこの実験・実習に学生がのめり込んでほしいと願って自分なりに頑張っている。
- ・あまり理解しないまま実験を行っている結果だと思われる。私自身、学年によって熱意を入れたり入れなかったりしているわけではない。改善策としては、実験中、学生との対話を増やすよう試してみる。
- ・個人的には熱意を持って取り組んでいたため本意ではあるが、そう学生に捉えられているのであれば改善する必要がある。学生の理解を上げるために丁寧な説明及び指導に心がける。これによって学生の持つ印象変わると考えられる。

10. 実験内容に興味を持て、将来役に立つか（全6件）

- ・昨年度の多くの学生の実験レポートではワープロや図表の作成といった基礎的なコンピュータ・リテラシが乏しいレポートがほとんどであった。これらのスキルは実社会において、専門技術以上に必要不可欠である。そこで今年度は実験の時間にレポート作成に必要な技術を説明している。また、実験結果の考察を書けない学生が多いため、考察すべきポイントをかなり具体的に説明して指示をするようにしている。
- ・実験を開始する冒頭で、情報技術者にとってどの様な部分に役立つのかという観点から、実験の目的を述べるようにした。
- ・評価は教員全体の平均をごくわずかではあるが上回っていたので、今後コンピュータを使う学生がコンピュータのハードを多少なりとも実験できることは、それなりに有意義ではあると思う。（処置1）この実験に対するテキスト（簡単な問題や操作法も書いてある。）は丁寧に作ってあるはずなので、実験に来る前に予習をある程度はして欲しいという願望を抱いている。（処置2）プログラミング言語は、簡単なアセンブラを用いているが、コンピュータでは様々な言語が使われることも理解して欲しい。

11. 講義の理解に役立つか（全5件）

- ・配線、組み立て、検査は技術の基本であり、役に立つという評価が多いので、この実験を継続する。
- ・講義で話した項目を実験のテーマにし、かつ試験問題にも使用している。評価については少し不満である。
- ・1年次のテキストを基にしているのですが、時間的空白もはなはだしく、かなり難しいと感じた。（処置1）今後も理解を高めるための工夫・改善を心がけていきたい。

12. 総合的な満足度（全2件）

- ・実験テーマの見直しを行った。
- ・学生が本項目に対して、どのような観点に重きを置いて評価したかは不明であるが、1から11項目の平均値的評価と捉えている。

13. 取り組みの熱意について（全1件）

- ・学生も興味を持っているようなので、継続して行こうと考えている。

14. アンケートに対する全体的な意見等（全6件）

- ・アンケートをまじめに書いている学生も多いが、そうでない学生もおり更には何も書かずに提出する学生も少なくないという問題があります。アンケートが無記名であることがこのような無責任な行動の一因であると考えられます。無責任な学生による信憑性に欠けるアンケートを続けることは無意味ではないでしょうか。そこで、アンケートを記名式にして学生自らの発言に対して責任を持たせるべきだと思います。担当教員が回収するのではなく、学級委員が担任又は副担任の先生に渡して、まじめに記入しているかどうかを確認すれば、公正かつ有効なアンケートになるのではないでしょうか。
- ・本来、商船学科の航海コースの実験実習は、小艇の操縦、操船シミュレータ等“実験”ではなく“実習”が多い。つまり、出席して、体験していくらである。これを評価するのはかえってむずかしい。そこで、同じテーマではあ

るが、個々の学生ごとに違う計算問を作成し、隣り近所の学生が見ても答えを写さない、写しても意味がないようにした。そうすることで、解った学生は解らない学生に方法を教えるようになり、相互に協力して問題を踏破するようになった。

- ・実験の目的は実際に体験して体で学習することに意義がある。したがってマニュアル通りに進むよりはトラブルがあったほうが勉強になる。なぜかと考えるに、考える機会に恵まれることにあると思う。それは建前としても、私自身に照らして考えるとやはり驚きがないと実験の意味は半減するように思う。「すごい」こんなことが起きるのか。これが実験実習のポイントであると考えている。

(出典 平成17年度授業評価に対する改善及び実践方法)

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

事務職員，技術職員は本校事務組織規則（資料3-3-①-1）に基づき組織している。学生への教育支援は学生課の教務係，学生係，図書係，実験実習第1係及び実験実習第2係を事務組織図（資料3-3-①-2）のように配置し，教務主事，学生主事と連携を図っている。

また，学生課の実験実習第1係及び実験実習第2係は本校事務分掌細則（資料3-3-①-3）の定めのとおり，担当教員の指導のもとに連携しながら教育支援を行っている。なお，具体的な支援としては教育支援活動内容（資料3-3-①-4）のとおりである。

(分析結果とその根拠理由)

教育支援のため事務組織図（資料3-3-①-2）のように事務職員，技術職員等を配置し事務分掌細則（資料3-3-①-3）のように組織的に支援を行っている。意欲的に教育支援に大きく寄与している。

以上のことから事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

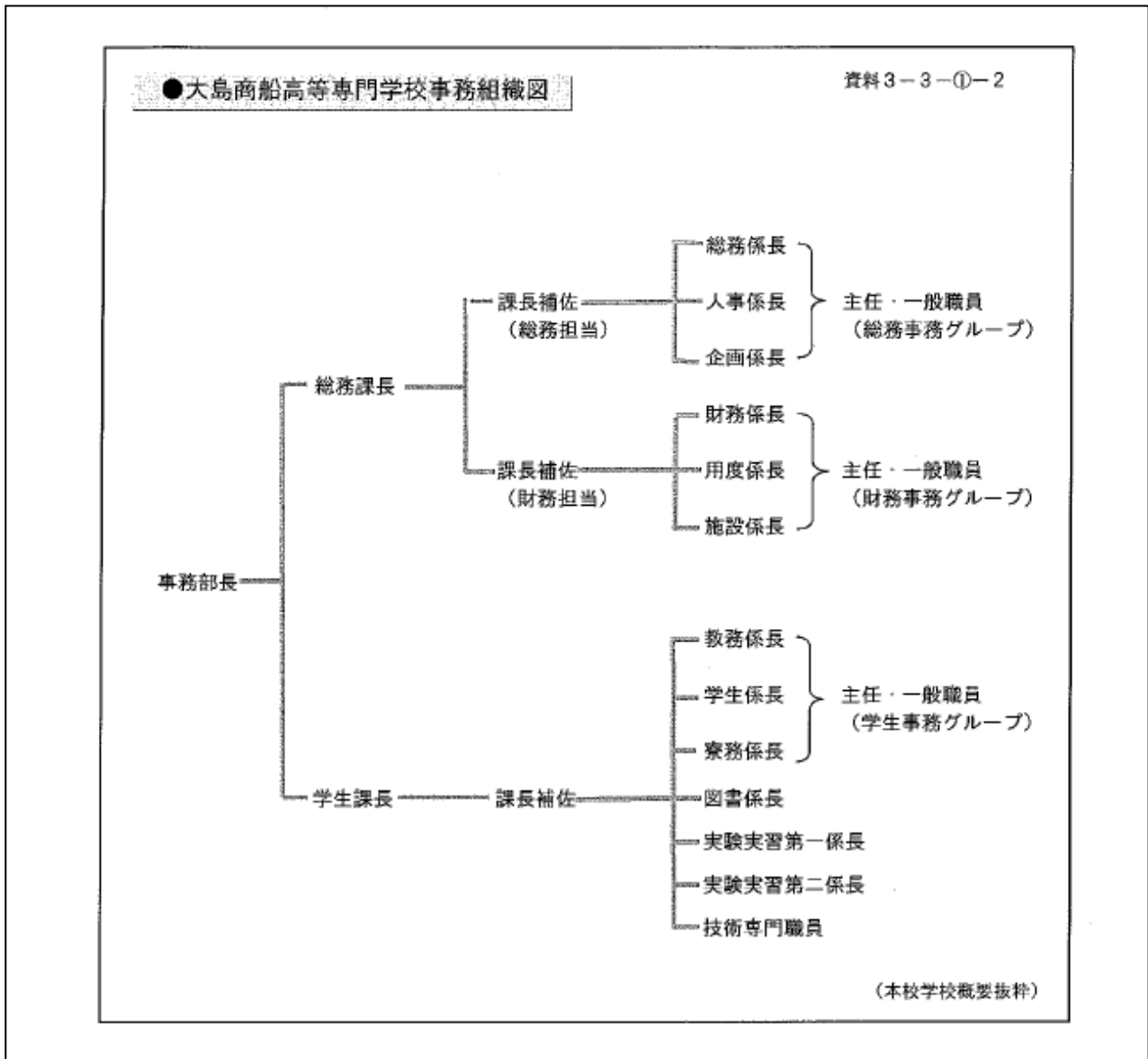
事務組織規則

(学生課)

第 8 条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関する事。
- (2) 学生の修学指導に関する事。
- (3) 教育課程の編成及び授業に関する事。
- (4) 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。
- (5) 学生の学籍に関する事。
- (6) 学生の実習に関する事。
- (7) 学生の課外教育に関する事。
- (8) 学生及び学生団体の指導監督に関する事。
- (9) 学生に対する奨学金、授業料等の免除及び徴収猶予並びに経済援助に関する事。
- (10) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (11) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- (12) 学生に対する職業指導及び就職あっせんに関する事。
- (13) 学生旅客運賃割引証に関する事。
- (14) 学寮の管理運営に関する事。
- (15) 学生の入退寮に関する事。
- (16) 寮生の指導監督に関する事。
- (17) 日本体育・学校健康センターの事務に関する事。
- (18) その他教務、厚生補導及び寮務に関する事務を処理する事。
- (19) 図書館資料の受入れ、整理、保存等に関する事。
- (20) 図書館資料の閲覧、貸出等利用に関する事。
- (21) 図書館における参考奉仕（検索指導、読書相談等）に関する事。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)



(出典 本校学校概要抜粋)

事務分掌細則

第 4 条

(2 - 6 項省略)

7 実験実習第一係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 船舶、舟艇、艇庫（技業室を含む。）、舟艇器具庫及び棧橋（以下「船舶等」という。）の管理及び保全に関する事。
- (2) 船舶及び舟艇の機関・機器並びに実習器材等の整備保全に関する事。
- (3) 船舶等における保安に関する事。
- (4) 船舶実習等における事故防止、海難救助等に関する事。
- (5) 船舶等における実習計画及び実施に関する事。
- (6) 船舶等における実習指導に関する事。
- (7) その他学生の船舶実習に関する事。

8 実験実習第二係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 実習工場並びに実験室の管理及び保全に関する事。
- (2) 実習工場並びに実験室の機器及び器材等の整備保全に関する事。
- (3) 実習工場並びに実験室の保安に関する事。
- (4) 実習工場並びに実験室における教官指導のもと、各種の研究、実験等の実施に関する事。
- (5) 実習工場における実習計画及び実施に関する事。
- (6) 実習工場における実習指導に関する事。
- (7) その他、学生の工場実習に関する事。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

A 職員の教育支援活動内容

- (1) 実験実習指導または補助に関する業務
- 各実験実習名および年間補助時間については別紙参照。
 - 各実習担当教員と共同で実習内容の企画および方針決定および実施。
 - 情報工学科2年のテキスト作成および印刷。
 - 情報工学科4年のテキスト作成および印刷。
 - 実験前準備（試運転等）。
 - 実験指導補助（実験装置の原理等の説明およびプログラミング、PC 操作法指導）
 - 使用機器保全。
- (2) プログラミング演習室の管理並びに保全に関する業務
- プログラミング演習室各 PC の設定およびアップデート管理。
 - プログラミング演習室各 PC へ追加アプリケーションのインストール。
 - プリンターの管理，障害対応。
 - プログラミング演習室の装置の手入れ・管理・整理（加速度計等）
 - プログラミング演習室におけるドメインサーバ構築，設定，保守の補助。
 - プログラミング演習室ネットワーク構築補助。
 - 室内清掃，整理整頓。
- (3) 溶接室の管理並びに保全に関する業務
- 溶接室内の装置の手入れ・管理・整理。
 - 実験実習で使用する保護具の管理。（サングラス，前掛け，手甲，足カバー等）
 - 実験実習で使用する道具の管理。（耐火煉瓦，石筆，スケール等）
- (4) 熱流体実験室の管理並びに保全に関する業務
- 熱流体実験室内の装置の手入れ・管理・整理（熱交換実験装置等）
- (5) 情報教育センターサーバ室の管理並びに保全に関する業務の補助
- WWW3 サーバ設定補助。
- (6) 消防点検に関する業務
- 消防点検この管理並びに消火ポンプの整備・点検・試運転
- (7) 大島丸，すばるの出入港時に関する業務
- 大島丸，すばるの出入港時の綱取り。
- (8) 各種学校行事に関する業務
- 各種学校行事に関する準備，後片付け。
- (9) 試験問題並びにレポートのコピーに関する業務（平成19年度より廃止予定）
- 定期試験（各学生）ならびにレポートのコピー・取りまとめ

（出典 教育支援活動内容）

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教員の経歴を見ると、大学、高校、民間企業など様々な経験を持った教員がおり、多様な人材で本校は構成されている。また、企業における実務の豊かな教員は、本校の学生の進路相談などにおいて適切なアドバイスを与えることができるという利点がある。さらに高校での教職経験のある教員は、クラス担任の仕事や、低学年における学生の学習面や生活面でのきめこまかい指導ができるという利点がある。また、事務系の職員の配置については、適切な規模で定期的に配置換えが行われ、仕事のマンネリ化を防ぐ意味で、効果を上げている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準3の自己評価の概要

一般科目では特に、韓国や中国という近隣諸国との国際交流も視野に入れた国際感覚豊かな学生を育てるために、従来のドイツ語に加え、平成18年度からハンブル、中国語を選択科目として開講している。

商船学科の特徴としては、教員の他に練習船「大島丸」に船長、機関長、一等航海士、一等機関士の専任教員を配置し、航海実習など船舶職員養成に必要な実習を担当していることである。

電子機械工学科では特に、インターンシップに力を入れており、平成18年度ではほぼ100%の学生が参加している。

情報工学科では、低学年でプログラミング教育を重視し、1年から4年までの実験実習では、情報工学関係の実験を小グループで行っている。高学年では4年での創造演習から5年の卒業研究により実質1年半の研究期間を設けており、IT技術者育成に取り組んでいる。

専攻科では、海洋交通システム学専攻で商船学科に属する教員を中心に海事技術者養成のための教育を行っている。電子・情報システム工学専攻では電子機械工学科および情報工学科に属する教員を中心に実践的開発技術者育成のための教育を行っている。また専攻科における、教養教育では本校一般科目に属する教員が中心となって「豊かな人間性」を目指す教育を行っている。

教員の採用にあたっては、公募制としており、厳格かつ適正に選考が行われている。また教員の昇進に関しても内規が定められており、教育と研究業績等によって昇進が決められている。

教育活動に関する評価に関しては、学生による授業アンケートをとり、その集計を各教員に返却して、各教員が自己研鑽に努めるようにしている。評価の悪い教員は校長が個々に面接を行い、授業参観をするなどの改善策を行っている。また、平成18年度は各自が平成17年度の学生の授業アンケートの結果に基づき、授業についての改善策を学校長に提出した。このように、各教員の授業の改善にも学校をあげて意欲的に取り組んでいる。

教育課程を展開するにあたり必要な事務系・技術系の職員は、事務組織規則に従い適切に配置し、効果的な教育支援を行っている。

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況）

<準学士課程・編入学>

学生募集及び入学者選抜に関しては、入学試験委員会において立案され、入学選抜の試験業務は教務主事室が中心となって実施し、合否判定は入試選考委員会が行っている。本校では、準学士課程・編入学のそれぞれにおいて「アドミッション・ポリシー」を設け、入学者を選抜する際の選考基準として、重要視されている（資料4-1-①-1～3）。準学士課程の入学者選抜に関わる「アドミッション・ポリシー」は、中学校に配布している学校案内・学校概要・学生募集要項に明示し、ホームページにも公表している。また、PR活動の際に訪問する中学校、入試説明会の際に言及し、本校が求める学生像をできるだけ具体的に解りやすく説明しているため、社会に対する周知は充分行われていると認識している。編入学においても同様である。また、教職員に対する周知については、本校の学校案内・学校概要を教職員に配布している。本校では、学校概要や学校案内、ホームページなど、活字として「アドミッション・ポリシー」を示すだけでなく、学校としての組織が求める「学生像」というよりも、「活きたアドミッション・ポリシー」となるように全教職員が、自分自身が教育を実践していく上で求めたい「学生像」として認識している。

<専攻科課程>

専攻科の入学者選抜における基本方針としてのアドミッション・ポリシーは、専攻科全体と各専攻に分けて設定している。（資料4-1-①-4、-5）専攻科のアドミッション・ポリシーは、専攻科委員会（平成18年8月29日）において内容が専攻科の教育目標に合致しているかが審議され、一部の語句が変更された後、承認された（資料4-1-①-6、-7、-8）。

専攻科会議資料アドミッション・ポリシーは、平成18年度第7回教官会議（平成18年10月16日開催）（資料4-1-①-9）で承認され、専攻科募集要項、ホームページ等に記載して公表されている。さらに近隣の高専（宇部、徳山、呉）への専攻科PRの際に専攻科のアドミッション・ポリシーを示した募集要項を配布している。さらに専攻科受験生への周知については、専攻科受験生は入学試験の際に行うプレゼンテーションの要旨及び自己PR文を、専攻科のアドミッション・ポリシーを参照して書くことが求められており、受験生自身への周知も行っている（資料4-1-①-10）。

(分析結果とその根拠理由)

<進学士課程・編入学>

本校では、「アドミッション・ポリシー」について、中学校を対象とした入試説明会、本校入学希望者を対象としたオープン・キャンパスなどで詳しく説明を行っている。入試説明会やオープン・キャンパスに参加した中学生の多くが本校を受検していることから考慮すると、本校の「アドミッション・ポリシー」は社会に充分に行き渡り、それが質の良い入学者の獲得につながっていると考えられる。すなわち、換言するなら、編入学試験においても、「アドミッション・ポリシー」は充分に重要視されているというわけである。

<専攻科課程>

専攻科のアドミッション・ポリシーは、本科及び専攻科の教育目標の内容及びキーワードが使われており、専攻科の教育目標に沿って制定されている。また教官会議で承認され、全教員への周知がなされている。さらに本校ホームページ等で公表されており教職員、本校学生と保護者及び将来の学生が自由に見られる環境を整えている。また専攻科の受験生も願書作成の際、必ず専攻科のアドミッション・ポリシーを一読するようになっている。

以上の分析結果より専攻科のアドミッション・ポリシーの制定及び公表については適切に行われていると言える。

★ 平成19年度
学生募集要項
(出願書類添付)

アドミッションポリシー（入学者受入方針）

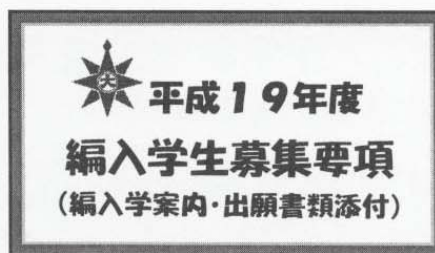
- ★ 大自然に素直に向き合える人
- ★ 外国の人と一緒にする仕事に興味のある人
- ★ 自分なりに工夫することが好きな人
- ★ 協調性と責任感のある人
- ★ 中学校で教わった基礎学力が身についている人

Institute of National Colleges of Technology, Japan
Oshima College of Maritime Technology

独立行政法人 国立高等専門学校機構
大島商船高等専門学校

〒742-2193 山口県大島郡周防大島町大字小松1091番地の1
TEL (0820) 74-5473 (学生課教務係)
FAX (0820) 74-5554 (学生課)
ホームページアドレス <http://www.oshima-k.ac.jp/>

(出典：平成19年度学生募集要項)



アドミッションポリシー（入学者受入方針）

- ★ 専門分野が異なる人とも情報交換ができる人
- ★ 科学技術を通じて国際社会に役立ちたい人
- ★ 自分の専門分野のより高度な知識や技術を学びたい人
- ★ 自然と人間社会とのより良い共生に貢献したい人

Institute of National Colleges of Technology, Japan
Oshima College of Maritime Technology

独立行政法人 国立高等専門学校機構

大島商船高等専門学校

〒742-2193 山口県大島郡周防大島町大字小松1091番地の1

TEL (0820) 74-5473 (学生課教務係)

FAX (0820) 74-5554 (学生課)

ホームページアドレス <http://www.oshima-k.ac.jp/>

(出典：平成19年度編入学生募集要項)

教育目標

1. 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。
2. 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。
3. 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。

アドミッションポリシー(入学者受入れ方針)

- ★ 大自然に素直に向き合える人
- ★ 外国の人と一緒にする仕事に興味のある人
- ★ 自分なりに工夫することが好きな人
- ★ 協調性と責任感のある人
- ★ 中学校で教わった基礎学力が身についている人

大島商船高専をめざす受験生諸君へ ～ 大島発地球号に夢を乗せて～

すでに歩み始めて6年を経過した21世紀は、環境の世紀だと言われます。それは主として前世紀で使いすぎた我々地球号の大切な資源を見直し、自然を癒し、人類と自然との共生が強く求められる時代であることを意味しています。

平成16年からの独立行政法人化の後も、さらに力強く歩み始めた大島商船高専は、依然として澄んだ海に囲まれ、緑あふれる自然の中で、次代を担う元気な若人を育み、洋々たる世界の海に目を向けています。若人たちが旺盛な気力と健全な体力を養い、人と自然にやさしいもの作り技術の修得に励む、そのような場として大島は大変恵まれたところです。

我が国は周囲を海に囲まれた島国であり、これからも平和を求める国際社会の中で、世界各国との貿易を通じて、益々交流を進展させていかねばなりません。遠く明治の世に、先覚者達の先見の明によって、ここ大島の地に本校の前身が創起されたことは大変意義深いものがあります。

現在本校の3本柱、商船学科と電子機械工学科および情報工学科の卒業生は、海・陸双方を舞台とし、たゆまぬ活動を続けています。特に、平成17年4月からは待望の専攻科（海洋交通システム学専攻と電子・情報システム工学専攻）の設置が実現し、専攻科生の旺盛な活動に力強さを感じております。第2期生も順調に迎え入れ、将来に向けてより一層大きな力となるでしょう。多感で若さみなぎる皆さんの年代は、人間形成の上でも非常に重要な時期です。それだけに大島における高専一貫教育は皆さんにとって大変重要な意味を持ちます。

本校では各々の専門に関わる授業はもちろんのこと、課外活動にも力を入れ、バスケット、バドミントン、ヨット、剣道、空手、野球、陸上等々各種の体育活動での輝かしい成果を収めてきました。また、高専ロボコン等での全国的な活躍も見逃せません。

こうしたクラブ活動を通じて、良き師、良き友を求め、一生涯解けることのない素晴らしい人間関係を、大島商船高専の中で是非とも見つけ出してください。

自らの人生航路とともに21世紀は皆さんが開く世紀です。皆さん一人一人が乗組員となって大島発地球号に大きな夢を乗せ、大志を抱いて、人間としてのしっかりとした勉強を身につけることを心から期待しています。



校長 和氣 博嗣

(出典：平成19年度学校案内Q&A)



平成19年度

専攻科学生募集要項

(専攻科入学案内・出願書類添付)

アドミッションポリシー (入学者受入方針)

専攻科全体

1. 優れた専門性と豊かな人間性を持った海運管理者、工業技術者および研究者を目指す学生
2. 外国への技術指導や優れた技術の導入を行える国際的視野を持つ海運管理者、工業技術者を目指す学生
3. 福祉やボランティアなどに積極的に参加でき、また環境問題に対して真剣に取り組む学生
4. これまでの学業や業績が優秀であり研究活動に対する取り組みや意識、意欲の高い学生

海洋交通システム学専攻

1. 自己完結技術力と柔軟性ある思考力をあわせ持つ学生
2. 高度なコミュニケーション能力を持ちたいと願う学生

電子・情報システム工学専攻

1. 技術者・研究者として必要な知識・技術力をさらに発展させたい学生
2. 異分野の技術や技術者と積極的に理解し交流できるようになりたいと思う学生

Institute of National Colleges of Technology, Japan
Oshima College of Maritime Technology

独立行政法人 国立高等専門学校機構

大島商船高等専門学校

〒742-2193 山口県大島郡周防大島町大字小松1091番地の1

TEL (0820) 74-5473 (学生課教務係)

FAX (0820) 74-5554 (学生課)

(出典：平成19年度専攻科学生募集要項)

大島商船高等専門学校 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

アドレス http://www.oshima-k.ac.jp/examination/senkouka/senkouka.html

大島商船高等専門学校
OSHIMA NATIONAL COLLEGE OF MARITIME TECHNOLOGY

HOME 学科・専攻科 紹介 キャンパスライフ 入試案内 書類ダウンロード

学校紹介 | 就職・進学情報 | 教育研究施設 | 地域との連携・交流 | 国際交流 |

入試情報

- ▶ 入試日程
- ▶ 本科入試案内
- ▶ 4年次編入入試案内
- ▶ 専攻科入学案内
- ▶ オープンキャンパス
- ▶ 中学校への説明会
- ▶ 入試データ
- ▶ 資料請求
- ▶ 入試に関するQ&A

中学生・高校生の皆様へ
在校生の皆様へ
保護者の皆様へ
卒業生の皆様へ
企業・地域の皆様へ
働きたい皆様へ

■ 専攻科入試案内

平成 19 年度 専攻科学生募集要項

| 専攻科学生募集要項 | 推薦による選抜 | 学力検査による選抜 | 社会人特別選抜 |

■ アドミッションポリシー

■ 専攻科全体

- 優れた専門性と豊かな人間性を持った海運管理者、工業技術者および研究者を目指す学生
- 外国への技術指導や優れた技術の導入を行える国際的視野を持つ海運管理者、工業技術者を目指す学生
- 福祉やボランティアなどに積極的に参加でき、また環境問題に対して真剣に取り組む学生
- これまでの学業や業績が優秀であり研究活動に対する取り組みや意識、意欲の高い学生

■ 海洋交通システム学専攻

- 自己完結技術力と柔軟性ある思考能力をあわせ持つ学生
- 高度なコミュニケーション能力を持ちたいと願う学生

■ 電子・情報システム工学専攻

- 技術者・研究者として必要な知識・技術力をさらに発展させたい学生
- 異分野の技術や技術者と積極的に理解し交流できるようにになりたいと思う学生

1. 専攻科の設置

平成17年4月

2. 専攻科の目的

大島商船高専専攻科は、高等専門学校等の高等教育機関において基礎的かつ実践的教育を受けた卒業生に対して、**優れた専門性と豊かな人間性を有する海事技術者と実践的開発技術者の育成**を目指します。

具体的には

- ◎ 海洋を中心とした国際・国内物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海事技術者の育成
- ◎ 電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成
- ◎ IT教育により、高度なコンピュータ活用能力の育成
- ◎ 国際化教育により、語学力や文化的教養の育成
- ◎ 福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成を目的とします。

3. 募集人員

学科名等	募集人員
海洋交通システム学専攻	4名
電子・情報システム工学専攻	8名

(出典：大島商船高専ホームページ)

専攻科の趣旨、沿革等を記載した書類

1 専攻科の趣旨等

(1) 専攻科の趣旨

近年のIT化に伴う産業の急激な高度化に伴い、産業構造の変化、経営効率による生産拠点の海外への移転が起り、また、外国人船員の我が国商船（経済的支配船）への急激な増加が生じている。さらに、我が国企業の9割以上を占める中小企業のさらなる高度化による地域の活性化のため、産官学連携が進もうとしている。これら産業界に卒業生を送り込んできた本校は船舶職員としての海運技術者、ものづくりのできる実践的技術者を育成してきた。しかし、産業界からも、高度な研究開発能力を持つが、学問的な大学学部と一線を画した実践的な技術者育成を本校に求めるようになってきた。また、海運界においても、海運界存続のため、陸上においてこれら経済的支配船の船舶運航管理を行える、高度で幅広い管理能力を有する海事技術者育成を本校に求めるようになってきた。また、地域に根ざす高度な実践的開発技術者の育成は、最近の少子化傾向や経済的事情に伴う地元への就職希望と高学歴志向の増加にも応え得るものである。

本校はこれら産業界からの要請、また、学生・保護者、地域からの要請に対応すべく、現在の本科の上に、海洋交通システム学専攻と電子・情報システム工学専攻の2専攻科の設立を希望している。本校専攻科は以下に示す教育目標を掲げている。

- 優れた専門性と豊かな人間性を有する
- 高度な海事技術者と実践的開発技術者の育成
- ◎海洋を中心とした国際物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成
- ◎電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成
- ◎IT教育により、高度なコンピュータ援用能力の育成
- ◎国際化教育により、語学力や文化的教養の育成
- ◎福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成

故に、本校専攻科を修了した学生が、大学評価・学位授与機構が行う学士の学位授与制度へ申請し、学士授与への途が開けるようにするため、本校専攻科の認定を申し出る。

(2) 専攻科の沿革

本校は、平成17年4月の専攻科設置に向けて設置予定のため、沿革について該当事項なし。

2 専攻科の教育方針等

(1) 専攻科の教育方針

【海洋交通システム学専攻】

我が国の海運は黎明の時代から常に国際競争の中でもまれ、現在もまた生き残りをかけた厳しいバトルの中にある。グローバル化の観点に立てば、天井知らずとは言わないまでも、まだまだ世界的な荷動き量の増加は見込まれ、地球規模での最適な輸送計画と運行管理、さらにこれらの基盤となる安全管理の技術は、これからも一層活発に開発され、充実されなければならないことが山積していると言える。

フェリー等に代表される内航海運の船舶も大型化・高度化してきた。また、海技士免状を有する船員であり、陸上において経済的支配船の船舶運航管理に従事するスタッフは、将来的にも我が国内外物流分野において必要不可欠な人材となる。そのためには、3級海技士免状を取得する海技従事者の育成を目的とする本科教育だけでは不十分である。

本専攻は商船学科航海コースと機関コースの教育内容の上に立っている。本科修了時には航海士、機関士としての免許も取得している。しかし、海運会社では船舶運航のコスト削減のために、日本人船員

資料4-1-①-7

専攻科長	教務主事	学生課長	教務係長	教務係	記録(専門員)
					

専攻科委員会議事要旨

1. 日 時 平成18年8月29日(火) 15:30~17:15
2. 場 所 会議室
3. 出席者 専攻科長・教務主事・専攻科主任(奥野・松井)
学科委員(S岩崎・M柳田・I比嘉・C吉留)・その他委員(増山)
学生課長(出川) 教務係長(吉村) 専門職員(濱崎)
- 欠席者 専攻科主任(辻)

4. 議事

(1) 専攻科の入学試験等実施要項について

資料「入学試験・プレゼンテーション・口頭試問及び面接実施要項(案)」及び「プレゼンテーション・口頭試問及び面接の実施について」により審議され、一部修正・追加のうえ了承された。

なお、試験の説明・プレゼンテーション・口頭試問などの担当は岩崎先生より都合を聞いてもらうこと及び試験問題の作成については、専門科目は岩崎先生より、数学・英語は吉留先生より依頼し、事前に学生課へ提出いただくようお願いした。

(2) 専攻科における授業評価アンケートについて

本科生用のアンケートを基準に一部修正のうえ了承された。

なお、授業担当教員へは、比嘉先生より配布し依頼することとなった。

(3) 専攻科学修レポートの学内審査及び小論文試験の実施について

配布資料(文責:比嘉)により説明し、了承された。

(4) その他

- ① 専攻科のアドミッションポリシーについて、資料のとおり修正のうえ了承され、9月20日実施の入学試験から実施することとなった。
- ② 海洋交通システム学専攻生の特別研究中間発表会(案)により説明し、実施することの報告がおこなわれた。
- ③ インターンシップの単位の認定について審議し、インターンシップ40時間(8H×5日)+レポート作成5時間の合計45時間で認定することが了承された。
- ④ 専攻科生の「ボランティア」の単位認定について、資料により電子・情報システム工学専攻2年生の _____ さんの単位を認定することが了承された。

(出典:専攻科委員会議事要旨)

専攻科のアドミッションポリシー（入学者受入方針） 平成18年8月29日

専攻科として下記のような意識を持つ学生を入学させ、教育および研究を指導する。

専攻科全体

1. 優れた専門性と豊かな人間性を持った海運管理者、工業技術者および研究者を目指したいと思う学生
2. 外国への技術指導や優れた技術の導入を行える国際的視野を持つ海運管理者、工業技術者を目指したいと思う学生
3. 福祉やボランティアなどに積極的に参加でき、また環境問題に対して真剣に取り組んでほしいと思う学生 取り組む
4. これまでの学業や業績が優秀であり研究活動に対する取り組みや意識、意欲の高い学生

海洋交通システム学専攻

1. 高度なコミュニケーション能力を持ちたいと願う学生
2. 自己完結技術力と柔軟性ある思考力をあわせ持つ学生

電子・情報システム工学専攻

1. 技術者・研究者として必要な知識・技術力をさらに発展させたいと思う学生
2. 異分野の技術や技術者と積極的に理解し交流できるようになりたいと思う学生

○研究活動に前向きに取り組みたいと思う学生（全体の4.と同じなので）外す。

入試面接でのアドミッションポリシーの利用について（案）

- 受験者には面接の際の質問にアドミッションポリシーを読んでもらい、各項目の中で自分はどれを目指しているか、またそれを選んだ理由を答えてもらう。
- 面接官は、回答を参考に受験者の面接を評価する。
- アドミッションポリシーに関して明確な答えができない受験者は原則、審議対象とする。

（出典：専攻科委員会議事要旨）

別紙 3

アドミッションポリシー（入学者受入方針）

【本科生用】

- ★ 大自然に素直に向き合える人
- ★ 外国の人と一緒にする仕事に興味のある人
- ★ 自分なりに工夫することが好きな人
- ★ 協調性と責任感のある人
- ★ 中学校で教わった基礎学力が身についている人

【編入学生用】

- ★ 専門分野が異なる人とも情報交換ができる人
- ★ 科学技術を通じて国際社会に役立ちたい人
- ★ 自分の専門分野のより高度な知識や技術を学びたい人
- ★ 自然と人間社会とのより良い共生に貢献したい人
- ★ 高等学校で教わった基礎学力が身についている人

【専攻科生用】

専攻科全体

1. 優れた専門性と豊かな人間性を持った海運管理者、工業技術者および研究者を目指す学生
2. 外国への技術指導や優れた技術の導入を行える国際的視野を持つ海運管理者、工業技術者を目指す学生
3. 福祉やボランティアなどに積極的に参加でき、また環境問題に対して真剣に取り組む学生
4. これまでの学業や業績が優秀であり研究活動に対する取り組みや意識、意欲の高い学生

海洋交通システム学専攻

1. 自己完結技術力と柔軟性ある思考力をあわせ持つ学生
2. 高度なコミュニケーション能力を持ちたいと願う学生

電子・情報システム工学専攻

1. 技術者・研究者として必要な知識・技術力をさらに発展させたい学生
2. 異分野の技術や技術者と積極的に理解し交流できるようになりたいと思う学生

（出展：平成 18 年度教官会議資料，平成 18 年 10 月 16 日開催）

平成19年度
大島商船高等専門学校 専攻科入学志願者
プレゼンテーション要旨

志願専攻名	学専攻 (航海系, 機関系)(電気・電子工学系, 情報工学系)	受検番号	※
ふりがな		生年月日	昭和 年 月 日生
氏名		性別	男 ・ 女
		学校	学科
最終学歴	昭和・平成 年 月 日 卒業 ・ 卒業見込		
ふりがな	〒		
現住所	電話番号 自宅・携帯 ()		
専攻科を目指す目的や自己アピール			
希望する研究の内容かキーワードの選択理由(「専攻科学生募集について」のp.16参照)			

- 記入上の注意
- 1) 表紙のアドミッションポリシー(入学受入方針)を参考にして書いてください。
 - 2) 記入にあたっては、黒のボールペンを使用し、文字は楷書で記入してください。
 - 3) ※印欄は、記入しないでください。

(出典 : 平成 19 年度専攻科学生募集要項)

観点4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

＜準学士課程・編入学＞

（1）準学士課程（新入生）

本校の準学士課程入学選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜の二つの方法が採られている。詳細はそのいずれについても学生募集要項に明記している（資料4-1-①-1）。「アドミッション・ポリシー」は、どちらの選抜方法にしても重要視されているが、特に推薦選抜においては顕著である。

推薦における入学者の選抜は、「内申点」「面接点」「小論文点」が柱となるが、「アドミッション・ポリシー」はこのいずれにおいても重要である。まず、「内申点」の中には「自己アピール」の項目があるので、受験者は本校のアドミッション・ポリシーをよく理解した上で文章を書かなければならない。したがって、本校の受験者は自動的に理解していることとなり、このことは「アドミッション・ポリシー」が中学校を始めとして社会に広く知られている証明になる。次に、「面接」においても、「アドミッション・ポリシー」を踏まえた質問が受験者に対してなされる。ここでは、本校の「アドミッション・ポリシー」をよく理解し、それに基づいた志をはっきりと述べることのできる受験者だけが本校の合格者として認められるのである。したがって、受験者が本校に入学するには、本校の「アドミッション・ポリシー」を必ず熟知していなければならないということである。最後に、「小論文」の検査においては、教務委員会においてあらかじめ決められたテーマが受験者に与えられ、600字以上の作文が要求される。そして、採点する側は、受験者が作成した小論文を熟読し、本校のアドミッション・ポリシーに相応しい人間像の持ち主であるかどうかを判断するのである。したがって、ここでも「アドミッション・ポリシー」は受験者選抜における重要な役割を果たすこととなる（資料4-2-①-1）。

学力検査における選抜では、全国高専共通の入試問題によって選抜が行われるが、それでも本校では、「アドミッション・ポリシー」がないがしろにならないように配慮している。学力選抜では筆記試験における獲得点数が高い者から順に合格させていくのは当然であるが、本校のアドミッション・ポリシーの中には「中学校で教わった基礎学力を身につけた人」という文言があるので、学力選抜においても「アドミッション・ポリシー」は十分に活躍している。

（2）準学士課程（編入学生）

本校の編入学試験は、「口頭試問」も含めた学力選抜（英語・数学・物理もしくは専門科目）のみである。ここで言う「口頭試問」とは、学力上の問題を口頭で質問するのみならず、本校への編入学を希望する理由など、すなわち受験生の学習意欲や人間性が浮かび上がると思われる質問もなされるので、試験官は受験者が本校の「アドミッション・ポリシー」に相応しい人物かどうかを探ることができるわけである。したがって、本校では編入学試験においても「アドミッション・ポリシー」は十分に活用され、合格者を選抜するための重要なキーポイントとなっている（資料4-2-①-2）。

<専攻科課程>

専攻科における推薦入試では、受験生は専攻科のアドミッション・ポリシー（資料4-1-①-9）に基づいたプレゼンテーション・面接と準学士課程における学業成績がアドミッション・ポリシーに定める学業優秀であるかについて審査される（資料4-2-①-3, -4, -5, -6）。

専攻科における学力試験では、英語、数学及び専門科目の学力試験の合計点、準学士課程の学業成績及び受験生が専攻科のアドミッション・ポリシーに基づいたプレゼンテーション・面接を基に審査を行っている（資料4-2-①-3, -4, -5, -6）。

学力試験問題については、専攻科のアドミッション・ポリシーにある学業成績の判定のために実施され、受験生が専攻科に入学するに十分な学力を有しているかを判断する材料としている。試験問題の内容は、準学士課程における各分野（英語、数学、専門科目）の内容で作成されている（資料4-2-①-7）。

(分析結果とその根拠理由)

<準学士課程・編入学>

本校の準学士課程においては、推薦選抜では「内申点」「面接点」「小論文点」のすべてにおいて「アドミッション・ポリシー」に相応しいかどうかということが合否判定の大きな基準となる。学力選抜では、特にアドミッション・ポリシーの中に「基礎学力」の項目に重点が置かれ、筆記試験の成績の高いものが基礎学力の習得者とみなされるので、やはり「アドミッション・ポリシー」は選抜において重要視されているのである。

編入学試験でも、「口頭試問」と学力試験においてアドミッション・ポリシーに相応しいかどうか審査される。このことは専攻科課程でも同様であり、先述したように、推薦選抜と社会人特別枠選抜では「面接」と「プレゼンテーション」において、学力選抜ではこれに加えて筆記試験でアドミッション・ポリシーに照らした選抜が行われる。

<専攻科課程>

専攻科の入試（推薦と学力検査）で行われるプレゼンテーションと面接で用いられるプレゼンテーション要旨（資料4-1-①-10）は、受験生が専攻科のアドミッション・ポリシーを参考にして書くことが求められている。また面接に際しては受験生が書いたプレゼンテーション要旨を参考に審査が行われ、プレゼンテーション及び面接の内容が専攻科のアドミッション・ポリシーに合致しているかを試験監督者が点数で評価する。（資料4-2-①-6）また学力試験問題においては、専攻科のアドミッション・ポリシーに示している学力が十分であるかを判断するため、準学士課程で習得している内容を念頭にして作成されている（資料4-2-①-7）。

専攻科委員会では、推薦ではプレゼンテーション・面接の結果及び準学士課程での成績を、学力試験では学力試験結果およびプレゼンテーション・面接の結果を基に審査基準（資料4-2-①-8）を基に受験者の合否を判断する。以上の分析結果より専攻科においてはアドミッション・ポリシーに基づいて入学者の選抜が行われていることがわかる。

推薦入学志願者選抜検査(面接・作文)実施日程

- ◎ 平成19年1月19日(金)
作文会場・面接会場設営
(図書館ロビーに概要、学校案内、学校だより等を置く)
- ◎ 平成19年1月21日(日)
8:30～ 立看板等を設置、最終チェック(教務係)
10:00～ 委員全員集合・・・会議室
校長挨拶
書類審査・・・会議室
10:10 受付(教務係)・・・図書館ロビー
受検者控室・・・図書館ロビー
10:15～ 日程等説明(教務主事、古藤、比嘉、増山、石田)・・・視聴覚教室
10:25～ 問題用紙(課題文)、解答用紙(原稿用紙)及び下書用紙各2枚配布
10:30～ 作文開始 監督・・・教員2名(増山、石田)
11:20 作文終了
2部(1部コピー)を班毎に用意する(教務係)
11:30～ 昼食
作文採点
13:05 検査官、受検者面接会場に移動
受検者は各班の面接補助者が案内
13:10～ 面接開始
面接会場
別紙のとおり
面接補助者(教務係)
15:40～ 後片付け

(出典 平成19年度推薦入学志願者選抜検査資料)

資料4-2-①-1 (続き)

- ◎ 総括
校長、教務主事
- ◎ 日程説明
教務主事、古藤、比嘉、増山、石田
- ◎ 作文監督
増山、石田
- ◎ 面接担当及び班別

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班
志望学科	商船	電子機械		情報			
面接会場	小会議室	図書館 会議室	学生 相談室	非常勤 講師室	教務 主事室	学生 主事室	寮務 主事室
面接担当教官	辻 古藤 石田	岡本 増山 野本	奥野 櫛田 吉富	比嘉 三原 吉田	松井 古本 堤	塩田 伊藤 藤井雅	岡村 岡宅 神田
受検番号	0001 0002 0003	0201 0203 0205 0207 0209	0202 0204 0206 0208 0210	0301 0305 0309 0313 0317 0321	0302 0306 0310 0314 0318 0322	0303 0307 0311 0315 0319 0323	0304 0308 0312 0316 0320 0324
控室	LL教室		視聴覚室		LL教室		

- ◎ 出勤者
 1. 委員長 校長
 2. 委員 教務主事
辻、三原、伊藤、古本、古藤
奥野、岡本、櫛田、増山、藤井雅
松井、塩田、岡宅、岡村、比嘉
吉富、神田、吉田、野本、石田、堤
 3. 事務部 事務部長、学生課長、学生課専門職員、教務係長、木元、越智

- * 特別活動等のチェック(1/17) 教務主事、古藤、比嘉、増山、石田
- * 健康診断証明書のチェック(1/17) 平畑(校医嶋元先生)

(出典 平成19年度推薦入学志願者選抜検査資料)

資料4-2-①-1 (続き)

	入学試験委員	推薦入試			学力検査				
		入試選考委員	面接・作文	書類審査	入試選考委員	学力検査	面接	書類審査	採点
1	和氣 博嗣								
2	平畑 幸作	委員長	○						
3	辻 啓介	○	○	○					
4	藤井 英信								
5	三原 伊文		◎	○					
6	伊藤 正一		○	○					
7	古本 啓二		◎	○					
8	古藤 泰美	○	○	○	○				
9	岩崎 寛希								
10	角田 哲也								
11	清水 聖治								
12	川原 秀夫								
13	新谷 浩一								
14	朴 鍾徳								
15	北風 裕教								
16	久保田 崇								
17	森脇 千春								
18	安尾 英昭								
19	藤井 敬治								
20	古賀 英司								
21	杉本 昌弘								
22	奥野 澄生	○	○	○					
23	岡本 正典	○	○	○					
24	藤田 直規		◎	○					
25	一番ヶ瀬剛								
26	松田 充夫								
27	岡野内 悟								
28	増山 新二	○	○	○	○				
29	岡崎 秀俊								
30	藤井 雅之		◎	○					
31	尾形公一郎								
32	中村 翼								
33	松井 利幸	○	○	○					
34	塩田 宏明		◎	○					
35	岡宅 泰邦		○	○					
36	岡村健史郎		◎	○					
37	石原 良晃								
38	比嘉 勝也	○	○	○	○				
39	浦上美佐子								
40	杉野 直規								
41	海田 健								
42	橘 理恵								
43	吉富 知行	○	○	○					
44	神田 全啓	○	○	○					
45	吉田 郁雄		○	○					
46	宮奥 正道								
47	吉留 文男								
48	野本 敏生		◎	○					
49	石田 依子	○	○	○	○				
50	幸田 三広								
51	上月 陽一								
52	杉村 佳昭								
53	中澤 信幸								
54	堤 康嘉		◎	○					
55	田口 由香								

◎は、校長が特に必要と認めた者
*は、主任

(出典 平成19年度推薦入学志願者選抜検査資料)

平成18年度編入学試験実施要項

1. 日程表

日 時	事 項	担当・監督者
8月26日(金) 8:30	委員集合[小会議室] 校長挨拶等	入試選考委員
8:40	受付[図書館ロビー] 受付終了後、学力検査会場 [本館会議室]へ移動	教務係
8:45	点呼・注意事項	教務主事, 教務主事補 (石田, 古藤)
9:00~ 9:50	数 学	高田, 吉富
10:00~10:50	英 語	石田, 宮奥
11:00~12:10	選択科目	
	昼 食	
13:00~	面 接[本館会議室]	教務係(面接補助)
8月29日(月) 11:00~	入試選考委員会 (合否判定)	入試選考委員会
8月31日(水) 10:00	合格発表	

2. 実施本部

小会議室とする。

試験監督者は、試験問題を試験開始10分前に教務主事から受け取る。

採点は、小会議室で行う。

3. 学力検査

学力検査会場 本館会議室とする。

学力検査担当

数 学 高田, 吉富

英 語 石田, 宮奥

選択科目 藤井雅、佐々井

担当者は8月19日(金)までに問題及び正解を作成し、教務主事に提出する。また、試験監督、採点を行う。

(出典 平成18年度編入学試験実施要項)

資料 4-2-①-2 (続き)

4. 面接

面接会場	本館会議室とする。
面接方法	別紙編入学面接評価項目による。
面接時間	1人30分程度とする。
面接担当	各学科3名で行う。 (教務主事, 電子機械工学科主任, 情報工学科主任, 入試委員 M科 岡本、岡野内、藤井雅 I科 松井、塩田、岡宅
評価方法	評価は、70点満点とする。

専門領域の問題については、8月2日(火)の志願者を見て学科で1年から3年までの一般的な問題と入試問題に準じたものを作成し、8月19日(金)までに教務主事室まで提出する。

(出典 平成18年度編入学試験実施要項)

入学者選抜（編入学）学力検査点呼時における受検者に対する注意事項

1. 本日の学力検査時間は
 - 9時00分から 9時50分まで 数 学 (50分)
 - 10時00分から10時50分まで 英 語 (50分)
 - 11時00分から12時10分まで 選択科目 (70分)
 その後13時00分から面接試験を1人30分程度行います。
2. 携帯電話、PHS等は、電源を切っておいてください。また、これらを時計として使用することはできません。
3. 受検票と筆記用具以外は、後の机に置いてください。
4. 問題及び解答用紙は、裏返して配布しますので、検査官の指示に従ってください。また、解答用紙には受検番号を記入してください。
5. 検査の開始・終了は、すべて検査官が指示しますが、検査問題の質疑には応じません。
6. 各教科とも30分以上経過しなければ退室できません。
また、いったん退室したら再入室はできません。
7. 各教科とも20分以上遅刻したときは、受検できません。
また、カンニング等不正行為をした者は、不合格になります。
8. 解答を書き終り、早めに退室する場合は、解答用紙を裏返し、静かに退室してください。
なお、途中で退室する者は学力検査問題を持ち帰ってはいけません。
9. 検査の終了間近であることを知らせるために「終了時間5分前」を告げます。
10. 本日の検査の結果、合格した者は、8月31日（水）午前10時、本校図書館玄関前に掲示します。
高等学校長及び本人への合否は、文書で通知します。
入学手続きに必要な書類等については、後日通知します。
11. 電話、メール等での合否に関する問い合わせには、いっさい応じません。
なお、合格者の受検番号を本校のホームページに掲載しますので参考にしてください。
ホームページアドレスは、募集要項にあります。
12. 貴重品は預かりませんので、各自で保管してください。
13. 昼食は、選択科目の試験が終わった後に検査会場で食事してもかまいません。
なお、弁当の空箱や紙くずは持ち帰ってください。

プレゼンテーション・口頭試問及び面接の実施について(案)

【海洋交通システム学専攻】 K2 学力選抜
 【電子・情報システム工学専攻】 D3 推薦選抜

1. 期 日：平成18年5月23日(火)

【海洋交通システム学専攻】……………K2 学力選抜

・集合時間 8:30 (図書館ロビー)

・受検生控室 図書館1階ロビー

【電子・情報システム工学専攻】……………D3 推薦選抜

・集合時間 10:00 (図書館ロビー)

・受検生控室 図書館1階ロビー

2. 検査会場

学力検査：図書館2階会議室

プレゼンテーション・口頭試問及び面接：小会議室

3. 受検者及び検査官

【電子・情報システム工学専攻】

11:00～11:30

(検査官：奥野・榑田)

11:30～12:00

(検査官：奥野・榑田)

13:00～13:30

(検査官：奥野・増山)

13:30～14:00

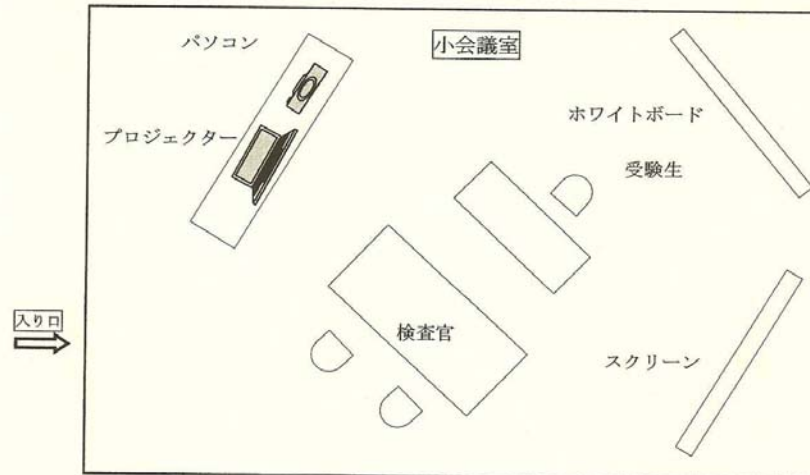
(検査官：松井・比嘉)

【海洋交通システム学専攻】

14:20～14:50

(検査官：藤井・岩崎)

4. 検査会場配置図



5. 選考会議・合格発表

選考会議：平成18年5月24日(水) 15:55から(於：会議室)

合格発表：平成18年5月25日(木) 10:00

(出典：平成18年度専攻科学生入試要項，推薦)

資料4-2-①-4

18.10.23 専攻科委員会で審議決定

入学試験、プレゼンテーション・口頭試問及び面接実施要項

今回の入試【電子・情報システム工学専攻】 D3学力

1. 期 日：平成18年11月14日（火） 9：00～15：40

2. 検査会場

区分	場所	備考
学力検査	図書館2階会議室	11月13日に検査会場準備
プレ及び口頭試問・面接	小会議室	11月13日にパソコン、プロジェクター、スクリーン等準備

3. 受検者、日程及び検査官

学力 D3

・受検番号⑩ 05 15

06 15

2名

時間	事項	検査官等
8：30	図書館1階ロビー集合	受付 濱崎
9：00～	検査室（図書館2階会議室）入室	検査官【藤井】
9：30～11：00	専門科目	検査官【藤井・比嘉】
11：20～12：20	数 学	検査官【吉富】
13：10～14：10	英 語	検査官【吉留】
14：15	検査会場に移動（小会議室前）	濱崎
14：20～14：50	プレゼンテーション・口頭試問・面接	検査官【松井・比嘉】
14：50～15：20	プレゼンテーション・口頭試問・面接	

【問題作成】情報系：岡宅・岡村・比嘉、数学：吉富、英語：吉留

4. その他

- ・ 検査翌日11月15日（水）15：55から専攻科委員会（選考会議）ですので、検査終了後適宜 採点をし、学生課にお届け願います。
- ・ 合格発表は、11月16日（木）10時です。

（出典：平成18年度専攻科学生入試要項、学力検査）

プレゼンテーション・口頭試問及び面接の実施について

【電子・情報システム工学専攻】 D3学力選抜

1. 期 日：平成18年11月14日（火）

【電子・情報システム工学専攻】 ……D3学力選抜

・集合時間 8：30（図書館ロビー）

・受験生控室 図書館1階ロビー

2. 検査会場

学力検査：図書館2階会議室

プレゼンテーション・口頭試問及び面接：小会議室

3. 受験者及び検査官

【電子・情報システム工学専攻】

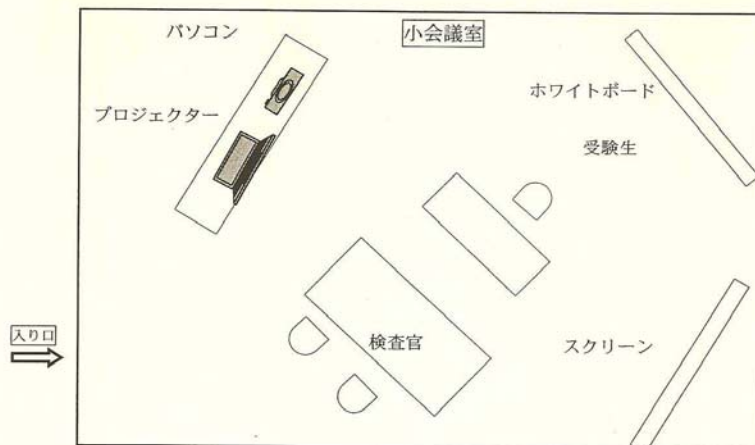
14：20～14：50

（検査官：松井・比嘉）

14：50～15：20

（検査官：松井・比嘉）

4. 検査会場配置図



5. 選考会議・合格発表

選考会議：平成18年11月15日（水）15：55から（於：会議室）

合格発表：平成18年11月16日（木）10：00

（出典：平成18年度専攻科学生入試要項，面接）

資料 4 - 2 - ① - 6

専攻科入試評価項目(総表)

【海洋交通システム学専攻】

受検番号	
------	--

番号	項目	面接担当者氏名	面接担当者氏名	評価	備考
1	成績証明書	優 の 数	21	2.96	
		良 の 数	45		
		可 の 数	23		
		合 計	89		
2	専攻科志願調書	4 / 5	5 / 5	4.5	
3	プレゼンテーション	3 / 5	5 / 5	4.0	
4	口頭試問	2 / 5	4 / 5	3.0	
5	面接 (アドミッションポリシー)	3 / 5	4 / 5	3.5	
合 計				18.0 / 25	

*成績証明書の評価は次の算式による。
 $(\text{優} \times 5 + \text{良} \times 3 + \text{可} \times 1) \div \text{合計科目数}$ (小数点第2位以下四捨五入)

*成績証明書以外の各評価の標準は3点とする。

*項目毎に面接担当者2名の平均を評価値とする。

(出典：平成18年度専攻科学生入試要項，評価項目表)

資料 4 - 2 - ① - 7

平成 19 年度入学者用
大島商船高等専門学校 専攻科学力検査問題
二次募集 (平成 18 年 12 月 13 日)

電子・情報システム工学専攻

情報工学系専門科目

注意事項

1. 問題は 6 題 (6 ページ) あります。
2. 解答時間は 90 分 です。
3. 各専門分野の問題 (電気・電子工学の問題 2 問、情報数学の問題 2 問、プログラミング・アルゴリズムの問題 2 問) から 1 問ずつを選択し、合計 3 問を解答してください。 その際、選択した問題の解答用紙のみに受験番号および選択欄に丸印 (○) を記入してください。
4. 解答の際に計算が必要なときは、問題冊子の余白部分を使用して構いません。
5. この問題冊子は、本学力検査科目終了後に持ち帰ることができます。
6. 本学力検査科目の途中で退室する場合は、退室時にはこの問題冊子を持ち出すことはできません。この問題冊子の持ち帰りを希望する方には、検査終了後に検査監督に申し出てください。
7. 検査試験中にこの問題冊子を切り取るまたは問題文を転記するなどの行為はしないでください。
8. 解答用紙に、必ず受験番号を記入してください。

指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。

(出典：平成 19 年度入学者用学力試験問題)

平成 19 年度入学者用 大島商船高等専門学校 専攻科学力検査問題
 電子・情報システム工学専攻 情報工学系専門科目

電気・電子工学 (問 1, 2 の中から 1 問を選択し解答しなさい。)

問 2. 以下に示す電子回路の各問題について解答しなさい。

- (1) 図 3 に示すトランジスタ増幅回路についてバイアス (I_B , I_C および V_{CE}) を求めなさい。ただし $V_{BE} = 0.7 \text{ V}$, 電流増幅度 $h_{FE} = 200$ とする。
- (2) 図 4 に示すオペアンプを使用した増幅回路において増幅度 A を求めなさい。また入力 $V_i = 1 \text{ mV}$ を入力したときの出力電圧 V_o 値を求めなさい。

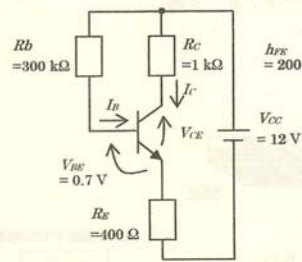


図 3. トランジスタ増幅回路

(メモ)

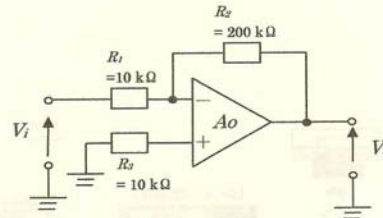


図 4. 増幅回路

資料4-2-①-8

部 外 秘

専攻科入試選考基準

平成17年 4月 1日 制 定

I 推薦及び社会人特別選抜による入学者の選抜

1. 入学者の選抜

入学者の選抜は、提出書類の評価と本校で行うプレゼンテーション、面接及び口頭試問の評価を総合して判定する。

2. 配点

出展：専攻科入試選考基準（抜粋）

観点4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

< 準学士課程・編入学 >

（1） 準学士課程（新入生）

前項目において既に言及したように、本校では準学士課程入学選抜は「推薦選抜」と「学力選抜」の二通りがある。先述したように、前者によって入学する学生には、面接や小論文が課せられるので、推薦選抜による受検者は本校のアドミッション・ポリシーに沿った目的意識を持っているかはきめ細かに検査される。学力選抜による受験者は、本校のアドミッションポリシーの「中学校で習得すべき基礎学力を身につけたもの」という項目に本当に当てはまっているかどうかということ点を点検するために、毎年新入生に対して数学と英語の実力試験を行っている（資料4-2-②-1）。

（2） 準学士課程（編入学生）

編入学生に対しても、4年生の担任が面談を行い、学生の志について把握し、次年度の編入学試験の際の面接等に役立てるようにしている。また、高校までの学力点検としては、編入学生の単位取得状況などを点検しているが、特別に指導を必要とするような問題は発生していない。

< 専攻科課程 >

専攻科では、入学を許可した専攻科生がアドミッション・ポリシー（前提示資料4-1-①-4）および専攻科の教育目標（前提示資料4-1-①-6）に沿って学修しているか検証するために以下の点について専攻科委員会でチェックを行っている。

1. 単位取得状況（資料4-2-②-2）
2. ボランティア・インターンシップの状況（資料4-2-②-3, -4）
3. 特別研究経過報告書の提出（資料4-2-②-5, -6）

専攻科委員会では、入学した専攻科生の単位取得状況や特別研究の進行状況を把握する体制を採っており、専攻科生がアドミッション・ポリシーから逸脱しないよう専攻科生担当教員と協議をしながら専攻科生の指導を行っている。特に特別研究では、入学時に在籍2年間の研究計画の提出（資料4-2-②-5）および1年終了時および専攻科修了時に研究経過の報告書（資料4-2-②-6）を提出することを求めている。これにより専攻科委員会では入学した専攻科生の成績および研究状況を把握できる体制をとっている。これらは入学選抜方法の再考の資料となる。本学専攻科では、平成19年3月に最初の修了生を輩出、平成20年3月に第2期生の修了生を出す予定となっている。退学者や学位審査の不合格者は出ていないため、現在の選抜方法が十分機能していることを示している。これまでに収集した資料を基礎とすれば、次年度の入学者選抜の改善への取り組みを行うことは容易である。具体的な入学者選抜の改善は今後の課題である。

(分析結果とその根拠理由)

<準学士課程・編入学>

準学士課程については、新入生の各クラスの担任が中心となって、学生の目的意識に対する面談を行い、入学時の志とその後の状況について把握し、入試委員会においてその結果が次年度の選抜試験に役立つようにしている。編入学生に対しても同様である。また、基礎学力を点検するために、毎年の新入生に対して英語と数学の実力試験を実施している。

<専攻科課程>

専攻科委員会では、学生の1年間の学修状況、特別研究の状況、ボランティアやインターンシップの実施状況を審議、それがアドミッション・ポリシー及び専攻科の教育目標に合致しているかを検証している。また専攻科生の選抜および専攻科入試の際のプレゼンテーションの審査は専攻科委員で行っており、専攻科の在校生の状況を把握した上で、さらに入学希望者の学力検査の内容及びプレゼンテーションの内容及びアドミッション・ポリシーに沿った内容であるかを審査している。今後、入学基準の見直しの検討等も専攻科委員会で行うことができる。

以上によりアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れの検証を行っていることがわかる。

[新入生実力テスト] クラス: _____ 番号: _____ 名前: _____

[1] (1) $\frac{7}{3} + \left(-\frac{5}{6}\right) \div \frac{15}{4} - \frac{1}{9}$ を計算せよ。

(2) $\left(-\frac{1}{2}a^2\right)^3 \times 3a^2b^4$ を計算せよ。

(3) $(x+2y-5)(x-2y-5)$ を展開せよ。

(4) $a^2b - 4ab - 12b$ を因数分解せよ。

(5) $\sqrt{6} \times \sqrt{8} - \sqrt{12} + \frac{21}{\sqrt{3}}$ を計算せよ。

(6) 方程式 $\frac{x}{2} - \frac{3x-1}{3} = 1$ を解け。

(7) 方程式 $x^2 - 8x + 16 = 5$ を解け。

[2] $x+y=2$, $xy=-5$ のとき x^2+y^2 の値を求めよ。

[3] 次の連立方程式の解が $x=2$, $y=1$ となるように、定数 a , b の値を求めよ。

$$\begin{cases} ax - by = 7 \\ bx + 4y = -a \end{cases}$$

[4] 2点 $(2, 5)$, $(-1, 1)$ を通る直線の方程式を求めよ。

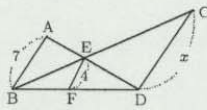
(出典 新入生実力テスト)

資料4-2-②-1 (続き)

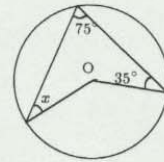
【5】 関数 $y = -\frac{1}{2}x^2$ の x の変域を $-3 \leq x \leq 2$ とするとき、 y の変域を求めよ。

【6】 1, 2, 3, 4, 5 の5枚のカードから1枚ずつ続けて2枚引き、引いた順にならべて2けたの整数をつくる時、この2けたの整数が3の倍数になる確率を求めよ。

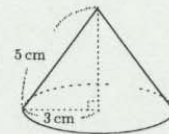
【7】 次の図において、 x の値を求めよ。ただし、 $AB \parallel EF \parallel CD$ とする。



【8】 次の図で、 $\angle x$ の大きさを求めよ。ただし、 O は円の中心である。



【9】 次の図のような底面の半径が3cm、母線の長さが5cmの円錐がある。この円錐の体積と表面積を求めよ。



(出典 新入生実力テスト)

Stairs○2007 (書籍コード: 14004T08)

実力診断 テスト

クラス名		番 号	
名 前			
得 点		84	/100点

得点小計①~⑤ /56点

① 次の各組の語の下線部の発音が同じなら○、違うなら×をつけなさい。(各1点)

- ③
- 1 work, word (X) 2 head, great (X) 3 then, brother (○) 4 color, young (X)
 5 asked, played (○) 6 stops, lives (X) 7 over, often (○) 8 able, lady (X)

② 次の各語のいちばん強く発音する部分に○をつけなさい。(各1点)

- ⑧
1. calen-dar 2. cof-fee 3. ho-tel 4. in-ter-est-ing
 5. uni-form 6. mu-se-um 7. al-ready 8. win-dow

③ 次の各語を指示された形に変えなさい。(各2点)

- ⑧
- 1 city (複数形) cit-ies 2 caught (原形) catch 3 fall (過去分詞形) fall
 4 high (最上級) high-est 5 stop (-ing形) stop-ping 6 write (過去形) wrote

④ ()内の日本語と同じ意味になるように適語を補いなさい。(各3点)

- ⑬
- 1 I will leave Tokyo for Osaka tomorrow. (私は明日東京を出て大阪へ向かうつもりです。)
 2 I have not been to America. (私は一度もアメリカへ行ったことがありません。)
 3 He may be absent from school tomorrow. (彼は明日学校を休むかもしれない。)
 4 The boy who is playing the guitar is my son. (ギターを弾いている少年は私の息子です。)
 5 My hobby is to play the piano. (私の趣味はピアノを弾くことです。)
 6 I can play tennis, but she can't. (私はテニスができますが、彼女はできません。)

⑤ ()内の語句から適当なものを選び○をつけなさい。(各2点)

- ⑧
- 1 I finished (do/doing/to do) my homework two hours ago.
 2 The elephant is often afraid (at/of/ou) mice.
 3 (Shall/Will/Can) we go on a picnic?
 4 I want (go/to go/going) to England some day.
 5 (How/What/If) can I get to the station?

(出典 新入生実力テスト)

資料 4 - 2 - ② - 1 (続き)

得点小計②-④ _____ /44点

⑥ 次の英文を読んで下の問いに答えなさい。(計26点)

Taro and his little brother Jiro (①go) for a walk in the park. They (②take) their dog Pochi with them. Pochi (③run) on in front of them, for he (④know) the way very well. The children walked to the pond. They were looking at fish in the pond. Pochi found a squirrel under a tree. He barked loudly. The squirrel was surprised and climbed up the tree. Pochi also tried to climb up the tree. But he couldn't.

1 本文中の①～④の動詞を過去形にしない。(各2点)

① go (went) ② take (took) ③ run (ran) ④ know (knew)

2 英文の質問に対する答えの英文の()内に適語を入れなさい。(各3点)

(1) Where did Pochi find a squirrel?—He found it (under) a tree

(2) What were Taro and Jiro looking at in the pond?—They were looking at (fish)

(3) Pochi tried to climb up the tree. Could he climb up the tree?—(No), (he) (couldn't)

3 次の各文について本文の内容と一致するものには○、一致しないものには×をそれぞれつけなさい。(各3点)

(1) Taro and Jiro enjoyed climbing up the tree in the park (×)

(2) Pochi found a squirrel and barked loudly (○)

(3) Because Pochi barked loudly, the squirrel was surprised and climbed up the tree (○)

⑦ 次の英文を読んで下の問いに答えなさい。(計18点)

Long ago, "traveling" was slow, difficult, and expensive. For that reason, most people couldn't travel. The earliest way of travel was on foot. So people invented many vehicles to save time and trouble: a wagon, a motorcycle, a car, a bus, a train, a ship, an airplane, and so on. Thanks to these vehicles, we can travel easily around the world. Traveling by plane is the easiest and the fastest of them. Traveling by air has changed everything. Today, "traveling" has become faster, easier, and cheaper. Therefore, more and more people travel around the world and enjoy seeing, eating, and talking in foreign countries.

Knowing the differences between foreign countries and our own country is very important. Knowing the people living in foreign countries and their culture and customs deepens our understanding of our own country, culture and customs.

1 英文の質問に対する答えの英文の()内に適語を入れなさい。(各3点)

(1) Most people can't travel long ago. Why? —Because traveling was (slow), (difficult), and (expensive).

(2) How did the earliest people travel? — They traveled (invented) (vehicles).

(3) Has traveling by airplane changed everything? — Yes, it (has)

2 次の各文について本文の内容と一致するものには○、一致しないものには×をそれぞれつけなさい。(各3点)

(1) 人々は時間と手間を省くために多くの乗り物を発明した。(○)

(2) 今日、旅行することはより速く、容易になったが、費用がとてもかかる。(×)

(3) 外国の文化や習慣を知ることは、自国の文化や習慣の理解を深めることになる。(○)

(出典 新入生実力テスト)

平成17～18年度 専攻科 単位履修および修得状況

氏名	平成17年度履修期間(10月～3月)										修得単位数				
	履修単位数		専門科目		一般科目		備考		備考		専門科目	一般科目	合計	合計	
	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	合計
	16	4	16			4							16	4	20
	16	4	8			2			2				16	4	20
	16	4	10	2		2			2				16	4	20
	18	2	14	4		2			2				18	2	20
	16	4	16			2			2				16	4	20
	14	4	12			4							14	4	18
	平成18年度履修期間(4月～9月)														
	履修単位数		専門科目		一般科目		備考		備考		専門科目	一般科目	合計	合計	
	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	合計
	18	2	18			2							18	2	20
	18	2	10			2					2		18	0	18
	18	2	18			2							18	2	20
	18	4	18	4		4							18	4	22
	20	2	20			2							20	2	22
	18	2	18			2							18	2	20
	平成18年度履修期間(10月～3月)														
	履修単位数		専門科目		一般科目		備考		備考		専門科目	一般科目	合計	合計	
	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	合計
	10	1	10			1							10	1	11
	10	0	10										10	0	10
	10	1	10			1							10	1	11
	6	1	6			1							6	1	7
	10	1	8	2		1							10	1	11
	8		8										8	0	8
	平成18年度履修期間(10月～3月)														
	履修単位数		専門科目		一般科目		備考		備考		専門科目	一般科目	合計	合計	
	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	合計
	12	4	14			4							14	4	18
	12	4	14			4							14	4	18
	平成18年度履修期間(4月～9月)														
	履修単位数		専門科目		一般科目		備考		備考		専門科目	一般科目	合計	合計	
	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	合計
													0	0	0
													0	0	0

(出典：専攻科単位履修および修得状況)

資料4-2-②-2 (続き)

氏名	平成17年度前期(4月～9月)										修得単位数合計							
	履修単位数					修得単位数					専門科目	一般科目	不可	備考				
	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	優	良					可	認定	不可	
	22	2	22												22	2	24	
	18	2	18												18	2	20	
	22	4	16	2				4							18	4	22	
	22	2	18	4											22	2	24	
	20	2	14	6											20	2	22	
	22	4	12	6	4										22	4	26	
平成17年度後期(10月～3月)																		
氏名	履修単位数										修得単位数				修得単位数合計			
	専門科目					一般科目					専門科目	一般科目	不可	備考	専門科目	一般科目	合計	
	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	優	良								可
	16	5	16	2											16	5	21	
	26	5	14	2	10										26	5	31	
	15	5	12	2	1					インターンシップ					15	5	20	
	16	4	16	2											16	4	20	
	18	4	14	2											16	4	20	
	20	2	12	2	8										20	2	22	
平成18年度前期(4月～9月)																		
氏名	履修単位数										修得単位数				修得単位数合計			
	専門科目					一般科目					専門科目	一般科目	不可	備考	専門科目	一般科目	合計	
	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	優	良								可
	4	0	2	2											4	0	4	
	0	0	8												0	0	0	
	10	0	8					2							8	0	8	
	8	0	8												8	0	8	
	8	0	8												8	0	8	
	4	0	4												4	0	4	
平成18年度後期(10月～3月)																		
氏名	履修単位数										修得単位数				修得単位数合計			
	専門科目					一般科目					専門科目	一般科目	不可	備考	専門科目	一般科目	合計	
	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	優	良								可
	16	0	16												16	0	16	
	12	0	12												12	0	12	
	14	0	14												14	0	14	
	14	1	14							1					14	1	15	
	14	1	14							1					14	1	15	
	12	0	12												12	0	12	

電子・情報システム工学専攻

2年次

(出典：専攻科単位履修および修得状況)

資料4-2-②-2 (続き)

氏名	平成18年度前期(4月~9月)										平成18年度後期(10月~3月)																				
	履修単位数					修得単位数					履修単位数					修得単位数															
	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	合計
	18	2	14	2	2				2	2														18	2						20
	18	4	18					4																18	4						22
	14	0	14																					14	0						14
	18	4	14	2	2			4															18	4						22	
	12	2	6	2	6																		12	2						14	
	18	2	6	8	2		4																14	2						16	
	12	2	10	2	2																		12	2						14	
	14	2	6	4	2			2															12	2						14	
	14	2	8	6	2			2															14	2						16	
1年次																															
	25	4	24						2	2														25	4						29
	22	2	22						2	2													22	2						24	
	22	5	20	2				5															22	5						27	
	23	2	22						2														23	2						25	
	26	2	22	2	2				2														26	2						28	
	23	2	18	4																			23	2						25	
	23	4	22						4														23	4						27	
	26	2	14	6	2			2															24	2						26	
	25	2	18	4	2																		25	2						25	

(出典：専攻科単位履修および修得状況)

氏名		平成18年度前期(4月～9月)										修得単位数合計					
		専門科目					一般科目					専門科目	一般科目	合計			
		履修単位数	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	合計
		18	2	14	2				2						18	2	20
		18	4	18	4				4						18	4	22
		14	0	14											14	0	14
		18	4	14	2				4						18	4	22
		12	2	6	6				2						12	2	14
		18	2	6	8		4		2						14	2	16
		12	2	10	2				2						12	2	14
		14	2	6	4		2								12	2	14
		14	2	6	6				2						14	2	16
1年次																	
氏名		平成18年度後期(10月～3月)										修得単位数合計					
		専門科目					一般科目					専門科目	一般科目	合計			
		履修単位数	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	合計
		25	4	24	1			インターンシップ	2	2					25	4	29
		22	2	22					2						22	2	24
		22	5	20	2				5						22	5	27
		23	2	22	1				2					ボラテア	23	2	25
		26	2	22	2			インターンシップ	2						26	2	28
		23	2	18	4				2		2			23	2	25	
		23	4	22	1				4					23	2	25	
		26	2	14	6		2							23	4	27	
		25	2	18	4		1						2	25	2	26	
															25	0	25

電子・情報システム工学専攻

(出典：専攻科単位履修および修得状況)

専攻科生の「ボランティア」の単位認定について

「大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」第2条第2項(3)により授業科目「ボランティア」の単位(1単位)を認定する

【ボランティア時間数 45時間で1単位認定】

単位認定者

専攻	氏名	時間数
電子・情報システム工学専攻2年		120.5時間

ボランティア実施済時間数(18.8.11現在)

専攻	氏名	時間数
海洋交通システム学専攻1年		44.5時間
"		36.0時間
"		38.0時間
"		23.5時間
"		42.0時間
"		28.5時間
電子・情報システム工学専攻1年		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		8.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
電子・情報システム工学専攻2年		18.5時間
"		44.5時間

単位認定済みの者

専攻	氏名	時間数
電子・情報システム工学専攻2年		48.0時間
"		46.0時間
"		52.0時間

平成18年度インターンシップ申込者

H18.6.16

海洋交通システム専攻 1年

氏名	希望職種	希望時期等	備考	経営者協会からの連絡
	海運業、造船、機械メンテナンス 電気系	8/7~9/15 1週間		■■■■■ ■■■■■

電子・情報システム工学専攻 1年

氏名	希望職種	希望時期等	備考	経営者協会からの連絡
	画像処理関係、ソフト開発	8月2週目 1週間程度	山口県東部	■■■■■
	電子部品関係	8月2週目 1週間程度	新潟県、徳山、防府	■■■■■ ■■■■■
	電子部品関係	8月2週目 1週間	岩国市西	■■■■■ ■■■■■
	機械系、卸売小売、サービス業	1週間	山口県東部	■■■■■
	ソフト開発	8月第4週~ 1週間程度	下松市	■■■■■ ■■■■■
	情報、ソフトウェア関係	8月中		■■■■■
	電子・電気・制御	8月第2週~9月末 1週間程度	柳井市付近	■■■■■ ■■■■■ 柳井市以外の地区を希望するか、 柳井市の受入可能企業にするか。

出典：専攻科会議資料


専攻科・学修資料-1-1

大島商船高等専門学校 専攻科 学修計画書-1

専攻科・学修計画の概要			
入学年度	平成 18年	提出年月日	平成 18 年 4 月 27 日
氏名			
連絡先	住所		
	電話 (携帯)	電子メール	
出身本科	<input type="checkbox"/> 商船学科 <input type="checkbox"/> 電子機械工学科 <input checked="" type="checkbox"/> 情報工学科 <input type="checkbox"/> その他()		
入学専攻	<input type="checkbox"/> 海洋交通システム学専攻	<input checked="" type="checkbox"/> 電子情報システム工学専攻	
取得希望の学士号	<input type="checkbox"/> 商船学	<input type="checkbox"/> 電気電子工学	<input checked="" type="checkbox"/> 情報工学
特別研究			
指導教員と十分に相談の上、以下の項目を記載すること。			
題 目			
動画理解に関する研究			
概 要	研究内容を解かり易く、簡潔に紹介すること。		
近年、セキュリティ分野においてビデオカメラによる人物の行動監視が用いられている。 本研究では、動画像から人物及び人物の行動を認識し異常行動があった場合に通知するシステムを構築する。また照明変化に頑健な背景差分を利用して、より精度の高い人物抽出も行う。			
計 画	学外発表を含む具体的な研究計画(スケジュール)について簡潔に記すこと。		
06年4月～8月 基礎研究・研究理解 06年9月 紀要論文作成 07年9月上旬 学会発表 07年9月下旬 仕上げ・完成			
指導教員 署名	岡村健史郎		

(出典：専攻科会議資料)

別紙（専攻科1年生用）

専攻科・特別研究報告書	
提出年月日 平成 19年 2月 26日	
氏名	
学籍番号	
特別研究の内容	
指導教員と充分に相談の上、以下の項目を記載すること。	
題 目	
動画像理解に関する研究	
研究内容	
この1年間の研究の内容を簡潔に示すこと。	
<p>1年間の特別研究の研究成果を以下に述べる。</p> <p>以前の動画像理解に関する研究では、移動物体の検出に背景差分を用いていた。しかし、背景差分は、背景部分の変化に弱いという弱点を持つ。よって我々は、背景部分の変化に強い、主成分分析を用いた移動物体の検出について考察を行った。シミュレーション実験の結果、それは有効であることが分かった。</p> <p>これからの課題としては、背景差分との組み合わせによる検出精度の向上、そして具体的な検出システムの作成などが挙げられる。</p> <p>なお、以上の結果は大島商船高等専門学校紀要論文集第39号に提出したので、報告する。(紀要論文提出日 平成18年9月29日)</p> <p>以上</p>	
指導教員 の所見 および評価	評価(優, 良, 可, 不可のいずれかを記入): 優
	所見: 常に努力を怠らず、纏山下成早を出しに11まで
	

観点4-3-①： 実入学者が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

<準学士課程・編入学>

準学士課程への入学者数の状況は表のとおりである(資料4-3-①-1)。準学士課程は各科とも40名定員である。平成16年度、17年度は、各科ともほぼ定員どおり入学者数であったが、平成18年度は大幅に上回っていることが気になる点である。情報工学科に至っては49名となり、教室をやむをえず臨時に変更せざるを得ないという状況にまで陥っていた。今後はこのようなことがないように改善するべきであると自戒したので入学選抜時の面接での質問項目を変更し工夫を凝らした(資料4-3-①-5)。その結果、平成19年度では各科とも定員どおりの入学者数となる(資料4-3-①-1)。

編入学の受け入れについては、毎年、1名は編入学しているものの、平成18年度は4学年の人数が多いということもあって、編入学生は皆無であった。編入学に関しては、本校では人数に関わらず、本当に優秀な学生だけを受け入れるようにしているので、皆無という数字であっても問題はないと考える。

資料4-3-①-1

入学者状況(定員120名)				
	16年度	17年度	18年度	19年度
入学者	122	125	133	120
学科別入学者数				
	16年度	17年度	18年度	19年度
商船学科	39	42	39	40
電子機械工学科	41	44	45	40
情報工学科	42	39	49	40
合計	122	125	133	120

(出典 準学士課程入学者数)

<専攻科課程>

専攻科における実入学者及び入学定員の状況は表のとおりである（資料4-3-①-2）。
（平成17年度入学）

電子・情報システム工学専攻では、平成17年1月より事前選考（面接試験）により入学者の選考を行い、6名の合格者（現役生1名、既卒生（5名、本校出身者4名、他高専出身者1名））を出し、その6名が入学している。海洋交通システム学専攻では、平成17年6月に推薦選抜を行い、6名の合格者（現役生2名、既卒生4名、すべて本校出身者）を出し、その6名が入学している。

（平成18年度入学）

電子・情報システム工学専攻では、推薦選抜3名（すべて本校現役生）、学力試験6名（本校現役生2名、他高専現役生2名、本校既卒者1名、他高専既卒者1名）、合計9名の合格者を出し、その9名が入学している。海洋交通システム学専攻では、推薦選抜により2名（すべて本校現役生）が合格した。

（平成19年度入学）

電子・情報システム工学専攻では、推薦入試で4名（本校現役生）、学力試験3名（本校現役生2名、本校既卒者1名）、合計7名の合格者を出し、その7名が入学している。海洋交通システム学専攻では、学力試験1名の合格者を出し、平成19年度に2回の入試を予定している。

（入学定員の適正化の取組）

平成17年度及び平成18年度入学者では、入学定員12名を満たしているが、平成18年度に行った平成19年度入学予定者の入試では、予定された入試日程において電子・情報システム工学専攻では6名の合格者のみとなっていた。専攻科委員会では、近隣の高専へのPRの実施（資料4-3-①-3）、二次募集の実施（資料4-3-①-4）を決め、実施している。二次募集により電子・情報システム工学専攻に1名、海洋交通システム学専攻に1名の合格者を出している。さらに電子・情報システム工学専攻では平成19年1月より引き続き募集を行ったが応募が無く、工業系8名の定員を満たしていない。

（資料4-3-①-2）

	実入学者数		
	平成17年度	平成18年度	平成19年度 (予定も含む)
海洋交通システム学専攻 (定員4名)	6名	2名	1名(合格者)
電子・情報システム工学専攻 (定員8名)	6名	9名	7名
全入学者数 (定員12名)	12名	11名	

（出典 専攻科課程入学者数）

(分析結果とその根拠理由)

<準学士課程・編入学>

編入学生の受け入れについてはなんら問題は発生していないが、準学士課程の平成18年度新入学生は定員をはるかに上回るという結果となっている。この点は本校が改善すべき点として挙げられる。

<専攻科課程>

平成17年度入学では専攻科発足前であり、平成17年1月以降から学生募集を行っているため、5年生の進学求職活動が既に終了していることから現役生数が3名と少なく、既卒者の数が多くなっている。既卒者のほとんどが社会人経験者となっている。

平成18年度入学では専攻科発足直後であることで、現役生へのPRもあったため、本校現役生が8名となっている。また、他高専の現役生の入学者及び本校並び他校の既卒者の入学もあり、専攻科の認知度が上がったことを示している。

本校専攻科では、発足年度である平成17年度及び18年度は、実入学者数が入学定員12名に達しており、定員に対する過不足はない。しかし平成19年度入学予定者では、電子・情報システム工学専攻では、8名定員に対して正規の入試日程では6名の合格者となっており、入学者の適性を図る取り組み(PRや二次募集)を行ったところ、電子・情報システム工学専攻1名、海洋交通システム学専攻1名の合格者を出している。今後とも入学者数の適正化を図るため専攻科入学のPRが必要であると思われる。

専攻科第二次募集に伴う中国地区高専への訪問計画 (案)

H18.11.14

1. 訪問期間 平成 18 年 11 月 16 日(木)～平成 18 年 11 月 22 日(水)
2. 訪問目的 電子・情報システム工学専攻の応募活動
3. 訪問予定学校及び訪問日等
 - (1) 宇部工業高等専門学校
 - ◎ 訪問日 : 11/16～11/22(いずれか都合のよい日)
 - ◎ 訪問者 : 藤井専攻科長, 比嘉専攻科委員会委員
 - (2) 呉工業高等専門学校
 - ◎ 訪問日 : 11/16～1/22(いずれか都合のよい日)
 - ◎ 訪問者 : 藤井専攻科長, 岩崎及び比嘉専攻科委員会委員

- (注) 1. 訪問者は、工業系学科の募集に関わるものであるため、可能な限り藤井・比嘉が訪問する。
2. 第二次募集の願書の受付期間
平成 18 年 11 月 20 日～平成 18 年 12 月 1 日
3. 訪問予定日時、面談者などの調整は、藤井・比嘉で行い、決定次第メールで関係者に連絡する
4. 徳山高専(電子機械・情報)への訪問は、藤井・岩崎で実施済み。

22日と24日

(橋本) 先生

宇部 22日 → 「比嘉」先生, 藤井
 呉 24 比嘉 先生, 藤井
 X ? 増山

連絡済

連絡済
 藤井

徳山工専 → Tel だけ

11/15日 各予校へ電話

(出典：専攻科会議資料)

平成18年11月14日

各高等専門学校長 殿

大島商船高等専門学校長
和 氣 博 嗣
(公 印 省 略)

平成19年度専攻科第二次学生募集について

このことについて、本校では下記により平成19年度専攻科第二次学生募集を実施することになりました。

つきましては、貴校関係者にご周知くださるようお願いいたします。

記

1. 追加実施する専攻科名及び募集人員
海洋交通システム学専攻 若干名(平成19年10月入学)
電子・情報システム工学専攻 若干名(平成19年4月入学)
2. 追加実施する選抜方法
学力検査による選抜及び社会人特別選抜
3. 願書受付期間
平成18年11月20日(月)～平成18年12月1日(金)
4. 入学者選抜日時
平成18年12月13日(水) (集合時間8:30)
5. 合格発表日
平成18年12月15日(金)
6. 入学確約書提出期限
平成19年1月29日(月)
7. 出願資格及び出願手続等
平成19年度専攻科学生募集要項による。
(志願者の請求により送付いたします。)

担当:大島商船高等専門学校学生課教務係
T E L : 0820-74-5473
E-mail : kyoumu@oshima-k.ac.jp

(出典：専攻科会議資料)

学力検査受検者に対する質問項目

質問者氏名		受検番号	
番号	質問事項	評価等	
1	受検番号・氏名を聞く。	良	
2	生活習慣	良	
3	特別質問事項 (書類審査の際、疑義のある事項)	なし	
4	その他		
これからの質問は合否には関係ありません。(前置きして置くこと。)			
5	入学志願者調書で記載を確認して、併願校欄が相違している場合は、高校名を聞く。	校名 (大島商船) (オ1.)	
	本校と他校に合格した場合、本校に入学するかを聞く。	(本校)・他校・未定)	
	本校に来ると回答した者で、第2志望学科に合格した場合は、	本校に(入学する)・しない・未定)	
	第3志望学科に合格した場合は、	(入学する・しない・未定)	
総合評価	○で囲んでください。 優・良・可	「可」と評価した場合は、必ず所見を記入してください。	

(出典 平成18年度学力検査受検者に対する質問項目)

学力検査受検者に対する質問項目

質問者氏名		受検番号	
番号	質問事項	備 考 (気づきの点があれば記入してください。)	
1	受検番号・氏名を聞く。		
これからの質問は合否には関係ありません。(前置きして置くこと。)			
2	特別質問事項 (書類審査の際、疑義のある事項)		
3	入学志願者調書で記載を確認して、併願校欄が相違している場合は、高校名を聞く。	校名 (甘日午西)	
	本校と他校に合格した場合、本校に入学するかを聞く。	<input checked="" type="checkbox"/> 本校 ・ 他校 ・ 未定	
	本校に来る又は未定と回答した者で、第2志望学科に合格した場合は、	本校に (<input checked="" type="checkbox"/> 入学する ・ しない ・ 未定)	
	第3志望学科に合格した場合は、	(入学する ・ しない ・ <input checked="" type="checkbox"/> 未定)	
総合評価	○で囲んでください。 <input checked="" type="checkbox"/> 優 ・ 良 ・ 可	「可」と評価した場合は、必ず所見を記入してください。	

N
Z
M

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校では、準学士課程（本科生，4年編入生）及び専攻科生の選抜におけるアドミッション・ポリシーが明確に定められ，本科生及び専攻科生の選抜試験並びに学力試験ともにアドミッション・ポリシーに沿って選抜されている。またアドミッション・ポリシーは，全教員が参加する教官会議において承認され，全教職員に周知されている。また，準学士課程へ入学した学生は入学後に実施される実力試験等を通して実際にアドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているかどうか点検されている。専攻科では，入学時に今後2年間の研究計画を提出，1年次終了時に経過報告書の提出及び2年次修了時に研究論文の提出など年間を通して入学した学生の点検を行っている。

(改善を要する点)

準学士課程では特になし。

専攻科課程では，第1，2期生の入学総数は定員（12名）に達しているが，各専攻の定員を満たしていない例がある。その対策として，4年生への進学率を上げるためのPRや近隣の高专へのPRさらに二次募集の実施等を行う必要がある。

(3) 基準4の自己評価の概要

準学士課程（本科生及び編入生）の学生募集及び入学者選抜に関しては，入学試験委員会において立案され，入学選抜の試験業務は教務主事室が中心となって実施し，合否判定は入試選考委員会で行っている。本校では，準学士課程・編入学のそれぞれにおいて「アドミッション・ポリシー」を設け，入学者を選抜する際の選考基準として，入学試験の結果の他にこの「アドミッション・ポリシー」が重要視されている。また，本校では準学士課程入学選抜は「推薦選抜」と「学力選抜」の二通りがあり，先述したように，前者によって入学する学生には，面接や小論文が課せられるので，受検者は本校のアドミッション・ポリシーに沿った目的意識を持っているかをきめ細かに検査される。したがって，入学後においても，推薦で入学した学生は，学生それぞれが入学時に持っていた意識が維持される。

専攻科課程では専攻科委員会において，学生の1年間の学修状況，特別研究の状況，ボランティアやインターンシップの実施状況を審議，それがアドミッション・ポリシー及び専攻科の教育目標に合致しているかを検証している。また専攻科生の選抜及び専攻科入試の際のプレゼンテーションの審査は専攻科委員で行っており，専攻科の在校生の状況を把握した上で，さらに入学希望者の学力検査の内容及びプレゼンテーションの内容がアドミッション・ポリシーに沿った内容であることを審査している。よって今後，入学基準の見直しの検討等も専攻科委員会で行うことができる。

専攻科課程における入学定員の適正化では，発足年度である平成17年度および18年度は，実入学者数が入学定員12名に達しているが専攻ごとの定員数を満たしていないところもある。平成19年度入学予定者では，電子・情報システム工学専攻では，8名定員に対して7名の合格者となっており，入学者の適性を図る取り組み（PRや二次募集）が必要であると思われる。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

本校の教育課程は、教育目的を達成するため、各学科共通の一般科目と、学科ごとの専門科目とから構成されている。低学年には、豊かな教養と広い視野を身につけるための初段階として、一般科目が多く配置されている。資料5-1-①-1に一般科目（商船学科、電子機械工学科・情報工学科）の授業科目一覧を示す。学年が上がるとともに各学科で必要な専門科目を多く取り入れた構成になっている。資料5-1-①-2に各学科（商船学科は航海コースと機関コース）の専門科目の授業科目一覧を示す。これらの一般科目と専門科目の授業配置から、「深く専門の学芸を教授」する体系が採られている。

各学科の専門科目とも、その科目関連表が作成されている。情報工学科の科目関連表を資料5-1-①-3に示す。低学年で習得する専門基礎科目の知識を生かすことにより、高学年において、無理なく高度な専門科目が学習できるように構成されている。また、全学科とも1学年から実験・実習が実施されている。その内容は、各学科の専門科目のみならず、現社会において必須とされている情報教育も含まれる。これらの専門科目の配置及び実験・実習の実施体系は「職業に必要な能力の育成」の観点に沿ったものとなっている。

資料5-1-①-1

各学科の一般科目授業一覧

一般科目（商船学科）

授業科目	単位数	学年別配当					備考	
		1年	2年	3年	4年	5年		
国語	8	4	2	2			*は第14条4項に定める授業科目による単位を示す。	
地歴	世界史	2	2					
	地歴Ⅰ	1		1				
	地歴Ⅱ	1		1				
公民	2			2				
数学	18	6	6	6				
物理	4	2	2					
化学	4	2	2					
理科総合	1	1						
英語	英語講読	9	3	3	3			
	英語演習	4	2	2				
	EC	2	1	1				
	英語表現	2			2			
	現代英語	2				2		
保健体育	9	2	2	2	2	1		
芸術	1	1						音楽又は美術を選択
法学	1				1			
哲学	1				1			
外国語演習	3				2	1	航海・機関英語	
必修科目計	75	26	22	17	8	2		
選択科目	日本文学	2					2*	4, 5年生選択科目の修得単位数は最低2単位、各年度2単位までとする。
	日本史概論	2					2*	
	数学概論	2					2*	
	英語特論Ⅰ	2					2*	
	英語特論Ⅱ	2				2*		
	日本語学	2				2*		
	化学特論	2				2*		
	企業と法	2				2*		
	アメリカ文学概論	2				2*		
	開設科目計	18				10	8	
	履修科目計	4				2	2	
一般科目計	79単位	26単位	22単位	17単位	10単位	4単位		

特別活動

特別活動	単位時間	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
	90単位時間以上	90単位時間以上					

(出典：平成18年度学生生活ハンドブック)

資料5-1-①-1 (続き)

各学科の一般科目授業一覧

一般科目 (電子機械工学科・情報工学科共通)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語	8	4	2	2			*は第14条4項に定める授業科目による単位を示す。 音楽又は美術を選択 ハングル、ドイツ語、中国語のいずれかを選択
地歴	世界史	2	2				
	地歴Ⅰ	1	1				
	地歴Ⅱ	1	1				
公民	2			2			
数学	18	6	6	6			
物理	4	2	2				
化学	4	2	2				
理科総合	1	1					
英語	英語講読	9	3	3	3		
	英語演習	4	2	2			
	E C	2	1	1			
	英語表現	2			2		
	現代英語	2				2	
保健体育	10	2	2	2	2	2	
芸術	1	1					
法学	1				1		
哲学	1				1		
第二外国語	4				2	2	
必修科目計	77	26	22	17	8	4	
選択科目	日本文学	2				2*	4年生選択科目の修得単位数は最低2単位、4単位までとする。
	日本史概論	2				2*	
	数学概論	2				2*	
	英語特論Ⅰ	2				2*	
	英語特論Ⅱ	2				2*	
	日本語学	2				2*	
	化学特論	2				2*	
	企業と法	2				2*	
	アメリカ文学概論	2				2*	
	開設科目計	18				18	
	履修科目計	2				2	
一般科目計	79単位	26単位	22単位	17単位	10単位	4単位	

特別活動

特別活動	単位時間	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
	90単位時間以上	90単位時間以上					

(出典：平成18年度学生生活ハンドブック)

資料5-1-①-2

各学科の専門科目授業一覧

専門科目 (商船学科航海コース)

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	共 通	応用数学	2				2	*は第14条 4項に定める 授業科目によ る単位を示 す。
		情報処理	4	2	2			
		工業力学	2			2		
		電気・電子基礎	4		2	2		
		制御工学	2				2	
		船舶工学	1				1	
		設計製図	2		2			
		航海学概論	2	1	1			
		船舶機関学概論	1		1			
		操艇実習	3	3				
		実験実習	8		2	3	3	
		校内練習船実習	4	1	1	1	1	
	創造演習	1				1		
	卒業研究	4					4	
	コ ー ス 別	測位論	4			2		2*
		航路論	3				2	1
		航海計測学	5			1	2*	2*
		海洋気象学	2			2		
		船舶整備論	3			1	2*	
		船舶載貨論	3				2	1
船体運動論		4				4*		
船舶安全学		3				2	1	
航海法規	2			2				
海事法規	3				2	1		
必修科目計		72	7	11	16	26	12	
選 択 科 目	共 通	物流システム	2				2	
		船舶衛生学	2.5				2	0.5
		電気・電子工学特論	1					1
		計算機科学	1					1
		システム制御工学	1					1
		信頼性工学概論	1					1
		海運論	1					1
		オーラルコミュニケーション	1					1
		国際物流論	1					1
	インターンシップ	2				1	1	
	コ ー ス 別	無線法規	1.5				1	0.5
		交通工学	2				2	
		気象特論	2				2	
		流体力学	2				2	
		航路計画論	1					1
		通信工学	1					1
		海事法規特論	1					1
開設科目計		24				12	12	
履修科目計		8				4	4	
専門科目計		80単位	7単位	11単位	16単位	30単位	16単位	
一般科目計		79単位	26単位	22単位	17単位	10単位	4単位	
合 計		159単位	33単位	33単位	33単位	40単位	20単位	
大型練習船実習			上記単位数以外で12月実施する。					

(出典：平成18年度学生生活ハンドブック)

資料5-1-①-2 (続き)

各学科の専門科目授業一覧

専門科目 (商船学科機関コース)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考		
		1年	2年	3年	4年	5年			
必修科目	共通	応用数学	2			2		*は第14条4項に定める授業科目による単位を示す。	
		情報処理	4	2	2				
		工業力学	2			2			
		電気・電子基礎	4		2	2			
		制御工学	2				2		
		船舶工学	1				1		
		設計製図	2		2				
		航海学概論	2	1	1				
		船用機関学概論	1		1				
		操艇実習	3	3					
		実験実習	8		2	3	3		
		校内練習船実習	4	1	1	1	1		
		創造演習	1				1		
		卒業研究	4						4
	コース別	材料力学	4				4*		
		流体力学	2				2		
		工業材料	1				1		
		熱力学	2			2			
		燃焼工学	1				1		
		電気・電子工学	4				4*		
		機械設計	4			1	1		2*
		計測工学	1				1		
		内燃機関学	4			2	2		
		蒸気機関学Ⅰ	2			2			
		蒸気機関学Ⅱ	3				1		2*
		補助機械工学	2			1	1		
冷凍・空調工学	1					1			
燃料・潤滑工学	1					1			
海事法規	1					1			
必修科目計	73	7	11	16	26	13			
選択科目	共通	物流システム	2				2		
		船舶衛生学	2.5				2		0.5
		電気・電子工学特論	1						1
		計算機科学	1						1
		システム制御工学	1						1
		信頼性工学概論	1						1
		海運論	1						1
		オーラルコミュニケーション	1						1
		国際物流論	1						1
	インターンシップ	2				1	1		
	コース別	計測工学特論	2				2		
		冷凍空調工学特論	2				2		
		電気機器	2				2		
		補助機械工学特論	1						1
		蒸気機関学特論	1						1
		内燃機関学特論	1						1
		エネルギー管理工学	1						1
開設科目計		23.5				11	12.5		
履修科目計	7				4	3			
専門科目計	80単位	7単位	11単位	16単位	30単位	16単位			
一般科目計	79単位	26単位	22単位	17単位	10単位	4単位			
合 計	159単位	33単位	33単位	33単位	40単位	20単位			
大型練習船実習		上記単位数以外で12月実施する。							

(出典：平成18年度学生生活ハンドブック)

資料5-1-①-2 (続き)

各学科の専門科目授業一覧

専門科目 (電子機械工学科)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
デザイン基礎	2	2					*は第14条4項に定める授業科目による単位を示す。
創造設計	2		2				
機械工作	2		2				
材料学	2			2			
機械設計	1			1			
工業力学	2			2			
材料力学	2				2		
機構学	2				2*		
熱流体力学	2				2*		
制御工学	2				2		
産業電子機械	1				1		
計測工学	2				2		
機械力学	1					1	
知能情報工学	2					2*	
電気基礎	2		2				
電磁気学Ⅰ	2			2			
電磁気学Ⅱ	2				2*		
電気回路	2			2			
電子回路	2			2			
デジタル回路	2				2*		
デジタル信号処理	2				2*		
マイコン基礎	2				2*		
マイコン応用	2					2*	
計算機システム	2					2*	
センサ画像工学	2					2*	
情報リテラシ	2	2					
プログラミング基礎	2		2				
プログラミング応用	2			2			
応用物理	2					2*	
応用数学	2				2		
工業英語	2					2*	
電子機械演習	2					2	
工学セミナー	1				1		
実験実習	8	2	2	2	2		
卒業研究	8					8	
必修科目計	78	6	10	15	24	23	
工業材料	1				1		5年間の修得単位数が167単位以上となるように選択科目を選択,履修すること。
機械設計演習	1				1		
数値解析	1				1		
情報処理演習	1				1		
電気機器	1					1	
システム制御工学	1					1	
熱機関	1					1	
電子機械特論Ⅰ	1					1	
電子機械特論Ⅱ	1					1	
電子機械特論Ⅲ	1					1	
超電導工学	1					1	
電子応用	1					1	
デザイン応用	1					1	
熱流体工学	1					1	
ロボット工学Ⅰ	1					1	
ロボット工学Ⅱ	1					1	
通信システム	1					1	
デジタル画像処理	1					1	
インターンシップ	2				1	1	
開設科目計	20				5	15	
履修科目計	10単位以上				2単位以上	8単位以上	
専門科目計	88単位以上	6単位	10単位	15単位	26単位以上	31単位以上	
一般科目計	79単位	26単位	22単位	17単位	10単位	4単位	
合 計	167単位以上	32単位	32単位	32単位	36単位以上	35単位以上	

(出典：平成18年度学生生活ハンドブック)

資料 5 - 1 - ① - 2 (続き)

各学科の専門科目授業一覧

専門科目 (情報工学科)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
コンピュータリテラン	2	2					*は第14条4項に定める授業科目による単位を示す。
情報工学概論	2		2				
情報数学	2			2			
情報理論	2				2*		
データ構造とアルゴリズム	2				2*		
数理計画法	2				2		
オペレーションズリサーチ	2					2*	
プログラミングⅠ	2	2					
プログラミングⅡ	2		2				
プログラミングⅢ	2			2			
システムプログラム	2					2*	
計算機アーキテクチャⅠ	2			2			
計算機アーキテクチャⅡ	2				2*		
オペレーティングシステム	2				2*		
データベース	2				2		
ネットワークアーキテクチャ	2					2*	
ソフトウェア工学	2					2*	
信号処理	2					2*	
画像工学	2			2			
コンピュータグラフィックス	2				2*		
電気基礎・電気回路	2		2				
アナログ電子回路	2			2			
デジタル電子回路	2				2*		
通信工学	2				2		
制御工学	2				2		
統計学	2			2			
応用数学Ⅰ	2				2		
応用物理学Ⅰ	2			2			
技術英語	2					2	
情報工学演習	4		2			2	
創造演習	1				1		
実験実習	8	2	2	2	2		
卒業研究	8					8	
必修科目計	79	6	10	16	25	22	
応用物理学Ⅱ	2				2		5年間の修得単位数が167単位以上となるように選択科目を選択,履修すること。
生産管理	2				2		
応用数学Ⅱ	2					2	
数値計算	2					2*	
情報ネットワーク	2					2*	
コンピュータ解析法	2					2*	
パターン認識	2					2*	
デジタル・アナログ集積回路	2					2*	
制御システム工学	2					2*	
CAD/CAM	2					2*	
弾性体力学	2					2*	
信頼性工学	2					2*	
情報工学特論Ⅰ	1					1	
情報工学特論Ⅱ	1					1	
情報工学特論Ⅲ	1					1	
インターンシップ	2				1	1	
開設科目計	29				5	24	
履修科目計	9単位以上				2単位以上	7単位以上	
専門科目計	88単位以上	6単位	10単位	16単位	27単位以上	29単位以上	
一般科目計	79単位	26単位	22単位	17単位	10単位	4単位	
合 計	167単位以上	32単位	32単位	33単位	37単位以上	33単位以上	

(出典：平成 18 年度学生生活ハンドブック)

情報工学科科目関連表										
	1年		2年		3年		4年		5年	
	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位
情報工学基礎に関する科目	コンピュータリテラシ	2	情報工学概論	2	情報数学	2	情報理論	2	データ構造とアルゴリ	2
									数理計画法	2
									オペレーションズ・リサーチ	2
計算機システムに関する科目	プログラミングI	2	プログラミングII	2	プログラミングIII	2	オペレーティングシステム	2	システムプログラム	2
					IT基礎アーキテクチャI	2	計算機アーキテクチャII	2	ソフトウェア工学	2
									データベース	2
情報処理に関する科目	必修		大学単位		画像工学	2	コンピュータグラフィックス	2	信号処理	2
	選択								数値解析	2
									パターン認識	2
									コンピュータ解析法	2
電気電子・通信・システムに関する科目			電気基礎・電気回路	2	アナログ電子回路	2	デジタル電子回路	2	デジタル・アナログ集積回路	2
									ネットワークアーキテクチャ	2
									情報ネットワーク	2
									制御システム工学	2
									制御工学	2
実験・演習	実験実習	2	実験実習	2	実験実習	2	実験実習	2	卒業研究	8
			情報工学演習	2					情報工学演習	2
									創造演習	1
									インターンシップ	1
工学の基礎となる科目					統計学	2	応用数学I	2	応用数学II	2
					応用物理学I	2	応用物理学II	2	弾性体力学	2
									信頼性工学	2
									CAD/CAM	2
									工業英語	2
その他									情報工学特選I	1
									情報工学特選II (集中講義)	1
									情報工学特選III (集中講義)	1
専門科目(必修・選択)単位合計	6		10		16		30		46	

(出典：平成18年度学生生活ハンドブック)

本校で掲げる教養教育に関する目標は、「基礎科目における学力の底上げとその向上」「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の二つである。前者については、一般理数系科目を特に低学年を重視して配置するとともに、社会に出るための準備段階として、技術者としての倫理を身に着けるための社会系の科目も高学年で開講している。後者については、全学科とも特に英語に重点を置き、オーラルコミュニケーションを含んだ基礎から工業系の英語に至るまでの教育を行っている。さらに、近年のアジアの発展に着目し、高学年に第二外国語として「中国語」「ハンデル」も取り入れている。以下に、一般科目及び専門科目の教育課程について述べる。

(1) 教育課程

教養教育に関する目標は、一般科目の目標である「広く社会的視野に立って物事を理解できる教養豊かな国際人となること、また専門的知識や技術を身につけるために必要な基礎知識を修得すること」と強く結びついている。

(2) 専門教育課程

専門教育では、基礎知識の習得や実験・実習の重視に加え「創造性豊かで高度な幅広い、ものづくり基盤を支える技術者の養成」を目標としている。各学科とも創造力をつける訓練としての科目「創造演習」（商船学科・情報工学科）、「創造設計」（電子機械工学科）を取り入れている。また、平成 18 年度からのカリキュラム改正により高学年に「自学自習」として、その教科の課題のみでなく、時間を有効利用するように自分で工夫して勉強する時間を設置している。本科の集大成として、5 学年で行う「卒業研究」において、研究の進め方、論文の書き方及び発表方法など、技術者として社会に出るための準備が体系的に実施されている。

(3) 各学科の体系

各学科の目標とそれに対する取り組み（資料 5-1-①-4 に商船学科の例を示す。）が以下のように実践されている。

(3-1) 商船学科

商船学科は学科の目標として「広い視野と実践的な能力をもつ海技士を育成すること」を掲げている。そのために、船舶の安全運行に必要な専門知識を習得し、実践の場として、練習船で海外や国内各地を訪問しながら、自然や人と触れあい、楽しく充実した航海実習が行われている。

(3-2) 電子機械工学科

電子機械工学科では、学科の目標である「電子電気と機械の 2 分野を中心とし、これに情報処理・計測制御を含めた幅広い学習を基礎理論と実験実習との両面から実施する」に沿い、電子・機械分野だけでなく、情報系や制御系の講義科目と実験実習が積極的に開講されている。

(3-3) 情報工学科

情報工学科では、コンピュータや情報処理に関心を持っている者に、情報処理と情報通信の原理と応用について系統的に学べる環境を提供している。学科の目標では「豊富な IT 技術をもとにした視野の広い応用能力の養成、グループリーダとしてのコミュニケーションとプレゼンテーション能力の養成、柔軟で創造的なシステムデザイン能力の養成」を掲げ、高度情報通信技術社会に対応できるエンジニアを育成するための対応が採られている。

以上のように、本校の準学士課程 3 学科は、学科ごとにそれぞれの特色を出しつつ、本校の教育に関する目的を達成するための目標が掲げられている。

商船学科の学科概要と授業内容

商 船 学 科

SHIPPING TECHNOLOGY DEPARTMENT

学科概要

商船学科は、船舶の運航技術について学ぶ学科である。

最近における我が国の船舶運航技術の発展はめざましいものがあり、航海にはGPSやソナーなどの宇宙技術や海中技術が応用されている。また、推進機関の運航管理には、コンピュータを用いた計測制御技術が応用されている。

このように、いまや船舶の高度自動化への対応など社会が求める海技技術者の技術の対象が拡大している。

商船学科ではこのような時代の要請に応えるべく船舶の運航に必要な基礎的知識と技術を習得し、コンピュータ利用技術、計測制御技術、電気電子技術など、進展する周辺技術にも即応できる能力をもった海技技術者を養成することを目的としている。

「航海コース」と「機関コース」があり、それぞれのカリキュラムに基づいて教育内容の専門化を図っている。

授業内容

応用数学、情報処理、工業力学、熱力学、材料力学、電気・電子工学、計測・自動制御、設計製図、船舶工学など航海学、機関学の基礎となる共通基礎科目、航海コースでは、測位システム、航海計測学、航路論、船体運動論、貨物管理などの航海学に関する専門科目、機関コースでは、内燃機関、蒸気機関、補助機械工学、機械設計など機関学に関する専門科目について講義・演習を通して理解を深める。

さらに、実験実習、校内練習船実習を通して実際の船舶の運航に対する実践的な能力を養う。

卒業研究では、実際の問題に対して、系統立てて問題を解決する能力を高め、高度化、多様化する技術に対応できる海技技術者の養成を目指している。

(出典：平成18年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育目的を達成するため、バランスよく一般科目と専門科目が配置されたカリキュラムとなっている。一般教育、専門教育課程ともに、掲げられた目標に向けて取り組まれている。

一般科目では、技術者として必要な倫理面の教育と、特に重点が置かれた理数系、英語の教育が行われている。さらに、アジアの発展に着目し、第二外国語として「中国語」「ハングル」も取り入れている。

専門科目では、学科ごとに講義、演習、実験・実習が適切に配置されている。また、各学科でそれぞれの特徴を出しつつ、本校の教育に関する目的を達成するための目標が掲げられ、技術者として社会に出るための準備が体系的に実施されている。

以上のことから、教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程の体系的性が確保されている。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっている。

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他学科の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施，専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

近年の学生ニーズの多様化，ならびに社会情勢の変化に対応する取り組みは，以下のようになされている。

(1) 学修単位科目の導入

平成18年度のカリキュラム改定に伴い，全学科4・5学年に「学修単位科目」を導入した。一般科目授業一覧（前出資料5-1-①-1），専門科目授業一覧（前出資料5-1-①-2）の科目単位数の右側にアスタリスク（*）が付いている科目が，学修単位科目である。これに伴い，「自学自習」の時間が時間割に設けられ，その教科の課題のみでなく，時間を有効利用するように学生自ら工夫して勉強するよう取り計らわれている。資料5-1-②-1に，電子機械工学科と情報工学科の4・5学年の平成19年度前期時間割表を示す。学修単位科目は，基本的に週4時間，時間割に組み込まれ，その内の2時間が座学，もう一方の2時間が自学自習時間となる。

平成19年度前期時間割表（電子機械工学科・情報工学科 4・5学年）

	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
M4	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]	[子規]
I4																	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]	[語アII]
M5																	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]	[計シ]
I5	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[集積]	[集積]	[集積]	[集積]	[集積]	[集積]	[集積]	[集積]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]	[ソエ]
								[ハ認]																																

(出典：平成19年度後期時間割表 学習単位のみ掲載)

(2) インターンシップ

従来から、全学科 4 学年にインターンシップを実施してきた。インターンシップに関する規定を資料 5-1-②-2 に、インターンシップの実施要項（抜粋）を資料 5-1-②-3 に示す。実働 5 日以上で、1 単位の単位認定を行っている。平成 18 年度からは全学科 5 学年においても導入し、4・5 学年においてインターンシップに積極的に参加できるように取り組んでいる。

資料 5-1-②-2

インターンシップに関する規定

大島商船高等専門学校における
インターンシップに関する規程

第1条 この規程は、大島商船高等専門学校（以下「本校」という。）学則第14条第2項別表第2に定める選択科目のうち、インターンシップにおける学修に関し、必要な事項を定める。

第2条 学生は、インターンシップにおける学修を受けようとするときは、インターンシップの学修許可願（別紙様式1）に学修計画書等を添え、学級担任教員を経て校長の許可を受けるものとする。

第3条 学生は、インターンシップにおける学修を行い、単位の認定を受けようとするときは、インターンシップの学修単位認定願（別紙様式2）に、インターンシップ学修証明書（別紙様式3）及びインターンシップ学修報告書（別紙様式4）を添え、学級担任教員を経て校長に願出するものとする。

第4条 校長は、前条の規定により願出のあった場合は、単位の修得を認定することができる。

2 認定される単位は、申請が出され認定された年度の単位とする。

3 第1条に定める学修の評価は、「合格」とする。

第5条 この規程の実施に関し、必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規程は、平成19年2月6日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

2 この規程の施行により、大島商船高等専門学校における校外工場実習に関する規程（平成10年6月16日施行）は、廃止する。

(出典：大島商船高等専門学校規則集)

インターンシップ実施要項（抜粋）

大島商船高等専門学校インターンシップ実施要項

- 1 目的
この要項は、大島商船高等専門学校におけるインターンシップの学修に関し必要な事項を定める。
- 2 主管
(1) インターンシップは、原則として第4・5学年で実施し、教務主事主管のもとに各学科主任が学級担任教員と計画のうえ事業所等に委託し、その就業規則に従って実施する。
(2) インターンシップに関する事務は、学生課教務係が担当する。
- 3 学級担任教員の任務
学級担任教員は、学科主任の指示のもとに、次の業務にあたる。
 - (1) インターンシップ受入れ先事業所等の選定
 - (2) インターンシップ受入れ先事業所等への配属
 - (3) インターンシップの内容、テーマ等に関する助言・指導
 - (4) インターンシップ中の留意事項（安全・就業心得等）の事前指導
 - (5) インターンシップ中に発生した事故又は異常事態の処置及び報告
 - (6) 必要に応じて、インターンシップの受入れ先事業所等の巡回指導
 - (7) 規程に定める単位認定願、学修証明書、学修報告書等の受理及び評価
 - (8) その他必要な事項
- 4 願いの提出
インターンシップを希望する学生は、学生課教務係が所定の場所に掲示するインターンシップ受入れ事業所を確認のうえ、規程第2条に定める願いを担任教員に提出しなければならない。

（出典：大島商船高等専門学校規則集）

(3) 転科・転コースについて

平成 18 年度から、2 学年終了時に転科を行える制度を認可した。資料 5-1-②-4 にその規定を示す。実績はまだない。また、商船学科では、転コース（航海コース⇔機関コース）制度を設けている。平成 18 年度は、3 名の転コースが認可された。

資料 5-1-②-4

転科に関する内規

大島商船高等専門学校転科に関する内規

制定 平成 18 年 6 月 5 日

(趣旨)

第 1 条 この内規は、大島商船高等専門学校学則第 22 条の 2 第 2 項の規定による転科（以下「転科」という。）の実施に関し、必要な事項を定める。

(転科)

第 2 条 転科を認める学科は次のとおりとする。

(1) 商船学科

(2) 電子機械工学科

(3) 情報工学科

2 転科は第 2 学年から第 3 学年へ進級時に認めることとする。

3 転科を希望する学生は、第 2 学年の前期末までに学級担任を通じて保護者と連名の転科願（別紙様式 1）を学生課教務係に提出する。

4 転科願が提出された場合、現在所属している学科及び転科先学科の主任等の面接等を後期の学年末試験が始まるまでに受けること。その際に、適性検査や筆記試験等を行うことができる。

5 第 2 学年の学年末成績が確定した後に、転科先学科で可否を判定し、教務委員会の議を経て決定する。

6 校長は、転科を許可した場合は、許可書（別紙様式 2）を交付する。

7 転科後において、原則として補習及び補講を行わない。ただし、商船学科については、練習船実習等の補講を行うことができる。

(転科の人数等)

第 3 条 各年度における転科を認める数は、教育に支障を起ささないように以下に定めるところによる。

2 転科先のクラス人数が、クラス定員の 1 割を超える転科は原則として認めない。商船学科においては、転科先のコース人数が「転コースに関する取り扱い要領」に定める人数を超えないこととする。

3 商船学科に転科する場合においては、船舶職員並びに小型船舶操縦者法に定める身体検査基準を満たしていること。

4 転科の理由並びに意志が明確で保護者の同意を得ていること。

5 第 2 学年末の成績が、転科先のクラスの中位以上に相当すること。

附 則

この内規は、平成 18 年 6 月 5 日から施行する。

(出典：大島商船高等専門学校規則集)

(4) 少人数授業の実施

商船学科は航海コースと機関コースにコース別しており、3 学年からそれらのコース別の授業が設けられている。さらに、同コース何にも選択科目を配置しているため、少人数での授業が行われている。

また、一般科目授業一覧（前出資料 5-1-①-1）に示すように、高学年の一般科目選択授業を学修単位科目と位置づけた。これらは各学科共通の選択科目として 4~5 教科を同時開講し、学科間の隔たりなく受講できるようにしている。

(5) 補充教育

(5-1) 追認試験

進級した者で不可単位科目を有している場合は、追認試験を受けることができる。その規定を資料 5-1-②-4 に示す。

資料 5-1-②-4

追認試験に関する規定

- 第 15 条 進級した者で不可単位数を有する者は追認試験を受けることができる。
- 2 追認試験は原則として当該年度の 3 月に実施する。詳細については別に定める。
 - 3 追認試験を受けようとする者は、速やかに追認試験受験願（様式 2）を科目担当教員を経て校長に提出し、許可を受けなければならない。
 - 4 実技、実習、実験を伴う科目については、原則として追認試験は実施しない。
 - 5 追認試験の結果修得を追認された科目の成績評価は 60 点「可」とする。

(出典：大島商船高等専門学校規則集)

(5-2) 時間割の工夫

補充教育充実のため、主に低学年の放課後に毎日「補講時間」を設けており、各科目の補講・補習が行いやすいよう工夫している。資料 5-1-②-5 に、1 学年から 3 学年までの補講時間の時間割を示す。

(5-3) 基礎学力向上のための補充教育

低学年の一般理数系科目を中心に、基礎学力不足の学生を対象に補習授業を実施している。実施については、資料 5-1-②-6 に示すように保護者へ通知をして理解を得ている。平成 18 年度は、11 月から学年末試験の前まで約 8 週間に渡り実施した。その実施状況を資料 5-1-②-7 に示す。補習を受けた学生のうち、83%程度が進級することができた。

資料5-1-②-6

補習授業の通知（保護者宛）

保護者 殿

大島商船高等専門学校
副校長（教務主事） 平畑 幸作

英語・数学・理科の補習授業の実施について（通知）

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、本校では、1学年・2学年・3学年の学業成績不振な学生を対象に、英語・数学・理科の基礎学力を養うことを目的とした補習授業を実施することになりました。

つきましては、お子様は下記科目の補習授業を受ける必要がありますので、保護者の皆様にご連絡申し上げます。

なお、この補習授業は、英語・数学・理科を担当しております一般科目の教員の厚意のもと、成績不振の学生の成績が少しでも向上するという願いを込め、多忙な中にも何とか時間を捻出して実施するものであります。

従いまして、保護者の皆様におきましても、ご家庭でお子様はこの補習授業を軽んじることなく最優先で必ず受けさせるようご指導いただきますれば幸甚に存じます。

（出典：保護者へ補習授業の通知）

資料5-1-②-7

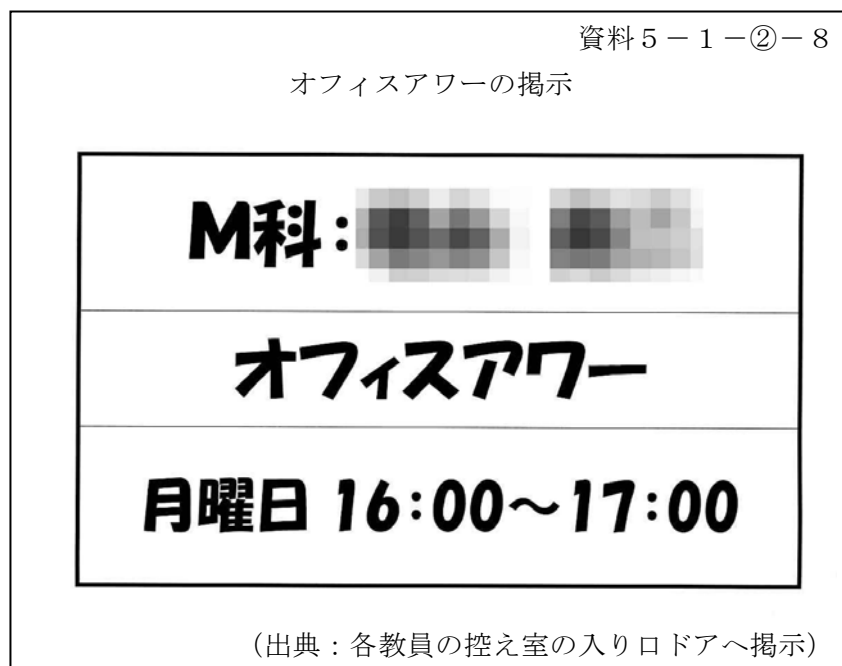
科目別補習授業実施表

1年生				2年生				3年生	
英語	数学	化学	物理	英語	数学	化学	物理	英語	数学
石田	神田	杉村	上月	宮奥	堤	杉村	上月	吉留	吉富
S1教室	S1教室	化学実験室	物理実験室	S2教室	S2教室	化学実験室	物理実験室	LL教室	S3教室
水曜日	火曜日・木曜日	火曜日	木曜日	月曜日	水曜日	火曜日	木曜日	月曜日	火曜日
16:00~17:00	火 15:50~16:40 木 14:55~15:45	15:50~16:40	14:55~15:45	15:50~16:40	14:55~15:45	15:50~16:40 12 16:40~17:30	14:55~15:45	15:50~16:40	15:50~16:40
学生学科・名前	学生学科・名前	学生学科・名前	学生学科・名前	学生学科・名前	学生学科・名前	学生学科・名前	学生学科・名前	学生学科・名前	学生学科・名前

（出典：科目別補習授業実施表）

(5-4) オフィスアワーの実施

補充教育充実のため、全教員に放課後のオフィスアワーを設定した。全教員のオフィスアワー一覧表を全教室に貼付した。また各教員室には、資料5-1-②-8のような、その教員のオフィスアワー実施時間が掲示されている。



(分析結果とその根拠理由)

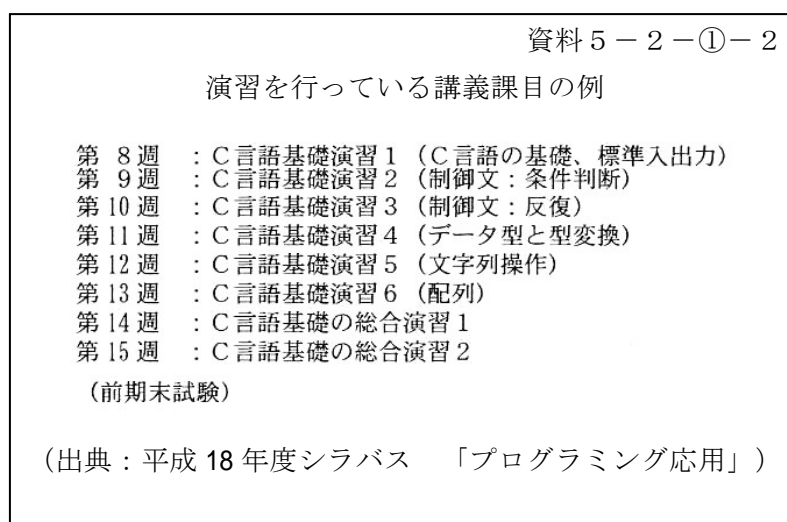
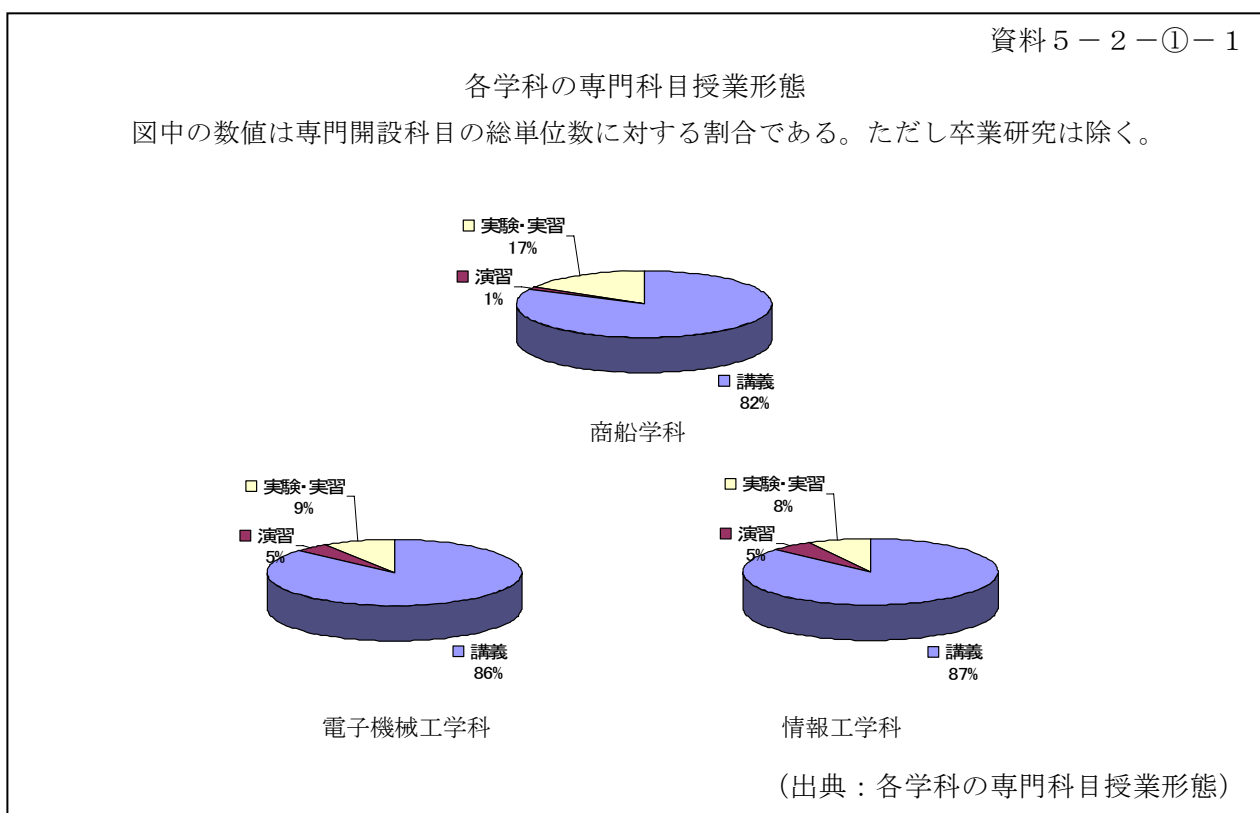
本校では、学修単位科目の導入、インターンシップ、転科・転コース、少人数授業が実施されている。さらに、補充教育として、追認試験、補講時間の設置、オフィスアワーの設定さらに補習授業の実施といった多様な取り組みが実施されている。

以上のことから、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対し、教育課程の編成において、十分な取り組みが行われている。

観点 5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

教育課程は、教育に関する目標を達成するため、講義、演習、実験・実習の授業形態が取られている。各学科の専門科目の授業形態を資料 5-2-①-1 に示す。商船学科は、学科の特徴から実験実習の割合が多くなっている。各学科とも講義科目によっては、必要に応じて演習が取り入れられている。その一例を資料 5-2-①-2 に示す。したがって、図中の「講義」で占められる部分すべてが、座学ではない。



以下に、本校で導入している学習指導の実施状況について述べる。

(1) 学修単位科目の導入

平成 18 年度からは、全学科 4・5 学年の科目の一部を「学修単位科目」と位置づけ、講義時間の他に「自学自習」時間を時間割に組み込んだ構成が採られている。2 単位科目において、週 2 時間×15 回、校内における「自学自習」時間が基本的に設けられ、与えられた課題のみでなく、学生が自ら工夫して勉強時間を有効利用するように指導されている。資料 5-2-①-3 に示した「自学自習時間の対応についての指針」が、全教員及び対象学年に周知されている。資料 5-2-①-4 に各学科における専門科目の高専単位科目と学修単位科目の割合を示す。

学修単位科目を担当した教員は、自学自習時間の実施報告書を教務係へ提出することが義務付けられており、適切に実施されたかどうか、確認をする体制が採られている。提出された実施報告書の一例を資料 5-1-②-5 に示す。

(2) 学科共通の一般選択科目

高学年の一般科目選択授業の学修単位科目では、4~5 科目を同時開講することで、全 3 学科の学生らが、少人数で受講できるとともに、学科を問わないで勉強できるように工夫されている。開設されている科目は、その分野が多岐に渡っており、学生らが「視野を広く」し「探究心を養う」ための役割を果たしている。

(3) 外国語教育

教育目標に掲げる「国際的に通用するコミュニケーション能力」を育成するために全学科とも特に英語に重点を置いている。一般科目の必修科目が 77 単位設置されているうち、25%にあたる 19 単位が英語の必修科目となっている。その内容は、オーラルコミュニケーションを含んだ基礎から、工業系の英語に至るまでの教育が行われている。さらに TOEIC のハイスコアを目指した講義や、パソコンを利用した e-learning でいつでも勉強できる体制を整えている。

平成 18 年度からは、第二学国語として、「ドイツ語」の他に「中国語」、「ハンゲル」も取り入れ、電子機械工学科と情報工学科の 4・5 学年が受講している。なお「中国語」、「ハンゲル」とも、ネイティブを非常勤講師として採用している。

(4) 実験実習

実験・実習科目では、1 クラスがグループ分けされ、「職業に必要な能力の育成」の観点に沿って、実践的な技術の体験や習得を目指すように工夫がされている。

(5) 創造性を育む教育

全学科とも創造力を養うため開設されている科目（「創造演習」、「創造設計」）では、個人、あるいは少人数グループを対象に課題を設定し、それをどのように解決すればよいか、あるいは解決したかなど、実践的な問題解決能力の育成がおこなわれている。得られた結果は学生自らが発表し、各教員によって評価される。

大島商船高等専門学校における自学自習時間の対応についての指針

平成 18 年 3 月 30 日

趣旨

平成 18 年度より、本校において大学単位科目が導入され、それに伴い自学自習時間を授業時間内に組み込むことになりました。自学自習時間とは、講義以外の学生が自立して学習する時間です。よって本校教員は、学生の自学自習の意思意欲を補助する責務を負っており、さらに教室での講義と教室外での自学自習により学生の学力向上を目指すことが求められています。また今後、本校が取り組む JABEE および機関認証制度においては、この自学自習時間がどのように運用され、学生の学力向上に役立っているかを示す必要があると思われます。

よって平成 18 年度は自学自習時間導入初年度として、

- (1) 自学自習時間における学生の心得
- (2) 自学自習時間における教員の心得
- (3) 教務関係における自学自習時間の扱いについて規定等

以上のことを定め、内容を学生および教員に周知し、学生の自学自習時間をスムーズにスタートできるようにしたいと思います。

◎ 学生向け心得の概要

本校学生は自学自習を担当教員の指定する場所において以下に示すことを行う。

- (1) 担当教員の指定した課題、レポートさらに担当教科の予習復習
- (2) 担当教員の科目以外の課題およびレポートさらに他の教科の予習復習
- (3) 卒業研究と関連づけた調査研究および卒業研究（5 年生）

◎ 教員向け心得の概要

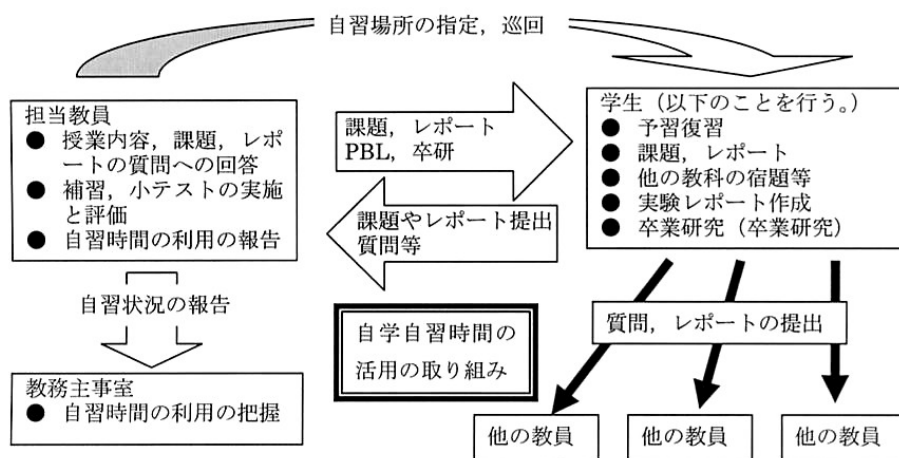
教員は、本校学生の自学自習への理解および学生の学力向上に努め、以下に示すことを行う。

- (1) 自学自習の方法の手助けとなる課題、レポートの作成
- (2) 学生の質問への対応
- (3) 補講や小テストの実施等

◎ 教務関係の扱い

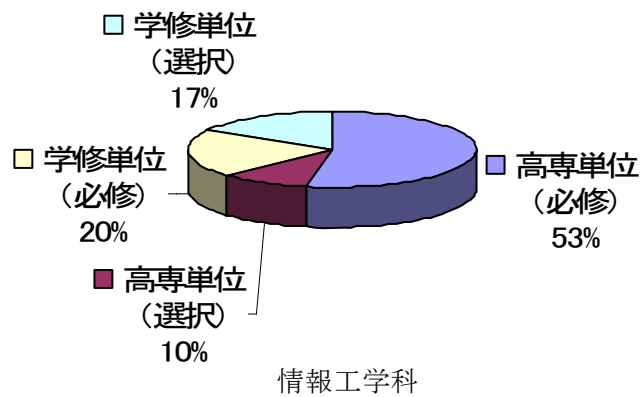
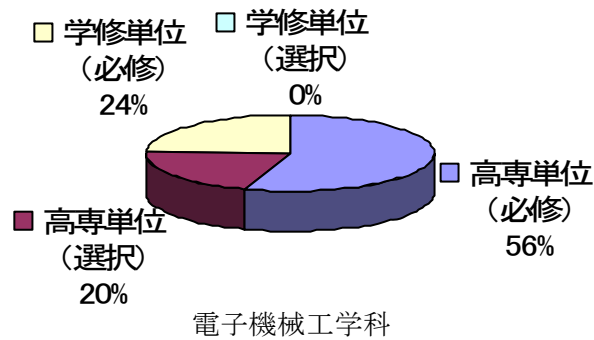
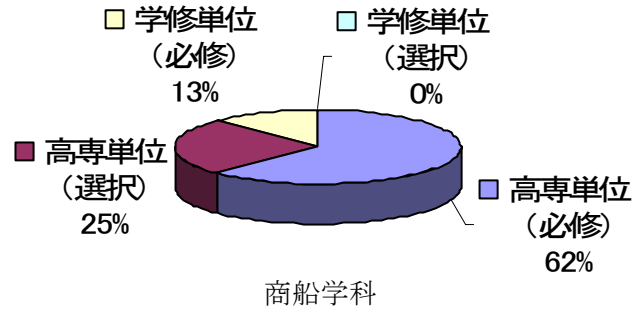
自学自習時間で実施した事例を把握し JABEE や機関認証の際の基礎的資料の作成を行う。

以上



(出典：自学自習時間の対応についての指針)

各学科の専門科目の高専単位科目と学修単位科目の割合



※図中の数値は専門開設科目の総単位数に対する割合である。

(出典：各学科の専門科目の高専単位科目と学修単位科目の割合)

自学自習時間の利用に関する報告書の一例（抜粋）

自学自習時間の利用に関する報告書

平成 19 年 3 月 8 日

大島商船高等専門学校長 殿

所属 電子機械工学科

氏名 

下記のとおり自学自習時間の利用および実績に関して報告いたします。

授業科目名		機構学
期間	平成 18 年度	前期 <input type="radio"/> 後期 <input checked="" type="radio"/> (○で囲んでください)
内容 (自学自習時間の利用について、実施内容を具体的かつ明確に記入してください。また各内容毎に点線で区別してください。)	実施時間 (各内容毎に点線で区別し、最後に総時間数を記入する。)	
(1) 10 月 2、3 日 : 自学自習/演習問題 1~3 (a) 連鎖の限定状態の判別、(b) 6 節連鎖の瞬間中心を求める、 (c) 4 連鎖リンクの瞬間中心を求める、(d) すべり往復運動をする装置の瞬間中心を求める。 この演習問題 1~3 を宿題として提出させた。	90 分	
(2) 10 月 10、16 日 : 自学自習/演習問題 4 機構における速度の求め方 (a) 分解法、(b) 相対速度法、に関する演習を実施。 この演習 4 を宿題として提出させた。	50 分/日 (100 分)	
(3) 10 月 23、24、30 日 : 自学自習/演習問題 5 機構における加速度の求め方 (a) 往復スライダ・クランク機構の加速度を図式解法で求める問題 (b) 直角軸をスライダが連接棒を介して移動する場合の加速度を求める。 この演習問題 5 を宿題として提出させた。	50 分/日 (150 分)	
(4) 10 月 31 日、11 月 7 日 : 自学自習/演習問題 6、7 (a) リンク装置における速度、(b) 往復スライダ・クランク機構におけるクランクの角度、スライダとクランクの速度比を求める。 (c) ウィットウォースの早戻り運動機構における往復運動行程の時間比を求める。(d) 揺動スライダクランク機構での加速度 この演習問題 6、7 を宿題として提出させた。	50 分/日 (100 分)	

(出典：自学自習時間の利用に関する報告書の一例（抜粋）)

(6) 学年会議の実施

平成18年度から、1～3学年を対象に「学年会議」と称して、学年ごとに担任・副担任、科目担当者（会議開催時間に都合がつけば非常勤講師も出席）による協議が行われている。座長は、各学年の学年主任が務める。この会議では、クラス別による授業への取り組み方、学生の授業への関心度など、学科と科目を問わず長所・短所を話し合う。協議の結果は、各担当者に配布され、より良いクラス作りや授業の進め方の指針となっている。資料5-2-①-6は、1学年の学年会議における議事録を示す。

資料5-2-①-6

学年会議議事録（1学年）の一部

1年生学年会議議事録			
日 時	平成19年1月31日（水）16:00～17:20	場 所	本館小会議室
出席者	商船学科（S）1年副担任：北風 電子機械工学科（M）1年担任：中澤（国語担当） 情報工学科（I）1年担任：浦上 数学担当：堤 化学担当：杉村 物理担当：上月 専門科目：辻（S科） 教務係 越智		
欠席者	電子機械工学科1年副担任：尾形 情報工学科1年生副担任：杉野 世界史担当：田口、数学担当：神田、英語担当：石田（議題1 各教科の次の学生について担任へのお知らせについて報告有） 専門科目：藤井英（S科）、藤井雅（M科）		
まず始めに各クラス担任よりクラスの様子が報告された。			
S1 北風副担任からの報告			
辻 S科専門科目担当からの報告			
M1 中澤担任からの報告			

(出典 1年生学年会議議事録)

資料5-2-①-6 (続き)

II 浦上担任からの報告

議題(2) 行動評定表について

議題(3) その他として、各クラスのHRの使い方について議論が行われた。

最後に各科目担当の教員からレポート及び宿題の未提出者と成績不振者の名簿を各担任教員に渡され、閉会した。

(出典 1年生学年会議議事録)

(分析結果とその根拠理由)

教育に関する目標を達成するため、各学科とも講義、演習、実験・実習の授業体系が採られている。それらのバランスは、各学科ともに適切に配置されている。

学習指導においては、学修単位科目の導入、多岐に渡る一般選択科目、中国語、ハングルを含んだ外国語教育、創造性を育む教育が実施されている。さらに、基礎学力向上のための補充教育、学年会議の取組が行われている。

以上のことから、教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業体系のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

シラバスは、「シラバスを活用しよう」(資料5-2-②-1)という校長の言葉から始まり、教務委員会の作成方針に沿い、各科目とも「授業の目的」、「授業の概要」、「年間スケジュール」、「評価方法」、「使用教材」などが明記されている。シラバスは各学科別に冊子体にされ全教員、全学生及び各教室に配布しているほか、ホームページに掲載され、いつでも閲覧できるような体制にし、シラバスの活用を促している。また、冊子体のシラバスには、上記の他に学科の概要、授業内容、一般科目一覧表、専門科目一覧表、科目系統図も掲載される。

資料5-2-②-1

シラバスを活用しよう (抜粋)

シラバスを活用しよう

校長 和氣博嗣

高専における授業形態は、中学校までとは異なり、開設される各科目について、各年度にわたってあらかじめその講義内容などが公表されます。それがこのシラバス(Syllabus)です。これは学生諸君と先生との間のいわば授業契約書であり、また、重要な授業計画書でもあるのです。単なる授業科目の概要説明ではありません。

従って学生諸君はシラバスによって、あらかじめ授業内容を知ると同時に、各自の勉学の年次計画を立て、自分の興味・的を見出しておいてほしいのです。また、授業を受ける過程においても、授業が現在どのあたりまで進み、今後どんな方向に講義が展開して行くのかもこれで確認しながらそれぞれの授業を楽しんで下さい。

そうした意味でシラバスは、まさに授業を見定める「コンパス」であり、自分の現在位置を確認するための「海図」でもあるのです。

(出典：平成18年度シラバス)

授業開講時には、担当教員がシラバスを利用して年次計画や授業方法及び評価方法などの説明をおこなっている。また授業進行中に必要が生じたときも説明するように義務付けている。

学生による授業評価アンケートでは、「授業がシラバスと一致していたか」を問う項目(資料5-2-②-2)が設けられている。過去3年間のアンケート結果の平均値は3.35(5段階評価)であり、概ね良好であるが、さらに良い評価が得られるようにシラバスの活用を徹底するように心がけている。

平成18年度からは、全学年に「履修届」(資料5-2-②-3)の提出を義務付けた。選択科目のない低学年においても、履修届を提出することで受講する科目への意識を高めている。高学年では、それに加え、選択科目を選ぶ際に、よりシラバスを活用し、自らの責任を持って履修届を提出するよう指導している。

学生による授業評価アンケート (抜粋)

学生による授業評価アンケート

この授業に関して、あなたの意見・感想を聞かせてください。授業内容を良くするために参考にするもので、回答は学生諸君の成績には全く影響しません。誠実に答えていただくようご協力をお願いします。

(質問事項)	良い (+)	普通	悪い (-)		
(7) 授業の内容はシラバスと一致していましたか。	5	4	3	2	1

(出典：学生による授業評価アンケート)

履修届 (抜粋)

平成18年度 授業科目履修届

教務主事殿

来年度、下記科目を履修いたします。

商船学科 4年 No.() 機関コース :

一般科目(商船学科)			専門科目(商船学科)		
授業科目	5年	履修確認	授業科目	5年	履修確認
国語			応用数学		
地歴	世界史		情報処理		
	地歴 I		工業力学		
	地歴 II		電気・電子基礎		
公民	現代社会		制御工学		
数学			船舶工学		
物理			設計製図		
化学			航海学概論		
理科総合			船舶機関学概論		
英語	英語講読		操艇実習		
	英語演習		実験実習		
	EC		校内練習船実習		
	英語表現		創造演習		
	現代英語		卒業研究	4	<input type="checkbox"/>
保健体育	1		材料力学		
芸術			流体力学		
法学			工業材料	1	<input type="checkbox"/>
哲学			熱力学		
外国語演習	1	<input type="checkbox"/>	燃焼工学	1	<input type="checkbox"/>
必修科目計	2		電気・電子工学		
択科	日本文学	2 *	機械設計	2 *	<input type="checkbox"/>
	日本史概論	2 *	計測工学		

(出典：履修届)

(分析結果とその根拠理由)

授業をする上でもっとも重要なものの一つであるシラバスを周知徹底するために、全学年に配布するとともにホームページにも掲載している。また、シラバスを活用するために、全学年とも履修届を提出するように義務付けている。さらに、シラバスと授業内容が一致していたかどうかを問う質問が、学生による授業アンケートに設けられており、教員側、学生側とも常にシラバスを活用するように心がけられている。

以上のことから、教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されている。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

創造性を育む教育方法として、各学科で以下のような科目が設置されている。

○商船学科：「創造演習」（4学年）

○電子機械工学科：「創造設計」（2学年）、「電子機械演習」（5学年）

○情報工学科：「創造演習」（4学年）、「情報工学演習」（5学年）

これらは、学科により設置されている科目、実施形態が異なっているが、学生らが講義では習得しにくい自由な発想やアイデアを発揮し成長させ、創造性を育むとともに、教育目的である「探究心を養う」科目である。情報工学科の「創造演習」のシラバスを資料5-2-③-1に示す。

資料5-2-③-1

創造演習シラバス

情報工学科	4学年	必修・後期	週授業時数	2時間
科目名称	：創造演習 (Creation and Research Practice)		授業担当教員名：情報工学科各教員	
授業の目的	：学生それぞれが取り組むテーマを見つけ、実現に向けて取り組むことより、自主性、計画性、創造性を養う。			
授業の概要	：学生自ら取り組むテーマを選択し、担当教員と相談しながら自主的にテーマの実現に向けて取り組みを行う。最後に、テーマ実現までの過程や結果をまとめて発表を行う。			
年間スケジュール				
第1週	：			
第2週	：			
第3週	：			
第4週	：			
第5週	：			
第6週	：			
第7週	：			
(前期中間試験)				
第8週	：			
第9週	：			
第10週	：			
第11週	：			
第12週	：			
第13週	：			
第14週	：			
第15週	：			
(前期末試験)				
第16週	：テーマの検討			
第17週	：テーマの検討、計画の立案			
第18週	：テーマ実現のための準備			
第19週	：テーマ実現のための準備			
第20週	：テーマの実現のための演習			
第21週	：テーマの実現のための演習			
第22週	：テーマの実現のための演習			
第23週	：テーマの実現のための演習			
(後期中間試験)				
第24週	：テーマの実現のための演習			
第25週	：テーマの実現のための演習			
第26週	：テーマのまとめ			
第27週	：テーマのまとめ			
第28週	：発表準備			
第29週	：発表会			
第30週	：レポート作成			
(学年末試験)				
評価方法	：出席および取り組み態度、レポートで70点、発表30点で評価する。			
使用教科書名	：			
補助教材等	：			
参考資料	：			

(出典：平成18年度情報工学科シラバス)

平成18年度のカリキュラム改正により、全学科とも高学年に「学修単位科目」が設置された。この科目は、講義時間の他に「自学自習」が時間割に組み込まれている。「自学自習」時間は、その教科の課題をするのみでなく、勉強時間を有効利用できるよう、学生自ら工夫し考えながら学習するものである。実施後間もないが、この「自学自習」時間を取り入れたことで、創造力の強化になると期待している。

インターンシップは、従来から4学年に「校外実習」として全学科とも実施してきた。カリキュラム改定後は、「インターンシップ」として4・5学年に選択科目として設置されている。平成18年度の実施状況を資料5-2-③-2に示す。在籍している4学年のうち、約50%（電子機械工学科は100%）の学生が参加した。実施場所は、県内を始め、関東・関西方面も見られる。

資料5-2-③-2

インターンシップ参加者一覧

平成18年度インターンシップ参加者一覧

確定学生名	学科	学年	受入企業名	実施期間	実施日数	所在地 (県・市)	備考(広域・山口)	単位認定
	情報工学	4		8/21~8/25	5	岩国市	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	"	"		8/16~8/20	"	"	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	電子機械	"		8/7~8/11	"	"	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	"	"		8/7~8/11	"	"	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	"	"		8/7~8/15	7	"	山口	1
	"	"		8/7~8/11	5	柳井市	山口	1
	情報工学	"		9/1~9/5	5	岩国市	山口	1
	電子機械	"		9/4~9/8	5	柳井市	山口	1
	情報工学	"		8/28~9/1	5	"	山口	1
	"	"		8/22~8/25	4	周南市	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	電子機械	"		"	4	柳井市	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	"	"		"	4	岩国市	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	"	"		8/7~8/11	5	柳井市	山口	1
	"	"		"	5	"	山口	1
	"	"		8/21~8/25	5	周南市	山口	1
	"	"		9/4~9/8	5	光市	山口	1
	"	"		"	5	"	山口	1
	"	"		8/7~8/11	5	下松市	山口	1
	情報工学	"		8/21~8/25	5	岩国市	山口	1
	情報工学科	4		8/21~8/25	5	北九州市	広域	1

資料5-2-③-2 (続き)

情報工学科	4	8/21~8/31	10	神戸市	広域	1
電子機械	4	8/28~9/1	5	藤枝市	広域	1
"	4	9/5~9/13	7	鹿島	広域	1
"	4	8/17~8/30	10	千葉	広域	1
"	4	9/4~9/8	5	東京	広域	1
"	4	8/7~8/11	5	伊賀	広域	1
"	4	8/16~8/25	9	東京	広域	1
"	4	8/21~8/25	5	東京	広域	1
"	4	8/21~8/31	10	神戸市	広域	1
"	4	"	10	"	広域	1
"	4	8/28~9/1	5	大阪市	広域	1
"	4	9/4~9/8	5	海田市	広域	1
"	4	"	5	"	広域	1
"	4	8/21~8/25	5	鈴鹿市	広域	1
"	4	8/28~9/8	10	福山市	広域	1
"	4	"	10	"	広域	1
"	4	8/21~8/30	8	高砂市	広域	1
"	4	8/21~8/29	7	大阪市	広域	1
"	4	8/21~8/28	7	広島市	広域	1
"	4	8/21~9/1	10	横浜市	広域	1
"	4	8/23~9/6	11	広島市	広域	1
"	4	8/17~8/25	7	福山市	広域	1
商船学科	4	9/13~9/26	9	東京都	広域	1
"	4	"	9	"	広域	1
"	4	8/21~8/25	5	"	広域	1
"	4	"	5	"	広域	1
"	4	"	5	"	広域	1
"	4	8/21~8/25	5	"	広域	1
"	4	"	5	"	広域	1
電子機械	5	8/21~8/225	5	広島市	広域	1

(出典：インターンシップ参加者一覧)

(分析結果とその根拠理由)

各学科とも、創造性を育む科目が設置されており、講義では習得しにくい自由な発想やアイデアを発揮し、成長させている。また、学修単位科目に導入された「自学自習」の時間においても、学生自ら工夫し考えながら学習するように指導している。

インターンシップにおいては、受け入れ企業側との関係もあるが、多くの学生が県内外を問わず参加し、貴重な経験をしている。

以上のことから、創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が行われている。

観点5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定については「大島商船高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規定」として策定している(資料5-3-①-1)。この規定は、全教員には教務手帳に、全学生には学生生活ハンドブックとホームページに記載されており、広く周知している。その成績評価は100点法であり60点以上で単位を認定している。

資料5-3-①-1

学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規定(抜粋)

第1章 総則

第1条 この規程は、大島商船高等専門学校における学業成績並びに進級及び卒業の認定等について定めることを目的とする。

第4章 学業成績の評価

第7条 学業成績は、その期間中の試験成績、平常の学習状態及び成績、出席状況等を総合して評価するものとする。

第8条 平素の履修状況等で評価できる科目については定期試験または中間試験を行わないことがある。

第9条 各科目について、原則として1単位あたり20時間(年間授業時数の3分の2)以上の出席をもって履修したものと認定する。

2 履修したと認定された科目について学年成績評価をする。

第10条 学業成績の評価は、優・良・可・不可の標語をもってし、次の評点区分による。

優 80点～100点

良 66点～79点

可 60点～65点

不可 59点以下

(出典：大島商船高等専門学校規則集)

各科目における成績評価方法は、学生に周知するため、シラバスに記載されており、その冊子体を全学生に配布し、各クラスには1部常備し、常に閲覧できる状態である。講義開始時にも各教員から、シラバスの説明をすることを徹底している。またホームページ上に公開し、常時アクセスできる状態である。資料5-3-①-2にホームページのシラバス検索画面を示す。

資料5-3-①-2

シラバス検索画面

商船学科
Shipping Technology Department

| 商船学科とは | 教員紹介 | 就職・進学状況 | 教育課程・シラバス | 学科のページ |

教育課程（シラバス）

■シラバス検索

学科(コース)	商船学
教官	
学年	
科目名	
キーワード	

検索開始

(出典：本校ホームページ)

成績の評価となる定期試験やレポートなどは、すべて保存されている。定期試験や小テストなどの答えは電子データとして保存後、すべて学生に返却し（平成18年度からは学年末試験及び前期で終了する科目も返却）、問題の解説を行い学生本人に学習成果を自覚させるとともに、採点ミスがないように徹底している。

全教員が出席する進級認定会議により進級認定が、卒業認定会議により卒業認定がそれぞれ決定されている。両会議では、学生の成績一覧表を作成し、取得科目数、不認定科目数により適切に審議し、実施されている。

2学年から5学年までの進級に当たり、単位未修得者に対して「学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程」（資料5-3-①-3）により仮進級を認めている。仮進級者に対しては、後に行われる追認試験の結果を基に単位を認定している。

学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程（抜粋）

第 5 章 課程の修了

第 14 条 各学年における課程の修了の認定は、修了認定会議において審議のうえ、校長が行う。

2 次の各号のすべてに該当する者は、原則としてその学年の課程の修了を認定する。

- (1) 学則に定める当該学年の所定の科目を全て履修している者
- (2) 各学年末における累積不可単位数が 1 学年、2 学年、3 学年及び 4 学年にあつては 10 単位以内の者、5 学年にあつては、商船学科においては 153 単位以上修得している者、電子機械工学科及び情報工学科にあつては 167 単位以上修得している者累積不可単位数とは、当該学年までに履修すべき単位数から当該学年までに修得した単位数を差引いた単位数をいう。

（出典：大島商船高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価・単位認定科目規定や、進級・卒業認定規定が策定されており、それらは全学生に配布されるとともに、ホームページでも閲覧することができる。各教科の成績評価法は、シラバスに掲載されている。

成績評価に関係する定期試験や小テストの答案などは、すべて学生に返却され、学習成果を自覚させるとともに、採点ミスがないように徹底されている。

単位認定、進級認定、卒業認定は、全教員が出席する認定会議により行われている。

以上のことから、成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。また、これらこの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されている。

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

特別活動には、全学年に週1回、時間割に組み込まれているホームルーム(HR)と、それ以外の学年・学校行事がある。

HRは各学年とも年間30時間を確保してある。その内容は、各クラスの担任・副担任に一任しているが、「学年会議」(前出資料5-1-②-7)において、学科を問わず学年主任を中心にHRの運用方法も話し合っている。

人間の素養の涵養に配慮して、外部講師を招いて講演会を開催している。平成18年度の実施例を資料5-4-①-1に示す。

学校行事の一つとして全学年参加の商船祭(文化祭)がある。その中で催される「手旗踊り」は、伝統的なものであり、本校の教育目的の中で掲げる「協同の精神と責任感を培う」、「先人の遺産を学ぶ」ことの一つとして、学科間の隔たりなく全学年に受け継がれている。商船祭の手旗踊りの様子を資料5-4-①-2に示す。

新入生を対象としては、4月に「1年生合宿研修」が毎年行われ、教育目的である「身体を鍛える」とともに、これから始まる高専での共同生活の責任感を培っている。

資料5-4-①-1

講演会実施例

平成18年度性教育(エイズ)講演会実施要項

- | | |
|--------|---|
| 1、目的 | 特別教育活動としてホームルームを利用し、学生へエイズに対する正しい知識と理解を促すために実施することを目的とする。 |
| 2、日時 | 平成19年2月5日(月) 14時55分～1時間程度 |
| 3、場所 | 視聴覚教室 |
| 4、講演内容 | 性教育・エイズについて |
| 5、対象学年 | 1年生 137名(内女子学生31名) |
| 6、講師 | 子育て女性健康支援センターやまぐち
[REDACTED] |

(出典：平成18年度性教育(エイズ)講演会実施要項)

資料5-4-①-2

手旗踊り



高船祭

(出典：学校案内 Q&A)

専攻科生対象としては、山口県内の3高専（宇部，徳山，大島）の専攻科生の交流の場として平成18年度より山口県3高専専攻科生体験航海を開催した（資料5-4-①-3）。練習船大島丸に宇部，徳山の専攻科生を招き，本校から愛媛県松山市間の航海，船内での大島商船高専の教員による講義及び船内見学さらに本校専攻科生とともに船内での宿泊等，本校以外の専攻科生にとって船内生活という非日常を体験できる有意義な体験交流会となっている。

資料5-4-①-3

山口県3高専専攻科生体験航海開催



(出典：本校 HP)

(分析結果とその根拠理由)

全学年とも、週に一回のホームルーム（HR）の時間が設置されている。また、学年会議において、そのHRの運用方法などについても話し合っている。

人間の素養の涵養に配慮して、外部講師を招いての講演会も開催されている。

商船祭で行われている「手旗踊り」では、学科間の隔たりなく全学生に受け継がれ、教育目標として掲げる「共同の精神と責任感を培う」とともに「先人の遺産を学ぶ」場となっている。

以上のことから、教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるように配慮されている。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

学生が高度な専門教育を習得し社会生活を営むことができるよう、学生の素養に合った生活指導や課外活動指導等をすることも高等教育機関の重要な任務である。

本校では、「学生会会則」(資料5-4-②-1)に基づいて、クラブや同好会の運営や、学生会長などの選挙が行われている。

日常的には、全学生に配布されている学生生活ハンドブック内の「大島商船高等専門学校学生心得」(資料5-4-②-2)を基に生活指導を行っている。寮生についても、同じく「寮生心得」(資料5-4-②-3)を基に生活指導を行っている。生活面において、付近住民から苦情も聞くこともあるが、数年前には人命救助で表彰を受けた学生もいる。

また本校では、あいさつを心がけるよう指導している。近年この指導の成果が現れ、来校者からお褒めの言葉を多数頂いている。平成18年度末現在、本校には、体育部15、文化部10、同好会6が登録されている。この中には商船高専特有の「カッター部」、「ヨット部」が含まれている。全教員が丸丸となっていていずれかの部の顧問になっている。各部とも精力的に活動し「心身を鍛える」とともに、「協同の精神と責任感」を培っている。

資料5-4-②-1

大島商船高等専門学校学生会会則(抜粋)

制定 昭和45年4月1日

(名称)

第1条 本会は、大島商船高等専門学校学生会と称する。

(目的)

第2条 本会は、大島商船高等専門学校学則及び同学生準則に則り、学校の指導のもとに会員の自発的な活動を通して、その人間形成を助長し、相互の親和と啓発につとめ、もって学生生活の向上を図ることを目的とする。

(活動)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 会員の教養を向上させること。
- (2) 会員の健康増進及び体育の振興に関すること。
- (3) 会員の福祉、厚生の実進に関すること。
- (4) 会員相互の親睦融和を図ること。
- (5) 学校行事への協力及び積極的参加を図ること。
- (6) その他本会の目的達成に必要なこと。

(構成)

第4条 本会は、大島商船高等専門学校学生全員をもって構成する。

2 学生は入学と同時に本会の会員となるものとする。

(出典：大島商船高等専門学校規則集)

資料5-4-②-2

大島商船高等専門学校学生心得（抜粋）

制 定 昭和60年4月1日

学生は、本校学生としての自覚を常に保持し、自主自律の精神を重んじ、5年間を通じて正課及び課外教育により、教育目標達成のために心身の健康に留意し、基本的な生活習慣を確立するよう心掛けなければならない。

学則、学生準則及びその他の諸規程を遵守して学生生活を実りあるものにし、望ましい人格の形成を目指して教育の目的を達成するよう努力して欲しい。

下記の項目は、日常生活において当面必要なもののみ掲げてあるが、その趣旨をよく理解し、有意義な学生生活を送ることを切に期待します。

諸届や願い出のための用紙請求先や提出先が一覧表にまとめてあるので参考にすること。

(出典：大島商船高等専門学校規則集)

資料5-4-②-3

大島商船高等専門学校寮生心得（抜粋）

制 定 昭和60年4月1日

学寮管理運営規則に基づき、寮生心得を定める。寮生は、次の各項に従い生活をしなければならない。

第1章 学寮居住区分

学寮を男子寮及び女子寮に分け、原則として次の各号により居室を定める。

- (1) 高学年生（第4・5学年の学生） 1人部屋
- (2) 低学年生（第1～3学年の学生） 2人部屋

第2章 日課

1. 日課表

寮生は、別に定める日課表に従って、規則正しい生活をしなければならない。

(出典：大島商船高等専門学校規則集)

学生のような悩みの相談窓口として、学生相談室を設置している。相談員は、本校の教職員（6名）と、外部からの専門的なカウンセラー（1名）で構成されている。外部からの相談員は月に2回来校し、カウンセリングを行っている。相談をしたい学生は、直接、相談室を訪れる方法以外に、電子メールや手紙による手段も取られている。平成18年度は、学生135名（ただし、重複している者あり）、保護者9名からの相談があった。

また、学生相談室では、新入生とその保護者を対象としたアンケート調査を平成16年度から実施している。新入生アンケート内容と集約結果（抜粋）を資料5-4-②-4に、新入生保護者に対するアンケート内容（抜粋）を資料5-4-②-5にそれぞれ示す。これらの結果は、学内限定のホームページ上に公開され、今後の学生指導や学級懇談会などの資料として役立つ取り組みが採られている。

資料5-4-②-4

新入生対象 学生相談室アンケート集約（抜粋）

次の各質問について、当てはまる記号を選んで回答用紙に○で囲んでください。
（ ）内は自由に書いてください。（回答は別紙、解答用紙に書いてください。）

1. あなたが大島商船（以下本校）を進学先として考えた時期はいつですか？
(a) 小学生の頃 (b) 中学1, 2年生の頃 (c) 中学3年の頃

	a	b	c
S科	2	9	27
M科	1	8	36
I科	0	11	39
合計	3	28	102

2. 本校は第一志望でしたか？
(a) はい・(b) いいえ

	a	b
S科	37	2
M科	45	0
I科	50	0
合計	132	2

3. 志望した学科に入れましたか？
(a) はい・(b) いいえ

	a	b
S科	36	3
M科	38	7
I科	41	9
合計	115	19

4. あなたが本校に入学した動機は何ですか？次の中から○をつけてください。（複数回答可）

- (a) 自分の志望に合っている (b) 就職がある (c) 通学に便利 (d) 経済的な理由
(e) 親や先生に勧められた (f) 自由な校風だから (g) 先輩、知人がいる (h) 兄弟がいる
(i) 何となく (j) その他（回答用紙に具体的に書いてください。）

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	その他
S科	24	21	1	2	9	11	7	1	4	0	
M科	16	29	3	3	11	11	8	4	3		
I科	14	31	4	2	17	22	6	1	4	2	1
合計	54	81	8	7	37	44	21	6	11	2	1

（出典：新入生対象 学生相談室アンケート）

資料 5-4-②-5

新入生保護者アンケート内容（抜粋）

1. 学校生活について不安がありますか。
2. 学習について不安がありますか。
3. お子さまの人間関係（友人・異性・教員など）について不安がありますか。
4. お子さまの家庭内の生活で困ったことがありますか。
5. 入寮される方にお尋ねします。寮生活について不安がありますか。
6. 本校に対する質問・要望など、何かございましたら遠慮なくお書きください。

（出典：新入生保護者アンケート）

経済的理由により就学が困難な学生に対しての奨学金制度は、「近藤記念海事財団奨学金」（資料 5-4-②-6）の他に、日本船員奨学会、山口県ひとつづくり財団等がある。さらに本校独自の「宮本晃奨学金」（資料 5-4-②-7）が用意されている。これにより学校生活に専念できるような体制が採られている。

資料 5-4-②-6

大島商船高等専門学校近藤記念海事財団奨学金貸与規則（抜粋）

制定 昭和 46 年 6 月 1 日

（目的）

第 1 条 大島商船高等専門学校近藤記念海事財団奨学金(以下「奨学金」という。)は、本校に在学し、学業及び人物ともに優秀であって、経済的理由により修学困難な者に貸与し、有用な人材を育成することを目的とする。

（奨学金の貸与期間及び金額）

第 2 条 奨学金を貸与する期間は、席上課程最短修業期間とする。

2 前項の期間中に貸与する奨学金の額は、月額 13,000 円とする。

（奨学生願書の提出）

第 3 条 奨学生志望者は、連帯保証人と連署した奨学生願書を、指定の期日までに提出しなければならない。

（奨学生の採用）

第 4 条 奨学生の採用は、大島商船高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）の選考を経て、校長が決定する。

（出典：大島商船高等専門学校規則集）

大島商船高等専門学校「宮本 晃」奨学金支給規則（抜粋）

制 定 平成19年4月1日

（目的）

第1条 大島商船高等専門学校「宮本 晃」奨学金（以下「奨学金」という。）は、本校に在学する本科生、留学生及び専攻科生で、勉学に対する意欲があるにもかかわらず、経済的理由により就学が困難な者に対して支給し、有用な人材を育成することを目的とする。

（奨学金の金額）

第2条 奨学金の額は、半期につき独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則に定める授業料の年額の半額とし、毎年の支給総額は概ね200万円とする。

ただし、校長が必要と認めた場合は増額又は減額することができる。

（出典：大島商船高等専門学校規則集）

（分析結果と根拠理由）

学生会会則により、クラブ、同好会の運営や、学生会長などの選挙が行われている。日常的には、学生心得を基に生活指導を行っている。クラブ活動では、各部とも精力的に活動し、教育目標として掲げる「心身を鍛える」とともに「共同の精神と責任感」を培っている。

また、学生相談室や本校独自の奨学金制度が設けられている。

以上のことから、教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。

<専攻科課程>

観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

専攻科では、準学士課程の商船学科を母体とした海洋システム学専攻と準学士課程の電子機械工学科と情報工学科を母体とした電子・情報システム工学専攻の2専攻で構成されている。(資料5-5-①-1)

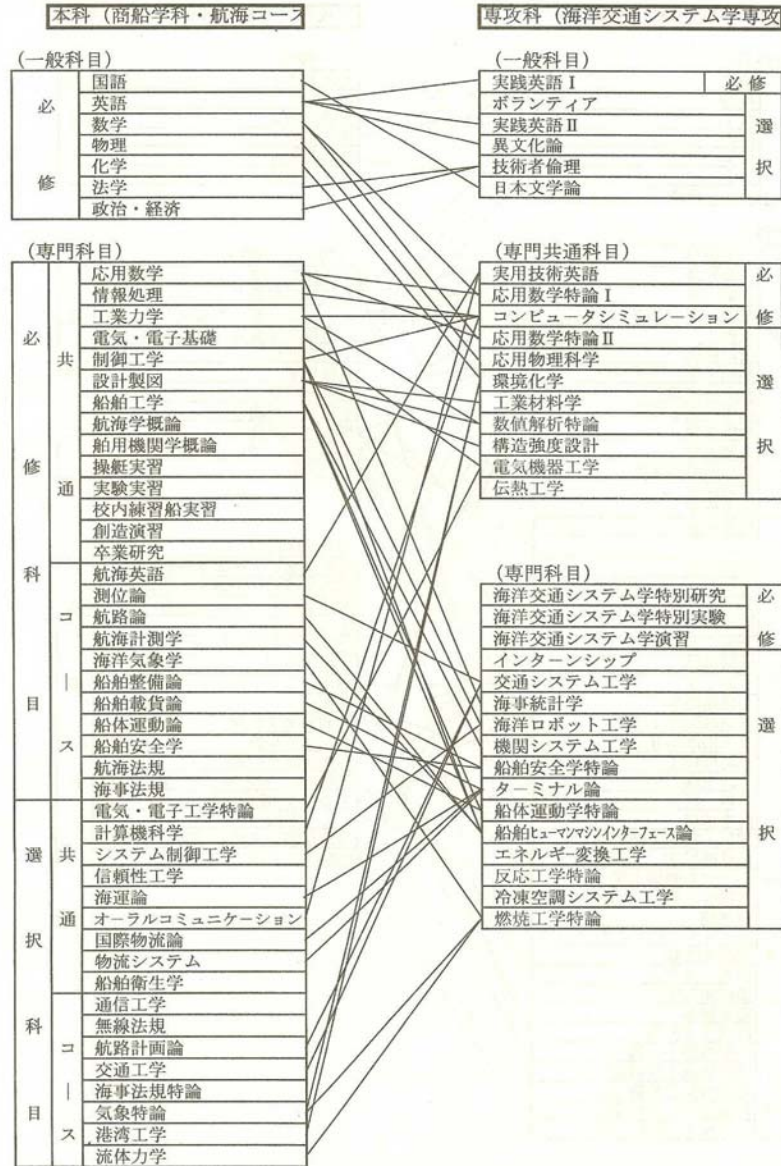
海洋交通システム学専攻および電子・情報システム工学専攻の教育課程は、準学士課程から引き続き商船学分野および工学分野(電気電子工学分野, 情報工学分野, 機械工学分野)の教育を行い、専攻科の教育目標の達成, 商船学及び工学の学士取得を目的として構成されている。(資料5-5-①-2~5)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の授業科目は、準学士課程(商船学, 工学)の授業科目との継続性および関連性を持っており、準学士課程を卒業した学生が専攻科で引き続き学修して、学士取得できるように構成されていることが分かる。(資料5-5-①-2~5)



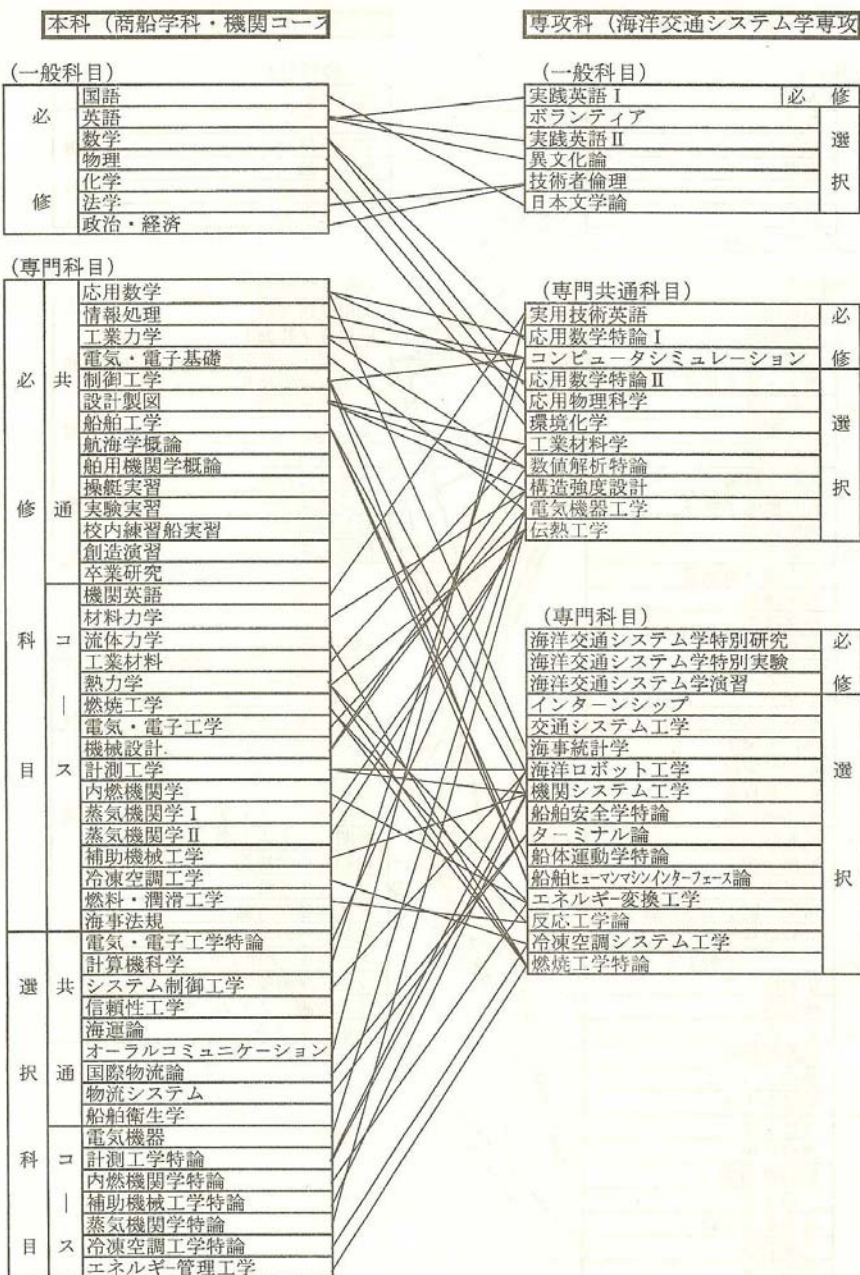
専攻科教育課程構成図(海洋交通システム学専攻と商船学科・航海コース)



※本科の実験実習、卒業研究と専攻科の海洋交通システム学特別研究、海洋交通システム学特別実験は、多くの科目に関連するので、関連の線を省略している。

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書)

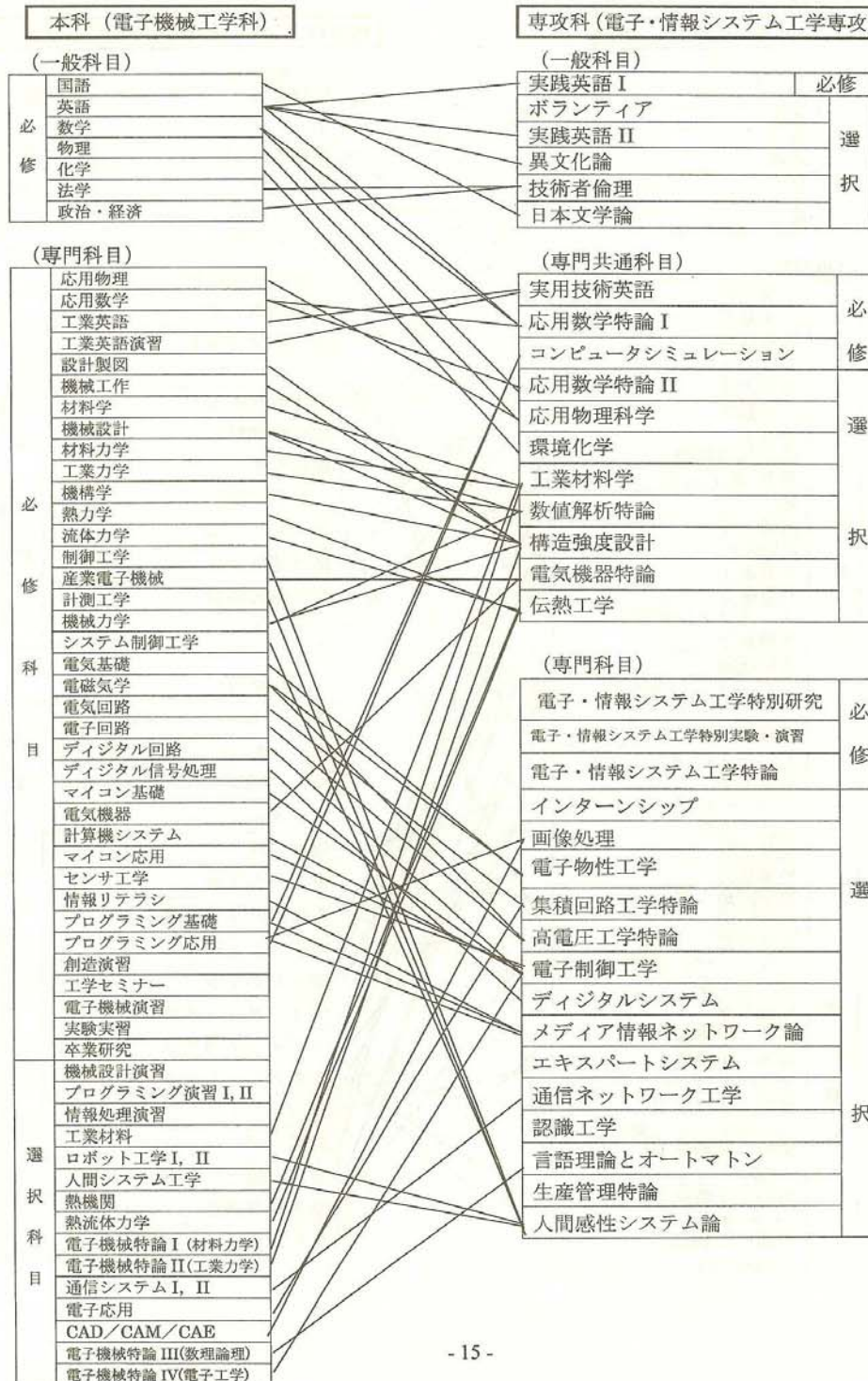
専攻科教育課程構成図(海洋交通システム学専攻と商船学科・機関コース)



※本科の実験実習、卒業研究と専攻科の海洋交通システム学特別研究、海洋交通システム学特別実験は、多くの科目に関連するので、関連の線を省略している。

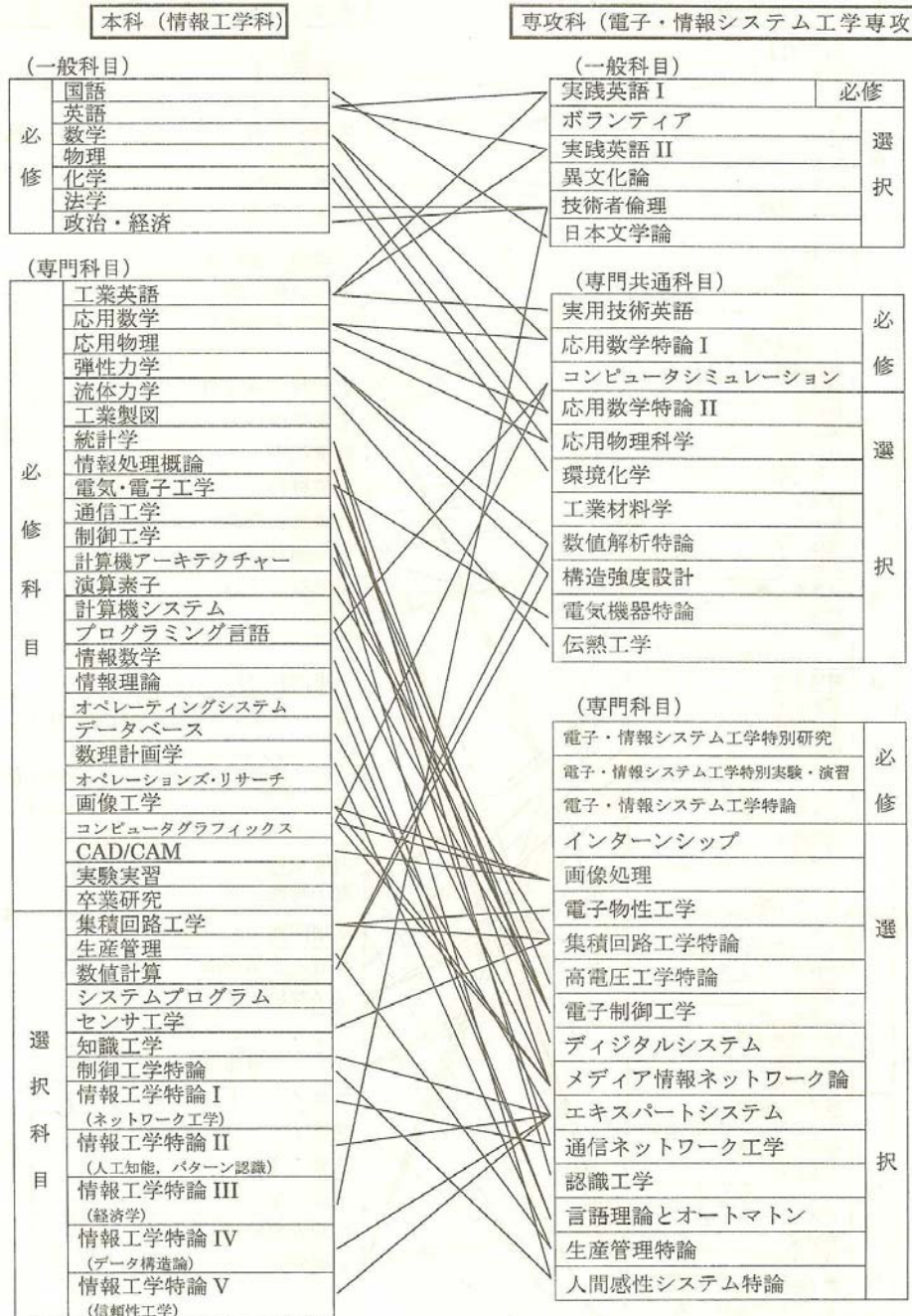
(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書)

専攻科教育課程構成図(電子・情報システム工学専攻と電子機械工学科)



(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書)

専攻科教育課程構成図(電子・情報システム工学専攻と情報工学科)



観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

専攻科では、商船学科を母体とした「海洋交通システム学専攻」と電子機械工学科及び情報工学科を母体とした「電子・情報システム工学専攻」の2専攻で専攻科が構成されており、本学教育目標（資料5-5-②-1）、専攻科における教育目標（主目標）である「優れた専門性と豊かな人間性を有する高度な海事技術者と実践的開発技術者の育成」及び2専攻共通の教育目標（副目標）である「国際化教育により、語学力や文化的教養の育成」及び「福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成」（資料5-5-②-2）を達成するために、さらには学士取得の達成を目指したカリキュラムを構成している。（資料5-5-②-3～5）

（専攻科における一般科目及び専門科目の構成について）

一般科目教育課程では、本科の教育目標（資料5-5-②-1）、専攻科の教育目標の主目標のキーワードである「豊かな人間性」及び副目標の「国際化教育により、語学力や文化的教養の育成」「福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成」（資料5-5-②-2）を達成するため以下の科目で構成している。（資料5-5-②-3）

1. 語学系（語学系養成の科目：実践英語Ⅰ，Ⅱ）
2. 人文・社会科学系（文化的素養養成のため科目：異文化論，日本文学論）
3. 社会・福祉の素養養成のための科目（技術者倫理，ボランティア）

専門科目教育課程は、専門共通科目と専門専攻科目で構成されており本学の教育目標（資料5-5-②-1）、専攻科の教育目標の主目標のキーワードである「優れた専門性」及び副目標である海洋交通システム学専攻の教育目標（副目標）の「海洋を中心とした国際物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成」、電子・情報システム工学専攻の教育目標（副目標）の「電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成」、さらに2専攻共通の教育目標（副目標）の「IT教育により、高度なコンピュータ支援能力の育成」（資料5-5-②-2）を達成するため商船学、電気電子工学、情報工学、機械工学及び一般教養科目に属する科目で構成している。（資料5-5-②-3～5）

専門共通科目では必修科目と選択科目で構成され、技術者としての基本的素養の育成を目的としている。必修科目には専攻科2専攻の共通の教育目標である「高度なコンピュータ支援能力」（資料5-5-②-2）を達成するための科目として「コンピュータシミュレーション」、技術者の素養となる「実用技術英語」、「応用数学特論Ⅰ」を設定している。（資料5-5-②-3～5）選択科目では、各専攻分野を問わず技術者としての必要な物理学および化学の素養とそれを必要とする基本的な工学的な基本知識、特に機械系の習得を目的とした科目を配置した。

専門専攻科目は、各専攻における専門性及び準学士課程の連続かつ発展性を持った科目で構成し、専攻科の教育目標及び学士取得を達成することを目指している。必修科目は、技術・研究者としての研究・開発の進め方を習得する目的となる特別研究、実験及び演習を中心とした専攻科の中核となる

科目、選択科目は技術・研究者として研究・開発時に必要となる専門知識の習得及び専攻科の教育目標の達成に必要な科目で構成されている。（資料5-5-②-3~5）

（各専攻と準学士課程と関係、カリキュラム編成について）

海洋交通システム学専攻の目指す学位は商船学，電子・情報システム工学専攻の目指す学位は電気電子工学，情報工学，機械工学となっている。専攻科では，準学士課程5年（商船学科は5年6ヶ月）と2年間の学修の結果をもって学位の取得を目指しており，専攻科の専門の授業科目は各学位（商船学，電気電子工学，情報工学，機械工学）を取得するに十分な学修すべき範囲（大学評価・学位授与機構が示す各学位分野の範囲）を網羅する科目で構成している。（資料5-5-②-6~11）

専攻科における授業科目は準学士課程を基礎とし，大学課程の内容を維持するため，シラバスにおいてその科目講義の目的，講義内容，達成目標及びその科目と本校並びに専攻科の目標との関係を定め公表している。（資料5-5-②-12）成績評価では，講義及び定期試験において学生が目標及び目的を達しているかを評価している。（資料5-5-②-13）

専攻科における科目の選択については，学生自身が受講科目履修届（資料5-5-②-14）に記入し，担当教員の署名を貰うことを求めている。これにより学生自身が専攻科のカリキュラム内容及び教育目標の理解並びに自身の学習目的を明確にしてもらうことを期待している。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科における教育課程では一般科目と専門科目に分かれ，それぞれが本校及び専攻科の教育目標を達成できるように科目が配置されている。また配置された科目の履修によって学位（学士）を申請取得できるようにも配慮されていることがわかる。またシラバスより科目の内容は講義の目的及び達成目標を明確にして公表しており，学生は講義内容が教育目標との整合性の検証を行うことが可能となっている。以上の点より，本学及び専攻科の教育目標を達成するにおいて適切である。

資料 5 - 5 - ② - 1

教育目標
Educational Objectives

- 1 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。
To train well-educated engineers with an international way of thinking.
- 2 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。
To produce cooperative engineers with leadership qualities and a strong sense of responsibility
- 3 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。
To turn out creative engineers with an inquisitive mind.

(出典：教職員用名札裏面)

資料 5 - 5 - ② - 2

1 専攻科の趣旨等

(1) 専攻科の趣旨

近年のIT化に伴う産業の急激な高度化に伴い、産業構造の変化、経営効率による生産拠点の海外への移転が起り、また、外国人船員の我が国商船（経済的支配船）への急激な増加が生じている。さらに、我が国企業の9割以上を占める中小企業のさらなる高度化による地域の活性化のため、産官学連携が進もうとしている。これら産業界に卒業生を送り込んできた本校は船舶職員としての海運技術者、ものづくりのできる実践的技術者を育成してきた。しかし、産業界からも、高度な研究開発能力を持つが、学問的な大学学部と一線を画した実践的な技術者育成を本校に求めるようになってきた。また、海運界においても、海運界存続のため、陸上においてこれら経済的支配船の船舶運航管理を行える、高度で幅広い管理能力を有する海事技術者育成を本校に求めるようになってきた。また、地域に根ざす高度な実践的開発技術者の育成は、最近の少子化傾向や経済的事情に伴う地元への就職希望と高学歴志向の増加にも応え得るものである。

本校はこれら産業界からの要請、また、学生・保護者、地域からの要請に対応すべく、現在の本科の上に、海洋交通システム学専攻と電子・情報システム工学専攻の2専攻科の設立を希望している。本校専攻科は以下に示す教育目標を掲げている。

優れた専門性と豊かな人間性を有する

高度な海事技術者と実践的開発技術者の育成

- ◎海洋を中心とした国際物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者の育成
- ◎電子・情報システムに関する高度な研究開発ができる実践的開発技術者の育成
- ◎IT教育により、高度なコンピュータ援用能力の育成
- ◎国際化教育により、語学力や文化的教養の育成
- ◎福祉と環境も考慮に入れることのできる総合力の育成

故に、本校専攻科を修了した学生が、大学評価・学位授与機構が行う学士の学位授与制度へ申請し、学士授与への途が開けるようにするため、本校専攻科の認定を申し出る。

(出典：大島商船高等専門学校専攻科認定申出書)

カリキュラム

海洋交通システム学専攻

電子・情報システム工学専攻

一般科目

- ◎語学系…海運管理者と技術者に必要な情報伝達のための会話を養成します。
- ◎人文・社会科学系…国内外の文化、事情について学びます。また、企業として必要な社会倫理や各種法律についての知識を修得します。
- ◎ボランティア…1週間程度の活動により、地域への社会貢献を行い、活動の義を学びます。

専門共通科目

- ◎語学系…英語の論文、報告書などの技術文章力を養成します。
- ◎数学・自然科学系…高度な専門専攻科目を理解するために必要な数学、物理の知識を修得します。
- ◎情報系…コンピュータシミュレーションの手法を修得します。
- ◎機械系…両専攻に共通な機械系の科目を修得します。
- ◎環境系…環境に配慮できる海運管理者と技術者になるための環境科学を修得します。
- ◎インターンシップ…1ヶ月程度の企業内実務研修を行います。

専門専攻科目

- ◎商船学系…船をシステムととらえて総合的に管理する技術を養います。
- ◎運航管理系…陸上における船舶の運航管理や貨物管理を支援する素養を学びます。
- ◎機関管理系…陸上における船舶の機関管理や危機管理の素養を学びます。
- ◎特別実験・演習…講義との相乗効果で実践力を養います。
- ◎特別研究…専攻科の中心的科目で、創造的研究開発能力を養います。

専門専攻科目

- ◎電子・制御システム系…メカトロニクスを知能化させるための電気電子系、制御システム系の専門科目を修得します。
- ◎情報・通信ネットワーク系…知能化のためと高度情報処理技術者に必要な情報系、通信ネットワーク系の専門科目を修得します。
- ◎福祉系…高齢化社会が到来している地元地域に密着し、福祉機器の研究・開発に従事できる能力を養います。
- ◎特別実験・演習…講義との相乗効果で実践力を養います。
- ◎特別研究…専攻科の中心的科目で、創造的研究開発能力を養います。

(出典：専攻科パンフレット)

4. 教育課程表および授業科目関連表

海洋交通システム学専攻

区分	必修 選択 の別	授業科目	単位数	学年別配当				講義・実 験・演習 の区別	担当者		
				1年		2年					
				秋学期	春学期	秋学期	春学期				
一般 科目	必修	実践英語 I	2	2				講義	石田		
		履修単位数	2								
	選択	ボランティア	1	1				実験	幸田		
		実践英語 II	2		2			講義	吉留		
		異文化論	2		2			講義	石田		
		技術者倫理	2	2				講義	野本、奥野		
		日本文学概論	2		2			講義	吉田		
		開設単位数	9								
		履修単位数	5	単位以上							
専門 共通 科目	必修	実用技術英語	2	2				講義	吉留		
		応用数学特論 I	2	2				講義	高田		
		コンピュータシミュレーション	2	2				講義	岩崎		
		履修単位数	6								
	選択	応用数学特論 II	2		2			講義	神田、中井		
		応用物理学	2		2			講義	佐々井		
		環境科学	2	2				講義	杉村		
		工業材料学	2		2			講義	岡本		
		数値解析特論	2		2			講義	田中		
		構造強度設計	2			2		講義	奥野		
		電気機器特論	2		2			講義	伊藤		
		伝熱工学	2			2		講義	角田		
		開設単位数	16								
		履修単位数	10	単位以上							
		専門 専攻 科目	必修	海洋交通システム学特別研究	16	2	2	6	6	実験	担当教官
				海洋交通システム学特別実験	4	2	2			実験	担当教官
海洋交通システム学特別演習	4				2	2		演習	担当教官		
履修単位数	24							実験	担当教官		
選択	インターンシップ		2		2				三原		
	交通システム工学		2	2				講義	辻		
	海事統計学		2	2				講義	藤井(英)		
	海洋ロボット工学		2			2		講義	清水		
	機関システム工学		2	2				講義	伊藤		
	船舶安全学特論		2	2				講義	古藤		
	流通ターミナル論		2			2		講義	辻		
	船体運動学特論		2				2	講義	福谷		
	船舶ヒューマンマシンインタフェース論		2	2				講義	岩崎		
	エネルギー変換工学		2		2			講義	三原		
	反応工学		2			2		講義	古本		
	冷凍空調システム工学		2				2	講義	中村(隆)		
	燃焼工学特論		2				2	講義	川原		
	開設単位数		26								
履修単位数	18	単位以上									
一般・専門科目 開設単位数合計			83								
修得単位数合計			62単位以上 (ボランティア・インターンシップを除く。)								

(出典：専攻科シラバス)

資料5-5-②-5

電子・情報システム工学専攻

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当				講義・実 験・演習 の区別	担 当 者	
				1 年		2 年				
				前 期	後 期	前 期	後 期			
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	2		2			講義	石田	
		履修単位数	2							
	選択	ボランティア	1		1			実験	幸田	
		実践英語Ⅱ	2			2		講義	吉留	
		異文化論	2	2				講義	石田	
		技術者倫理	2		2			講義	野木	
		日本文学概論	2	2				講義	吉田	
	開設単位数	9								
	履修単位数	5	単位以上							
専門共通科目	必修	実用技術英語	2		2			講義	吉留	
		応用数学特論Ⅰ	2		2			講義	高田	
		コンピュータシミュレーション	2		2			講義	岩崎	
		履修単位数	6							
	選択	応用数学特論Ⅱ	2	2				講義	神田、中井	
		応用物理学	2	2				講義	佐々井	
		環境科学	2				2	講義	杉村	
		工業材料学	2			2		講義	岡本	
		数値解析特論	2	2				講義	田中	
		構造強度設計	2		2			講義	奥野	
		電気機器特論	2			2		講義	伊藤	
		伝熱工学	2				2	講義	角田	
		開設単位数	16							
		履修単位数	10	単位以上						
専門科目	必修	電子・情報システム工学特別研究	16	2	2	6	6	実験	担当教官	
		電子・情報システム工学特別実験	4	2	2			実験	担当教官	
		電子・情報システム工学特別演習	2		2			演習	担当教官	
		電子・情報システム工学特論	2			2		講義	専攻科長	
		履修単位数	24							
	専門専攻科目	インターンシップ	2	2					実験	専攻科長
		画像処理	2				2		講義	杉野
		電子物性工学	2	2					講義	増山
		集積回路工学特論	2	2					講義	比嘉
		高電圧工学特論	2				2		講義	藤井
		電子制御工学	2	2					講義	岡野内
		デジタルシステム	2		2				講義	石光
		メディア情報ネットワーク論	2	2					講義	松田
		エキスパートシステム	2		2				講義	松井
		通信ネットワーク工学	2	2					講義	塩田
		認識工学	2				2		講義	岡村
		言語理論とオートマトン	2		2				講義	山中
		生産管理特論	2		2				講義	石原
		人間感性システム特論	2				2		講義	櫛田
			開設単位数	28						
		履修単位数	18	単位以上						
一般・専門科目開設単位数合計			85							
修得単位数合計			62単位以上（ボランティア・インターンシップを含まない。）							

(出典：専攻科シラバス)

海洋交通システム学専攻モデルコース(商船学科卒業生対象, 商船学コース)
表-1

専攻科目(40単位以上) A群(30単位以上, 2区分以上 にわたること)	本科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
商船学に関する総合的な科目	船舶工学	1	交通システム工学	2
	海運論	1	船舶安全学特論	2
	交通工学(航海コース)	2		
航海学に関する科目	測位論(航海コース)	2	海事統計学	2
	航路論(航海コース)	3	流通ターミナル論	2
	航海計測学(航海コース)	4	船舶ヒューマンマシンインターフェイス論	2
	船舶整備論(航海コース)	2		
	船舶載貨論(航海コース)	3		
	船舶運動論(航海コース)	4		
	船舶安全学(航海コース)	3		
	海事法規(航海コース)	3		
	海事法規(機関コース)	1		
	物流システム	2		
	船舶衛生学	2		
	国際物流論	1		
	無線法規(航海コース)	1		
気象特論(航海コース)	2			
航路計画論(航海コース)	1			
海事法規特論(航海コース)	1			
機関学に関する科目	制御工学	2	工業材料学	2
	電気・電子工学特論	1	数値解析特論	2
	システム制御工学	1	構造強度設計	2
	流体力学	2	電気機器特論	2
	造船工学(航海コース)	2	伝熱工学	2
	材料力学(機関コース)	4	海洋ロボット工学	2
	工業材料(機関コース)	1	機関システム工学	2
	燃焼工学(機関コース)	1	船舶運動学特論	2
	電気・電子工学(機関コース)	4	エネルギー変換工学	2
	機械設計(機関コース)	3	反応工学	2
	計測工学(機関コース)	2	冷凍空調システム工学	2
	内燃機関学(機関コース)	1	燃焼工学特論	2
	蒸気機関学 II(機関コース)	3		
	補助機械工学(機関コース)	1		
	冷凍・空調工学(機関コース)	1		
	燃料・潤滑工学(機関コース)	1		
	計測工学特論(機関コース)	2		
	冷凍空調工学特論(機関コース)	2		
	電気機器(機関コース)	1		
	補助機械工学特論(機関コース)	1		
	蒸気機関学特論(機関コース)	1		
	内燃機関学特論(機関コース)	1		
	エネルギー管理工学(機関コース)	1		
開設科目単位 合計	コース別選択により取得単位数は変わる。		80	34
B群(6単位以上) 商船学に関する実験・ 実習科目	実験実習	3	海洋交通システム学特別実験	4
	校内実習船実習	1	海洋交通システム学特別演習	4
	創造演習	1		
小計		5		8
開設科目単位 合計	卒業研究(4単位)を含む 航海コースと機関コースを全て含ん でいるので注意する。		89	海洋交通システム学特別実験 (16単位を含む) 58

専門関連科目(4単位以上)	学科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
工学の基礎となる科目 工学及び周辺技術等に関する 科目	応用数学	2	実用技術英語(必修)	2
	計算機科学	1	応用数学特論 I(必修)	2
	信頼性工学	1	コンピュータシミュレーション	2
			応用数学特論 II	2
		応用物理科学	2	
		環境科学	2	
開設科目単位 合計		4		12

専攻外に係る単位以外の科目	学科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
一般科目	オーラルコミュニケーション	1	実践英語 I(必修)	2
	現代英語	2	実践英語 II	2
	保健体育	3	技術者倫理	2
	法学	1	異文化論	2
	哲学	1	日本文学論	2
	一般科目選択(4年生開設科目)	2		
	一般科目選択(5年生開設科目)	2		
	開設科目単位 合計	12		

(出典：学修計画書(平成 19 年度版))

取得単位計算例(下記の単位数は例です。自分の取得した科目・単位数で必ず確認すること。)

取得単位数		学科(4, 5年)で修得した 単位数例	基礎資格該当後に修得した単位 専攻科の単位数例	単位合計
専攻に係 る単位	専門科目の単位	41	44	85
	専攻関連科目の単位	4	10	14
	計	45	54(31単位以上)	99
専攻外科目の単位		12	8	20
修得単位の合計		57	62(62単位以上)	119
専攻関連と専攻外との合計		16	18	34(24単位以上)

◎本科卒業研究と専攻科特別研究は研究分野に近い科目群(A群)に分類する。

◎インターンシップ(2単位)およびボランティア(1単位)除く。

電子・情報システム工学専攻モデルコース(電子機械工学科卒業生対象、電気電子工学コース)

表-2

専攻科目(40単位以上) A群(30単位以上)	学科(4, 5年)		専攻科		
	科目	単位	科目	単位	
電気電子工学の基礎となる科目 (4単位以上)	計測工学	2	人間感性システム特論	2	
	電磁気学	2			
	システム制御工学	2			
	電子機械特論Ⅲ(電子物性)	1			
電気工学に関する科目	電気機器	1	電気機器特論	2	
	制御工学	2	高電圧工学特論	2	
電子工学に関する科目	産業電子機械	1	電子制御工学	2	
	デジタル回路	2	電子物性工学	2	
	マイコン基礎	2	集積回路工学特論	2	
	マイコン応用	2			
	超伝導工学	1			
	電子応用	1			
	ロボット工学Ⅰ	1			
	ロボット工学Ⅱ	1			
情報通信工学に関する科目	知能情報工学	2	コンピュータシミュレーション(必修)	2	
	デジタル信号処理	2	デジタルシステム	2	
	計算機システム	2	メディア情報ネットワーク論	2	
	センサ画像工学	2	エキスパートシステム	2	
	通信システム	1	通信ネットワーク工学	2	
	デジタル画像処理	1	認識工学	2	
	デザイン応用(CAD)	1	言語理論とオートマトン	2	
			画像処理	2	
		数値解析特論	2		
開設科目単位 合計		32		30	
B群(6単位以上) 電気電子工学に関する実験 実習科目	工学セミナー	1	電子・情報システム工学特別実験	4	
	電子機械演習	2	電子・情報システム工学特別演習	2	
	情報処理演習	1			
	実験実習	2			
小計		6		6	
合計	卒業研究(8単位)を含む		46	電子・情報システム工学特別実験 (16単位)を含む	52

専門関連科目(4単位以上)	学科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
工学の基礎となる科目	応用物理	2	実用技術英語(必修)	2
	応用数学	2	応用数学特論Ⅰ(必修)	2
工学及び周辺技術等に関する 科目	工業英語	2	応用数学特論Ⅱ	2
	材料力学	2	応用物理科学	2
	機構学	2	環境科学	2
	熱流体力学	2	生産管理特論	2
	機械力学	1		
開設科目単位 合計		13		12

専攻外に係る単位以外の科目	学科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
一般科目	法学	1	実践英語Ⅰ(必修)	2
	哲学	1	実践英語Ⅱ	2
	保健体育	4	技術者倫理	2
	現代英語	2	異文化論	2
	第2外国語	4	日本文学論	2
	一般科目選択	2		
開設科目単位 合計		14		12

取得単位計算例(下記の単位数は例です。自分の取得した科目・単位数で必ず確認すること。)

修得単位数	学科(4, 5年)で修得した 単位例		基礎資格該当後に修得した単位 専攻科の単位例		単位合計
	専攻に係る単位	専攻外に係る単位	専攻に係る単位	専攻外に係る単位	
専攻に係る単位	44	13	44	10	88
計	57		54(31単位以上)		111
専攻外科目の単位		13		8	21
修得単位の合計		70		62(62単位以上)	132
専攻関連と専攻外との合計		26		18	44(24単位以上)

◎本科卒業研究と専攻科特別研究は研究分野に近い科目群(A群)に分類する。

◎インターンシップ(2単位)およびボランティア(1単位)を除く。

資料 5 - 5 - ② - 8

電子・情報システム工学専攻モデルコース(電子機械工学科卒業生対象, 機械工学コース)

表-3

専攻科目(40単位以上) A 群(30 単位以上)	学科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
機械材料・材料力学に関する科目	材料力学	2	工業材料学	2
	工業材料	1	数値解析特論	2
	電子機械特論 I(材料力学)	1		
機械工作・生産工学に関する科目	デザイン応用(CAD)	1		
設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目	機構学	2	構造強度設計	2
流体工学に関する科目	熱流体力学	2		
熱工学に関する科目	熱機関	1	伝熱工学	2
機械力学・制御に関する科目	制御工学	2	電子制御工学	2
	計測工学	2	人間感性システム特論	2
	機械力学	1		
	電子機械特論 II(振動)	1		
知能機械学・機械システムに関する科目	産業電子機械	1	コンピュータシミュレーション	2
	知能情報工学	2	ディジタルシステム	2
	ディジタル回路	2	エキスパートシステム	2
	ディジタル信号処理	2	認識工学	2
	マイコン基礎	2	言語理論とオートマトン	2
	マイコン応用	2	電子物性工学	2
	計算機システム	2	集積回路工学特論	2
	センサ画像工学	2	高電圧工学特論	2
	電気機関	1	メディア情報ネットワーク論	2
	超伝導工学	1	情報ネットワーク工学	2
	電子応用	1	電気機器特論	2
	ロボット工学 I, II	2		
	通信システム	1		
ディジタル画像処理	1			
電子機械特論 III(電子物性)	1			
開設科目単位 計		39	4区分以上にわたること	34
B 群(6 単位以上) 機械工学に関する実験実習科目	工学セミナー	1	電子・情報システム工学特別実験	4
	実験実習	2	電子・情報システム工学特別演習	2
	機械設計演習	1		
	電子機械工学演習	2		
小計		6		6
合計	卒業研究(8単位)を含む	53	電子・情報システム工学特別実験(16単位)を含む	56

専門関連科目	学科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
工学の基礎となる科目	電磁気学 II	2	実用技術英語(必修)	2
	応用物理	2	応用数学特論 I(必修)	2
工学及び周辺技術等に関する科目	応用数学	2	応用数学特論 II	2
	工業英語	2	応用物理科学	2
			環境化学	2
合計		8	生産管理特論	2

専攻科に係る単位以外の科目	学科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
一般科目	法学	1	実践英語 I(必修)	2
	哲学	1	実践英語 II	2
	保健体育	4	異文化論	2
	現代英語	2	企業法務	2
	第2外国語	4	日本文学論	2
	一般科目選択	2		
	合計		14	

取得単位計算例(下記の単位数は例です。自分の取得した科目・単位数で必ず確認すること。)

専攻に係る単位	専攻に係る単位以外の単位	取得した単位		単位合計
		学科(4, 5年)で修得した単位例	基礎資格該当後に修得した専攻科の単位例	
専門科目の単位		49	44	93
専門関連科目の単位		8	10	18
計		57	54(31単位以上)	111
専攻に係る単位以外の単位	14		8	22
修得単位の合計	71		62(62単位以上)	133
専門関連と専門外との合計	22		18	40(24単位以上)

◎本科卒業研究と専攻科特別研究は研究分野に近い科目群(A 群)に分類する。

◎インターンシップ(2 単位)およびボランティア(1 単位)を除く。

電子・情報システム工学専攻モデルコース(電子機械工学科卒業生対象、情報工学コース)

表-4

専攻科目(40単位以上) A群(30単位以上)	学科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
情報工学基礎に関連する科目 (4単位以上)	知能情報工学	2	言語理論とオートマトン	2
計算機システムに関連する科目 (4単位以上)	デジタル回路	2	デジタルシステム	2
	マイコン基礎	2		
	マイコン応用	2		
	計算機システム	2		
情報処理に関連する科目 (4単位以上)	デジタル信号処理	2	エキスパートシステム	2
	センサ画像工学	2	メディア情報ネットワーク論	2
	デジタル画像処理	1	コンピュータシミュレーション(必修)	2
	数値解析	1	認識工学	2
	ロボット工学Ⅰ	1	人間感性システム特論	2
	ロボット工学Ⅱ	1	数値解析特論	2
			画像処理	2
電気電子・通信・システムに関する科目	制御工学	2	集積回路工学特論	2
	産業電子機械	1	通信ネットワーク工学	2
	計測工学	2	電子制御工学	2
	電磁気学Ⅱ	2	電子物性工学	2
	システム制御工学	1	高電圧工学特論	2
	電気機器	1	電気機器特論	2
	通信システム	1		
	デザイン応用	1		
	電子応用	1		
	電子機械特論Ⅲ(電子物性)	1		
開設科目単位 計		32		30
B群(6単位以上) 情報工学に関する実験実習 科目	工学セミナー	1	電子・情報システム工学特別実験	4
	情報処理演習	1	電子・情報システム工学特別演習	2
	実験実習	2		
小計		4		6
合計	卒業研究(8単位)を含む	44	電子・情報システム工学特別実験 (16単位)を含む	52

専門関連科目(4単位以上)	学科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
工学の基礎となる科目	応用物理	2	実用技術英語(必修)	2
	応用数学	2	応用数学特論Ⅰ(必修)	2
工学及び周辺技術等に関する 科目	工業英語	2	応用数学特論Ⅱ	2
	材料力学	2	応用物理科学	2
	機構学	2	環境科学	2
	熱流体力学	2	生産管理特論	2
	機械力学	1		
合計		13		12

専攻科に係る単位以外の科目	学科(4, 5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
一般科目	法学	1	実践英語Ⅰ(必修)	2
	哲学	1	実践英語Ⅱ	2
	保健体育	4	異文化論	2
	現代英語	2	日本文学論	2
	第2外国語	4	技術者倫理	2
	一般科目選択	2		
合計		14		10

取得単位計算例(下記の単位数は例です。自分の取得した科目・単位数で必ず確認すること。)

修得単位数	学科(4, 5年)		基礎資格該当後に修得した単位 専攻科の単位例	単位合計
	専攻科の単位例	単位例		
専攻に係る単位	専門科目の単位	44	44	88
	専攻関連科目の単位	13	10	23
	計	57	54(31単位以上)	111
専攻外科目の単位	14	8		22
修得単位の合計	71	62(62単位以上)		133
専門関連と専門外との合計	27	18		45(24単位以上)

◎本科卒業研究と専攻科特別研究は研究分野に近い科目群(A群)に分類する。

◎インターンシップ(2単位)およびボランティア(1単位)除く。

電子・情報システム工学専攻モデルコース(情報工学科卒業生対象, 情報工学コース)

表-5

専攻科目(40単位以上) A群(30単位以上)	学科(4,5年)		専攻科		
	科目	単位	科目	単位	
情報工学基礎に関連する科目 (4単位以上)	情報理論	2	言語理論とオートマトン	2	
	数値計画法	2			
	オペレーションズリサーチ	2			
	データ構造とアルゴリズム	2			
	情報工学特論Ⅲ(データ構造論)	1			
計算機システムに関連する科目 (4単位以上)	計算機アーキテクチャⅡ	2	デジタルシステム	2	
	ネットワークアーキテクチャ	2			
	オペレーティングシステム	2			
	データベース	2			
	システムプログラム	2			
情報処理に関連する科目 (4単位以上)	ソフトウェア工学	2	エキスパートシステム メディア情報ネットワーク論 コンピュータシミュレーション(必修) 認識工学 人間システム工学特論 画像処理 数値解析特論	2 2 2 2 2 2 2	
	信号処理	2			
	コンピュータグラフィックス	2			
	数値計算	2			
	コンピュータ解析法	2			
	パターン認識	2			
	CAD/CAM	2			
	情報工学特論Ⅰ(数値計算)	1			
電気電子・情報・システムに関する科目	デジタル電子回路	2	集積回路工学特論 通信ネットワーク工学 電子制御工学 電子物性工学 高電圧工学特論 電気機器特論	2 2 2 2 2 2	
	通信工学	2			
	制御工学	2			
	情報ネットワーク	2			
	制御システム工学	2			
	デジタル・アナログ集積回路	2			
	開設科目単位計	46			
B群(6単位以上) 情報工学に関する実験実習科目	実験実習	2	電子・情報システム工学特別実験 電子・情報システム工学特別演習	4 2	
	情報工学演習	2			
	創造演習	1			
小計	5		6		
合計	卒業研究(8単位)を含む		51	電子・情報システム工学特別実験(16単位)を含む	54

専門関連科目(4単位以上)	学科(4,5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
工学の基礎となる科目 工学及び周辺技術等に関する科目	応用数学Ⅰ	2	実用技術英語(必修) 応用数学特論Ⅰ(必修) 応用数学特論Ⅱ 応用物理学 環境科学 生産管理特論	2 2 2 2 2 2
	応用数学Ⅱ	2		
	応用物理Ⅱ(生産管理との選択)	2		
	工業英語	2		
	生産管理(応用物理Ⅱとの選択)	2		
	信頼性工学	2		
	情報工学特論Ⅱ(経済学)	1		
	合計	13		

専攻科に係る単位以外の科目	学科(4,5年)		専攻科	
	科目	単位	科目	単位
一般科目	法学	1	実践英語Ⅰ(必修) 実践英語Ⅱ 異文化論 日本文学論 技術者倫理	2 2 2 2 2
	哲学	1		
	保健体育	4		
	現代英語	2		
	第2外国語	4		
	一般科目選択	2		
	合計	14		

取得単位計算例(下記の単位数は例です。自分の取得した科目・単位数で必ず確認すること。)

取得単位数	学科(4,5年)で修得した単位例		基礎資格該当後に修得した単位例		単位合計
	専攻科の単位例	専門科目の単位例	専攻科の単位例	専門科目の単位例	
専攻に係る単位	専攻科目の単位	48	44		92
	専門関連科目の単位	8	10		18
	計	56	54(31単位以上)		110
専攻外科目の単位		14	8		22
修得単位の合計		70	62(62単位以上)		132
専門関連と専門外との合計		22	18		40(24単位以上)

◎本科卒業研究と専攻科特別研究は研究分野に近い科目群(A群)に分類する。

◎インターンシップ(2単位)およびボランティア(1単位)除く。

資料 5 - 5 - ② - 1 2

授業科目名		教員名	所属	開講年次			
応用物理科学 (Applied Physical Science)		上月 陽 一	電子・情報システム工学専攻	1年次 前期 春期	1年次 後期 秋期	2年次 前期 春期	2年次 後期 秋期
科目区分	必選の区分	単位数	71577- 場所		連絡先		
専門共通科目	選択	2	水曜 16:20~17:15 物理準備室(213号室)		部屋, 電子メールアドレス, 電話等		
授業目的	我々の身近にあるハイテク製品は、半導体、磁性体、電磁波などに関する基礎理論とそれを応用発展させた先端技術に基づいている。半導体技術には、ミクロな世界における電子の運動を記述する量子力学が必要であり、電子集団の関わる物質の性質を理解するためには統計力学が必要である。また、情報科学における最先端分野である量子コンピュータは量子力学及び統計力学との密接な関わりを持つ。本講義では、先端技術の開発に必要な量子力学と統計力学(量子統計力学)の基礎知識の習得とその应用能力を養うことを目的としている。						
授業内容 授業計画	<p>科目の位置付け、教育内容・方法</p> <p>本講義は工業系学科の応用物理と電磁気学に基づくものであるが、商船学科出身者にとっても先端技術を支える量子力学と統計力学に触れる機会となる。本講義では、基礎として量子力学と統計力学の基本概念や法則を講義し、応用として量子物性のトピックスを紹介する。毎回の授業ではレポート問題を配付し、学生はこの問題を解くことにより知識の定着を図る。</p> <p><u>授業計画</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量子力学の誕生(熱放射) 2. 量子力学の誕生(光電効果) 3. 量子力学の誕生(ボーアの量子条件) 4. 量子力学の考え方(波動関数、ハイゼンベルグの不確定性原理) 5. 量子力学の考え方(ハミルトニアン) 6. シュレディンガー方程式 7. 固有関数と固有値(井戸型ポテンシャル) 8. 水素原子 9. スピンとパウリの排他律 10. 統計力学の基本的考え方 11. エントロピーとは何か? 12. 分配関数と自由エネルギー 13. 2準位系の統計力学 14. フェルミ統計と半導体 15. 量子物性トピックス <p>ただし、スケジュールは目安であるので、理解状況によって授業進度を調節する。</p> <p><u>達成目標</u></p> <p>量子力学と統計力学の基礎知識の習得とその应用能力を養う。また、量子物性の基礎について理解できる能力を獲得する。</p>						
テキスト 参考文献	星野公三, 岩松雅夫: 量子力学・統計力学入門, 裳華房; プリント配布 トランスナショナル カレッジ オブ レックス編: 量子力学の冒険, ヒッポファミリークラブ						
成績評価 の基準	中間試験 35 点, 期末試験 35 点, レポート 30 点の重みで合計して評価する。						
履修上の 注意と履 修要件	毎回のレポート問題に取り組み、取り扱った授業内容を確実に自家菜籠中の物としてもらいたい。						
本校教育目標との対応 : (1) - a, c 専攻科の教育目標との対応 : (2) - a, b, c							

(出典: 専攻科シラバス)

大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大島商船高等専門学校学則第39条及び第41条の規定に基づき、大島商船高等専門学校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定める。

(単位の計算方法)

第2条 授業の1単位時間は、標準50分とし、単位制とする。

2 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び特別研究については、45時間の授業をもって1単位とする。

(履修方法)

第3条 専攻科に開設する授業科目の履修に当たっては、各学年当初に「受講科目履修届」（別様式第1号様式）を所定の期日までに専攻科主任を経由して専攻科長へ提出しなければならない。

(指導教官)

第4条 専攻科の学生は、各専攻の指導教官から授業科目の履修及び特別研究の指導を受けるものとする。

2 特別研究の指導については、専攻科委員会の承認を得て教育研究分野に関連のある他専攻の指導教官の指導を受けることができるものとする。

(試験)

第5条 専攻科の試験は、定期試験及び追試験（以下「定期試験等」という。）とする。

2 定期試験は、各学期末に実施する。

3 追試験は、次の各号の一つに該当する者のうち、「追試験受験願」（別様式第2号様式）を所定の期日までに専攻科主任を経由して専攻科長へ提出し、校長の許可を得た者に対し実施する。

- (1) 伝染病及び流行性疾患に罹患し受験できなかった者で、医師の診断書を添え欠席届を提出した場合
- (2) 忌引
- (3) その他やむを得ない事由があると校長が認めた場合

(成績の評価)

第6条 授業科目の評価は、科目ごとの試験の成績及び出席状況並びに平素の学習状況を総合して行うものとする。

2 成績の評価は、優、良、可及び不可の評語をもってし、次の評点区分による。

優	100点～80点
良	79点～66点
可	65点～60点
不可	59点以下

3 特別研究は、優、良、可及び不可をもって評価する。

第7条 各授業科目とも欠課時数が1単位当り3時間（授業時数の5分の1）を超えるものに対しては、成績の評価は原則として「不可」とする。

(単位の認定)

第8条 第6条の規定に基づき、優、良及び可に評価された授業科目については、当該科目を修得したものと単位を認定する。

資料 5 - 5 - ② - 1 3 (続き)

(再履修)

第 9 条 第 6 条第 2 項及び第 3 項の規定に基づき不可に評価された授業科目については、次年度において再履修することができる。

2 再履修する場合は、「再履修願」(別様式第 3 号様式)を所定の期日までに、専攻科主任を経由して専攻科長へ提出しなければならない。

(修了の要件)

第 1 0 条 専攻科の修了は、学則第 3 9 条に規定するもののほか、次表に掲げる修了に必要な単位数を修得しなければならない

科目	必修科目			選択科目			合 計
	一般科目	専門共通科目	専門専攻科目	一般科目	専門共通科目	専門専攻科目	
専攻 海洋交通システム 学専攻	2 単位	6 単位	2 4 単位	4 単位以上	1 0 単位以上	1 6 単位以上	6 2 単位以上
電子・情報システ ム工学専攻	2 単位	6 単位	2 4 単位	4 単位以上	1 0 単位以上	1 6 単位以上	6 2 単位以上

(他の教育施設等で履修した単位認定)

第 1 1 条 大学及び他の高等専門学校の専攻科等(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可を受けた上で「大学等受講届」(別様式第 4 号様式)を添付して専攻科主任を経由し、専攻科長へ提出しなければならない。

2 前項で修得した単位は、一般科目及び専門科目の合計 1 2 単位を超えない範囲で専攻科の履修とみなし、その単位を認定することができる。ただし、一般科目の単位は 2 単位を上限とし、専門科目の単位は 1 0 単位を上限とする。

3 単位の認定は「修得単位認定願」(別紙様式 5 号様式)を専攻科主任を経由して専攻科長に提出し、専攻科委員会に付すものとする。

(雑則)

第 1 2 条 この規則に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関して必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成 1 7 年 4 月 1 日から施行する。

資料5-5-②-14

別紙第1号様式(第3条関係)

				申請日 平成 19 年 9 月						
受講科目履修届										
電子・情報システム工学専攻 / 年										
氏名 _____										
区分	必修 選択 の別	授 業 科 目	単 位 数	受 講 (○印)	学 年 別 配 当					
					1 年		2 年			
					前 期	後 期	前 期	後 期		
科目教員氏名 (担当教員本人の署名)										
一般科目	必修	実用英語 I	2	○		2				
	選択	ボランティア	1	○		1				
		実践英語 II	2	○			2			
		異文化論	2							
		技術者倫理	2	○		2				
		日本文学概論	2	○	2					
専門共通科目	必修	実用技術英語	2	○		2				
	選択	応用数学特論 I	2	○		2				
		コンピュータシミュレーション	2	○		2				
		応用数学特論 II	2	○	2					
		応用物理科学	2	○	2					
		環境科学	2	○				2		
		工業材料科学	2							
		数値解析特論	2	○	2					
		構造強度設計	2							
		電気機器特論	2	○			2			
		伝熱工学	2							
		専門科目	必修	電子・情報システム工学特別研究	16	○	2	2	6	6
			選択	電子・情報システム工学特別演習	4	○	2	2		
				電子・情報システム工学特別演習	2	○		2		
電子・情報システム工学特論	2			○	2					
インターンシップ	2			○	2					
画像処理	2			○			2			
電子物性工学	2									
集積回路工学特論	2									
高電圧工学特論	2									
電子制御工学	2			○	2					
メディア情報ネットワーク論	2			○	2					
デジタルシステム	2									
エキスパートシステム	2			○		2				
通信ネットワーク工学	2			○	2					
認識工学	2			○			2			
言語理論とオートマトン	2			○		2				
生産管理	2			○		2				
人間感性システム特論	2									
一般科目・専門科目合計			85		22	23	19	8		
受講する箇半位数を記入してください。										

注 1. 受講する科目に○印を付け、該当する学年欄に単位数を記入してください
 2. 科目教員氏名の欄は、担当する教員本人に署名をもらうこと。
 3. 特別実験、特別演習、特論及びインターンシップは専攻科長の署名をもらうこと。
 4. この届けは、提出期限内に学生課教務係まで提出してください。

(出典：専攻科履修届)

観点5-5-③： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

専攻科では，専攻科の正規の教育課程とは別に他の高等教育機関で履修した科目を専攻科の修了単位と認める制度，インターンシップ，ボランティアを正規のカリキュラムに組み込み，実績内容を専攻科委員会で審議して修了単位とする制度を定めている。（資料5-5-③-1～3）

（分析結果とその根拠理由）

他の高等教育機関での履修単位の専攻科の修了単位認定については，社会人入学した学生で実際に行われている。（資料5-5-③-2）またインターンシップについては，山口県経営者協会の仲介でインターンシップを実施，その報告書を専攻科委員会で審議して単位化している。（資料5-5-③-3，4）ボランティアについては，カリキュラム内に組み込み，専攻科2年間で学生自身が行ったボランティアの自己申告書を専攻科委員会で審議して専攻科の修了単位としている。（資料5-5-③-5）

以上の分析結果より，専攻科においてインターンシップやボランティアなど講義以外の単位の認定が実施されていることが分かる。

大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大島商船高等専門学校学則第39条及び第41条の規定に基づき、大島商船高等専門学校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定める。

(単位の計算方法)

- 第2条 授業の1単位時間は、標準50分とし、単位制とする。
- 2 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。
- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 実験、実習及び特別研究については、45時間の授業をもって1単位とする。

(履修方法)

第3条 専攻科に開設する授業科目の履修に当たっては、各学年当初に「受講科目履修届」（別様式第1号様式）を所定の期日までに専攻科主任を経由して専攻科長へ提出しなければならない。

(指導教官)

- 第4条 専攻科の学生は、各専攻の指導教官から授業科目の履修及び特別研究の指導を受けるものとする。
- 2 特別研究の指導については、専攻科委員会の承認を得て教育研究分野に関連のある他専攻の指導教官の指導を受けることができるものとする。

(試験)

- 第5条 専攻科の試験は、定期試験及び追試験（以下「定期試験等」という。）とする。
- 2 定期試験は、各学期末に実施する。
- 3 追試験は、次の各号の一つに該当する者のうち、「追試験受験願」（別様式第2号様式）を所定の期日までに専攻科主任を経由して専攻科長へ提出し、校長の許可を得た者に対し実施する。
- (1) 伝染病及び流行性疾患に罹患し受験できなかった者で、医師の診断書を添え欠席届を提出した場合
 - (2) 忌引
 - (3) その他やむを得ない事由があると校長が認めた場合

(成績の評価)

- 第6条 授業科目の評価は、科目ごとの試験の成績及び出席状況並びに平素の学習状況を総合して行うものとする。
- 2 成績の評価は、優、良、可及び不可の評語をもってし、次の評点区分による。
- | | |
|----|----------|
| 優 | 100点～80点 |
| 良 | 79点～66点 |
| 可 | 65点～60点 |
| 不可 | 59点以下 |
- 3 特別研究は、優、良、可及び不可をもって評価する。

第7条 各授業科目とも欠課時数が1単位当り3時間（授業時数の5分の1）を超えるものに対しては、成績の評価は原則として「不可」とする。

(単位の認定)

第8条 第6条の規定に基づき、優、良及び可に評価された授業科目については、当該科目を修得したもとして単位を認定する。

資料 5 - 5 - ③ - 1 (続き)

(再履修)

第 9 条 第 6 条第 2 項及び第 3 項の規定に基づき不可に評価された授業科目については、次年度において再履修することができる。

2 再履修する場合は、「再履修願」(別様式第 3 号様式)を所定の期日までに、専攻科主任を経由して専攻科長へ提出しなければならない。

(修了の要件)

第 10 条 専攻科の修了は、学則第 39 条に規定するもののほか、次表に掲げる修了に必要な単位数を修得しなければならない

専攻	必修科目			選択科目			合 計
	一般科目	専門共通科目	専門専攻科目	一般科目	専門共通科目	専門専攻科目	
海洋交通システム学専攻	2 単位	6 単位	24 単位	4 単位以上	10 単位以上	16 単位以上	62 単位以上
電子・情報システム工学専攻	2 単位	6 単位	24 単位	4 単位以上	10 単位以上	16 単位以上	62 単位以上

(他の教育施設等で履修した単位認定)

第 11 条 大学及び他の高等専門学校の専攻科等(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可を受けた上で「大学等受講届」(別様式第 4 号様式)を添付して専攻科主任を経由し、専攻科長へ提出しなければならない。

2 前項で修得した単位は、一般科目及び専門科目の合計 12 単位を超えない範囲で専攻科の履修とみなし、その単位を認定することができる。ただし、一般科目の単位は 2 単位を上限とし、専門科目の単位は 10 単位を上限とする。

3 単位の認定は「修得単位認定願」(別紙様式 5 号様式)を専攻科主任を経由して専攻科長に提出し、専攻科委員会に付すものとする。






(雑則)

第 12 条 この規則に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関して必要な事項は別に定める。


附 則

この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

資料 5 - 5 - ③ - 2

教務主事	学生課長	教務係長	教務係	記録(専門員)
				

専攻科委員会議事要旨

1. 日時 平成17年9月9日(金) 16:00~17:00
2. 場所 会議室
3. 出席者 専攻科長・教務主事(田中) 専攻科主任(福谷 松田 松井)
 学科委員(S岩崎 M増山 I比嘉 C吉留)
 問題作成(三原 辻 古藤 角田 宮奥)
 学生課長(出川) 教務係長(吉村) 専門員(金元)
 欠席者 学科委員(I比嘉)
 問題作成(川原) 

4. 議事

1. 海洋交通システム学専攻(K1・K2)の入学試験について
 - ・別紙、実施要項により審議し各科目の検査官を別紙のとおり決定した。
 - ・各科目の学力検査問題について確認し、英語の問題について1個所修正をした。

2. 修得単位認定について

- ・電子・情報システム工学専攻科生1年 から提出された「修得単位認定願」について、別紙資料により本校の専攻科対応科目について審議した。
- 別紙資料に記載の対応科目について、専攻科の幹事(比嘉先生)から各科目担当教員に確認をとり単位認定をすることになった。

- ・今後の単位認定については、各専攻の幹事(K専攻 岩崎先生 D専攻 比嘉先生)が、本人から受理した「修得単位認定願」について、本校の専攻科対応科目の教員に確認、了承を得た結果を専攻科委員会に報告し認定する。(本校の単位認定の方針)

3. 「休学願」の書式について

- ・別紙により審議し、一部修正のうえ決定した。

(出典：平成17年度専攻科委員会議事要旨)

資料 5-5-③-2 (続き)

専攻科会議（平成 17 年 9 月 15 日）

議題 1：専攻科履修等に関する取り扱い要綱の改定について

=>専攻科履修規則第 11 号関係、大学での履修単位の本学での振り替えの規定について

議題 2：専攻科履修規則様式第 5 号の変更の件について

議題 3：履修規則第 11 号 3 項により申請された案件の審議について
（一般科目 2 単位、専門科目 10 単位、合計 12 単位まで）

電子・情報システム工学専攻

一般 専門	科目名	評価	単 位 数	大学等名	修得年度	振り替え科目	担当教員の承認 の可否
専 門	オートマトン と言語	可	2	山口大学	平成 15 年度	言語理論と オートマトン	休暇中で 未確認 (山中)
専 門	シミュレーシ ョン科学	優	2	山口大学	平成 15 年度	コンピュータシ ミュレーション	許可 (岩崎)
専 門	データ構造と アルゴリズム	優	2	山口大学	平成 15 年度	認識工学	不許可 (岡村)
専 門	情報構造展開 I	優	2	山口大学	平成 15 年度	対応科目無し	
専 門	生物物理学	優	2	山口大学	平成 15 年度	対応科目無し	
一 般	生命と倫理	可	2	山口大学	平成 15 年度	対応科目無し	

審議対象

- (1) 「データ構造とアルゴリズム」を専門専攻科目（選択）の区分の科目としての認定（対応科目外）および単位の合算について
（改訂内規 4.（3-3）および（3-4）を適用の可否）
- (2) 「情報構造展開 I」を専門共通科目（選択）の区分の科目としての認定（対応科目外）および単位の合算について
（この科目はコンピューターに対する一般的内容の講義であるため専門共通科目（選択）相当と考えられる。）
（改訂内規 4.（3-3）および（3-4）の適用の可否）
- (3) 「生物物理学」を専門共通科目（選択）の区分の科目としての認定（対応科目外）および単位の合算について
（改訂内規 4.（3-3）および（3-4）の適用の可否）

（出典：平成 17 年度専攻科委員会議事要旨）

資料5-5-③-3

山口県経営者協会 インターンシップ実施要領

(学校用)

山口県経営者協会

〒753-0074
山口市中央5丁目2番31号
TEL 083-928-3505 FAX 083-925-6487

(出典：山口県経営者協会インターンシップ実施要領)

資料5-5-③-3 (続き)

山口県経営者協会インターンシップ制度実施要領

1. 実施要領

1) 趣 旨

近年、フリーター志向者や短期離職者の増加が大きな社会問題となっています。その要因の一つとして、若年者たちの職業観・就業意識の希薄化、多様化が考えられます。大学卒業後、大半の学生が企業等に就職することを考えると職業人として必要な基礎能力やキャリア形成力を養い、働く意識を確立させるための教育がますます重要になってきます。

インターンシップは、学生が在学中に企業などで一定期間就業体験を行う教育制度です。学生は就業体験を通して社会や企業の実情を知ることによって、仕事に対する興味・関心、学習意欲を高め、ビジネスマナーや職業意識を身につけることができます。

企業側にとっては、学生に企業・職場の実態を理解してもらうよい機会となり、社員は受け入れ学生と接することで、仕事に対する意欲や向上心が高まり、職場の活性化にもつながっていきます。

インターンシップ推進支援センター（東京経営者協会内）と都道府県経営者協会は、インターンシップ教育の発展・拡充に向けて、より多くの企業や大学の参加を促し、時代を担う人づくりを進めていきます。

2) 実施主体 山口県経営者協会

3) 実施時期 夏休み、春休みを中心として実施（通年実施）。

4) 実施期間 特に指定しないが1週間以上が望ましい。

5) 対象学生 全国の大学、短期大学、高等専門学校、専修学校の学生

6) 受入先 山口県内の企業、団体、公的機関等

7) 内 容

①受入企業は、原則として登録していただき、インターンシップ推進支援センター（東京経営者協会内）のホームページにて全国に発信されます。（ホームページ等広報に掲載不可の場合は考慮いたします）

また、受入企業リストを各学校へ郵送いたします。

- 1 -

(出典：山口県経営者協会インターンシップ実施要領)

「社会のニーズに応える技術が必要と痛感」

受入企業名 XXXXXXXXXX

学生氏名
学校名 大島商船高等専門学校

電子・情報システム工学専攻1年

実習期間 平成18年8月28日～9月1日

実習テーマ

情報系企業の現状を体験する。

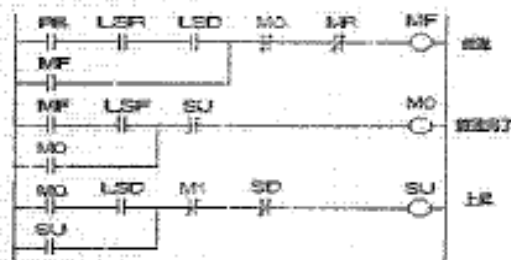
実習概要

工場内の機械の自動制御を行うソフトであるシーケンスを触れた。シーケンスのプログラムの基礎を学ぶと共に、実際に簡単なプログラムを作成した。

実習内容

自動制御を行うプログラムを作成するソフトであるシーケンスは、現在様々な工場内で使用されている。今回の実習では、そのプログラム作成方法を学んだ。

シーケンスとは、「あらかじめ決められた順序」に従って動作させることをいう。例えば、車を検知すると入口センサーが反応する、シャッターが開くとモータが駆動する等、機械の動作を制御する。機器のパーツを分類すると、スイッチやセンサーなどの入力、ランプやモータなどの出力に分けることができる。これら「入力」「出力」機器はシーケンスに個別に接続し、どのような動きを持たせるかはシーケンス内のシーケンスプログラムで決定する。図は作成したプログラムの例である。



視覚的にも非常にわかりやすく、作成しやすかった。図をみてもわかる通り、左側が入力部分であり、右が出力部分である。もし入力プログラム通りの入力があれば出力を行う。これの繰り返しで、工場内の機器の自動制御ができる。

実習の所感

プログラムを使用する意義の一つは、人間の行う作業を自動化することである。今回、実際にソフトを扱う会社で実習させていただいて、社会はこのような自動化ソフトを必要としていると感じた。また、社長や社員の方々の話によれば、これからはソフトよりもハードを扱える人材が求められるのでは、という話であった。今まで社会のニーズなど考えたことがなかった為、もっと柔軟に、自分の技術とも相談しながら就職を探していかなければ、と強く感じた。

このたびお世話になりましたXXXXXXXXXXの社長をはじめ、社員の皆さまには大変お世話になりました。今後、この経験を生かしながら勉学に励んでいきたいと思っております。

(出典：インターンシップ報告書)

資料5-5-③-5

専攻科長	教務主事	学生課長	教務係長	教務係	記録(専門員)
					

専攻科委員会議事要旨

1. 日 時 平成18年8月29日(火) 15:30~17:15
2. 場 所 会議室
3. 出席者 専攻科長・教務主事・専攻科主任(奥野・松井)
学科委員(S岩崎・M柳田・I比嘉・C吉留)・その他委員(増山)
学生課長(出川) 教務係長(吉村) 専門職員(濱崎)
欠席者 専攻科主任(辻)
4. 議事
 - (1) 専攻科の入学試験等実施要項について
資料「入学試験・プレゼンテーション・口頭試問及び面接実施要項(案)」及び「プレゼンテーション・口頭試問及び面接の実施について」により審議され、一部修正・追加のうえ了承された。
なお、試験の説明・プレゼンテーション・口頭試問などの担当は岩崎先生より都合を聞いてもらうこと及び試験問題の作成については、専門科目は岩崎先生より、数学・英語は吉留先生より依頼し、事前に学生課へ提出いただくようお願いした。
 - (2) 専攻科における授業評価アンケートについて
本科生用のアンケートを基準に一部修正のうえ了承された。
なお、授業担当教員へは、比嘉先生より配布し依頼することとなった。
 - (3) 専攻科学修レポートの学内審査及び小論文試験の実施について
配布資料(文責:比嘉)により説明し、了承された。
 - (4) その他
 - ① 専攻科のアドミッションポリシーについて、資料のとおり修正のうえ了承され、9月20日実施の入学試験から実施することとなった。
 - ② 海洋交通システム学専攻生の特別研究中間発表会(案)により説明し、実施することの報告がおこなわれた。
 - ③ インターンシップの単位の認定について審議し、インターンシップ40時間(8H×5日)+レポート作成5時間の合計45時間で認定することが了承された。
 - ④ 専攻科生の「ボランティア」の単位認定について、資料により電子・情報システム工学専攻2年生の _____ さんの単位を認定することが了承された。

(出典: 専攻科委員会議事要旨)

資料5-5-③-5 (続き)

専攻科生の「ボランティア」の単位認定について

「大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」第2条第2項(3)により授業科目「ボランティア」の単位(1単位)を認定する
【ボランティア時間数 45時間で1単位認定】

単位認定者

専攻	氏名	時間数
電子・情報システム工学専攻2年		120.5時間

ボランティア実施済時間数(18.8.11現在)

専攻	氏名	時間数
海洋交通システム学専攻1年		44.5時間
"		36.0時間
"		38.0時間
"		23.5時間
"		42.0時間
"		28.5時間
電子・情報システム工学専攻1年		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		8.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
電子・情報システム工学専攻2年		18.5時間
"		44.5時間

単位認定済みの者

専攻	氏名	時間数
電子・情報システム工学専攻2年		48.0時間
"		46.0時間
"		52.0時間

(出典：専攻科委員会議事要旨)

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

（授業形態のバランスについて）

専攻科では、専攻科における教育目標（主目標）である「優れた専門性と豊かな人間性を有する高度な海事技術者と実践的開発技術者の育成」を達成するため、学生は担当教員の研究手法だけでなく他の教員の研究実験手法を習得する目的で1年次の前期課程（海洋系では、秋期課程）に実験2単位および演習2単位（海洋系の演習は1年次春期から2年次秋期にかけて実施）を開設し、特別研究は1年次では2単位としている。また2年次では特別研究に専念するため特別研究6単位としている。

（資料5-6-①-1～5）

年次単位取得については、1年次に講義と特別研究を含む約40単位（修了単位62単位の約60%）までの履修、2年次に特別研究（6単位）を含む約12単位を履修することを指導している。

（資料5-6-①-6）これにより2年次に学習時間の余裕を持たせて特別研究に専念できる環境を整えている。専攻科では、1年次に成績不良等により習得できなかった科目の再履修（資料5-5-③-1）を求めており、再履修できる時間的余裕も作り出せる。（資料5-6-①-6）

（学習指導法の工夫例）

電子・情報システム工学専攻で行われている「電子・情報システム工学特論」は、専攻科を担当する複数の教員によるオムニバス形式で行われている。講義では各教員により自身の研究に関する最新トピックスを講義することを求めており、学生はさまざまな教員の研究内容を学ぶことができる。このことにより通常の講義とは異なり、学生自身の特別研究を進める上での刺激を得られることが期待できる。（資料5-6-①-7）

ボランティア、インターンシップは選択科目ではあるが、本校及び専攻科の教育目標を達成するため履修を勧めている。履修については2年間の学修期間内としており、特にボランティアでは学生自身のペースに合わせて履修時間を積み上げる方式を採り、さまざまなボランティアを体験することが可能となっている。（資料5-5-③-5）また学生に負担にならないよう、ボランティアの単位は専攻科の修了単位には含めていない。（資料5-6-①-1, 2）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科における授業形態のバランスについては、1年次に選択講義等が多くなっているのに対して2年次では少ない。観点に係る状況に示しているように、成績が不可となっている科目については、再履修が原則（資料5-5-③-1）であるため、比較的時間的余裕のある2年次に再履修することを考慮した編成であることがわかる。また特別研究、実験、演習のバランスについても、1年次に特別研究、実験及び演習を実施して研究手法を修得する期間とし、2年次は自らの研究に専念する期間としていることから、専攻科の教育目的である「技術者の育成」に合致し、授業形態のバランスについて、問題は無い。

「電子・情報システム工学特論」については、様々な教員より最新の研究やトピックス等を聞くことができるため、学生にとっては有効であると考えられる。またインターンシップ・ボランティアな

どは、社会勉強の一環として必修的な扱いとなっているが、専攻科の修了要件には含めておらず、学生自身のペースで行うことを求めている。(資料5-5-③-5)

資料5-6-①-1

4. 教育課程表および授業科目関連表

海洋交通システム学専攻

区分	必修 選択 の別	授業科目	単位数	学 年 別 配 当				講義・実 験・演習 の区別	担当者	
				1 年		2 年				
				秋学期	春学期	秋学期	春学期			
一般 科目	必修	実践英語Ⅰ	2	2				講義	石田	
		履修単位数	2							
	選択	ボランティア	1	1				実験	幸田	
		実践英語Ⅱ	2		2			講義	吉留	
		異文化論	2		2			講義	石田	
		技術者倫理	2		2			講義	野本、奥野	
		日本文学概論	2		2			講義	吉田	
		開設単位数	9							
		履修単位数	5	単位以上						
	専門 共通科目	必修	実用技術英語	2	2				講義	吉留
応用数学特論Ⅰ			2	2				講義	高田	
コンピュータシミュレーション			2	2				講義	岩崎	
履修単位数			6							
選択		応用数学特論Ⅱ	2		2			講義	神田、中井	
		応用物理学	2		2			講義	佐々井	
		環境科学	2	2				講義	杉村	
		工業材料学	2		2			講義	岡本	
		数値解析特論	2		2			講義	田中	
		構造強度設計	2			2		講義	奥野	
		電気機器特論	2		2			講義	伊藤	
		伝熱工学	2			2		講義	角田	
		開設単位数	16							
			履修単位数	10	単位以上					
専門 専攻科目		必修	海洋交通システム学特別研究	16	2	2	6	6	実験	担当教官
			海洋交通システム学特別実験	4	2	2			実験	担当教官
	海洋交通システム学特別演習		4		2	2		演習	担当教官	
	履修単位数		24					実験	担当教官	
	選択	インターンシップ	2		2				三原	
		交通システム工学	2	2				講義	辻	
		海事統計学	2	2				講義	藤井(英)	
		海洋ロボット工学	2			2		講義	清水	
		機関システム工学	2	2				講義	伊藤	
		船舶安全学特論	2	2				講義	古藤	
		流通ターミナル論	2			2		講義	辻	
		船体運動学特論	2				2	講義	福谷	
		船舶ヒューマンマシンインタフェース論	2	2				講義	岩崎	
		エネルギー変換工学	2		2			講義	三原	
		反応工学	2			2		講義	古本	
		冷凍空調システム工学	2				2	講義	中村(隆)	
		燃焼工学特論	2				2	講義	川原	
		開設単位数	26							
	履修単位数	18	単位以上							
一般・専門科目 開設単位数合計			83							
修得単位数合計			62単位以上(ボランティア・インターンシップを除く。)							

(出典：専攻科シラバス)

電子・情報システム工学専攻

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当				講義・実 験・演習 の区別	担 当 者
				1 年		2 年			
				前 期	後 期	前 期	後 期		
一般 科目	必修	実践英語 I	2		2			講義	石田
		履修単位数	2						
	選択	ボランティア	1		1			実験	幸田
		実践英語 II	2			2		講義	吉留
		異文化論	2	2				講義	石田
		技術者倫理	2		2			講義	野本
		日本文学概論	2	2				講義	吉田
		開設単位数	9						
		履修単位数	5	単位以上					
専門 共通科目	必修	実用技術英語	2		2			講義	吉留
		応用数学特論 I	2		2			講義	高田
		コンピュータシミュレーション	2		2			講義	岩崎
		履修単位数	6						
	選択	応用数学特論 II	2	2				講義	神田、中井
		応用物理学	2	2				講義	佐々井
		環境科学	2				2	講義	杉村
		工業材料学	2			2		講義	岡本
		数値解析特論	2	2				講義	田中
		構造強度設計	2		2			講義	奥野
		電気機器特論	2			2		講義	伊藤
		伝熱工学	2				2	講義	角田
		開設単位数	16						
		履修単位数	10	単位以上					
		専門 科目	必修	電子・情報システム工学特別研究	16	2	2	6	6
電子・情報システム工学特別実験	4			2	2			実験	担当教官
電子・情報システム工学特別演習	2				2			演習	担当教官
電子・情報システム工学特論	2					2		講義	専攻科長
履修単位数	24								
専門 専攻科目	インターンシップ		2	2				実験	専攻科長
	画像処理		2				2	講義	杉野
	電子物性工学		2	2				講義	増山
	集積回路工学特論		2	2				講義	比嘉
	高電圧工学特論		2			2		講義	藤井
	電子制御工学		2	2				講義	岡野内
	デジタルシステム		2		2			講義	石光
	メディア情報ネットワーク論		2	2				講義	松田
	エキスパートシステム		2		2			講義	松井
	通信ネットワーク工学		2	2				講義	塩田
認識工学	2			2		講義	岡村		
言語理論とオートマトン	2		2			講義	山中		
生産管理特論	2		2			講義	石原		
人間感性システム特論	2			2		講義	楠田		
開設単位数	28								
履修単位数	18	単位以上							
一般・専門科目開設単位数合計			85						
修得単位数合計			62単位以上 (ボランティア・インターンシップを含まない。)						

(出典：専攻科シラバス)

資料5-6-①-3

授業科目名		教員名		所属		開講年次			
電子・情報システム工学特別研究 Thesis Works		各教員		電子・情報システム工学専攻		1年次 前期 春期	1年次 後期 秋期	2年次 前期 春期	2年次 後期 秋期
科目区分	必選の区分	単位数	オフィスワーカー・場所			連絡先			
専門専攻科目	必修	合計 16単位	各教員の研究室および実験室						
授業目的	<p>今日、企業では自ら進んで研究開発ができる実践的な技術者が求められている。そこで本専攻科では各担当教員の指導の下に、文献調査、理論解析、シミュレーション、実験、ディスカッションを通して電子・情報分野における研究開発の進め方を修得し創造的研究開発能力を養うことを目的とする。</p>								
授業内容 授業計画	<p><u>科目の位置付け、教育内容・方法</u></p> <p>電子・情報システム工学特別研究は本専攻科の基幹科目であり、専攻科2年間において技術者としての実践的な研究開発能力を修得することを目的としている。本専攻科では、本科5年での卒業研究を基礎としてさらに専攻科2年間において各担当教官の指導を受けながら、より深く各研究テーマについて探求、または新たな研究テーマについて学生自ら進んで研究に従事することで、研究開発の進め方を修得する。研究成果については、論文および学会発表を行うことで、学生の研究開発への取り組み意識を高める。</p> <p><u>授業計画</u></p> <p>専攻科 1年前後期 各研究テーマに対する研究目的の把握、基礎的な調査、実験を行う。</p> <p>専攻科 2年前期～ 得られた成果に対する検証を行い、更なる研究調査および実験を行う。得られた知見について論文や学会発表を行う。さらに学位授与審査の申請のための準備を行う。</p> <p>専攻科 2年後期 各研究テーマについてこれまで得られた知見や新たに見出した問題点などについて論文としてまとめる。</p> <p><u>達成目標</u></p> <p>電子・情報システム工学特別研究は、学生の各研究テーマにおいて問題点を見出す目やその解決方法など研究開発能力を向上させ、研究技術者としてだけでなく一社会人として社会に貢献できる人材とすることを達成目標としている。</p>								
テキスト 参考文献									
成績評価 の基準	各指導教員								
履修上の 注意と履 修要件									
<p>本校教育目標との対応 : (1) - (a),(b),(c)</p> <p>専攻科の教育目標との対応 : (2) - (b),(c),(d),(e)</p>									

(出典：専攻科シラバス)

資料 5 - 6 - ① - 4

授業科目名		教員名	所属	開講年次			
電子・情報システム工学特別実験 Experiments of Electronics and Information Systems		各教員	電子・情報システム工学専攻	1年次 前期 春期	1年次 後期 秋期	2年次 前期 春期	2年次 後期 秋期
科目区分	必選の区分	単位数	オフィス・場所		連絡先		
専門専攻科目	必修	合計 4 単位	各教員の研究室および実験室				
授業目的	電子工学分野および情報工学分野の各教員の指導の下、自らの専門分野だけでなく専門外の分野の実験テーマを行うことで、さまざまな分野の実験の進め方を習得し、さらに教員と実験結果についてのディスカッションを通してその研究分野を理解して将来、直面する電子・情報分野のさまざまな研究開発における問題に柔軟に対応できる研究開発能力を養うことを目的とする。						
授業内容 授業計画	<p>科目の位置付け、教育内容・方法</p> <p>電子・情報システム工学特別実験は本専攻科の基幹科目であり、専攻科 1 年生において技術者に必要な基本的な研究開発能力を修得するために電子工学、情報工学さらには機械工学や数学分野の実験および解析を自ら行う。実験では、少人数制で一つの実験テーマを約 2 週間（12 時間）行う。さらに実験結果に対して担当教員とのディスカッションを通じて実験内容を理解し、さらにレポートの作成方法の指導により各分野の報告書の作成方法を習得する。</p> <p><u>授業計画</u></p> <p>専攻科 実施予定実験テーマ</p> <p>電子・制御システム系</p> <p>1. 材料の変形・応力・破壊に関する総合実験（奥野） 2. 走査形電子顕微鏡を使用した表面処理実験 3. 自由減衰振動の対数減衰率の測定、および、定常共振実験による共振曲線の測定 4. デジタルシステムプロセッサによるシステム構築実験（石光） 5. PIC マイコン実験 6. 極低温冷凍機を使用した冷凍物性測定（増山） 7. 高分子絶縁材料の劣化判断実験（藤井）</p> <p>情報・通信ネットワーク系</p> <p>1. 数学実験（山中） 2. ネットワーク通信実験（塩田） 3. ウェーブレット変換による画像処理プログラム構築実験（岡崎） 4. MATLAB による各種シミュレーション（榎田） 5. 次世代 GPS によるナビゲーションシステム実験（松田） 6. ネットワーク型データベースにおける認証システムの構築及び検証（松井） 7. 手書き文字認識実験（岡村） 8. 集積回路の製作（比嘉） 9. マシンビジョンおよび光測定（杉野）</p> <p><u>達成目標</u></p> <p>電子・情報システム工学特別実験では、電子・情報工学の各分野の実験テーマを通して各分野の実験に具体的な進め方を習得できる。これを基礎にすれば、工業系技術者として将来直面するさまざまな技術的問題点に対して自ら実験および解析手法の対応を自ら行うことが可能となることが期待できる。</p>						
テキスト 参考文献	実験テキストおよび参考資料						
成績評価 の基準	実験の進め方およびレポートの内容を各指導教員が総合的に判断する。						
履修上の 注意と履 修要件	実験では各指導教員の注意事項を良く聞き、事故および怪我の無い様にする。						
本校教育目標との対応 : (1) - (a),(b),(c) 専攻科の教育目標との対応 : (2) - (b),(c),(d)							

資料 5 - 6 - ① - 5

授 業 科 目 名		教員名	所 属	開 講 年 次			
電子・情報システム工学特別演習 Advanced Experiments of Electronics and Information Systems		各教員	電子・情報シス テム工学専攻	1年次 前期 春期	1年次 後期 秋期	2年次 前期 春期	2年次 後期 秋期
科目区分	必選の区分			単位数	オフィスワーカー・場所		連 絡 先
専門専攻科目	必修	2	各教員の研究室および実験室				
授業目的	電子工学および情報工学分野の各教員の指導の下、この分野における演習テーマについて演習および検証を行い、その結果を基にさらに自らテーマを見出して更なる検討を行うことで、研究を発展させる意識や能力を養うことを目的とする。						
授業内容 授業計画	<p>科目の位置付け、教育内容・方法</p> <p>電子・情報システム工学特別演習は本専攻科の基幹科目であり、専攻科 1 年生において電子情報工学系技術者に必要な基本的な研究開発能力を修得するために電子工学、情報工学さらには機械工学や数学分の実験手法を自ら行う。演習では、少人数制で一つの実験テーマを約 3 週間（12 時間）行う。演習の特徴は、得られた結果からさらに自ら問題点を見極め、実験テーマを提案して実験を行うことである。</p> <p><u>授業計画</u></p> <p>専攻科 1 年後期 各演習テーマ</p> <p>ハードウェア分野</p> <p>1. マイクロマシニングの基礎（比嘉）</p> <p>2. PIC マイコンを用いた電子制御演習（岡野内）</p> <p>ソフトウェア分野</p> <p>1. データ圧縮アルゴリズムとその実現演習（松田）</p> <p>2. レイトレーシング（杉野）</p> <p><u>達成目標</u></p> <p>電子・情報システム工学特別演習では、電子工学、情報工学分野の実験テーマを通して研究の進め方、特に研究の発展性を意識することの重要性を認識することに重点を置き実施する。これを基礎にすれば、電子・情報系研究技術者として将来直面するさまざまな技術的問題点に対しての解析手法の対応が自ら行うことは可能となることが期待できる。</p>						
テキスト 参考文献	演習テキストおよび参考資料						
成績評価 の基準	演習の進め方およびレポートの内容を各指導教員が総合的に判断する。						
履修上の 注意と履 修要件	演習では各指導教員の注意事項を良く聞き、事故および怪我の無い様にする。						
<p>本校教育目標との対応 : (1) - (a),(b),(c)</p> <p>専攻科の教育目標との対応 : (2) - (b),(c),(d)</p>							

資料 5-6-①-6

別紙第 1 号様式 (第 3 条関係)

				申請日 平成 19 年 11 月						
受講科目履修届										
電子・情報システム工学専攻 / 年										
氏名 _____										
区分	必修 選択 の別	授業科目	単位 数	受講 (○印)	学 年 別 配 当				科目教員氏名 (担当教員本人の署名)	
					1 年		2 年			
					前期	後期	前期	後期		
一般科目	必修	実践英語 I	2	○		2				
		ボランティア	1	○		1				
	選択	実践英語 II	2	○				2		
		異文化論	2							
		技術者倫理	2	○			2			
		日本文学概論	2	○	2					
専門共通科目	必修	実用技術英語	2	○			2			
		応用数学特論 I	2	○			2			
		コンピュータシミュレーション	2	○			2			
	選択	応用数学特論 II	2	○	2					
		応用物理科学	2	○	2					
		環境科学	2	○					2	
		工業材料学	2							
		数値解析特論	2	○	2					
		構造強度設計	2							
		電気機器特論	2	○				2		
		伝熱工学	2							
		電子・情報システム工学特別研究	16	○	2	2	6	6		
専門専攻科目	必修	電子・情報システム工学特別実験	4	○	2	2				
		電子・情報システム工学特別演習	2	○		2				
		電子・情報システム工学実験	2	○	2					
		インターンシップ	2	○	2					
	選択	画像処理	2	○				2		
		電子物性工学	2							
		集積回路工学特論	2							
		高圧工学特論	2							
		電子制御工学	2	○	2					
		メディア情報ネットワーク論	2	○	2					
		デジタルシステム	2							
		エキスパートシステム	2	○			2			
		通信ネットワーク工学	2	○	2					
		認識工学	2	○				2		
		言語理論とオートマトン	2	○			2			
		生産管理	2	○			2			
		人間感性システム特論	2							
		一般科目・専門科目合計			85		22	23	19	8

1. 受講する科目に○印を付け、該当する学年欄に単位数を記入してください。
 注 2. 科目教員氏名の欄は、担当する教員本人に署名をもらうこと。
 章 3. 特別実験、特別演習、特論及びインターンシップは専攻科長の署名をもらうこと。
 4. この届けは、提出期限内に学生課教務係まで提出してください。

(出典：専攻科履修届)

資料 5 - 6 - ① - 7

授 業 科 目 名		教員名	所 属	開 講 年 次			
電子・情報システム工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems		各教員	電子・情報システム工学専攻	1年次 前期 春期	1年次 後期 秋期	2年次 前期 春期	2年次 後期 秋期
科目区分	必選の区分	単位数	オフィス・場所		連 絡 先		
専門専攻科目	必修	2	各教員の研究室および実験室				
授業目的	電子工学および情報工学分野の各教員の現在行っている研究紹介、さらに最近の技術動向の解説からさまざまな工学理学分野の知見を得ることを目的とする。						
授業内容 授業計画	<p><u>科目の位置付け、教育内容・方法</u></p> <p>電子・情報システム工学特論は本専攻科の基幹科目であり、専攻科 1 年生において電子情報工学系教員の現在行っている研究分野の詳しい解説やその研究に係る最近の技術動向を学習することができる。これにより工学系技術者に必要なさまざまな分野の研究についての予備的な知識を持つことで、異なる研究分野でも柔軟な意識を持つことおよび他分野の研究に触れることで新たな知見を得ることができる。さらにこの講義に携わる各教員は自らの研究を学生にわかりやすく解説することで研究の本質を再認識することができる。</p> <p><u>授業計画</u></p> <p>専攻科 1 年前期 各講演テーマ</p> <p>電気電子工学分野 1. 超伝導工学 (増山) 2. 高電圧応用特論 (藤井) 3. シリコン微細加工法を用いたマイクロマシンの製作 (比嘉)</p> <p>情報工学分野 1. 応用人間システム工学 (櫛田) 2. 非線形形予測理論と統計的仮説検定 (松田) 3. パターン認識とその応用分野について (岡村) 4. セキュア無線 LAN (塩田) 5. データベースサーバー (松井) 6. 画像処理 (岡崎)</p> <p>機械工学分野 1. ロボコンから見た“ものづくり” (岡野内) 2. 表面処理技術入門 (岡本) 3. 大型肉薄構造体の軽量化手法と強度評価技術 (奥野) 4. 最適化手法を用いた船貨積み付け計画の自動化 (田中) 5. 循環型生産システムの特徴と問題点 (石原)</p> <p><u>達成目標</u></p> <p>電子・情報システム工学特論では、電子工学、情報工学分野の各教員から提供される各研究テーマの講演を通してさまざまな分野の研究やその研究の重要性を認識することができ、電子・情報系研究技術者として将来、さまざまな分野の研究開発に関わること、さらに自らの研究分野以外と連携し、新たな創造性を見出すという意識を持つことが期待できる。</p>						
テキスト 参考文献	講義資料等は各教員から配布						
成績評価 の基準	各指導教員によりレポートや小テストを課してその内容で評価する。						
履修上の 注意と履 修要件	異なる研究分野から得られる知見は多いので積極的に質問等を行うこと。						
本校教育目標との対応 : (1) - (a),(b),(c) 専攻科の教育目標との対応 : (2) - (b),(c),(d),(e)							

(出典：専攻科シラバス)

観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

専攻科では創造性を生む教育方法として、オムニバス形式で講義を行う電子・情報システム工学特論（以下、特論）を開講している。（資料5-6-②-1）講義では専攻科に属するそれぞれの教員が自身の研究及びそれに関する最新のトピックスやさまざまな分野における研究や開発方法を学生に教授することを目的にしている。

また大島商船高専及び専攻科の教育目標に掲げる「協同の精神」や「福祉や環境を考慮に入れることのできる総合力の育成」を達成する上で重要な科目としてボランティア及びインターンシップを実施している。（資料5-6-②-2）ボランティアは学生が自主的に行い、在学中に行った時間数を自己申告して所定の時間数を超えた場合に本専攻科の選択科目の単位として認定している。（資料5-6-②-3, -4）

インターンシップについては、将来の就職に対する意識の向上としての活用を目的として、専攻科独自による企業紹介だけでなく、山口県経営者協会と協力して山口県内の企業中心に実施しており、専攻科全員がインターンシップを履修できる環境を整えている。（資料5-6-②-5, -6, -7）

（分析結果とその根拠理由）

特論では、専門以外のさまざまな分野の研究に関する理解できる能力を養うことにより、学生が将来さまざまな研究分野の成果を取り入れて新たな研究開発を創造できる研究技術者の育成を目的として開講している。工夫としては、各教員は自身の研究を学生に理解できるレベルで説明することを求めており、教員と学生が研究を通して対話することで、研究者・技術者としての資質の育成を目指している。

また、ボランティアの修得は専攻科の修了要件とはしていない。これは2年間の在籍中に自ら選んでボランティアを行うことで自分自身のボランティアに対する考え方や教育目標にある「協同の精神」等を考えてもらうための工夫である。

インターンシップについては、就業体験を通して将来の進路についての知見を得る目的で活用している。インターンシップに参加した学生には報告書の提出を求め、インターンシップで得たもの、反省点などにより次年度のインターンシップの実施の参考としている。

以上のことより、創造性を育む教育としての特論や、ボランティア、インターンシップが活用されているといえる。

資料 5 - 6 - ② - 1

授 業 科 目 名		教員名	所 属	開 講 年 次			
電子・情報システム工学特論 Advanced Course of Electronics and Information Systems		各教員	電子・情報シス テム工学専攻	1年次 前期 春期	1年次 後期 秋期	2年次 前期 春期	2年次 後期 秋期
科目区分	必選の区分	単位数	ワイルド・場所		連 絡 先		
専門専攻科目	必修	2	各教員の研究室および実験室				
授業目的	電子工学および情報工学分野の各教員の現在行っている研究紹介、さらに最近の技術動向の解説からさまざまな工学理学分野の知見を得ることを目的とする。						
授業内容 授業計画	<p>科目の位置付け、教育内容・方法</p> <p>電子・情報システム工学特論は本専攻科の基幹科目であり、専攻科 1 年生において電子情報工学系教員の現在行っている研究分野の詳しい解説やその研究に関係する最近の技術動向を学習することができる。これにより工学系技術者に必要なさまざまな分野の研究についての予備的な知識を持つことで、異なる研究分野でも柔軟な意識を持つことおよび他分野の研究に触れることで新たな知見を得ることができる。さらにこの講義に携わる各教員は自らの研究を学生にわかりやすく解説することで研究の本質を再認識することができる。</p> <p><u>授業計画</u></p> <p>専攻科 1 年前期 各講演テーマ</p> <p>電気電子工学分野 1. 超伝導工学（増山） 2. 高電圧応用特論（藤井） 3. シリコン微細加工法を用いたマイクロマシンの製作（比嘉）</p> <p>情報工学分野 1. 応用人間システム工学（櫛田） 2. 非線形形予測理論と統計的仮説検定（松田） 3. パターン認識とその応用分野について（岡村） 4. セキュア無線 LAN（塩田） 5. データベースサーバー（松井） 6. 画像処理（岡崎）</p> <p>機械工学分野 1. ロボコンから見た“ものづくり”（岡野内） 2. 表面処理技術入門（岡本） 3. 大型肉薄構造体の軽量化手法と強度評価技術（奥野） 4. 最適化手法を用いた船貨積み付け計画の自動化（田中） 5. 循環型生産システムの特徴と問題点（石原）</p> <p><u>達成目標</u></p> <p>電子・情報システム工学特論では、電子工学、情報工学分野の各教員から提供される各研究テーマの講演を通してさまざまな分野の研究やその研究の重要性を認識することができ、電子・情報系研究技術者として将来、さまざまな分野の研究開発に関わることを、さらに自らの研究分野以外と連携し、新たな創造性を見出すという意識を持つことが期待できる。</p>						
テキスト 参考文献	講義資料等は各教員から配布						
成績評価 の基準	各指導教員によりレポートや小テストを課してその内容で評価する。						
履修上の 注意と履 修要件	異なる研究分野から得られる知見は多いので積極的に質問等を行うこと。						
本校教育目標との対応 : (1) - (a),(b),(c) 専攻科の教育目標との対応 : (2) - (b),(c),(d),(e)							

(出典：専攻科シラバス)

専攻科・学修資料 1-3

ボランティアおよびインターンシップの履修について

ボランティアおよびインターンシップは、専攻科の修了要件には含まれず、選択科目となっています。しかし、大島商船高専および専攻科の教育目標に掲げる「協同の精神」や「福祉や環境を考慮入れることのできる総合力の育成」を達成する上で重要な科目です。講義では得られない様々な知識を得ることができ、人間として、技術者として成長する上で重要な科目と考えています。ぜひ受講してください。受講した場合は65単位となります。

インターンシップの実施期間

インターンシップは、原則夏季休暇中に実施されます。1年次、2年次いずれの時期でも受講可能ですが、2年次の夏季休暇は学位申請書類作成時期と重なりますので、1年次の夏季休暇中に履修してください。

インターンシップの申し込みについて

本校では、山口県経営者協会の協力でインターンシップ先を紹介しています。また、個人的にインターンシップ先を探すこともできます。詳しいことは担当者までお尋ねください。

ボランティアの実施について

ボランティアは1年次の後期（工業系、秋期は海洋系）に実施されます。担当教員より説明があります。ボランティアは総時間数45時間で1単位として認定されます。ボランティア時間は、積み上げ方式となっていますので、専攻科修了までに45時間を越えるように、様々なボランティアを経験してください。詳しいことは担当者までお尋ねください。

(出典：専攻科学修計画書，抜粋)

資料5-6-②-3

原稿

授業科目名		教員名		所属		開講年次			
ボランティア (Volunteer)		幸田三広		一般科目		1年次 前期 春期	1年次 後期 秋期	2年次 前期 春期	2年次 後期 秋期
科目区分	必選の区分	単位数	71577-場所			連絡先			
一般科目	選択	1	金曜 15:40~16:30 第一体育館						
授業目的	<p>学外におけるボランティア活動を実施体験することで、総合的視野を持った人材を育成することを目的とした。</p> <p>また、地元地域への社会貢献の一環としての役割も兼ねる。</p>								
授業内容 授業計画	<p>科目の位置付け、教育内容・方法</p> <p>本校の「豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を育成する」という教育目標からも学校外の地域社会でボランティア活動を経験することで広い視野と豊かな人間性を身につけることができる。</p> <p>周防大島町内での活動を基本に年間通算一週間程度のボランティア活動を実施する。</p> <p>具体的な内容は、受け入れ先の都合（時期・期間・人数など）により柔軟に対応する。</p> <p><u>授業計画</u></p> <p>実施内容の例</p> <p>①サザン・セト大島少年サッカー大会の運営補助スタッフ ②サザン・セト大島ロードレース大会の運営補助スタッフ ③大島郡フットサル大会の運営補助スタッフ ④大島一周駅伝競走大会の運営補助スタッフ ⑤ビーチバレーボール大会の運営補助スタッフ</p> <p>その他、要望があれば以下の活動も実施</p> <p>⑥周防大島少年の船洋上セミナーのアシスタント ⑦IT講習会での講師またはアシスタント ⑧総合的な学習時間でのアシスタント ⑨訪問看護職員のアシスタント ⑩老人福祉施設等での介護アシスタント</p> <p><u>達成目標</u></p> <p>地域社会でのボランティアを経験することで、人と人が協力し合うことの大切さや自らが地域社会の輪の中にいるのだということを認識し理解することを達成目標とする。</p>								
テキスト 参考文献	特になし								
成績評価 の基準	ボランティア実施中の日報および実施後のレポートで50点、ボランティア実施先の担当者評価を50点とし合計して総合評価する。								
履修上の 注意と履 修要件	特になし								
<p>本校教育目標との対応 : (1) -a</p> <p>専攻科の教育目標との対応 : (2) -e</p>									

(出典：専攻科シラバス例)

資料5-6-②-4

専攻科生の「ボランティア」の単位認定について

「大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」第2条第2項(3)により授業科目「ボランティア」の単位(1単位)を認定する

【ボランティア時間数 45時間で1単位認定】

単位認定者

専攻	氏名	時間数
電子・情報システム工学専攻2年		120.5時間

ボランティア実施済時間数(18.8.11現在)

専攻	氏名	時間数
海洋交通システム学専攻1年		44.5時間
"		36.0時間
"		38.0時間
"		23.5時間
"		42.0時間
"		28.5時間
電子・情報システム工学専攻1年		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
"		8.0時間
"		5.0時間
"		5.0時間
電子・情報システム工学専攻2年		18.5時間
"		44.5時間

単位認定済みの者

専攻	氏名	時間数
電子・情報システム工学専攻2年		48.0時間
"		46.0時間
"		52.0時間

(出典：専攻科委員会議事要旨)

資料5-6-②-5

授業科目名		教員名		所属		開講年次			
インターンシップ Internship		専攻科長				1年次 前期 春期	1年次 後期 秋期	2年次 前期 春期	2年次 後期 秋期
科目区分	必選の区分	単位数	ワーカー・場所			連絡先			
専門専攻科目	選択	2							
授業目的	企業などにおける就業体験を通して実社会の課題に取り組む訓練を積むことを目的とする。								
授業内容 授業計画	<p>科目の位置付け、教育内容・方法</p> <p>インターンシップは、講義などでは得られない様々な実社会や企業内での諸問題に触れることのできる唯一の機会である。その中で社会人としてのマナーや立ち振る舞い、仕事の進め方について企業の先輩から直接指導を受けることができる。この経験や体験は、自身の今後の進路の決定についての重要な参考となる。</p> <p><u>実施方法</u></p> <p>(1) 対象学年：専攻科1年生 (2) 時期：夏期休暇中 (3) 期間：3週間以上 (4) インターンシップ先：本校と地域協力関係にある企業および近辺の企業を基本とする。 (5) 担当：受け入れ先への打診、依頼、調整や学生指導は主として専攻科の幹事が行う。なお、実施責任者は専攻科長とする。 (6) テーマ：受け入れ先から提示されたものをもとに、学生（特別研究担当教員含）と受け入れ先で話し合う。 (7) 巡回指導：実習期間中は当該学生の所属する専攻の幹事ならびに特別研究担当教員が分担して1～2回程度巡回し、状況を把握すると共に改善点があれば是正に努める。 (8) 報告書：インターンシップ報告書と日誌を作成し、受け入れ先と学校に提出する。 (9) 報酬：原則として無報酬</p> <p><u>達成目標</u></p> <p>インターンシップでは本科および専攻科で学習した知識を応用し、実際の現場において様々な課題の把握と解決方法を身に付け、感性・創造性を養うことができる。また、社会が要求、期待する人物像をつかみ、エンジニアスピリットについても修得できる。</p>								
テキスト 参考文献	受け入れ先からの資料								
成績評価 の基準	評価は(a)本人の報告書、(b)企業からの評価書を併せて評価する。								
履修上の 注意と履 修要件	社会人としてのマナー、身だしなみについて常に注意すること。大島商船高等専門学校の学生として意識と誇りを常に持ち、行動すること。								
本校教育目標との対応		：(1) -(a),(b),(c)							
専攻科の教育目標との対応		：(2) -(b),(c),(d),(e)							

(出典：専攻科シラバス例)

資料 5 - 6 - ② - 6

山口県経営者協会 インターンシップ実施要領

(学 校 用)

山口県経営者協会

〒753-0074
山口市中央5丁目2番31号
TEL 083-928-3505 FAX 083-925-6487

(出典：山口県経営者協会インターンシップ実施要領)

資料 5-6-②-7

「社会のニーズに応える技術が必要と痛感」

受入企業名

学生氏名

学校名 大島商船高等専門学校

電子・情報システム工学専攻1年

実施期間 平成 18 年 8 月 28 日～ 9 月 1 日

実習テーマ

情報系企業の現状を体験する。

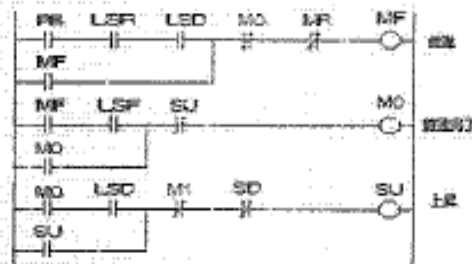
実習概要

工場内の機械の自動制御を行うソフトであるシーケンサを触れた。シーケンサのプログラムの基礎を学ぶと共に、実際に簡単なプログラムを作成した。

実習内容

自動制御を行うプログラムを作成するソフトであるシーケンサは、現在様々な工場内で使用されている。今回の実習では、そのプログラム作成方法を学んだ。

シーケンスとは、「あらかじめ決められた順序」に従って動作させることをいう。例えば、車を検知すると入口センサーが反応する、シャッターが開くとモータが駆動する等、機械の動作を制御する。機器のパーツを分類すると、スイッチやセンサーなどの入力、ランプやモータなどの出力に分けることができる。これら「入力」「出力」機器はシーケンサに個別に接続し、どのような動きを持たせるかはシーケンサ内のシーケンスプログラムで決定する。図は作成したプログラムの例である。



視覚的にも非常にわかりやすく、作成しやすかった。図をみてもわかる通り、左側が入力部分であり、右が出力部分である。もし入力プログラム通りの入力があれば出力を行う。これの繰り返しで、工場内の機器の自動制御ができる。

実習の所感

プログラムを使用する意義の一つは、人間の行う作業を自動化することである。今回、実際にソフトを扱う会社で実習させていただいて、社会はこのような自動化ソフトを必要としていると感じた。また、社長や社員の方々の話によれば、これからはソフトよりもハードを扱える人材が求められるのでは、という話であった。今まで社会のニーズなど考えたことがなかった為、もっと柔軟に、自分の技術とも相談しながら就職を探していかなければ、と強く感じた。

このたびお世話になりました。の社長をはじめ、社員の皆さまには大変お世話になりました。今後、この経験を生かしながら勉学に励んでいきたいと思います。

(出典：インターンシップ報告書)

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

専攻科のシラバスにおける主要な項目は以下のようになっている。(資料5-6-③-1)

1. 授業の目的
2. 専攻科における科目の位置付け
3. 教育内容・方法
4. 授業計画
5. 達成目標
6. 成績評価の基準
7. 履修上の注意と履修要件
8. 本校と専攻科の教育目標との関係

「授業の目的」や「教育内容・方法」は、この講義から何を学べ、どのような講義が行われるかを示す。また「到達目標」は講義を受けることにより得られる知識や技術のレベルを具体的な目標に示し、「成績評価法」は到達目標に対する評価として評価基準を具体的に示しており、自分の成績評価に対する自己検証が可能となっている。また、「履修の要件」も示されており、この講義に対しての事前の準備も行える。

専攻科では、修了要件と取得を希望する学位(学士)分野を同時に満たす専門選択科目を学生自ら選択する際に科目の内容をシラバスで確認するように指導している。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科のシラバスの項目及び内容は、修了要件及び学位申請時の科目分野を区分するために重要な資料となるため、上記の項目(1～8)を定めており、学生が利用していることから、適切に整備されていることがわかる。

資料5-6-③-1

原稿

授業科目名		教員名	所属	開講年次			
ボランティア (Volunteer)		幸田三広	一般科目	1年次 前期 春期	1年次 後期 秋期	2年次 前期 春期	2年次 後期 秋期
科目区分	必選の区分	単位数	171277-場所		連絡先		
一般科目	選択	1	金曜 15:40~16:30 第一体育館				
授業目的	<p>学外におけるボランティア活動を実施体験することで、総合的視野を持った人材を育成することを目的とした。</p> <p>また、地元地域への社会貢献の一環としての役割も兼ねる。</p>						
授業内容 授業計画	<p><u>科目の位置付け、教育内容・方法</u></p> <p>本校の「豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を育成する」という教育目標からも学校外の地域社会でボランティア活動を経験することで広い視野と豊かな人間性を身につけることができる。</p> <p>周防大島町内での活動を基本に年間通算一週間程度のボランティア活動を実施する。</p> <p>具体的な内容は、受け入れ先の都合（時期・期間・人数など）により柔軟に対応する。</p> <p><u>授業計画</u></p> <p>実施内容の例</p> <p>①サザン・セト大島少年サッカー大会の運営補助スタッフ ②サザン・セト大島ロードレース大会の運営補助スタッフ ③大島郡フットサル大会の運営補助スタッフ ④大島一周駅伝競走大会の運営補助スタッフ ⑤ビーチバレーボール大会の運営補助スタッフ</p> <p>その他、要望があれば以下の活動も実施</p> <p>⑥周防大島少年の船洋上セミナーのアシスタント ⑦IT講習会での講師またはアシスタント ⑧総合的な学習時間でのアシスタント ⑨訪問看護職員のアシスタント ⑩老人福祉施設等での介護アシスタント</p> <p><u>達成目標</u></p> <p>地域社会でのボランティアを経験することで、人と人が協力し合うことの大切さや自らが地域社会の輪の中にいるのだということを認識し理解することを達成目標とする。</p>						
テキスト 参考文献	特になし						
成績評価 の基準	ボランティア実施中の日誌および実施後のレポートで50点。ボランティア実施先の担当者評価を50点とし合計して総合評価する。						
履修上の 注意と履 修要件	特になし						
<p>本校教育目標との対応 : (1) -a</p> <p>専攻科の教育目標との対応 : (2) -e</p>							

(出典：専攻科シラバス例)

観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

専攻科では、入学した学生及びその担当教員に対して学修計画書の提出を義務づけている。（資料5-7-①-1）この学修計画書は、専攻科で行う研究テーマや研究の概要及び研究計画が主な項目となっており、担当教員との相談の上で学生自ら書くことを求めている。また研究の実際の進捗状況については、学年末ごとに学生から提出された特別研究経過報告書（資料5-7-①-2）、担当教員の所見及び入学時に提出した学修計画書を合わせて、専攻科委員会により研究の状況を審議することになっている。

また、学位申請するために大学評価・学位授与機構へ提出する「学修レポート」作成時においては、担当教員の他に専攻科委員会が指名した査読の教員による「学修レポート」の査読制度があり、「学修レポート」の複数教員によるチェック体制及び小論文試験対策を行う体制を整えている。（資料5-7-①-3）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科における、学生に対する研究指導体制については、各学期末における特別研究の進捗状況を専攻科委員会として把握する体制を整え、特別研究担当教員への研究指導に関する助言等を行うことができる。また、学位申請に必要な「学修レポート」に対しても査読制度により複数の教員のチェック体制をとっていることから、専攻科における担当教員への研究指導のチェック体制は十分であると考えられる。

資料5-7-①-1


専攻科・学修資料-1-1

大島商船高等専門学校 専攻科 学修計画書-1

専攻科・学修計画の概要			
入学年度	平成 18年	提出年月日	平成 18 年 4 月 27 日
氏名			
連絡先	住所		
	電話 (携帯)	電子メール	
出身本科	<input type="checkbox"/> 商船学科 <input type="checkbox"/> 電子機械工学科 <input checked="" type="checkbox"/> 情報工学科 <input type="checkbox"/> その他()		
入学専攻	<input type="checkbox"/> 海洋交通システム学専攻	<input checked="" type="checkbox"/> 電子情報システム工学専攻	
取得希望の学士号	<input type="checkbox"/> 商船学	<input type="checkbox"/> 電気電子工学	<input checked="" type="checkbox"/> 情報工学
特別研究			
指導教員と十分に相談の上、以下の項目を記載すること。			
題 目			
動画像理解に関する研究			
概 要	研究内容を解かり易く、簡潔に紹介すること。		
	近年、セキュリティ分野においてビデオカメラによる人物の行動監視が用いられている。 本研究では、動画像から人物及び人物の行動を認識し異常行動があった場合に通知するシステムを構築する。また照明変化に頑健な背景差分を利用して、より精度の高い人物抽出も行う。		
計 画	学外発表を含む具体的な研究計画(スケジュール)について簡潔に記すこと。		
	06年4月～8月 基礎研究・研究理解 06年9月 紀要論文作成 07年9月上旬 学会発表 07年9月下旬 仕上げ・完成		
指導教員 署名	岡村健史郎		

(出典：専攻科学修計画書)

別紙 (専攻科 1 年生用)

専攻科・特別研究報告書	
提出年月日 平成 19 年 2 月 26 日	
氏名	
学籍番号	
特別研究の内容	
<small>指導教員と充分に相談の上、以下の項目を記載すること。</small>	
題 目	
動画像理解に関する研究	
研究内容 <small>この 1 年間の研究の内容を簡潔に示すこと。</small>	
<p>1 年間の特別研究の研究成果を以下に述べる。</p> <p>以前の動画像理解に関する研究では、移動物体の検出に背景差分を用いていた。しかし、背景差分は、背景部分の変化に弱いという弱点を持つ。よって我々は、背景部分の変化に強い、主成分分析を用いた移動物体の検出について考察を行った。シミュレーション実験の結果、それは有効であることが分かった。</p> <p>これからの課題としては、背景差分との組み合わせによる検出精度の向上、そして具体的な検出システムの作成などが挙げられる。</p> <p>なお、以上の結果は大島商船高等専門学校紀要論文集第 39 号に提出したので、報告する。(紀要論文提出日 平成 18 年 9 月 29 日)</p> <p>以上</p>	
指導教員 の所見 および評価	評価(優, 良, 可, 不可のいずれかを記入): 優
	所見: 常に努力を怠らず、纏山に成果を出しつづめる 

資料 5 - 7 - ① - 3

専攻科 学修成果レポート査読方針（査読審査教員用） 平成 18 年 8 月 22 日修正

大島商船高等専門学校 専攻科では、専攻科生の学修成果レポート作成の支援としてレポートの査読および模擬小論文試験を実施いたします。査読審査をご了解していただく教員の方には、下記の方針を熟読していただきますようお願いいたします。

査読審査教員は、以下のことを行っていただきます。

- (1) 学修成果レポート査読
- (2) 模擬小論文試験の練習用課題の作成
- (3) 模擬小論文試験の結果の総評

学修成果レポートの査読方針

以下に示す観点から査読審査を行ってください。

注意：学修成果レポートは、研究論文とは異なり最新の研究成果を示す必要はありません。また未知の知見を探求した内容である必要もありません。

真に求められることは、学生が自ら行った実験研究の結果や調査内容等に対して完璧に理解し、学生の理解の範囲で正しい日本語で分かり易く記述していることであると思われます。

- (1) 学修成果レポートとして成り立っているか、たとえば、研究の目的、実験や調査方法、考察、論議および結果、図表等が明確に且つ解りやすく記述されているか。
- (2) 日本語報告書としての完成度は十分か。（誤字脱字、読み易さ、文章構成等）
 - （修正意見の作成）

査読審査教員は以下に示す手順により学修成果レポートへの修正および意見を作成してください。

- (1) 学修成果レポートに直接書き込む場合は、必ず赤色のボールペン等を使用してレポートの余白部分に直接記入してください。
- (2) 余白がない場合は、別紙を用意して修正箇所を明確にして意見を記述してください。
- (3) 修正および意見等（レポートへの書き込みまたは別紙）を作成後、速やかに執筆者（専攻科生）に返却してください。

（注意：レポートの研究に関する内容については専攻科学生と特別研究担当教員で十分に検討が成されていますので、研究内容に関する大幅な加筆や削除の要求は絶対に行わないでください。しかし必要であれば、まずは特別研究担当教員と必ずご相談ください。

模擬小論文試験の練習用課題の作成（10月以降）

査読審査教員は、完成した学修成果レポートの内容より、小論文試験の練習用の課題をできるだけ多く（5~6テーマ以上）作成して特別研究担当教員に提出してください。

課題は学修成果レポートに記載されている事項について、専攻科生が手書きで A4 用紙 1~2 枚程度、90 分間（目安として 1 テーマあたり 45 分）で書ける内容のテーマを選んでください。（注意：課題内容を専攻科生には事前に知らせないこと。）

模擬小論文試験で作成された小論文の総評

査読審査教員は、模擬試験で記述された小論文の内容を審査、総評を専攻科生（担当教員）および担当の専攻科委員に書面で提出してください。

（注意：模擬小論文試験は専攻科委員会で行います。）

以上

（出典：学修成果レポート査読方針）

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

専攻科における、成績評価や単位認定及び修了認定については「大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」(資料5-8-①-1)が策定されている。学生及び教員への周知は、本校ホームページ内の本校の学則集、専攻科シラバスに記載され見ることができるようになっている。専攻科における成績の認定に関しては、専攻科委員会により審議し、教員全員が参加する成績会議で承認することとなっている。(資料5-8-①-2)

また成績評価に関しては取り扱いに関する要領が別途定められており、不可科目の再履修や特別研究の報告の手続き等がこの要領にしたがって実施運用されている。(資料5-8-①-3)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科では「大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」(資料5-8-①-1)が平成17年4月に策定、施行されている。また周知に関しては本校のホームページ上の学則集のページから自由に閲覧できるようになっている。また成績判定については、専攻科会議の審議及び成績会議での承認の審議を行っていることから成績評価、修了認定に関しては適切に行われていると考えられる。

大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大島商船高等専門学校学則第39条及び第41条の規定に基づき、大島商船高等専門学校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定める。

(単位の計算方法)

第2条 授業の1単位時間は、標準50分とし、単位制とする。

2 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び特別研究については、45時間の授業をもって1単位とする。

(履修方法)

第3条 専攻科に開設する授業科目の履修に当たっては、各学年当初に「受講科目履修届」（別様式第1号様式）を所定の期日までに専攻科主任を経由して専攻科長へ提出しなければならない。

(指導教官)

第4条 専攻科の学生は、各専攻の指導教官から授業科目の履修及び特別研究の指導を受けるものとする。

2 特別研究の指導については、専攻科委員会の承認を得て教育研究分野に関連のある他専攻の指導教官の指導を受けることができるものとする。

(試験)

第5条 専攻科の試験は、定期試験及び追試験（以下「定期試験等」という。）とする。

2 定期試験は、各学期末に実施する。

3 追試験は、次の各号の一つに該当する者のうち、「追試験受験願」（別様式第2号様式）を所定の期日までに専攻科主任を経由して専攻科長へ提出し、校長の許可を得た者に対し実施する。

- (1) 伝染病及び流行性疾患に罹患し受験できなかった者で、医師の診断書を添え欠席届を提出した場合
- (2) 忌引
- (3) その他やむを得ない事由があると校長が認めた場合

(成績の評価)

第6条 授業科目の評価は、科目ごとの試験の成績及び出席状況並びに平素の学習状況を総合して行うものとする。

2 成績の評価は、優、良、可及び不可の評語をもってし、次の評点区分による。

優	100点～80点
良	79点～66点
可	65点～60点
不可	59点以下

3 特別研究は、優、良、可及び不可をもって評価する。

第7条 各授業科目とも欠課時数が1単位当り3時間（授業時数の5分の1）を超えるものに対しては、成績の評価は原則として「不可」とする。

(単位の認定)

第8条 第6条の規定に基づき、優、良及び可に評価された授業科目については、当該科目を修得したものとして単位を認定する。

大島商船高等専門学校専攻科委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大島商船高等専門学校専攻科規則第4条の規定に基づき、大島商船高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割の編成に関する事。
- (2) 学生の教科履修に関する事。
- (3) 入学、退学、修了等に関する事。
- (4) 学生の学業成績に関する事。
- (5) 教育及び研究に関する事。
- (6) その他委員会において必要と認められた事項に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 専攻科長
 - (2) 教務主事
 - (3) 専攻科主任
 - (4) 各学科、一般科目で専攻科を担当する教員各1名
 - (5) 学生課長
 - (6) その他専攻科長が特に必要と認められた者
- 2 前項第4号及び第6号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 前項の委員に欠員を生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が議長の職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

(出典：大島商船高等専門学校規則集)

大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する取扱い要領（改正案）

この要領は、大島商船高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程（以下「履修規程」という。）第 12 条により、必要な事項を定める。

1. 定期試験の実施時期及び学習指導（履修規定第 5 条第 2 項関係）

- (1) 専攻科の定期試験期間は、学期末 14 週目の 1 週間とし、試験は授業時間内（2 時間）に実施する。
- (2) 試験実施後、学年末最終週（15 週目）に各科目担当教員は試験答案を返却し、問題の解説及び成績不良者への学習指導（再履修の説明）を行う。

2. 追試験の実施（履修規程第 5 条第 3 項関係）

- (1) 追試験は、出席日数が 4/5 以上であり、かつ試験期間前または試験期間中において、第 5 条 3 項の（1）～（3）の各号に該当した学生に対して実施する。
- (2) 怪我や入院などの事例の場合は第 5 条第 3 項（3）で対処する。
- (3) 企業面接及び大学院試験などで定期試験を受験できない場合は、専攻科委員会の承認がなくても追試験を認める。
- (4) 上記の項目に該当しない事例が発生した場合は専攻科委員会で審議し対処する。
- (5) 追試験の評価は、履修規程第 6 条及び第 7 条の規定によるものとする。
- (6) 不可と評価された場合は、その科目は次年度に再履修するように指導する。

3. 特別研究の評価（履修規則第 6 条関係）

- (1) 学生は学年末（8 月初め、2 月初め）に別紙 1（専攻科 1 年生用）「専攻科・特別研究報告書」（以下「1 年特別研究報告書」という。）を担当教員に提出し、担当教員は「1 年特別研究報告書」の内容及び必要に応じて平素の研究に対する取り組み状況を考慮して学生の特別研究の成績を評価し、「1 年特別研究報告書」に評価及び所見を記入して教務係に提出する。
- (2) 学生は最終学年の学年末に、特別研究の成果をまとめた「修了論文」を提出しなければならない。（修了論文の内容は、担当教員と学生の相談の上、決定する。）
- (3) 最終学年の学年末の特別研究の成績評価は、「修了論文」の内容及び必要に応じて平素の研究に対する取り組み状況を考慮して学生の特別研究の成績を評価し、別紙 2（専攻科 2 年生用）「専攻科・特別研究報告書」の評価及び所見のみを記入し、「修了論文」とともに教務係に提出する。
- (4) 特別研究の評価は、履修規程第 6 条第 2 項の規定によるものとする。

4. 再履修（履修規程第 9 条関係）

- (1) 再履修は、前年度において、第 6 条及び第 7 条により不可と評価された科目に対して次年度に実施する。

- (2) 学生は、再履修を申請，許可された授業科目の講義を必ず受講し，学期末の試験を受けなければならない。
 - (3) 再履修の際，次年度において他の授業科目の授業時間と重なるなどの理由で，再履修の授業を受講できない場合は，授業科目担当教員及び専攻科長と相談上，授業担当教員は該当学生に対して授業実施期間（前期及び後期）内の勤務時間内で，2単位時間分の補習授業又はそれに代わる学習指導（定期的なレポートの提出等）を適宜実施する。
 - (4) 授業科目担当教員は，該当学生の学力向上が認められた時点で学期末までに試験を実施，その結果により成績を評価する。
 - (5) 再履修した授業科目の成績評価は，履修規程第6条及び第7条の規定によるものとする。
 - (6) 前項で再評価された授業科目の評価をもって前年度の不可の評価を置き換えるものとする。
5. 他の教育施設等で履修した単位認定（履修規程第11条関係）
- (1) 本学専攻科入学以前に，既に大学及び他の高等専門学校の専攻科等で開設されている授業科目を履修している場合は，本専攻科の教育方針に沿った授業科目については修了単位として認める。
 - (2) 申請手続き及び認める単位数等は，履修規程第11条2項及び3項に準ずる。

附 則

この要領は，平成17年4月1日から施行する。

附 則

この要領は，平成19年1月31日から施行する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

<準学士課程>

- ・ 高学年に「学修単位科目」を導入したことにより「自学自習」の時間が時間割に設けられた。これにより、その教科の課題のみでなく、時間を有効利用するように学生自ら工夫して勉強するように取り計られている。
- ・ 創造性を育む授業が実施されているとともに、インターンシップへも積極的に参加し「探究心を養う」ように取り計られている。
- ・ 主に低学年の放課後に「補講時間」を設置し、各科目の補講・補習が実施しやすい環境を整えている。また、全教員にオフィスアワーが義務付けられているとともに、基礎学力不足の学生を対象に補習授業を実施している。
- ・ 外国語教育として英語の教育に重点を置いているとともに、第二外国語として「ドイツ語」のほかに「中国語」「ハンデル」も取り入れている。
- ・ 「学年会議」を取り入れており、学年ごとに学科、科目を問わず協議が行われている。

<専攻科課程>

- ・ 専攻科では単位制を採っており、評価基準も明確に決められ運用されている。
- ・ カリキュラムの編成については学位（学士）取得に十分な科目を配置しており、専攻科生が2年間の学修により無理なく単位を取得できるようになっている。
- ・ ボランティアおよびインターンシップについては、基本的に全員の参加を求めており、実施した時間に応じて単位として認定している。
- ・ シラバスについては、科目の目的、到達目標内容を明記しており、特に学位取得に必要な専門科目の選択において有用となっている。
- ・ 専攻科生の研究テーマの決定については、入学時に指導する教員との協議を十分にして専攻科在籍中（2年間）の計画書を自分で記入し提出、さらに1年次終了後に経過報告書の提出を求めている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準5の自己評価の概要

準学士課程では教育目的達成のため、低学年には一般科目を多く配置、高学年に専門科目を多く配置した構成となっている。また、学科ごとに教育目標を掲げている。

学生のニーズの多様化、社会情勢の変化の対応のため、学修単位科目の導入、インターンシップ実施、転科・転コース制度の確立、少人数授業の実施、補充教育の充実等を行っている。学修単位科目の導入や自学自習時間を設置し、教員の授業構成の工夫がしやすい環境とした。外国語教育では、英語を基本とし中国語やハンデルも選択できるようにした。補充教育では、補講時間を設置して補講・補習が実施しやすい環境を整え、全教員によるオフィスアワーを設置、学力不足の学生に対する補習を行うことができる。学年会議は、各学年担当教員による協議で、今後の学生指導の参考としている。

シラバスは全学生に配布、かつホームページで閲覧可能な状態である。シラバス活用では学生全員

に履修科目の内容をシラバスで確認して自分の履修届の提出を義務付ける制度とした。

成績評価・単位認定、進級・卒業認定では、本校規定により全教員参加の認定会議において審議している。定期試験等の答案は、電子データとして保存後、学生に返却して学習成果を自覚させている。

生活指導、課外活動、特別活動等では、ホームルーム、クラブ活動、学校行事等において人間の素養の涵養が図られるように実施している。学生相談室は、学生の相談窓口として機能している。また、本校独自の奨学金制度を確立、経済的に就学が困難な学生に対しての配慮も採られている。

専攻科課程では、教育目標達成のため、一般科目では技術者倫理やボランティアなどを配置している。専門科目では、準学士課程の専門科目教育の流れを保ち持続的に学修でき、商船学や工学の学位取得ができるカリキュラム体系を構築している。

インターンシップやボランティアを選択科目に配置、学生全員に履修を求めている。専攻科の研究指導では、入学時に学生自身が在学中の研究計画を提出、1年次修了後に経過報告書を提出し、学生の研究進行状況の把握が可能となっている。学位取得に必要な学修レポート（大学評価・学位授与機構に提出）の作成では、担当外の教員による査読指導、模擬論文試験実施を行っている。

専攻科の成績評価の規定を明確に定め、全教員参加の認定会議において審議している。また再履修の制度も有り、成績が芳しくない学生への対応もできている。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到に係る状況）

＜準学士課程＞

準学士課程では、本校の教育目的に沿ったカリキュラム構成において授業、実験・実習等が実施されている。さらに各学科に設けられた一般・専門科目を習得することで、卒業時に必要な学力や資質・能力を身に付けることができる。その履修内容においては、学年末に行われる全教員出席による卒業認定会議において審議される。卒業認定に関する規定を資料6-1-①-1に示す。この会議では、各科目の学業成績、一年間の欠課・早退・遅刻・欠席時数の資料が配布される。さらに学生一人一人の性格や行動を把握・評価するための資料として「性格及び行動評定表」（資料6-1-①-2）が配布される。これには、「基本的な生活習慣」、「自主性」、「責任感」、「協力性」、「公共心」の評価及び所見が記載されている。これらの資料から、卒業時に必要な単位数を取得した者を対象に、卒業するのにふさわしい人物であると認められた者に卒業を認定している。

卒業研究の評価基準に関しては、各学科で定めているが、基本的には指導教員が取り組み姿勢や成果などを70%、学科全教員による発表会での審査を30%として評価している（資料6-1-①-3）。

資料6-1-①-1

学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規定（抜粋）

第1章 総則

第1条 この規程は、大島商船高等専門学校における学業成績並びに進級及び卒業の認定等について定めることを目的とする。

第4章 学業成績の評価

第7条 学業成績は、その期間中の試験成績、平常の学習状態及び成績、出席状況等を総合して評価するものとする。

第5章 課程の修了

第14条 各学年における課程の修了の認定は、修了認定会議において審議のうえ、校長が行う。

第7章 卒業

第17条 卒業の認定は、卒業認定会議において審議のうえ、校長が行う。

2 各学科において、次の各号の全てに該当する者は原則として卒業を認める。

商船に関する学科においては

- (1) 4年6月の席上課程を修了した者
- (2) 卒業研究を修得した者
- (3) 実習課程を修了した者

工業に関する学科においては

- (1) 5年の課程を修了した者
- (2) 卒業研究を修得した者

出典：大島商船高等専門学校規則集（抜粋）

資料 6-1-①-2

「性格及び行動」の評定表（抜粋）

氏名	基本的な生活習慣	自主性	責任感	協力性	公共心	所見
		A				
			A	A		

出典：「性格及び行動」の評定表（抜粋）

資料 6-1-①-3

卒業研究シラバス（電子機械工学科 抜粋）

科目名称：卒業研究 (Graduation Studies)	授業担当教官名：電子機械工学科各教官
<p>授業の目的： 授業、演習、実験実習等で学んだ知識・技術を応用し、各自に与えられたテーマについて研究に取り組む。技術者として研究能力、開発能力などを養うと共に、論文の書き方および発表の仕方について学ぶ。さらに、創造的な研究活動を通じて、社会へ出てからも即戦力として活躍できる実践的な能力を養うことを目的としている。</p>	
<p>授業の概要： 学生は指導教官に配属され、研究室単位で卒業研究を行う。各研究室の研究テーマや受け入れ人数などが示され学生の希望などに基づいて配属が決定される。具体的な研究テーマについては、指導教官と相談する。前期末試験後に中間発表、学年末試験後に最終発表を行う。また、研究内容について「卒業論文」を執筆し、学科に提出する。</p>	
<p>評価方法： 指導教官が研究テーマの取り組み姿勢・目標達成度（70%）を評価し、学科の教官全員が発表（30%）の評価をする。</p>	

出典：平成 18 年度 電子機械工学科シラバス

< 専攻科課程 >

専攻科課程では、本校及び専攻科の教育目標の達成度および学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等を評価するため以下の取り組みを行っている。

- (1) 前期末及び年度末に行われる専攻科委員会並びに教員全員が参加する教官（成績）会議での学生の単位取得状況の審議（資料 6-1-①-4）
- (2) 在学中における研究スケジュールの設定及び学年末における研究の進行状況の報告（資料 6-1-①-5, -6）
- (3) 卒業研究の中間発表会及び最終発表会の実施（資料 6-1-①-7）
- (4) 大学評価・学位授与機構へ提出する学位申請に必要な学修レポートの作成時の査読制度（資料 6-1-①-8）

大島商船高等専門学校専攻科委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大島商船高等専門学校専攻科規則第4条の規定に基づき、大島商船高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割の編成に関する事。
- (2) 学生の教科履修に関する事。
- (3) 入学、退学、修了等に関する事。
- (4) 学生の学業成績に関する事。
- (5) 教育及び研究に関する事。
- (6) その他委員会において必要と認めた事項に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 専攻科長
 - (2) 教務主事
 - (3) 専攻科主任
 - (4) 各学科、一般科目で専攻科を担当する教員各1名
 - (5) 学生課長
 - (6) その他専攻科長が特に必要と認めた者
- 2 前項第4号及び第6号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 前項の委員に欠員を生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が議長の職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

出典：大島商船高等専門学校規則集

資料 6 - 1 - ① - 5


専攻科・学修資料-1-1

大島商船高等専門学校 専攻科 学修計画書-1

専攻科・学修計画の概要			
入学年度	平成 18年	提出年月日	平成 18 年 4 月 27 日
氏名			
連絡先	住所		
	電話 (携帯)	電子メール	
出身本科	<input type="checkbox"/> 商船学科 <input type="checkbox"/> 電子機械工学科 <input checked="" type="checkbox"/> 情報工学科 <input type="checkbox"/> その他()		
入学専攻	<input type="checkbox"/> 海洋交通システム学専攻	<input checked="" type="checkbox"/> 電子情報システム工学専攻	
取得希望の学士号	<input type="checkbox"/> 商船学	<input type="checkbox"/> 電気電子工学	<input checked="" type="checkbox"/> 情報工学
特別研究			
指導教員と充分に相談の上、以下の項目を記載すること。			
題 目			
動画理解に関する研究			
概 要	研究内容を解かり易く、簡潔に紹介すること。		
<p>近年、セキュリティ分野においてビデオカメラによる人物の行動監視が用いられている。 本研究では、動画像から人物及び人物の行動を認識し異常行動があった場合に通知するシステムを構築する。また照明変化に頑健な背景差分を利用して、より精度の高い人物抽出も行う。</p>			
計 画	学外発表を含む具体的な研究計画(スケジュール)について簡潔に記すこと。		
<p>06年4月～8月 基礎研究・研究理解 06年9月 紀要論文作成 07年9月上旬 学会発表 07年9月下旬 仕上げ・完成</p>			
指導教員 署名	岡村健史郎		

出典：専攻科学修計画書

別紙 (専攻科 1 年生用)

専攻科・特別研究報告書	
	提出年月日 平成 19 年 2 月 26 日
氏名	
学籍番号	
特別研究の内容	
指導教員と十分に相談の上、以下の項目を記載すること。	
題 目	
動画理解に関する研究	
研究内容	
この 1 年間の研究の内容を簡潔に示すこと。	
<p>1 年間の特別研究の研究成果を以下に述べる。</p> <p>以前の動画理解に関する研究では、移動物体の検出に背景差分を用いていた。しかし、背景差分は、背景部分の変化に弱いという弱点を持つ。よって我々は、背景部分の変化に強い、主成分分析を用いた移動物体の検出について考察を行った。シミュレーション実験の結果、それは有効であることが分かった。</p> <p>これからの課題としては、背景差分との組み合わせによる検出精度の向上、そして具体的な検出システムの作成などが挙げられる。</p> <p>なお、以上の結果は大島商船高等専門学校紀要論文集第 39 号に提出したので、報告する。(紀要論文提出日 平成 18 年 9 月 29 日)</p> <p>以上</p>	
指導教員の所見 および評価	評価(優, 良, 可, 不可のいずれかを記入): 優
	所見: 常に努力を怠らず、優れた成果を出してほしい。 

資料 6-1-①-7

大島商船高等専門学校
専攻科 電子・情報システム工学専攻

平成 18 年度 特別研究発表会

平成 19 年 2 月 15 日 (木) 13:30～

持ち時間	発表	質疑応答	ペル		
			連続
15 分	10 分	5 分	7 分	10 分	15 分

タイムテーブル

番号	開始時刻	氏名	発表題目	指導教員
	13:30		開会	
1	13:40		平書き宛名画像を対象とした住所認識	岡村先生
2	13:55		中国語鼻音/an/・/ang/における 発音弁別に関する考察	福田先生
3	14:10		不均一な通信環境における モバイルエージェント再送機能の有効性評価	浦上先生
4	14:25		逆上がりする人形により検証した 逆上がりの一方法	岡野内先生
5	14:40		Cell Illustrator における 計算環境支援ツールの開発と検討	北風先生
	14:55		閉会	
	15:00		専攻科生との懇談会	

〔本会参加者へのお知らせ〕

- 発表者は、発表時間を厳守すること。
- 本会参加者は、発表内容について今後の学会発表および学術論文等への記載を予定している内容を含みますので、しばらくの間、発表内容に関する情報公開を控えていただくようお願いいたします。(守秘義務)。
- 専攻科生との懇談会(15:00～)では、専攻科生および担当教員との懇談を予定しております。どなたでも参加可能です。

出典：平成 18 年度専攻科最終発表会予稿集表紙

資料 6-1-①-8

専攻科 特別研究担当者各位

平成 18 年 8 月 22 日改定

文責：比嘉

専攻科 学修成果レポートの学内審査および模擬小論文試験の実施について

大島商船高専、電子・情報システム工学専攻科第 1 期生の学位授与機構への学修成果レポートの提出が平成 18 年 10 月 2 日～7 日、海洋交通システム学専攻 1 期生は 4 月上旬となっております。

専攻科委員会としては専攻科生の学修成果レポート作成および小論文試験対策の支援を目的として、学修成果レポートの提出前の査読および模擬小論文試験を専攻科の制度として、今年度より実施いたします。実施方法について以下に示します。

○ 実施方法について

1. 査読審査の教員の選任

(工業：平成 18 年度は 8 月上旬，19 年度以降は 6 月～7 月，海洋：12 月～1 月)

査読審査の教員の選任について

- (1) 専攻科学生と特別研究担当教員の協議の上、査読審査を行う教員を決める。
(教員は本学の教職員とし、専門性より海洋系は商船学科の教員、工業系は電子機械工学科および情報工学科の教員の中から決めてください。また一般科目の教員も選ぶことは可能です。)
- (2) 専攻科学生本人が査読審査を行う教員に対して査読の趣旨を説明し、査読および審査への了解を得る。
- (3) 特別研究指導教員は、査読審査を行う教員の了解が得られた上で、専攻科委員会に報告する。
- (4) 専攻科委員会は推薦された査読審査教員を審議、選任する。(専攻科委員会の議を経て、選任時期が早くなることもある。また専攻科委員により選任された査読教員に対する査読の方針等の説明を行います。)

2. 学修成果レポートの査読

(工業：平成 18 年度は 8 月中旬～9 月，19 年度以降は 8 月～9 月中，海洋：2 月～3 月)

査読審査教員は、学修成果レポートの下記の観点から査読し意見を示す。

- (1) 学修成果レポートとしての完成度(目的、実験調査方法、考察論議、結果および図表等が明確に且つ解りやすく記述されているか。)
- (2) 日本語報告書としての完成度は十分か。(誤字脱字、読み易さ、文章構成等)

以上の観点から査読を行い、意見を付けて専攻科生および特別研究担当教員に報告する。専攻科生はその意見を参考に修正等を行い、学位授与機構へ提出する。

3. 模擬小論文試験の実施(専攻科委員で対応)

(工業：10 月～11 月，海洋は 4 月～5 月)

- (1) 査読審査教員は、学位授与機構へ提出された最終版の学修成果レポートの内容から、小論文試験の練習となる課題をできるだけ多く(5～6 テーマ以上)作成する。(模擬小論文試験用の課題は特別研究担当教員が作成。)
- (2) 実際の試験時間に合わせ、教室で模擬小論文試験を実施する。
- (3) 模擬小論文試験の結果については査読審査員および特別研究担当教員が判定を行う。専攻科学生が決められた時間内に課題に対して回答できているか、内容は十分かなどについて検討し、その結果を基に適宜専攻科生を指導する。

以上

出典：専攻科の学修レポート査読要領

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程，専攻科課程ともに学生が卒業（修了）時に身につける学力，資質・能力，人物像等について示されている。その達成状況は，卒業・修了認定会議において，学業成績のみならず，性格及び行動評定表も配布され，全教員の面前において適切に明示・評価されており，適切に取組まれている。

専攻科における取り組み（１）～（４）に挙げる主な項目により学生の在学中における学習状況および卒業研究の進行状況について，専攻科生を直接担当する教員だけでなく専攻科担当以外の教員を含めた者で，学修状況及び技術者として資質・能力をチェックする取り組みを採っていることがわかる。よって基準を満たしている。

観点6-1-②：各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

<準学士課程>

本校では、現代のニーズに合うように平成18年度にカリキュラムの改定を行った。準学士課程における在学・休学・退学・留年状況を資料6-1-②-1に示す。年度によりばらつきが見られるが、毎年9割以上の学生が進級している。また、本校では、転科（2年終了時）と転コース（商船学科2年終了時）制度を認めており、学科やコースが自分に合わない学生においても対応できる体制を採っている。

留年者の内、進路変更等による自主退学を除いては、最終的にほとんどの者が卒業しており、責任ある教育活動が行われている。

資料6-1-②-1

在学・休学者・退学者・留年者の状況（準学士課程）

平成14年度 在学状況（準学士課程）

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
商船学科	36	3	39	27	11	38	28	4	32	37	6	43	28	3	31	26	0	26	156	27	183	182	27	209
電子機械工学科	39	5	44	31	10	41	36	6	42	29	9	38	32	4	36				167	34	201	167	34	201
情報工学科	18	23	41	16	25	41	20	22	42	17	19	36	13	20	33				84	109	193	84	109	193
合計	93	31	124	74	46	120	84	32	116	83	34	117	73	27	100	26	0	26	407	170	577	433	170	603

平成14年度 休学状況（準学士課程）

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]
商船学科	39	0	0	38	1	2.6	32	0	0	43	0	0	31	0	0	26	0	0	183	1	0.5	209	1	0.5
電子機械工学科	44	0	0	41	0	0	42	1	2.4	38	0	0	36	0	0				201	1	0.5	201	1	0.5
情報工学科	41	0	0	41	1	2.4	42	0	0	36	0	0	33	0	0				193	1	0.5	193	1	0.5
合計	124	0	0	120	2	1.7	116	1	0.9	117	0	0	100	0	0	26	0	0	577	3	0.5	603	3	0.5

平成14年度 退学状況（準学士課程）

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]
商船学科	39	0	0	38	1	2.6	32	2	6.3	43	0	0	31	0	0	26	0	0	183	3	1.6	209	3	1.4
電子機械工学科	44	0	0	41	0	0	42	2	4.8	38	1	2.6	36	3	8.3				201	6	3.0	201	6	3.0
情報工学科	41	3	7.3	41	0	0	42	4	9.5	36	1	2.8	33	0	0				193	8	4.1	193	8	4.1
合計	124	3	2.4	120	1	0.8	116	8	6.9	117	2	1.7	100	3	3.0	26	0	0	577	17	2.9	603	17	2.8

平成14年度 留年状況（準学士課程）

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]
商船学科	39	2	5.1	38	1	2.6	32	1	3.1	43	0	0	31	0	0	26	0	0	183	4	2.2	209	4	1.9
電子機械工学科	44	2	4.5	41	1	2.4	42	2	4.8	38	0	0	36	1	2.8				201	6	3.0	201	6	3.0
情報工学科	41	0	0	41	0	0	42	2	4.8	36	0	0	33	0	0				193	2	1.0	193	2	1.0
合計	124	4	3.2	120	2	1.7	116	5	4.3	117	0	0	100	1	1.0	26	0	0	577	12	2.1	603	12	2.0

資料6-1-②-1 (続き)

平成15年度 在学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
商船学科	41	4	45	36	3	39	25	11	36	26	3	29	37	6	43	28	3	31	165	27	192	193	30	223
電子機械工学科	45	3	48	38	5	43	32	11	43	32	4	36	30	8	38				177	31	208	177	31	208
情報工学科	23	26	49	16	22	38	18	25	43	19	19	38	16	19	35				92	111	203	92	111	203
合計	109	33	142	90	30	120	75	47	122	77	26	103	83	33	116	28	3	31	434	169	603	462	172	634

平成15年度 休学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]
商船学科	45	0	0	39	1	2.6	36	0	0	29	0	0	43	0	0	31	0	0	192	1	0.5	223	1	0.4
電子機械工学科	48	0	0	43	1	2.3	43	1	2.3	36	0	0	38	0	0				208	2	1.0	208	2	1.0
情報工学科	49	0	0	38	0	0	43	0	0	38	0	0	35	1	3				203	1	0.5	203	1	0.5
合計	142	0	0	120	2	1.7	122	1	0.8	103	0	0	116	1	1	31	0	0	603	4	0.7	634	4	0.6

平成15年度 退学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]
商船学科	45	3	7	39	4	10.3	36	3	8.3	29	1	3.4	43	0	0	31	0	0	192	11	5.7	223	11	4.9
電子機械工学科	48	1	2	43	2	4.7	43	4	9.3	36	0	0	38	0	0				208	7	3.4	208	7	3.4
情報工学科	49	2	4.1	38	2	5.3	43	5	11.6	38	2	5.3	35	1	2.9				203	12	5.9	203	12	5.9
合計	142	6	4.2	120	8	6.7	122	12	9.8	103	3	2.9	116	1	0.9	31	0	0	603	30	5.0	634	30	4.7

平成15年度 留年状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]
商船学科	45	0	0	39	0	0	36	0	0.0	29	0	0	43	0	0	31	0	0	192	0	0	223	0	0
電子機械工学科	48	2	4.2	43	0	0	43	1	2.3	36	0	0	38	0	0				208	3	1.4	208	3	1.4
情報工学科	49	0	0	38	0	0	43	0	0.0	38	1	2.6	35	0	0				203	1	0.5	203	1	0.5
合計	142	2	1.4	120	0	0	122	1	0.8	103	1	1.0	116	0	0	31	0	0	603	4	0.7	634	4	0.6

資料6-1-②-1 (続き)

平成16年度 在学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
商船学科	32	7	39	38	5	43	32	2	34	24	8	32	25	3	28	37	6	43	151	25	176	188	31	219
電子機械工学科	40	3	43	42	3	45	38	6	44	28	9	37	32	4	36				180	25	205	180	25	205
情報工学科	13	29	42	21	26	47	17	20	37	17	23	40	18	18	36				86	116	202	86	116	202
合計	85	39	124	101	34	135	87	28	115	69	40	109	75	25	100	37	6	43	417	166	583	454	172	626

平成16年度 休学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]
商船学科	39	0	0	43	0	0	34	0	0	32	0	0	28	0	0	43	0	0	176	0	0	219	0	0
電子機械工学科	43	0	0	45	0	0	44	0	0	37	0	0	36	0	0				205	0	0	205	0	0
情報工学科	42	0	0	47	0	0	37	0	0	40	0	0	36	0	0				202	0	0	202	0	0
合計	124	0	0	135	0	0	115	0	0	109	0	0	100	0	0	43	0	0	583	0	0	626	0	0

平成16年度 退学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]
商船学科	39	1	2.6	43	1	2.3	34	1	2.9	32	1	3.1	28	1	3.6	43	1	2.3	176	5	2.8	219	6	2.7
電子機械工学科	43	2	4.7	45	1	2.2	44	3	6.8	37	0	0	36	0	0				205	6	2.9	205	6	2.9
情報工学科	42	1	2.4	47	0	0	37	1	2.7	40	3	7.5	36	0	0				202	5	2.5	202	5	2.5
合計	124	4	3.2	135	2	1.5	115	5	4.3	109	4	3.7	100	1	1.0	43	1	2.3	583	16	2.7	626	17	2.7

平成16年度 留年状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]
商船学科	39	1	2.6	43	0	0	34	1	2.9	32	0	0	28	0	0	43	0	0	176	2	1.1	219	2	0.9
電子機械工学科	43	0	0	45	0	0	44	1	2.3	37	3	8.1	36	0	0				205	4	2.0	205	4	2.0
情報工学科	42	1	2	47	0	0	37	1	2.7	40	0	0	36	0	0				202	2	1.0	202	2	1.0
合計	124	2	1.6	135	0	0	115	3	2.6	109	3	2.8	100	0	0	43	0	0	583	8	1.4	626	8	1.3

資料 6-1-②-1 (続き)

平成17年度 在学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
商船学科	36	7	43	30	7	37	39	5	44	31	1	32	23	8	31	25	3	28	159	28	187	184	31	215
電子機械工学科	40	4	44	38	3	41	42	3	45	37	6	43	25	9	34				182	25	207	182	25	207
情報工学科	22	18	40	13	27	40	22	26	48	16	19	35	16	21	37				89	111	200	89	111	200
合計	98	29	127	81	37	118	103	34	137	84	26	110	64	38	102	25	3	28	430	164	594	455	167	622

平成17年度 休学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]
商船学科	43	0	0	37	0	0	44	1	2.3	32	0	0	31	0	0	28	0	0	187	1	0.5	215	1	0.5
電子機械工学科	44	0	0	41	0	0	45	0	0	43	0	0	34	0	0				207	0	0.0	207	0	0
情報工学科	40	1	2.5	40	0	0	48	0	0	35	0	0	37	1	2.7				200	2	1.0	200	2	1.0
合計	127	1	0.8	118	0	0	137	1	0.7	110	0	0	102	1	1	28	0	0	594	3	0.5	622	3	0.5

平成17年度 退学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]
商船学科	43	2	4.7	37	0	0	44	1	2.3	32	0	0	31	0	0	28	0	0	187	3	1.6	215	3	1.4
電子機械工学科	44	0	0	41	0	0	45	1	2.2	43	1	2.3	34	2	5.9				207	4	1.9	207	4	1.9
情報工学科	40	0	0	40	1	2.5	48	4	8.3	35	0	0	37	0	0				200	5	2.5	200	5	2.5
合計	127	2	1.6	118	1	0.8	137	6	4.4	110	1	0.9	102	2	2.0	28	0	0	594	12	2.0	622	12	1.9

平成17年度 留年状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]
商船学科	43	3	7.0	37	1	2.7	44	1	2.3	32	0	0	31	0	0	28	0	0	187	5	2.7	215	5	2.3
電子機械工学科	44	2	4.5	41	0	0	45	1	2.2	43	0	0	34	0	0				207	3	1.4	207	3	1.4
情報工学科	40	1	2.5	40	0	0	48	0	0	35	1	2.9	37	0	0				200	2	1.0	200	2	1.0
合計	127	6	4.7	118	1	0.8	137	2	1.5	110	1	0.9	102	0	0	28	0	0	594	10	1.7	622	10	1.6

資料 6-1-②-1 (続き)

平成18年度 在学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
商船学科	40	2	42	32	7	39	31	7	38	37	4	41	31	1	32	23	8	31	171	21	192	194	29	223
電子機械工学科	43	4	47	38	4	42	40	3	43	41	2	43	36	6	42				198	19	217	198	19	217
情報工学科	26	25	51	20	18	38	14	26	40	19	26	45	16	19	35				95	114	209	95	114	209
合計	109	31	140	90	29	119	85	36	121	97	32	129	83	26	109	23	8	31	464	154	618	487	162	649

平成18年度 休学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]	在学	休学	率[%]
商船学科	42	0	0	39	0	0	38	0	0	41	0	0	32	0	0	31	0	0	192	0	0	223	0	0
電子機械工学科	47	1	2.1	42	0	0	43	0	0	43	1	2.3	42	0	0				217	2	0.9	217	2	0.9
情報工学科	51	0	0	38	0	0	40	1	2.5	45	1	2.2	35	0	0				209	2	1.0	209	2	1.0
合計	140	1	0.7	119	0	0	121	1	0.8	129	2	1.6	109	0	0	31	0	0	618	4	0.6	649	4	0.6

平成18年度 退学状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]	在学	退学	率[%]
商船学科	42	1	2.4	39	1	2.6	38	0	0	41	0	0	32	0	0	31	0	0	192	2	1.0	223	2	0.9
電子機械工学科	47	1	2.1	42	0	0	43	1	2.3	43	0	0	42	0	0				217	2	0.9	217	2	0.9
情報工学科	51	2	3.9	38	2	5.3	40	6	15.0	45	1	2.2	35	0	0				209	11	5.3	209	11	5.3
合計	140	4	2.9	119	3	2.5	121	7	5.8	129	1	0.8	109	0	0	31	0	0	618	15	2.4	649	15	2.3

平成18年度 留年状況(準学士課程)

	1学年			2学年			3学年			4学年			5学年			商船実習生			計(実習生含まず)			計(実習生含む)		
	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]	在学	留年	率[%]
商船学科	42	6	14.3	39	3	7.7	38	1	2.6	41	1	2.4	32	0	0	31	0	0	192	11	5.7	223	11	4.9
電子機械工学科	47	1	2.1	42	0	0	43	0	0	43	1	2.3	42	0	0				217	2	0.9	217	2	0.9
情報工学科	51	0	0	38	1	2.6	40	0	0	45	1	2.2	35	0	0				209	2	1.0	209	2	1.0
合計	140	7	5.0	119	4	3.4	121	1	0.8	129	3	2.3	109	0	0	31	0	0	618	15	2.4	649	15	2.3

出典：平成14年度～平成18年度在学・休学者・退学者・留年者の状況(準学士課程)

本校では、資料 6-1-②-2 に示すように、各資格試験の内容及び級別において単位認定を行っている。資格試験の受験については、各学生の意志に任せてあるが、可能な限り受験するように指導を行っている。平成 13 年度から 17 年度までの 5 年間の各資格試験の取得状況を資料 6-1-②-3 に示す。単位認定がされない資格試験においても、積極的に受験し、取得していることが分かる。商船学科の学生は、学科の特徴を生かし、海事に関する資格を多く取得している。電子機械工学科と情報工学科の学生は、情報系の資格を多く取得している。なお、平成 18 年度については、航海実習中の学生がいるため、現在調査中である。

資料 6-1-②-2

別表

◎実用英語技能検定

級 別	準 2 級	2 級	準 1 級	1 級	単位算入の区分	
					商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	3	5	7	一般科目	一般科目
追加認定単位数		2	2	2		

◎工業英語能力検定

級 別	3 級	2 級	1 級	単位算入の区分	
				商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	3	7	一般科目	専門科目
追加認定単位数		2	4		

◎画像情報技能検定 CG 部門

級 別	2 級	1 級	単位算入の区分	
			商船系	工業系
認 定 単 位 数	2	4	専門科目	専門科目
追加認定単位数		2		

◎ラジオ・音響技能検定

級 別	3 級	2 級	1 級	単位算入の区分	
				商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	2	4	専門科目	専門科目
追加認定単位数		1	2		

◎デジタル技術検定

級 別	2 級	1 級	単位算入の区分	
			商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	3	専門科目	専門科目
追加認定単位数		2		

◎情報処理活用能力検定

級 別	準 2 級	2 級	1 級	単位算入の区分	
				商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	2	3	専門科目	専門科目
追加認定単位数		1	1		

◎情報活用試験・情報システム試験

種類及び級	情報活用試験 (1 級)	情報システム試験 (プログラマ認定)	情報システム試験 (システムエンジニア認定)	単位算入の区分	
				商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	2	3	専門科目	専門科目
追加認定単位数		1	1		

◎実用数学技能検定

級 別	準 2 級	2 級	準 1 級	1 級	単位算入の区分	
					商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	2	3	5	一般科目	一般科目
追加認定単位数		1	1	2	専門科目	専門科目

出典：大島商船高等専門学校規則集

資格試験合格者数

資格名	等級	単位数	17年度	16年度	15年度	14年度	13年度	合計
海上特殊無線技士	1級		4	16		13	5	38
	2級					1		1
海技士(航海)	2級					1	3	4
海技士(機関)	2級				1	1	2	4
小型船舶操縦士	1級		10	11	22	9	24	76
	2級				6			6
ボイラ技師	4級					1		1
情報処理活用能力検定	1級	3						0
	2級	2	5	5	8	6		24
	準2級	1	42	17	22	16		97
	3級		9	2	12	3		26
画像情報技能試験(CG部門)	2級	2			8	9	11	28
	3級				6	20	17	43
画像情報技能試験(IP部門)	2級		2		1	2		5
	3級				12	9		21
画像情報技能試験(MM部門)	2級				2		3	5
	3級				4		5	9
画像情報技能試験(IP部門)	3級					10		10
画像処理検定	2級					1		1
	3級					4		4
マルチメディア検定	2級					4		4
	3級					1		1
パーソナルコンピュータ利用技術認定	3級						10	10
	4級					1	21	22
世界共通のコンピュータ検定(Excel 2000)	一般					3		3
世界共通のコンピュータ検定(Excel 2002)	一般					2		2
CAD利用技術者試験	2級		7	5	9	9	8	38
デジタル検定 情報部門	2級	1	1	14	25	15	3	58
	3級					2		2
デジタル検定 制御部門	2級	1		1	1			2
ラジオ・音響技能検定	3級						1	1
危険物取扱者	乙種第4類		9	2		11	24	46
工業英語能力検定	3級	1		2			5	7
	4級			9	4		30	43
実用英語技能検定	2級	3	2	1	1		2	6
	準2級	1		14	16	11	23	64
	3級		2			5	1	8
日本漢字能力検定	2級		2	1	5	1		9
	準2級		14	12	20	19		65
実用数学技能検定	2級	2		1				1
	準2級	1		9	5	2		16
	3級							0
合 計			109	122	190	192	198	811

出典：資格試験合格者数

卒業研究においては、指導教員が取り組み姿勢や成果、卒業論文の完成度など評価するとともに、卒業研究発表会にて発表内容、質疑応答の受け答え、発表態度など総合的な面から学科全教員による審査が行われている。資料：6-1-②-4 は、電子機械工学科の評価項目を示す。また、発表時に答えることができなかった質疑等に関しては、終了後、レポート等により提出するように指導している。その一例を資料 6-1-②-5 に示す。したがって、卒業研究では、学生が身につける学力や資質・能力が総合的に育成され、評価されている。

資料 6-1-②-4

電子機械工学科卒業研究発表の評価項目

下記の 3 項目について 1 項目あたり 5 点満点で採点し、別紙に記入してください。

基準値の参考・・・ 5 点：優， 4 点：良， 3 点：可， 2～0 点：不可。

評価項目

発表者の頭髪・服装などに乱れはなかったか？

発表者は原稿を読まず、指示棒の指し方などが適切であったか？

発表者の声の大きさは適切であり、自信を持って説得力のある態度であったか？

発表者は OHP などを見やすく作成し、図・表を適切に表現していたか？

発表時間は適切であったか？

発表者は質疑の内容を理解し、適切な応答ができたか？

出典：電子機械工学科ホームページ

資料 6-1-②-5

質疑応答に対する回答例

M5 15 〇〇〇〇

〇〇先生

ご質問について回答致します。

1) 見かけの空気速度と実際の速度の違い？

見かけの空気速度はキャンパスを通過する断面平均空気速度として定義しています。

その、計算方法は、連続の式を用いて次のように求めています。

$$U_a = Q_t / A$$

ここで、 U_a は見かけの空気速度、 Q_t はキャンパス底部に流入する空気流量、 A はキャンパスの通過断面積です。

次に、実際の速度とは、キャンパスを通過した局所空気速度を考えることができます。

みかけの空気速度と局所空気速度に差異があることが、考えられますが、本研究の現在の設備では局所空気速度の計測は困難ですので、見かけの空気速度で評価を行っています。

出典：学生レポート

<専攻科課程>

専攻科では、修了に必要な 62 単位を取得するため、1 年次において約 40～46 単位の取得を、2 年次においては 12 単位（卒業研究を含む）を履修し修得することを求めている。（資料 6-1-②-6）現在のところ成績不良による留年及び退学者は出していない。

教育の効果については、海洋交通システム学専攻の第一期生の卒業研究の学会賞の受賞（資料 6-1-②-7）、平成 19 年 3 月に本校専攻科を修了した電子・情報システム工学専攻の第一期生の専攻科修了生（6 名）は、全員が修了に必要な 62 単位以上を修得し、さらに大学評価・学位授与機構の審査により学位審査に合格して全員学位（学士）を取得している（資料 6-1-②-8）。

また、進学就職状況について、平成 19 年 3 月修了の専攻科生については 3 名の進学、3 名の就職者となっている（資料 6-1-②-9）。

平成17～18年度 専攻科 単位履修および修得状況

氏名	平成17年度秋期(10月～3月)										平成18年度春期(4月～9月)																					
	履修単位数					修得単位数					履修単位数					修得単位数																
	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考		
2年次	16	4	16					4							16	4	16							16	4	16						
	16	4	8	3				2							16	4	8	3						16	4	8	3					
	16	4	10	4	2			2							16	4	10	4	2					16	4	10	4	2				
	18	2	14	4				2							18	2	14	4						18	2	14	4					
	16	4	16					2							16	4	16							16	4	16						
1年次	14	4	12	2				4							14	4	12	2						14	4	12	2					
	平成18年度秋期(10月～3月)																															
	18	2	18					2							18	2	18							18	2	18						
	18	2	18	8	10										18	2	18	8	10					18	2	18	8	10				
	18	4	18					2							18	4	18							18	4	18						
20	2	20					2							20	2	20							20	2	20							
18	2	18					2							18	2	18							18	2	18							
氏名	平成18年度秋期(10月～3月)																															
	10	1	10					1							10	1	10							10	1	10						
	10	0	10												10	0	10							10	0	10						
	6	1	6					1							6	1	6							6	1	6						
	10	1	8					1							10	1	8							10	1	8						
8		8												8		8							8		8							
氏名	平成18年度春期(4月～9月)																															
	12	4	14					4							12	4	14							12	4	14						
	12	4	14					4							12	4	14							12	4	14						
	平成18年度秋期(10月～3月)																															
	平成18年度春期(4月～9月)																															
専攻科 単位履修および修得状況																																

出典：専攻科単位履修および修得状況

資料 6 - 1 - ② - 6 (続き)

平成17年度前期(4月～9月)													修得単位数合計			
氏名	専攻科目			専門科目			一般科目			修得単位数			専攻科目	一般科目	合計	
	履修単位数	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可				備考
	22	2	22										2	2	24	
	18	2	18										2	18	20	
	22	4	16			4							2	18	22	
	22	2	18										2	22	24	
	20	2	14										2	20	22	
	22	4	12			4							4	22	26	
平成17年度後期(10月～3月)													修得単位数合計			
氏名	専攻科目			専門科目			一般科目			修得単位数			専攻科目	一般科目	合計	
	履修単位数	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可				備考
	16	5	16											16	5	21
	26	5	14		10						2			26	5	31
	15	5	12		1		インターンシップ							15	5	20
	18	4	16											18	4	20
	16	4	14								2			16	4	20
	20	2	12		8						2			20	2	22
平成18年度前期(4月～9月)													修得単位数合計			
氏名	専攻科目			専門科目			一般科目			修得単位数			専攻科目	一般科目	合計	
	履修単位数	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可				備考
	4	0	2											4	0	4
	0	0	0											0	0	0
	10	0	8			2								8	0	8
	8	0	8											8	0	8
	8	0	8											8	0	8
	4	0	4											4	0	4
平成18年度後期(10月～3月)													修得単位数合計			
氏名	専攻科目			専門科目			一般科目			修得単位数			専攻科目	一般科目	合計	
	履修単位数	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定	不可				備考
	16	0	16											16	0	16
	12	0	12											12	0	12
	14	0	14											14	0	14
	14	1	14					1						14	1	15
	14	1	14					1						14	1	15
	12	0	12											12	0	12

電子・情報システム工学専攻

2年次

出典：専攻科単位履修および修得状況

資料 6 - 1 - ② - 6 (続き)

氏名	平成18年度前期(4月～9月)												修得単位数合計				
	履修単位数				専門科目				一般科目				専門科目	一般科目	合計		
	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定				不可	備考
	18	2	14	2	2										18	2	20
	18	4	18	2	2										18	4	22
	14	0	14												14	0	14
	18	4	14	2	2										18	4	22
	12	2	6	6											12	2	14
	18	2	6	8		4									14	2	16
	12	2	10	2											12	2	14
	14	2	6	4	2										12	2	14
	14	2	8	6											14	2	16
1年次																	
	平成18年度後期(10月～3月)												修得単位数合計				
	履修単位数				専門科目				一般科目				専門科目	一般科目	合計		
氏名	専門科目	一般科目	優	良	可	認定	不可	備考	優	良	可	認定				不可	備考
	25	4	24						2	2					25	4	29
	22	2	22		1				2	2					22	2	24
	22	5	20	2					5	5				ボランテア	22	5	27
	23	2	22		1										22	2	25
	26	2	22	2	2				2	2					23	2	25
	23	2	18	4						2					26	2	28
	23	4	22		1					2					23	2	25
	26	2	14	6	2	2			4	4					23	4	27
	25	2	18	4	2	1				2			2		24	2	26
															25	0	25

電子・情報システム工学専攻

出典：専攻科単位履修および修得状況

専攻科生 最優秀講演論文賞受賞

平成18年10月10日（火）、富山で開催された日本航海学会第1回学生講演会において、本校専攻科海洋交通システム学専攻の [] が最優秀講演論文賞を受賞しました。この学生講演会は、商船高専専攻科生に論文発表の場を提供するために今年度より始まったもので、全国商船高専専攻科生8名の発表がありました。

本校からは海洋交通システム学専攻3名の発表があり、 [] の発表「会話インターフェースを用いた航海当直支援システムの作成について」が、みごと最優秀講演論文賞を受賞しました。そのほか本校より「保持船協力動作の行動についての考察」「油送船事故の要因分析について」 [] が発表しました。



資料 6 - 1 - ② - 7 (続き)

専攻科生中村さん 日本機械学会フェロー賞受賞

平成19年3月7日に開催された日本機械学会中国四国支部第45期総会・講演会において、大島商船高等専門学校専攻科海洋交通システム学専攻2年が、「付着性粉体を対象とした半軸対称ホッパーの内部圧力と流動構造」と題し講演を行い、日本機械学会フェロー賞（若手優秀講演）を受賞しました。

この賞は、内容が有益で新規性があり、また、発表の態度に優れ、若手研究者として将来の発展が期待される講演に対して送られるもので、講演内容や発表態度が認められての受賞となりました。

指導教員の商船学科川原准教授とともに和氣校長を訪れ、受賞の経緯や研究発表の内容、今後の進路等について報告を行いました。



出典：本校 HP

資料6-1-②-8

専攻科会議資料

平成19年2月21日

文責：比嘉

○ 平成18年度 電子・情報システム工学専攻 小論文試験結果

氏名	学籍番号	小論文試験 結果(可、不可)
	605001	可
	605002	可
	605003	可
	605004	可
	605005	可
	605006	可

今後の手続き

本校より全員の単位取得証明書を学位授与機構に送付(3月中)。機構側の単位取得状況審査で可であれば、学位(学士)が認められる。学位記は各学生の自宅に送付される。

出典：専攻科委員会資料：平成19年2月21日実施

Q & A

Q.1 専攻科修了後の資格や進路は？

A.1 専攻科を修了すると学士(商船学)あるいは学士(工学)の学位を取得でき、4年制大学の学部卒業者と同一資格で就職することができます。

また、大学院入学資格が得られますので、大学院修士課程へ進学することもできます。

Q.2 専攻科の学費は？

A.2 高等専門学校の本科と同額なため、国立の4年制大学と比べて半額程度ですみます。

大学院に進学を希望する学生も専攻科の活用により、学費の安い専攻科に自宅や寮から通い、他地域の大学院進学後は奨学金の受給により経済的問題を克服することができます。

	高等専門学校専攻科	国立大学3年次編入
入 学 料	84,600円	282,000円
授 業 料 (年額)	234,600円	535,800円
学位授与機構の審査手数料	22,000円	
合 計	341,200円	817,800円

(いずれも平成19年4月からの予定金額)

進学・就職状況

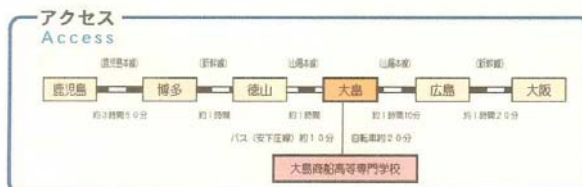
【平成19年3月電子・情報システム工学専攻修了者】

区 分	進学先又は就職先
進学者	3名 電気通信大学大学院・北陸先端科学技術大学院大学・九州工業大学大学院
就職者	3名 (株)中国警備保障・帝人ファーマ(株)・Enterprise Technology(Pvt)Ltd

【平成19年9月海洋交通システム学専攻修了予定者】

区 分	就 職 先
就職者	4名 (社)日本海事検定協会・(株)鹿児島船舶・東ソー物流(株)・(株)日之出郵船

アクセス



大島商船高等専門学校

〒742-2193
山口県大島郡周防大島町大字小松 1091-1
TEL : (0820) 74-5473 (学生課教務係)
FAX : (0820) 74-5554 (学生課教務係)
URL : <http://www.oshima-k.ac.jp/>

(分析結果とその根拠理由)

<準学士課程>

進級状況に関しては、年度によりばらつきが見られるが、毎年9割以上の学生が進級をしている。また転科や転コース制度も制定されており、学生に対して責任のある教育活動が行われている。

資格試験に関しては、指導の結果から単位認定が認められている資格以外にも、数多くチャレンジし合格している。

卒業研究に関しては、指導教員を始め、学科全教員において評価をしている。また、卒業研究発表会における発表内容等を明確に点数化するとともに、その場限りの発表にならないように指導を行っている。以上の結果から、学生が身につける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業時の状況、資格試験の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が十分に上がっている。

<専攻科課程>

単位取得状況については、全体の総修得単位数に対する不可単位数の割合が非常に少ないことから学生の学習に対する意欲も高いことがわかる。また卒業研究に対する学会賞受賞や第一期生における学位の審査が全員合格していることから、本校における卒業研究指導においては、大学の学士レベル相当であることの証明であり、本校専攻科の教育の効果が十分上がっていることを示している。よって基準を満たしている。

観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

< 進学士課程 >

本校の卒業生の進路状況は、資料6-1-③-1に示すとおり、卒業年度により多少のばらつきが見られるが、各学科とも80～90%程度が就職、10～20%程度が大学や専攻科へ進学をしている。ただし、この資料における就職率、進学率は、脚注にあるように、全卒業生数に対する就職者数あるいは、大学・専攻科への進学数を示したものである。

資料6-1-③-1

卒業生の進路状況

平成14年度 卒業生(進学士課程)

	卒業生数			就職				大学・専攻科へ進学				専門学校等へ進学			その他 左記以外		
	男子	女子	計	男子	女子	計	就職率[%]*1	男子	女子	計	進学率[%]*2	男子	女子	計	男子	女子	計
商船学科	26	0	26	20	0	20	77	6	0	6	23	0	0	0	0	0	0
電子機械工学科	28	4	32	22	2	24	75	5	1	6	19	1	1	2	0	0	0
情報工学科	13	20	33	11	18	29	88	2	0	2	6	0	1	1	0	1	1
合計	67	24	91	53	20	73	80	13	1	14	15	1	2	3	0	1	1

平成15年度 卒業生(進学士課程)

	卒業生数			就職				大学・専攻科へ進学				専門学校等へ進学			その他 左記以外		
	男子	女子	計	男子	女子	計	就職率[%]*1	男子	女子	計	進学率[%]*2	男子	女子	計	男子	女子	計
商船学科	28	3	31	25	3	28	90	1	0	1	3	0	0	0	2	0	2
電子機械工学科	30	8	38	26	6	32	84	1	0	1	3	2	1	3	1	1	2
情報工学科	16	18	34	10	15	25	74	5	1	6	18	1	2	3	0	0	0
合計	74	29	103	61	24	85	83	7	1	8	8	3	3	6	3	1	4

平成16年度 卒業生(進学士課程)

	卒業生数			就職				大学・専攻科へ進学				専門学校等へ進学			その他 左記以外		
	男子	女子	計	男子	女子	計	就職率[%]*1	男子	女子	計	進学率[%]*2	男子	女子	計	男子	女子	計
商船学科	36	6	42	33	6	39	93	3	0	3	7	0	0	0	0	0	0
電子機械工学科	31	4	35	31	4	35	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報工学科	18	18	36	10	16	26	72	5	1	6	17	3	1	4	0	0	0
合計	85	28	113	74	26	100	88	8	1	9	8	3	1	4	0	0	0

平成17年度 卒業生(進学士課程)

	卒業生数			就職				大学・専攻科へ進学				専門学校等へ進学			その他 左記以外		
	男子	女子	計	男子	女子	計	就職率[%]*1	男子	女子	計	進学率[%]*2	男子	女子	計	男子	女子	計
商船学科	25	3	28	22	3	25	89	3	0	3	11	0	0	0	0	0	0
電子機械工学科	24	8	32	20	8	28	88	4	0	4	13	0	0	0	0	0	0
情報工学科	16	20	36	12	15	27	75	4	4	8	22	0	1	1	0	0	0
合計	65	31	96	54	26	80	83	11	4	15	16	0	1	1	0	0	0

平成18年度 卒業生(進学士課程)

	卒業生数			就職				大学・専攻科へ進学				専門学校等へ進学			その他 左記以外		
	男子	女子	計	男子	女子	計	就職率[%]*1	男子	女子	計	進学率[%]*2	男子	女子	計	男子	女子	計
商船学科	23	8	31	18	8	26	84	5	0	5	16	0	0	0	0	0	0
電子機械工学科	36	6	42	25	3	28	67	11	1	12	29	0	1	1	0	1	1
情報工学科	16	19	35	11	18	29	83	5	0	5	14	0	1	1	0	0	0
合計	75	33	108	54	29	83	77	21	1	22	20	0	2	2	0	1	1

*1 就職率=就職者数/卒業生数

*2 進学率=大学・専攻科へ進学数/卒業生数

出典：卒業生の進路状況

資料6-1-③-2は、過去5年間の産業別就職状況を示す。この資料より商船学科は運輸・海事系、電子機械工学科は製造業、情報工学科は情報処理系の就職が多いことが分かる。これは、各学科の専門性がよく生かされていることを示し、時代のニーズに応じた卒業生を企業などへ送り出しているといえる。

資料6-1-③-3は、各学科の主な就職先を示す。

資料6-1-③-2

各学科の就職状況

商船学科

産業別就職状況

産業別区分		18年度卒	17年度卒	16年度卒	15年度卒	14年度卒
製 造 業	精密機械					
	一般機械	1	3 (1)	4 (1)	8	2
	電気機械			1 (1)		2
	運輸用機械	2	(1)	1	3	2
	金属製品・非金属・鉄鋼業					1
	化学工業・石油・石炭製品	2		2	1	1
	出版・印刷等					
	食品					
	繊維業					
	その他		1	5 (2)	1	2
運輸・通信	20	(6)	5 (1)	11 (1)	3	6
フェリ－		6		2	3	2
外国航海		1		3	6	5
国内航海		6 (1)	4			
電力・ガス						
農林・水産						
小売業・卸売業						
自営業						
情報処理・サービス業	1	(1)		3 (1)	2 (2)	
金融業						
不動産業						
その他				1	1	
国家公務員					1	
地方公務員				1		
計	26	(8)	25 (3)	39 (6)	28 (3)	20

※()内数字は女子学生数で、内数である。

資料6-1-③-2 (続き)

電子機械工学科

産業別就職状況

産業別区分		18年度卒		17年度卒		16年度卒		15年度卒		14年度卒	
製 造 業	精密機械			3	(3)	2	(2)	3			
	一般機械	1		2		6	(1)	4	(1)	8	(2)
	電気機械	21	(3)	11	(3)	5		15	(2)	7	
	運輸用機械					5					
	金属製品・非金属・鉄鋼業					1					
	化学工業・石油・石炭製品			7	(1)	3		4		2	
	出版・印刷等										
	食品										
	繊維業					3					
	その他の	1		3	(1)	8	(1)	1	(1)	3	
運輸・通信	3		1		2		1	(1)	1		
フェリ											
外国航海											
国内航海											
電力・ガス											
農林・水産											
小売業・卸売業											
自営業											
情報処理・サービス業	2		1					4			
金融業											
不動産業											
その他											
国家公務員										1	
地方公務員										2	
計	28	(3)	28	(8)	35	(4)	32	(5)	24	(2)	

※()内数字は女子学生数で、内数である。

資料6-1-③-2 (続き)

情報工学科

産業別就職状況

産業別区分		18年度卒		17年度卒		16年度卒		15年度卒		14年度卒	
製 造 業	精密機械										
	一般機械										
	電気機械			1		1					
	運輸用機械			2	(2)	3	(2)	1	(1)		
	金属製品・非金属・鉄鋼業										
	化学工業・石油・石炭製品					2		1			
	出版・印刷等					1	(1)				
	食品										
	繊維業										
	その他			2	(2)	1				4	(2)
運輸・通信		1	(1)	1	(1)	1		7	(4)		
フェリ											
外国航海											
国内航海											
電力・ガス											
農林・水産											
小売業・卸売業											
自営業											
情報処理・サービス業		25	(14)	20	(9)	13	(9)	6		20	(12)
金融業		1	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	3	(3)
不動産業											
その他								8	(8)		
国家公務員		1	(1)			3	(3)	1	(1)	1	
地方公務員		1	(1)							1	(1)
計		29	(18)	27	(15)	26	(16)	25	(15)	29	(18)

※()内数字は女子学生数で、内数である。

出典：各学科の就職状況

各学科の主な就職先

● 商船学科

(株)商船三井	神鋼物流(株)	大阪ガス(株)
九州郵船(株)	マロックス(株)	(株)ダイトーコーポレーション
三光汽船(株)	山九(株)	(株)ユニエックス
大島運輸(株)	(株)近藤商事	中電環境テクノス(株)
宇部興産海運(株)	(株)サンテック	大東工業(株)
日本海洋掘削(株)	花王(株)	(株)前川製作所
日本海事工業(株)	(株)ジェーアールシーエス	日鐵運輸(株)
東京消防庁	ケイヒン(株)	三浦工業(株)
日本郵船(株)	宇徳運輸(株)	ダイセル化学工業(株)
日の出郵船(株)	日本コンテナターミナル(株)	三共オートサービス(株)
(株)名門大洋フェリー	ダイキン工業(株)	九州旅客鉄道(株)
阪九フェリー(株)	第和興業(株)	澁澤倉庫(株)
周防灘フェリー(株)	三菱重工業(株)	ジョンソンコントロールズ(株)
防予汽船(株)	徳山海陸運送(株)	日東物流(株)
全日本海員組合	洞海マリンシステムズ(株)	
	高砂熱学工業(株)	

資料 6-1-③-3 (続き)

● 電子機械工学科

出光興産(株)	日本貨物鉄道(株)	東レ(株)
大阪ガス(株)	カヤバ工業(株)	富士電機システムズ(株)
中国電力(株)	三菱重工業(株)	ダイセル化学(株)
新日本石油化学(株)	三菱レーヨン(株)	西日本旅客鉄道(株)
大王製紙(株)	日本製紙(株)	安川エンジニアリング(株)
旭化成(株)	パイオニア(株)	日鋼設計(株)
日本自動ドア(株)	日立ビルシステム(株)	東海旅客鉄道(株)
オリンパス光学工業(株)	三菱電機ビルテクノサービス(株)	ソニーイーエムシーエス(株)
マツダ(株)	ダイキン工業(株)	大和製缶(株)
(株)ニコン	花王(株)	東芝エレベータ(株)
日本オーチス・エレベータ(株)	リコー(株)	森精機(株)

● 情報工学科

西日本旅客鉄道(株)	マツダ(株)	コベルコシステム(株)
日本製紙(株)	東レ(株)	デンソーテクノ(株)
出光興産(株)	(株)インタープロジェクト	トステム(株)
(株)山口銀行	TDCソフトウェアエンジニアリング(株)	キャノンシステムアンドサポート(株)
総合警備保障(株)	ジャパンアウトソーシング(株)	富士通サポート&サービス(株)
国際ソフトウェア(株)	日本ポリウレタン工業(株)	アトラス情報サービス(株)
新川電機(株)	(株)ケーイーシー	(株)アサヒ情報システム
海上自衛隊	カヤバ工業(株)	東芝情報システム(株)
国家公務員	日鋼設計(株)	京セラミタジャパン(株)
(株)ハタシ	(株)テクシア	(株)ネットワークシステム
(株)オールワン	キャノン販売(株)	(株)アサヒテクノロジー ネクストウェア(株)

出典：本校ホームページ

資料 6-1-③-4 は、過去 5 年間の大学・高等専門学校専攻科への進学者数及び進学先を示す。各学科の専門性を生かした大学への進学が見て取れる。また平成 17 年度から開講した本校専攻科へも進学している。

資料 6-1-③-4

大学・高等専門学校専攻科への進学者数と進学先

進学者数と大学名等

大学等	学科	18年度卒			17年度卒			16年度卒			15年度卒			14年度卒		
		商船	電子機械	情報	商船	電子機械	情報	商船	電子機械	情報	商船	電子機械	情報	商船	電子機械	情報
国立大学	東京商船大学												2			
	東京水産大学	1											1			
	東京海洋大学															
	電気通信大学								1			1				
	千葉大学			1												
	神戸商船大学										1			3		
	神戸大学	2						3								
	豊橋技術科学大学		4	1			2			3					4	
	長岡技術科学大学		3							1		1				
	広島大学		1													
	山口大学												1	1	1	
	九州工業大学												1	1		
	熊本大学						1									
公・私立大学	広島市立大学						3									
小計		3	8	2	0	0	6	3	0	5	1	1	3	6	6	1
高等専門学校	釧路工業高等専門学校専攻科												1			
	徳山工業高等専門学校専攻科						1						1		1	
	大島商船高等専門学校専攻科	2	3	3	3	4	1			1						
小計		2	3	3	3	4	2	0	0	1	0	0	2	0	0	1
合計		5	11	5	3	4	8	3	0	6	1	1	5	6	6	2

出典：大学・高等専門学校専攻科への進学者数と進学先

< 専攻科課程 >

専攻科では平成 19 年 3 月に電子・情報システム工学専攻の第一期生 6 名を輩出した。進路は大学院進学が 3 名及び就職が 3 名である。大学進学先は全て電子・情報系大学院であり、また就職先については、医療機器関係及びセキュリティ関係など、さらに平成 19 年 9 月卒業予定の海洋交通システム学専攻の第一期生の 6 名は、現在までに 4 名の就職が決まっており、いずれも海運、輸送関係の企業である。（資料 6-1-③-5）

資料6-1-③-5

進学・就職状況

【平成19年3月電子・情報システム工学専攻修了者】

区 分		進学先又は就職先
進学者	3名	電気通信大学大学院・北陸先端科学技術大学院大学・九州工業大学大学院
就職者	3名	(株)中国警備保障・帝人ファーマ(株)・Enterprise Technology(Pvt)Ltd

【平成19年9月海洋交通システム学専攻修了予定者】

区 分		就 職 先
就職者	4名	(社)日本海事検定協会・(株)鹿児島船舶・東ソー物流(株)・(株)日之出郵船

出典：専攻科 PR パンフレット

(分析結果とその根拠理由)

<進学士課程>

各学科の就職先の多くは、商船学科では海事・運輸系，電子機械工学科では製造業系，情報工学科では情報処理・サービス業系となっており，いずれも各学科の特徴が生かされた分野である。また，進路先においても同様な傾向となっている。

以上のことから，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているといえる。

<専攻科課程>

電子・情報システム工学専攻では，進学する大学院はいずれも電子・情報系であり，本校専攻科での研究を引き続き行える環境を持っている大学院であることがわかる。また就職企業についても専攻科教育目標に掲げる「協同の精神」「ボランティアへの参加」と電子・情報システム工学専攻におけるカリキュラムに合致した就職先であることがわかる。海洋交通システム学専攻における就職先についても海洋交通システム学専攻の教育目標である「優れた海事技術者」及びカリキュラム内容と合致した企業となっている。よって基準を満たしている。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

< 準学士課程 >

平成 15 年度から，学生による授業評価アンケート調査を実施している。その中の質問項目(15)に学生自身による授業達成度についての質問（「この授業の内容をどの程度理解しましたか」）が設定してある（資料 6-1-④-1）。5 段階評価で，よく理解できたが「5」である。平成 15 年度から 17 年度までの 3 年間の評価（学年全体の平均値）は，平成 15 年度から順に，3.11，3.22，3.29 と上昇傾向にある。また，質問項目(14)において，授業への取り組み体制を問う質問（「あなたはこの授業に熱心に取り組みましたか」）の結果（学年全体の平均値）は，平成 15 年度から順に，3.34，3.44，3.47 となっている。質問項目と(15)と同様に，熱心に取り組んだが「5」である。この結果も年度が進むにつれて徐々に上昇傾向にある。

以上の結果から，本校の意図する教育の成果や効果が上がってきていると判断できる。

資料 6-1-④-1

学生による授業評価アンケート（抜粋）

学生による授業評価アンケート

この授業に関して，あなたの意見・感想を聞かせてください。授業内容を良くするために参考にするもので，回答は学生諸君の成績には全く影響しません。誠実に答えていただくようご協力をお願いします。

（ 質 問 事 項 ）	良い 普通 悪い				
	良い (+)		普通		悪い (-)
(14) あなたはこの授業に熱心に取り組みましたか。	5	4	3	2	1
(15) この授業の内容をどの程度理解しましたか。	5	4	3	2	1

出典：学生による授業評価アンケート

< 専攻科課程 >

専攻科における授業評価アンケートは平成 18 年度より実施し，結果については平成 19 年度内に集計する予定となっている。専攻科では，アンケートではないが卒業研究について，入学時に在学中における卒業研究の計画を提出し，1 年次の年度末に学生自身が 1 年間の研究成果をまとめ，報告する形式となっている。これにより学生自ら研究計画についてどのように進めていったか第三者が把握できるようになっており，専攻科における研究指導の効果が読み取れる。（資料 6-1-④-2，-3）

資料 6 - 1 - ④ - 2

専攻科・学修資料-1-1

大島商船高等専門学校 専攻科 学修計画書-1

専攻科・学修計画の概要			
入学年度	平成 18年	提出年月日	平成 18年 4月 27日
氏名			
連絡先	住所		
	電話 (携帯)		
出身本科	<input type="checkbox"/> 商船学科 <input type="checkbox"/> 電子機械工学科 <input checked="" type="checkbox"/> 情報工学科 <input type="checkbox"/> その他()		
入学専攻	<input type="checkbox"/> 海洋交通システム学専攻	<input checked="" type="checkbox"/> 電子情報システム工学専攻	
取得希望の学士号	<input type="checkbox"/> 商船学	<input type="checkbox"/> 電気電子工学	<input checked="" type="checkbox"/> 情報工学
特別研究			
指導教員と十分に相談の上、以下の項目を記載すること。			
題 目			
動画理解に関する研究			
概 要	研究内容を解かり易く、簡潔に紹介すること。		
近年、セキュリティ分野においてビデオカメラによる人物の行動監視が用いられている。 本研究では、動画像から人物及び人物の行動を認識し異常行動があった場合に通知するシステムを構築する。また照明変化に頑健な背景差分を利用して、より精度の高い人物抽出も行う。			
計 画	学外発表を含む具体的な研究計画(スケジュール)について簡潔に記すこと。		
06年4月～8月 基礎研究・研究理解 06年9月 紀要論文作成 07年9月上旬 学会発表 07年9月下旬 仕上げ・完成			
指導教員 署名	岡村健史郎		

出典：専攻科学修計画書

資料 6 - 1 - ④ - 3

別紙 (専攻科 1 年生用)

専攻科・特別研究 報告書	
提出年月日 平成 19 年 2 月 26 日	
氏名	
学籍番号	
特別研究の内容	
指導教員と十分に相談の上、以下の項目を記載すること。	
題 目	
動画理解に関する研究	
研究内容	この 1 年間の研究の内容を簡潔に示すこと。
<p>1 年間の特別研究の研究成果を以下に述べる。</p> <p>以前の動画理解に関する研究では、移動物体の検出に背景差分を用いていた。しかし、背景差分は、背景部分の変化に弱いという弱点を持つ。よって我々は、背景部分の変化に強い、主成分分析を用いた移動物体の検出について考察を行った。シミュレーション実験の結果、それは有効であることが分かった。</p> <p>これからの課題としては、背景差分との組み合わせによる検出精度の向上、そして具体的な検出システムの作成などが挙げられる。</p> <p>なお、以上の結果は大島商船高等専門学校紀要論文集第 39 号に提出したので、報告する。(紀要論文提出日 平成 18 年 9 月 29 日)</p> <p>以上</p>	
指導教員 の所見 および評価	評価(優, 良, 可, 不可のいずれかを記入): 優
	所見: 常に努力を怠らず、緩やかな成長を出している。 (印)

(分析結果とその根拠理由)

< 準学士課程 >

授業評価アンケートの中に、「学習達成度」と、「学習への取り組み」について問う質問項目が設定されており、その結果から、学校の意図する教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

< 専攻科課程 >

各授業における授業評価についてはアンケートの結果を待ちたい。卒業研究については、学生が自身の研究の進行について書くことで、研究に対する責任を自覚させる効果がある。書かれた内容を見ると各自の卒業研究に対する取り組み意識の高さが読み取れ、専攻科の教育目標にある専攻科の教育目標に掲げる技術者教育の実践について効果が出ていることを示している。よって基準を満たしている。

観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。
また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

< 準学士課程 >

卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取組としては、平成 18 年度から資料 6-1-⑤-1 に示す卒業生を対象としたアンケート調査を実施しており、39 名の卒業生からの回答が得られた。また、資料 6-1-⑤-2 に示す就職先の企業に対してアンケート調査を実施しており、24 社の企業から回答が得られた。

卒業生を対象としたアンケートの回答では、卒業生の視点に基づく本校の教育内容についての意見が寄せられている。回答内容から、本校での専門教育が就職先の業務に活かされていることが伺える。しかしながら、文章力や語学力の不足を感じるといった意見や、在学中に実社会や現場について学ぶ機会が必要である等の意見もいくつか寄せられた。

企業を対象としたアンケートの回答では、企業の人事担当者から本校卒業生の資質や能力についての意見が寄せられている。回答内容から本校の卒業生の能力は高く評価されていることが伺える、特に職務に対して真剣に取り組む姿勢は多くの企業から評価されている。一方、企業では表現力、交渉力を必要とするため、卒業生に対して文章力、語学力向上のためのより一層の教育内容の充実を望む意見も多く寄せられた。これらのアンケート結果は今後の教育内容の改善のための参考としたい。

< 専攻科課程 >

専攻科では、平成 19 年 3 月に電子・情報システム工学専攻の第一期生、また平成 19 年 9 月には海洋交通システム学専攻の第一期生を輩出することとなっている。よって修了生の初めての意見聴取については平成 19 年度に準学士課程とともに行うこととなる。意見聴取ではないが、大学評価・学位授与機構が行う学位審査（論文試験）により電子・情報システム工学専攻の第一期生が全員合格（資料 6-1-⑤-3）していること、さらに卒業研究における学会賞の受賞等（資料 6-1-⑤-4）から、本学以外の機関により修了生が学士レベルであることを認定されていることから、専攻科の教育の効果が上がっていることを示している。

（分析結果とその根拠理由）

< 準学士課程 >

卒業生、進路先などの関係者から意見を聴取する等の取組は実施されており、アンケートの回答内容から、本校の教育内容が企業の求める人材の輩出に役立っている。

以上のことから、その結果から判断して教育の成果や効果が上がっている。

< 専攻科課程 >

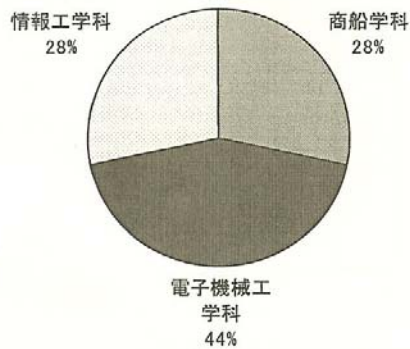
専攻科では次年度以降に本科に倣って専攻科修了生に対する企業のアンケートを平成 19 年度に実施する予定である。

電子・情報システム工学専攻の第一期生については第三者機関である大学評価・学位授与機構の論文試験及び単位取得審査に全員が合格し、学位（学士）を取得していることから、在学中における研究及び講義の内容が現時点では身につけていると判断できる。よって効果は上がっていると考えられる。

資料 6 - 1 - ⑤ - 1

卒業生アンケートの結果

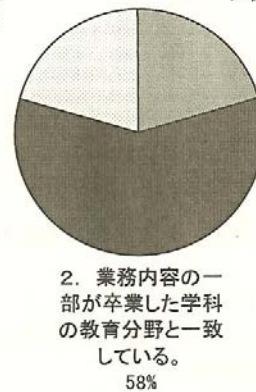
問1 卒業した学科はどこですか



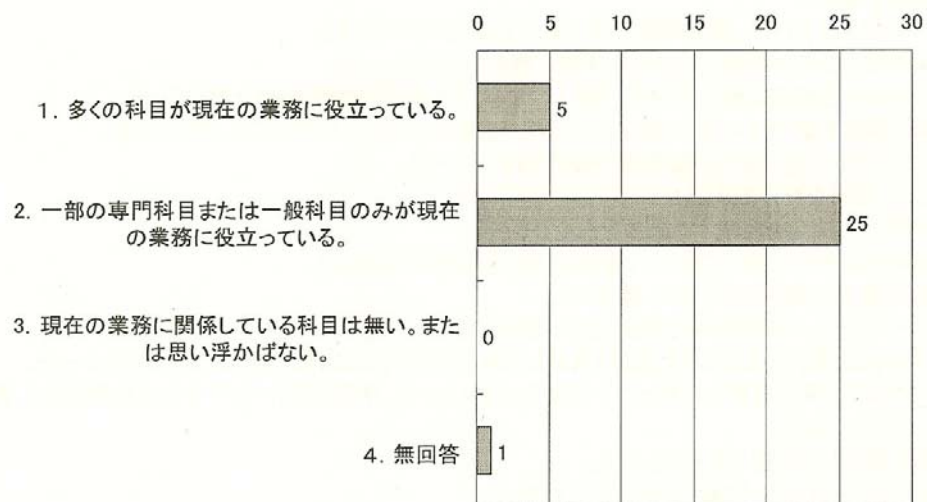
問2 現在の会社における貴方の業種および業務内容と貴方が卒業した学科の教育分野との関係についてお答えください。

3. 卒業した学科の教育分野とはまったく関係の無い業務に従事している。
21%

1. 卒業した学科の教育分野とほぼ一致した業務内容に従事している。
21%



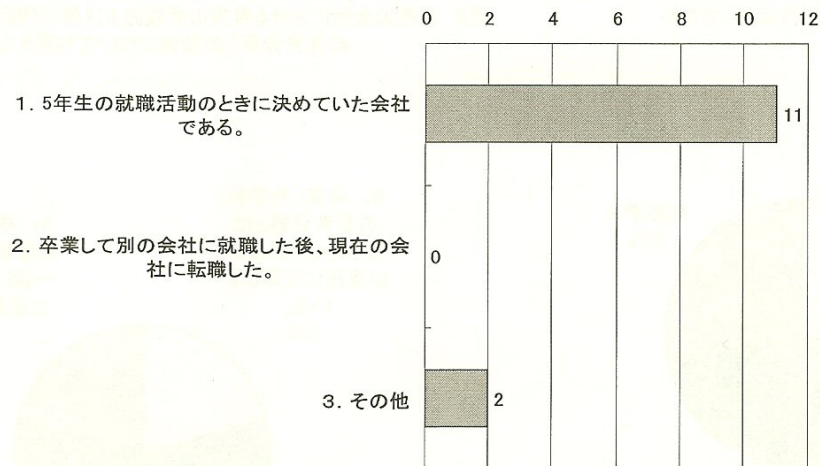
問3 本校(5年間)で受けたすべての講義科目において、現在の業務にどの程度、役に立っていると考えていますか？



出典：卒業生アンケート集計結果

資料 6 - 1 - ⑤ - 1 (続き)

問4 現在の職種および業務内容に従事した時期を教えてください。



問5 貴方の卒業した学科また大島商船高専の教育内容についてご意見がございましたらお書きください。

- 1 実験、レポートを増やすべき。
- 2 学生のレベルに迎合して教育の質を落とさないこと。
- 3 説明力を鍛えておく必要がある。
- 4 職場体験に取り組んでほしい。
- 5 授業をもっとやりたかった。
- 6 更に現場に近い実習が必要。
- 7 社会人として生きて行ける人間を育てるべき。
- 8 書類作成の授業が必要。
- 9 多くの科目を学べることはよいが、授業時間が長く集中力が途切れてしまう。
- 10 理論がどのように活かされるか理解するために実習を増やしてほしい。
- 11 レポートにまとめ発表する機会を増やすべき。(修士、大卒との1番大きな差であると感じる。)
- 12 全学科で船に乗る機会を増やすべき。三法以外のSOLAS規定やPSCの規則を学んでおくべき。
- 13 学生により理解度の差が大きいため、補習等の機会を増やすべき。
- 14 今までどおり幅広い教育を行ってほしい。
- 15 インターンシップ等の実社会を経験する機会を長くするべき。
- 16 Excel,とCAD(製図)を5年生で教えてほしい。統計数学も更に教えてほしい。
- 17 大学進学で他校出身者より英語力で劣り、苦労した。
- 18 新しいプログラミング(Java, VB2005)等を取り入れたほうがよい。
- 19 就職先の業務内容は畑違いのように思えたが、入社してみると部分的には役に立つこともあり良かった。
- 20 5年間の長い学生生活の間に目標を見失っている学生が多いので、学生にアドバイスを与える環境が必要。
- 21 部活はしておいたほうがよい。
- 22 常に最新の技術を取り入れた教育を行うとよい。
- 23 学生が使用するパソコンはなるべく新しいものにしてほしい。
- 24 学生の頃は教育内容がそれほど重要だとは思わなかったが、現在の業務において役に立たない事は無い。

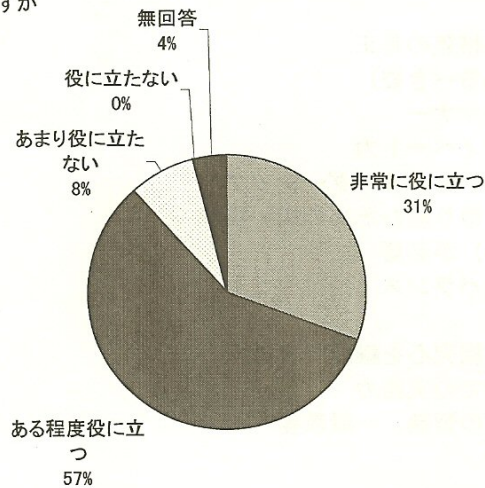
出典：卒業生アンケート集計結果

資料 6-1-⑤-2

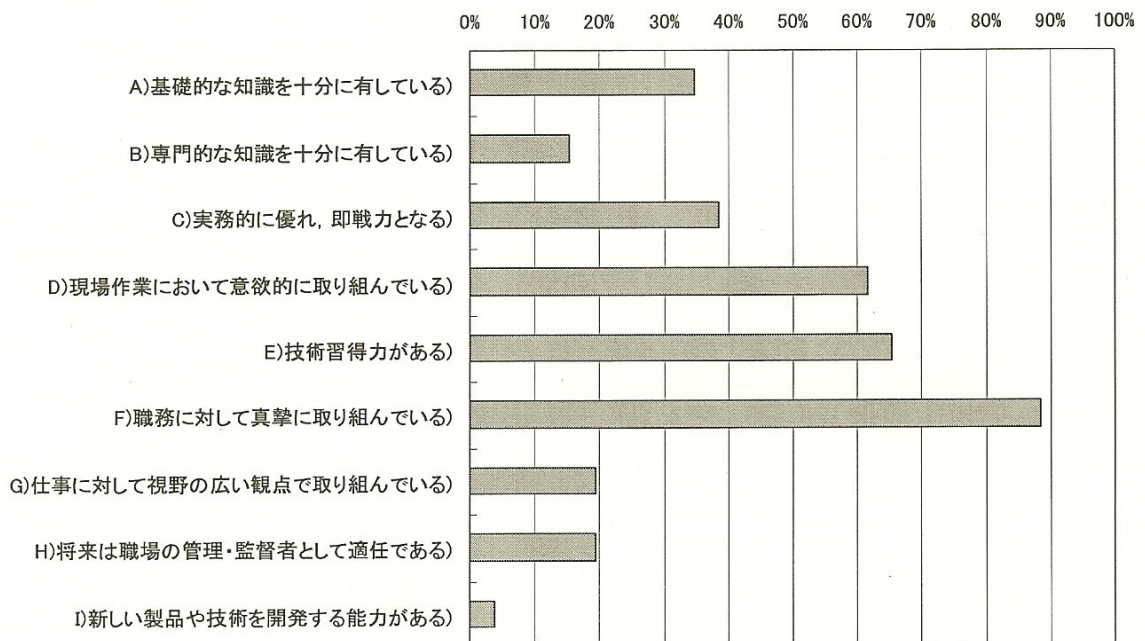
企業アンケートの結果

資料 6-1-⑤-2 企業アンケートの結果

問1 本校卒業生の身につけている能力は、現在の業務を行う上で、どの程度役に立っていますか



問2 本校卒業生の能力で、(A)~(I)のうち比較的優れているものを選んで、○を付けてください。いくつ選んでも結構です。



出典：企業アンケート集計結果

資料6-1-⑤-2 (続き)

企業アンケートの結果

問3 高専の教育・研究について是非とも必要であると感じていることがあれば、ご記入下さい。

- 1 公的資格の取得
- 2 疑問点を追及する意欲
- 3 AutoCADの使用方法
- 4 E x c e l の使用方法
- 5 国際物流（貿易）の知識
- 6 航海訓練と実際の運航との格差の是正
- 7 人間力（人としてあるべき姿）
- 8 基礎学力と社会人としてのマナー
- 9 コミュニケーション力、ディベート力
- 10 英語力、コミュニケーション力、リーダーシップ
- 11 より専門的な知識と仕事に取り組むための広い視野
- 12 S E 職では国語力（文章力）が必要
- 13 技術力、人間力、実践力のバランス
- 14 基礎知識
- 15 基礎学力および、向上心、探究心を継続できる力
- 16 生産技術、製造技術、現場での実務力
- 17 国語力、英語力、パソコンの習熟、一般教養
- 18 交渉力、情操教育、創造力
- 19 英語力
- 20 理論よりも実践的知識

出典：企業アンケート集計結果

専攻科会議資料

平成19年2月21日

文責：比嘉

○ 平成18年度 電子・情報システム工学専攻 小論文試験結果

氏名	学籍番号	小論文試験	結果(可、不可)
	605		可
	605		可
	605		可
	605		可
	605		可
	605		可

今後の手続き

本校より全員の単位取得証明書を学位授与機構に送付(3月中)、機構側の単位取得状況審査で可であれば、学位(学士)が認められる。学位記は各学生の自宅に送付される。

出典：専攻科委員会資料：平成19年2月21日実施

専攻科生 最優秀講演論文賞受賞

平成18年10月10日（火）、富山で開催された日本航海学会第1回学生講演会において、本校専攻科海洋交通システム学専攻の [] が最優秀講演論文賞を受賞しました。この学生講演会は、商船高専専攻科生に論文発表の場を提供するために今年度より始まったもので、全国商船高専専攻科生8名の発表がありました。

本校からは海洋交通システム学専攻3名の発表があり、 [] の発表「会話インターフェースを用いた航海当直支援システムの作成について」が、みごと最優秀講演論文賞を受賞しました。そのほか本校より「保持船協力動作の行動についての考察」、「油送船事故の要因分析について」が発表しました。



資料 6 - 1 - ⑤ - 4 (続き)

専攻科生中村さん 日本機械学会フェロー賞受賞

平成19年3月7日に開催された日本機械学会中国四国支部第45期総会・講演会において、大島商船高等専門学校専攻科海洋交通システム学専攻2年

が、「付着性粉体を対象とした半軸対称ホッパーの内部圧力と流動構造」と題し講演を行い、日本機械学会フェロー賞（若手優秀講演）を受賞しました。

この賞は、内容が有益で新規性があり、また、発表の態度に優れ、若手研究者として将来の発展が期待される講演に対して送られるもので、講演内容や発表態度が認められての受賞となりました。

指導教員の商船学科川原准教授とともに和氣校長を訪れ、受賞の経緯や研究発表の内容、今後の進路等について報告を行いました。



出典：本校 HP

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

<準学士課程>

- ・ 性格及び行動の評定も含め、学力達成状況などを把握・評価する取り組みが適切に行われており、ほとんどの卒業生が希望する進路先へ就職、または進学している。
- ・ 教育活動の一環として資格の取得を促しており、単位認定以外の資格においても積極的に受験し、多くの合格者が出ている。
- ・ 卒業研究においては、評価項目が適切に明示しており、それに基づいて学生が身につける学力や資質・能力が総合的に育成されている。
- ・ 学生による授業評価アンケートが実施されており授業改善のための資料となっている。また卒業生と就職先企業へもアンケート調査を実施しており、教育の成果を判断する取り組みが適切に行なわれている。

<専攻科課程>

- ・ 専攻科では教育効果についての検証として、単位取得状況の把握はもちろん、特別研究の進行状況についても研究計画および経過報告書などの提出、学内での研究発表、学位審査用の学修レポートの査読制度や模擬小論文試験の実施等を行っている。これにより教育効果の到達状況の把握を行っている。
- ・ 学位審査において工業系の第一期生（6名）が学位（学士）を取得できたことから専攻科における教育が適切行われていることがわかる。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準6の自己評価の概要

<準学士課程>

準学士課程では、教育目的に沿ったカリキュラム構成において授業、実験・実習等が実施されている。さらに各学科に設けられた一般・専門科目を習得することで、卒業時に必要な学力や資質・能力を身に付けることができる。性格及び行動の評定も含め、学力達成状況を把握・評価する取り組みは、卒業認定に関する規定のもと適切に実施されている。その結果、ほとんどの卒業生が希望する進路先へ就職、または進学している。就職先の調査結果から、商船学科は運輸・海事系、電子機械工学科は製造業、情報工学科は情報処理系の就職が多く、各学科の特徴が生かされたものとなっている。また、教育活動の一環として資格の取得を促しており、単位認定以外の資格においても積極的に受験し、多くの合格者が出ている。その資格の内容は、商船学科では海事系の資格、電子機械工学科・情報工学科では、情報系の資格を多く取得している。卒業研究においては、評価項目が適切に明示しており、それに基づいて学生が身につける学力や資質・能力が総合的に育成され評価されている。

学生による授業評価アンケートが実施されており授業改善のための資料となっている。その中には「学習達成度」と「学習への取り組み」について問う項目があり、年々上昇傾向であることが分かる。また、卒業生と就職先企業へもアンケート調査を実施している。卒業生からは、本校での専門教育が就職先で生かされているとの意見があり、就職先企業からは、卒業生の能力が高く評価されていることが伺える結果となった。

<専攻科課程>

専攻科課程では、教育目標に沿ったカリキュラムを構成しており、講義、実験・実習および特別研究が実施されており、専攻科修了時に必要な学力や資質・能力を身につけることができる。単位の取得状況、特別研究の進捗状況等の専攻科生の学力に関する把握・評価する取り組みは適切に行われている。

専攻科生の進路状況については、就職先の企業及び進学する大学院については専攻科の2専攻の教育カリキュラムに合致したところであり、専攻科を修了した学生が専攻科で学んだ知識を生かした進路を選んでいることを示している。現在の段階では最初の修了生全員が学位（学士）を取得できていること、また研究に対する学会賞の受賞など、専攻科での研究教育が十分機能していることを示している。

以上のことから、本校では教育の成果や効果を判断する取り組みが適切におこなわれている。その結果は、本校の意図する教育の成果や効果が上がっていると認められるものである。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①: 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学習を進める上でのガイダンスは、本科において、入学時における新入生オリエンテーション(資料7-1-①-1)、合宿研修(資料7-1-①-2)や第3学年における学科ごとの専門科目の概要説明導入、毎年適切に実施されている。また、専攻科においては、毎年入学式直後に「専攻科における学修の第一歩」(資料7-1-①-3)を用いて、学習を進める上でのガイダンスをすることになっており、実施している。さらに、各科目担当教員が随時シラバスや学生生活ハンドブックを利用してガイダンスを実施している。

学生の自主的学習を進める上での相談・助言のために、基礎学力の向上のための一般科目の特別補習時間(資料7-1-①-4)や、専門科目教員による資格取得の指導が役立っている。また、オフィスワー一覧表は、各クラスに掲示されており(資料7-1-①-5)、全教員が空き時間に随時相談・助言に対応できるように体制が整備されており、十分に機能している。

(分析結果とその根拠理由)

学習を進める上でのガイダンスは、本科・専攻科とも整備され、適切に実施されている。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制も整備され、十分に機能している。

資料7-1 - -1

平成18年度 入学式当日の予定 平成18年4月2日(日)

時間	事項	場所	備考
10:00	入学式	〃	
10:25	校長の紹介	第一体育館	庶務課長が副校長(3主事)を紹介
10:26	学級担任等紹介	〃	教務主事が正副学級担任を紹介
10:30	通学生/諸注意	視聴覚教室	学生主事案内
	入寮生/諸注意	第一体育館 ～学寮	寮務主事が指導寮生を紹介 指導寮生が入寮生を学寮居室へ案内
	【休憩】		懇談会用機の準備
10:50	保護者・学校懇談会	第一体育館	保護者・学校懇談会 1 校長挨拶 2 学校組織の概要(事務部長) 3 教務関係(教務主事) 4 厚生補導関係(学生主事) 5 寮生活(寮務主事) 6 図書館(図書館長) 7 学校納入金、奨学金等(学生課長) 8 質疑応答
			保護者・学校懇談会出席者 校長, 3主事, 図書館長 専攻科長, 各学科・科目主任 各1年生学級担任・副学級担任 事務部長, 3課長 各担当係長
終了後	保護者・奨学後援会 ・同窓会との懇談	第一体育館	1 奨学後援会長挨拶 2 奨学後援会理事選出 3 同窓会挨拶
			保護者 職員(庶務課長, 学生課長, 学生係長, 庶務係長) 同窓会役員
12:00	新入生昼食・オリエン テーション	HR教室	学級担任・副担任との懇談, 学生証交付等
12:20	保護者昼食	視聴覚教室 ・ロビー等	図書館入口で, 食券と引換えに昼食を受け取りください。
13:10	クラブ紹介	視聴覚教室	新入生
13:20	保護者・学級担任 教官懇談会	各教室	終了後(14:00頃), 視聴覚教室の学生とともに 第二体育館へ移動(学用品購入のため)
16:00	寮生オリエンテーション	学寮	17:00まで

(出典 平成18年度入学式当日の予定)

資料 7-1-①-2

平成 17 年度 新入生合宿研修日程表

4 月 13 日(木)

時 間	日 課
08:30	図書館前集合・点呼
08:40	借上バス出発 【1号車】 40名 (S1新入生(39名), S1学級担任) 【2号車】 46名 (M1新入生(45名) M1学級担任) 【3号車】 50名 (I1新入生(49名) I1学級担任) 【公用車】 3名 (学生主事, 学生主事補, 学生係)
11:00	入所式・オリエンテーション (オリエンテーション室) 宿泊棟へ移動
12:00	昼 食
13:00	オリエンテーリング (スコア) *小雨決行 雨天の場合⇒プレイホール利用(綱引き等, 軽い運動)
17:00	夕べのつどい (つどいの広場) 学生代表……M1学生
17:30	自由時間・夕食
19:00	レクリエーション (大縄とびなど) プレイホール 司会……引率教員
20:30	自由時間, 入浴
21:30	就寝準備
22:00	消 灯

4 月 14 日(金)

時 間	日 課
06:45	起床, 洗面, 寝具の整理整頓
07:00	清掃
07:20	清掃点検
07:30	朝のつどい (つどいの広場) 学生代表……I1学生
07:45	食事, 退所準備
08:45	退所点検 (各班の生活係宿泊棟に待機)
09:00	野外炊飯 *雨天決行
13:00	感想文(学習室1. 2. 3)
14:00	退所式
14:10	借上バス出発
16:30	帰校 (途中下車なし)

(出典 平成 17 年度新入生合宿研修日程表)

専攻科における学修の第一歩 —学修計画書の提出に向けて—

専攻科に入学し、修了するまでの 2 年間に、特別研究を含む多くの科目を自発的に学ぶだけでなく、学士号取得に向けた手続きと審査、就職・進学等の進路開拓など、多くの活動を行わなければなりません。

就職試験と大学院入学試験等は、通常、2 年次当初から始まります。また、2 年次の中頃には、大学評価・学位授与機構への学士号の申請を行うことが必要不可欠な要件となっています。(専攻科・学修資料-3:「学修スケジュールについて」参照)

このように短い期間の中で、学習と研究の活動以外にも、多くの事柄を着実に実施しなければならないのが、専攻科の学生生活です。

学習と研究について、入学後に考え始めるのでは、2 年次中頃までの 1 年半の期間内に、学修成果をまとめることはできないと思えます。

豊かで、充実した専攻科生としての活動は、2 年間の専攻科に向けた準備段階で決すると言っても過言ではないと考えます。

従って、入学後 2 年間の専攻科における学習・研究の入学前準備、即ち、専攻科における学修の第一歩として、何を履修し、どんな研究をし、どの学士号の取得を目指すのかなどについて検討し、具体的な計画としてまとめていただきます。

入学前に、具体的な学修計画として「大島商船高等専門学校 専攻科 学修計画書-1, -2」(専攻科・学修資料-1-1,2)を提出していただきますので、次頁に示す手順に従い学修計画の検討、立案を始めてください。

以下略

(出典：専攻科における学修の第一歩)

資料 7 - 1 - ① - 4

科目別補修授業該当学生一覧表			
1年生			
英語	数学	化学	物理
S1教室	S1教室	化学実験室	物理実験室
水曜日	火曜日・木曜日	火曜日	木曜日
16:00~17:00	火 15:50~16:40	15:50~16:40	14:55~15:45
	木 14:55~15:45		
2年生			
英語	数学	化学	物理
S2教室	S2教室	化学実験室	物理実験室
月曜日	水曜日	火曜日	木曜日
15:50~16:40	14:55~15:45	15:50~16:40	14:55~15:45
		1 2 16:40~17:30	
3年生			
英語	数学		
LL教室	S3教室		
月曜日	火曜日		
15:50~16:40	15:50~16:40		

(出典 科目別補修授業該当学生一覧表)

資料 7 - 1 - ① - 5

教員別オフィスアワー実施一覧

大島商船高等専門学校では学生の皆さんの相談に応えるためにオフィスアワーを行っています。オフィスアワーとは先生方が週のある曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生の皆さんがその曜日・時間に自由に研究室を訪れて、勉強や研究のことばかりでなく学生生活のあらゆる相談をすることができるというものです。各教員のオフィスアワーの曜日・時間等は下記のとおりです。学生の皆さん、オフィスアワーを積極的に活用しましょう。

学 科	場 所	曜 日	時 間
S科	南棟2F 商船学科共通実験器材室	金	15:50~16:40
S科	南棟4F 電気・航海計器実験室	金	15:50~16:40
S科	近代化船総合実験室	金	15:50~16:40
S科	南棟1F 電気工学準備室	水	15:50~17:15
S科	南棟2F 教員室	水	15:50~16:40
S科	南棟2F 航法実験室	金	16:00~17:00
S科	南棟2F 信号実験室	金	16:40~17:15
S科	機関実習工場棟ガスタービン実験室	火	16:30~17:15
S科	南棟1F 自動制御準備室	火	16:20~17:15
S科	南棟2F 教員室	火・木	15:50~16:40
S科	南棟1F 載貨実験室	月	15:50~16:40
S科	実習工場棟電子情報実験室	月	16:00~16:50
S科	南棟2F 教員室	木	15:50~16:40
S科	実習工場棟補機実験室	月	15:50~16:40
S科	南棟2F 教員室	火	16:00~17:00
S科	南棟2F 教員室	月	16:00~17:00
S科	南棟2F 教員室	月	15:50~16:40
S科	南棟2F 教員室	水	15:50~16:40
S科	南棟2F 教員室	月	15:50~16:40
M科	電子棟1F 教員室	水	16:00~17:15
M科	電子棟1F 材料学実験室	金	16:00~17:15
M科	電子棟2F 教員室	金	16:15~17:15
M科	電子棟3F 教員室	月	16:40~17:15
M科	電子棟2F 応用物理準備室	月	16:45~17:15
M科	電子棟1F 機械工作準備室	月	15:50~16:40
M科	電子棟3F 電気実験準備室	月	16:00~17:00
M科	電子棟3F 計算機システム準備室	月	15:50~16:40
M科	電子棟2F 教員室	火	16:40~17:15
		月~金	12:30~13:00
M科	実習工場棟熱流体実験室	木	15:50~16:40

資料 7-1-①-5 (続き)

Ⅰ科	情報棟 1 F データベース室	火	15:50~17:00
Ⅰ科	情報棟 3 F 演算回路工学準備室	水	15:50~16:40
Ⅰ科	情報棟 1 F 数理計画実験室	火	16:00~17:00
Ⅰ科	情報棟 2 F 人工知能実験室	火	15:50~16:40
Ⅰ科	南棟 3 F 教員室	月	15:50~16:40
Ⅰ科	情報棟 3 F 半導体工学実験室	火	15:50~16:40
Ⅰ科	南棟 1 F センサ工学準備室	火	15:50~16:40
Ⅰ科	情報棟 2 F 画像工学実験室	火	16:00~17:00
Ⅰ科	南棟 1 F 電子工学準備室	月~金	15:30~17:00
Ⅰ科	南棟 3 F 教員室	火	15:50~16:40
一般科目	北棟 3 F 教員室	金	15:50~16:40
一般科目	第二体育館教員室	水	15:50~16:40
一般科目	南棟 4 F 通信工学実験室(器材室)	月	15:50~16:40
一般科目	北棟 2 F 学生主事室	金	15:50~16:40
一般科目	南棟 2 F 教員室	月	15:50~16:40
一般科目	南棟 2 F 教員室	火	15:50~16:40
一般科目	南棟 2 F 教員室	月	15:50~16:40
一般科目	南棟 2 F 教員室	火	16:00~17:00
一般科目	北棟 2 F 教員室	金	16:40~17:15
一般科目	物理準備室	木	15:50~16:40
一般科目	北棟 3 F 教員室	水	15:50~16:40
一般科目	北棟 3 F 教員室	月	16:00~17:00
一般科目	南棟 2 F 教員室	火	15:50~16:40

(出典 教員別オフィスアワー実施一覧)

観点7-1-②： 自主的学習環境（例えば，自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

自主的学習環境としては，図書館（資料7-1-②-1，2）や情報教育センターが整備されている。情報教育センターのPCは，授業で利用する教育用演習システムであり，効果的に利用されている。

厚生施設としては，福利合宿施設（商船会館）（資料7-1-②-3）と合宿研修施設（合宿所）（資料7-1-②-4）が整備されており，学生の課外活動と学生及び教職員の福利厚生に寄与している。

コミュニケーションスペースとしては，図書館学生課棟1Fのロビー及び屋外の中庭が整備され，効果的に利用されている。

（分析結果とその根拠理由）

自主的学習環境及びキャンパス生活環境等は整備され，効果的に利用されている。

資料 7 - 1 - ② - 1

大島商船高等専門学校図書館利用細則

(趣旨)

第 1 条 この細則は大島商船高等専門学校図書館規則第 5 条の規定に基づき、本校の図書館が管理する図書及びその他の資料(以下「図書」という。)並びに施設の利用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(利用者)

第 2 条 図書館を利用することができる者は、次のとおりとする。

- (1) 本校の教職員
- (2) 本校の学生
- (3) 図書館の利用を申し出た一般の利用者

(開館日等)

第 3 条 図書館を開館する日は、次の各号に掲げる日以外の日とする。ただし、図書館長が必要と認めた場合には変更することがある。

- (1) 日曜日
- (2) 大島商船高等専門学校学則(以下「学則」という。)第 6 条第 1 号に掲げる日及び第 4 号から第 7 号までに掲げる期間中の土曜日
- (3) 12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで

第 4 条 図書館の開館時間は、次のとおりとする。ただし、図書館長が必要と認めた場合には変更することがある。

- (1) 平日
8 時 30 分から 20 時まで。ただし、学則第 6 条第 4 号から第 7 号までに掲げる期間については 17 時までとする。
- (2) 土曜日
13 時から 17 時まで。

(遵守事項)

第 5 条 図書館を利用する者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 図書館利用に必要と認められる用具以外は、持ち込まないこと。
- (2) 静粛を保つこと。
- (3) 図書、その他の物品を丁寧に扱うこと。
- (4) 他人に迷惑となる行為をしないこと。
- (5) その他係員の指示に従うこと。

(図書の館外利用)

第 6 条 第 2 条に規定する利用者は、所定の手続を経て図書を館外に帯出して利用することができる。ただし、第 2 条第 3 号に該当する者は、本人を確認できる証明書(生徒手帳、運転免許証、健康保険証等)を提示し、図書館利用許可証の交付を受けた者とする。

- 2 館外利用できる図書は 5 冊以内とし、その期限は、1 4 日以内とする。ただし、卒業研究の場合は、その期限を 3 0 日以内とするものとする。
- 3 前項の図書を利用延長するときは、あらかじめ帯出の手続をしなければならない。ただし、延長は 1 回に限り、1 4 日以内とする。

第 7 条 図書を館外に帯出して利用する者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 他に転貸しないこと。
 - (2) 期限までに返納すること。
 - (3) 館外利用を許可された期限内であっても、図書館長から請求があったときには、直ちに返納すること。
 - (4) 教職員が退職又は転任するとき及び学生が卒業、退学又は休学するときは、直ちに返納すること。
- 次の各号に掲げる図書は、館外に帯出して利用することができない。

- (1) 貴重書及び特定の図書
- (2) 辞書、辞典
- (3) 定期刊行物の最新号

第 9 条 図書を紛失又は著しく汚損したときは、同一図書若しくは相当の代金をもって弁償しなければならない。

第 1 0 条 この細則に違反した者は、図書館の利用を停止することがある。

(雑則)

第 1 1 条 図書館資料を利用者の閲覧に供するため、図書館資料の目録及びこの細則を常時閲覧室内に備え付けるものとする。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

資料 7 - 1 - ② - 2

利用状況

A. 所蔵図書貸出冊数及び貸出人数

16年度	貸出冊数(冊)				貸出人数(人)			
	計	学生	職員	一般	計	学生	職員	一般
4月	294	235	55	4	160	126	32	2
5月	265	202	58	5	143	105	36	2
6月	224	174	50	0	123	91	32	0
7月	211	183	26	2	108	88	19	1
8月	131	35	85	11	60	18	37	5
9月	315	261	47	7	150	115	32	3
10月	266	240	25	1	129	113	15	1
11月	309	257	52	0	160	140	20	0
12月	255	207	35	13	118	98	15	5
1月	283	242	41	0	150	121	29	0
2月	283	266	17	0	128	116	12	0
3月	102	73	26	3	43	33	9	1
計	2938	2375	517	46	1472	1164	288	20

17年度	貸出冊数(冊)				貸出人数(人)			
	計	学生	職員	一般	計	学生	職員	一般
4月	415	361	54	0	188	161	27	0
5月	276	241	31	4	126	108	16	2
6月	259	219	38	2	125	102	22	1
7月	287	246	39	2	133	111	21	1
8月	95	44	47	4	46	21	23	2
9月	115	78	30	7	54	37	14	3
10月	305	259	45	1	135	119	15	1
11月	287	200	87	0	135	103	32	0
12月	278	206	72	0	132	109	23	0
1月	299	234	65	0	132	109	23	0
2月	295	230	64	1	108	83	24	1
3月	66	15	51	0	20	8	12	0
計	2977	2333	623	21	1334	1071	252	11

18年度	貸出冊数(冊)				貸出人数(人)			
	計	学生	職員	一般	計	学生	職員	一般
4月	480	402	77	1	207	174	32	1
5月	352	272	73	7	148	116	29	3
6月	374	285	89	0	176	139	37	0
7月	391	313	77	1	173	136	36	1
8月	149	106	43	0	56	42	14	0
9月	246	188	41	17	93	69	17	7
10月	376	305	69	2	170	141	28	1
11月	377	318	57	2	181	150	29	2
12月	361	286	74	1	153	127	25	1
1月	381	335	37	9	172	145	22	5
2月	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3487	2810	637	40	1529	1239	269	21

(出典 所蔵図書貸出冊数及び貸出人数)

資料7-1-②-2 (続き)

B.開館日数、入館者数

16年度	開館日	計		学生		職員		一般		見学	
4月	24	680	(66)	624	(66)	55	0	1	0	0	0
5月	24	1,360	(106)	1,323	(104)	33	(2)	4	0	0	0
6月	27	1,426	(133)	1,360	(127)	58	(6)	4	0	4	0
7月	23	925	(77)	878	(75)	44	(2)	2	0	1	0
8月	12	250	0	221	0	27	0	2	0	0	0
9月	26	1,917	(159)	1,780	(151)	63	(8)	5	0	69	0
10月	26	1,236	(101)	1,115	(94)	43	(7)	4	0	74	0
11月	24	961	(94)	885	(81)	67	(13)	3	0	6	0
12月	25	1,917	(142)	1,843	(128)	64	(14)	9	0	1	0
1月	22	883	(103)	821	(87)	61	(16)	0	0	1	0
2月	24	2,430	(167)	2,363	(151)	65	(16)	2	0	0	0
3月	16	676	(58)	594	(54)	55	(4)	8	0	19	0
計	273	14,661	(1206)	13,807	(1118)	635	(88)	44	0	175	0

17年度	開館日	計		学生		職員		一般		見学	
4月	23	1,563	(114)	1,520	(105)	42	(9)	1	0	0	0
5月	24	2,385	(176)	2,362	(157)	15	(15)	5	(3)	3	(1)
6月	27	1,601	(151)	1,584	(133)	15	(15)	2	(3)	0	0
7月	23	2,421	(192)	2,399	(172)	17	(16)	2	(2)	3	(2)
8月	13	498	(13)	365	(10)	26	(3)	6	0	101	0
9月	20	659	(17)	593	(13)	64	(4)	2	0	0	0
10月	25	923	(101)	873	(92)	42	(6)	8	(3)	0	0
11月	26	2,321	(178)	2,276	(167)	42	(9)	3	(2)	0	0
12月	22	959	(89)	948	(79)	10	(9)	1	(1)	0	0
1月	22	967	(89)	836	(81)	129	(7)	2	(1)	0	0
2月	24	2,224	(138)	2,142	(136)	80	(2)	2	0	0	0
3月	13	217	0	121	0	91	0	5	0	0	0
計	262	16,738	(1273)	16,021	(1139)	571	(116)	39	(15)	107	(3)

18年度	開館日	計		学生		職員		一般		見学	
4月	23	2,005	(132)	1,843	(127)	108	(2)	4	(3)	50	0
5月	24	2,633	(169)	2,536	(160)	91	(4)	6	(5)	0	0
6月	27	2,137	(168)	2,051	(167)	84	(1)	0	0	2	0
7月	27	3,137	(245)	3,037	(243)	96	(1)	4	(1)	0	0
8月	13	859	(11)	693	(9)	72	(2)	0	0	94	0
9月	21	933	(36)	697	(31)	148	(2)	15	(3)	73	0
10月	25	1,543	(165)	1,421	(159)	111	(3)	11	(3)	0	0
11月	25	2,979	(224)	2,883	(217)	90	(2)	6	(5)	0	0
12月	22	1,726	(143)	1,637	(141)	81	(2)	4	0	4	0
1月	22	1,336	(192)	1,224	(180)	88	(6)	21	(6)	3	0
2月	21	0	0	0	0	0	0	0		0	0
3月	12	0	0	0	0	0	0	0		0	0
計	262	19,288	(1,485)	18,022	(1,434)	969	(25)	71	(26)	226	0

()は、時間外入館者で内数です。

(出典 所蔵図書貸出冊数及び貸出人数)

大島商船高等専門学校商船会館使用内規

(趣旨)

第 1 条 大島商船高等専門学校商船会館（以下「商船会館」という。）の使用については、この内規の定めるところによる。

(目的)

第 2 条 商船会館は、本校学生相互及び学生と職員の間の人間的接触を深めるとともに、厚生福利を図り、学校生活を豊かにすることを目的とする。

(管理責任者)

第 3 条 商船会館の管理運営の責任者は、校長とする。

(使用の範囲)

第 4 条 商船会館の第 1 研修室、第 2 研修室、第 3 研修室、面会室及び作法室（以下「研修室等」という。）の使用は、次の各号に掲げる範囲とする。

- (1) 学生及び職員の研修並びに集会
- (2) 父兄と学生の面会及び父兄と教員の面談
- (3) その他校長が許可したもの

(開館時間)

第 5 条 商船会館の開館時間は、午前 8 時 30 分から午後 11 時までとする。ただし、校長が必要と認めた場合は、この限りでない。

(研修室等の使用手続)

第 6 条 研修室等を使用しようとする者は、次の各号に掲げる使用許可願を学生課学生係を経て学生主事に提出し、校長の許可を得なければならない。

- (1) 学生にあつては、大島商船高等専門学校学生準則第 41 条に定める施設設備使用許可願
ただし、合宿に使用する場合は、合宿届を提出することでこれに代えることができる。（合宿届の様式は、別に定める。）

- (2) 職員にあつては、別に定める使用許可願

2 前項の規定により許可を受けた後に、使用する必要がなくなった場合、若しくは、使用日時の変更が必要となった場合等のときは、速やかにその旨を申し出なければならない。

(使用許可の取消し)

第 7 条 研修室等の使用に当たって、許可された目的以外に使用することが判明したとき、その他管理上支障があると思われるときは、使用許可を取り消すことがある。

(使用上の注意)

第 8 条 商船会館を使用するときは、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 秩序を乱し、他人に迷惑をかけるような行為をしないこと。
- (2) 施設、設備及び備品は、大切に扱うこと。
- (3) 火気の取り扱いについては、十分注意すること。

2 研修室等を使用するときは、前項に定める事項のほか次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

資料7-1-②-3 (続き)

- (1) 使用後は、室内の清掃を行い整理整頓及び戸締りを厳重に行うこと。
- (2) 使用責任者は、清掃等が終わった後鍵を学生係に返還すること。
ただし、勤務時間外は、学寮事務官当直者に返還すること。
- (3) その他、使用に当たって特に指示されたこと。

(弁償責任)

第9条 使用者が施設、設備及び備品を破損若しくは滅失したときは、直ちに申し出なければならない。

2 使用者が故意又は過失により施設、設備及び備品を破損若しくは滅失したときは、相当代金をもって弁償しなければならない。

(事務)

第10条 商船会館の管理運営に関する事務は、学生課学生係において処理する。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、商船会館の運営に関する必要な事項については、校長が別に定める。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

資料 7-1-②-4

7 大島商船高等専門学校記念館（合宿所）使用内規

（趣旨）

第1条 大島商船高等専門学校記念館（合宿所）（以下「記念館（合宿所）」という。）の使用については、この内規の定めるところによる。

（目的）

第2条 記念館（合宿所）は、次の場合に使用することを目的とする。

- (1) 本校教員の指導のもとに行う本校学生の教育研究及び課外教育に係る合宿等
- (2) 本校教員が指導する高等専門学校学生等の行事
- (3) 指導教員の引率に係る高等専門学校学生等の団体の宿泊等
- (4) その他校長が必要と認めた場合

（管理責任者）

第3条 記念館（合宿所）の管理運営の責任者は、校長とする。

（使用手続）

第4条 記念館（合宿所）を使用しようとする者は、使用願（別紙様式）を原則として使用予定日の10日前までに学生主事に提出し、校長の許可を得なければならない。ただし、合宿に使用する場合は、合宿届を提出することで使用願に代えることができる。（合宿届の様式は、別に定める。）

（使用料）

第5条 記念館（合宿所）の使用料は無料とする。

（使用心得）

第6条 使用者は、別に定める「記念館（合宿所）使用心得」を遵守しなければならない。

（弁償責任）

第7条 使用者が、故意又は過失により記念館（合宿所）の施設及び設備等を破損若しくは滅失したときは、相当代金をもって弁償しなければならない。

（事務）

第8条 記念館（合宿所）の管理運営に関する事務は、学生課において処理する。

附 則（附則の一部を省略した。）

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

8 大島商船高等専門学校記念館（合宿所）使用心得

- 1 記念館(合宿所)の使用許可を受けた者は、使用目的外に使用し、又は転貸をしてはいけない。なお、使用日程等を変更する場合は、その都度学生課学生係へ申し出ること。
- 2 使用者は、本校南寮日課に準じた合宿日課を定めて、規則正しく行動すること。
- 3 使用許可を受けた者は、学生課寮務係(時間外の場合は学寮事務当直者)で鍵を受領して使用すること。
- 4 各室の設備・備品は丁寧に取り扱い、みだりに移動してはいけない。
- 5 本校学生の合宿に際しては、各自の寝具を持参使用すること。
- 6 使用者は、次の事項を遵守しなければならない。これに違反した場合は、直ちに使用を中止させ以後の使用許可をしないことがある。
 - (1) 飲酒行為の禁止
 - (2) 喫煙行為の禁止
 - (3) 火気・電気等の使用に際しては、火災防止に万全を期し、使用後のスイッチ、コック等の取り扱いを完全に行うこと。
 - (4) 使用時は、静粛にし他に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 7 本校以外の宿泊者からは、必要経費を徴収する。
- 8 使用後は、清掃整理を完全に行い学生課寮務係(時間外の場合は学寮事務当直者)へ報告し、確認を受けた後鍵の返還を行うこと。

付 記

この心得は、昭和53年7月14日から実施する。

（出典 大島商船高等専門学校規則集）

観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

学生の意見を授業や学習支援に反映する手段として授業評価アンケートが実施されており、具体的な学生のニーズを適切に把握している（資料 7-1-③-1）。また、授業担当教員、担任などを通して、常に学生の要望を汲み取る努力をしている。

（分析結果とその根拠理由）

学生のニーズを把握する資料として、授業評価アンケートがあり、さらに、さまざまな機会を通して、学生の要望が汲み取られている。

資料 7 - 1 - ③ - 1

学生による授業評価アンケート 平成18年度

この授業に関して、あなたの意見・感想を聞かせてください。授業内容を良くするために参考に
 するもので、回答は学生諸君の成績には全く影響しません。誠実に答えていただくようご協力をお
 願いします。

[注意事項]

- 質問事項をよく読んで、あなたの意見に最も近い番号を○で囲んでください。
- 学科、学年、授業科目名、担当教官名を記入してください。

学科・学年		担当教官名	
授業科目名			必修・選択

※(いずれかに○をつける)

[講義]

(質問事項)	良い 普通 悪い (+) (-)				
	(1) 先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	5	4	3	2
(2) 先生の説明はわかりやすく、理解しやすかったですか。	5	4	3	2	1
(3) 学生の理解度を確認しながら、適切な進度ですすすめられていましたか。	5	4	3	2	1
(4) プリントや補助教材は授業の役に立ちましたか。	5	4	3	2	1
(5) 授業に準備や工夫がなされていると思いましたか。	5	4	3	2	1
(6) 黒板 (OHP を含む) の使い方や書き方はわかりやすかったですか。	5	4	3	2	1
(7) 授業の内容はシラバスと一致していましたか。	5	4	3	2	1
(8) 授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。	5	4	3	2	1
(9) 定期試験の内容は適切だと思いましたか。	5	4	3	2	1
(10) 先生は授業に対して意欲的で、熱意が感じられましたか。	5	4	3	2	1
(11) この教科に興味を持って、将来あなたにとって役に立つと思いますか。	5	4	3	2	1
(12) 総合的に考えてこの授業に満足していますか (高く評価しています)	5	4	3	2	1
(13) あなたはこの授業の予習・復習をしていますか。	5	4	3	2	1
(14) あなたはこの授業に熱心に取り組みましたか。	5	4	3	2	1
(15) この授業の内容をどの程度理解しましたか。	5	4	3	2	1

資料 7-1-③-1 (続き)

学生による授業評価アンケート 平成18年度

この授業に関して、あなたの意見・感想を聞かせてください。授業内容を良くするために参考に
 するもので、回答は学生諸君の成績には全く影響しません。誠実に答えていただくようご協力をお
 願いします。

[注意事項]

- 質問事項をよく読んで、あなたの意見に最も近い番号を○で囲んでください。
- 学科, 学年, 授業科目名, 担当教官名を記入してください。

学科・学年		担当教官名	
授業科目名			

[実験・実習]

(質問事項)	良い	普通	悪い		
	(+)	(+)	(-)		
(1) 先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	5	4	3	2	1
(2) 先生の説明はわかりやすく、理解しやすかったですか。	5	4	3	2	1
(3) 学生の理解度を確認しながら、適切な進度ですすすめられていまし	5	4	3	2	1
(4) 実験・実習の内容には、準備や工夫がなされていると思いました	5	4	3	2	1
(5) 指導書は実験内容を理解するのに役立ちましたか。	5	4	3	2	1
(6) 実験・実習の内容はシラバスと一致していましたか。	5	4	3	2	1
(7) 授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。	5	4	3	2	1
(8) 実験内容のレベルは適当でしたか。	5	4	3	2	1
(9) 先生は実験・実習に対して意欲的で、熱意が感じられましたか。	5	4	3	2	1
(10) この実験内容に興味を持って、将来あなたに役に立つと思いますか。	5	4	3	2	1
(11) 実験や実習は講義の理解に役立つと思いますか。	5	4	3	2	1
(12) 総合的に見てこの実験・実習を高く評価していますか。	5	4	3	2	1
(13) あなたはこの実験・実習に熱心に取り組みましたか。	5	4	3	2	1

資料7-1-③-1 (続き)

学生による授業評価アンケート 平成18年度

この授業に関して、あなたの意見・感想を聞かせてください。授業内容を良くするために参考に
 するもので、回答は学生諸君の成績には全く影響しません。誠実に答えていただくようご協力をお
 願いします。

【注意事項】

- 質問事項をよく読んで、あなたの意見に最も近い番号を○で囲んでください。
- 学科、学年、授業科目名、担当教官名を記入してください。

学科・学年		担当教官名	
授業科目名			

【体育】

(質問事項)	良い	普通	悪い		
	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)
(1) 先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	5	4	3	2	1
(2) 先生の説明はわかりやすく、理解しやすかったですか。	5	4	3	2	1
(3) 学生の理解度を確認しながら、適切な進度ですすすめられていま したか。	5	4	3	2	1
(4) 授業内容には、準備や工夫がなされていると思いませんか。	5	4	3	2	1
(5) 授業の内容はシラバスと一致していましたか。	5	4	3	2	1
(6) 基礎的技術の練習は適切でしたか。	5	4	3	2	1
(7) 運動量は適切でしたか。	5	4	3	2	1
(8) 要求される運動技術レベルは適切でしたか。	5	4	3	2	1
(9) 先生は授業に対して意欲的で、熱意が感じられましたか。	5	4	3	2	1
(10) この授業によって、あなたは体育(運動)に興味を持ちましたか。	5	4	3	2	1
(11) あなたは積極的に運動しましたか。	5	4	3	2	1
(12) 総合的に見てこの体育授業を高く評価していますか。	5	4	3	2	1

(出典 学生による授業評価アンケート)

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

資格試験や検定試験のための支援に関しては，担当教員が指導及び受験の取りまとめを行っており，受検案内や校内受検等の便宜を実施している。合格した場合には所定の単位認定を受けることができ(資料7-1-④-1)，多くの学生が様々な資格の取得に取り組んでいる。

外国留学については，担任教員が随時相談にのっており，平成12年度に1名がオーストラリア，平成14年度に1名がオーストラリアに，平成16年度には1名がカナダに留学した。平成19年度には現代GP「海事技術者のキャリア育成プログラム」により2名が留学予定である。

(分析結果とその根拠理由)

資格・検定試験に対する支援体制が整備・機能している。外国留学については，担任教員が随時相談にのっている。

資料 7 - 1 - ④ - 1

単位認定一覧表

◎実用英語技能検定

級 別	準 2 級	2 級	準 1 級	1 級	単位算入の区分	
					商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	3	5	7	一般科	一般科
追加認定単位数		2	2	2	目	目

◎工業英語能力検定

級 別	3 級	2 級	1 級	単位算入の区分	
				商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	3	7	一般科	専門科
追加認定単位数		2	4	目	目

◎画像情報技能検定CG部門

級 別	2 級	1 級	単位算入の区分	
			商船系	工業系
認 定 単 位 数	2	4	専門科	専門科
追加認定単位数		2	目	目

◎ラジオ・音響技能検定

級 別	3 級	2 級	1 級	単位算入の区分	
				商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	2	4	専門科	専門科
追加認定単位数		1	2	目	目

◎デジタル技術検定

級 別	2 級	1 級	単位算入の区分	
			商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	3	専門科	専門科
追加認定単位数		2	目	目

◎情報処理活用能力検定

級 別	準 2 級	2 級	1 級	単位算入の区分	
				商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	2	3	専門科	専門科
追加認定単位数		1	1	目	目

資料7-1-④-1 (続き)

◎実用数学技能検定

級 別	準2級	2級	準1級	1級	単位算入の区分	
					商船系	工業系
認 定 単 位 数	1	2	3	5	一般科 目	一般科 目
追加認定単位数		1	1	2	専 門 科 目	専 門 科 目

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

観点 7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生には対しては、教務・寮務の各委員会の担当主事補、学級担任、所属学科の科目担当教員及びチューターが協力し、指導している（資料 7-1-⑤-1）。また、日本に関する特別授業や未修得専門科目が留学生の時間割に組み込まれ第 3 学年と第 4 学年において実施されている（資料 7-1-⑤-2）。

留学生、編入学生の人数は多くなく、個別に対応して学習支援を行っており、留学生は所要年限で卒業するなど、適切に機能している。

（分析結果とその根拠理由）

留学生や編入学生の対応については、主事補と学級担任及び所属学科の科目担当教員が協力して学習支援を行っており、必要な単位を取得して卒業している。このように学習支援体制が整備され、十分に機能している。

資料7-1-⑤-1

平成19年度 外国人留学生チューター一覧

学 科	学年	氏 名	住 所	備 考
商船学科	3年			
情報工学科	3年			
電子機械工学科	4年			
情報工学科	4年			
計		4人		

(出典 平成19年度 外国人留学生チューター一覧)

平成 19 年度 前期 授業 時間表

学年	月	水								木								金							
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
S3E	授業	三原	岩崎	吉富	吉富	伊藤	電通	伊藤	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋
	補習																								
I3	授業	三原	岩崎	吉富	吉富	伊藤	電通	伊藤	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋
	補習																								
M4	授業	三原	岩崎	吉富	吉富	伊藤	電通	伊藤	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋
	補習																								
I4	授業	三原	岩崎	吉富	吉富	伊藤	電通	伊藤	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋
	補習																								
S5N	授業	三原	岩崎	吉富	吉富	伊藤	電通	伊藤	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋
	補習																								

留学→留学生室(北棟3F) 制御室→制御工学実験室 近代→近代総合実験室

(出典 留学生授業時間表)

観点 7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

課外活動については、学生会会則に規定されている(資料 7-1-⑥-1)。学生の組織的活動については学生会が組織されている。運動部会及び文化部会を中心とする課外活動、学生会諸行事に対して、それぞれ顧問教員や学生会担当教員(学生主事補)がついて指導助言している(資料 7-1-⑥-2)。各クラブや学生会などにおいては担当教員の指導助言の下、年間活動計画を立てて活動しており、それぞれに様々な支援を行い、さらにその活動実績をまとめており、適切に機能している。また、全学生から徴収した学生会費によって通常の活動が行われ(資料 7-1-⑥-3)、必要に応じて後援会からの援助がなされている。事前の活動計画の申請により休日などにも活動できるようになっている。

(分析結果とその根拠理由)

課外活動、学生会諸行事等において、担当教員の指導・助言の下、学生が自主的に活動できる環境が整備され、機能している。課外活動の場所も整備され機能している。

大島商船商等専門学校学生会会則

(専門委員会)

第 23 条 専門委員会は、本会の文化及び体育に関する活動の専門機関で、かつ執行委員会の補助機関とする。

2 専門委員会は、文化委員会及び体育委員会とし、それぞれの委員会に属するクラブ・同好会の代表者をもって構成する。

3 文化委員会は、所属クラブ、同好会の連絡調整及び学園祭、その他の文化的行事の企画運営等に当たるものとする。

4 体育委員会は、所属クラブ、同好会の連絡調整及びクラスマッチ、その他体育関係行事の企画運営等に当たるものとする。

(クラブ)

第 24 条 本会に別表に掲げるクラブを置く。

2 クラブは、文化又は体育のいずれかの委員会に所属するものとする。

3 クラブの設置及び廃止は、所属委員会の議を経て代議員会において決定する。

(同好会)

第 25 条 本会に、前条に定めるクラブのほか同好会を置くことができる。

2 前条第 2 項及び第 3 項の規定は、同好会に準用する。

3 同好会の経費は、原則として加入者の負担とする。ただし、特別の事由がある場合は、代議員会の議を経て、経費の一部を補助することがある。

以下略

(出典 学生生活ハンドブック)

資料 7-1-⑥-2

平成 18 年度クラブ顧問一覧

平 18. 4. 1

注：*印同士の重複入部は出来ない

区分	クラブ名	顧問教員	顧問教員	顧問教員	顧問教員	顧問教員	顧問教員
体育部	*カッター	古藤 泰美	岩崎 寛希	吉留 文男			
	*ヨット	安尾 英昭	久保田 崇	上月 陽一	杉本 昌弘	朴 鍾 徳	中村 翼
	*ラグビー	藤井 敬治	北風 裕教	杉野 直規			
	*サッカー	岡村健史郎	野本 敏生	橘 理恵			
	*バスケット	辻 啓介	尾形公一郎	石原 良晃	海田 健		
	*バレー	藤井 雅之	清水 聖治	石田 依子	岡野内 悟		
	*硬式野球	平畑 幸作	幸田 三広	川原 秀夫	吉田 郁雄	田口 由香	
	*ソフトテニス	浦上美佐子	新谷 浩一	宮奥 正道	森脇 千春		
	*卓球	神田 全啓	岡本 正典	塩田 宏明			
	*陸上競技	伊藤 正一	増山 新二	岡崎 秀俊			
	*柔道	古賀 英司	藤井 英信	岡宅 泰邦			
	*剣道	三原 伊文	奥野 澄生	中澤 信幸	一番ヶ瀬剛		
	*空手道	松井 利幸	吉富 知行	田中 一雅			
	*水泳	中井 洋史	松田 充夫	櫛田 直規			
	*バドミントン	古本 啓二	杉村 佳昭	角田 哲也			
文化部	*吹奏楽	吉富 知行	中澤 信幸	岡宅 泰邦			
	園芸	宮奥 正道	吉田 郁雄	櫛田 直規			
	ESS	吉留 文男	石田 依子	宮奥 正道			
	詩吟	三原 伊文	安尾 英昭	中村 翼			
	コンピュータ	神田 全啓	岡野内 悟	北風 裕教	田中 一雅		
	アマチュア無線	岡野内 悟	塩田 宏明	比嘉 勝也			
	軽音楽	幸田 三広	中井 洋史	橘 理恵			
	新聞	中澤 信幸	吉田 郁雄				
	写真	新谷 浩一	奥野 澄生	北風 裕教			
	化学	杉村 佳昭	古本 啓二	比嘉 勝也			
同好会	天文	辻 啓介	安尾 英昭	上月 陽一			
	茶道	古藤 泰美	川原 秀夫	田口 由香			
	ロボット	岡野内 悟	増山 新二	藤井 雅之	清水 聖治		
	少林寺拳法	野本 敏生	朴 鍾 徳				
	ラジコン	増山 新二	森脇 千春				
和太鼓	吉田 郁雄	吉富 知行					

(出典 平成 18 年度クラブ顧問一覧)

資料 7 - 1 - ⑥ - 3

平成17年度学生会決算書

仕訳先	予算額	収入計	支払計	残高
学生会費		¥5,899,200	-	¥5,899,200
教官会費		¥68,400	-	¥68,400
雑収入		-	-	¥0
総務	¥250,000	-	¥56,850	¥193,150
商船祭	¥1,000,000	-	¥1,000,000	¥0
予備費	¥1,148,827	¥157,000	¥397,969	¥907,858
応援団	¥300,000	-	¥259,540	¥40,460
カッター	¥45,000	-	¥44,956	¥44
ヨット	¥370,000	¥320,000	¥690,000	¥0
ラグビー	¥235,000	-	¥233,702	¥1,298
サッカー	¥280,000	-	¥280,000	¥0
バスケットボール	¥375,000	-	¥374,525	¥475
バレーボール	¥270,000	¥695	¥270,695	¥0
硬式野球	¥920,000	-	¥918,527	¥1,473
ソフトテニス	¥235,000	-	¥235,000	¥0
卓球	¥105,000	-	¥105,000	¥0
陸上競技	¥150,000	-	¥99,328	¥50,672
柔道	¥140,000	-	¥139,960	¥40
剣道	¥235,000	-	¥230,272	¥4,728
空手道	¥240,000	¥15,386	¥248,803	¥6,583
水泳	¥50,000	-	¥20,630	¥29,370
バドミントン	¥310,000	-	¥309,472	¥528
吹奏楽	¥120,000	-	¥119,795	¥205
園芸	¥10,000	-	¥9,972	¥28
ESS	¥15,000	-	¥15,000	¥0
詩吟	¥24,500	-	-	¥24,500
コンピュータ	¥120,000	-	¥119,875	¥125
アマチュア無線	¥1,000	-	¥500	¥500
軽音楽	¥80,000	-	¥56,256	¥23,744
写真部	¥38,000	-	¥34,974	¥3,026
化学	¥0	-	-	¥0
天文同好会	¥30,000	-	-	¥30,000
茶道同好会	¥11,500	-	¥10,081	¥1,419
ロボット同好会	¥120,000	¥9	¥119,943	¥66
少林寺拳法同好	¥15,000	-	¥5,000	¥10,000
和太鼓同好会	¥10,000	-	-	¥10,000
(すべて)	¥7,253,827	¥6,460,690	¥6,406,625	¥7,307,892
繰越		¥1,157,327	¥1,211,392	¥-54,065
計		¥7,618,017	¥7,618,017	¥0

(出典 17年度学生会決算書)

観点 7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生の生活指導は、学級担任を中心に、教職員全員が連携して行っている。学生の悩みを解決する方法としては、学級担任に相談するほか学生相談室を設置し、学生の秘密を厳守しながら、学生相談、カウンセリングを行っている(資料 7-2-①-1)。これに携わるスタッフは、関連する研修会に出席してカウンセリングのスキルアップを図っている。学生相談室は、年間数十件の相談を受けており充分機能している(資料 7-2-①-2)。

経済面に関しては、入学料・授業料等の免除及び徴収猶予に関する規則が制定され(資料 7-2-①-3)、適切に運用されている。奨学金についても日本学生支援機構を始め各種の奨学金制度(日本学生支援機構、日本船員奨学会奨学金、山口県奨学生、近藤記念海事財団奨学金等)だけでなく、本校独自の奨学金制度(宮本晃奨学金)(資料 7-2-①-4)もあり、学生の経済状態に応じて幅広く利用できる環境を整え利用されている。授業料免除や奨学金については、学生課、担任を通じて学生に周知する体制ができており、保護者懇談会で直接保護者にも伝えている。これらの活用実績の一部を資料(資料 7-2-①-5)に示す。

(分析結果とその根拠理由)

学級担任を中心とした指導・相談が適切に行われている。また、学生相談室は、効果的に運用され機能している。授業料免除の規則が定められ充分機能している。また、奨学金についても各種支援団体、本校独自のものなど幅広く整備されるとともに充分機能している。これらについては学生生活ハンドブックに掲載するほか、保護者懇談会において保護者に直接伝える配慮がなされ組織的に運用されている。

資料 7 - 2 - ① - 1

■ **学生相談室とは** 「学生相談」、「カウンセリング」と言うとか特別の感じがするかもしれませんが、何ら特別の室でもありません。むしろ「安らぎの場」と思っていたきたいです。人間はそもそも「考える、悩む動物」なのです。悩みは苦しみの源だけでなく、創造の源にもなるのです。「相談に行く」ということは、ある意味で恐いことです。嫌なことです。自分でも惨めで恥ずかしいと思っていることを人に話さなければならぬからです。

しかし、心理相談というのは、その人を批判したり評価したりするものではありません。相談についての秘密は守りますので、安心して気軽に立ち寄って下さい。「話す」ことで直面している問題を眺める余裕が生まれ、埋もれていた解決能力が活動し始めるのです。

■ **学生相談室の活動概要**

- 基本的に、ウィークデイは学生相談室長、相談員が交替で、毎日学生相談室に居ます。
 - 外部より月に2回、カウンセラーを招聘しています。
 - 外部講師による、教職員を対象とした「講演会」を毎年実施しています。
- 学生相談室入口のドアに、郵便ボックスの設置やメールでの学生相談にも対応して幅広く対応しています。
- 「メンタルヘルス協議会」等の各種研修会への出席することにより、自己研修に努めています。

■ **開室時間**

毎月2回(水曜日)は山口弘美カウンセラー(外部カウンセリング)が来校されます。

曜日/時間	15:30～16:30	16:30～17:15
月	井上	岡野内
火		尾形
水	※山口・井上	※山口・宮奥
木	井上	吉富
金		吉田

■ **相談の受付方法**

1. 直接、相談室へ：開室時間内には必ず担当教員が学生相談室にいます。
2. 手紙で相談：学生相談室ドアのBoxに投函してください。
3. 電子メールで相談：相談員宛に電子メールで直接相談してください。

(出典 大島商船高等専門学校HP)

資料 7-2-①-2

学生相談室利用状況（延べ数）

	学生	保護者	計
平成14年度	48	0	48
平成15年度	79	1	80
平成16年度	55	3	58
平成17年度	52	3	55
平成18年度	81（前期）	8（前期）	87

（出典 学生相談室利用状況）

資料 7-2-①-3

大島商船高等専門学校授業料等免除及び徴収猶予に関する規則

第3章 授業料の免除及び徴収猶予

（免除の範囲）

第11条 授業料の免除は、次の各号の一に該当する場合に、本人(連帯保証人連署)の申請に基づき、選考の上校長が許可することができる。

- (1) 経済的理由のため授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合
- (2) 授業料の各期ごとの納期前6か月以内(新入学者に対する前期分の免除に係る場合は、入学前1年以内)において、学資負担者が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合
- (3) 前号に準ずる場合であって、校長が相当と認める事由がある場合

（免除額）

第12条 授業料の免除の額は、各期の授業料について、その全額又は半額とする。

（免除の申請手続）

第13条 授業料の免除を受けようとする者は、次の書類を指定の期日までに提出しなければならない。

- (1) 授業料免除願(別紙様式4)
- (2) 家庭調書(別紙様式2)
- (3) 災害を受けた場合については、市町村長の罹災証明書
- (4) その他参考となる証明書

（出典 大島商船高等専門学校規則集 抜粋）

資料 7 - 2 - ① - 4

大島商船高等専門学校「宮本 晃」奨学金支給規則

制 定 平成 19 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 大島商船高等専門学校「宮本 晃」奨学金（以下「奨学金」という。）は、本校に在学する本科生、留学生及び専攻科生で、勉学に対する意欲があるにもかかわらず、経済的理由により就学が困難な者に対して支給し、有用な人材を育成することを目的とする。

(奨学金の金額)

第 2 条 奨学金の額は、半期につき独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則に定める授業料の年額の半額とし、毎年の支給総額は概ね 2 0 0 万円とする。

ただし、校長が必要と認めた場合は増額又は減額することができる。

(出典 大島商船高等専門学校規則集 抜粋)

資料7-2-①-5

奨学金貸与の現状

平成19年1月現在

奨学会名	学年・学生数		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	合計
	貸与月額(円)		138名	118名	121名	129名	109名	
日本学生支援機構	第一種	50,000				4	2	6
		48,000					5	5
		44,000				10	2	12
		42,000					7	7
		22,500	3	4	6			13
		21,000	8	6	13			27
日本船員奨学会 (商船学科に限る)	一般	38,000				10		10
		26,000	8	8	10			26
近藤記念海事財団		13,000						0
山口県ひとづくり財団		24,000	1	2	2	8		13
		18,000	1	4	6	3		14
その他			1		1	2		4
合計			22	24	38	37	16	137

(注) 奨学生の中には、2種類以上の奨学金を重複して貸与を受けている者もいます。

(出典 奨学金貸与の現状)

観点 7-2-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

昭和 58 年に留学生を受け入れて以来、平成 18 年度までに 36 名の留学生を受け入れており、在学中の 5 名を除いた全員が卒業している。留学生の支援は、外国人留学生のための入学の手引き（資料 7-2-②-1）を整備し、様々な相談の窓口を学級担任とし、学生課、学生チューターが当たっている。学寮では留学生の共用空間を整備し居住環境を充実させるとともに、校舎では留学生教室を整備し学習環境を充実させ、また毎年留学生との交流会を開催している。（資料 7-2-②-2）

一方、障害を持つ学生の入学の例はないが、近年の校舎改修では、各校舎の出入口のスロープ及び自動ドアを設置している。

（分析結果とその根拠理由）

様々な相談の窓口は学級担任となっており、適切に指導している。それにより留学生は快適な学校生活を営んでいる。

資料 7-2-②-1

外国人留学生のための 入学の手引き

平成 19 年度(2007)版

大島大橋(長さ 1020メートル)



この橋を渡ったこちら側が学校のある大島です

空から見た学校です。



大島商船高等専門学校

目 次

1. はじめに	1
2. ^{がっこう} 学校の ^{やまぐちけんおおしまぐん} ある山口県大島郡について	1
3. ^{おおしましょうせんこうとうせんもんがっこう} 大島商船高等専門学校について	2
4. ^{がいこくじんりゅうがくせい} 外国人留 ^{しゅるい} 学生の ^{げんじょう} 種類と現状	3
5. ^{がいこくじんりゅうがくせい} 外国人留 ^{たんとうしゃなど} 学生の ^{たんとしやなど} 担当者等	3
6. ^{こくひがいこくじんりゅうがくせい} 国費外国 ^{きゅうよなど} 人留 ^{きゅうよなど} 学生の ^{きゅうよなど} 給与等	4
7. ^{がくしゅう} 学 ^{がくしゅう} 習について	5
8. ^{がくりょう} 学 ^{がくりょう} 寮について	6
9. ^{がっこうのうにゆうきん} 学校 ^{がっこうのうにゆうきん} 納入 ^{がっこうのうにゆうきん} 金について	9
10. ^{かつどう} ク ^{かつどう} ラブ ^{かつどう} 活 ^{かつどう} 動について	9
11. ^{ねんかんぎようじよてい} 年 ^{ねんかんぎようじよてい} 間 ^{ねんかんぎようじよてい} 行 ^{ねんかんぎようじよてい} 事 ^{ねんかんぎようじよてい} 予 ^{ねんかんぎようじよてい} 定 ^{ねんかんぎようじよてい} の ^{おも} 主 ^{おも} な ^{おも} 物 ^{おも}	10
12. ^{ほんこう} 本 ^{ほんこう} 校 ^{ほんこう} に ^{ほんこう} 到 ^{ほんこう} 着 ^{ほんこう} す ^{ほんこう} る ^{ほんこう} ま ^{ほんこう} で ^{ほんこう} の ^{てつづ} 手 ^{てつづ} 続 ^{てつづ} き	12
13. ^{らいこうご} 来 ^{らいこうご} 校 ^{らいこうご} 後 ^{らいこうご} の ^{らいてい} 日 ^{らいてい} 程 ^{らいてい}	13
14. ^{がいこくじんとうろくなど} 外 ^{がいこくじんとうろくなど} 国 ^{がいこくじんとうろくなど} 人 ^{がいこくじんとうろくなど} 登 ^{がいこくじんとうろくなど} 録 ^{がいこくじんとうろくなど} 等 ^{がいこくじんとうろくなど} に ^{がいこくじんとうろくなど} つ ^{がいこくじんとうろくなど} い ^{がいこくじんとうろくなど} て	13
15. ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} 学 ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} 生 ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} 旅 ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} 客 ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} 運 ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} 賃 ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} 割 ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} 引 ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} 証 ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} に ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} つ ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} い ^{がくせいりよかくうんちんわりびきしょう} て	15
16. ^{りゅうがくせいよう} 留 ^{りゅうがくせいよう} 学 ^{りゅうがくせいよう} 生 ^{りゅうがくせいよう} 用 ^{りゅうがくせいよう} カ ^{りゅうがくせいよう} リ ^{りゅうがくせいよう} キ ^{りゅうがくせいよう} ュ ^{りゅうがくせいよう} ラ ^{りゅうがくせいよう} ム	16

(出典 外国人留学生のため入学の手引き)

資料 7 - 2 - ② - 2

外国人留学生交流会開催

12月7日(木)、大島商船高等専門学校では、毎年恒例となる地域交流を兼ねた、外国人留学生交流会を開催しました。

周防大島町長・周防大島町教育長・熊毛フレンドシップクラブ会長および多数の学生・教職員が参加しました。

本校では5カ国6名の外国人留学生在籍し、慣れない国での生活及び勉強に励んでいます。交流会では級友から留学生のエピソードが披露され、地域で留学生のお世話をされている熊毛フレンドシップクラブの方々からは、心強い励ましのお言葉をいただき、また、留学生からは「お父さん」と声をかける場面も見られ、終始和やかな時間を過ごしました。



(出典 大島商船高等専門学校HP)

観点 7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の間として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

本校の学寮は、「団体生活を体験することによって協調性を培い責任と規律ある生活習慣を身に付け、自主性を高め、将来立派な社会人としての資質を養うことを目的とする」という設置基準で造られた教育寮であり、2棟(男子寮、女子寮)が設置されている。現在、男子159名、女子32名の寮生を収容している。入寮を許可された寮生は、学寮管理規則(資料7-2-③-1)及び寮生心得(資料7-2-③-2)のルールに基づいて共同生活をしている。寮日課(資料7-2-③-3)に従って規則正しい生活をしており、協調と自律の精神を身につけている。寮務主事室、寮務委員会の監督・指導の下、寮生会(資料7-2-③-4)は、寮生会役員や指導寮生が中心となって寮生で組織されており、寮内での共同生活を円滑に運営し、各種行事(資料7-2-③-5)を開催し親睦を深めている。また、各居室の他、自習室やパソコン室が整備され、自主学習が快適にできる環境も備えている。開寮期間中は、毎日、宿直と休日日直の教員が指導に当たっている。なお、規則違反の多い寮生に対しては、保護者を交えての指導を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

寮生はルールに従った共同生活を送っている。寮務主事室及び寮務委員会の監督・指導の下で、寮生会役員や指導寮生を中心として、生活の間として十分に機能している。また、自習室やパソコン室を整備し、勉学の間としても有効に機能している。

大島商船高等専門学校学寮管理運営規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大島商船高等専門学校における学寮の管理運営について、必要な事項を定め、その円滑かつ適正な運営を図ることを目的とする。

(学寮の性格)

第2条 学寮は、第1学年及び第2学年は全寮制、第3学年以上は許可入寮制(女子学生は、全学年許可入寮制)とし、団体生活を通して、友愛、協調及び自主の精神を培い、責任と規律ある生活習慣を体得させ、海技技術者及び工業技術者に必要な資質を養うための施設とする。

(寮務主事)

第3条 寮務主事は、校長の命を受けて学寮の管理運営並びに学寮における学生(以下「寮生」という。)の教育計画及び訓育指導の計画の立案、実施等に当たる。

(寮務主事補)

第4条 寮務主事を補佐するため寮務主事補を置く。

(寮務委員会)

第5条 学寮の管理運営及び寮生の厚生補導に関し、具体的事項を審議するため、大島商船高等専門学校寮務委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 寮務主事及び学生主事

(2) 寮務主事補

(3) 各学科及び一般科目から選出された教官各1人

(4) その他校長が必要と認めた者

3 前項第3号及び第4号の委員の任期は、1年とする。ただし再任を妨げない。

4 寮務主事は、委員会を招集し、その議長となる。

5 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(指導寮生)

第6条 第1学年、第2学年及び第3学年の寮生の生活上の助言を与え、相談に預かるため、指導寮生を置く。

2 指導寮生は、第4学年又は第5学年の寮生から校長が任命する。

(寮生会)

第7条 寮生の自律・自治の気風を養うことを目的として寮生会を置く。

2 寮生会は、寮生全員をもって構成する。

3 寮生会は、学校の指導を受ける。

以下略

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

資料 7 - 2 - ③ - 2

大島商船高等専門学校寮生心得

学寮管理運営規則に基づき、寮生心得を定める。寮生は、次の各項に従い生活をしなければならない。

以下略

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

資料 7 - 2 - ③ - 3

日 課 表

日 課	月, 火, 木, 金曜	水曜	日曜・土曜 (休日)
起 床	6 : 50	6 : 50	7 : 10
洗面・整頓	6 : 50~7 : 00	6 : 50~7 : 00	7 : 10~7 : 20
整列・点呼・体操	7 : 00~7 : 10	7 : 00~7 : 10	7 : 20~7 : 30
掃 除	7 : 10~7 : 30	7 : 10~7 : 30	
朝 食	7 : 30~8 : 15	7 : 30~8 : 15	7 : 30~8 : 15
登 校	8 : 20	8 : 20	
昼 食	12 : 00~12 : 50	12 : 00~12 : 50	12 : 00~12 : 50
登 校	13 : 00	13 : 00	
夕 食	17 : 30~18 : 45	17 : 30~18 : 45	17 : 30~18 : 45
入 浴	17 : 00~19 : 40	17 : 00~21 : 00	17 : 00~21 : 00
帰 寮 点 呼	19 : 50	19 : 50	21 : 20 (女子寮 19 : 50)
自 習	20 : 00~22 : 10	21 : 00~22 : 10	
巡 回 点 呼	22 : 20	22 : 20	22 : 20
消 灯	23 : 00	23 : 00	23 : 00

(出典 寮生便覧)

資料 7-2-③-4

第5章 指導寮生

- 【1】第1学年、第2学年及び第3学年の寮生の寮生活に関し指導及び助言するため、第4学年及び第5学年の寮生の中から指導寮生を若干名選び、寮務主事及び学寮指導教官を補佐させる。
- 【2】指導寮生は寮務委員会の推薦に基づき学校長が任命する。任期は原則として1学期間（半年）とし、再任は妨げない。
- 【3】指導寮生は、寮務主事の指定する区分に居住し低学年寮生の指導に当る。
- 【4】指導寮生の任務・心得は別に定める。

第6章 寮生会

- 【1】寮生会は、寮生全員をもって組織する。
- 【2】寮生は、学寮内における日常生活上の共通の諸問題を協力して処理し、自主的に取り組み解決することによって、集団生活における責任と義務を自覚し、自治能力の向上につとめるため寮生会に参加しなければならない。
- 【3】寮生は、学寮の規律を守り、本会の運営に常に関心をはらい、その活動に積極的に参加しなければならない。
- 【4】寮生会会則は別に定める。

(出典 寮生便覧)

年間行事予定表

	学校行事	学寮行事
4月	春季休業 入学式 新入生オリエンテーション 大島丸体験航海（1年） 合宿研修（1年生）	指導寮生研修 大掃除・部屋替え 掃除オリエンテーション（1年） 防火訓練
5月	県内3高専親善試合	部屋替え（1年）
6月	前期中間試験 大島丸実習（S4・S1）	特定寮生懇談会
7月	中国地区高専体育大会 全国商船高専漕艇大会 前期末試験	
8月	臨時・夏季休業 大島丸サマールーズ 全国高専体育大会 オープンキャンパス	
9月	大島丸研究航海 卒業式（S）	
10月	創立記念日 創立110周年・高専創立40周年記念 式典等 大島丸実習（S1・S2・S3） オープンキャンパス クラスマッチ	部屋替え 防火訓練
11月	商船祭 中国地区高専体育大会（冬季） 大島丸実習（S4）	
12月	後期中間試験 校内マラソン大会 冬季休業	特定寮生懇談会
1月	合宿研修（3年生・スキー）	
2月	学年末試験 臨時・学年末休業	
3月	卒業式（M・I）	特定寮生懇談会

このほか、寮生会が映画祭、フリーマーケット、餅つき大会等を企画する。

（出典 寮生便覧）

観点 7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の進路指導は、教務委員会が進学関係、各学科が就職関係を管轄しており(資料 7-2-④-1) 各学科長と 4, 5 年の担任が指導に当たっている。就職に関しては、4 年生の夏期休暇にインターンシップ(資料 7-2-④-2) を体験させ、秋に保護者への進路ガイダンスを実施している。専攻科課程の進路指導は、専攻科委員会が管轄している。

進学に関しては、担任の指導の下で、学生自身が自ら調査の上で進路先を決めている。また、各学科の進路指導室や図書館で進学・就職のための資料が閲覧できるようになっている。以上、進路指導に関する体制は整備され、充分機能している。

(分析結果とその根拠理由)

進路指導は、4, 5 年の担任が中心となり、進学・就職に対して適切な指導が行われている。特に、就職が厳しい状況でも就職率ほぼ 100% を維持していることは進路指導の成果である。

資料7-2-④-1

 平成19年度就職担当者

【商船学科】

岩崎 寛希

【電子機械工学科】

一番ヶ瀬 剛

【情報工学科】

岡宅 泰邦

【海洋交通システム学専攻科】

岩崎 寛希

【電子・情報システム工学専攻科】

比嘉 勝也

(出典 大島商船高等専門学校HP)

資料 7 - 2 - ④ - 2

インターンシップ参加者一覧

平成 18 年度インターンシップ参加者一覧

確定学生名	学科	学年	受入企業名	実施期間	実施日数	所在地 (県・市)	備考(広域・山口)	単位認定
	情報工学	4		8/21~8/25	5	岩国市	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	"	"		8/16~8/20	"	"	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	電子機械	"		8/7~8/11	"	"	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	"	"		8/7~8/11	"	"	山口	1
	"	"		"	"	"	山口	1
	"	"		8/7~8/15	7	"	山口	1
	"	"		8/7~8/11	5	柳井市	山口	1
	情報工学	"		9/1~9/5	5	岩国市	山口	1
	電子機械	"		9/4~9/8	5	柳井市	山口	1
	情報工学	"		8/28~9/1	5	"	山口	1
	"	"		8/22~8/25	4	周南市	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	電子機械	"		"	4	柳井市	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	"	"		"	4	岩国市	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	"	"		"	4	"	山口	1
	"	"		8/7~8/11	5	柳井市	山口	1
	"	"		"	5	"	山口	1
	"	"		8/21~8/25	5	周南市	山口	1
	"	"		9/4~9/8	5	光市	山口	1
	"	"		"	5	"	山口	1
	"	"		8/7~8/11	5	下松市	山口	1
	情報工学	"		8/21~8/25	5	岩国市	山口	1
	情報工学科	4		8/21~8/25	5	北九州市	広域	1

(出典 インターンシップ参加者一覧)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学生の学習支援に関しては、通常の授業の他に基礎科目の補習時間を確保しており、支援体制が整備・機能されている。また、海外留学については、担当教員による支援体制が整備されている。

課外活動において、顧問の指導・助言の下、学生が自主的に活動できる環境が整備され、機能している。

学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制については整備されている。生活指導体制は、学級担任を中心として、学生相談室の支援も受けながら、指導・相談・助言が適切に行われている。また、奨学金については、幅広く整備されるとともに充分機能している。

留学生に関しては、留学生の殆どが卒業後進学しており、学習支援、生活支援の体制が整えられている。

学寮に関しては、毎年協調と自律の精神を身に付けて卒業している。また、自主学習する体制が整えられている。

進路指導に関しては、教務委員会と各学科長及び4、5年の担任が指導に当たり、就職、進学率ほぼ100%を維持している。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準7の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスは、本科専攻科とも、年度当初に行うよう整備され、適切に実施されている。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制も整備され、十分に機能している。

自主的学習環境としては、図書館や情報教育センターが整備されている。情報教育センターのPCは、授業で利用する教育用演習システムであり、効果的に利用されている。厚生施設としては、福利合宿施設（商船会館会館）と合宿研修施設（合宿所）が整備されており、学生の課外活動と学生及び教職員の福利厚生に寄与している。コミュニケーションスペースとしては、図書館学生課棟1Fのロビー及び屋外の中庭が整備され、効果的に利用されている。

学生のニーズを把握する資料として、授業評価アンケートが実施されており、授業担当教員、担任などを通して、常に学生の要望が汲み取られている。

資格試験や検定試験のための支援に関しては、担当教員が指導及び受験の取りまとめ等を行っている。また、外国留学については、担任教員が随時相談にのっている。

留学生には対しては、教務・寮務の各委員会の担当主事補、学級担任、所属学科の科目担当教員及びチューターが協力して学習支援を行っている。編入学生に対しても、学科毎学級担任及び科目担当教員が協力して学習支援を行っている。

課外活動等については、クラブ、学生会には、顧問教員や学生会担当教員顧問を配置し、学生が自主的に活動できる環境や経済的支援体制が整備され、活発に活動している。

学生の生活や経済面に係わる指導等は、学級担任を中心として、学生相談室の支援も受けながら、

指導・相談・助言が適切に行われている。授業料免除については、規則に従って適切に運用されている。また、奨学金については、幅広く整備されるとともに充分機能している。これらについては学生生活ハンドブックに掲載するほか、保護者懇談会において保護者に直接伝える配慮がされ組織的に運用されている。

留学生からの様々な相談の窓口は学級担任となっており、適切に指導しており、留学生は快適な学校生活を営んでいる。

寮生はルールに従った共同生活を送っている。寮務主事室、寮務委員会の監督・指導の下、寮生会は、寮生会役員や指導寮生が中心となって全寮生で組織されており、寮内での共同生活を円滑に運営し、各種行事を開催し親睦を深めており、生活の場として十分に機能している。

進路指導は、各学科長と4、5年の担任が中心となり、進学・就職に対して適切な指導が行われている。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば校地，運動場，体育館，教室，研究室，実験・実習室，演習室，情報処理学習のための施設，語学学習のための施設，図書館等，実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され，有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点にかかる状況）

学内の施設として校舎・管理棟，専門科棟（電子機械工学科・情報工学科），ものづくり教育研究棟（平成19年度完成予定），体育館（第一・第二），機関実習工場（1・2），課外活動施設，厚生補導施設，船舶等を整備している（資料8-1-①-1～3）。

本校は，三級海技士の第一種養成施設であるため，それに必要な実習機器や実験室，練習船（大島丸），実習用小型船舶（すばる）を整備している（資料8-1-①-4）。

運動場には日没後のクラブ活動を安全に実施するために必要な夜間照明を設置している。

教室はクラス毎に計15教室を設置している。商船学科については，商船及び機関コースのコース分け授業を実施するための特別教室を1教室設置している（資料8-1-①-5）。その他教員室及び学科別の部屋については，必要数が整備しており，各部は有効に利用されている（資料8-1-①-6，7，8）。

情報処理学習のための施設として，情報教育センターを設置し学内ネットワークの維持管理を実施している。校内に情報ネットワーク端子を設置し，無線LANを使うことにより，校舎・管理棟・専門科棟及び練習船間の情報交換ができる環境としている（資料8-1-①-9，資料8-1-②-1）。

その他，語学学習の施設としてLL教室を設置している。図書館については，海事，船舶関係図書の収蔵及びパソコン等を整備している（資料8-1-①-10，11）。

なお，平成17年度には全教室に冷暖房設備を設置し，梅雨及び気温の高い季節の勉学環境の改善を図っている。

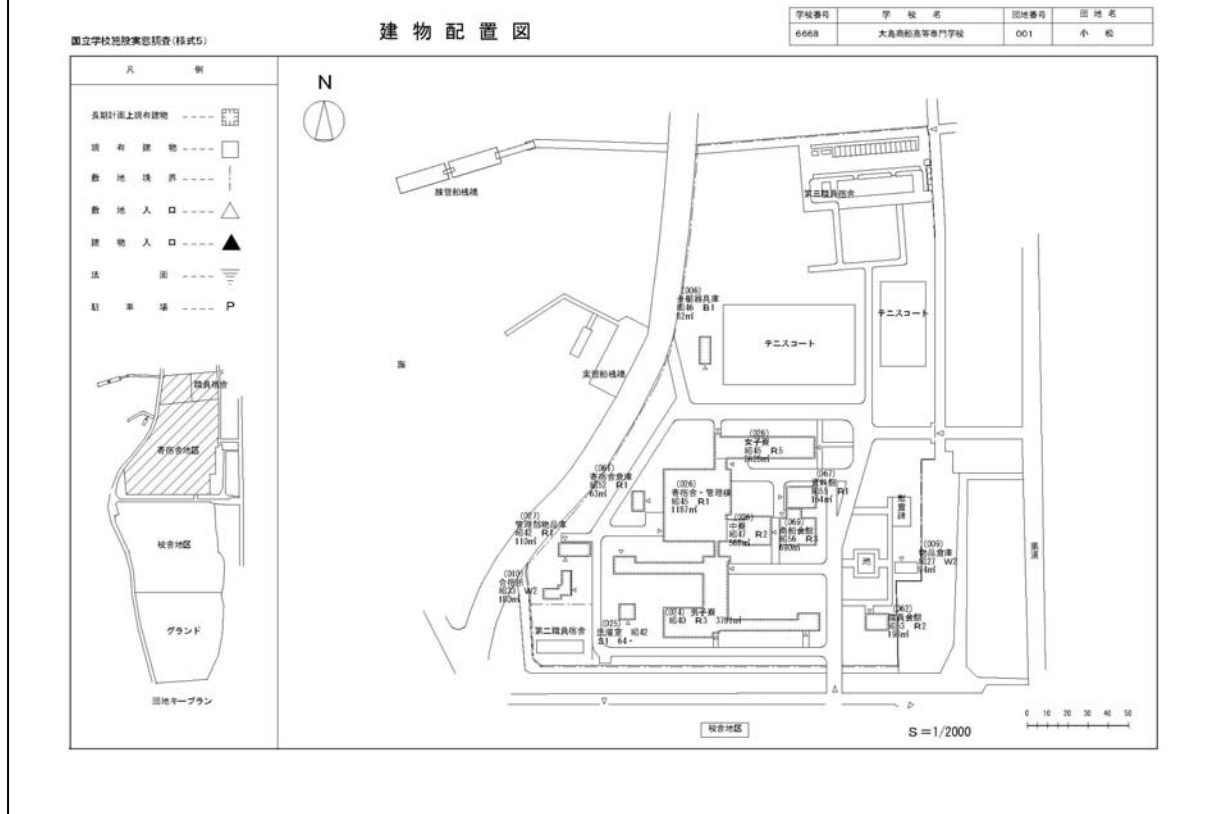
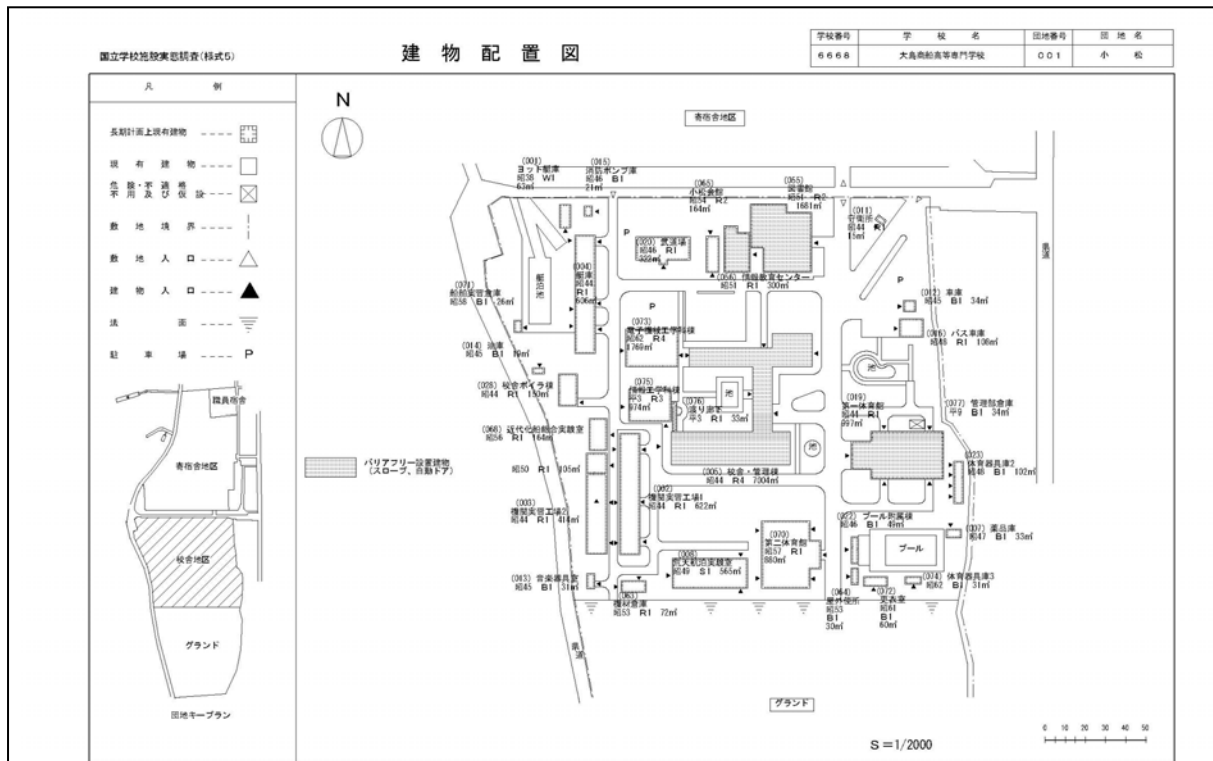
練習船大島丸及び実習船すばるの使用状況は資料8-1-①-12のとおり稼働し，本校において編成された商船学科の教育課程を実現させている。機関実習工場棟における施設の使用状況は（資料8-1-①-13）のとおり職業教育に必要な施設，設備となっている。設置されている設備の中には老朽化により更新しなければならないものがある（資料8-1-①-14）。

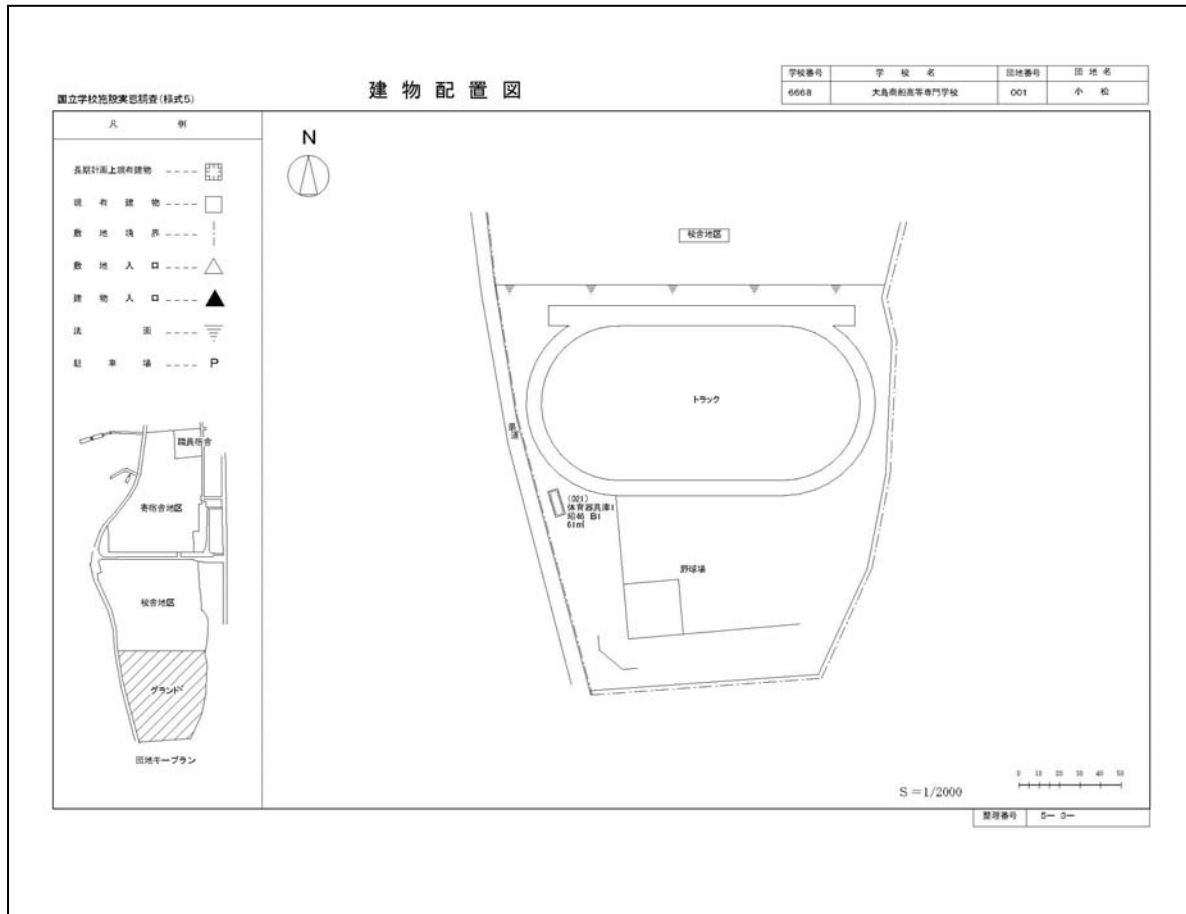
実験・実習を安全に実施するための安全管理については，平成15年度までは人事院の各種規則に則っていたが，独立行政法人化に伴い，平成16年度から労働安全衛生法が適用となり規則の整備を図った（資料8-1-①-15）。

施設・設備のバリアフリー化についての設置年度・設置箇所は次のとおりである。

平成10年度	本館・管理棟北出入り口②図書館・学生課出入り口③情報教育センター出入り口にスロープ設置。
平成18年度	第一体育館出入り口にスロープ設置。

資料 8 - 1 - ① - 1





(出典 国立大学法人等施設実態調査)

資料 8 - 1 - ① - 2

「土地・建物内訳」

土地

土地区分	敷地面積 (㎡)	内訳 (㎡)	
本校	112,540	校舎敷地	45,767
		寄宿舎敷地	29,911
		屋外運動場敷地	33,770
		職員宿舎外	3,092
計	112,540		

建物

分類調査単位別	棟名称	建築年	構造	階	延べ面積	建築面積	大規模改修歴		
							外部改修年	内部改修年	耐震改修年
商船高専校舎	校舎・管理棟	1969	R	4	7,004	2,005	1994		
	電子機械工学科棟	1986	R	4	1,769	510			
	情報工学科棟	1991	R	3	974	328			
	渡り廊下	1991	R	1	33	33			
	機関実習工場 1	1696	R	1	622	622			
	機関実習工場 2	1699	R	1	519	519			
	艇庫	1696	R	1	606	606			
	荒天航泊実験室	1974	S	1	565	565			
	近代化船総合実験室	1981	R	1	164	144			
	情報教育センター	1976	R	1	300	300			
	図書館	1976	R	2	1,681	866			
	第一体育館	1969	R	1	997	997			
	第二体育館	1982	R	1	880	880			
	武道場	1971	R	1	322	322			
	小松会館	1979	R	2	164	110			
	職員会館	1978	R	2	193	97			
	商船会館	1981	R	3	690	285			
	資料館	1980	R	1	164	164			
	合宿所	1958	W	2	180	117			
	バス車庫	1973	R	1	108	108			
	車庫	1970	R	1	34	34			
	守衛所	1969	R	1	15	15			
	校舎ボイラ棟	1969	R	1	150	150			
	プール附属棟	1971	B	1	49	49			
	更衣室	1986	B	1	60	60			
	体育器具庫 1	1971	B	1	61	61			
	体育器具庫 2	1973	B	1	102	102			
	体育器具庫 3	1987	B	1	31	31			
	屋外便所	1978	B	1	30	30			
	ヨット艇庫	1963	B	1	63	63			
	舟船器具庫	1971	B	1	82	82			
	機材倉庫	1978	R	1	72	72			
	船舶実習倉庫	1983	B	1	26	26			
	物品倉庫	1952	W	2	94	60			
	薬品庫	1972	B	1	33	33			
	油庫	1970	B	1	19	19			
	音楽器具庫	1970	B	1	31	31			
	消防ポンプ庫	1971	B	1	21	21			
	管理部倉庫	1997	B	1	34	34			
	管理部物品庫	1967	R	1	110	110	2000	2000	
		計				19,052	10,661		
高専寄宿舎	男子寮	1965	R	3	3,781	1,378	2000	2000	2000
	女子寮	1970	R	5	2,629	557	1996	1996	
	管理棟	1970	R	1	1,187	1,258	1996	1996	
	中寮	1973	R	2	569	302	1996	1996	
	洗濯室	1967	S	1	64	64			

その他の施設	寄宿舎倉庫	1977	R	1	63	63			
	計				8,293	3,622			
	練習船係留棧橋	1992	R						
	練習船係留棧橋	1999	R						
	第二職員宿舎	1979	B	2	256	128			
	第三職員宿舎	1999	R	4	1,100	275			
	実習船係留棧橋	1979							
	生活排水処理施設	1977							
	計				1,356	403			
学校の全ての建物の計					28,701	14,686			

(出典 国立大学法人施設実態調査)

資料 8-1-①-3

「運動場等整備状況」

施設名称	数量	摘要	夜間照明の有無
陸上競技場	1	400mトラック 6コース	有
テニスコート	5	砂入り人工芝4面 クレー1面	無
野球場	1		有
プール	1	25m 7コース鉄製	無

(出典 学校概要)

資料 8-1-①-4

「主な所有船舶一覧表」

	種目	用途	名称	製造会社	総屯数	長さ(m)	船体材料	馬力	定員
1	汽船	練習船	大島丸	三菱重工業(株)	228.0	41.00	鋼製	1,300	58
2	〃	実習船	すばる	ヤマハ発動機(株)	14.0	11.95	FRP	410×2	24
3	〃	救助艇	かもめ	日産自動車(株)	5トン未満	5.00	FRP	98	6

(出典 船舶検査証)

資料 8-1-①-5

「教室整備状況」

部屋名称	内訳				計	収容者数	冷暖房の有無
教室	65㎡×12室	63㎡×3室	91㎡×1室	㎡×室	16室	650人	有
講義室	63㎡×1室					40人	有

(出典 国立大学法人等施設実態調査)

資料 8-1-①-6

「教員室整備状況」

学科名称	部屋数	総面積 (㎡)	収容者数	冷暖房の有無		
商船学科	6	192	12名	冷暖3	暖3	無0
電子機械工学科	5	160	6名	冷暖4	暖1	無0
情報工学科	3	100	3名	冷暖3	暖0	無0
一般科目	9	265	12名	冷暖9	暖0	無0
計	23	717	33名	冷暖19	暖4	無0

(出典 国立大学法人等施設実態調査)

資料 8-1-①-7

「学科部屋数等状況」

学科名称	部屋数	総面積 (㎡)	冷暖房設備の部屋割合
商船学科	26	2,724	38%
電子機械工学科	13	1,105	53%
情報工学科	10	1,016	100%
一般科目	3	288	33%
専攻科	3	141	100%
その他	3	327	100%
計	58	5,601	58%

(出典 国立大学法人等施設実態調査)

「授業、実験実習及び卒業研究等施設使用状況 専門棟及び実験実習棟」資料 8-1-①-8

建物名称	階	部屋名称	面積 ㎡	利用人数(定員)			一年間の総使用 時間	設備の有無									
				教員	学生	その他		冷暖房設備	冷房設備	暖房設備	給水	ガス設備	LAN	電話	三相電源		
校舎・管理棟	1	化学実験室	117	1	259		360										
	1	載貨実験室	106	2	19		138										
	1	自動制御実験室	61	2	43		144										
	1	電気工学実験室	122	3	45		147										
	1	材料力学実験室	65	3	128		56										
	1	工業材料実験室	65	1	65		146										
	1	センサー工学実験室	65	1	49		264										
	1	専攻科第1演習室	32														
	1	専攻科第2演習室	68	6	38		180										
	2	物理実験室	86	2	399		360										
	2	LL教室	85	5	155		270										
	2	共通実験室(会議室)	61	15	-		-										
	2	共通実験器材室(主任室)	31	1	-		-										
	2	信号実験室	61	2	38		21										
	2	消火救命講習室	61	18	130		1035										

	2	航法実験室航海学演習室	152	3	78		593											
	3	人間工学実験室	41	17	178		540											
	3	プログラミング演習室	124	2	127		304											
	4	気象観測室	61	1	18		12											
	4	レーダーシミュレータ実験室	61	8	31		683											
	4	電波航海計器実験室	92	1	39		420											
	4	電波計器実験室航海計器実験室	68	2	22		138											
	4	通信工学実験室(教室として使用)	151	1	42													
	4	商船学科講義室	63	11	117		570											
電子機械工学科棟	1	機械工作実験室	122	1	135		596											
	1	精密測定実験室	41	1	85		120											
	1	材料学実験室	97	1	90		280											
	2	応用物理実験室	122	16	294		506											
	2	器材室	41	1	-		-											
	2	器材室	14	1	-		-											
	2	制御システム実験室	97	1	139		604											
建物名称	階	部屋名称	面積 ㎡	利用人数(定員)			一年間の総使用時間	設備の有無										
				教員	学生	その他		冷暖房設備	冷房設備	暖房設備	給水	ガス設備	LAN	電話	三相電源			
電子機械工学科棟	3	電子実験室	122	3	179		410											
	3	電気実験室	82	1	12		324											
	3	計算機システム実験室	97	1	90		288											
	4	製図室	122	3	146		180											
	4	専攻科第3演習室	41	15	132		450											
情報工学科棟	1	データベース室	116	1	87		304											
	1	数理計画実験室	115	2	82		304											
	2	人工知能実験室	116	2	91		620											
	2	画像工学実験室	115	1	4		540											
	3	半導体工学実験室	116	1	127		360											
	3	演算回路工学実験室	115	1	49		280											
機関実習工場1	1	電子情報実験室	64	1	62		554											
	1	熱流体実験室	83	1	46		288											
	1	鑄造鍛造実験室	29															
	1	板金室	64	5	128		136											
	1	仕上組立室	82															
	1	機械工場	187	3	104		128											
機関実習工場2	1	ガスタービン実験室	53	1	5		540											
	1	補機実験室	149	2	42		36											
	1	蒸気機関実験室	95	2	42		36											
	1	内燃機関実験室	129	2	84		584											
艇庫	1	技業室	141	1	42		33											
	1	艇庫	373	1	39		8											
近代化船総合実験室	1	近代化船総合実験室	164	1	24		18											
荒天航泊実験室	1	荒天航泊実験室	565	1	17		12											
図書館	1	視聴覚教室	160	8	538		630											

情報教育センター	1	第1演習室	82	22	685		918								
	1	第2演習室	85	13	416		534								

(出典 国立大学法人等施設実態調査)

資料 8-1-①-9

「情報処理学習のための施設 1クラス全員が利用可能」

建物名称	部屋名称	使用時間 (時間/週)	パソコン 設置台数	パソコン 整備年度	開館時間 等
情報教育センター	第1演習室	29	53台	平成17年度	7:00～ 19:00
情報教育センター	第2演習室	24	51台	平成18年度	7:00～ 19:00

(出典 予算配分基礎資料)

「語学学習のための施設 1クラス全員が利用可能」 資料 8-1-①-10

LL教室 1室 85㎡
 LL装置 学生卓47席 1式
 入力装置 VTR, DVD, オーバーヘッドカメラ, カセットテープ, TV
 出力装置 プロジェクタ, モニターTV
 使用時間 21時間/週

(出典 予算配分基礎資料)

「図書館の整備状況」

資料 8-1-①-11

昭和51年新築 鉄筋コンクリート造 2階建 1,681㎡
 主な部屋 閲覧室364㎡, 視聴覚室160㎡, 書庫等162㎡
 閲覧席数 88席, 視聴可能なモニターTV台数 2台, パソコン 5台, プロジェクター
 開館時間 平日 08:30～19:00 土曜日 13:00～17:00

(出典 国立大学法人等施設実態調査)

資料 8 - 1 - ① - 1 2

「船舶使用状況」

船舶(大島丸・すばる)目的別運航回数及び時間調べ

船舶	区分	目的	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平均	
			回	時間	回	時間	回	時間	回	時間
大島丸	航海	教育研究	29	417	29	280	28	457	29	385
		広報等	14	168	12	169	12	153	13	164
		修理等	7	278	2	68	2	40	3	164
	停泊	教育研究	15	45	18	54	21	39	18	46
計			65	908	61	571	63	689	63	759
すばる	航海	教育研究	10	84	10	63	10	38	10	62
		広報等	2	2	2	3	1	4	2	3
		修理等	25	30	13	11	10	11	16	17
	計			37	116	25	77	21	53	28

広報等：公開講座等

修理等：検査入渠等

(出典 予算執行調査)

資料 8 - 1 - ① - 1 3

建物名称	階	部屋名称	面積 ㎡	利用人数(定員)			一年間の総使用 時間	設備の有無(数字は口数)						
				教員	学生	その他		冷暖房設備	冷房設備	ガス設備	給水	L A N	電話	三相電源
機関実習工場 1	1	電子情報実験室	6 4		1 5		2 0 9 1	有		有	有	2		
機関実習工場 1	1	電子情報実験準備室	2 0	1			2 0 9 1	有					有	
機関実習工場 1	1	熱流体実験室	6 3		1 5		2 0 9 1			有	有	1		有
機関実習工場 1	1	熱流体実験準備室	1 2	1			2 0 9 1	有	有	有		1	有	
機関実習工場 1	1	铸造鍛造実験室	2 9				2 0 9 1				有			
機関実習工場 1	1	職員控室	4 0			8	2 4 8 5	有		有	有	4	有	
機関実習工場 1	1	板金、溶接実習室	6 4				2 0 9 1			有	有			
機関実習工場 1	1	仕上組立室	8 2				2 0 9 1			有	有			有
機関実習工場 1	1	機械工場	1 8 7				2 0 9 1			有	有			有
機関実習工場 1	1	工具室	2 1				2 0 9 1				有			
機関実習工場 2	1	ガスタービン実験室	5 3		2 5		1 5 3 0			有				
機関実習工場 2	1	計器室	3 7				2 0 9 1							有
機関実習工場 2	1	ガスタービン準備室	1 5	1	1		2 0 9 1	有		有	有	2	有	
機関実習工場 2	1	補機実験室	1 4 9		2		3 0 0	有	有	有	有	2		有
機関実習工場 2	1	補機実験準備室	1 6	1			2 0 9 1	有	有	有			有	
機関実習工場 2	1	蒸気機関実験室	9 5	1			1 5 3 0			有	有			有
機関実習工場 2	1	蒸気機関実験準備室	8	1			2 0 9 1	有		有	有	1	有	
機関実習工場 2	1	内燃機関実験室	1 2 9	2	2 5	1	1 5 3 0			有	有			有
機関実習工場 2	1	内燃機関実験準備室	1 7	1	1		2 0 9 1		有	有	有	2	有	
機材倉庫	1	機材倉庫	7 2				2 0 9 1							有

「機関実習工場各部屋使用状況 (授業, 実験実習及び研究含む) 機関実習工場1及び2」

(出典 実習工場設備状況調査)

資料 8-1-①-14

「実験実習棟に設置されている老朽化設備」

設備名称	メーカー他	購入年度	支障内容	使用時間
旋盤	般若鉄工所 HMA-20KA型	昭和36年度	老朽により高い工作加工精度が望めない	9 6 H/年
旋盤	ワシノ機械 RS-55 型	昭和41年度	老朽により高い工作加工精度が望めない	9 6 H/年

(出典 実習工場設備状況調査 抜粋)

資料 8-1-①-15

「大島商船高等専門学校安全衛生委員会規則」

平成 16 年 4 月 1 日制定

(趣旨)

第 1 条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則第 1 3 条及び独立行政法人国立高等専門学校機構船員安全衛生管理規則の規定に基づき、大島商船高等専門学校安全衛生委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 事務部長
- (3) 衛生管理者
- (4) 安全管理者
- (5) 産業医
- (6) 大島丸船長
- (7) 本校の教職員で衛生に関し経験を有するものうちから校長が指名した者
- (8) 本校の教職員で安全に関し経験を有するものうちから校長が指名した者

2 前項第 1 号及び第 2 号の委員以外の委員の半数については、本校の教職員の過半数で組織する労働組合があるときにはその労働組合、教職員の過半数で組織する労働組合がないときには教職員の過半数を代表する者の推薦に基づき指名する。

以下 省略

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

教育に必要な施設・設備は整備されており各部屋等の使用状況も概ね良好である。

特に、全教室に冷暖房設備が整備され教育環境の改善が図られていること及び運動場が夜間照明で整備されていることで、日没後の屋外運動施設の利用率向上が図られている。

しかし、施設的には教室が狭いこと、機関実習工場棟の老朽化等の他、設備面では実験実習設備が老朽化により教育効果が低下し、更新が必要な機器等も一部存在している。また、先端技術に対応した設備を導入する必要があると考えられる。

施設・設備のバリアフリー化については、更に、設置箇所について今後検討を行い、利用しやすい施設として整備を行いたい。

観点 8-1-②： 教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校のキャンパス情報ネットワークは，校内 LAN を構築（資料 8-1-②-1）しており，情報処理教育及び学術研究に多いに活用されている。また，基幹であるギガビットスイッチから各学科のフロアスイッチまでは二重化した光ケーブルが敷設され，基幹を 1Gbps×2 の 2Gbps，支線を 100Mbps に高速化している。

学外ネットワークに関しては，インターネット（SINET）への対外接続を果たし，校内ネットワーク網の整備と共に順次，高速化を進め安定的な外部接続を確保するため以下のような形態の回線接続を行っている。

SINET 接続先ノードを山口大学として，回線速度は 10Mbps（イーサネット）に高速化，増強している。

同時に，外部アクセス速度の向上のため，SINET の負荷分散及び SINET 障害時のバックアップ（非常回線）を目的に，民間会社の回線（ADSL 回線）を利用する。（平成 19 年度 4 月から）

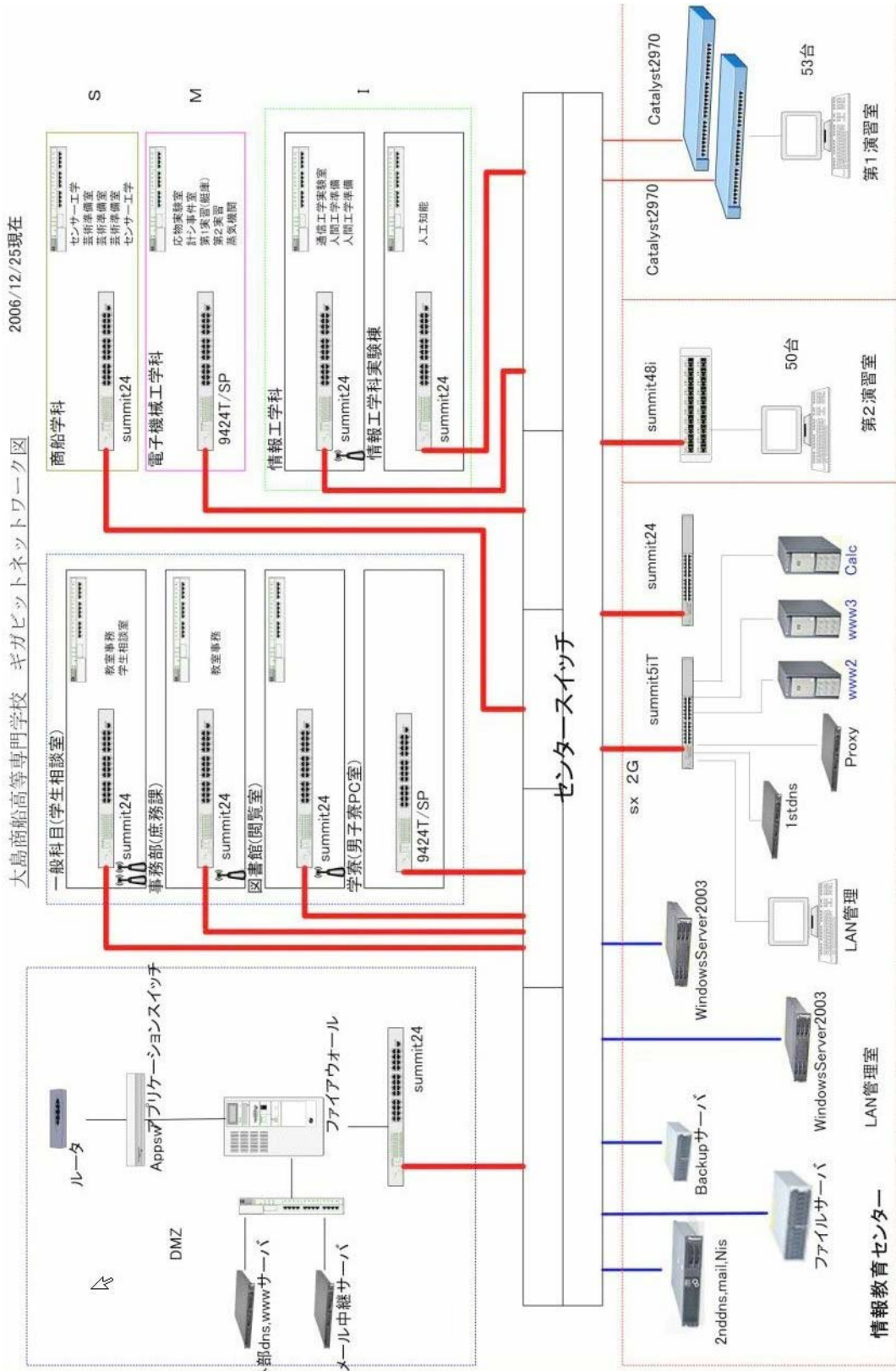
以上のことから，情報教育センターでは，センター運営規則，センター利用細則等（資料 8-1-②-3，資料 8-1-②-4，及び資料 8-1-②-5）に示した管理体制の基に，情報処理教育の初歩から高度な専門教育まで，幅広い IT（情報技術）教育の中心を担っている。また，校内における教職員を対象にした FD 教育に代表される再教育や PC を利用した公開講座の実施を積極的に行っており，地域住民の方々に対しても広く利用して頂いている。

本センターの教育用電子計算機システムの構成（資料 8-1-②-2）は，LAN 管理室に 2 台のサーバ機を配置し，クライアントパソコンとして，第 1 演習室に 53 台，第 2 演習室に 51 台の Windows XP と Linux の両 OS がマルチブート可能なマシンを用意して，資料 8-1-②-6 で示すとおり 2 クラスが同時に利用可能になっている。また，ネットワーク利用心得（資料 8-1-②-5）を新入生に配布し，モラルとマナー教育を重視し情報活用における倫理観の育成を実践している。

情報セキュリティに関しては，資料 8-1-②-7 に基づき校内ネットワークのセキュリティ確保のために情報セキュリティシステムを導入しており，ファイアウォールの強化と二重化による信頼性の向上，学内向けサーバの負荷分散システムの構築を行っている。また，コンピュータウイルス対策として，端末におけるウイルス対策ソフトを校内に設置されたウイルス情報サーバから最新のパターンファイルが自動更新されることにより，効果的なウイルス駆除ができるなど，全校的なウイルス対策を施している。

資料 8 - 1 - ② - 1

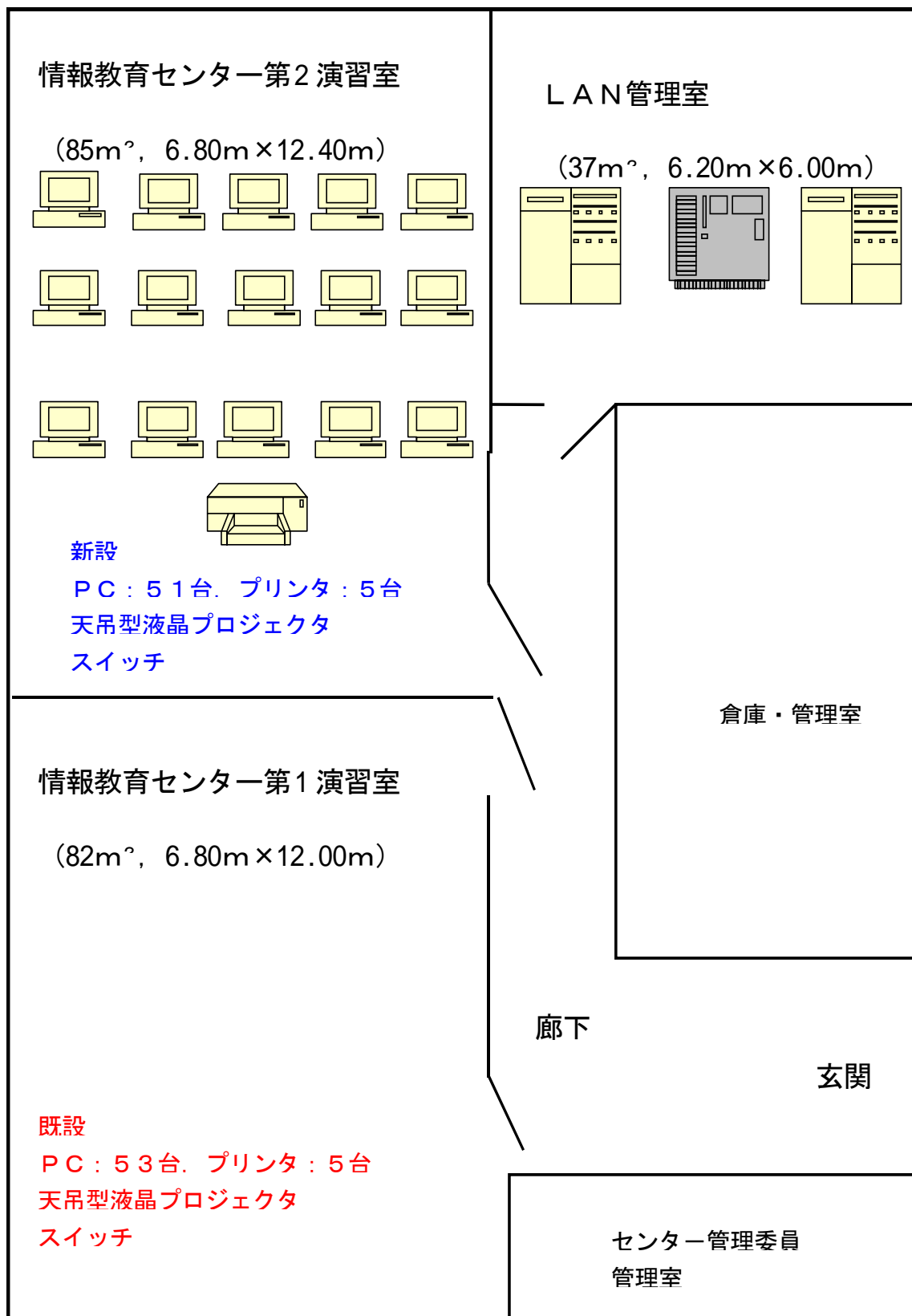
「ネットワーク構成図」



(出典 情報教育センター運営委員会資料)

資料 8 - 1 - ② - 2

「システム構成」



(出典 情報教育センター運営委員会資料)

資料 8 - 1 - ② - 3

「キャンパス情報ネットワーク管理体制」

大島商船高等専門学校情報教育センター運営規則

第1条 この規則は、大島商船高等専門学校情報教育センター（以下「センター」という。）の管理運営について、必要な事項を定めることを目的とする。

（業務）

第2条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 電子計算機の管理及び運用に関すること。
- (2) 情報処理に関する教育及び研究に関すること。
- (3) 校内LANの管理及び運用に関すること。
- (4) その他センターの業務に関すること。

（職員）

第3条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長、副センター長及びセンター職員。
- (2) センター長は、本校の職員の中から校長が任命する。
- (3) 副センター長は、各学科及び一般科目から選出された情報教育担当及びLAN担当教員の中からセンター長が指名し、校長が任命する。
- (4) センター長及び副センター長の1期目の任期は2年とし、2期目から1年とし、再任を妨げない。
- (5) センター長は、校長の命を受け、センターの業務を掌握する。
- (6) センター職員は、事務系職員をもって充てる。

（運営委員会）

第4条 センターの円滑な運営を図るため、大島商船高等専門学校情報教育センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの運営に関すること。
- (2) 電子計算機の利用計画に関すること。
- (3) 校内LANシステムの管理・運用・教育に関すること。
- (4) センターの経理に関すること。
- (5) その他必要な事項

（組織）

第6条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 各学科及び一般科目から選出された情報教育担当及びLAN担当教員各1人
- (4) 庶務課長、会計課長及び学生課長
- (5) 各課から選出された者各1人（LAN担当）

以下省略。

（出典 大島商船高等専門学校規則集）

資料 8 - 1 - ② - 4

大島商船高等専門学校情報教育センター利用細則

制 定 平成 10 年 12 月 14 日

(目的)

第 1 条 この細則は、大島商船高等専門学校情報教育センター運営規則第 10 条の規定に基づき、大島商船高等専門学校情報教育センター（以下「センター」という。）の利用について、必要な事項を定めることを目的とする。

(利用の範囲)

第 2 条 センターの利用は、次の各号に掲げる場合とする。

- (1) 学生に対する情報処理教育に関する授業及びこれに伴う演習
- (2) 学生の実験実習及び卒業研究
- (3) 職員の研究
- (4) 事務処理
- (5) その他センター長が必要と認めた場合

(利用できる者)

第 3 条 センターを利用できる者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 職員
- (2) 学生
- (3) その他センター長が認めた者

(利用申請)

第 4 条 センターを利用する者は、センターが定める申請書をセンター長に提出し承認を受けなければならない。

(利用時間)

第 5 条 センターの利用は、原則として授業日の 7 時から 19 時までとする。

2 休業中の利用は、開寮期間の平日とし、7 時から 19 時までとする。

3 その他の利用については、センター長が別に定めるものとする。

(利用の停止)

第 6 条 センター長は、利用者がこの細則の定め違反した場合又はセンターの運営に重大な支障を及ぼす場合には、利用を停止することができる。

附 則

1 この細則は、平成 10 年 12 月 14 日から施行する。

2 大島商船高等専門学校電子計算機室細則（昭和 51 年 1 月 27 日制定）は廃止する。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

ネットワーク利用心得

以下の行為を絶対に行ってはいけません。
マナーを守らない学生を見かけたら遠慮なく次のアドレス・電話へ連絡して下さい。

センター管理員の全教員@.....
センター長（川原教員）@..... TEL 0820-...-.....（直通）
副センター長（岡崎教員）@..... TEL 0820-...-.....（直通）
センター職員（宮元職員）@..... TEL 0820-...-.....（直通）

1. インターネットの不正利用をなくそう！

数年前、学校宛にネットゲーム管理人から、「大島商船の学生がネットゲームや掲示板を荒らしている」との警告メールが来たことがあります。調査の結果、該当学生には非常に厳しい処分が行われました。

学校からインターネットへのアクセスは、ファイヤーウォール用サーバで、誰が、どのパソコンから、何時、どここのページ（チャットや掲示板も全て含まれる）を見たか、全て記録しています。不正利用は、誰が行ったか直ぐに分かります。電子メールやニュースも同様です。誰かこのような行為をしている学生に気付いたら、上記アドレスに連絡して下さい。ネチケットを守りましょう。それから、コンピュータウイルスには気を付けましょう。

2. センター内での飲食を無くそう！

センター内での飲食は厳禁です。飲食はPCの故障原因になります。ジュースをキーボードや床のカーペットにこぼす。ジュースや菓子の残りをそのままにしている。ゴミもそのまま。誰が片付けるのでしょうか。ゴミ箱は廊下にあるのに、こんな学生がいます。ジュースや菓子類をセンターに持ち込むのは止めましょう。センターはネットカフェではありません。

3. 窃盗行為・器物破損行為を無くそう！

センター内の物品が盗難に遭っています。例えば、盗難防止に取り付けたカギが、大半なくなっています。これは立派な窃盗行為です。学校のコンピュータを大切にしましょう。

4. 自分のユーザ名を使おう！

自分のユーザ名（例えば、s1001, m3040, i5100など）を使って、コンピュータを利用して下さい。他人のユーザ名を使うことは、なりすまし行為として、厳しい処分がされることがあります。

（出典 新入生オリエンテーション時の配布資料）

資料 8 - 1 - ② - 6

「情報教育センターの利用状況」



大島商船高等専門学校

平成 18 年度 後期 第一 演習室 時間割

	日	月	水	木	金
1	S 2 情報処理	I 1 コンピュータリテラシ	S 4 N 船舶 載貨論	M 5 デザイン応用	M 1 情報リテラシ
2	I 2 情報工学概	I 4 (自習) データ構造とアルゴリズム	I 1 プログラミング	I 2 情報工学演	I 2 プログラミング
3	I 4 実験実習	I 1 実験実習			M 4 実験実習
4		M 5 (自習) マイコ		S M I 4 英語特論 II	S M I 4 英語特論 II

平成 18 年度 後期 第二 演習室 時間割

	日	月	水	木	金
1	I 3 プログラミング	M 2 プログラミング基礎	S 1 情報処理	I 5 (自習) システムプログラム	I 2 実験実習
2	M 3 実験実習	S 1 実験実習	I 3 実験実習	S 4 N 実験実	M 2 実験実習
3	S 4 物流システム	I 1 実験実習			M 3 プログラミング応用

(出典 情報教育センターの利用状況)

資料 8 - 1 - ② - 7

「本校の情報セキュリティ規則」

大島商船高等専門学校情報セキュリティ委員会規則

制定 平成 17 年 2 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、大島商船高等専門学校情報セキュリティ規則第 8 条第 2 項の規定に基づき、大島商船高等専門学校情報セキュリティ委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 大島商船高等専門学校（以下「本校」という。）の情報セキュリティに関する事項
- 二 本校の情報セキュリティポリシーの承認等重要事項の決定に関する事項
- 三 重要事項に関する関係部署との連絡調整に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 最高情報セキュリティ責任者
- 二 最高情報セキュリティ副責任者
- 三 全校情報システム管理責任者
- 四 学科等情報セキュリティ責任者

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、最高情報セキュリティ責任者をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を主宰する。
 - 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
- 以下省略。

大島商船高等専門学校情報セキュリティ規則

制定 平成 17 年 2 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規則は、大島商船高等専門学校（以下「本校」という。）の情報セキュリティについて必要な事項を定める。

(情報セキュリティポリシー)

第 2 条 本校は、情報セキュリティについて必要な対策を行うため、大島商船高等専門学校情報セキュリティポリシー（以下「ポリシー」という。）を策定し、適切な導入及び継続的な運用を行うものとする。

(最高情報セキュリティ責任者)

第 3 条 本校に最高情報セキュリティ責任者（以下「最高責任者」という。）を置き、教務主事をもって充てる。

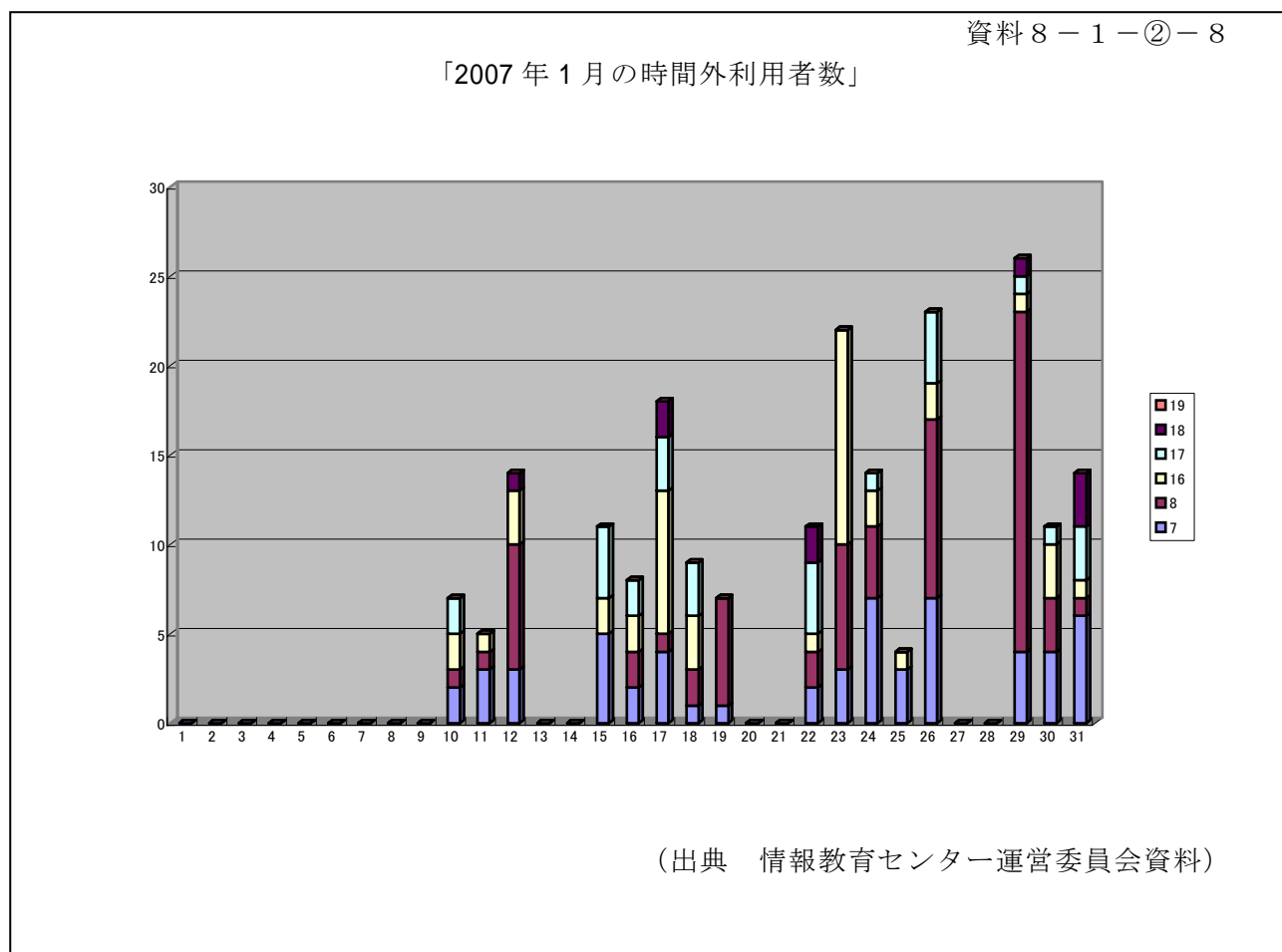
- 2 最高責任者は、本校の情報セキュリティに関する事項を総括管理する。

以下省略。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

情報処理センターは、授業に使用されるほか、学生の自学自習にも活用されており、平成 18 年度の時間外利用者数は年間延べ 8,639 人であった。

1 月の利用者数については、資料 8-1-②-8 に示すとおりである。



(分析結果とその根拠理由)

インターネットやEメール環境は教育・研究に欠かすことができなくなっているため、学外ネットワークを二重化することで、外部のネットワークトラブルに強い環境が整備されている。情報ネットワークの利用は、授業だけでなく、学生の自学自習にも活用されており、さらに、学生及び教職員にセキュリティについて所用の情報倫理教育や研修会を実施している。

以上のことから、本校では、情報ネットワークが整備されており、十分なセキュリティの下に適切に管理され、有効に活用されている。

観点 8 - 2 - ① 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館には，閲覧室，開架・閉架書庫，パソコン (AV) コーナーがあり，約 67,000 冊の図書のほか学術雑誌，DVD 等の視聴覚資料を備えている(資料 8 - 2 - ① - 1)。

本校図書館で所蔵の図書は図書分類に従って系統的に整備されていると共に，雑誌，文庫本，新書本等の書籍の形態に応じて検索・閲覧が可能になるように配備されている。

その特徴を簡単に列挙すると，

- ・ 開架書庫には図書分類に従って書籍を配備
- ・ 辞書・百科辞典等の参考図書コーナーの設置
- ・ 文庫本のみを集積したコーナーの設置
- ・ 学術雑誌を含む雑誌閲覧コーナーの設置
- ・ 郷土歴史に関する書籍コーナーの設置
- ・ DVD 等の視聴覚資料コーナーの設置
- ・ 国立，民間の各研究機関の研究技報書架

となっている。また，新刊・新着図書は閲覧者が手にしやすいように入り口付近に重点配備している。さらに，海事・船舶関係の法令集を含む関係図書を収蔵し学生・研究者に供している。

図書館の活用にあたっては，新入生オリエンテーションでの利用に関する説明，「図書館利用案内」パンフレット(資料 8 - 2 - ① - 2)の発行を行い，一般市民を含む図書館利用者に対して平日の 2 時間の夜間開館(17:00-19:00)，土曜日の午後開館(13:00-17:00)等のサービスを行っている。

平成 17 年度～平成 18 年度の蔵書図書貸出冊数，貸出人数及び平成 17 年度～平成 18 年度の開館日数，入館者数を示す(資料 8 - 2 - ① - 3)。また，年度別統計として学生一人あたりの年間貸出冊数等を比較した(資料 8 - 2 - ① - 4)。

上記の結果，若干ではあるが貸出冊数，入館者数等が増加している。

図書館利用者に対して以下のとおり利便性の向上を図っている。

- ・ 新着図書の表紙のカラーコピーを図書館入り口に掲示
- ・ 閲覧テーブルとして個人用テーブルとグループ用テーブルの 2 種類をできるだけゆつたりと配置
- ・ 蔵書検索 (OPAC) 用として専用パソコンを入り口付近に配置

資料 8 - 2 - ① - 1

蔵書数(18. 5. 1現在)

	和書(冊)	洋書(冊)	和雑誌(種類)	洋雑誌(種類)	視聴覚媒体
総記	5,216	221	16	1	337
哲学	1,657	16	2	0	
歴史	4,100	42	3	0	
社会科学	6,629	66	13	0	
自然科学	11,239	713	8	1	
技術	21,622	610	31	2	
産業	1,666	19	3	0	
芸術	2,139	7	18	0	
言語	2,826	359	4	0	
文学	7,173	529	3	0	
計	64,267	2,582	101	4	

視聴覚媒体とはVTR, VCD等を示す。

(出典 蔵書数)

資料 8 - 2 - ① - 2

図書館利用案内パンフレット

OPACで検索



図書館検索システムです。図書館には専用のパソコンがありますが、HPからも利用できます。

HPで予約ができます

利用したい図書が貸出中の際は、予約することができます。カウンターでも申し込めますが、OPACを利用して自分で予約もできます。また、本の演説状況や予約状況を画面上で確認することができます。

独立行政法人国立高等専門学校機構
大島商船高等専門学校図書館



利用者の心構え

- 館内では、静粛にしましょう
- 飲食地の持ち込みは禁止です。
- カバン等の持ち込みができません。ロッカーをご利用ください。
- 図書、資料、その他の物品を大切に取扱いましょう。
- そのほか、借員の指図に従ってください。

一般の方々へ

大島商船高等専門学校では、開放的な図書館として、一般の方々にも開放しています。[図書カード貸出]に必要な印を記入し、身分を証明するものを提示のうえ、[図書部]利用カードの交付を受けてください。入館の際には、図書部利用カードを提示していただきます。

大島商船図書館の情報は、ホームページでご覧いただけます。
<http://www.oshimo.ac.jp/kaka/oshimo/shinseib.html>

〒742-2195 山口県大島郡神門町大島1-2-25 1001 館内2F
TEL & FAX 0825-74-2454
<http://www.oshimo.ac.jp/kaka/oshimo/shinseib.html>

【開館日】
◆平日～土曜日 8:30～18:00
◆土曜日 13:00～17:00
【休館日】
◆日曜日、祭日 ◆12月28日～1月4日
※2019年度7月開館予定 開館予定は別途お知らせいたします

おいでませ 図書館へ

…知識と安らぎをあなたに…

館外貸出

借りたい図書をカウンターへ持ってきていただき、貸出申請してください。
貸出期間：1週間
返却期限：2週間(卒業生貸出は3週間)

館内貸出

所持して借りたい図書证、その図書を持ってカウンターで申し込みてください。貸出見舞いできるのは、1冊です。

返却

返却ボックスへ入れてください。

DVDの貸出

一人1冊まで、貸出期間は1週間です。返却時に借目へ返却してください。



図書部 入口

館内検索

図書部検索システムは、貸出申請と同時に利用できます。貸出申請と同時に検索も可能です。

サービス

- レファレンス
図書部検索システムについて、詳細の案内や貸出の申請や返却を受け、貸出の手伝いをします。
- 図書部
貸出申請と返却された図書の方で図書部の資料を閲覧することができます。

◆図書部面積 …… 約42,000㎡
◆図書部 …… 約27,000冊
◆図書部コーナー …… 約700冊
◆AVコーナー …… テレビ、ビデオ、CD、DVD、パソコン、5台、70インチモニター、

(出典 新入生オリエンテーション時の配布資料)

資料 8 - 2 - ① - 3

蔵書図書貸出冊数・貸出人数

17年度	貸出冊数(冊)				貸出人数(人)			
	計	学生	職員	一般	計	学生	職員	一般
4月	415	361	54	0	188	161	27	0
5月	276	241	31	4	126	108	16	2
6月	259	219	38	2	125	102	22	1
7月	287	246	39	2	133	111	21	1
8月	95	44	47	4	46	21	23	2
9月	115	78	30	7	54	37	14	3
10月	305	259	45	1	135	119	15	1
11月	287	200	87	0	135	103	32	0
12月	278	206	72	0	132	109	23	0
1月	299	234	65	0	132	109	23	0
2月	295	230	64	1	108	83	24	1
3月	66	15	51	0	20	8	12	0
計	2977	2333	623	21	1334	1071	252	11

18年度	貸出冊数(冊)				貸出人数(人)			
	計	学生	職員	一般	計	学生	職員	一般
4月	480	402	77	1	207	174	32	1
5月	352	272	73	7	148	116	29	3
6月	374	285	89	0	176	139	37	0
7月	391	313	77	1	173	136	36	1
8月	149	106	43	0	56	42	14	0
9月	246	188	41	17	93	69	17	7
10月	376	305	69	2	170	141	28	1
11月	377	318	57	2	181	150	29	2
12月	361	286	74	1	153	127	25	1
1月	381	335	37	9	172	145	22	5
2月	335	253	78	4	153	119	31	3
3月	109	61	47	1	50	25	24	1
計	3931	3124	762	45	1732	1383	324	25

(出典 図書館運営委員会資料)

開館日数・入館者数 資料 8-2-①-3 (続き)

17年度	開館日	計		学生		職員		一般		見学	
4月	23	1,563	(114)	1,520	(105)	42	(9)	1	0	0	0
5月	24	2,385	(176)	2,362	(157)	15	(15)	5	(3)	3	(1)
6月	27	1,601	(151)	1,584	(133)	15	(15)	2	(3)	0	0
7月	23	2,421	(192)	2,399	(172)	17	(16)	2	(2)	3	(2)
8月	13	498	(13)	365	(10)	26	(3)	6	0	101	0
9月	20	659	(17)	593	(13)	64	(4)	2	0	0	0
10月	25	923	(101)	873	(92)	42	(6)	8	(3)	0	0
11月	26	2,321	(178)	2,276	(167)	42	(9)	3	(2)	0	0
12月	22	959	(89)	948	(79)	10	(9)	1	(1)	0	0
1月	22	967	(89)	836	(81)	129	(7)	2	(1)	0	0
2月	24	2,224	(138)	2,142	(136)	80	(2)	2	0	0	0
3月	13	217	0	121	0	91	0	5	0	0	0
計	262	16,738	(1273)	16,021	(1139)	571	(116)	39	(15)	107	(3)

18年度	開館日	計		学生		職員		一般		見学	
4月	23	2,005	(132)	1,843	(127)	108	(2)	4	(3)	50	0
5月	24	2,633	(169)	2,536	(160)	91	(4)	6	(5)	0	0
6月	27	2,137	(168)	2,051	(167)	84	(1)	0	0	2	0
7月	27	3,137	(245)	3,037	(243)	96	(1)	4	(1)	0	0
8月	13	859	(11)	693	(9)	72	(2)	0	0	94	0
9月	21	933	(36)	697	(31)	148	(2)	15	(3)	73	0
10月	25	1,543	(165)	1,421	(159)	111	(3)	11	(3)	0	0
11月	25	2,979	(224)	2,883	(217)	90	(2)	6	(5)	0	0
12月	22	1,726	(143)	1,637	(141)	81	(2)	4	0	4	0
1月	22	1,336	(192)	1,224	(180)	88	(6)	21	(6)	3	0
2月	21	2,909	(658)	2,799	(651)	97	(4)	9	(3)	4	0
3月	12	372	(6)	309	(6)	61	0	1	0	1	0
計	262	22,569	(2,149)	21,130	(2,091)	1,127	(29)	81	(29)	231	0

()は時間外入館者で内数 (出典 図書館運営委員会資料)

資料 8-2-①-4 (出典 図書館運営委員会資料)

平成17年度対象者(人)

学 生	6 3 5
教職員	1 0 4
合 計	7 3 9

平成18年度対象者(人)

学 生	6 7 0
教職員	1 0 0
合 計	7 7 0

平成17年度統計

学生一人あたりの年間貸出冊数	3.7 冊
学生一人あたりの年間貸出回数	1.7 冊
図書館1日あたりの貸出冊数	11.4 冊
学生一人あたりの年間入館回数	25.2 回
1日あたり図書館利用人数	63.9 人

平成18年度統計

学生一人あたりの年間貸出冊数	4.7 冊
学生一人あたりの年間貸出回数	2.1 冊
図書館1日あたりの貸出冊数	15.0 冊
学生一人あたりの年間入館回数	31.5 回
1日あたり図書館利用人数	86.1 人

大島商船高等専門学校
OSHIMA NATIONAL COLLEGE OF MARITIME TECHNOLOGY
Japanese English

HOME
学科・専攻科 紹介
キャンパスライフ
入試案内
書類ダウンロード

| 学校紹介 | 就職・進学情報 | 教育研究施設 | 地域との連携・交流 | 国際交流 |

教育研究施設

- ▶ 図書館
- ▶ 情報教育センター

中学生・高校生の皆様へ


在校生の皆様へ

保護者の皆様へ

卒業生の皆様へ

企業・地域の皆様へ

働きたい皆様へ



図書館

図書館では、専門書、一般教養、各種情報誌など取りそろえて皆様のご利用をお待ちしています。
手軽に読める文庫本や趣味・スポーツ誌もそろっていますので、気軽にお越しください。


図書館のページへ

■ 図書館について

図書館は、読書を通じての自己の啓発・能力の開発・鍛錬の場であり、一般教養から専門科目の学習と研究に利用され、また、学術研究のための情報検索等にも対応する高等専門学校の教育と研究に重要な役割を果たす施設です。
このため専門分野における教科関連図書をはじめ、一般科目に対応した人文科学・自然科学系図書やスポーツや趣味・読書に関する図書など、広い分野にわたって資料を収集し、利用に供しています。また、情報の多様化に対応して、電子計算機と通信機能を使用したオンラインによる情報検索や所蔵調査を行うとともに、国立大学等図書館間文庫複写業務を実施しています。


その他、国立国会図書館の対図書館サービスの利用や、生涯学習に対応するために図書館の一般公開を行っています。

Library Topics




研究紀要

▶ こちらをご覧ください



新着図書紹介

▶ 毎月更新しています



購読雑誌一覧

▶ 図書館で閲覧できる雑誌の一覧

**大島商船高等専門学校
蔵書検索システム**

- ▶ OPACで検索
- ▶ ご利用方法
- ▶ 検索結果で本を探す

OPACとは、ネットワーク上に提供された図書や雑誌のオンライン目録のことです。本校では、現在約67000冊の図書のデータが入力されており、インターネットを利用して検索することができます。

■ 図書館についてのお問い合わせ

図書係 >> toshio@oshima-k.ac.jp

(出典 本校ホームページ)

(分析結果とその根拠)

蔵書は図書分類に従って系統的に整備している。選書にあたっては学生の要望を反映させるため、学生10数人によるブックハンティングを毎年1回実施している。また、本校における利用率向上への取組みの一環として、新着図書紹介、購読雑誌一覧を本校HPに掲載している。また、蔵書検索システムを利用可能としている(資料8-2-①-5)。結果、若干ではあるが図書館利用人数、貸出冊数等が増加した。

以上のことから図書、学術雑誌等その他の教育上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されている。

- 421 -

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・情報ネットワークが十分なセキュリティのもとに整備・管理されている。

(改善を要する点)

- ・実習設備の一部に老朽化したものがあり，取り替える必要がある。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校には商船学科（航海コース及び機関コース），電子機械工学科，情報工学科の 3 学科，専攻科課程の海洋交通システム学専攻，電子・情報システム工学専攻の 2 専攻を設置している。これらの各課程において，基礎的知識，技術・専門技術を習得させ更に応用力を養うための設備や実験室，実習工場等の施設を有しており有効に利用されている。

教室には冷暖房設備を設置し，夏季時期において快適な環境を作っている。

また，課外活動施設として第一，第二体育館，野球場，プール，武道場，サッカー・ラグビー場，実習船棧橋等を整備しており，近年女子バスケット部は全国高専体育大会で優勝，ヨット部はインターハイ出場等好成績をあげている。

本校キャンパス情報ネットワークは校内 LAN を構築しており，情報処理教育，学術研究に活用されている。情報セキュリティについては，管理体制のもとセキュリティシステムが導入されている。また，コンピュータウィルス対策は端末機のウィルス対策ソフトを校内に設置されたウィルス情報サーバから最新のパターンファイルが自動更新されることにより全校的に対策がとられている。

図書館には約 67,000 冊の図書が図書分類によって系統的に整備され，他に学術雑誌，新聞，専門誌，DVD 等の資料も揃えている。また，蔵書検索用の専用のパソコンを配置し利便性を図っている。

資料 9-1-①-2

学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程 (抜粋)

第1章 総則

第1条 この規程は、大島商船高等専門学校における学業成績並びに進級及び卒業の認定等について定めることを目的とする。

第4章 学業成績の評価

第7条 学業成績は、その期間中の試験成績、平常の学習状態及び成績、出席状況等を総合して評価するものとする。

第8条 平素の履修状況等で評価できる科目については定期試験または中間試験を行わないことがある。

第9条 各科目について、原則として1単位あたり20時間(年間授業時数の3分の2)以上の出席をもって履修したものと認定する。

2 履修したと認定された科目について学年成績評価をする。

第10条 学業成績の評価は、優・良・可・不可の標語をもってし、次の評点区分による。

優 80点～100点

良 66点～79点

可 60点～65点

不可 59点以下

出典：大島商船高等専門学校規則集 (抜粋)

教務係では定期試験の解答用紙及び実験レポートなど成績の根拠となる資料を保存収集している(資料9-1-①-3)。解答用紙は電子ファイル化し、原本は教員を通して学生に返却される。保存した教務係のサーバー上で保管され必要時に閲覧できるようになっている。

資料 9-1-①-3

平成19年6月1日

各 教 員 殿

教務主事 平畑 幸作

答案用紙の取込みについて

高等専門学校機関別認証評価の審査を受けるため、平成17年5月より成績評価の適否を判断する資料として、過去5年間の定期試験答案、成績評価に反映する小テストならびにレポート等(追認試験の扱いも同様。)の原本かコピーを保管しています。(専攻科も同じ。)

試験答案については従来から答案を学生に返却することになっていましたので、経費や労力を考慮して、以下のような方法で必要な資料を保存しますので、ご協力をお願いします。

出典：答案用紙の取込について (抜粋)

教務主事室では、学生の授業に対するアンケート（資料9-1-①-4）を平成15年度より実施、集計した結果（資料9-1-①-5）を教員個人に配布、結果に対する授業の対応等について報告書（資料9-1-①-6）の提出を求め改善を促している。また教員全員の評価をまとめ評議員会（外部評価）の資料として提出している。（資料9-1-①-7）

資料9-1-①-4

質問項目		良い 普通 悪い				
1	先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	5	4	3	2	1
2	先生の説明は分かりやすく、理解しやすかったですか。	5	4	3	2	1
3	学生の理解度を確認しながら、適切な進度で進められていましたか。	5	4	3	2	1

出典：学生による授業評価アンケート（一部）

資料9-1-①-5

平成15年度 授業評価集計表

講義：個人集計 教員名：

評価項目	科目	集積	電工	電工				総計および平均
	クラス等	14	13	12				
	在籍人数	38	43	37				118
	集計数	32	40	35				107
1	先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	3.9	3.8	4.0				3.9
2	先生の説明は分かりやすく、理解しやすかったですか。	3.9	2.9	3.4				3.4
3	学生の理解度を確認しながら、適切な進度で進められていましたか。	3.7	3.1	3.2				3.3
4	プリントや補助教材は授業の役に立ちましたか。	3.3	4.2	4.5				4.0

出典：学生による授業評価アンケート結果（教員個人用、抜粋）

大島商船高等専門学校 授業評価に対する改善報告書

- 平成 17 年度に行われた授業評価（講義および実験実習）に対する改善および実践の方法について具体的に記入してください。
- 授業評価（講義および実験実習）の評価項目 1～12 の内から 3 項目以上 を選択してください。
- 本年度、既に改善等に取り組んでいる例等が有りましたら、記入してください。
- ワープロまたは手書き、どちらでも結構です。ワープロであればプリント出力してください。
- 授業評価アンケートに関してご意見等が有りましたら記入をお願いします。
- 報告書を封筒に入れ、氏名および「授業評価に対する改善報告書在中」と明記の上、厳封して教室事務室まで提出してください。
- 提出期限は 9 月末まで。

講義の改善について（3 項目以上）

講義で重要と思われる、説明（声や進行）・板書や授業の工夫・補助教材（プリント）の 3 点についてアンケートの結果を踏まえて報告する。

◎説明（声や進行）について

項目 1：先生の話し方や声の大きさは聞きとりやすかったですか。

項目 2：先生の説明は分かりやすく、理解しやすかったですか。

項目 8：授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。

項目 10：先生、授業は意欲的で、熱意が感じられましたか。

講義を行う上で一番気を付けていることは、声の大きさおよび“はり”である。これらは講義の雰囲気や決定付ける要素であると考えており、実際の講義では意識的に且つメリハリもつけながら説明をするように心掛けている。学生の評価においても平均値より高い評価を得ていることから、この取り組みが支持されていることがわかる。今後ともはりのある声での説明を実践して行きたいと思う。

◎板書や授業の工夫について

項目 5：授業の準備や工夫がなされていると思いましたか。

項目 6：黒板（OHP を含む）の使い方や書き方は分かりやすかったですか。

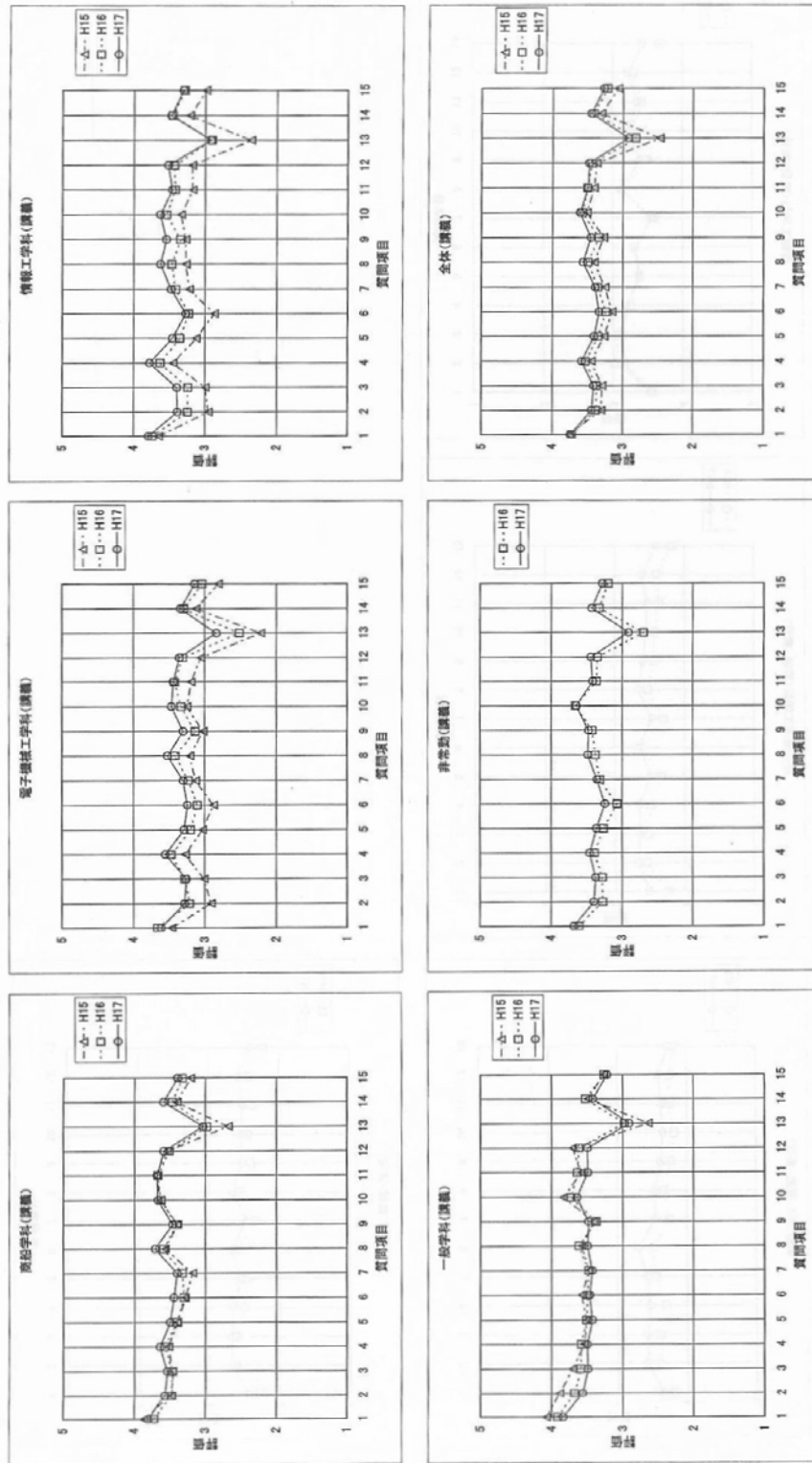
授業の準備に関しては、講義に使用する講義ノートは、学生の理解度（小テストの結果等）を考慮しつつ、講義の 1～2 日前に作成することを実践している。単なるシラバス項目の進行のみの講義とならないように、1 回 1 回の講義の雰囲気および小テストからわかる学生の理解度より、次の講義での私自身の取り組み方の確認という形で講義ノートを作成している。こうすることで、自身の講義内容の理解度が再確認でき、それが自信となって講義での説明に反映できると考えている。学生の評価も平均値以上である。ただ、板書に関しては、生来の悪筆であることから、読めない字は書かないようにして行きたいと思う。

◎補助教材（プリント）について

項目 3：学生の理解度を確認しながら、適切な進捗で進められていますか。

出典：学生による授業評価アンケート結果に対する改善報告書（教員個人用）

H15年度～H17年度 授業評価アンケート(講義)の学科別評価の年度推移
 ただし、非常勤講師は平成15年度なし



出典：学生による授業評価アンケート結果(学校全体),外部評価委員会資料

学生主事室及び学生課学生係は、学生の課外教育、集団指導、奨学金関係、職業指導(就職等)、学生会活動、保健指導、厚生福祉等に関するデータや資料の収集・保存を行っている。例として、学生係では、学生の就職進学状況を年度毎に集計、資料として就職担当教員及び学生に提供し、さらに本校ホームページで公開している。(資料9-1-①-8, 9)

資料9-1-①-8

電子機械工学科

産 業 別 就 職 状 況

産 業 別 区 分		18年度卒		17年度卒		16年度卒		15年度卒		14年度卒	
製 造 業	精 密 機 械			3	(3)	2	(2)	3			
	一 般 機 械	1		2		6	(1)	4	(1)	8	(2)
	電 気 機 械	21	(3)	11	(3)	5		15	(2)	7	
	運 輸 用 機 械					5					
	金属製品・非金属・鉄鋼業					1					
	化学工業・石油・石炭製品			7	(1)	3		4		2	
	出 版 ・ 印 刷 等										
	食 品										
	織 維 業					3					
そ の 他	1		3	(1)	8	(1)	1	(1)	3		
運 輸 ・ 通 信	3		1		2		1	(1)	1		
フ ェ リ ー											
外 国 航 海											
国 内 航 海											
電 力 ・ ガ ス											
農 林 ・ 水 産											
小 売 業 ・ 卸 売 業											
自 営 業											
情 報 処 理 ・ サ ー ビ ス 業	2		1					4			
金 融 業											
不 動 産 業											
そ の 他											
国 家 公 務 員										1	
地 方 公 務 員										2	
計		28	(3)	28	(8)	35	(4)	32	(5)	24	(2)

※()内数字は女子学生数で、内数である。

出典：産業別就職状況

資料 9-1-①-9

● 情報工学科

西日本旅客鉄道 (株)	マツダ(株) 東レ(株)	コベルコシステム(株) デンソーテクノ(株)
日本製紙(株)	(株)インタープロジェクト	トステム(株)
出光興産(株)	TDCソフトウェアエンジニアリング(株)	キャノンシステムアンドサポート(株)
(株)山口銀行	ジャパンアウトソーシング(株)	富士通サポート&サービス(株)
総合警備保障(株)	日本ポリウレタン工業(株)	アトラス情報サービス(株)
国際ソフトウェア (株)	(株)ケーイーシー カヤバ工業(株)	(株)アサヒ情報システム 東芝情報システム(株)
新川電機(株)	日鋼設計(株)	京セラミタジャパン(株)
海上自衛隊	(株)テクシア	(株)ネットワークシステム
国家公務員 (株)ハタシ	キャノン販売(株)	(株)アサヒテクノロジー ネクストウェア(株)
(株)オールワン		

出典：本校ホームページ

学生相談室及び学生課学生係では、学生及び保護者に対して学生生活に関するアンケート（資料 9-1-①-10）を実施、その結果については学生相談室のホームページ（学内限定）に公開され、今後の学生指導や学級懇談会などの資料として役立つ取り組みが採られている。

資料 9-1-①-10

新入生対象 学生相談室アンケート集約（抜粋）

次の各質問について、当てはまる記号を選んで回答用紙に○で囲んでください。
（ ）内は自由に書いてください。（回答は別紙、解答用紙に書いてください。）

1. あなたが大島商船（以下本校）を進学先として考えた時期はいつですか？
(a) 小学生の頃 (b) 中学1, 2年生の頃 (c) 中学3年の頃

	a	b	c
S科	2	9	27
M科	1	8	36
I科	0	11	39
合計	3	28	102

新入生保護者アンケート内容（抜粋）

1. 学校生活について不安がありますか。
2. 学習について不安がありますか。
3. お子さまの人間関係（友人・異性・教員など）について不安がありますか。
4. お子さまの家庭内の生活で困ったことがありますか。
5. 入寮される方にお尋ねします。寮生活について不安がありますか。
6. 本校に対する質問・要望など、何かございましたら遠慮なくお書きください。

出典：新入生対象アンケート結果，新入生保護者アンケート

地域協力委員会及び総務課企画係では公開講座や出前授業など学外の教育活動に関するデータの収集を行っている。例として、企画係は公開講座及び出前授業の受講者の募集、参加人数の把握並びに受講者に対する満足度アンケート（資料9-1-①-11）を行って集計、その結果を地域協力委員会の資料として提出、審議して次年度の開講計画の資料としている（資料9-1-①-12）。

資料9-1-①-11

ことばの世界3 18.12.9

★ 公開講座についてのアンケート ★

各項目の右の欄の カタカナ (ア・イ・・・)、数字等には○をつけて、記入欄にはそのまま記入して回答をお願いいたします。

1	性別を選んでお答えください。	ア. 男 イ. 女
2	年代を選んでお答えください。	ア. 9才以下 イ. 10代 ウ. 20代 エ. 30代 オ. 40代 カ. 50代 キ. 60代 ク. 70代 ケ. 80才以上
3	職業を選んでお答えください。	ア. 小学生 イ. 中学生 ウ. 高校生 エ. 高専生 オ. 大学生 カ. 会社員 キ. 公務員 ク. 自営業 ケ. その他(専業主婦)
4	お住まいの地域を選んでお答えください。	ア. 周防大島町 イ. 柳井市 ウ. 岩国市 エ. その他()
5	この講座を何で知りましたか。	ア. ポスター イ. 新聞 ウ. ホームページ エ. 広報誌 オ. その他()
6	この講座に満足していただけますか。 (5段階の点数に○をお願いします)	満足 (5) 4 3 2 1 不満足

出典：公開講座のアンケート

資料9-1-①-12

平成18年度 公開講座実施状況

総受講者数 257名(昨年度274名)

講座の名称	開設時期					総開設時間数	受講対象者	受講料	受講定員	受講者数	有効回答者数(A)	左の内満足回答者数(B)	満足度率(B/A)		
	年	月	日	～	年									月	日
天体観測会	18	5	12	～	18	5	12	2	小中学生	無料	10	4	4	3	75.0%
暮末講座 青木周弼	18	5	13	～	18	5	13	2	一般	無料	100	22	22	17	77.3%
ソーラーボートを作ろう	18	7	15	～	18	7	15	6	小学生	無料	30	20	20	16	80.0%
クルーザーで行く朝鮮通信使の航海の足跡	18	7	16	～	18	7	16	8	一般	無料	10	10	10	9	90.0%
ことばの世界1-いろは歌と五十音図-	18	7	22	～	18	7	22	3	中学生一般	無料	30	11	11	9	81.8%
針穴写真入門	18	7	22	～	18	7	22	7	中学生一般	無料	10	4	4	4	100.0%
映画で学ぶアメリカ文学	18	7	28	～	18	7	28	2	一般	無料	30	6	4	3	75.0%
パソコンで自分の家を設計してみよう	18	7	29	～	18	7	29	5	一般	無料	15	13	11	10	90.9%
親子サバイバルキャンプ	18	7	29	～	18	7	30	16	小中学生	¥3,000	40	19	18	15	83.3%

出典：地域協力委員会会議資料，平成19年2月1日開催

(分析結果とその根拠理由)

本校では、各主事室及び事務部において教育活動に関する各種のデータを収集・蓄積して各委員会や関係教員及び学生への資料として提出・利用できる体制を整えていることがわかる。さらに教育に関するデータは各種委員会などでの評価する体制も整っているといえる。

観点 9-1-1 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学生の授業の評価に対しては学生を対象に「授業評価アンケート」（資料 9-1-②-1）を実施し、授業に対する満足度を調査している。一方、学習環境に関しては、「もの申巢箱」（資料 9-1-②-2）の設置と学生総会での「学生アンケート」（資料 9-1-②-3）を実施している。

「授業評価アンケート」は、基準 3 観点 3-2-②でも詳しく述べたとおり、資料 9-1-②-1 の用紙を実験実習の各テーマを含む全ての授業科目において配布し、これらを集計し、学生の授業に対する満足度を毎年調査し、グラフ化している（前提示資料 3-2-②-2, -3 P130～P131）。更に、全教員が授業評価に基づいて「授業評価に対する改善報告書」（前提示資料 3-2-②-4 P132）を提出し、校長室でとりまとめた上で、「授業評価に対する改善及び実践方法」（前提示資料 3-2-②-5 P133）として配布している。この結果、学生の授業評価の満足度は、毎年着実に向上し、結果として学生の意見が授業に取り入れられるかたちとなっている。

「もの申巢箱」は、電子メールを使って学生や保護者の意見を聞くシステムで、学内からのメールだけでなく学外からも受け取ることになっているため、匿名で意見を言うことも可能である。この「もの申す箱」があることは、学内にポスターを掲示して周知しているだけでなく、毎年、全学生の保護者宅に郵送している「学校だより」にも大きくページを割いて PR している。このシステムを通じて、教室に設置しているエアコンの温度設定方法などの提案があった。「学生アンケート」は、学生会が主催する学生総会前に学生に対して必ず実施し、学生会の要望として集約している。このアンケートの中から、学生の要望が高く実施可能なものに関して、学生主事室・学生課で検討し対処している。例えば、平成 19 年度において最も要望が多かった学生用個人ロッカーに鍵を付ける件に関しては、すでに予算化し低学年より実施している最中である。

一方、高専は修業年限が 5 年と長く、また、本校は 3 学科構成であり他高専に比べ学生や教職員の数も少なく、学生と教職員との関係が密で、学生も教職員に対して意見を言いやすい雰囲気にある。このため、毎週実施するホームルームや教員各自が設定しているオフィスアワー（前提示資料 7-1-①-5）からも十分な意見を聴取することができる。

（分析結果とその根拠理由）

学生の授業の評価に対しては学生を対象に授業評価アンケートを実施し、授業に対する満足度を調査している。一方、学習環境に関しては、「もの申巢箱」の設置と学生総会での学生アンケートを実施し、意見を聴取している。更に、毎週実施するホームルームや教員各自が設定しているオフィスアワーからも十分な意見を聴取することができている。

以上のことから、学生の意見の聴取は様々な形で充分に行われている。

資料 9-1-②-1

平成18年度

学生による授業評価アンケート

この授業に関して、あなたの意見・感想を聞かせてください。授業内容を良くするために参考にするもので、回答は学生諸君の成績には全く影響しません。誠実に答えていただくようご協力をお願いします。

【注意事項】

- ① 質問事項をよく読んで、あなたの意見に最も近い番号を○で囲んでください。
- ② 学科、学年、授業科目名、担当教官名を記入してください。

学科・学年		担当教官名	
授業科目名		必修・選択	

※(いずれかに○をつける)

【講義】

(質問事項)	良い 普通 悪い				
	(+)				(-)
(1) 先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	5	4	3	2	1
(2) 先生の説明はわかりやすく、理解しやすかったですか。	5	4	3	2	1
(3) 学生の理解度を確認しながら、適切な進度ですすめられていましたか。	5	4	3	2	1
(4) プリントや補助教材は授業の役に立ちましたか。	5	4	3	2	1
(5) 授業に準備や工夫がなされていると思えましたか。	5	4	3	2	1
(6) 黒板 (OHP を含む) の使い方や書き方はわかりやすかったですか。	5	4	3	2	1
(7) 授業の内容はシラバスと一致していましたか。	5	4	3	2	1
(8) 授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。	5	4	3	2	1
(9) 定期試験の内容は適切だと思えましたか。	5	4	3	2	1
(10) 先生は授業に対して意欲的で、熱意が感じられましたか。	5	4	3	2	1
(11) この教科に興味を持って、将来あなたにとって役に立つと思いますか。	5	4	3	2	1
(12) 総合的に考えてこの授業に満足していますか (高く評価していますか)。	5	4	3	2	1
(13) あなたはこの授業の予習・復習をしていますか。	5	4	3	2	1
(14) あなたはこの授業に熱心に取り組みましたか。	5	4	3	2	1
(15) この授業の内容をどの程度理解しましたか。	5	4	3	2	1

出典 学生による授業評価アンケート

資料 9-1-②-2

学生の皆さんへ もうすばこ もの申巢箱を知っていますか？

高専での学生生活をより有意義なものとするため、皆さんの
声に耳を傾けたいと思います。下記のメールアドレスまで
意見や要望をお寄せください。

記

.....@.....

出典 「学校だより」原稿

資料9-1-②-3

平成19年度 学生会総会

平成19年5月21日

学生会目標：
 ・第二箱（目安箱）の設置
 ・週一回の挨拶運動の実施

1. 今年度学生会役員

学生会長	体育委員長
学生会副会長	体育副委員長
	文化委員長
書記	文化副委員長
	商船祭実行委員長
会計	応援団長

2. 学生会の議題のアンケート結果について（9クラス分）

○多数意見

○少数意見

- | | |
|--|---|
| <p>(1) マラソン大会について
 ・大会を廃止する(158)
 ・距離を短くする(92)
 ・マラソン大会をクラスマッチにする(26)
 ・4,5年生は自由参加(8)</p> <p>(2)ロッカーの鍵の着用について
 ・必要(258)
 ・不必要(48)</p> <p>(3) トイレのドアなどについて
 ・ドアの変更(54)
 ・女子トイレの増設(54)</p> <p>(4) キャラバン車（公用車）について
 ・キャラバン車を増やす(89)
 ・大人数が乗れるキャラバン車に(5)</p> <p>(5) 通学バスについて
 ・バスの本数を増やす(92)
 （せめて雨の日だけでも）
 ・学校用のバスを使う(80)
 ・不必要(15)
 ・値下げしてほしい(7)</p> | <p>・教官も走る
 ・給水所を設ける
 ・駅伝にする
 ・Walking大会へ</p> <p>・教室の近くにロッカーがほしい</p> <p>・紙を常備してほしい</p> <p>・ガソリン代を無料に</p> |
|--|---|

出典 学生会資料

観点 9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学外関係者の意見は、主に卒業生、就職先企業へのアンケート及び地元の企業・行政・教育関係者により構成される評議員会から聴取している。

卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取する取り組みとして、平成18年度から卒業生及び就職先の企業に対してアンケート調査を実施している。卒業生を対象としたアンケートの調査内容及び結果は資料9-1-③-1のとおりである。企業を対象としたアンケートの調査内容及び結果は資料9-1-③-2のとおりである。

評議員会は、平成16年度以降実施し、議事録と本校に対する意見、助言等（資料9-1-3）を「評議員会報告書」（平成17年7月発行）に反映している。本報告書は全教職員に配布されている。

（分析結果とその根拠理由）

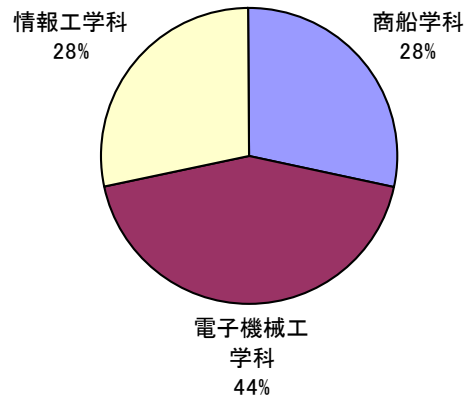
アンケートと評議員会により学外関係者の意見を聴取している。卒業生を対象としたアンケートの回答では、卒業生の視点に基づく本校の教育内容についての意見が寄せられている。企業を対象としたアンケートの回答では、企業の人事担当者から本校卒業生の資質や能力についての意見が寄せられている。評議員会の意見は評議員会報告書に記載され、全教職員に配布されており、各教職員が今後の教育内容等の改善に役立っている。

以上のことから、学外関係者の意見を聴取して、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

卒業生アンケートの調査内容及び結果

資料9-1-③-1
(出典 卒業生アンケート)

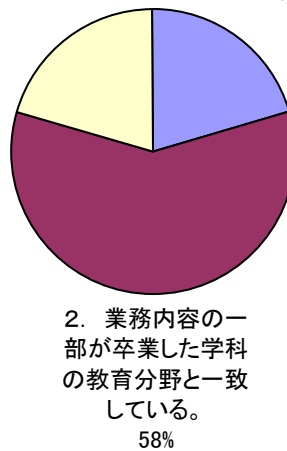
問1 卒業した学科はどこですか



問2 現在の会社における貴方の業種および業務内容と貴方が卒業した学科の教育分野との関係についてお答えください。

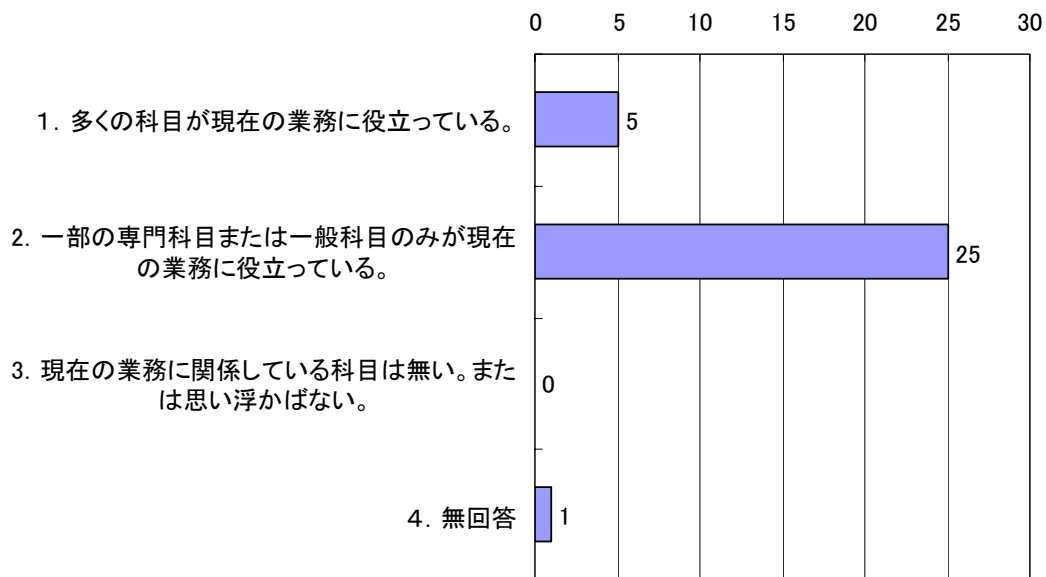
3. 卒業した学科の教育分野とはまったく関係の無い業務に従事している。
21%

1. 卒業した学科の教育分野とほぼ一致した業務内容に従事している。
21%

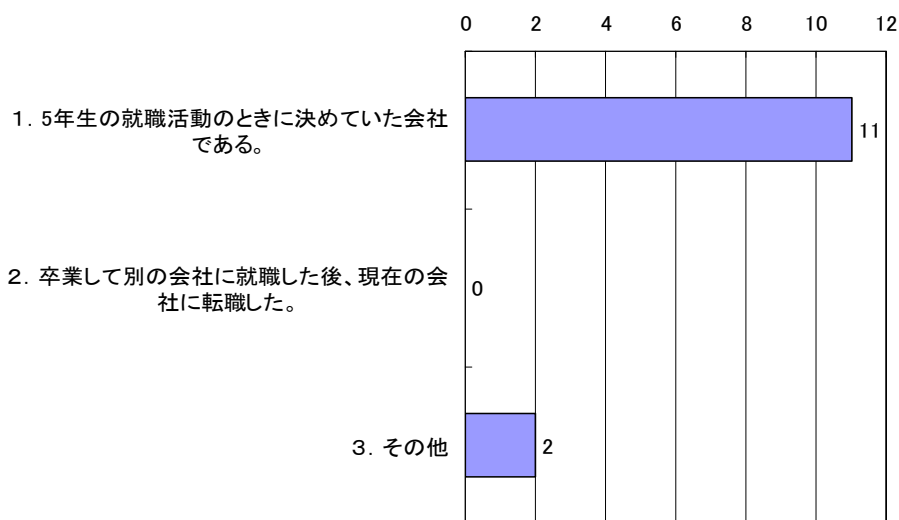


資料9-1-③-1 (続き)

問3 本校(5年間)で受けたすべての講義科目において、現在の業務にどの程度、役に立っていると考えていますか？



問4 現在の職種および業務内容に従事した時期を教えてください。



(出典 卒業生アンケート)

資料 9 - 1 - ③ - 1 (続き)

問 5 貴方の卒業した学科また大島商船高専の教育内容についてご意見がございましたらお書きください。

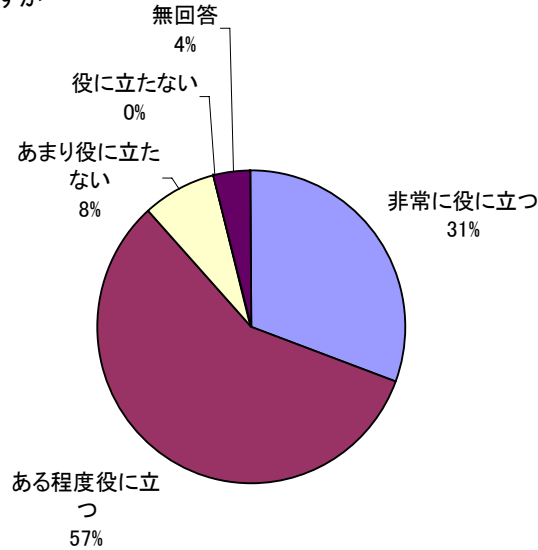
- 1 実験, レポートを増やすべき。
- 2 学生のレベルに迎合して教育の質を落とさないこと。
- 3 説明力を鍛えておく必要がある。
- 4 職場体験に取り組んでほしい。
- 5 授業をもっとやりたかった。
- 6 更に現場に近い実習が必要。
- 7 社会人として生きて行ける人間を育てるべき。
- 8 書類作成の授業が必要。
- 9 多くの科目を学べることはよいが, 授業時間が長く集中力が途切れてしまう。
- 10 理論がどのように活かされるか理解するために実習を増やしてほしい。
- 11 レポートにまとめ発表する機会を増やすべき。(修士, 大卒との1番大きな差であると感じる。)
- 12 全学科で船に乗る機会を増やすべき。三法以外のSOLAS規定やPSCの規則を学んでおくべき。
- 13 学生により理解度の差が大きいため, 補習等の機会を増やすべき。
- 14 今までどおり幅広い教育を行ってほしい。
- 15 インターンシップ等の実社会を経験する機会を長くするべき。
- 16 Excel, とCAD(製図)を5年生で教えてほしい。統計数学も更に教えてほしい。
- 17 大学進学で他校出身者より英語力で劣り, 苦労した。
- 18 新しいプログラミング (Java, VB2005)等を取り入れたほうがよい。
- 19 就職先の業務内容は畑違いのように思えたが, 入社してみると部分的には役に立つこともあり良かった。
20 5年間の長い学生生活の間に目標を見失っている学生が多いので, 学生にアドバイスを与える環境が必要。
- 21 部活はしておいたほうがよい。
- 22 常に最新の技術を取り入れた教育を行うとよい。
- 23 学生が使用するパソコンはなるべく新しいものにしてほしい。
- 24 学生の頃は教育内容がそれほど重要だとは思わなかったが, 現在の業務において役に立たない事は無い。

(出典 卒業生アンケート)

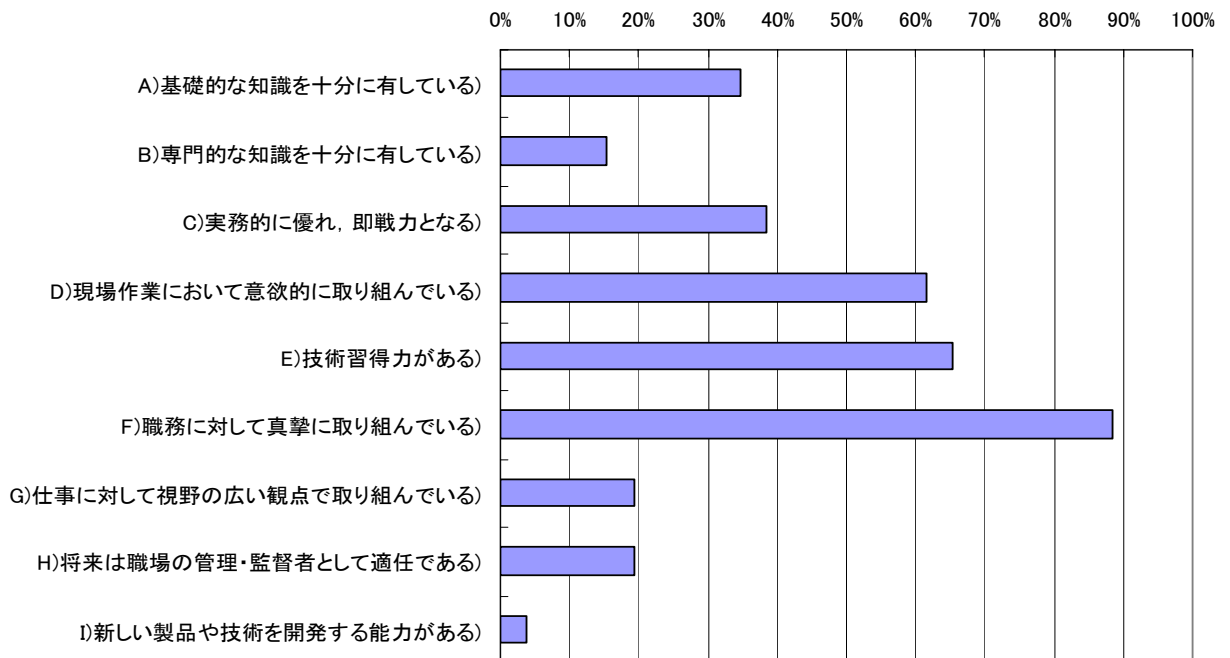
企業アンケートの調査内容及び結果資料

資料 9-1-③-2

問1 本校卒業生の身につけている能力は、現在の業務を行う上で、どの程度役に立っていますか



問2 本校卒業生の能力で、(A)～(I)のうち比較的優れているものを選んで、○を付けてください。いくつ選んでも結構です。



(出典 企業アンケート)

大島商船高等専門学校に対する意見及び助言等（「評議員会報告書」77～79頁）

- ・ 教育目標は“優れた専門性と豊かな人間性を有する海事技術者と実践的開発技術者の育成”とあり、頼もしい限りです。我々同窓生の大半は社会人として実社会に於いて、中堅技術者として育てられた域を超えられず、その域にあまんじていた様に思えてなりません。大島商船の中に専攻科が出来て、その中で専門性を高める事で人間性を育み、人間力の高い卒業生が社会人として活躍する人材が今後多く育成される事で、学校の歴史に新たな頁が出来る事を大変な誇りとしています。
- ・ 海洋交通システム専攻は、いわゆる煙突方式で本科 商船学科立ち上がる専攻であるので、カリキュラム上、本科と専攻科のつながりに無理が生じないと思われる。一方、電子・情報システム工学専攻は、電子機械工学科と情報工学科の両方にまたがる専攻である。そのため、カリキュラム上、また、育成しようとする人材の面で本科と専攻科間の連携が今ひとつ明確でない印象を受けた。
- ・ JABEE 受審を想定してカリキュラムの編成がなされていると思う（評議員会では確かそこまで手が回らないとのお話があったように思うが。）。教育目標を明確に定め、その達成に向けた本科および専攻科のカリキュラムの構築が望まれる。
- ・ 海技者（船員）教育制度の1部門としての5商船高専の商船学科については、目的も教育制度もほぼ同じと認識しておりますが、新設される専攻科には各校の独自性や特色も出していくことが必要である。
- ・ 専攻科入学の、学生にとって2年間の授業内容、単位取得には厳しいものがあるかと思いますが、受験資格は既に持っている人ですから、卒業までに必ず1級筆記まで取得するよう指導することが必要である。
- ・ 今からは専攻科学生に留学生がマーケットとして必要
- ・ 校長の御発言にありましたように「地域協力、実社会とのつながりを組織的に踏み込むことが必要」です。例えば学生・教職員による積極的なボランティア活動です。このことは、貴校の教育目標の一つである「豊かな人間性を有する」人材の育成にも大きく寄与すると考えます。
要は、地域住民に貴校の顔が見えるよう、平素からの地道な活動の積み重ねが求められていると思います。
- ・ 独立行政法人化に伴い、各高専の個性の発揮が求められていることから、例えば、次のような学校運営をされては。
合併による周防大島町の誕生を機に、地元行政、地域住民との連携・協働を図る。その際、高齢化が進む地域の状況を踏まえ、学生のボランティア活動を実施する中で学校として何ができるか、社会システムを模索することなど。
- ・ 「中期目標・中期計画」を見ると、目標数値の設定項目数が少ないように思われます。
例えば、管理経費の削減目標、女性教員の採用目標などです。（既に目標数値を設定済みかも知れませんが）部門ごとの目標数値があれば行動目標がより明確になります。
- ・ 留学生を受け入れるには英文のホームページが必要 （出典 評議員会報告書）

資料 9-1-3 (続き)

- ・ 現在作成されている中学生向けの学校案内は、低学年の中学生にとっては、硬い内容である。貴校の学校全体で作成させることなど検討されてはいかがでしょうか。
- ・ 学生による授業評価を通じた取り組みがなされているが、教育改善に関するより組織的なシステムの構築が望まれる。
- ・ 少子化により応募者は年と共に減少するでしょうが、学校の価値が高ければ希望者が増えるでしょう。それには、
 - スポーツ活動、ロボコン大会での成果等で実績を上げていくこと。
 - 指導者（教官）の質を高め、「この先生が居るから学校を選ぶ」等が出来れば良い。
 - 現在の様々な活動を引き続いて地道に進めること。
 - 同窓会の地元での活動を活発に行う。
 - 学校関係者が一体となって大島商船高専の活性化委員会を設立できたらと提案します。
- ・ PR に学生が編集するメールマガジンを発行
- ・ 同窓会に依頼して、同窓生に就職セミナー型で学生に講演
- ・ 校内美化は教職員が先頭に見本をみせて学生は絶対参加すべきであり、この運動を教育カリキュラムに入れることも必要です。学内での 5S 運動委員会等を作り、人格教育も取り入れるべきだと思います。
 - そして卒業生は 5 年間の教育によって培われた人格的成長により一般社会で認められれば、「さすが大島商船卒は一味ちがう」となるための地道な学校風土づくりが必要と思います。
- ・ 大島商船高専ボランティア隊の設立と活動はユニークで素晴らしい。
- ・ 貴校の卒業生の弊社への入社で感じた事は下記 5 項目に関し十分ではありませんがかなりの部分で満足しています。
 1. ハキハキと自己主張できる人
 2. 礼節を主んじる人
 3. 挨拶がきちんとできる人
 4. 何事も好きであるが由に熱心に取り組む人
 5. 人を大切に思う人
 - そうゆう人々を我社は求めています。
 - 今後も益々学生の人間性の向上に努力されステップUPを目指して頂きたい。
- ・ 現状では、企業との共同研究の件数が少ないが、これは、積極的な企業訪問等により、企業のニーズを地道に掘り起こすしかない。
 - (財) やまぐち産業振興財団との共催で開催している「産学公技術交流会」は地域企業との繋がりのきっかけはできても、共同研究に進むケースは他地域の例をみても多くはない。学校と企業とのコーディネートについては、(財) やまぐち産業振興財団の「産学公連携コーディネーター」の活用も検討。

(出典 評議員会報告書)

資料9-1-3 (続き)

- ・ 昨年10月1日に4町合意により周防大島町が誕生致しました。

海に囲まれ気候温暖で抜群の景観をほこるこの島に107年の歴史と伝統ある国立の大島商船高等専門学校が在ることは大きな喜びであり誇りであります。

海国日本を支えてきた長い歴史が今や電子機械工学科，情報工学科を併設され世界を視野に入れた一大専門学校となりました事は島にとりまして此の上ない喜びであり宝であります。校長先生はじめ諸先生方に敬意を表します。

私は教育のことはよくわかりませんが，今まで国立といえば近寄りがたい学校であると思っていました。先般来より，外国人留学生交流会や伝統ある卒業式に列席させていただき大変身近なものを感じました。大島郡武道大会にも参加をしていただきましたが，報告書を拝見して余りにも多方面で地域活動をしておられる事を知り驚きました。今後におきましても，地域との交流を更に深めていただきたく共々繁栄したいと思いますので宜しくお願い致します。

(出典 評議員会報告書)

観点 9-1-1 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校の教育活動を推進し、その質の向上・改善をおこなうために、「学生による授業評価アンケート」、「教員の教育業績等評価」の二つの取り組みがなされている。

「学生による授業評価アンケート」については、前述したように、学校全体で取り組んでおり、評価結果が各教員に返却されるとともに、その結果に基づき、「授業評価に対する改善報告書」の提出が義務付けられている。

「教員の教育業績等評価」については、その趣旨が明確に示され（資料 9-1-1-1）ており、全教員が理解したうえで、毎年実施されている。この教育業績等評価は、三部構成となっている。第 1 部は「教員の自己評価」（資料 9-1-1-2）であり、授業に関すること、FD 活動・地域貢献に関すること、学生生活指導に関すること、及び海外経歴も含めた経歴関連からなっている。第 2 部は「教員による相互評価」（資料 9-1-④-3）であり、教員同士の相互評価を行なっている。第 3 部は「学生による教員の評価」（資料 9-1-1-4）であり、教育活動やクラブ活動などにおける取り組みに対して、学生が教員を評価するものである。集計されたこれらの結果を基に、顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに、教育の充実・向上を目指している。

（分析結果とその根拠理由）

「学生による授業評価アンケート」及び「教員の教育業績等評価」が学校全体で取り組まれており、これらの結果は、教育の質の向上、改善に結び付けられている。したがって、教育や学生指導など、すべての面において具体的な方策が講じられている。

1. 教員の教育業績等評価の趣旨

高専は深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的としている。そしてこの目的達成のために、常に教育水準の維持向上に努めるとともに、教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるよう努めなければならない。

一方、高専には後期中等教育相当の学生を受入れ5年（専攻科進学の場合は7年）の長期間にわたる教育を行うため、学生生活指導は極めて重要な役割を持つ。さらに、学校運営においても教員の役割が強く求められる。

このように、高専教員は主として教育者の面を持ち、一方で研究者の面を持つとともに高専の管理運営にも果たすべき役割がある。

高専教員個々に対する業績評価は、これらを総合して行われるべきものであるが、現状においては、ともすれば専門の研究業績のみが重視され、教育や管理運営に係る業績が適正に評価されていない恐れがある。

この教育業績等評価は、このような観点から研究業績以外の業績評価を定量的に行おうとするものである。敢えて定量的に評価するのは、評価に透明性があること、短期間に実施が可能なこと、一高専内のみならず全高専の中での相対的位置を示す参考資料となることからである。

この教育業績等評価を一つの資料として、学生教育を中心とする分野において顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに、高専における教育の充実・向上を目指すものである。

この教育業績等評価は、第1部：教員の自己評価、第2部：教員による相互評価及び第3部：学生による教員の評価から成る。

出典：国立高等専門学校機構

2. 教員の教育業績等評価

第1部 教員の自己評価

自己評価項目についての留意事項

- (1) 多くの項目は5年間の平均値を基に記入して下さい。
- (2) 着任後5年未満の教員は、その年数の平均値を基に記入して下さい。
- (3) 完全にあてはまらないような設問、回答に対しては適宜判断して答えて下さい。
- (4) 小数点が出るような場合、四捨五入して下さい。

配点

A. 授業等の担当

[49]

1. 授業について

[6]

- (1) 週当たりの授業単位時間数はどれだけのですか？最近5年間の平均値で答えて下さい。（1単位時間；約50分。実験、実習等を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。）
 - 1) 15単位時間以上：[3点]
 - 2) 12～14単位時間：[2点]
 - 3) 11単位時間以下：[1点]
- (2) 正規の授業のほかに補習授業をやっていますか？（不定期に実施しているものを含む。）
 - 1) 進学・就職希望者、資格試験受験者及び達成度の低い学生に実施している：[3点]
 - 2) 進学・就職希望者及び資格試験受験者について実施している：[2点]
 - 3) 達成度の低い学生についてのみ実施している：[2点]
 - 4) 正規の授業で十分理解されていると自信をもっているのに、補習授業は行っていない：[1点]
 - 5) 補習授業をまったく考えていない：[0点]

2. 授業内容・方法

[11]

- (1) シラバスはありますか？また、有効に利用していますか？
 - 1) シラバスの内容を学生によく説明し、講義や成績判定に利用している：[3点]
 - 2) シラバスはあり、およその目安としている：[2点]
 - 3) シラバスはあるが、あまり利用していない：[1点]
 - 4) シラバスはまだ作成配布していない：[0点]
- (2) 教科書及び参考書は使用していますか？
 - 1) 自著の教科書・参考書及び自分で開発した最新の教材を使用している：[3点]
 - 2) 標準的な教科書あるいは参考書と自分で開発した教材を使用している：[2点]
 - 3) 自分で作った教材を用いるので、教科書・参考書は使用していない：[2点]
 - 4) 標準的な教科書あるいは参考書を使用している：[1点]

資料 9-1-④-2 (続き)

(3) 教育方法の工夫

- 1) グループ学習、ディスカッションなど新しい教育方法を実践している：[3点]
- 2) 一方的な授業ではなく、双方向型の授業になるように工夫している：[2点]
- 3) 通常の講義形式で授業を行っている：[1点]

(4) 学生による評価の取り入れ

- 1) 授業の中で学生が学習到達度を自己点検できるような工夫をしている：[2点]
- 2) 学生による授業評価などを取り入れ、学生の要望にも対応できる授業を行っている：[1点]

3. 成績評価**[9]**

(1) 成績評価基準

- 1) 教育目標に対する達成度で評価している：[3点]
- 2) クラス内あるいは学年内での相対評価で決めている：[2点]
- 3) 独自の評価基準あるいは上記以外の評価基準で評価している：[1点]

(2) 定期試験や小テストの答案の採点結果や評価結果などを学生本人に返却・通知していますか？(注：JABEEへの認定申請の際、必要とされる答案はコピーでも良い。)

- 1) 定期試験はもとより、小テストやレポートも採点した後、説明あるいは添削して学生に返却している：[3点]
- 2) 定期試験の答案のみ返却している、あるいは、小テストやレポートのみ採点して返却している：[2点]
- 3) 定期試験ごとに点数のみを通知する：[1点]

(3) 授業の効果の確認

- 1) 定期試験で確認するほか、レポートや宿題のチェック、アンケート調査、各種の実力試験、資格試験、コンテストの成績などにより確かめている：[3点]
- 2) 定期試験で確認するほか、卒業研究の成果、就職・進学試験の結果などにより確かめている：[2点]
- 3) 定期試験でのみ確認している：[1点]

4. 授業に関連する指導**[6]**

(1) 欠席の多い学生にはどのように対応していますか？

- 1) クラス担任と密接に連絡をとりながら早めに対応している：[3点]
- 2) 時期をみてクラス担任と連絡をとりながら、独自でも対応している：[2点]
- 3) 独自で対応している：[1点]

(2) オフィスアワーの設定と活用

- 1) オフィスアワーを設けているが、それ以外でも学生の来室に快く応じている：[3点]
- 2) オフィスアワーを設けて、活用している：[2点]
- 3) オフィスアワーは特に設けていないが、学生の来室に快く応じている：[2点]
- 4) 学生の質問時間は特に設けていない：[1点]

* 一般教科担当教員で卒業研究、留学生を担当しない場合は「-」を記入し、「B. FD活動、地域貢献」へ跳ぶ

資料 9-1-④-2 (続き)

5. 卒業論文指導の状況等 (専攻科における研究指導を含む)**[11]**

- (1) 指導学生数 (職位, 役職を考慮)
- 1) 標準より多い学生数を指導している : [2点]
 - 2) 職位, 役職を考慮して標準の学生数を指導している : [1点]
 - 3) 標準より少ない学生数を指導している : [0点]
- (2) テーマ (分野と設備を考慮)
- 1) 学生一人ひとりに別々の適切なテーマを与えた : [3点]
 - 2) 分野と設備を考慮して, 適切なテーマであった : [2点]
 - 3) 分野と設備を考慮して, ほぼ適切なテーマであった : [1点]
 - 4) 不適切なテーマであった : [0点]
- (3) 卒論発表時の評価 (学生の資質と指導効果を評価)
- 1) 学生一人ひとりをよく指導した結果, すべて立派な発表であった : [3点]
 - 2) 学生一人ひとりをよく指導した結果, ほぼ満足な発表であった : [2点]
 - 3) 学生の資質を考慮し, 適切な発表であった : [1点]
 - 4) すべてにおいて指導の不足が見られる発表であった : [0点]
- (4) 卒業論文の評価 (学生の資質と指導効果を評価)
- 1) 学生一人ひとりをよく指導した結果, すべて価値ある論文であった : [3点]
 - 2) 学生一人ひとりをよく指導した結果, ほぼ満足な論文であった : [2点]
 - 3) 学生の資質を考慮し, まずまずの論文であった : [1点]
 - 4) すべてにおいて指導の不足が見られる論文であった : [0点]

6. 留学生の指導等 (教育方法の工夫, 生活指導等)**[6]**

- (1) 授業の方法等
- 1) 留学生がいることを念頭に置いて, 常に工夫を凝らして行っている : [2点]
 - 2) 留学生用に必要に応じて工夫を凝らして行っている : [1点]
 - 3) 留学生がいることに特に留意, 工夫することはしていない : [0点]
- (2) 課外授業 (正規の授業以外の授業) について
- 1) 課外授業を頻繁に行っている : [2点]
 - 2) 課外授業を求めに応じて行っている : [1点]
 - 3) 課外授業は行っていない : [0点]
- (3) 生活面の指導や相談について
- 1) 生活指導や相談を積極的に頻繁に行っている : [2点]
 - 2) 生活指導や相談は求めに応じて行っている : [1点]
 - 3) 生活指導や相談がなかったので, 行っていない : [0点]

B. FD活動, 地域貢献**[40]**

最近5年間の平均値として以下の方法によって評価して下さい。

1. 教育, 教員の資質向上に関する研究論文の発表 (高専教育, 工学教育, その他) [10]

資料 9-1-④-2 (続き)

- 1) 「高専教育」「工学教育」への論文発表：[8点/件]
- 2) 他の専門学術誌への教育，教員の資質向上に関する論文発表：[8点/件]
- 3) 校内紀要，他の諸機関誌への教育，教員の資質向上に関する論文発表：
[4点/件]

【評価点の和が10点を超える場合は10点とする。】

2. 研修への取組み（教育研究集会への出席・発表・報告等，学外FD活動，授業視察等）

[10]

- 1) 教育研究集会での発表・報告：[6点/件]
- 2) 国専協（高専機構）教育方法改善共同プロジェクト等の組織に参加：[6点/件]
- 3) 教育研究集会への出席：[3点/件]
- 4) 学外FD活動への参加：[3点/件]
- 5) 学内FD活動への参加：[2点/件]
- 6) 授業視察（他高専を含む）：[2点/件]

【評価点の和が10点を超える場合は10点とする。】

3. 教育面での地域貢献（公開講座，地域主催事業への参加，ボランティア活動等）

[12]

- 1) 公開講座の企画・立案：[4点/件]
- 2) 公開講座での講演：[4点/件]
- 3) 有識者としての地域審議会等への参加：[4点/件]
- 4) 地域主催事業への参加：[3点/件]
- 5) ボランティア活動の企画・立案：[4点/件]
- 6) ボランティア活動への参加：[4点/件]

【評価点の和が12点を超える場合は12点とする。】

4. 地域産業の振興への貢献

[8]

- 1) 地域産業振興の組織（化）に参加：[4点/件]
- 2) 地域産業振興に個人的に貢献（報告書付技術指導等）：[4点/件]
- 3) 地域産業振興に個人的に貢献（技術相談）：[2点/件]

【評価点の和が8点を超える場合は8点とする。】

C. 学生生活指導

[41]

1. 課外活動

[14]

(1) よりよい課外活動のあり方について

- 1) 常に考慮している：[2点]
- 2) 時々考慮している：[1点]
- 3) あまり考えていない：[0点]

(2) 部・サークルの顧問として

- 1) 大いに活動している（活動時間；年間120時間以上）：[8点]
- 2) 大いに活動している（活動時間；年間80時間以上120時間未満）：[4点]

資料 9-1-④-2 (続き)

3) ある程度活動している (活動時間 ; 年間 40 時間以上 80 時間未満) : [2 点]

4) あまり活動していない : [1 点]

5) 全く活動していない : [0 点]

(3) 部活動学生の技術力向上に

1) 大いに手助けとなっている : [2 点]

2) ある程度手助けになっている : [1 点]

3) あまり手助けできていない : [0 点]

(4) 体育祭・高専祭等学生会行事の指導・協力について

1) 積極的に指導・協力している : [2 点]

2) ある程度やっている : [1 点]

3) あまりやっていない : [0 点]

2. 厚生補導

[1 9]

(1) よりよい学生生活のあり方について

1) いつも考えている : [2 点]

2) 時々考える : [1 点]

3) あまり考えない : [0 点]

(2) 学生に対する決められた指導・助言は

1) 積極的にやっている : [2 点]

2) ある程度やっている : [1 点]

3) あまり行っていない : [0 点]

(3) 学生に対する校内外における生活補導は

1) 積極的に巡回し注意をしている : [3 点]

2) 時々行っている : [2 点]

3) あまり行っていない : [1 点]

4) まったく行っていない : [0 点]

(4) クラス担任の経験は過去 5 年間で

1) 3 回以上 : [6 点]

2) 2 回程度 : [4 点]

3) 1 回程度 : [2 点]

4) なし : [0 点]

(5) よりよい学寮のあり方について

1) 指導・計画等に関わり, 常に積極的に考えている : [2 点]

2) 指導・助言を行っている : [1 点]

3) あまり考えない : [0 点]

(6) 学寮の宿日直業務は

1) 月 2 回以上 : [4 点]

2) 月 1 回程度 : [2 点]

3) 月 0.5 回程度 : [1 点]

4) ほとんど行っていない : [0 点]

資料 9-1-④-2 (続き)

3. 進路指導及び学外活動**[8]**

- (1) よりよい就職・進学指導について
- 1) 常に積極的に考えている : [2 点]
 - 2) 時々考える : [1 点]
 - 3) あまり考えていない : [0 点]
- (2) 就職・進学の事前指導は
- 1) 充分行っている : [2 点]
 - 2) ある程度やっている : [1 点]
 - 3) あまりやっていない : [0 点]
- (3) 就職・進学のための情報収集・資料作成・立案等に
- 1) 企画立案に至るまで積極的に携わる : [2 点]
 - 2) 時々参加する : [1 点]
 - 3) ほとんど参加していない : [0 点]
- (4) 学生指導に関する学外行事 (各種研修会, 講演会及び討論会等) へは
- 1) 積極的に参加する : [2 点]
 - 2) 時々参加する : [1 点]
 - 3) ほとんど参加しない : [0 点]

D. 経歴関係**[4 0]****1. 教職に関する経験年数 (大学, 短期大学, 高専, 高校等の合計)****[5]**

- 1) 5年以上 : [5 点]
- 2) 3年以上 : [3 点]
- 3) 1年以上 : [1 点]
- 4) 1年未満 : [0 点]

2. 大学, 短期大学, 他高専, 高校, 民間会社での勤務経歴 (常勤として)**[5]**

- 1) 有 : [5 点]
- 2) 無 : [0 点]

3. 役職経験**[2 0]**

- 1) 主事, 専攻科長 : [各々 6 点 / 年]
- 2) 図書館長, センター長, 委員会委員長, 室長, 学科主任等 : [各々 3 点 / 年]
- 3) 次長, 副長, 副委員長, 主事補等 : [各々 2 点 / 年]
- 4) センター委員, 委員会委員, 室員等 : [各々 1 点 / 年]
- 5) 旧国専協統一入試問題作成委員 : [3 点 / 年]

上記のそれぞれに対し, 次の係数を乗じて最近 5 年間の累計をとる。20 点以上は 20 点とする。

- イ. 各職務内容につき十分に責任を果たしている : [0.5]
- ロ. 各職務内容につき 8 割は責任を果たしている : [0.4]
- ハ. 各職務内容につき 6 割は責任を果たしている : [0.3]

資料 9-1-④-2 (続き)

4. 海外協力貢献

[10]

- 1) 海外派遣長期専門家経験 (6か月以上) : [5点/回]
 - 2) 海外派遣短期専門家経験 (6か月未満) : [3点/回]
 - 3) 海外からの研修生受入等 (1か月以上) : [4点/人]
 - 4) 海外からの研修生受入等 (1か月未満) : [2点/人]
 - 5) 国費留学生試験問題作成委員, 同予備選考委員経験 : [各々2点/年]
- 上記により最近10年間の累計をとる。10点以上は10点とする。

出典 : 国立高等専門学校機構

資料 9-1-④-3

第2部 教員による相互評価

1. 評価方法

教育活動, 学生生活指導, 地域社会への貢献等に積極的に取り組んでいる, 本人以外の複数の教員の氏名を記入する。

2. 実施方法

- (1) 全教員を対象とし, 3名連記のうえ投票する。
- (2) 投票については, 原則として無記名とし, 評価集計表の該当部分を切り取り投票する。ただし, 記名があっても差し支えない場合は評価集計表をそのまま提出する。

3. 集計方法

校長, 教務主事が得票順に順位をつける。

出典 : 国立高等専門学校機構

第3部 学生による教員の評価

1. 評価方法

学生が以下の項目を参考に複数の教員の氏名を記入する。

- ・教育に熱心な先生
- ・分かりやすく教えてくれる先生
- ・勉強の意義を良く教えてくれる先生
- ・人生に夢を抱かせてくれる先生
- ・部・サークルの指導, 生活指導に熱心な先生

2. 実施方法

(1) 教務主事・学科主任などが趣旨や方法を説明し実施する。

学生には全教員名簿(常勤のみ)を配付する。

下記項目を黒板等を書く。

- ・教育に熱心な先生
- ・分かりやすく教えてくれる先生
- ・勉強の意義を良く教えてくれる先生
- ・人生に夢を抱かせてくれる先生
- ・部・サークルの指導, 生活指導に熱心な先生

(2) 第3学年～第5学年の全学科において学生全員が次の投票を行う。

自分の属する専門学科の先生 3名

一般教育科(総合科学科など)または他学科の先生 5名

(3) 教授～助手全員を対象とする。8名連記, 同じ名前は書かない。無記名とする。

3. 集計方法

校長, 教務主事が行う。

(1) 教員の属する学科ごとに集計する。

(2) 得票順に順位をつける。

出典：国立高等専門学校機構

観点 9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善をおこなっているか。また、個々の教員の改善状況を学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

個々の教員は、授業評価の各項目における評価結果を踏まえ、具体的な改善方法等を校長に報告し、翌年度の授業で改善するなど継続的な改善を行なっている。また、個々の教員から提出された改善方法は、資料 9-1-⑤-1 (講義に関するもの)、資料 9-1-⑤-2 (実験・実習に関するもの) に示すようにひとつにまとめられ、全教員に配布、公開されている。

なお、顕著な結果が出た教員には、校長より直接指導・改善を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

学生からの授業評価アンケートに対する改善状況は、全教員に配布、公開されている (資料 9-1-⑤-1, 資料 9-1-⑤-2)。

以上のことから、個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行なっており、また、個々の教員の改善状況を学校として把握している。

平成 17 年度授業評価に対する改善及び実践方法

(講義に関するもの)

1. 話し方や声の大きさについて (改善及び実践方法が 9 件提出された。以下同じ)

- 声は大きいはずであるが、どのクラスにも何人か寝る者がいるので、大事なところは逆に小さな声でしゃべる等、話し方を工夫したい。
- 「大きく」「丁寧に」「繰り返し」学生の目を見て確認して、授業を進めている。学生が不明な点等は、授業中に即座に対応し、納得するまで説明を行うことを実践している。
- 少人数クラスで、黒板を使い、狭い教室や演習室のほうが高い評価を得た。一方、パワーポイントを使い、広い視聴覚教室や情報教育センターのほうが低い評価結果であった。パワーポイントを使用したほうが視覚的に伝えることができるが、手を動かさずに、資料を見ながら耳で聞くだけで、聞き取れなかったときには理解できないままになっていたのかもしれない。改善方法として、黒板も同時に使い、広い教室での声のカバーはマイクを使用して対処している。

2. 理解しやすい説明について (17 件)

- 授業には機械部品など種々の小道具を持って行って、講義をするようにしているが、さらに徹底したい。
- 昨年度から他高専で取り入れられている「学習シート」を作成し、授業に取り入れている。学習シートは、授業終了 10 分前に行うミニテストのようになっており、その日に授業で説明した内容についての問題が数問記入されている。よく理解できた学生は問題が解け、理解できなかった学生は問題が解けないので、そのプリントを毎回回収することで理解度をチェックすることができる。また、学習シートの最後に授業の評価をしてもらうようにした。これにより、理解できない学生が多い場合には、授業の復習を行うようにしている。
- 自学自習時間を有効活用して、講義での理解度向上につなげる。

3. 学生の理解に沿った進捗について (20 件)

- 授業の節目に質問及び疑問を必ず受け付けるようにした。(その結果進行は少し遅れがちになった。) そのため現在は、自分の授業の蛇足部分はどこか考えている。
- レポート形式で細かく項目に分け、その項目ごとにチェックしていった。つまり、チェックを抜けて学生は及第点となる。それが学生にとってわかり易い評価であったためか、学生の評価はどれもまあまあであった。
- 事前に一人ひとりに課題を与えて、発表させている。さらに、その時間に行った内容の試験を、次の時間に「小テスト」として行っている。
他の科目は、定期試験及びレポートで評価しているので、授業中に質問をすることや、「小テスト」や「レポート」を提出させて、学生の理解度を把握したい。
- 小テストなどにより理解度を確認しながら進捗を調整するようにした。(結果としてシラバスより大幅に遅れつつある。)

資料 9-1-⑤-1 (続き)

4. プリントや補助教材について (19件)

- 課題を与えるだけのプリントであったが、授業のはじめに正解と答え合わせをする。またプリントをノート代わりとして使えるようにする。
- (大学単位の授業において、) 自学自習の具体的な目標を持たせるために、毎回 B4 サイズのプリントを配布し、この中に具体的な課題を載せて、勉強しやすいようにした。このプリントを採点し、成績にも反映(学生には事前に通知済み)することで、自習時間を充実したものにした。
- 問題集の問題の解答例を一部の優秀な学生に作成させるようにした。その結果、メンバーに選ばれることを目指してよい意味で競争心が出てきている。

5. 授業の準備や工夫 (17件)

- 板書だけでなく、図や表が多いのでパソコンのソフト(パワーポイント)を利用して、わかりやすく説明したい。ただし問題点は、パソコンを使用してプロジェクトを使える教室が少ないのが現状である。2005年度前期後半は、LL 教室でパソコンを使って授業を行った。今年度もパソコンを利用した講義の準備をしている。
- 授業の準備については前回の授業の内容と流れを導入として説明し、今回の授業に入っていく形で進める。章、節のつながりを理解させるとともに要所要所で授業を止めて質問の時間を設け、質問しやすい雰囲気を作る。
- 講義ではまず基礎用語の説明を行ってから、現実の社会状況や課題について話を進めるようにしている。その際、できる限り学生の興味を引く事例を挙げるように努めている。また、各クラスの特徴を考慮して、同じ事例でも異なった説明の仕方、たとえば、学生への問いかけをしたり、賛成・反対の意思表示を学生にさせるなどして、学生たちの理解度を測るようにしている。

6. 黒板やOHP等の使い方について (11件)

- 黒板の字をもう少しきれいに書きたい。板書については誤字が多かったと反省している。また、授業進度を気にするあまり、丁寧に書いていないことが学生の評点を辛くしているのであろう。気をつけたい。
- 黒板へ書くスピードが少し速いため、学生は写すことに一生懸命で理解までいっていない学生もいる。→出来るものについてはプリントを配布して説明をプリントに書き込むようにさせる。
- 基本的にできるだけ盛りたくさんの内容をこなしたいので板書が乱雑になる傾向にある。ただし、黒板の使い方については講義ノートをきちんと(パワーポイントで)ビジュアル的作成しているので適切であると考えている。

今後はもう少し教える内容を絞り込んでゆっくり板書できるように検討する。

7. 授業内容とシラバスの整合性 (8件)

- 今年度からは、シラバスはあくまでも目標であると考え、理解度を確認することに力を注いでいる。シラバスを変更すべきかもしれないが、養成施設の授業内容を書類的に満足させたものではない。シラバス通りの授業をしていたのでは理解度を満足できないジレンマが以前からあったが、ここまでやらなければならないという気持ちが強すぎたと感じた。
- 実際にシラバスを読んだ学生の数がどれだけいるのかわからないので、学生は授業内容とシラバスとの整合性について認識できていないのかも知れない。
- どうしても授業の進度が早くなったり遅くなったりすることがあってシラバスと一致しない。学生にもシラバスの内容をコピーさせてノートに張るなどして、シラバスを周知させ、毎回の授業ごとにその日の授業はシラバス通りであったかを確認しながら授業を進めたい。

資料 9 - 1 - ⑤ - 1 (続き)

8. 疑問点に対する質問のしやすさ (10件)

- 誰でも気軽に質問できる機会を作るために、授業終了15分前に必ず小テストを実施している。その間クラスの中を歩き、学生の理解度を自分の目で確かめている。その時に質問があれば個人的に受け、1対1で対応し解るまで優しく丁寧に接するように心掛けている。また、大半の学生が同じ間違いをしている場合には、全体的にもう一度その部分について説明し、納得するまで繰り返し説明を行っている。
- 章、節のつながりを理解させるとともに要所所で授業を止めて質問の時間を設け、質問しやすい雰囲気を作る。
- 授業後教室に可能な限り残り、個別に質問を受けるように心がけている。しかし、これも勉強のできる学生、授業中にしっかり聞いている学生、つまり問題意識を持ったものが多く来るのみで、たとえば寝たりしたような学生はすぐ教室から居なくなるようである。

9. 定期試験の難易度について (17件)

- 学科による理解力の差が大きく、学力の低い学生にある程度の得点が取れるようにクラス別の試験を考える。
- 定期試験はシラバスを中心に国家試験の内容を加えてさらにグレードアップしたい。
- 易しい問題を1/3、普通の問題を1/3、理解力を要する問題を1/3になるように心がけている。それでも得点できない学生には、興味ある事項についての報告書を提出させている。例えば、ファラディの電磁誘導がわからなくとも、ファラディの自伝や前後の歴史。
- 定期試験の内容が、少し難しかったようである。しかしながら、授業中の演習問題を基本とした内容の試験である。したがって、授業を受ける学生諸君がもう少し努力をして欲しいと感じる面もあった。今後は演習時間を少し長くするつもりである。

10. 授業への意欲と熱意について (3件)

- 特定のクラスにおいて学生との対立関係(校務や役職との関連で)がある場合に、クラス全体の授業態度や意欲の面で顕著に現れる。
- 更なる意欲をアップすべき、興味ある授業としたい。
- 意欲的に見られていない、熱意を感じてくれないということをしつかり受け止め、コミュニケーションをしつかり取れる授業にしたい。言葉がけを学生にしつかりしてやりたい。

11. 教科についての興味と将来の役立ちについて (11件)

- 授業の“マンネリ化”を防止するためと、“何のためにこの授業をしているのか”ということを知ってもらうために、授業の間に簡単な実験を披露して学生の反応を見たり、さらには、将来の就職・進学を意識させるために、機械系企業が出題した過去の就職試験の問題を見せたり、省エネルギー、環境問題に強く密接した授業であるということを強調した資料を配布したりしている。
- 「興味を持てること」「将来、役に立つ内容であること」は授業への満足度を高める根本的な要素であると考えるので、評価の改善を図るよう努力したい。
- 今年度は、年間を通じて行っている漢字書き取りの小テストをシステム化し、各段階をクリアしていけば、年度末ごろに実施している漢字能力検定準2級・2級の内容がひととおりマスターできるように工夫した。これによって、漢字習得、漢字検定受験への意欲が高まるのではないかと期待している。

資料 9 - 1 - ⑤ - 1 (続き)

12. 総合的な満足度 (5件)

- 同様の授業をおこなっているにもかかわらず、M科の評価が低かったことについてその原因を考える必要がある。他の学科に比べて女子学生が少ないことなども考えられるが、歴史の必要性を見出せない、興味を持ってない可能性がある。今後技術史なども取り入れながら、授業を進めてみたい。
- 自分自身のポイントが総じて教員全体の平均よりも低くなっており、1年目で勝手がわからなかったとはいえ自分の未熟さに恐縮する次第である。今年度は少しは学生のニーズに合わせた授業を行っている積りであるが、この結果を踏まえてさらに改善できるところは改善していきたい。
- 総合的に考えて、「声の大きさ」や「説明のやり方」などは比較的高評価を得ているので、これからも今の状態を保っていききたい。ただ「補助教材の使用」や「授業の進度の安定」等が苦手なようなので、今後改善が出来るように心がけたい。

13. 授業の予習・復習について (8件)

- 担当授業においては市販の教科書を使用せず、独自の資料を作成して学生に配布している。また、その資料は毎年、マイナーチェンジしている。したがって、授業のたびにその資料を配布していることから、学生は予習しにくい状況にあるといえる。逆に、学生に授業の感想を毎回書いてもらっている(電子メール)ので、ある一定の水準において復習は行われていると考える。今後は、復習は日常的に感想文として形に残るようにしていることを授業評価時に学生に伝える必要がある。また今後は、学生が予習できるよう事前に資料を準備するよう心掛けたい。
- e-learning を利用して自学自習ができるコンテンツを作成中。
- 宿題を出し、小テストを頻繁に行う科目は高い評価であった。したがって、定期的に小テストを行い、宿題を出すように改善した。

14. 授業取り組みの熱意について (5件)

- 授業の始めと終わりの礼は大切であると思う。こここのところをいい加減にはいけないと思う。「礼で始まり、礼で終わる。」まずはこれをきっちりさせすることに努めてきた。起立と号令がかかっても立っていない者がいたりしたままで済ませてはいけない。ここからが、まず勉強する姿勢を体で表すことです。
- 学習意欲が高い学生であれば、ノートのとりの指導はほとんどいらぬと思う。残念ながらこの学校の学生は先ずノートのとりの指導が必要である。1年生では先ず始めにノートのとりの指導を始めた。そしてノートがきちんと取れているかどうかを確認するために、定期的にノートの点検をした。

15. 授業の理解度 (2件)

- 理解の程度に関わらずシラバスをこなすように授業を進めてきたが、本年からは進度よりもむしろ「わかる」ことを心がけるようにしている。基礎事項を確認しながら「わかる」と「練習を十分に」の方針に切り替えた。

16. その他アンケートに対する意見など (7件)

- 講義に関しては、その講義の内容や完成度よりも学生の好き嫌いで項目を読むまでもなく付けているように感じる。これでは教官にとっても、学生にとっても教訓にできる部分は少ないと感じる。やはり一言でもいいので、改善点や評価点に関して自由に記入してもらえたらと思う。(集計は大変だが・・・)
- 本校を良くするためには、校長の教育方針が教員をはじめ事務職員にいたるまで、徹底させるべきだと思う。校長が会議などで、教育方針を述べ、それを隅々まで徹底していくべきだと思う。
また、優れた企業では「改善」を徹底している。このことも取り入れて、校長が自ら信じる教育方針にのっとり指導力をさらに発揮されんことを、希望してやみません。

(出典 平成17年度授業評価に対する改善及び実践方法)

平成17年度授業評価に対する改善および実践方法（実験・実習に関するもの）

1. 話し方や声の大きさについて（全6件、提出された全ての件数）

- ・「聞こえますか」とこれまで以上に確認しながら説明する。先ず、平均程度の話し方や声の大きさを目指す。学生に聞きながら何が悪いのかを把握し、できればその場で修正する。
- ・学年によって評価に極端な差がある。これは説明に対する評価より学生の興味自体で評価値もかなり左右されることを意味している。説明も興味を持たせるように心がけて進めたい。
- ・話す速さが早いのであろう。ゆっくり話す努力を続ける。

2. 理解しやすい説明について（全16件）

- ・実験実習についての説明は、自分で作成した補助テキストを利用して行っている。補助テキストは、未完成であるため、学生にとって良く理解できなかつたと考えられる。
テキストに図を多く用いていなかったことが理解に苦しんだ点であると考えられるため、図を取り入れた内容に現在は作成し直している。
- ・私の授業方針として、実験内容が“実社会で役に立つものであること”を念頭においている。内容は、若干授業に先行した形で、理論よりも実験を主体に取り込むことにしている。この点で、理論に関する理解が少し十分でないかもしれない。今後、これらの事項を改善する。
- ・教員生活1年目での評価であり、会社員生活中での部下、上司への“説明能力=プレゼン能力”と同じはず、これまでの経験では、説明途中で相手に理解されていないと感じると、すぐに別の切り口で説明し直す傾向がある。それが適切なタイミングと切り口であれば申し分ない。自分で腑に落ちた言葉で説明していると思っているが、切り替えのタイミングが早過ぎたり、説明がくどくなることが若干あると自戒している。その点は、大いに改善の余地がありと思われるので、適宜、注意している。

3. 学生の理解に沿った進度について（全13件）

- ・実験中こまめに回り、進度を意識して進める改善を考える。
- ・準備した資料に記している通りの操作をすることが難しいとの苦情を生徒から聞くことがあった。今回は、5にも関連するが、操作を覚えさせるという目的から逸脱せず、かつ作業量を減らした資料を作成して用いた。今後もさらに資料の作成に工夫をする。
であるが、取り組みの遅れる者もいる。
- ・各実験内容の取舍選択を行い、時間が特に必要であるにも拘わらず学習効果が余り期待できない部分を削除するなどした。これにより、その他の大切な部分をじっくり取り組めるようになった。

4. 実験・実習の内容に準備や工夫があったか（全10件）

- ・実験・実習の準備は、前日に最低限の準備をしている。実験が簡単に成功してしまうと、学生は結果以外何も考えようとしないので、できるだけハプニングが起きるように設定している。何が問題でこのようなハプニングが発生したのかということを学生自身で答えを出す時間を作っている。また、毎年同じ実験をするのではなく、少しずつ変化をもたせるようにして、私自身のマンネリ化を防止している。
- ・①平成18年度の4月から大島丸実習ノートを改訂した。カリキュラムの変更に伴い航機両用教育から、航機別の内容に変更した。②今までのプリント、資料を盛り込み分かりやすくした。③実習内容の予習、復習ができるよう実習毎に纏め整理した。④シラバスには全般的なことを書いており、大島丸実習ノートとは一致しない。その点学生の評価が低かつたのも理解できる。実習ノートと実験実習の内容は一致するが、シラバスには個々の実習内容は書かれていない。以上から平成18年度以降は改善が見られると思われる。

資料 9-1-⑤-2 (続き)

- ・評価が低いのは、コピー&ペーストを多用して図面を完成させる内容であったためであると思われる。実験実習に使っていたソフトがトライアル版で、図面や部品の保存ができなかったためやむを得なかった。今年度から情報教育センター第1演習室には、Winstar CAD ver. 8が入っているので、部品の作製・登録などの基礎的なところからやれば改善されると思われる。
- ・友達のレポートを写さないように工夫したい。そのための方策として、実験の直後すぐその場で極力レポートを書かせるようにしたい。せめて、イントロだけでもやっておけば自宅や寮で取っ掛かりやすいのではないかと思う。そのために、実験内容もあれこれ欲張らず、簡潔なものにするべく検討したい。

5. 指導書は実験内容の理解に役立ったか (全7件)

- ・指導書を作成していないことから、この項目の数値が低くなっていると考えられる。今後は、指導書を作成し、学生が実験・実習を行いやすいようにする必要がある。
- ・実験では指導書の良し悪しが実験の成功の鍵であると考えている。指導書の作成では、実験の目的を明確に示し、原理及び実験方法を分かりやすくなるように心掛けた。またレポート作成の参考になる部分においても最低限の項目を示して、これらを参考にして実験結果及び考察をまとめることで、自然とレポートとして仕上がる構成としている。また指導書に関する学生からの質問及びレポートの内容を参考に、年度ごとに常に実験内容の見直しを行っている。この点についても学生の評価は高く、今後ともこの姿勢で実験を指導して行きたい。
- ・カリキュラムの内容(カッター、通信、ロープワーク)に対して割り当て時間数が多すぎると感じている。現在は、乗船実習に役に立つような新しい内容を取り入れられないか検討している。そうすると指導書についても検討しなければならないと考える。(現在 S1 実習指導書はない(必要ない)。)

6. 実験・実習の内容はシラバスと一致していたか (全8件)

- ・従来の電気・電子基礎実験は、実験装置が大掛かりであった。したがって1つの装置に対して複数人が協力して実験を行っており、優秀な学生が作業を進めて、そうでない学生は何もしないで見てのみに過ぎなかった。これは優秀な学生の進行について行くことができない学生が、自分のペースで実験ができず、諦めてしまったからである。この問題を解決するために、「学研マイキット 150」と「EX-150」という個人用学習キットを導入することで、自分のペースで段階に応じて学習を進めることができるようにした。そのため、シラバスに記載された実験内容と変更点があった。この問題点は、今年度からは解決されている。
- ・実験は、ほぼシラバスとおりに行われているはずであることからするとこの評価カウントについて不満というか学生の意識に疑問を持つ。
- ・現在行っている内容(S2 チャート S3 通信)が、現代商船のニーズと合っていない内容であると考えているので、本年度は引き継いだ内容から変更している。また、実習指導書の文面もおそらく十数年変更されていないと思うので、来年度以降に改善を希望する。

7. 疑問点に対する質問のしやすさ (全5件)

- ・実験を実施する前に、必ず、指導書を学生と一しょに一文一句読み返し、なぜこのような実験をしなければならないのかを1人ずつ質問して、実験の意義を理解させている。座学の授業と実験は共に対応しているため、授業内容を思い出させるように、必ず1人ずつ実験の原理について発表させるように心掛けている。
- ・実験では、電気電子工学の実験が主であるため、感電などの事故が無いように常に学生の行動をチェックしている。学生の行動(実験進行について不明な学生が有るか無いか)を把握することで学生に対して適切なアドバイスや質問への受け答えができると考えている。また実験では単調になることが事故やミスにつながることを考えているので、休憩等を入れて気分転換をさせている。学生のこれらの項目に対する評価も高く、今後とも適切なアドバイスができるようにして行きたい。

資料 9-1-⑤-2 (続き)

- ・ 操船シミュレータを使用した実験なので、1人では対応できないので、3人以上で担当している。2隻の船とインストラクターに教員が1人ずつ担当して行っている。疑問点があれば、その都度、質問できるようにしているが、船を操船しながら、航海士、RADAR、電子海図、船位測定等を行っているので、1人が質問すると、他の学生が質問できないこともその要因と考えられるので、事前に質問ができるように、演習内容を吟味して、質問ができるように改善したい。

8. 実験内容のレベルは適当であったか (全8件)

- ・ 実験中の状況や評価から判断すると、4年生は内容が高度すぎると感じたようである。したがって他の評価項目(例えば、3,4,9)にも、その影響が現れているようである。今後は実験内容の説明を工夫し、技術者として必要な知識であることを認識させたい。
- ・ 前年度の4年生のデジタル信号処理実験は MATLAB や DSP エミュレータなどプロツールを体験させる内容であったが、これらの利便性を理解するには学生の基礎知識が不十分であると思われた。そこで今年度は内容を基礎的な実験に改め、全ての学生が内容を十分理解して実験を進められるようにしている。
- ・ 易しくても高い評価になる危険性があるので、学生の理解度を見ながら、実験内容の改良を行う必要がある。次年度の実験内容の改編にあたっては、最も留意すべき点と考える。

9. 実験・実習に対する先生の意欲と熱意 (全4件)

- ・ 実験・実習が始まる5分前には作業服・安全靴に履き替え実験室に行くようにして、学生を待ち受けるように心掛けている。マニュアル(指導書)をただ読むのではなく、関連する資料を配布して、タイムリーな話題を提供して少しでもこの実験・実習に学生がのめり込んでほしいと願って自分なりに頑張っている。
- ・ あまり理解しないまま実験を行っている結果だと思われる。私自身、学年によって熱意を入れたり入れなかったりしているわけではない。改善策としては、実験中、学生との対話を増やすよう試してみる。
- ・ 個人的には熱意を持って取り組んでいたため本意ではあるが、そう学生に捉えられているのであれば改善する必要がある。学生の理解を上げるために丁寧な説明及び指導に心がける。これによって学生の持つ印象変わると考えられる。

10. 実験内容に興味を持って、将来役に立つか (全6件)

- ・ 昨年度の多くの学生の実験レポートではワープロや図表の作成といった基礎的なコンピュータ・リテラシが乏しいレポートがほとんどであった。これらのスキルは実社会において、専門技術以上に必要不可欠である。そこで今年度は実験の時間にレポート作成に必要な技術を説明している。また、実験結果の考察を書けない学生が多いため、考察すべきポイントをかなり具体的に説明して指示をするようにしている。
- ・ 実験を開始する冒頭で、情報技術者にとってどの様な部分に役立つのかという観点から、実験の目的を述べるようにした。
- ・ 評価は教員全体の平均をごくわずかではあるが上回っていたので、今後コンピュータを使う学生がコンピュータのハードを多少なりとも実験できることは、それなりに有意義ではあると思う。(処置1) この実験に対するテキスト(簡単な問題や操作法も書いてある。)は丁寧に作ってあるはずなので、実験に来る前に予習をある程度はして欲しいという願望を抱いている。(処置2) プログラミング言語は、簡単なアセンブラを用いているが、コンピュータでは様々な言語が使われることも理解して欲しい。

11. 講義の理解に役立つか (全5件)

- ・ 配線、組み立て、検査は技術の基本であり、役に立つという評価が多いので、この実験を継続する。
- ・ 講義で話した項目を実験のテーマにし、かつ試験問題にも使用している。評価については少し不満である。
- ・ 1年次のテキストを基にしているため、時間的空白もはなはだしく、かなり難しいと感じた。(処置1) 今後も理

資料 9-1-⑤-2 (続き)

解を高めるための工夫・改善を心がけていきたい。

12. 総合的な満足度 (全2件)

- ・実験テーマの見直しを行った。
- ・学生が本項目に対して、どのような観点に重きを置いて評価したかは不明であるが、1から11項目の平均的評価と捉えている。

13. 取り組みの熱意について (全1件)

- ・学生も興味を持っているようなので、継続して行こうと考えている。

14. アンケートに対する全体的な意見等 (全6件)

- ・アンケートをまじめに書いている学生も多いが、そうでない学生もおり更には何も書かずに提出する学生も少なくないという問題があります。アンケートが無記名であることがこのような無責任な行動の一因であると考えられます。無責任な学生による信憑性に欠けるアンケートを続けることは無意味ではないでしょうか。そこで、アンケートを記名式にして学生自らの発言に対して責任を持たせるべきだと思います。担当教員が回収するのではなく、学級委員が担任又は副担任の先生に渡して、まじめに記入しているかどうかを確認すれば、公正かつ有効なアンケートになるのではないのでしょうか。
- ・本来、商船学科の航海コースの実験実習は、小艇の操縦、操船シミュレータ等“実験”ではなく“実習”が多い。つまり、出席して、体験していくらである。これを評価するのはかえってむずかしい。そこで、同じテーマではあるが、個々の学生ごとに違う計算問を作成し、隣り近所の学生が見ても答えを写さない、写しても意味がないようにした。そうすることで、解った学生は解らない学生に方法を教えるようになり、相互に協力して問題を踏破するようになった。
- ・実験の目的は実際に体験して体で学習することに意義がある。したがってマニュアル通りに進むよりはトラブルがあったほうが勉強になる。なぜかと考えるに、考える機会に恵まれることにあると思う。それは建前としても、私自身に照らして考えるとやはり驚きがないと実験の意味は半減すると思う。「すごい」こんなことが起きるのか。これが実験実習のポイントであると考えている。

(出典 平成17年度授業評価に対する改善及び実践方法)

観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

各教員はそれぞれの研究の専門分野に関連した授業を担当するとともに、準学士課程の卒業研究あるいは専攻科課程の特別研究において、自己の研究上の専門分野に即したテーマで学生の研究指導を担当し、この研究成果をもとに学生が学会等で成果発表をしている。この学会発表において、学生が幾つかの優秀講演賞を受賞している(資料9-1-⑥-1)。

また、本校は研究活動を通して教育の質向上に大きな努力を注いでいる。この成果として文部科学省が行っている現代的教育ニーズ取組支援プログラム(以下、現代GPと呼ぶ)において、平成18年度に2件が採択された。一つは「ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発」分野において「実学重視の e-ラーニングサイト構築と展開-即戦力となる実践技術者養成を目指して」(資料9-1-⑥-2)というテーマで、本校単独の取り組み課題である。もう一つは、「実践的総合キャリア教育の推進」分野において「海事技術者のキャリア育成プログラム-強い職業意識と高い職業能力を備えた海事技術者の育成-」というテーマで、富山商船高専をはじめとする全国五商船高専共同の課題である。本校単独の取り組みである「ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発」は、「大型船に対する操船シミュレータ」等の研究で得られた成果をもとに、九つの特色ある e-Learning コース用のコンテンツを作成し、モバイルエージェントに関する研究成果を用いてこれらを有機的に結合し、より利用し易くするテーマである。これらのコンテンツは、選定理由の中で「本取組は、商船高等専門学校の特色を考慮して学生教育に独創的に取り組む内容を、全校的に組織を挙げて取り組んでいる優れた取組です。」とあるように、従来からの取り組みに対して高い評価を得ている(資料9-1-⑥-3)。

(分析結果とその根拠理由)

教員の研究活動が直接卒業研究及び特別研究に反映される学生の学会発表等において、学生が幾つかの優秀講演賞を受賞している。また、研究活動を通して教育の質向上に大きな努力を注いでいる。この成果として文部科学省が行っている現代GPにおいて、平成18年度に2件が採択された。

以上のことから、研究活動が教育の質の改善に寄与している。

資料 9-1-⑥-1

専攻科生中村さん 日本機械学会フェロー賞受賞

平成19年3月7日に開催された日本機械学会中国四国支部第45期総会・講演会において、大島商船高等専門学校専攻科海洋交通システム学専攻2年中村沙織さんが、「付着性粉体を対象とした半軸対称ホッパーの内部圧力と流動構造」と題し講演を行い、日本機械学会フェロー賞（若手優秀講演）を受賞しました。

この賞は、内容が有益で新規性があり、また、発表の態度に優れ、若手研究者として将来の発展が期待される講演に対して送られるもので、中村さんの講演内容や発表態度が認められての受賞となりました。

指導教員の商船学科川原准教授とともに和氣校長を訪れ、受賞の経緯や研究発表の内容、今後の進路等について報告を行いました。



出典 本校ホームページ

資料 9 - 1 - ⑥ - 1 (続き)



出典 本校ホームページ

実学重視の e-Learning サイト構築と展開

－即戦力となる実践技術者養成を目指して－

Development of e-Learning Contents for Practical Learning

- Training for Equipping Engineers with Practical Skills -

○清水 聖治^{*1}
Seiji SHIMIZU

キーワード：実学コンテンツ、資格試験、英語運用能力、Blended Learning、モバイルエージェント

Keywords: Practical Learning, Qualifying Examination, Working Knowledge of English, Blended Learning, Mobile Agent

1. はじめに

文部科学省は平成 16 年度から「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代 GP）を実施しているが、平成 16 年度 86 件、平成 17 年度 84 件、平成 18 年度 112 件の取組が選定され支援を受けている。大島商船高等専門学校（本校）は平成 16 年度から毎年申請していたが、平成 18 年度に本取組が選定された。実施期間は平成 20 年度までの 3 年間である。現代 GP では文部科学省が社会的要請の強い政策課題に関するテーマを六つ設定しているが、本取組はテーマ 6：ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発に属する。

2. 取組概要

本取組では、e-Learning に対して全校的に取り組む。本校教育体制を支える「商船教育」「工学教育」「共通教育」がそれぞれの特徴を活かし、特色ある九つの e-Learning コース用のコンテンツを作成する。それらをサーバに蓄積、オンデマンド配信するが、正規授業では、従来の教育方法と組み合わせ Blended Learning 的に利用する。そこで、一般教室等でも、これらのコンテンツを利用することが必要であるので、必要最小限の情報基盤整備にも取り組む。また、教育効果の調査により教育方法へのフィードバックを行う。本取組の特徴は、産業界からの渴望されているより即戦力に近い人材の養成にある。そのために、「大型船に対する操船シミュレータ」などの実学コンテンツの提供、海技士試験対策などの各種資格試験の合格率の向上、英語運用能力の向上を目指す。さらに九つのコンテンツはモバイルエージェント技術により有機的に結合して、より利用し易くする。

^{*1} 大島商船高等専門学校現代 GP 取組担当者

3. 目的

コンテンツの分類とその目的を次に示す。

- 実学コンテンツ
 - 現場でのより高い知識活用能力と問題解決能力の養成
- 資格試験対策コンテンツ
 - より上位、多種の資格取得者の増加
- 英語運用能力対策コンテンツ
 - 外国人と共に働くための英語運用能力の向上

4. 各コンテンツ名称

九つの e-Learning コース用コンテンツの名称と分類を次に示す。

- 実学コンテンツ
 - 操船シミュレータを用いた大型船操船訓練システムの開発
 - 機関故障診断学習システムの開発
 - 練習船大島丸の LAN によるデータ処理システムの利用ガイドの開発
 - C プログラミング教育
 - エージェント技術教育と情報検索システム開発
- 資格試験対策コンテンツ
 - 海技試験対策コンテンツ
 - CAD 学習システムの開発
 - 電気関係試験対策
- 英語運用能力対策コンテンツ
 - 英語教育

5. 取組の実施体制

図 1 に本取組の実施体制を示す。九つの e-Learning コース用コンテンツの制作担当者が構成する実行委員会が中心となってコンテンツの制作を行う。校長室、情報教育センター、地域協力センターがその支援を行い、e-Learning に対しては全校的に取り組む。

出典 教育工学学会論文（投稿予定・抜粋）

資料 9-1-⑥-3

大学等名	大島商船高等専門学校
整理番号	6067
テーマ番号	6
テーマ名	ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発
取組名称	実学重視の e-ラーニングサイト構築と展開—即戦力となる実践技術者養成を目指して
取組担当者名	清水 聖治
(取組の概要)	<p>本取組では、e-Learning に対して全校的に取り組む。本校教育体制を支える「商船教育」「工学教育」「共通教育」がそれぞれの特徴を活かし、特色ある 9 の e-Learning コース用のコンテンツを作成する。それらをサーバに蓄積、オンデマンド配信するが、正規授業では、従来の教育方法と組み合わせて Blended Learning 的に利用する。そこで、一般教室等でも、これらのコンテンツを利用することが必要であるので、必要最小限の情報基盤整備にも取り組む。また、教育効果の調査により教育方法へのフィードバックを行う。本取組の特徴は、産業界からの渴望されているより即戦力に近い人材の養成にある。そのため、①「大型船に対する操船シミュレータ」等の実学コンテンツの提供、②海技試験対策等の各種資格試験の合格率の向上、③英語運用能力の向上を目指す。さらに 9 のコンテンツはモバイルエージェント技術により有機的に結合して、より利用し易くする。</p>
(選定理由)	<p>本取組は、商船高等専門学校の特色を考慮して学生教育に独創的に取り組む内容を、全校的に組織を挙げて取り組んでいる優れた取組です。また、既存の授業で実習に用いられているシミュレータとの効果的な Blended Learning によって、効果を挙げようとするなど、本成果が他の高専等の教育方法改善の参考になると期待されます。</p> <p>今後は、作成される教材を学生指導にどのように活用するかについての十分な検討が望まれます。また、設置の整備が主でなく、e-Learning コンテンツの開発を中心に取組まれることが望まれます。</p>

出典 文部科学省平成 18 年度現代 GP 選定結果について（報告）ホームページより転写

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

ファカルティ・ディベロップメント活動は平成 16 年度より校長室が主体となって、学生による教員授業方法に関する評価(資料 9-2-①-1)を行う体制が整備され、授業に関わる 12 の項目と、学生の勉学意欲を問う 3 項目により、改善すべき点を明確に把握できるようになっている。平成 17 年度には、評価の高かった教員 5 名及び低い評価を受けた教員 5 名について校長が個別に面接と授業視察を行い、それぞれの授業実態を具体的に把握することによって学校全体として授業の改善を図るための資料とする試みが行われた。こうした試みを経て、平成 18 年度からは、より包括的な資料を得るために全教員が授業評価に基づいて「授業評価に対する改善報告書」(資料 9-2-①-2)を提出する体制が整えられ、さらに、提出された「改善報告書」は校長室により検討、整理された上で「平成 17 年度授業評価に対する改善及び実践方法」(前提示資料 9-1-⑤-1, -2)として全教員に配布された。他の教員の授業改善についての具体的な取り組みを参照できるようになったことは、各自の授業改善策を探る上で有益ばかりでなく、授業についての情報交換を活性化し、優れた実践に学んでノウハウを共有する上でも役立っている。

更に、平成 18 年度には F D 活動の活性化を目指して、新たに教務主事を委員長とした F D 委員会(資料 9-2-①-3)を設置して、卒業生を対象としたアンケート(資料 9-2-①-4)及び卒業生の就職先企業を対象としたアンケート(資料 9-2-①-5)の結果の分析等の活動を行うことにより、本校での教育内容が就職した企業で活かされていることを検証している。

(分析結果とその根拠理由)

校長室を中心に、教員授業方法に関する評価が毎年定期的に行われ、更に、評価だけでなくこれらに対する改善報告書が作成され、授業改善についての具体的な取り組みを参照できるようになっている。また、F D 委員会を中心として、卒業生へのアンケート・企業へのアンケートの実施及び、その結果分析等の活動を行うことで、教育内容の検証を実施しており、ファカルティ・ディベロップメントについて組織として適切な方法で実施されている。

資料 9 - 2 - ① - 1

平成18年度

学生による授業評価アンケート

この授業に関して、あなたの意見・感想を聞かせてください。授業内容を良くするために参考にするもので、回答は学生諸君の成績には全く影響しません。誠実に答えていただくようご協力をお願いします。

【注意事項】

- ① 質問事項をよく読んで、あなたの意見に最も近い番号を○で囲んでください。
- ② 学科、学年、授業科目名、担当教官名を記入してください。

学科・学年		担当教官名	
授業科目名		必修・選択	

※(いずれかに○をつける)

【講義】

(質問事項)	良い (+)	普通	悪い (-)
(1) 先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	5	4	3 2 1
(2) 先生の説明はわかりやすく、理解しやすかったですか。	5	4	3 2 1
(3) 学生の理解度を確認しながら、適切な進捗ですすすめられていましたか。	5	4	3 2 1
(4) プリントや補助教材は授業の役に立ちましたか。	5	4	3 2 1
(5) 授業に準備や工夫がなされていると思いましたか。	5	4	3 2 1
(6) 黒板 (OHP を含む) の使い方や書き方はわかりやすかったですか。	5	4	3 2 1
(7) 授業の内容はシラバスと一致していましたか。	5	4	3 2 1
(8) 授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。	5	4	3 2 1
(9) 定期試験の内容は適切だと思いましたか。	5	4	3 2 1
(10) 先生は授業に対して意欲的で、熱意が感じられましたか。	5	4	3 2 1
(11) この教科に興味を持って、将来あなたにとって役に立つと思いますか。	5	4	3 2 1
(12) 総合的に考えてこの授業に満足していますか (高く評価していますか)。	5	4	3 2 1
(13) あなたはこの授業の予習・復習をしていますか。	5	4	3 2 1
(14) あなたはこの授業に熱心に取り組みましたか。	5	4	3 2 1
(15) この授業の内容をどの程度理解しましたか。	5	4	3 2 1

(出典 学生による授業評価アンケート)

資料 9-2-①-2

大島商船高等専門学校 授業評価に対する改善報告書

平成 17 年度に行われた授業評価（講義および実験実習）に対する改善および実践の方法について具体的に記入してください。

授業評価（講義および実験実習）の評価項目 1～12 の内から **3 項目以上** を選択してください。

本年度、既に改善等に取り組んでいる例等が有りましたら、記入してください。

ワープロまたは手書き、どちらでも結構です。ワープロであればプリント出力してください。

授業評価アンケートに関してご意見等が有りましたら記入をお願いします。

報告書を封筒に入れ、氏名および「授業評価に対する改善報告書在中」と明記の上、厳封して教室事務室まで提出してください。

提出期限は 9 月末まで。

講義の改善について (3 項目以上)

講義で重要と思われる、説明（声や進行）・板書や授業の工夫・補助教材（プリント）の 3 点についてアンケートの結果を踏まえて報告する。

◎説明（声や進行）について

項目 1：先生の話し方や声の大きさは聞きとりやすかったですか。

項目 2：先生の説明は分かりやすく、理解しやすかったですか。

項目 8：授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。

項目 10：先生、授業は意欲的で、熱意が感じられましたか。

講義を行う上で一番気を付けていることは、声の大きさおよび“はり”である。これらは講義の雰囲気や決定付ける要素であると考えており、実際の講義では意識的に且つメリハリもつけながら説明をするように心掛けている。学生の評価においても平均値より高い評価を得ていることから、この取り組みが支持されていることがわかる。今後ともはりのある声での説明を実践して行きたいと思う。

板書や授業の工夫について

項目 5：授業の準備や工夫がなされていると思いましたか。

項目 6：黒板（OHP を含む）の使い方や書き方は分かりやすかったですか。

授業の準備に関しては、講義に使用する講義ノートは、学生の理解度（小テストの結果等）を考慮しつつ、講義の 1～2 日前に作成することを実践している。単なるシラバス項目の進行のみの講義とならないように、1 回 1 回の講義の雰囲気および小テストからわかる学生の理解度より、次の講義での私自身の取り組み方の確認という形で講義ノートを作成している。こうすることで、自身の講義内容の理解度が再確認でき、それが自信となって講義での説明に反映できると考えている。学生の評価も平均値以上である。ただ、板書に関しては、生来の悪筆であることから、読めない字は書かないようにして行きたいと思う。

補助教材（プリント）について

項目 3：学生の理解度を確認しながら、適切な進度で進められていますか。

項目 4：プリントや補助教材は授業の役に立ちましたか。

講義の最後に小テストを毎回実施している。その結果のよし悪しは学生の授業の理解度のチェックと私の授業の評価を反映していると考えおり、つぎの講義の内容および進度を決定する重要な資料となっている。学生にとっては講義の主要な項目の再確認ができるため評価も高い。今後とも理解度のチェックおよび授業の評価としての小テストは積極的に進めて行きたい。以上

(出典 授業評価に対する改善報告書)

大島商船高等専門学校FD委員会規則

(設置)

第1条 大島商船高等専門学校に、教育内容及び教育方法を点検・評価し、改善を行うため、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業内容・方法の改善に関すること。
- (2) 教員の資質向上のための研究会及び講演会等の開催に関すること。
- (3) 教員の資質向上のための方策に関すること。
- (4) 教員の資質向上のための調査研究に関すること。
- (5) その他委員会が必要と認めた事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 専攻科長
- (3) 各学科及び一般科目から選出された教員各1名
- (4) 学生課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条第3号及び第5号に規定する委員は、校長が任命し、任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集して議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した者が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 委員長は、委員会において審議された事項を整理し、校長に報告しなければならない。

(事務)

第8条 委員会の事務に関することは、学生課において処理する。

附 則

この規程は、平成18年11月13日から施行する。

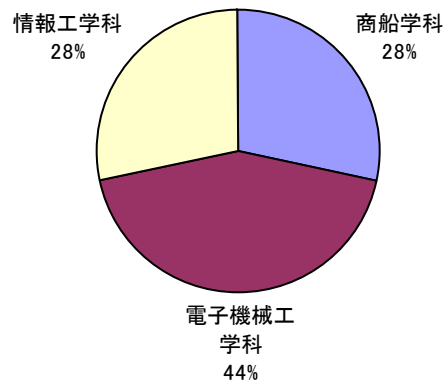
ただし、第4条第1項に定める最初の任期は平成20年3月31日とする。

(出典 大島商船高等専門学校規則集)

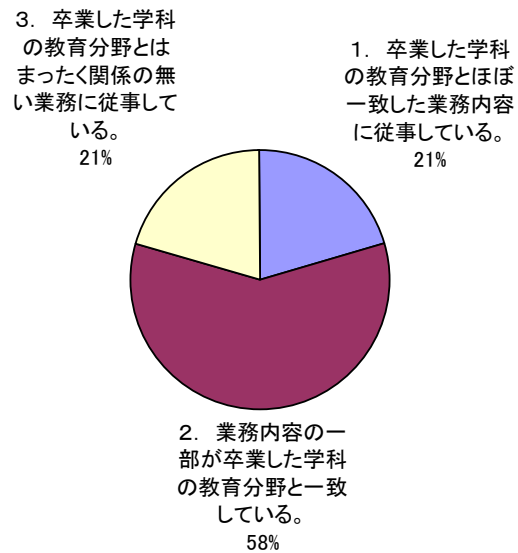
卒業生アンケートの結果

資料 9 - 2 - ① - 4

問1 卒業した学科はどこですか



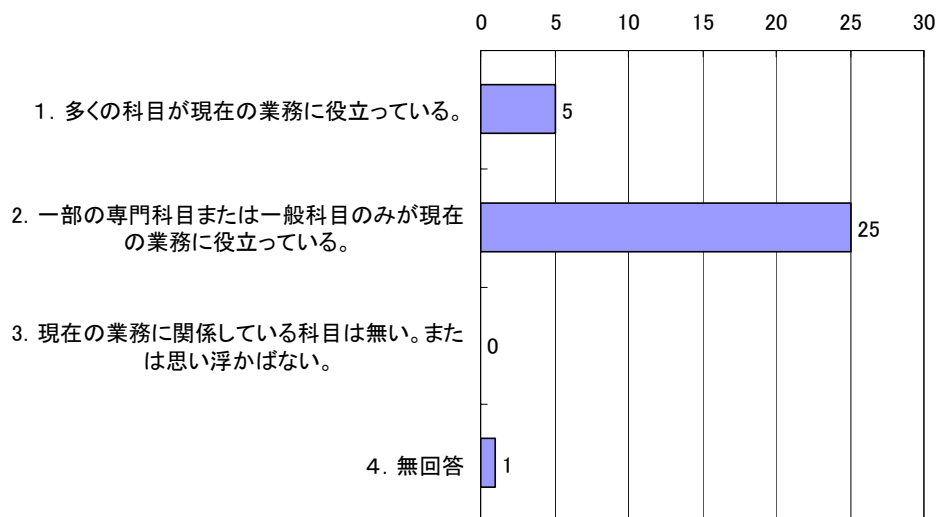
問2 現在の会社における貴方の業種および業務内容と貴方が卒業した学科の教育分野との関係についてお答えください。



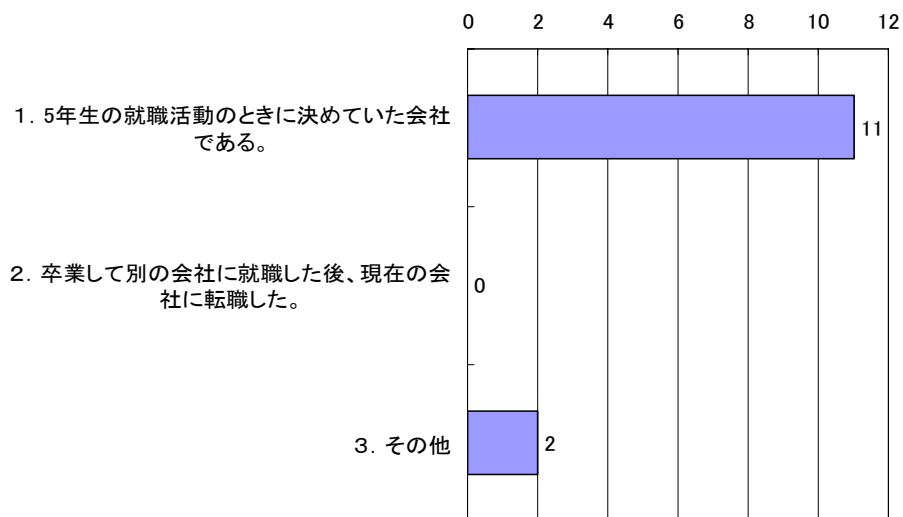
(出典 卒業生アンケート)

資料 9-2-①-4 (続き)

問3 本校(5年間)で受けたすべての講義科目において、現在の業務にどの程度、役に立っていると考えていますか？



問4 現在の職種および業務内容に従事した時期を教えてください。



(出典 卒業生アンケート)

資料 9 - 2 - ① - 4 (続き)

問5 貴方の卒業した学科また大島商船高専の教育内容についてご意見がございましたらお書きください。

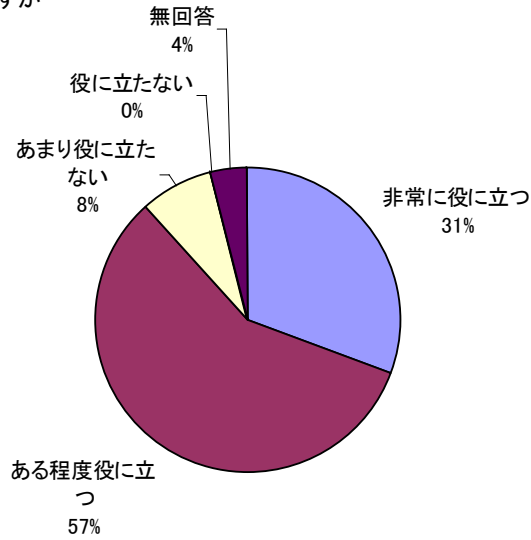
- 1 実験, レポートを増やすべき。
- 2 学生のレベルに迎合して教育の質を落とさないこと。
- 3 説明力を鍛えておく必要がある。
- 4 職場体験に取り組んでほしい。
- 5 授業をもっとやりたかった。
- 6 更に現場に近い実習が必要。
- 7 社会人として生きて行ける人間を育てるべき。
- 8 書類作成の授業が必要。
- 9 多くの科目を学べることはよいが, 授業時間が長く集中力が途切れてしまう。
- 10 理論がどのように活かされるか理解するために実習を増やしてほしい。
- 11 レポートにまとめ発表する機会を増やすべき。(修士, 大卒との1番大きな差であると感じる。)
- 12 全学科で船に乗る機会を増やすべき。三法以外のSOLAS規定やPSCの規則を学んでおくべき。
- 13 学生により理解度の差が大きいので, 補習等の機会を増やすべき。
- 14 今までどおり幅広い教育を行ってほしい。
- 15 インターンシップ等の実社会を経験する機会を長くするべき。
- 16 Excel,とCAD(製図)を5年生で教えてほしい。統計数学も更に教えてほしい。
- 17 大学進学で他校出身者より英語力で劣り, 苦労した。
- 18 新しいプログラミング (Java, VB2005)等を取り入れたほうがよい。
- 19 就職先の業務内容は畑違いのように思えたが, 入社してみると部分的には役に立つこともあり良かった。
- 20 5年間の長い学生生活の間に目標を見失っている学生が多いので, 学生にアドバイスを与える環境が必要。
- 21 部活はしておいたほうがよい。
- 22 常に最新の技術を取り入れた教育を行うとよい。
- 23 学生が使用するパソコンはなるべく新しいものにしてほしい。
- 24 学生の頃は教育内容がそれほど重要だとは思わなかったが, 現在の業務において役に立たない事は無い。

(出典 卒業生アンケート)

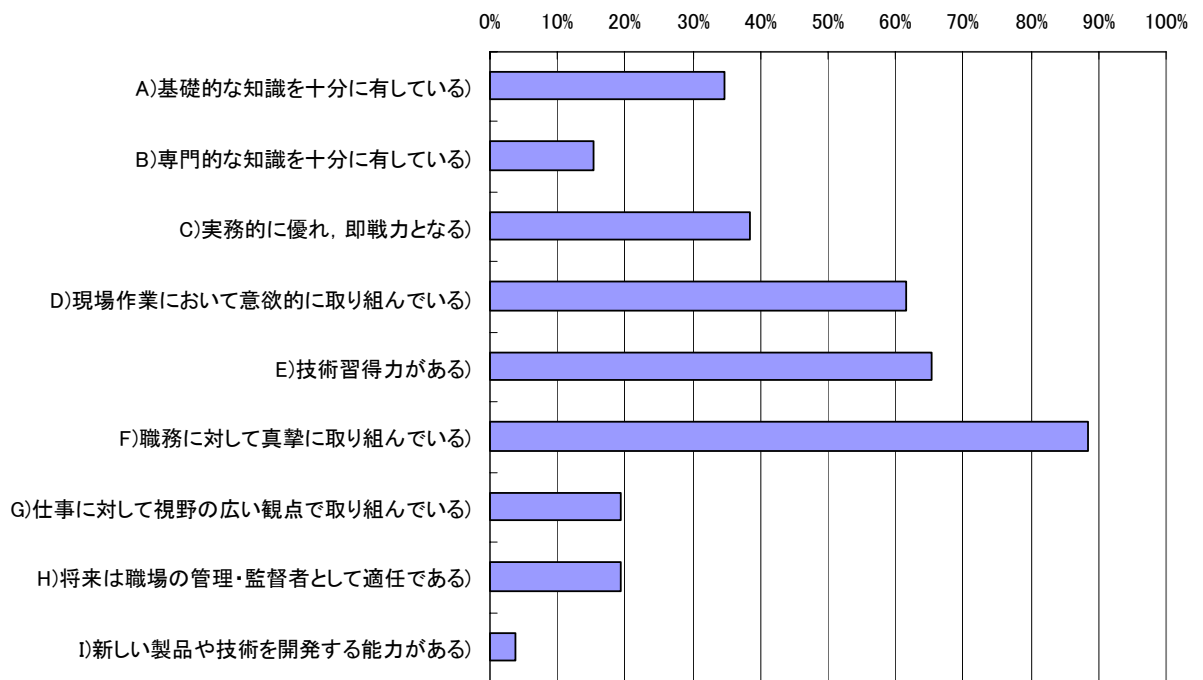
企業アンケートの結果

資料 9 - 2 - ① - 5

問1 本校卒業生の身につけている能力は、現在の業務を行う上で、どの程度役に立っていますか



問2 本校卒業生の能力で、(A)～(I)のうち比較的優れているものを選んで、○を付けてください。いくつ選んでも結構です。



(出典 企業アンケート)

観点 9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

ファカルティ・ディベロップメント活動は教務委員会が主体となって、学生による授業アンケートを実施し(資料 9-2-②-1)、そのアンケートの結果を全教員にフィードバックしている(資料 9-2-②-2)。教員は、授業評価アンケートの結果等から得られた学生の意見を基にし、授業の改善に努めたことにより、良い評価につながっている(資料 9-2-②-3)。こうした試みを経て、平成 18 年度からは、より包括的な資料を得るために全教員が授業評価に基づいて「授業評価に対する改善報告書」(前提示資料 9-2-①-2)を提出する体制が整えられ、さらに、提出された「改善報告書」は校長室により検討、整理された上で「平成 17 年度授業評価に対する改善及び実践方法」(前提示資料 9-1-⑤-1, -2)として全教員に配布された。他の教員の授業改善についての具体的な取り組みを参照できるようになったことは、各自の授業改善策を探る上で有益ばかりでなく、授業についての情報交換を活性化し、優れた実践に学んでノウハウを共有する上でも役立っている。今後は、平成 18 年度に設置した教務主事を委員長とする FD 委員会(資料 9-2-②-4)が中心となり、ファカルティ・ディベロップメント活動を行う。

(分析結果とその根拠理由)

学生による授業アンケートを実施し、得られた結果を教員にフィードバックしている。教員は授業の改善に努め、更に、授業評価アンケートの結果等から得られた学生の意見を基にし「授業評価に対する改善報告書」を作成している。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

資料 9-2-②-1

平成18年度

学生による授業評価アンケート

この授業に関して、あなたの意見・感想を聞かせてください。授業内容を良くするために参考にするもので、回答は学生諸君の成績には全く影響しません。誠実に答えていただくようご協力をお願いします。

【注意事項】

- ① 質問事項をよく読んで、あなたの意見に最も近い番号を○で囲んでください。
- ② 学科、学年、授業科目名、担当教官名を記入してください。

学科・学年		担当教官名	
授業科目名		必修・選択	

※(いずれかに○をつける)

【講義】

(質問事項)	良い (+)	普通	悪い (-)
(1) 先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	5	4 3	2 1
(2) 先生の説明はわかりやすく、理解しやすかったですか。	5	4 3	2 1
(3) 学生の理解度を確認しながら、適切な進度ですすめられていましたか。	5	4 3	2 1
(4) プリントや補助教材は授業の役に立ちましたか。	5	4 3	2 1
(5) 授業に準備や工夫がなされていると思えましたか。	5	4 3	2 1
(6) 黒板 (OHP を含む) の使い方や書き方はわかりやすかったですか。	5	4 3	2 1
(7) 授業の内容はシラバスと一致していましたか。	5	4 3	2 1
(8) 授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。	5	4 3	2 1
(9) 定期試験の内容は適切だと思えましたか。	5	4 3	2 1
(10) 先生は授業に対して意欲的で、熱意が感じられましたか。	5	4 3	2 1
(11) この教科に興味を持って、将来あなたにとって役に立つと思いますか。	5	4 3	2 1
(12) 総合的に考えてこの授業に満足していますか (高く評価していますか)。	5	4 3	2 1
(13) あなたはこの授業の予習・復習をしていますか。	5	4 3	2 1
(14) あなたはこの授業に熱心に取り組みましたか。	5	4 3	2 1
(15) この授業の内容をどの程度理解しましたか。	5	4 3	2 1

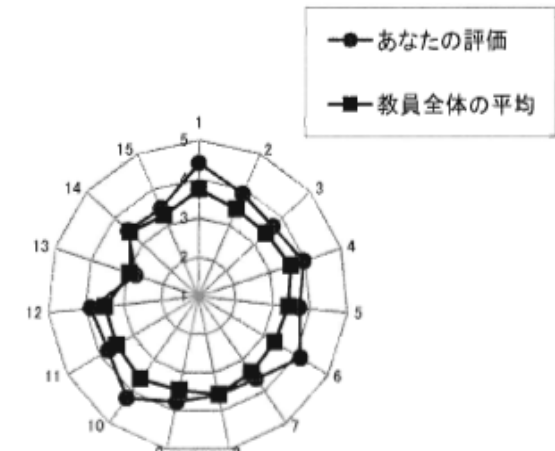
出典 学生による授業評価アンケート

平成17年度 授業評価集計表

講義: 個人集計 教員名: _____

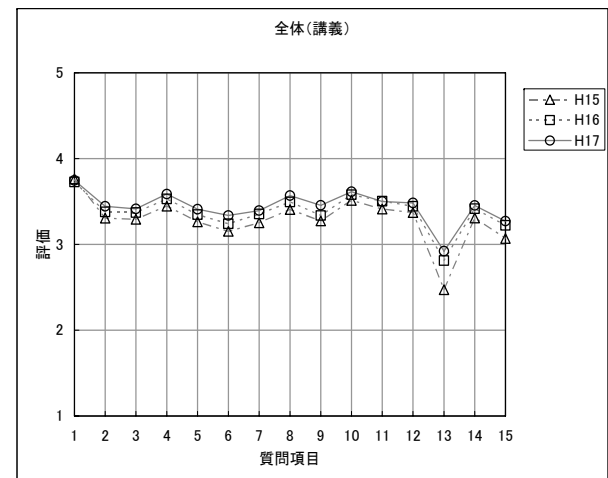
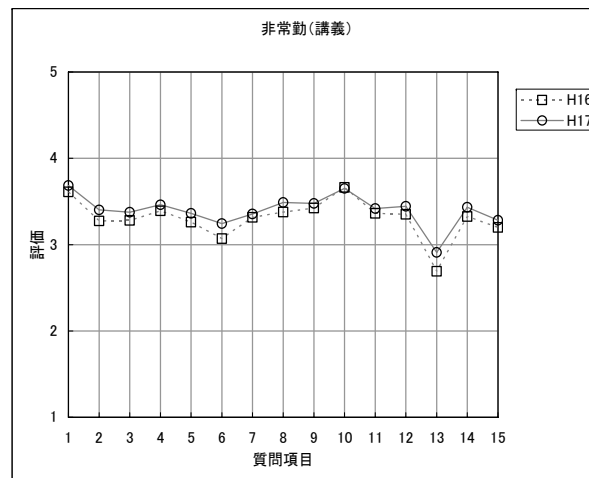
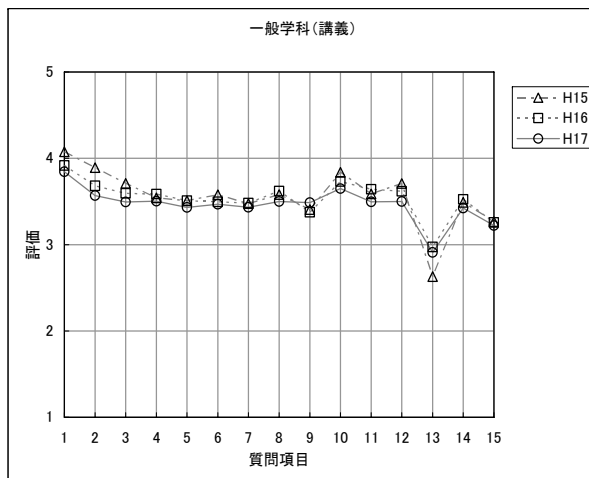
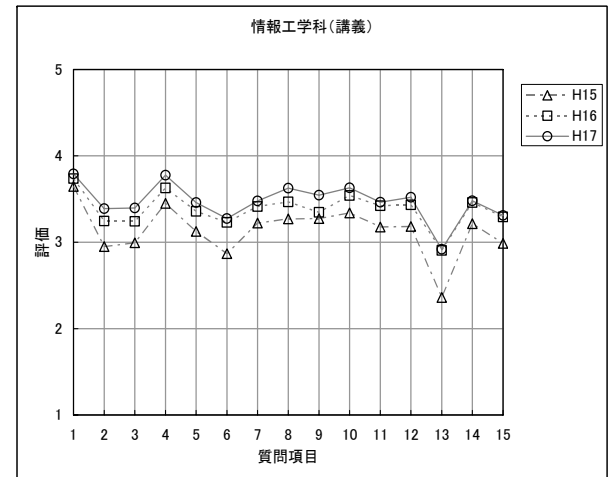
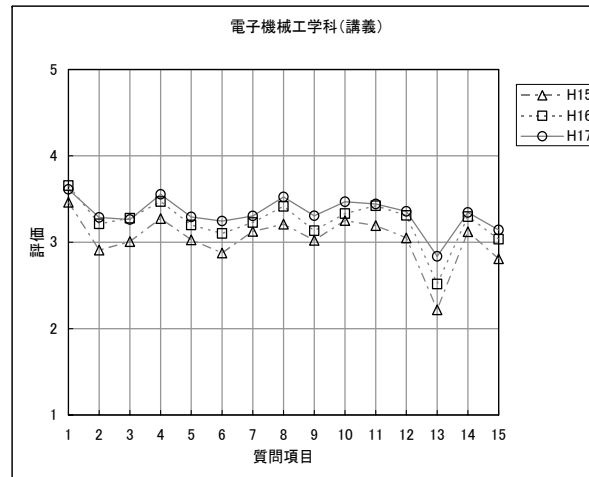
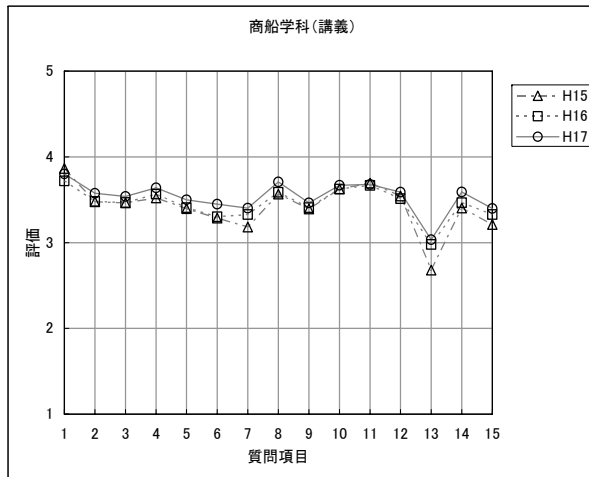
評価項目	科目名 (*は複数担当科目)	知識	オヘ	オヘ	プログ						個人の集計 総数と設問 平均	1科 集計 総数と設問 平均	常勤 集計 総数と設問 平均	教員(非常勤 含む)集計 総数と設問 平均
		工学	レーテ ィングシ テム	レーテ ィングシ テム	ラミン グ言語									
		クラス等	15	15	14									
	有効集計数	25	27	34	45						131	1232	7375	9787
1	先生の話し方や声の大きさは聞き取りやすかったですか。	4.48	4.41	4.41	4.36						4.41	3.79	3.76	3.75
2	先生の説明は分かりやすく、理解しやすかったですか。	4.00	3.70	3.79	4.00						3.87	3.39	3.45	3.44
3	学生の理解度を確認しながら、適切な速度で進められていましたか。	3.60	3.52	3.82	3.73						3.67	3.40	3.42	3.41
4	プリントや補助教材は授業の役に立ちましたか。	3.84	3.48	4.21	4.27						3.95	3.78	3.62	3.59
5	授業に準備や工夫がなされていると思いましたか。	3.56	3.63	3.88	3.78						3.71	3.46	3.42	3.41
6	黒板(OHPを含む)の使い方や書き方は分かりやすかったですか。	4.08	4.19	4.24	4.09						4.15	3.27	3.36	3.34
7	授業の内容はシラバスと一致していましたか。	3.60	3.67	3.42	3.73						3.61	3.48	3.40	3.39
8	授業を進める中で、疑問点があれば質問しやすい雰囲気でしたか。	3.84	3.48	3.47	3.56						3.59	3.63	3.59	3.57
9	定期試験の難易度は適当だと思いましたか。	4.08	3.59	3.59	3.78						3.76	3.55	3.45	3.46
10	先生、授業は意欲的で、熱意が感じられましたか。	4.28	4.00	4.38	4.24						4.23	3.63	3.60	3.61
11	この教科に興味を持って、得たあなたにとって役に立つと思いましたか。	3.80	3.70	3.82	3.67						3.75	3.46	3.52	3.50
12	総合的に考えてこの授業に満足していますか。(高く評価していますか。)	4.00	3.78	3.97	3.73						3.87	3.52	3.49	3.48
13	あなたはこの授業の予習・復習をしていますか。	2.80	2.89	2.21	3.13						2.76	2.92	2.92	2.92
14	あなたはこの授業に熱心に取り組みましたか。	3.40	3.63	3.21	3.80						3.51	3.48	3.46	3.45
15	この授業の内容をどの程度理解しましたか。	3.56	3.52	3.32	3.47						3.47	3.31	3.27	3.27
授業における項目の平均 (質問 1~12)		3.93	3.76	3.92	3.91						3.88	3.53	3.51	3.50
個人総合平均 (質問 1~15)		3.79	3.68	3.72	3.82						3.75	3.47	3.45	3.44

集計表では各質問事項における各授業クラス単位の採点平均(“良い”(5点)~“普通”(3点)~“悪い”(1点))および全体の平均を示しています。質問(1)~(12)は学生があなたの授業の進め方に対して感じていること、質問(13)~(15)は該当科目に対する学生の対応を示しています。



出典 授業評価集計表

H15年度～H17年度 授業評価アンケート(講義)の学科別評価の年度推移
ただし、非常勤講師は平成15年度なし



資料 9-2-②-3 (出典 年度別, 学科別評価の推移)

大島商船高等専門学校FD委員会規則

(設置)

第1条 大島商船高等専門学校に、教育内容及び教育方法を点検・評価し、改善を行うため、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業内容・方法の改善に関する事。
- (2) 教員の資質向上のための研究会及び講演会等の開催に関する事。
- (3) 教員の資質向上のための方策に関する事。
- (4) 教員の資質向上のための調査研究に関する事。
- (5) その他委員会が必要と認めた事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 専攻科長
- (3) 各学科及び一般科目から選出された教員各1名
- (4) 学生課長
- (5) その他校長が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条第3号及び第5号に規定する委員は、校長が任命し、任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集して議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した者が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 委員長は、委員会において審議された事項を整理し、校長に報告しなければならない。

(事務)

第8条 委員会の事務に関する事は、学生課において処理する。

附 則

この規程は、平成18年11月13日から施行する。

ただし、第4条第1項に定める最初の任期は平成20年3月31日とする。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・教育活動の実態を示すデータや資料は、電子ファイルとして収集・保管されている。
- ・学生の意見の聴取は、授業評価アンケート、学生相談室、もの申箱、ホームルーム、オフィスアワー等の様々な方法を用いて行われている。
- ・教員は、授業評価の結果を踏まえ、具体的な改善方法等を校長に報告し、翌年度の授業でそれを実践するなど継続的な改善をおこない、著しい効果を得ている。
- ・研究活動を通して教育の質向上に努めた結果、文部科学省が公募している現代 GP において、平成 18 年度に 2 件のテーマが採用された。
- ・卒業生及び卒業生就職先企業からのアンケート結果や評議員会等の外部の意見を教育内容の改善に役立てている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 9 の自己評価の概要

教育活動の実態を示すデータや資料は電子ファイルとして保管され、教育の実施状況に関しては、学生課教務係が学生の成績評価資料等を収集及び保管し、成績会議における学生の成績評価資料として提示できる体制をとっている。

各科目についての学生による授業評価アンケート及び学生の自己評価アンケートを実施している。さらに、学生相談室、もの申箱、ホームルーム、オフィスアワー等の様々な方法で学生の意見の聴取が行われている。

また、個々の教員は、授業評価アンケートの各項目における評価結果を踏まえ、「授業評価に対する改善報告書」を作成して、具体的な改善方法等を校長に報告し、翌年度の授業でそれを実践するなど継続的な改善を行なっている。

ファカルティ・ディベロップメント活動の活性化を目指して、新たに教務主事を委員長とした FD 委員会を設置して、卒業生を対象としたアンケート及び卒業生の就職先企業を対象としたアンケートの結果の分析等の活動を行っている。また、評議員会により学外関係者の意見を聴取しており、これらの意見を教育内容の改善に役立てている。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動等を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか

(観点到係る状況)

本校における教育・研究活動を遂行するために必要な資産は、基準8-1-①施設・設備に記載のとおり有しており、平成19年3月末現在におけるその資産現在高は、(資料10-1-①-1)のとおりである。

教育活動等を遂行するための資産は有している。一部の実験設備で旧式のため高い工作加工精度が望めないものがある(資料10-1-①-2)。時代に対応した先端技術の性能を持つ実験設備を導入する必要がある。

資料10-1-①-3に示すとおり、施設及び設備等の更新、整備、改修工事の要求をしている。一部の施設設備は予算措置されたが、要望どおりに措置されないのが現状である。

次に、本校における教育・研究を支える運営・事業費等の収入予算及び支出予算の推移は、資料10-1-①-4のとおりである。

地域社会への貢献や自己収入の増収を図るため、共同研究、受託研究等の産学連携等収入及び奨学寄附金の受け入れによる増収について工夫する必要がある。

なお、平成16年度から独立行政法人に移行したため、それまでの国立学校特別会計による予算配分から、収支差の補填の考え方を基本とした運営費交付金による予算措置となった。

学校内における配分や執行については、基本的に弾力的な執行が可能となったが、平成17年度運営費交付金から特定の人件費等を除き1%(効率化係数)のコスト節減を工夫する必要がある。本校自らの判断と責任により今後、運営の合理化、効率化を更に進める必要がある。

本校においては、(資料10-1-①-5)のとおり、業務の効率化、経費の節減・節約に努めている。

債務については、国立高等専門学校機構本部からの年度当初運営費交付金、予算要求による運営費交付金及び授業料等の自己収入による財源の範囲内での支出執行計画を行っており、債務過大となっていない。

資料 10-1-①-1

資産現在高(物品)

区 分	16年度末	17年度末	18年度末	備 考
個 数	74	80	95	
金 額 (千円)	159, 688	114, 952	151, 809	

(出典 資産台帳)

資産現在高(土地, 建物外) 資料 10-1-①-1 (続き)

	16年度末	17年度末	18年度末
(校舎)			
土地	m ² 112,540.00 千円 1,688,100	112,540.00 1,688,100	112,540.00 1,688,100
立木竹	本 千円 972 631	972 509	1,012 472
建物	延m ² 千円 28,681.54 1,266,530	28,681.54 1,170,784	28,681.54 1,075,039
建物付属設備	千円 368,591	263,736	142,319
構築物 (立木竹を除く)	千円 218,549	152,265	124,694
汽船	隻 トン数 千円 2 242 355,777	2 242 234,175	2 242 112,573
雑船	隻 千円 24 4,355	26 4,969	26 3,287
校舎計	千円 3,902,533	3,514,538	3,146,484

(出典 資産台帳)

実験実習棟に設置されている老朽化設備

資料 10-1-①-2

設備名称	メーカー他	購入年度	支障内容	使用時間
旋盤	般若鉄工所 HMA-20KA型	昭和36年度	老朽により高い工作加工精度が望めない	96H/年
旋盤	ワシノ機械 RS-55型	昭和41年度	老朽により高い工作加工精度が望めない	96H/年

(出典 実習工場設備状況調査抜粋)

資料10-1-①-3

「過去3年間の概算要求事項等の一覧」

要求事項	16年度	17年度	18年度
	[設備要求]	[設備要求]	[設備要求]
	1 マルチメディア教育システム	1 優れた専門性と豊かな人間性を有する海運管理者と実践的開発技術者の育成を目指す	1 IT教育のためのマシンビジョン実験
	2 レーザ加工システム		2 ものづくり教育システムの構築
	3 衛星通信可能な移動通信システム	2 e-learning マルチメディア教育システム (eLME S)	3 学寮の学習環境の整備
	4 粒子画像流速測定法による流れの可視化システム	3 レーザ加工機 一式	4 練習船の利活用による防災教育の充実 サバイバルレッスン用防災グッズ・非常用発電機・救助レッスン用教材・水上バイク等
	5 クリーンエネルギーで航行するソーラ遊魚船のハイブリッド化システム		5 次世代薄型ディスプレイ用微小電子源の研究 マスクアライメント装置・高速型真空蒸着装置等
	[施設整備要求]	[施設整備要求]	[施設整備要求]
	1 校舎改修	1 校舎改修	1 専攻科棟
	2 基幹・環境整備	2 基幹・環境整備	2 校舎改修
	3 専攻科棟	3 専攻科棟	3 基幹・環境整備
	4 実習工場等改修	4 実習工場等改修	4 実習工場等改修
	5 体育館等改修	5 体育館等改修	5 体育館等改修
	6 地域共同テクノセンター	6 地域共同テクノセンター	6 地域共同テクノセンター
	7 船舶・海洋ふれあいセンター	7 船舶・海洋ふれあいセンター	7 船舶・海洋ふれあいセンター
	8 情報教育センター外壁・防水改修工事		
	9 体育施設環境整備		
	10 エアコン設置工事		

(出典 概算要求書資料)

資料10-1-4

「予算の推移」

○ 収入予算

(単位:円)

	16年度	17年度	18年度	備 考
運営費交付金	1,100,354,671	1,116,629,963	998,396,463	
施設整備費交付金	31,102,851	11,340,000	0	
国立大学財務・経営センター 施設費交付事業費		0	8,326,500	
授業料収入	127,733,000	132,996,315	134,601,850	
入学料収入	10,829,000	11,844,000	11,844,000	
検定料収入	4,472,000	4,670,000	4,670,000	
雑収入	6,822,000	6,822,000	6,822,000	

受託研究料収入	0	520,000	1,310,000	
共同研究料収入	1,700,000	1,450,000	0	
受託事業等収入	0	12,000	50,000	
寄附金収入	5,435,166	5,130,017	46,455,000	
その他補助金	0	0	26,381,000	
目的積立金取り崩			15,000,000	
科学研究費補助金	8,800,000	3,400,000	4,600,000	
合計	1,297,248,688	1,294,814,295	1,258,456,813	

○ 支出予算

(単位:円)

	16年度	17年度	18年度	備 考
業務費	1,250,210,671	1,272,962,278	1,171,334,313	
上記のうち、人件費(内数)	915,495,682	955,292,949	825,957,242	
施設整備費	31,102,851	11,340,000	8,326,500	
受託研究費	1,700,000	1,540,769	1,739,231	
受託事業費	0	12,000	50,000	
寄附金	7,145,903	5,002,388	7,971,259	
その他補助金	0	0	26,381,000	
科学研究費補助金	8,800,000	3,400,000	4,600,000	
合計	1,298,959,425	1,294,257,435	1,220,402,303	

(出典 予算配分基礎資料)

資料10-1-①-5

「業務運営の効率化への取り組みに関する調書」

事 項	実施年度		具体的内容	節減見込額 (千円)	節減見込額算定の考え方
	18	19			
光熱水料		○	夏季8月14日～16日に一斉休業日を採用する。	270	電気料 70,000円×3日 =210,000円 水道料 20,000円×3日 =60,000円
超過勤務手当		○	変形労働時間制を職員にも採用することにより、夏季の閑散期間に休日を組み入れ、休日を取得しやすいようにし、勤務日の超過勤務の減少を図る。	57	@2,500円×23人×1時間 = 57,500円
図書費	○	○	加除式図書の見直しと定期刊行物・新聞を削減する。	50	
通信運搬費		○	郵送、電話を電子メールに替え、電話料等の経費削減を図るとともに、中継電話サービスを利用することにより「通話料の削減」を図る。	45	平成17年度実績額の1パーセント (固定電話から携帯電話にかける場合、相手の電話番号の前に、「0039」をつける等の「通話料削減」を利用)
合計				422	

(出典 概算要求書資料)

(分析結果とその根拠理由)

教育・研究活動を遂行するための重要な資産について、実験設備のうち一部に更新する必要性のあるものがある。

また、平成17年度以降1%のコスト節減を図る必要があり、現在まで管理的経費の節減を実施している。今後、自己収入の増収を図るため、共同研究・受託研究等の産学連携等収入及び奨学寄附金の受け入れ等外部資金獲得のための努力が必要である。

本校における経営努力認定額については、第1期(平成16年度)は331,490円、第2期(平成17年度)は111,269円、第3期(18年度)は0円であり、債務については過大となっていない。

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

平成16年度から独立行政法人に移行したため、それまでの国立学校特別会計による予算配分から、収支差の補填の考え方を基本とした運営費交付金による予算措置となった。学校内における配分や執行については、基本的に弾力的な執行が可能となったが、平成17年度運営費交付金から特定の人件費等を除き1%（効率化係数）のコスト節減を工夫する必要がある、本校自らの判断と責任により今後、運営の合理化、効率化を更に進める必要がある。

本校における教育研究活動を安定して遂行するための収入については（前提示資料10-1-4）のとおりである。

本校においては、（前提示資料10-1-5）のとおり、業務の効率化、経費の節減・節約に努めている。

(分析結果とその根拠理由)

平成16年度より独立行政法人となり、運営費交付金は平成17年度から△1%効率化係数により削減され、効率化を求められているが、収入額の確保については、授業料・入学料・検定料等の学生納付金が収入の殆どを占めている状況である。志願者を含め入学者定員は近年確保している。

収入状況が急激に変わることは考えられないため、教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されている。

観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育方針等その目的を達成するための財務上のことを含め根幹的計画を定めたものが(資料10-2-①-1)の「大島商船高等専門学校中期目標・中期計画」である。本中期目標・中期計画策定に当たっては、「独立行政法人国立高等専門学校機構中期目標・中期計画」を踏まえ、校内の運営委員会において審議し、原案の作成

教員会議に附議・討議

外部有識者を委員とする評議委員会に附議し、提言・意見を求める。

評議委員の提言等に基づき修正の上、制定予定

本校ホームページに掲載し、公表

のとおり、外部有識者の提言を取り入れた本校中期目標等を策定し、広く公表することとしている。

観点10-1-①に記載のとおり、平成16年度から独立行政法人に移行したため、収支差補填の考え方を基本とした運営費交付金による予算措置となった。

収入額の確保については、本校の場合は、特に授業料・入学料・検定料等の学生納付金が収入の殆どを占めており、志願者を含めて学生の確保は、財源上重要な点である。

近年の少子化傾向から、中学卒業生数は、(資料10-2-①-2)のとおり年々減少傾向にあり、今後志願者も減少すると考えられる。本校中期計画に定めているとおり、教員による学生募集活動のための中学校訪問・オープンキャンパスの実施など積極的に本校をPRし、入学生の確保に努めている。(資料10-2-①-3)

なお、当該年度の予算配分については、前年度実績をベースに、また、中期計画の年度計画に定めている事項については優先的に予算配分をする等毎年度当初見直し、配分予算案について年度始め運営委員会で審議後、承認を得て配分している。

施設整備計画については(資料10-2-①-4)のとおり「国立学校施設長期計画(平成13年9月策定)」を基本とし、順次整備している。適宜施設点検評価の実施及びその評価結果に基づく具体的な改修計画を行っている。

第2期施設長期計画については、平成18年度から平成22年度までの5年間の整備計画を西日本高専担当校と協議を行っているが、学内でも早期に委員会を開催し、検討をする必要がある。

施設等の整備についても、施設整備委員会で学内公募等を行い緊急度を勘案し、優先順位により採択、整備を行い、その結果等を教官会議等で報告している。

「大島商船高等専門学校中期目標」

【中期目標】

○中期目標の期間

平成16年4月1日から平成21年3月31日までの5年間

○教育理念

海洋に育まれる心豊かでたくましい海運技術者並びに創造性豊かな工業技術者の育成をめざす。

1. 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者を養成する。
2. 協同の精神と責任感を培い、集中力・耐久力を養い、指導者として必要な能力を育成する。
3. 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力を育成する。

○養成すべき人材像

我が国のものづくりの技術基盤を支え、質の高い専門能力を有し、創造性に富み、国際感覚を身につけた視野の広い実践的技術者を養成する。

○国立高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標（Ⅰ）

1 教育に関する目標

教養教育においては、学生の基礎科目における学力の底上げを行い、基礎学力の向上を図るとともに国際的に通用するコミュニケーション能力（外国語教育）の育成を行う。

専門教育においては、専門基礎知識の修得に加え、産業経済の発展、科学技術の進歩に対応したカリキュラム編成を行い、実験実習を重視し、創造性豊かで高度な幅広い「ものづくり」基盤を支える技術者の養成に努める。

2 学生の支援に関する目標

学生に対して、学習に関する支援のほか、進路指導（就職、進学指導）、生活指導及び経済的支援等に関して指導・支援の充実を図る。

3 研究に関する目標

地域産業界等の企業ニーズに対応した研究を促進し、その成果の教育・社会への還元を推進していく。

4 その他の目標

地域社会との連携、インターンシップ、大学間等交流及び留学生交流の推進並びに広報の充実を図るとともに、教育、研究、社会との連携について練習船の活用を進める。

○業務運営の改善及び効率に関する目標（Ⅱ）

校長がリーダーシップを発揮しつつ、全校的な視野にたった機能的な高専運営を遂行できる運営体制の整備を行うとともに、学科間の調整、教員と事務組織との連携を図るなど、高専運営の企画立案について、効率的、機能的な運用が可能な体制の整備を図る。

○財務内容の改善に関する目標（Ⅲ）

科学研究費補助金、共同研究等外部資金その他自己収入の確保を図るとともに、管理的経費の抑制に努め、保有する資産（土地・施設・設備等）の効果的・効率的な運用を行う。

○社会への説明責任に関する目標（Ⅳ）

自己点検評価及び外部有識者による第三者評価を実施し、評価結果を高専運営の改善に十分反映させるとともに、教育研究活動等の高専運営に関する情報の積極的提供を図る。

○その他業務運営に関する目標（V）

安心して教育研究に専念できる学校，学生及び保護者や地域住民からも安全な公共施設として認知される学校を目指して施設，設備の利用状況などの点検・評価を行い，長期的な構想を策定し，有効活用を図るとともに，安全で信頼性のある環境の確保を図る。

（出典 本校中期目標）

資料 10-2-①-2

山口県市町村年齢別推計人口（10～14歳人口 10月現在）

市町村	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
県計	73,150	70,668	69,846	69,308	—
市計	58,080	57,245	56,697	63,759	—
町村計	15,070	13,423	13,149	5,549	—

（出典 山口県市町村年齢別推計）

資料10-2-①-3

中期計画

中期計画	18年度	19年度
<p>(2) 目標に掲げる内容・水準を達成するための教育指導等</p> <p>①入学者選抜</p> <p>1. 国立高等専門学校にふさわしい者を選抜するための入試方法に関する具体的方策</p> <p>ア 学生受入方針の整備と学内外への周知・公表</p> <p>1) 推薦入学者選抜の一層の整備と拡充を図る</p> <p>2) 体育・文化面における優秀な成績を考慮した、入学者選抜の導入を検討する。</p> <p>3) 編入学者拡大のための検討をする。</p> <p>イ 受験生確保のための学生募集の活動方法等の再検討をする。</p>	<p>・ 特別活動の記録を中心に、推薦入学者基準の一部煩雑さを除き、より明確化するための検討を行う。</p> <p>・ 導入・実施する。</p> <p>・ 工業系編入学者に対しては、広範囲でなくとも出来るところから募集活動を行う。</p> <p>・ 募集活動に赴く人員の刷新を図る等より改善・検討を行い、実施する。</p> <p>・ オープンキャンパスを2回実施し、より充実・定着化を期す。 (アンケートの集計結果の意見・要望を反映させる。)</p>	<p>・ 一部改正したものを導入し、且つ定着を図る。</p> <p>・ 実施及びよりスムーズな定着を図る。</p> <p>・ 工業系編入学者に対しては、募集活動の定着を図り、可能であれば拡大する。</p> <p>・ 学生募集活動の再検討を行い、年度を追って改善できる面があれば、実施に移す。</p> <p>・ 「入学説明会・オープンキャンパスをより充実・定着化を期す。」</p>

(出典 本校中期計画)

資料 10-2-①-4

(1) 施設整備の基本方針

・教育・研究の理念・目標

本校は、5年間の一環教育によって、論理のみならず実践にも強い技術者を養成する。
さらに、教養のみならず国際感覚を身につけた視野の広い技術者を養成し、責任感・集中力
・耐久力を養って指導者に必要な能力を育成し、探究心を養って謙虚な気持ちで過去に学び、
新技術を創造し得る能力を育成することを目標とする。

本校の教育目標として、次の3点を掲げている。

1. 豊かな教養と国際感覚を身につけた、視野の広い技術者の育成
2. 共同の精神と責任感を培い、集中力・忍耐力を養い、指導者として必要な能力の育成
3. 探究心を養い、身体を鍛え、先人の遺産を学び、新技術を創造できる能力の育成

・施設整備の目標

本校の将来像及び教育理念・教育目標を踏まえた上で、教育環境改善計画に基づき、教育・
研究環境の老朽狭隘化を改善し、ゆとりある教育研究環境を確保する。

1. 教育環境改善のための施設整備

- ① 普通教室の狭隘化解消
- ② 選択科目講義室の拡充
- ③ 情報化対応パソコン室の設置
- ④ 学生コミュニケーション室の設置
- ⑤ 卒業研究室の設置
- ⑥ 学生更衣室の拡充

2. 将来構想のための施設整備

- ① 地域共同テクノセンターの整備
- ② 専攻科棟の整備

・キャンパス計画のコンセプト

- ① 現有施設の有効利用と老朽狭隘化の改善
- ② 情報化・高度多様化に対応した教育研究環境の整備
- ③ 教育研究ゾーンへの車の乗入れを規制

(出典 国立学校施設長期計画資料 (平成13年9月策定))

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育方針等その目的を達成するための根幹的計画である中期計画・年度計画の策定に当たっては、外部有識者の評価を得ており、適切な計画が策定・公表されているので相応であると考えます。

また毎年度予算の執行計画については、中期計画・年度計画に基づき収支の計画について運営委員会で審議、了承を得ています。

ただし、予算の執行計画及び収支決算については一部の関係職員には通知しているが、今後、全教職員に通知し、了承を得る手続きをしなければならないと考えています。

観点10-2-②: 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

資料10-1-①-4「収入・支出の予算推移」で示しているとおり国の時代から法人化に移行した後も収支は安定しており支出過大となっておらず、効率化係数による経費削減を求められているが、予算の範囲内で、教育研究活動等に影響のないよう予算配分計画を行っており支出超過となっていない。

(分析結果とその根拠理由)

国の時代から法人化に移行した後も収支は安定しており支出過大となっておらず、予算の範囲内で、教育研究活動等に影響のないよう予算配分計画を行っており支出超過となっていない。

観点10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

本校における校内予算配分（資料10-2-③-1）については、前年度実績と自己収入及び運営費交付金を基に予算案を作成し、運営委員会に附議し、承認を得て配分している。

教育研究活動予算（資料10-2-③-2）については、運営費交付金は平成17年度から△1%効率化係数により削減され、効率化を求められているが、教育研究活動に支障のないよう予算配分を配慮している。

なお、予算配分は、教育費と研究費は合わせて積算しており、実行上、各学科の学科内配分額については、各学科主任の裁量に委ねている。

資料10-2-③-1

平成18年度予算配分額 1,164,250千円

人件費 860,233千円

常勤教職員人件費

退職手当

赴任旅費

その他経費 304,017千円

うち特別措置分を除くと…

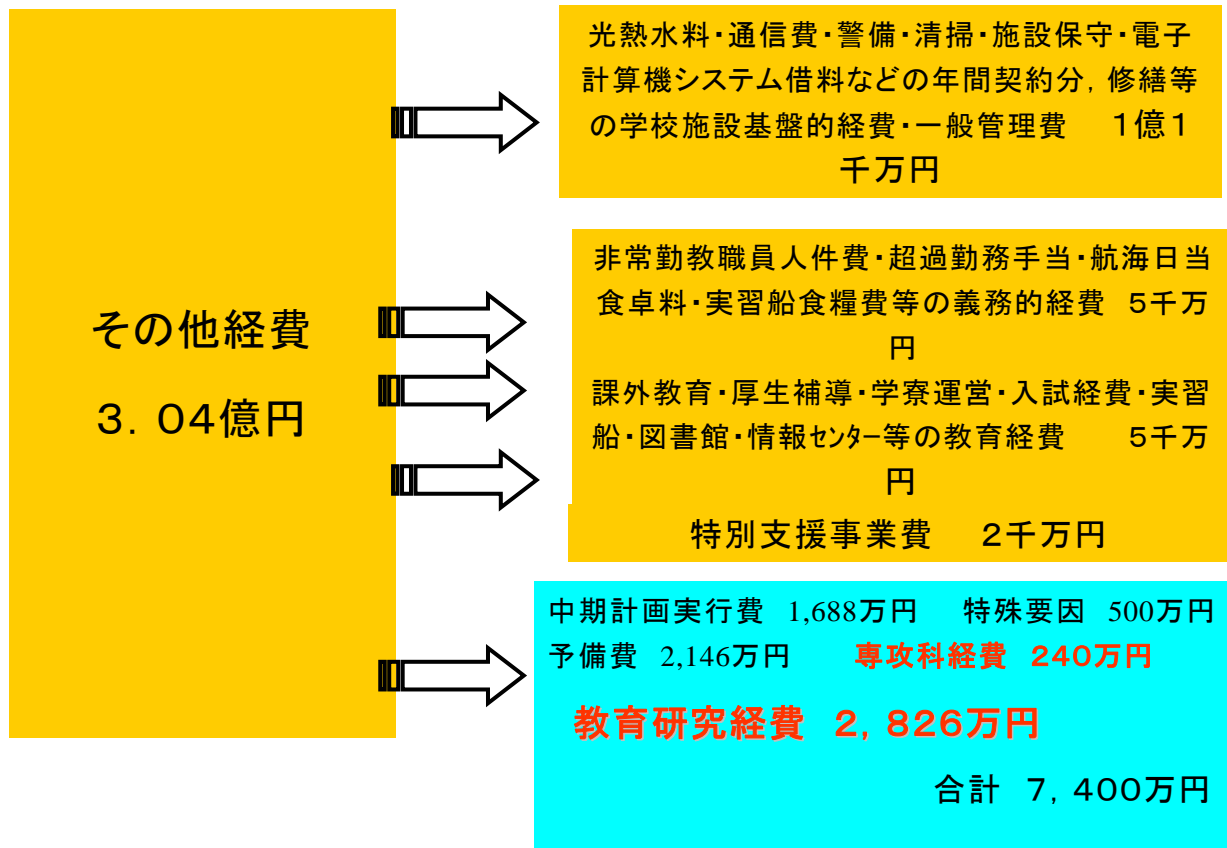
特別支援事業費 △20,675千円

高専間教員交流所要経費 △5,397千円

H17その他経費
283,288千円

277,945千円

△2%



- ★ 管理運営運営部門を中心とした効率化という方針に基づき、
各積算額は所要額の精査のうえ、次のとおり効率化係数を適用。
施設基盤的経費・実習船・図書館・情報センター・入試経費等・・・△1%
事務部の一般管理費・・・△2%

教育研究経費の配分方針

○ 平成17年度以前

教授・助教授・講師・助手ごとの積算単価をもとに配分

○ 本年度

教育的側面を重視し、担当授業時間数、単位数および学生数を、
機構の積算単価(一律)に反映させる傾斜配分

(出典 運営委員会資料)

資料10-2-③-2

「教育経費予算の推移」

16年度	248,228千円
17年度	219,241千円
18年度	270,562千円

(出典 予算配分基礎資料)

(分析結果とその根拠理由)

校内予算配分に当たって、教育活動予算については、従来は国の基準により配分しており、特に基本方針は定めていなかったが、教員教育研究経費については、平成18年度見直し、配分を実施したが、更に配分方法を検討する必要がある。

また、中期計画の年度計画を実現化するため、重点事項を優先して予算配分を実施し、校長裁量分も含めて適切な予算配分がなされていると考える。

観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点にかかる状況)

学校を設置する法人である独立行政法人国立高等専門学校機構の財務諸表が、官報において公告され、適切な形で公表されている。

(分析結果とその根拠理由)

独立行政法人国立高等専門学校機構の財務諸表が、官報において公告され、適切な形で公表されている。

観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点にかかる状況)

会計監査については、内部監査（平成19年1月 高専機構による監事監査）及び独立行政法人国立高等専門学校機構において会計監査人による外部監査（平成17年5月中央青山監査法人）が実施されており、財務に対して会計監査等が適切に行われている。

(分析結果とその根拠理由)

会計監査人による外部監査が実施されており、財務に対して会計監査等が行われている。ただし、学内監査では一部の財務担当者による決算事務が行われており、財務会計事務については法人化後、地区高専間で担当者研修会を行っているが、決算事務については特に専門的な知識が必要であり、複数の担当者による決算及び学内監査が行えるよう今後更に、担当職員の育成が必要と考える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学校の目的に沿った教育研究活動等を安定して遂行できる土地、施設、設備等の資産を有している。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準10の自己評価の概要

収入については、授業料、検定料等の収入は定員確保により安定しており、18年度補助金事業現代GPの2件の採択があったが、更に外部資金の獲得には積極的に取り組む必要がある。

平成18年度の財政状況は収支の釣り合いが保たれており、債務も過大となっていない。

年度予算配分については、教育研究費、中期計画事項の予算を優先し、各部署の配分についても前年度当初配分をベースをもとに適切な配分を行っている。

会計監査については、監査法人による財務監査が毎年行われている。

基準 11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点 11-1-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況)

校長の役割は、学校教育法第 70 条の 7 第 3 項で「校長は、校務を掌り所属職員を監督する。」と定められており、本校では、学則第 9 条において「校長を置き、その職務は学校教育法その他の法令に定めるところによる。」と規定している(資料 11-1-①-1)。

また、学校教育法施行規則第 72 条の 3 の規定を基に、本校では、学則第 10 条に各主事を置き、その役割を規定している(資料 11-1-①-2)。

本校では、運営委員会をはじめ各種委員会(資料 11-1-①-3)を設置し、教員組織規則・委員会規則等においてその役割を規定しており、各種委員会等で検討した企画・提案事項は、運営委員会での審議を経て校長が意思決定を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、管理運営を円滑に行うために、校長、各主事、図書館長、各学科等主任、専攻科長、事務部長、各課長で構成された運営委員会を置き、決定された事項については、教員に対しては、教官会議において、職員に対しては、各所属課長が通知することで、全教職員に周知する体制を整えている。また、各種委員会で検討された事項のうち、特に必要事項については、運営委員会で審議され、同様に教職員に周知される。

また、組織体制では、教員については、教員組織規則、職員には、事務組織規則に基づき、各種委員会で校務運営の効率化・円滑化を図っている。

以上のことから、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で効果的な意思決定が行える体制になっている。

学則 (職員組織)	資料 11-1-①-1
第 9 条 本校に、校長、教授、准教授、講師、助教、事務職員及び技術職員を置く。	
2 教職員の職務は、学校教育法その他の法令の定めるところによる。	
	(出典 本校規則集抜粋)

学則 (教務主事、学生主事及び寮務主事)	資料 11-1-①-2
第 10 条 本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事	
2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。	
3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に関するものを除く。)を所掌する。	
4 寮務主事は、校長の命を受け学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。	
	(出典 本校規則集抜粋)

資料 11-1-①-3

平成19年度大島商船高等専門学校各種委員会委員一覧表

◎ 発令年月日 平成19年4月1日
 ◎ 任期は平成20年3月31日までとする

委員会等の名称	構 成	主管理	備 考				
運 賃 委 員 会	○ 校長 教務主事 学生主事 寮務主事 図書部長 専攻科長 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 事務部長 総務課長 学生課長	総務課					
将来構想検討委員会	○ 校長 教務主事 学生主事 寮務主事 図書部長 専攻科長 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 事務部長	〃	幹事 2 課長				
自己点検・評価委員会	○ 校長 教務主事 学生主事 寮務主事 図書部長 専攻科長 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 大島丸船長 情報教育センター長 事務部長 規則別表に掲げる委員会の委員長 その他校長が特に必要と認めた者	〃	幹事 総務課長 学生課長				
情報公開委員会	○ 校長 教務主事 学生主事 寮務主事 図書部長 専攻科長 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 事務部長 総務課長 学生課長 その他校長が必要と認めた者	(下部委員会) 情報公開開示・不開示等 検討小委員会	〃				
教員人事委員会	○ 校長 教務主事 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任	〃	〃				
防災委員会	○ 校長 事務部長 教務主事 学生主事 寮務主事 図書部長 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 総務課長 学生課長 その他校長が必要と認めた者	〃	幹事 総務係長 施設係長 寮務係長				
学校より委員会	○ 図書部長 教員(各学科・科目1人) 総務課長 学生課長	S 三原 M 藤井 I 浦上 C 吉奥	〃				
安全衛生委員会	○ 校長 事務部長 衛生管理者 安全管理者 産業医 大島丸船長 組合推薦3名	組合推薦 松井 岩崎 藤元	〃				
セクシュアル・ハラスメント 防止対策委員会	○ 校長 教務主事 学生主事 寮務主事 事務部長 総務課長 学生課長 人事部長 看護師 委員及び事務の相務員各1名	教員 H 口 事務 上山	〃				
職員リレーション委員会	○ 総務課長 学生課長 教員(各学科・科目各1人) 船員1人 事務職員4人	S 吉賀 M 中村 I 橋 C 中澤 総 青山 附 田中 学 藤元 美 堀	〃				
知的財産委員会	○ 地域協力センター長 教務主事 校長が指名する本校の教員若干名 その他校長又は委員長が必要と認めた者	〃	〃				
放射線障害防止 管理委員会	○ 教務主事 エキスパート主任者 総務課長 学生課長 教員(各学科・科目1人)	S 清水 M 藤田 I 関宅 C 上月	〃				
地域協力委員会	○ 教務主事 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 地域協力センター長 総務課長 学生課長 その他校長が必要と認めた者	〃	〃				
地域協力センター 運営委員会	○ 地域協力センター長 各学科及び一般科日主任が選出した者各2名	S 藤井英 北風 M 尾形 I 塩田 杉野 C 野木 上月	〃				
国際交流推進委員会	○ 国際交流推進部長 委員長が選出した者	S 川原 I 松井 C 中澤	〃				
施設整備委員会	○ 教務主事 学生主事 寮務主事 図書部長 専攻科長 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 事務部長 総務課長 その他校長が必要と認めた者	〃	〃				
情報セキュリティ 委員会	○ 教務主事 事務部長 情報教育センター長 専攻科長 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 総務課長 学生課長	〃	〃				
賞 励 委 員 会	○ 事務部長 総務課長 教員(各学科・科目1人) その他校長が特に指名する者	S 杉本 M 岡本 I 杉野 C 吉奥	〃				
課 外 委 員 会	○ 教務主事 教員の中から校長が指名した者2名 事務部長 総務課長 学生課長 専務職員の中から校長が指名した者1名	〃	〃				
教 務 委 員 会	○ 教務主事 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 教務主事補	〃	幹事 学生課長 学生課長補佐、教務係長				
専 攻 科 委 員 会	○ 専攻科長 教務主事 専攻科主任 各学科・科目で専攻科を担当する教員各1名 学生課長 その他専攻科長が特に必要と認めた者	S 岩崎 M 松田 I 比嘉 C 吉富 増山	〃				
練習船運航委員会	○ 教務主事 商船学科主任 大島丸船長 機関長 一等航海士 一等機関士 総務課長 学生課長 電子機械工学科及び情報工学科教員各1人	M 一番ヶ瀬 I 松井	〃				
情報教育センター 運営委員会	○ センター長 副センター長 教員(各学科 科目2人) 総務課長 学生課長 各課1人(LAN担当)	S 北風 M 岡野内 I 岡村 松田 C 杉村 堤 総 山道 野田 学 藤野	〃				
厚生補綴委員会	○ 学生主事 教務主事 寮務主事 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 学生主事補 寮務主事補 各学級担任教員 その他校長が必要と認めた者	〃	〃				
就職対策委員会	○ 学生主事 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 実習課担任教員 第5学年・第4学年学級担任教員 その他校長が必要と認めた者	〃	〃				
寮 務 委 員 会	○ 寮務主事 寮務主事補 学生主事 教員(各学科・科目1人) その他校長が必要と認めた者	S 新谷 M 藤井 I 塩田 C 野木	〃				
入 試 選 考 委 員 会	○ 校長 教務主事 学生主事 寮務主事 図書部長 体育主任 入学試験委員会委員 その他校長が必要と認めた者	〃	〃				
入 学 試 験 委 員 会	○ 教務主事 教務主事補 商船学科主任 電子機械工学科主任 情報工学科主任 一般科日主任 教員(各学科・科目1人)	S 角田 M 岡本 I 岡村 C 吉田	〃				
学生相談運営委員会	○ 学生相談室長 カウンセラー 相談員 補助相談員 学生主事 学生課長	相談員(岡野内 尾形 吉田 吉富) 補助相談員(岩崎)	〃				
F D 委 員 会	○ 教務主事 専攻科長、各学科・一般科日で選出された教員各1名、 学生課長、その他校長が必要と認めた者	S 村 M 岡崎 I 石原 C 石田	〃				
図 書 館 運 営 委 員 会	○ 図書部長 教務主事 教員(各学科・科目2人) 学生課長 その他校長が必要と認めた者	S 伊藤 森島 M 増山 中村 I 石原 橋田 C 吉富 田口	〃				
紀 要 編 集 委 員 会	○ 図書部長 教員(各学科2人、一般科日3人)	S 清水 新谷 M 一番ヶ瀬 増山 I 石原 杉野 C 吉田 石田 上月	〃				
備 考	○印は各種委員会の委員長・議長を示す						
校長	和氣 健嗣	情報教育セキ長	川原 秀夫	寮務主事補	杉野 謙規	エキスパート主任者	上月 陽一
教務主事	平塚 幸作	情報教育副セキ長	岡崎 秀俊	〃	橋 瑞東	〃	〃
学生主事	古本 啓二	学生相談室長	宮奥 玉道	専攻科主任	辻 聡介	〃	〃
寮務主事	神田 全幹	事務部長	森 廣美	〃	奥野 輝生	〃	〃
図書部長	岡宅 泰典	総務課長	松浦 政裕	〃	松井 利幸	〃	〃
専攻科長	藤井 実信	学生課長	出川 隆尚	産業医	嶋元 徹	〃	〃
商船学科主任	比 野介	教務主事補	吉原 泰美	衛生管理者	井上久美恵	〃	〃
電子機械工学科主任	辻 雅生	〃	比嘉 謙也	安全管理者	松浦 政裕	〃	〃
情報工学科主任	松井 利幸	〃	石田 敏子	衛生管理担当者	坂本 昇	〃	〃
一般科日主任	吉留 文男	〃	増山 新二	安全管理担当者	上山 清司	〃	〃
船長	藤井 敬浩	学生主事補	杉野 佳昭	給食安全担当者	藤井 敬浩	〃	〃
機関長	吉賀 英司	〃	新谷 徹一	消火作業担当者	藤井 敬浩	〃	〃
一等航海士	木本 久也	〃	中村 翼	給食衛生担当者	藤井 敬浩	〃	〃
一等機関士	杉本 昌弘	〃	藤原 千春	衛生担当補助者	吉賀 英司	〃	〃
地域協力セキ長	松田 充夫	寮務主事補	清水 聖治	安全担当補助者	藤井 敬浩	〃	〃
国際交流推進室長	野田 石規	〃	高井 雅之	消火作業担当補助者	藤井 敬浩	〃	〃

(出典 各種委員会委員一覧表)

観点 11-1-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点に係る状況)

本校では、管理運営に関する重要な事項を審議する運営委員会（資料 11-1-②-1）をはじめ、各主事等が所掌している教務委員会（資料 11-1-②-2）、厚生補導委員会、寮務委員会、図書館運営委員会、専攻科委員会等の各種委員会を組織し、各主事等が委員長となり所掌している（前提示資料 11-1-②-3）。さらに教職員の連携の下に、管理運営に関わる教職員が適切に役割を分担し効果的に活動している。例として本校の教務に関する事項を審議し、改善した教務委員会の事例を資料 11-1-②-3 に示す。

なお、本校独自の取り組みとして事務系職員を海外大学等に派遣し、職員の資質向上を図るとともに、新たなアイデアの創出につながるよう工夫している（資料 11-1-②-4）。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、運営委員会をはじめ、各種委員会を設置している。これらの役割については各組織規程を定め、各主事等がこれらの各種委員会を所掌している。事務職員も構成員に含まれており、教員と事務職員との連携の下に、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。また、本校独自に事務系職員の海外大学等の調査を行うなど管理運営につながる工夫をしている。

運営委員会規則

資料 11-1-②-1

(審議事項)

第 2 条 委員会は、校長の諮問に応じて次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 本校の管理運営に関すること。
- (2) 本校の予算に関すること。
- (3) 学則その他諸規則の制定改廃に関すること。
- (4) 学術国際交流に関すること。
- (5) その他校長が必要と認めた事項に関すること。

(出典 本校規則集抜粋)

教務委員会規則

資料 11-1-②-2

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割の編成に関する事。
- (2) 学生の教科履修に関する事。
- (3) 入学、退学、卒業等に関する事。
- (4) 教務計画に関する事。
- (5) その他教務に関し必要と認められる事。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科主任及び一般科目主任
- (3) 教務主事補

2 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

(出典 本校規則集抜粋)

教務関係の改善事例

資料 11-1-②-3

平成 18 年 10 月 27 日教務委員会が開催された。審議事項として、低学年の授業における指導方針について審議の結果、次のように決定した。なお、運営委員会に諮り、教官会議で報告周知の上で、11 月後半の後期中間試験期間から実施することになった。

- ・ 学級担任及び教科担当教員を対象とした「学年会議」(1 年～3 年)を開催する。
- ・ 「学年会議」開催は原則月 1 回とする。
- ・ 非常勤講師には指導方針等の報告書を提出していただく。
- ・ 学生課教務係が事務を担当する。

(提供 学生課教務委員会議事要旨抜粋)

資料 11-1-②-4

平成 19 年度大島商船職員海外大学等視察・調査計画の公募要領

1. 事業の背景・目的

【背景】

社会、経済等のグローバル化の進展と共に、高等教育における国際的流動性が高まる中、欧米諸国においても積極的な留学生施策の実施や国境を越えた教育の提供が行われており、我が国における高等教育の一層の国際化推進が喫緊の課題となっている。

【目的】

本学は、明治 30 年に創立され、110 年の長い歴史と伝統を有し、豊かな教養と国際感覚を身に付けた、視野の広い技術者を養成するなどの教育目標を掲げ、実践的技術者の養成を目指している。

このためには、職員一人一人の資質、能力の向上を図ることが、益々必要で、喫緊の課題である。

その方策の一環として、海外の大学等へ職員を派遣し、実情を知ると共に、外から本学の実情を見つめ、意識改革、新しいアイデアの創出を促し、教育支援・学生支援事務、学務事務の向上改善、マネジメント能力の向上並びに国際的資質を備えた人材の育成を図る取組みを選定し、高等教育改革を一層促進させ、国際競争力の強化を図ることを目的としています。

2. 行 先 アジア・オセアニアの大学等
 アメリカ・カナダの大学等

3. 期 間 1 週間程度

4. 派遣者 職員若干名

5. 経 費 実施に要する経費（旅費等）について、支援

6. 報 告 視察・調査についての報告会、レポート提出及び学校だよりへの執筆
 (海外滞在記)

7. 視察・調査事項 (例)・組織のマネジメントについて
- ・歴史、技術教育について
 - ・学生、企業、地域に対する広報活動について
 - ・産学連携の方法について
 - ・教育支援基盤の整備状況について
 - ・施設、環境マネジメントについて
 - ・事務組織の構成について
 - ・技術教育の実情について

出典 大島商船職員海外大学等視察・調査計画の公募要領

観点 1 1 - 1 - ③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

本校では、管理運営の諸規定として大島商船高等専門学校規則集に第 1 章「学則」から第 8 章「情報教育センター」まで 123 項目の規程（資料 11-1-③-1，平成 1 9 年 3 月 1 日現在）を整備している。規程の詳細については訪問時に資料を提示する。

(分析結果とその根拠理由)

本校には、管理運営のための規則として規則集に 123 項目の規程がある。
以上のことから本校は、円滑な管理運営を図るための規程を整備している。

資料 11-1-③-1

大島商船高等専門学校規則集

- 第1章 学則
- 第2章 組織・運営
- 第3章 庶務・人事
- 第4章 会計
- 第5章 教務・学生
- 第6章 学寮
- 第7章 図書
- 第8章 情報教育センター

(出典 本校規則集抜粋)

観点 11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

本校では、外部有識者の意見を管理運営に反映するため、大島商船高等専門学校評議員会規則を定めている(資料 11-2-1)。この規則に基づき、外部の評議員を委嘱し(資料 11-2-2)、外部からの意見・助言を取り入れている。

外部有識者の意見・助言を受けて(資料 11-2-3)の事例として、①地元自治体との連携を深め地域と共に発展していける体制をつくるため、周防大島町と連携協定を結び、学生・教職員が地域行事へ参加しやすい環境を整備した(資料 11-2-4)。また、HP に関して、留学生募集のための英文 HP 作成・業者への HP 作成委託・知りたい情報にアクセスし易い HP 等へ、平成 17 年 6 月に大幅なリニューアルをおこなった(資料 11-2-5)。など、外部有識者の意見を適切な形で管理運営に反映している。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、大島商船高等専門学校評議員会規則を定め(資料 11-2-1)、この規則に基づき外部の評議員(資料 11-2-2)を委嘱し、意見・助言を受けている。これらの意見・助言に対して、各関係委員会等に諮り、管理運営に反映している。

以上のことから、本校では外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されている。

大島商船高等専門学校評議員会規則

資料 11-2-1 -1

(平成 16 年 4 月 21 日制定)

(設置)

第 1 条 大島商船高等専門学校（以下「本校」という。）に、校長の諮問に応じて重要事項を審議し、及び校長に対して助言を行うため、評議員会を置く。

(審議事項)

第 2 条 評議員会は、次に掲げる事項について審議し、及び校長に対して助言を行う。

- (1) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
- (2) 教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項
- (3) その他本校の運営に関する重要事項

(委員の委嘱)

第 3 条 評議員会の委員は若干名とし、本校の職員以外の者で高等専門学校に関し広く、かつ、高い識見を有する者のうちから、校長が委嘱する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は非常勤とする。

(委員長)

第 5 条 評議員会に委員長を置き、委員の互選によって決定する。

- 2 委員長は、評議員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(報告等)

第 7 条 校長は、評議員会からの助言については、その内容を十分に踏まえた上で、本校としての主体的な決定を行うとともに、必要に応じて、その結果を評議員会に報告するものとする。

(庶務)

第 8 条 評議員会の事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、評議員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 21 日から施行し、平成 16 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 この規則施行後に選出される委員の任期は、第 4 条の規定にかかわらず、平成 18 年 3 月 31 日までとする。
- 3 大島商船高等専門学校外部評価委員会規程（平成 11 年 10 月 18 日施行）は、廃止する。

(出典 本校規則集抜粋)

大島商船高等専門学校評議員会委員

資料 11-2- 2

上符 正顕 (財団法人 やまぐち産業振興財団 副理事長)
内田 成孝 (社団法人 全日本船舶職員協会 副理事長)
中本 富夫 (周防大島町長)
沖川 守 (大島商船高等専門学校同窓会長)
山本 正輝 (岩国市立川下中学校長)
幡中 憲治 (宇部工業高等専門学校長)
政田 寛 (株式会社 宝計機製作所)
三浦 房紀 (国立大学法人 山口大学 工学部長)

(出典 評議員会会議資料)

大島商船高等専門学校に対する意見及び助言等

- ・ 教育目標は“優れた専門性と豊かな人間性を有する海事技術者と実践的開発技術者の育成”とあり、頼もしい限りです。我々同窓生の大半は社会人として実社会に於いて、中堅技術者として育てられた域を超えられず、その域にあまんじていた様に思えてなりません。大島商船の中に専攻科が出来て、その中で専門性を高める事で人間性を育み、人間力の高い卒業生が社会人として活躍する人材が今後多く育成される事で、学校の歴史に新たな頁が出来る事を大変な誇りとしています。
- ・ 海技者（船員）教育制度の1部門としての5商船高専の商船学科については、目的も教育制度もほぼ同じと認識しておりますが、新設される専攻科には各校の独自性や特色も出していくことが必要である。
- ・ 専攻科入学の、学生にとって2年間の授業内容、単位取得には厳しいものがあるかと思いますが、受験資格は既に持っている人ですから、卒業までに必ず1級筆記まで取得するよう指導することが必要である。
- ・ 今からは専攻科学生に留学生がマーケットとして必要
- ・ 校長の御発言にありましたように「地域協力、実社会とのつながりを組織的に踏み込むことが必要」です。例えば学生・教職員による積極的なボランティア活動です。このことは、貴校の教育目標の一つである「豊かな人間性を有する」人材の育成にも大きく寄与すると考えます。
要は、地域住民に貴校の顔が見えるよう、平素からの地道な活動の積み重ねが求められていると思います。
- ・ 独立行政法人化に伴い、各高専の個性の発揮が求められていることから、例えば、次のような学校運営をされては。
合併による周防大島町の誕生を機に、地元行政、地域住民との連携・協働を図る。その際、高齢化が進む地域の状況を踏まえ、学生のボランティア活動を実施する中で学校として何ができるか、社会システムを模索することなど。
- ・ 「中期目標・中期計画」を見ると、目標数値の設定項目数が少ないように思われます。例えば、管理経費の削減目標、女性教員の採用目標などです。（既に目標数値を設定済みかも知れませんが）部門ごとの目標数値があれば行動目標がより明確になります。
- ・ 留学生を受け入れるには英文のホームページが必要
- ・ 現在作成されている中学生向けの学校案内は、低学年の中学生にとっては、硬い内容である。貴校の学校全体で作成させることなど検討されてはいかがでしょうか。
- ・ 学生による授業評価を通じた取り組みがなされているが、教育改善に関するより組織的なシステムの構築が望まれる。

（出典 平成17年7月発行 評議員会報告書より抜粋）

周防大島町と独立行政法人国立高等専門学校機構大島商船高等専門学校との連携協力に関する協定

周防大島町（以下「甲」という。）と独立行政法人国立高等専門学校機構大島商船高等専門学校（以下「乙」という。）とは、甲における産業振興、教育振興等を図るとともに、乙における教育、研究、社会貢献等の充実発展を図るため、相互に連携協力することを目的としてこの協定を締結する。

（連携協力の内容）

第1条 甲と乙とは、次に掲げる事項について、相互に連携協力する。

- （1）産学官交流、産業活性化事業等に対する参加、支援等
- （2）教育文化交流、教育研究活動等に対する参加、支援等
- （3）前2号に係る各種情報等の相互提供及び広報に関すること。
- （4）その他相互に連携協力することが必要と認められる事項

2 連携協力に関する具体的な内容については、甲乙両者の担当部局で協議・調整の上、決定するものとする。

（連携協力のための連絡調整）

第2条 前条の規定による連携協力を円滑に実施するため、周防大島町・大島商船高等専門学校連携協力推進会議（以下「推進会議」という。）を設置し、意見交換及び連絡調整を行うものとする。

- 2 推進会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。
- 3 第1項に定めるもののほか、甲乙両者の担当部局で協議の上、必要に応じて専門部会を設置することができる。

（協定の有効期間）

第3条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成18年3月31日までとする。ただし、有効期間満了までに甲乙いずれからも異議を申し出ないときは、更に1年間これを延長するものとし、その後もまた同様とする。

この協定の成立を証するため、本協定書2通を作成し、甲・乙両者記名押印の上、各自その1通を保有する。

平成17年8月1日

甲 周防大島町大字小松126-2

周防大島町
周防大島町長 中本 富



乙 周防大島町大字小松1091-1

独立行政法人国立高等専門学校機構
大島商船高等専門学校
校長 和氣 博



出典 周防大島町との連携協定書

大島商船高等専門学校
OSHIMA NATIONAL COLLEGE OF MARITIME TECHNOLOGY

Japanese English

お問合わせ 学内ネットワーク

大島発地球号に夢を乗せて
~未来が創造できる能力の育成~

学科・専攻科紹介 キャンパスライフ 入試情報 書類ダウンロード

CONTENTS MENU NEWS & TOPICS

中学生・高校生の皆様へ
在校生の皆様へ
卒業生の皆様へ
保護者の皆様へ
企業・地域の皆様へ
働きたい皆様へ
関連リンク

● 学校紹介
| 学校長挨拶・教育目標・中期目標・中期計画 |
| 沿革 | 組織・機構 | 施設案内 | 現代GP |
| アクセスマップ・キャンパスマップ | JABEE |

● 学科専攻科
| 学科紹介 | 専攻科紹介 | 一般科目 |

● 入試情報・オープンキャンパス
入試日程	本科入試案内	専攻科入試案内
4年次編入試験案内	オープンキャンパス	
中学校への説明会	入試データ	資料請求
入試に関するQ&A		

● 就職・進学情報
| 就職状況 | 進学状況 | 就職担当者 |

● 教育研究施設
| 図書館 | 情報教育センター |

● 地域との連携・交流
| 地域との連携・交流、公開講座・出前授業 |

● 各種情報公開
| 法人文書情報公開 | 随意契約一覧表 |

【入札公告】ものづくり教育研究棟新宮閣
係 2007/06/15
▶ 現代GP特別講演「デジタルデータの利用と
著作権」開催 2007/05/31
▶ ホクレア号大島商船へ寄港 2007/05/21
▶ 中国安徽省銅陵市友好訪問団が来
校 2007/05/14
▶ 専攻科中村さん、日本機械学会フェロー賞
受賞 2007/05/07
▶ 平成19年度新入生合宿研修 2007/04/23
▶ 商船学科川原先生、教員顕彰受
賞 2007/04/12
▶ 平成19年度公開・教養講座一覧 2007/04/02
▶ 平成19年度出前授業一覧 2007/04/02
▶ 創立110周年募金について 2006/08/03

新着情報一覧

独立行政法人国立高等専門学校機構 大島商船高等専門学校 〒742-2193 山口県大島郡周防大島町大字小松1091番地1 TEL / 0820-74-5440(代表)

420026 (Since '04.07.10) Last Update: 2006/03/03 10:15
Copyright(C) 2005. Oshima National College of Maritime Technology. All right reserved.

(出典 大島商船高等専門学校ホームページ)

観点 1 1 - 3 - ①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の高等専門学校としての総合的な状況に対する自己点検・評価に関しては、多岐に亘る内容を点検・評価した（資料 11-3- 1-1）。

平成 1 7 年 3 月に大島商船高等専門学校自己点検・評価（No. 5）－本校の現状と課題－として印刷物にまとめ、関係機関・教職員に配布し公表している。（資料 11-3- 1-2）。

また、観点 11-2- 1 で述べた評議員会の議事録等を報告書として冊子にまとめ、平成 1 7 年 1 月に関係機関・教職員等に配布し公表している（資料 11-3- 1-3）。

（分析結果とその根拠理由）

本校における自己点検・評価に関しては、多岐にわたる内容を点検・評価し（資料 11-3- 1-1）、印刷物として関係機関・教職員に配布している（資料 11-3- 1-2）。

また、第三者からの意見・評価等をまとめた報告書も関係機関・教職員に配布している（資料 11-3- 1-3）。

以上のことから、本校では、自己点検・評価が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されている。

自己点検・評価項目

資料 11-3- 1-1

1. 学校の管理・運営に関する事項について
2. 教育に関する事項について
3. 厚生補導に関する事項について
4. 学生寮に関する事項について
5. 教員の人事に関する事項について
6. 地域及び学外交流等に関する事項について
7. 研究、研修の活動及び支援に関する事項について
8. 学科の現状と課題

（出典 自己点検・評価委員会資料）

自己点検・評価項目配布先一覧

資料 11-3- 1-2

全国高専等	64 冊
名誉教授	18 冊
評議員	8 冊
全教員	57 冊
部課長	4 冊
各係等	15 冊
合計	166 冊

（出典 自己点検・評価委員会資料）

資料 11-3- 2 (続き)

大島商船高等専門学校 自己点検・評価(No.5)

— 本校の現状と課題 —

平成17年3月

大島商船高等専門学校

出典 自己点検・評価表紙

評議員会報告書

平成17年7月

大島商船高等専門学校

出典 評議員会報告書表紙

資料 11-3- 3 (続き)

評議員会報告書配布先	全国高専等	64 冊
	名誉教授	18 冊
	評議員	8 冊
	全教員	57 冊
	部課長	4 冊
	各係等	15 冊
	合計	166 冊

出典 評議員会報告書配布先

観点 11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結びつけられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

本校では、「評議員会」を設置し、外部有識者による重要事項の審議を行い、校長に対して意見・提言がなされている（前提示資料 11-2- 3）。校長は、その意見・提言を基に、関係各種委員会に改善策を諮問する。諮問を受けた関係各種委員会は、諮問された改善策を実施する。関係各種委員会は、その改善結果を校長へ諮問し、校長は評議員会へその結果を報告する。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、外部有識者による「評議員会」を設置しており、そこで審議された結果、出された意見・提言に対する改善策を校長により各種委員会へ諮問するシステムとなっている。具体的な事例として、評議委員会の提言に基づいて締結された周防大島町との連携協定、本校 HP の大幅なリニューアルなどがある（前提示資料 11-2- 4, 5）。

以上のことから、本校に対する評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結びつけられるような、システムが整備され、有効に運営されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

管理運営に関して、問題点を発見し、それを適切に処理するシステムが効果的に作られている。
また、独自に事務系職員を海外大学等で事務組織の構成、教育支援基盤の整備状況等を調査させ、新たな視点で学校管理運営に携わられるよう工夫している。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 11 の自己評価の概要

校長の役割は、学校教育法に定められており、本校では、学則において「校長を置きその職務は学校教育法その他の法令に定めるところによる。」と規定している。また、各種委員会等で検討した企画・提案事項は、運営委員会での審議を経て校長が意思決定を行っている。運営委員会において決定された事項については、教員に対しては、教官会議において、職員に対しては、各所属課長が通知することで、全教職員に周知する体制を整えている。教員と職員との連携の下に、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。

本校では、管理運営の諸規定として大島商船高等専門学校規則集に第 1 章「学則」から第 8 章「情報教育センター」まで 123 項目の規程を整備している。

外部有識者の意見を管理運営に反映するため、大島商船高等専門学校評議員会規則を定め、これに基づき外部の評議員を委嘱し、外部から、意見・助言を取り入れている。

本校における自己点検・評価に関しては、多岐にわたる内容を点検・評価し、印刷物として関係機関・教職員に配布している。また、「評議員会」において審議された結果、出された意見・提言に対する改善策は、校長により各種委員会へ諮問するシステムとなっている。本校に対する評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結びつけられるようなシステムが整備され、有効に運営されている。